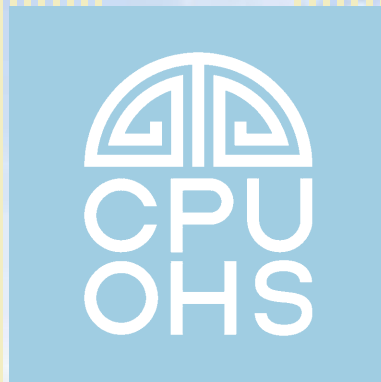


令和3年度版
(通巻第13号)

千葉県立保健医療大学

教育研究年報



Annual Report of Education and Research
Chiba prefectural University
Of Health Sciences
2021

令和3年度版教育研究年報の発行にあたって

千葉県立保健医療大学(本学)は2009年に千葉県立衛生短期大学、千葉県医療技術大学校を再編整備し、看護学科・栄養学科・歯科衛生学科・リハビリテーション学科からなる4年制の県立大学として開学し、将来の健康長寿社会の創造に寄与できる保健医療専門職を育成するとともに、千葉県の保健医療政策に求められる地域に根差した保健・医療・福祉の連携拠点として県民の皆様の健康に貢献してきております。

令和2年初頭に始まりました新型コロナウイルス感染症も3年目を迎え、この間 本学では新型コロナウイルス感染症対応マニュアルやWebを用いたリアルタイムでの学生教職員の感染報告システムなどを整備し、感染状況を踏まえて警戒レベルを設定、行動制限を実施してきており、幸いなことにこの3年間、学内でのクラスターの発生もなく、この4月以降は全面的に対面授業を実施し、ほぼ正常な形で大学を運営しております。そして、3年ぶりに入学式も対面で、熊谷俊人知事をお迎えして挙行ができました。そしてこの夏の第7波も無事に乗り越え、この10月には学園祭いずみ祭も対面で実施できましたが、依然として、新たな変異株の流行は否定できず、引き続き警戒は必要です。

さて、この教育研究年報(年報)は本学が開設された平成21年度末に第1号が刊行され、各教員が毎年の業績を振り返り、更なる発展に資するものです。加えて、年報は認証評価機関による大学評価の重要な審査項目になるもので、各教員の再任審査時にも必須の資料となっています。令和4年度には大学教育質保証・評価センターによる認証評価を受審しており、本学では自己点検・評価委員会を中心として、検証体制を構築し、PDCAサイクルを稼働して教育の恒常的な改善に繋げる努力をし、その成果を『教育研究年報』にも反映させております。

本学は平成30年度に策定された千葉県保健医療計画で新たに保健医療政策の連携拠点の整備対象となっており、行政や県内関係機関と連携・協働し、保健医療に関するシンクタンク機能を発揮することや、一般県民への公開講座をはじめとする地域貢献など県民の保健医療福祉の充実に寄与することが一層求められており、我々は本学の原点に立ち返り、その達成に向けて愚直に努力を続ける所存です。

令和4年12月

学長 龍野 一郎

目 次

第 1 部 大学組織の活動記録

I	千葉県立保健医療大学の概要	2
1.	千葉県立保健医療大学の沿革	2
2.	大学の理念目的	2
3.	健康科学部の目的	2
4.	千葉県立保健医療大学組運営織図	5
II	年間記録（1年の歩み）	6
1.	令和3年度学事歴および行事	6
2.	各学科定員等	6
III	管理運営の状況	7
1.	評議会の活動報告	7
2.	大学運営会議の活動報告	7
3.	教授会の活動報告	9
4.	各種委員会等の活動報告	12
5.	各学科専攻の管理運営活動報告	54
6.	事務局の活動	58
7.	FDの実施状況	58
IV	教育活動	60
1.	共通教育	60
2.	看護学科	60
3.	栄養学科	61
4.	歯科衛生学科	62
5.	リハビリテーション学科理学療法学専攻	63
6.	リハビリテーション学科作業療法学専攻	63
7.	学生による授業評価	64
8.	大学全体	65
V	学生の受け入れ状況	67
1.	学生の受け入れ方針	67
2.	年度当初の重点課題	68
3.	入学者選抜状況	69
4.	学生募集のための取り組み	70
5.	学生の在籍状況	71
6.	評価（成果および改善すべき事項）	72
7.	次年度の方策	72
VI	学生支援	73
1.	年度当初の重点課題等	73
2.	活動内容	73
3.	キャンパス・ハラスメント	74
4.	各学科・専攻の取り組み	74
5.	令和3年度千葉県立保健医療大学卒業時調査	78

6. 評価（成果および改善すべき事項）	80
7. 次年度の方策	80
VII 社会連携・社会貢献	81
1. 社会との連携・協力に関する方針	81
2. 年度当初の重点課題	81
3. 活動内容	81
4. 評価（成果および改善すべき事項）	87
5. 次年度の方策	87
VIII 教育研究等環境	88
1. 年度当初の重点課題	88
2. 施設・設備の整備状況	88
3. 図書館の状況	88
4. 研究倫理を遵守するための措置	89
5. 評価（成果および改善すべき事項）	89
6. 次年度の方策	89
IX 研究活動報告	90
1. 看護学科	90
2. 栄養学科	90
3. 歯科衛生学科	90
4. リハビリテーション学科理学療法学専攻	90
5. リハビリテーション学科作業療法学専攻	90
X 内部質保証のための取り組み	
1. 年度当初の課題	91
2. 評価（成果および改善すべき事項）	91
3. 達成事項と次年度の方策	91

第2部 教員の教育研究活動記録

学長	95
学長 龍野 一郎	97
看護学科	103
教授 石井 邦子	105
教授 佐藤 紀子	108
教授 西野 郁子	111
教授 河部 房子	113
教授 浅井 美千代	115
教授 神田 みなみ	117
教授 小宮 浩美	119
教授 太和田 暁之	122
教授 春日 広美	125
准教授 雨宮 有子	127
准教授 三枝 香代子	131
准教授 細谷 紀子	134
准教授 川城 由紀子	137

准教授	植村 由美子	140
准教授	西村 宣子	142
准教授	北川 良子	145
准教授	田口 智恵美	148
准教授	今井 宏美	150
講 師	成 玉恵	152
講 師	石川 紀子	154
講 師	富樫 恵美子	156
講 師	加藤 隆子	158
講 師	川村 紀子	160
講 師	佐伯 恭子	163
講 師	大内 美穂子	165
講 師	杉本 健太郎	167
講 師	大塚 知子	169
助 教	中山 静和	171
助 教	椿 祥子	173
助 教	増田 恵美	175
助 教	相馬 由紀子	177
助 教	内海 恵美	179
助 教	山本 千代	181
助 教	山崎 麻子	183
助 教	坂本 明子	185
助 教	櫻井 理恵	187
助 教	渡辺 健太郎	189
助 教	泰羅 万純	191
助 教	小林 雅美	193
栄養学科		195
教 授	細山田 康恵	197
教 授	井上 裕光	200
教 授	谷内 洋子	203
教 授	菊池 裕	207
教 授	加瀬 政彦	209
教 授	平岡 真実	211
准教授	荒井 裕介	213
准教授	河野 公子	215
准教授	金澤 匠	217
准教授	広川 由子	219
講 師	鈴木 亜夕帆	221
講 師	海老原 泰代	223
助 教	岡田 亜紀子	225
助 教	峰村 貴央	227
助 教	生魚 薫	229
助 教	田中 佑季	231
歯科衛生学科		233
教 授	麻賀 多美代	235
教 授	酒巻 裕之	238
教 授	大川 由一	242
教 授	島田 美恵子	245

教授	石川 裕子	248
准教授	荒川 真	250
准教授	河野 舞	252
講師	麻生 智子	255
講師	鈴鹿 祐子	258
講師	山中 紗都	261
講師	佐久間 貴士	263
助教	栗原 涼子	265
リハビリテーション学科理学療法学専攻		267
教授	三和 真人	269
准教授	堀本 佳誉	272
准教授	大谷 拓哉	274
講師	江戸 優裕	276
助教	酒井 克也	279
助教	室井 大佑	282
リハビリテーション学科作業療法学専攻		285
教授	岡村 太郎	287
教授	山本 達也	289
准教授	安部 能成	292
准教授	藤田 佳男	295
准教授	有川 真弓	298
講師	吉野 智佳子	301
講師	松尾 真輔	303
助教	成田 悠哉	306
資料		
資料 1	履修規程別表	308
資料 2	令和 3 年度非常勤講師一覧	383

第 1 部

大学組織の活動記録

第1部 大学組織の活動記録

I 千葉県立保健医療大学の概要

1. 千葉県立保健医療大学の沿革

千葉県立保健医療大学は平成21年4月に開学した。幕張にある千葉県立衛生短期大学と仁戸名にある千葉県医療技術大学校が再編整備され、1学部2キャンパスの4年制大学になったものである。前身の2校は順次閉学され、平成23年4月からは保健医療大学のみ運営になった。

保健医療大学開学までの道のりを振り返ると、4年制大学への要望はすでに衛生短期大学の佐藤学長（2代目、昭和62年4月～平成5年3月）の頃からあったものの、県庁内に検討会ができたのは平成15年になってからである。平成17年4月に保健医療大学準備室が健康福祉部医療整備課内に設置され、これは課相当の保健医療大学設立準備室に改組された。この間、保健医療大学整備検討委員会が設置され（平成17年7月）、整備計画が策定された（平成18年7月）。

平成20年3月に文部科学省に認可申請書を提出し、同年10月末に大学設置認可の通知があり、同年12月の県議会を経て（大学設置管理条例の議決）、直ちに入学募集・入学試験を行うという実に目まぐるしい1年であった。こうして多くの方々のご努力、ご支援のもと平成21年4月に開学の日を迎えることができた。

2. 大学の理念・目的

千葉県立保健医療大学は、保健医療に関わる優れた専門的知識及び技術を教授研究し、高い倫理観と豊かな人間性を備え、地域社会に貢献し、保健医療の国際化に対応できる人材を育成するとともに、研究成果を地域に還元することにより、県民の保健医療の向上に寄与します。

(1) 高い倫理観と豊かな人間性を持った人材の育成

生命の尊厳を深く理解し、専門職としての高い倫理観を育み、人間を総合的に理解し、多様性を認めあう広い視野を持った人材を育成します。

(2) 健康づくりなどの保健医療に関わるすぐれた専門職の育成

すぐれた専門的知識・技術を習得し、一人ひとりの状況に応じた健康づくりなどの多様な保健医療を研究・企画・評価する能力を持った人材を育成します。

(3) 地域社会に貢献し、保健医療の国際化に対応できる人材の育成

地域に開かれた大学において、県民、保健医療関係者と広く連携・交流を行い、地域社会に貢献する意識態度を醸成します。また、国の内外を問わず国際的な視野を持って活動できる人材を育成します。

(4) 県の健康づくり政策のシンクタンク機能

健康づくりなどの保健医療の政策課題に関する実践的研究を行い、その成果を地域に還元し、県の健康づくり政策に貢献します。

3. 健康科学部の目的

健康科学部は、本学の理念・目的を達成するために以下の人材育成を学部の目的、学位授与の方針とします。

- (1) 生涯にわたり総合的に保健医療を発展させようとする意欲を持った人材の育成
- (2) 科学的真理を追究する力を持った人材の育成
- (3) 専門的知識、技術、実践力及び指導力を身につけた人材の育成
- (4) 多様な分野で他の専門職と自在に連携、協働できる人材の育成
- (5) 総合的な健康づくりの推進力となり、保健医療の発展に寄与できる人材の育成

なお、学部の目的を達成するためには大学が定める所定の期間在学し、大学・学部の理念・目的に沿って設定された学科・各専攻の授業科目を履修し、卒業要件に満たす単位を修める必要があります。

〈学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）〉

I 倫理観とプロフェッショナリズム

千葉県立保健医療大学生は、卒業時に倫理的な原則を遵守し、専門職としての責務をはたすことができる。卒業生は以下ができなければならない、

- 1.1 対象者の人権を尊重し、多様な価値観や社会的・文化的背景を理解し、思いやりをもって接することができる
- 1.2 対象者のニーズを優先的に考え、誠実かつ公正に対応できる
- 1.3 社会的・法的責任を自覚して、専門職としてその責務を果たすことができる

II コミュニケーション能力

千葉県立保健医療大学生は、卒業時に対象者とそれを支える人、保健・医療・教育・福祉職に対してお互いの立場を尊重した人間関係を構築し、生き生きとしたコミュニケーションをとることができる。卒業生は以下ができなければならない、

- 2.1 対象者とそれを支える人の個人的、文化的、社会的背景を尊重し、信頼関係を構築できる
- 2.2 対象者とそれを支える人、保健医療専門職からの有効な情報収集と伝達ができる
- 2.3 同一専門職や他の関係職種との間で文章による情報の伝達と共有ができる
- 2.4 国内・外からの情報を入手して、保健医療に活用し発信できる

III 実践に必要な知識

千葉県立保健医療大学生は、卒業時に高い教養を身に付け、専門領域の実践に必要な知識を有し、それを健康づくりの支援に活用することができる。卒業生は以下の知識等を有し実践に活用できなければならない、

- 3.1 学際的な幅広い教養と知識
- 3.2 保健・医療・福祉に関する基礎的な知識
- 3.3 各専門領域における実践活動の基盤となる基礎的知識
- 3.4 各専門領域における実践活動の根拠となる臨床的知識
- 3.5 各専門領域の基礎的知識・専門的知識に基づいた、対象者への適切なアセスメント方法
- 3.6 対象者に合わせた適切なアプローチ方法に関する知識

IV 健康づくりの実践

千葉県立保健医療大学生は、卒業時に個人・家族・地域に対し健康的またはその人らしい生活を送るための問題解決と健康増進に向けて、根拠に基づいた適切で有効な健康づくりの支援を提供できる。卒業生は以下ができなければならない、

- 4.1 必要な情報を身体・心理・環境の面から正確に収集、管理できる
- 4.2 収集した情報を専門的知識によりアセスメントできる
- 4.3 アセスメントに基づき健康づくりの目標を設定できる
- 4.4 対象者の状況に合わせた健康づくりの提供計画を立てることができる
- 4.5 対象者が主体的・自律的に健康づくりに取り組めるように説明・支援できる
- 4.6 最新の科学的エビデンスに基づいた健康づくりを提供できる
- 4.7 健康づくりの提供計画に基づき、安全かつ正確な技能により実施できる
- 4.8 目標の達成度や対象者の反応に基づき、健康づくりの評価・修正ができる

V 健康づくりの環境の整備・改善

千葉県立保健医療大学生は、卒業時に人々の健康的またはその人らしい生活を送るための問題解決と健康増進に向けて、健康を志向する地域環境（人・物・制度）の整備・改善に努めることができる。卒業生は以下ができなければならない、

- 5.1 健康と生活環境との相互作用をアセスメントし、社会・生活の場である地域環境（人・物・制度）の改善に向けて実践できる
- 5.2 健康づくりの提供にあたり、保健医療制度下での経済性・効率性を考慮することができる
- 5.3 現存の支援・サービスの整備・改善に必要な企画・提案ができる

VI 多職種との協働

千葉県立保健医療大学生は、卒業時に対象者を中心とした安全で質の高い保健・医療・福祉を実践するために、自身の役割を認識し、多職種との相互理解を深めながら行動することができる。卒業生は以下ができなければならない、

- 6.1 多職種の特門性と対象者の多様な価値観を理解し、尊重することができる
- 6.2 多職種と交流し、良好な関係を構築することができる
- 6.3 多職種と状況に応じて適切に協働し、問題解決できる
- 6.4 ヘルスケアチームにおける自身の立場・役割を理解し、責任ある行動をとることができる

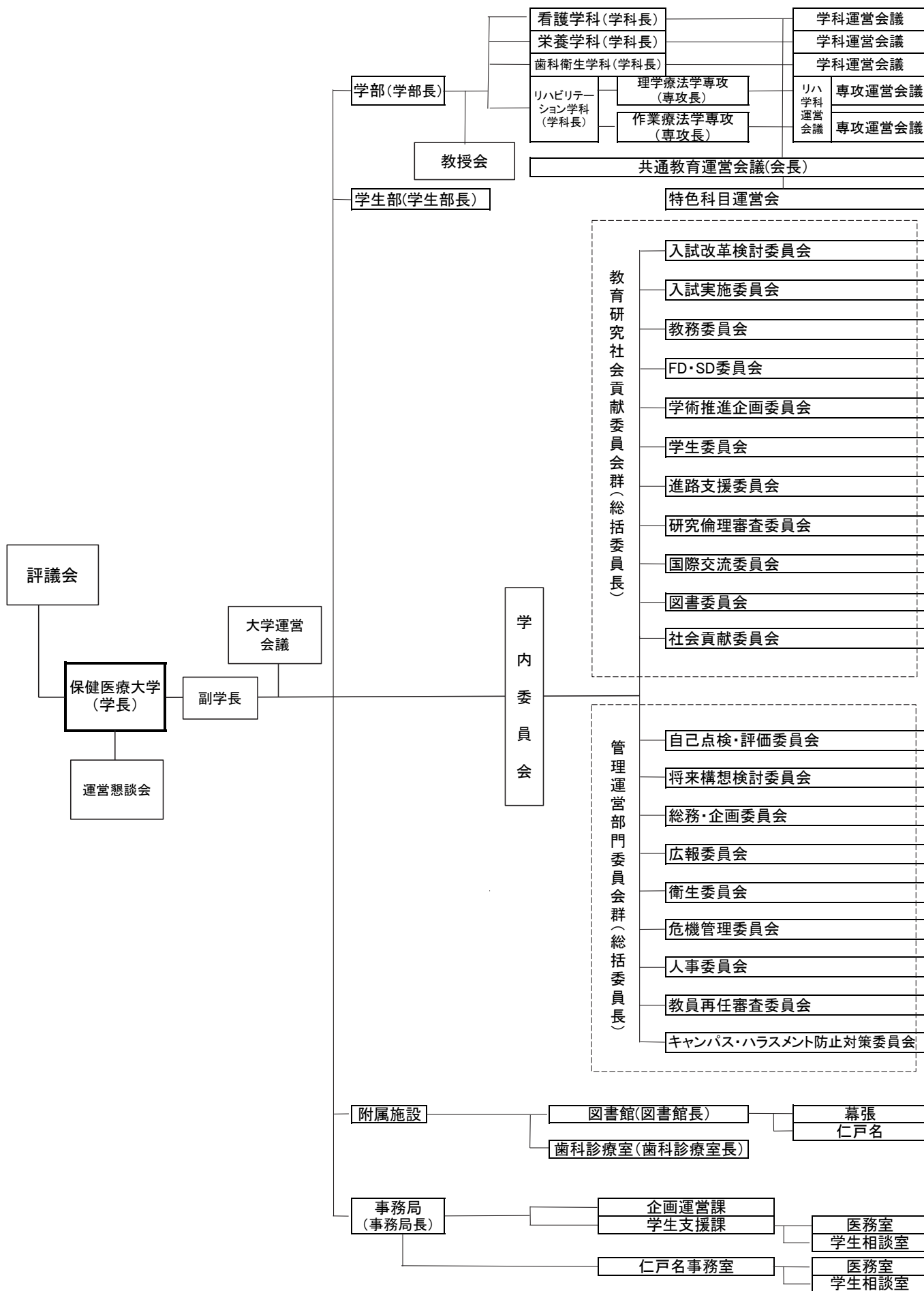
VII 生涯にわたる探究心と自己研鑽

千葉県立保健医療大学生は、卒業時に論理的思考による探究心を身につけ、自己研鑽に励み、自己および専門職として生涯にわたり成長できる資質を示すことができる。卒業生は以下ができなければならない、

- 7.1 常に探究心をもち、臨床的あるいは科学的問題を発見し、解決に取り組むことができる
- 7.2 自己主導型学習により常に自己の向上を図ることができる
- 7.3 ワークライフバランスを考えたキャリアを設計し、その達成に向けて自己管理できる
- 7.4 専門職としての自己課題を明確にし、その成長に向けて努力できる

(平成30年1月15日改変、同4月1日施行)

4. 千葉県立保健医療大学 運営組織図 (令和2年4月1日～)



II 年間記録（一年の歩み）

1. 令和3年度学事歴及び行事

行 事	日 程
在校生，編入生ガイダンス	4月2日(金)
入学式，新入生ガイダンス	4月5日(月)
前期授業期間	4月8日(木)～7月22日(木)
前期履修登録期間	4月8日(木)～4月16日(金)
前期末試験	8月9日(月)～8月13日(金)
夏季休業	7月23日(金)～9月30日(木)
オープンキャンパス	7月10日(土)，7月11日(日)
前期試験結果発表	8月24日(火)
後期授業期間	10月1日(金)～2月7日(月)
後期履修登録期間	10月4日(月)～10月8日(金)
公開講座	10月23日(土)，11月6日(土)
大学祭（いずみ祭）	10月9日(土)
開学記念日	10月28日(木)
特別選抜(推薦・社会人・編入学) 入学試験	11月20日(土)
冬季休業	12月24日(金)～1月3日(月)
大学入学共通テスト追試験	1月29日(土)，30日(日)
後期末試験	2月8日(火)～2月17日(木)
一般選抜試験	2月25日(金)
後期試験結果発表	2月28日(月)
卒業式	3月10日(木)
春季休業	3月22日(火)～3月31日(木)

2. 各学科定員等

1) 入学定員，収容定員，在籍者数（令和4年3月1日現在）

学部名	学 科 名	入学定員	総 定 員	在籍者数
健 康 科 学 部	看護学科	80人	340人 (編入学20名含む)	333人
	栄養学科	25人	100人	99人
	歯科衛生学科	25人	100人	102人
	リハビリテーション学科 (理学療法学専攻)	50人 (25人)	200人 (100人)	205人 (103人)
	(作業療法学専攻)	(25人)	(100人)	(102人)
合 計		180人	740人	739人

2) 履修規程別表 資料1参照，非常勤講師担当教員授業科目表 資料2参照

Ⅲ 管理運営の状況

1. 評議会の活動報告

A	議長名	龍野 一郎・保健医療大学長
B	評議員名	水野 創・株式会社ちばぎん総合研究所取締役社長 小栗 一徳・公認会計士・税理士小栗事務所所長 宮内 孝久・神田外語大学学長（令和3年10月1日～） 加瀬 博夫・県健康福祉部長 石井 邦子・保健医療大学副学長 大川 由一・保健医療大学健康科学部長 米本 肇子・保健医療大学事務局長
C	部会名と部会員名	なし
D	所掌事項	1 本学の設置の目的を達成するための基本的な計画に関する事項 2 学則その他重要な規程の制定又は改廃に関する事項 3 本学の予算及び決算に関する事項 4 学部、学科その他の重要な組織の設置又は廃止及び学生の定員に関する事項 5 教員の人事の方針に関する事項 6 本学の教育研究活動等の状況について本学が行う評価に関する事項 7 その他本学の運営に関する重要事項
E	年度当初の重点課題	
・所掌事項の遂行.		
F	会議記録（含む部会の開催）	
	開催日	主な議題
1	令和3年 11月1日	1 学長の今年度目標について 2 名誉教授の称号授与について 3 「千葉県立保健医療大学における研究活動に係る不正行為の防止等に関する規程」の一部改正について 4 千葉県立保健医療大学内部質保証の方針及び体制図について
2	令和4年 3月16日	1 学長の人事評価について 2 学内規程の改正について
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
		なし
H	評価（成果および改善事項）	
<p>・第二期重点施策（Ⅰ県民の健康づくりをリードする人材の育成，Ⅱ健康づくり政策に対するシンクタンク機能の強化と地域貢献，Ⅲ社会のニーズに迅速かつ柔軟に対応できる大学運営体制の構築）の主な取組については、ほぼ目標通りの成果を達成することができた。</p> <p>・R4 年度受審予定の大学教育質保証・評価センターによる大学機関別認証評価に向けて、自己点検委員会を中心に全学的に取り組み、規程の整備等の準備を行うことができた。</p>		
I	次年度の方策	
<p>・令和4年度に向かって、引き続き、PDCA サイクル稼働させ、学長の統括の下で関連する各学科・専攻、委員会が責任をもって達成に向けて取り組む。</p>		

2. 大学運営会議の活動報告

A	議長名	龍野 一郎・保健医療大学長
---	-----	---------------

B	構成員名	石井 邦子・副学長(兼)管理運営部門群総括委員長 大川 由一・学部長(兼)教育研究社会貢献等委員会部門群総括委員長(兼) 歯科診療室長 島田 美恵子・学生部長(兼)共通教育運営会議会長 三和 真人・図書館長(兼) リハビリテーション学科理学療法学専攻長 佐藤 紀子・看護学科長 細山田 康恵・栄養学科長 麻賀 多美代・歯科衛生学科長 岡村 太郎・リハビリテーション学科長 山本 達也・リハビリテーション学科作業療法学専攻長 米本 肇子・事務局長
C	部会名と部会員名	なし
D	所掌事項	1 学長からの諮問事項に関する事 2 評議会及び教授会に諮る案件の事前調整に関する事 3 学科間の調整に関する事 4 その他大学運営に係る企画及び調整に関する事
E	年度当初の重点課題	
・上記(評議会活動報告)		
F	会議記録(含む部会の開催)	
	開催日	主な議題
1	令和3年 4月26日	1 特別選抜・編入学試験の同日実施について 2 社会人特別選抜試験と編入学試験の小論文試験問題を同一問題とすることについて 3 新型コロナウイルス感染症予防接種に係わる欠席の取り扱いについて 4 新型コロナウイルス感染症対策ガイドラインについて(歯科診療室) 5 サークル活動再開にむけての準備について 6 社会貢献委員会アンケート調査について 7 令和3年度オープンキャンパスの開催について
2	令和3年 5月31日	1 新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえた活動指針の改定について 2 広報活動の方針について
3	令和3年 6月28日	1 理学療法学専攻における令和6年度一般選抜入試科目の変更について 2 令和3年度学内委員会の活動目標について
4	令和3年 7月26日	1 理学療法学専攻における令和6年度一般選抜入試科目の変更について 2 令和3年度学内委員会の活動目標について
5	令和3年 8月30日	1 令和3年度重点施策の目標および評価指標について 2 本学の内部質保証体制図について
6	令和3年 9月27日	1 一般選抜試験追試験の実施について 2 特別選抜・編入学試験における感染防止対策基本方針について 3 令和4年度特別選抜・編入学試験における受験料の返金について 4 令和2年度自己点検・評価報告書について 5 内部質保証体制図及び方針(案)について 6 共通教育講師の生物学への担当変更について
7	令和3年 10月25日	報告事項のみのため、メールにて配信
8	令和3年 11月29日	1 不審者対応マニュアルについて 2 千葉県立保健医療大学新型コロナウイルス感染症対応マニュアルについて 3 大学機関別認証評価の点検評価ポートフォリオについて

9	令和3年 12月20日	1 令和4年度大学運営会議日程（案）について
10	令和4年 1月31日	1 千葉県立保健医療大学名誉教授称号授与規程の改正について 2 押印廃止に伴う規程改正について 3 千葉県立保健医療大学学長の評価者要綱の訂正について
11	令和4年 2月28日	1 大学認証評価に係る点検評価ポートフォリオについて 2 令和4年度前期授業科目の開講方針 3 教室名変更に伴う規程改正について 4 学生部長，学科長，専攻長の選考規定の一部修正について
12	令和4年 3月28日	1 学内委員会規程の改正について 2 Facebook・Twitter・YouTubeの運営要領・ポリシーについて
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
		なし
H	評価（成果および改善事項）	
	・上記（評議会活動報告）	
I	次年度の方策	
	・上記（評議会活動報告）	

3. 教授会の活動報告

教授会は健康科学部すべての教授によって組織され、学部長が招集し、議長となって運営した。開催頻度は月1回を定例とし、必要に応じて臨時教授会を開催した。令和3年度教授会の主な議題は下表のとおりである。

A	年度当初の重点課題		
	・教員の任用等，教育研究が着実に行われるように，必要な審議を行う。リモート会議の実現により，円滑かつ効率的な教授会運営を行う。		
B	会議記録		
	月日	主な議題	主な報告事項
1	令和3年 4月5日	1 看護学科・在宅看護学領域：教授の資格審査結果について 2 理学療法学専攻・整形外科学：教授の公募について 3 栄養学科：助教の公募について	・評議会報告 ・大学運営会議報告 ・令和3年度入試の追加合格 ・令和3年度学内共同研究 ・令和3年度の科研費の採択状況
2	令和3年 4月7日	1 既修得単位の認定について	
3	令和3年 5月10日	1 看護学科・在宅看護学領域：教授の資格審査結果について 2 歯科衛生学科：准教授の資格審査結果について 3 栄養学科：臨時的任用職員（助手）の教員資格審査委員会の設置について	・大学運営会議報告 ・令和4年度入学選抜要項 ・令和2年国家試験合格状況・分野別就職状況
4	令和3年 6月7日	1 名誉教授候補者の推薦について 2 看護学科・基礎看護学領域：准教授の教員資格審査委員会の設置について 3 看護学科・高齢者看護学領域：教授の教員資格審査委員会の設置について 4 栄養学科：准教授の教員資格審査委員会の設置について 5 歯科衛生学科：教授の教員資格審査委員会の設置について 6 歯科衛生学科：准教授の教員資格審査委員会の設	・大学運営会議報告 ・令和3年度前期末試験の実施に関するアンケートについて ・大学機関別認証評価について

		置について 7 リハビリテーション学科理学療法学専攻：講師の教員資格審査委員会の設置について 8 リハビリテーション学科作業療法学専攻：准教授の教員資格審査委員会の設置について 9 リハビリテーション学科作業療法学専攻：講師の教員資格審査委員会の設置について 10 栄養学科・教育学：准教授の資格審査結果について 11 看護学科・成人看護学領域：講師の資格審査結果について 12 看護学科・精神看護学領域：助教の資格審査結果について 13 栄養学科：助教の資格審査結果について 14 栄養学科：助教の資格審査結果について	
5	令和3年 7月5日	1 栄養学科・教育学：准教授の選考について 2 看護学科・成人看護学領域：講師の選考について 3 看護学科・精神看護学領域：助教の選考について 4 栄養学科：助教の選考について 5 看護学科・基礎看護学領域：准教授の公募について 6 看護学科・高齢者看護学領域：教授の公募について 7 栄養学科：准教授の公募について 8 歯科衛生学科：教授の公募について 9 歯科衛生学科：准教授の公募について 10 リハビリテーション学科理学療法学専攻：講師の公募について 11 リハビリテーション学科作業療法学専攻：准教授の公募について 12 リハビリテーション学科作業療法学専攻：講師の公募について 13 歯科衛生学科：准教授の教員資格審査委員会の設置について 14 看護学科・基礎看護学領域：臨時的任用職員（助手）の教員資格審査委員会の設置について 15 学生の履修登録重複について	<ul style="list-style-type: none"> ・大学運営会議報告 ・令和3年度入試志願者の動向 ・科目等履修生、聴講生の募集の中止について ・第12回学内共同研究発表会について ・令和2年度卒業時調査結果について ・新型コロナワクチン職域接種の準備状況について
6	令和3年 9月6日	1 看護学科・高齢者看護学領域：教授の資格審査結果について 2 看護学科・基礎看護学領域：准教授の資格審査結果について 3 栄養学科：准教授の資格審査結果について 4 理学療法学専攻：講師の資格審査結果について 5 歯科衛生学科：准教授の公募について 6 看護学科・基礎看護学領域：助教の教員資格審査委員会の設置について 7 看護学科・公衆衛生看護学領域：助教の教員資格審査委員会の設置について 8 共通教育 理学療法学専攻・整形外科：教授の教員資格審査委員会の設置について	<ul style="list-style-type: none"> ・大学運営会議報告 ・インジェ大学との交流延長決定について ・ほい大健康プログラム（9～10月）の実施見送り ・高校への模擬講義等について対面は中止

7	令和3年 9月13日	1 看護学科・基礎看護学領域：准教授の資格審査結果について	
8	令和3年 10月4日	1 看護学科・高齢者看護学領域：教授の選考について 2 看護学科・基礎看護学領域：准教授の選考について 3 栄養学科：准教授の選考について 4 歯科衛生学科：教授の資格審査結果について 5 リハビリテーション学科作業療法学専攻：准教授の資格審査結果について 6 リハビリテーション学科作業療法学専攻：講師の資格審査結果について 7 看護学科・基礎看護学領域：助教の公募について 8 看護学科・公衆衛生看護学領域：助教の公募について 9 リハビリテーション学科理学療法学専攻・整形外科学：教授の公募について 10 共通教育 看護学科・生物学：講師の教員資格審査委員会の設置について 11 歯科衛生学科：准教授の教員資格審査委員会の設置について 12 共通テスト追試験実施に伴う学年暦の変更について 13 看護学科・基礎看護学：講師の教員資格審査委員会の設置について	<ul style="list-style-type: none"> ・大学運営会議報告 ・令和4年度特別選抜・編入学試験の実施要領について ・令和3年度保健医療大学取組報告会について
9	令和3年 11月1日	1 歯科衛生学科：教授の選考について 2 リハビリテーション学科作業療法学専攻：准教授の選考について 3 リハビリテーション学科作業療法学専攻：講師の選考について 4 歯科衛生学科：准教授の資格審査結果について 5 看護学科・基礎看護学領域：講師の公募について 6 看護学科・生物学：講師の公募について 7 歯科衛生学科：准教授の公募について 8 看護学科・基礎看護学領域：臨時的任用職員（助手）の資格審査委員会の設置について 9 気象災害等により交通機関が運行されない場合の授業の取り扱いの変更について	<ul style="list-style-type: none"> ・評議会報告 ・令和4年度の学年暦について ・いずみ祭について ・大学機関別認証評価受審の進捗について ・令和3年度委員会活動達成状況点検・評価について
10	令和3年 11月29日	1 特別選抜・3年次編入学合否判定	
11	令和3年 12月6日	1 歯科衛生学科：准教授の選考について 2 看護学科・基礎看護学領域：講師の資格審査結果について 3 看護学科・基礎看護学領域：助教の資格審査結果について 4 看護学科・公衆衛生看護学領域：助教の資格審査結果について 5 看護学科・生物学：講師の資格審査結果について 6 歯科衛生学科：准教授の資格審査結果について 7 教員再任審査について 8 2022年度学内共同研究費について	<ul style="list-style-type: none"> ・大学運営会議報告 ・千葉大との職域接種について ・令和4年度前期科目等履修生等の募集について ・令和4年度健康診断について ・インジェ大学とのシンポジウムについて

12	令和4年 1月4日	1 看護学科・基礎看護学領域：講師の選考について 2 看護学科・基礎看護学領域：助教の選考について 3 看護学科・公衆衛生看護学領域：助教の選考について 4 看護学科・生物学：講師の選考について 5 歯科衛生学科：准教授の選考について 6 理学療法学専攻：教授の教員資格審査委員会の設置について	・大学運営会議報告 ・大学入学共通テスト追試験について ・FD・SD 工程表について ・IR 部会の卒業時調査について ・不審者対応マニュアルについて
13	令和4年 2月7日	1 歯科衛生学科長の選考に係る投票について 2 リハビリテーション学科理学療法学専攻：教授の公募について 3 栄養学科：講師の教員資格審査委員会の設置について 4 歯科衛生学科：教授の教員資格審査委員会の設置について 5 令和4年度教授会の開催日程について	・大学運営懇談会報告 ・大学運営会議報告 ・令和3年度 WEB オープンキャンパス実施結果
14	令和4年 2月10日	1 一般選抜試験第一段階選抜について	・保健所への応援業務について
15	令和4年 2月28日	1 卒業判定について	
16	令和4年 3月7日	1 栄養学科・講師：公募について 2 歯科衛生学科・教授：公募について 3 看護学科・基礎看護学領域：講師の資格審査委員会の設置について 4 栄養学科：臨時的任用職員（助手）の教員資格審査委員会の設置について 5 令和4年度一般選抜合否判定について 6 放送大学と単位互換協定に基づく修得単位の認定に関する規程施行細則について 7 千葉県立保健医療大学 GPA 制度に関する規程について	・大学運営会議報告 ・健康福祉部関係課の施策と県立保健医療大学との連携について
17	令和4年 3月17日	1 進級判定について 2 一般選抜試験追試験合否判定について	・2022年度学内共同研究応募・採択状況概要 ・2022年度科学研究費応募・採択状況概要
C	評価（成果および改善事項）		
	・ペーパーレス化とリモート会議の活用および教授会資料の事前配布により円滑かつ効率的な会議運営と教授会構成員（教員、事務職員）の負担軽減が実現できた。		
D	次年度の方策		
	・教員の任用、教育研究等にかかわる必要な審議について、引き続きペーパーレス化とリモート会議等の活用により円滑かつ効率的な会議運営を諮り、教授会構成員の負担軽減を目指す。		

4. 各種委員会等の活動報告

1) 特色科目運営会

A	委員長名	井上 裕光・教授（共通教育運営会議，体験ゼミナール科目責任者）
B	委員名	荒井 裕介・准教授（栄養学科，千葉県の健康づくり科目責任者） 荒川 真・准教授（歯科衛生学科） 細谷 紀子・准教授（看護学科，専門職間の連携活動論科目責任者） 堀本 佳誉・准教授（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 藤田 佳男・准教授（リハビリテーション学科作業療法学専攻，社会実習科目責任者）

C	部会名と 部会員名	<p>【体験ゼミナール】</p> <p>部会長：井上 裕光・教授（共通教育運営会議）</p> <p>部会員：石川 紀子・講師（看護学科）</p> <p>大内 美穂子・講師（看護学科）</p> <p>佐久間 貴士・講師（歯科衛生学科）</p> <p>酒井 克也・助教（リハビリテーション学科理学療法学専攻）</p> <p>松尾 真輔・講師（リハビリテーション学科作業療法学専攻）</p> <p>【千葉県の健康づくり】</p> <p>部会長：荒井 裕介・准教授（栄養学科）</p> <p>部会員：富樫 恵美子・講師（看護学科）</p> <p>荒川 真・准教授（歯科衛生学科）</p> <p>室井 大祐・助教（リハビリテーション学科理学療法学専攻）</p> <p>藤田 佳男・准教授（リハビリテーション学科作業療法学専攻）</p> <p>【専門職間の連携活動論】</p> <p>部会長：細谷 紀子・准教授（看護学科）</p> <p>部会員：河野 公子・准教授（栄養学科）</p> <p>河野 舞・准教授（歯科衛生学科）</p> <p>江戸 優裕・講師（リハビリテーション学科理学療法学専攻）</p> <p>成田 悠哉・助教（リハビリテーション学科作業療法学専攻）</p>
D	所掌事項	<ol style="list-style-type: none"> 1 特色科目の運営に関すること 2 特色科目を通じた一体的な目標の達成と科目相互の連携に関すること 3 特色科目の評価と改善に関すること 4 特色科目の目標達成に向けた学生，教員へのFDに関すること 5 科目責任者の推薦に関すること
E 年度当初の重点課題		
<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍における教育方法を構築し，教育目標を達成する。 ・令和2年度開設の「社会実習（ボランティア活動）」を実施できる体制とする。 		
F 会議記録（含む部会の開催）		
	開催日	主な議題
1	令和3年 3月中旬・下旬	メールで打ち合わせ 体験ゼミの依頼文書に誤りがあり「訪問」を問い合わせしてしまっていたため，再度依頼文書を出し直すことを決定．予算についても体験ゼミで全学生分の印刷費用としていたため，執行残になることを引継ぎ．
2	令和3年 3月下旬・4月上旬	メール審議 委員会経費について・今年度重点施策について．社会実習を開講しないことについて．
3	令和3年 4月中旬	メールで打ち合わせ 事務局担当決定 体験ゼミの訪問団体への依頼状出し直しの公印処理
4	令和3年 4月28日～5月上旬	メール審議 重点施策活動目標について確認・提出 社会実習について申し合わせ，その他事務局関係の経過報告について
5	令和3年 5月下旬	メールで打ち合わせ 体験ゼミ：団体からの回答収集「聞き取り学習」決定，千葉県の健康づくり：後期の開催打ち合わせと教授会への報告，専門職間の連携活動論：年間スケジュール打ち合わせと授業趣旨の動画について
	開催日	体験ゼミナール作業部会の主な議題
1	令和3年 3月下旬	昨年度からの引継ぎ内容と部会人員について確認とメール・Teamsでの運用を基本とすることを確認（部会長は令和2年夏は入院しており，詳細不明のため）．謝金振り込みが完了していない団体があることが判明（さらに，2日間分を振り込んでいたことも）．「訪問」を依頼してしまっていたことも判明し，「聞き取り学習」を前提にした依頼文書

		を再送することを事務局に依頼（4月中旬に発送）
2	令和3年 4月上旬～7月末	シラバス修正・時間割設定・要項印刷・配布スケジュールと、学長からのオンライン講演スケジュール。感染症の動画作成依頼。施設紹介概要作成。金曜日4時間目に幕張にいる教員で毎時間後に対面で打ち合わせ。4月15日部会長がCOCOAで濃厚接触疑いのため、今後詳細協議はTeams部会でチャット運営（理学教員が仁戸名で授業・指導で動けない）。ほぼ隔週でオンライン会議も随時実施。
3	令和3年 5月14日（金）	学生からの団体決定を受けて、調整後にスケジュール調整と今後の予定確認。各担当者聞き取り学習についての団体からの希望をヒアリング。今後はオンライン会議。
6	ほぼ隔週	オンライン会議（随時 Teams 投稿による連絡）
7	令和3年 8月中旬	成績集計と確認作業（成績提出後、部会長入院）
8	令和4年 2月	活動状況点検の提出報告。報告書巻頭言を学長に依頼。原稿確認
9	令和4年 3月	報告書原稿印刷依頼。来年度「訪問」を原則とする場合の学生の条件についてチャット会議。団体向けの承諾書の書式確認と発送依頼。（2団体は辞退）なお、3月末に謝金振り込みを全団体に出していないことが判明し、急ぎ書類作成して決裁へ。（報告書は4月中旬に印刷され、連休明けに団体宛に発送した）
開催日		千葉県健康づくり
1	令和3年 5月	次年度予算要求書作成
2	（随時）	メール・チャット
3	令和3年 6月7日	対面会議（1）授業日程（シラバス改訂）、（2）授業レポート（個人・グループ）、グループワーク・リーフレット、（3）ワードファイルの提出方法について、（4）授業評価方法について（昨年版）、（5）履修学生確認と、グループ編成について、役割分担について（教員マニュアル案）、外部講師依頼・当番1/2
4	令和3年 10月11日	対面会議（1）授業の進め方の確認（当番の役割）、当番1（授業資料配信、講義要旨作成）、当番2（事後課題 Forms 配信、出席状況確認）、（2）授業評価方法について（昨年版）、（3）授業日程（シラバス改訂） —外部講師との調整進捗状況の共有
5	以後開催ごとに オンライン・チャットの打ち合わせ	グループワークの管理方法・状況の共有
6	令和3年 12月	（オンライン）次年度シラバス検討、予算執行確認、評価方法案
7	令和4年 1月	（オンライン）評価方法の確認・実施、報告書作成スケジュール
8	令和4年 2月	（オンライン）成績入力、報告書内容と送付先確認、次年度打ち合わせ
9		
開催日		専門職間の連携活動論
1	令和3年 4月	部会員依頼・今年度の運営方針（特色科目運営会からのお願い）
2	令和3年 6月30日	対面部会：シラバス確認、授業計画、予算執行計画と次年度予算案、日程案と担当教員、依頼事項（担当教員選出・事例見直し）
3	令和3年 7月29日	担当教員選出、教員説明会日程、履修登録確認、教室確保、教員用資料、成績評価
4	令和3年	（特色科目運営会委員長とメール審議）教員説明会はオンラインで行う

	8月19日	
5	令和3年 8月～10月	随時実施（Teams 上活用） 本年度は、12月14日のみ幕張・仁戸名で対面での開催（模擬検討会）、12月7日、9日、16日については、遠隔で実施
6	令和4年 1月～2月	報告書案検討・報告書作成・印刷発注・配布 次年度検討課題
7		
8		
開催日		社会実習（ボラティア活動）
1	令和4年1月	シラバスは部会長に作成依頼するが、今年度開講せず
2		（履修登録について問い合わせあり．告知方法要検討）
3		
4		
G 行事開催記録		
開催日		行事名称及び行事の内容
H 評価（成果および改善事項）		
<p>・体験ゼミナールの開催準備にあたり、訪問団体への誤った依頼内容の送付・謝金の払い遅延など、あまりにも多くのミスが重なって、開催が危ぶまれた。結果として、対面授業ではなく、聞き取りの学習を依頼し、なんとか実施できた。Zoomなどを訪問団体側から依頼されたが、録画される恐れがあるため、本学 Teams への招待を検討してもらった。ただし、聞き取りについても、学生個々が主体的に取り組めたかどうかについて、若干疑問が残る学生もいた。</p> <p>・千葉県健康づくりは、対面授業ができず、遠隔での開講となった。リモートでのグループ討議とその評価について、部会による事前の検討で、一定以上の成果を上げることができた。</p> <p>・専門職間の連携活動論は、模擬検討会の幕張・仁戸名同時開催など、遠隔授業を組み合わせ、できるだけ実態に合った実施を模索した。最終的に学習目標を達成することができた。</p> <p>・社会実習は、昨年同様に、開催に至らなかった。ほい大健康プログラムの再開に依るところが大きく、学生の参加をどのように行うかが課題になっている（UR以外の協力団体も検討されている）。</p>		
I 次年度の方策		
<p>・COVID-19 感染状況に応じて、可能な範囲で対面授業を導入するとともに、遠隔授業のメリットを活かして、効率的かつ安全な授業を実施する。</p> <p>・体験ゼミナール受講対象となる R4 年度新入生については、文部科学省からの指導により、受験時にワクチン接種についての案内ができなかった。そのため、入学後の実態把握を早急に行って、訪問再開にあたっての環境整備を確認する必要がある。</p>		

2) 教育研究社会貢献委員会群

(1) 入試改革検討委員会

A	委員長名 副委員長名	浅井 美千代・看護学科教授 河部 房子・看護学科教授（入試実施委員長兼任）
B	委員長名	酒巻 裕之・歯科衛生学科教授 神田 みなみ・看護学科教授（共通教育運営会議） 井上 裕光・栄養学科教授（共通教育運営会議兼任） 三和 真人・リハビリテーション学科長兼理学療法学専攻長 藤田 佳男・リハビリテーション学科作業療法学専攻准教授
C	所掌事項	1 入試結果の分析・評価に関する事項 2 入試改革の検討に関する事項 3 その他学長が付託した事項に関する事項

D		年度当初の重点課題
<p>①志願者確保の評価：学科専攻別に、昨年度の志願者の動向・課題を分析し、APに基づく学生確保のための志願者確保対策を検討する。</p> <p>②入試方法の評価：入学後の学生評価等を通して、入試方法の適切性について検討する。さらに、昨年度実施した「調査書等を活用した新たな面接試験方法」の妥当性・適切性について評価する。</p> <p>③編入学制度の検討：編入学に関する社会的動向を注視し、志願状況、入学後の編入生の学修状況・国家試験合格状況・進路等から志願者確保について検討する。</p>		
E		会議記録（含む部会の開催）
開催日		主な議題
1	令和3年 4月23日	1 今年度の目標について 2 志願者推移の分析について
2	令和3年 5月25日	1 令和4年度小論文試験問題作成ガイドの修正について 2 志願者推移の分析について 3 重点施策年度目標について
3	令和3年 6月22日	1 令和5年度一般入試における理学療法学専攻の入試科目変更について 2 入試選抜方法の妥当性検討のための指標について
4	令和3年 9月29日	1 令和4年度入試に実施した新しい面接方法の評価について 2 令和7年度一般入試の入試科目について
5	令和3年 10月29日	1 令和7年度一般入試の入試科目について 2 推薦枠の拡大に関する評価について
6	令和3年 12月7日	1 令和7年度一般入試の入試科目について 2 推薦枠の拡大に関する評価について
7	令和4年 1月11日	1 令和7年度一般入試の入試科目について 2 推薦枠の拡大に関する評価について 3 委員会規程について
8	令和4年 2月18日	1 令和7年度一般入試の入試科目について 2 重点施策の目標の評価について
F		行事開催記録
開催日		行事名称及び行事の内容
1		
G		評価（成果および改善事項）
<p>① 過去5年間の志願者数・志願倍率の推移について、入試区分別・学科専攻別に分析し、例年の傾向に加え、養成校の増加やコロナの影響など、学科専攻による影響要因が明らかにした。</p> <p>② 推薦枠拡大による志願者倍率への影響は、学科専攻により異なっており、推薦枠拡大後の入学生が卒業する令和4年度末に、学生の学修状況、就職状況、国家試験合格状況などとあわせて、拡大の影響を改めて評価する。また、昨年度導入した「志願理由書」「面接評価表」は使用上問題なく、引き続き次年度も同様の方法で実施することとした。</p> <p>③ 編入学は、全国的に編入学制度が縮小傾向にあるためか志願者数は増加したが、合格者が得られなかった。引き続き、ACに即した編入学生の獲得に向け努力する。</p> <p>④ 令和7年度大学入学共通テストにおける「情報Ⅰ」の利用及び従来の利用科目からの変更について検討し方向性を明確にした。</p>		
H		次年度の方策
<p>志願者確保の評価として、引き続き、学科専攻別に志願者の動向を分析し、APに基づく学生確保のための対策を検討していく。また、「調査書等を活用した新たな面接試験方法」についての評価を継続するとともに、入学後の学生評価等を通して、入試方法の適切性について検討する。</p> <p>令和7年度大学入学共通テストにおける利用科目を次年度内の公表に向け検討を続ける。また、編入学制度についても今後の方向性を明確にする。</p>		

(2)入試実施委員会

A	委員長名 副委員長名	河部 房子・教授（看護学科） 藤田 佳男・准教授（リハビリテーション学科作業療法学専攻） 北川 良子・准教授（看護学科）
B	委員名	河部房子・教授，北川良子・准教授（看護学科） 井上裕光・教授，鈴木亜夕帆・講師（栄養学科） 石川裕子・教授，麻生智子・講師（歯科衛生学科） 大谷拓哉・准教授，室井大祐・助教（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 藤田佳男・准教授，成田悠哉・助教（リハビリテーション学科作業療法学専攻） 三枝香代子・准教授（共通教育運営会議） 片平宏樹・学生支援主事（事務局）
C	所掌事項	(1) 入学者選抜試験の計画・実施・採点・発表に関する事項 (2) 入試ミス防止に関すること（入試に関する報道対応を含む。） (3) 入試問題等の作成・公表に関すること (4) その他学長が付託した事項に関する事項
D	年度当初の重点課題	
	1 公正かつ適切な入試の実施 2 アドミッション・ポリシーに沿った適切な試験問題の作成と試験問題開示	
E	会議記録（含む部会の開催）	
	開催日	主な議題
1	4月6日	1 入試実施委員会年間スケジュールについて 2 令和3年度の入試実施委員会の目標 3 令和4年度入学者選抜要項について 4 令和4年度特別選抜・編入学試験実施について
2	5月11日 Teamsにて実施	1 学生募集要項(推薦入学・社会人・編入学)案について 2 入試作問FD開催について
3	6月14日 Teamsにて実施	1 学生募集要項(推薦入学・社会人・編入学)案について 2 試験実施要領（特別選抜・編入学）について 3 入試作問FD開催について
4	7月20日 Teamsにて実施	1 令和4年度学生募集要項（一般選抜）について 2 試験実施要領（特別選抜・編入学）について
5	9月14日 Teamsにて実施	1 試験実施要領（特別選抜・編入学）及び任務分担・採点マニュアル・感染防止対策について 2 学校推薦型選抜・社会人特別選抜・編入学試験の受験料の返金について 3 一般選抜の学生募集要項案について 4 一般選抜追試験の日程について
6	10月11日	1 試験実施要領（特別選抜・編入学）について 2 特別な配慮を要する受験生への対応について 3 一般選抜の学生募集要項案について 4 令和5年度入試日程について
7	11月8日	1 試験実施要領（特別選抜・編入学）および監督要領について 2 試験実施要領（特別選抜・編入学）アンケート集計について 3 一般選抜実施要領について 4 学校推薦型選抜における出願資格について
8	12月13日	1 入試過去問題の公開について 2 一般選抜実施要領について

9	1月20日	1 一般選抜実施要領について 2 一般選抜試験における要配慮者申請について 3 大学入学共通テスト追試験受験者の一般選抜出願前の事前連絡期日について
10	2月14日	1 一般選抜実施要領・監督要領について 2 一般選抜試験採点結果入力について 3 一般選抜試験終了後アンケートについて 4 令和5年度入学者選抜スケジュールについて 5 入試実施委員会 活動達成状況点検・評価表について
11	3月14日 Teamsにて実施	1 令和5年度入学者選抜スケジュールの変更について 2 今年度の入試実施業務について
F	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
1	6月18日	入試問題作問FD
2	11月16日	特別選抜（推薦・社会人）試験・看護学科3年次編入学試験監督班説明会
3	11月21日	特別選抜（推薦・社会人）試験・看護学科3年次編入学試験
4	12月15日	大学入学共通テスト学内全体説明会
5	1月24日	大学入学共通テスト業務班別説明会
6	1月29日・30日	大学入学共通テスト追試験
7	2月17日	一般選抜試験監督班説明会
8	2月25日	一般選抜試験（前期日程）
9	3月13日	一般選抜試験追試験
G	評価（成果および改善事項）	
<p>1 公正かつ適切な入試の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 特別選抜試験と編入学試験を同日開催することが大学運営会議で決定され、実施要領・監督要領を見直して実施した。編入学試験のスケジュールがタイトである等、若干の問題があったが、大きな混乱はなく終了した。また特別選抜・編入学試験のアンケート結果を一般選抜試験の実施要領に反映させ、実施した。 大学入学共通テストは、今年度は追試験を担当することとなり、東都大学との共同で実施した。本試験で生じた傷害事件をふまえ、千葉西警察署の巡回を依頼し、無事に終了した。 新型コロナウイルス感染症の感染対策については、令和2年度の実施状況および文部科学省から発出された「令和4年度大学入学者選抜実施要項」「令和4年度大学入学者選抜に係る新型コロナウイルス感染症に対応した試験実施のガイドライン」に基づいて実施した。 新型コロナウイルス感染症等に罹患した入学志願者の受験機会を確保するため、一般選抜試験の追試験を設定した。追試験受験志願者として1名が出願し、実施要領に沿って追試験を実施した。 面接試験では、入試改革検討委員会で決定された評価基準を用いて実施した。遠隔面接試験については、通信環境の問題から実施せず、対面での面接とした。 <p>2 アドミッション・ポリシーに則った受験生確保</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和3年度に実施した入学者選抜について、志願者数は学校推薦型195名（前年度比123.4%）、社会人8名（前年度比200.0%）、編入学15名（前年度比187.5%）、一般選抜258名（前年度比90.5%）であった。 <p>3 質の高い試験問題の作成と試験問題開示の評価</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成元年度に改編された作問ガイドおよび近年の採点結果を基に、全教員に対して作問に関するFDを実施した。 作問ガイドを基に問題作成者に説明の上、問題作成を依頼し、3回の校正を行った。なお一般選抜追試験実施のため、同等の難易度となる2つの問題を作成した。 採点に関しては、採点ミスを防ぎかつ効率化をはかるための方策として、各採点者の採点結果をPCに入力し確認する方法を検討し、取り入れた。また採点者に対して採点后アンケートを実施し、アドミッション・ポリシーに沿った試験問題となっているか、問題や採点基準の適切性について意見集約し、作問者にフィードバックした。 		

<ul style="list-style-type: none"> 試験問題の開示について、平成29年度3月末から前年度の試験問題を学内およびホームページで閲覧可能となっている。これまで、編入学試験専門科目に関しては解答を公開していたが、令和3年度からは試験問題のみの公開とすることに変更した。 	
H	次年度の方策
<ul style="list-style-type: none"> 今年度の実施状況をふまえ、各選抜試験の実施要領、監督要領を見直し、修正する。特に試験当日と採点業務について、より効率的かつ確実な実施に向けたマニュアル整備を行う。 試験問題作成にあたっては、過去の試験問題の評価を外部業者に依頼し、その結果を問題作成に活用する。また、採点結果や採点者の意見等を作問者にフィードバックするとともに、次年度以降の作問者にも伝達される仕組みをつくる。 WEB出願について、令和5年度より導入するよう手続きを進める。 	

(3) 教務委員会

A	委員長名 副委員長名	谷内洋子・教授（栄養学科） 酒巻裕之・教授（歯科衛生学科）
B	委員名	小宮浩美・教授、雨宮有子・准教授、三枝香代子・准教授、川村紀子・講師（看護学科） 谷内洋子・教授、荒井裕介・准教授（栄養学科） 酒巻裕之・教授、山中紗都・講師（歯科衛生学科） 堀本佳誉・教授、酒井克也・助教（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 岡村太郎・教授、有川真弓・准教授（リハビリテーション学科作業療法学専攻） 神田みなみ・教授、島田美恵子・教授（共通教育運営会議） 沢根佳江・学生支援課（事務局）
C	部会名と部会員名	なし
D	所掌事項	1 教育課程の編成に関する事項 2 学年暦及び時間割の編成に関する事項 3 授業計画に関する事項 4 非常勤講師に関する事項 5 試験及び単位の認定に関する事項 6 授業評価に関する事項 7 学籍の異動（入学、進級、休学、復学、転学、留学、退学、除籍及び卒業等）に関する事項 8 科目等履修生、特別聴講学生、聴講生、研修生、研究生及び外国人留学生に関する事項 9 その他学長が付託した事項に関する事項 10 その他教務に関する事項
E	年度当初の重点課題	
<ol style="list-style-type: none"> f-GPA を活用し、学生の自主的な管理方法を検討 自己主導型学習アクティブラーニングの推進（FDセミナーの開催） 教学マネジメントの推進体制の構築：卒業生アンケートの評価指標における3つのポリシーの達成状況の評価と検討 ICT教育の実践と検証（R2年度の経験からの課題抽出） 授業評価アンケートの実施方法および質問項目の検討 現行カリキュラムの評価と次のカリキュラム改正の検討 		

F			会議記録（含む部会の開催）	
開催日		主な議題		
臨	4月7日	1 既修得単位の認定について		
1	4月19日	1 休学・退学について 2 放送大学の単位互換について 3 履修登録について 4 令和3年度時間割変更および担当者の変更（共通教育）について 5 カリキュラムの改正について 6 授業評価アンケートについて（実施方法・設問等） 7 令和3年度教務委員会の目標設定について 8 令和3年度委員会経費について 9 一般教養科目の選択単位数の数え方の確認について 10 教務委員会年間スケジュールの変更 11 授業目的公衆送信補償金制度の利用について		
2	5月17日	1 休学について 2 新規実習施設の追加について 3 放送大学の単位互換について 4 R3年度のFD・SDについて		
3	6月21日	1 休学について 2 非常勤講師の新規任用について 3 新規実習施設の追加について 4 単位修得過多の学生について 5 履修登録重複について 6 後期履修登録について 7 科目等履修生、聴講生の募集の中止について 8 令和3年度前期末試験日程について 9 授業評価アンケートの目的確認と活用について 10 令和3年後期放送大学の科目履修について		
4	7月19日	1 休学について 2 非常勤講師の新規任用について 3 新規実習施設の追加について 4 令和3年度前期末試験日程及びスケジュールについて 5 期末試験における試験監督マニュアルについて 6 後期履修登録について 7 後期教科書販売について		
5	8月23日	1 休学・復学について 2 新規実習施設の追加について 3 遠隔試験におけるFormsのアクシデントについて 4 前期末試験「心理学」における未受験者の対応について 5 前期末試験における追再試験・補講の日程について 6 令和3年度 放送大学の出願状況について 7 令和4年度非常勤講師への伺いについて		
6	9月27日	1 復学・休学・退学について 2 退学に伴う前期科目の履修登録取消の申請について 3 新規実習施設の追加について 4 栄養学科 フードマネジメント論の講義について 5 5共通テスト追試験実施に伴う学年暦の変更について		

		<ul style="list-style-type: none"> 6 学長と学生代表との懇談会について 7 令和4年度学年暦(案)について 8 前期追再試験の結果送付について 9 後期履修登録について 10 後期教科書販売について
7	10月18日	<ul style="list-style-type: none"> 1 非常勤講師の新規任用について 2 放送大学単位互換協定に基づく令和3年度前期 修得単位の認定について 3 気象災害等により交通機関が運行されない場合の授業の取り扱いの変更について 4 後期授業評価アンケートの実施について 5 非常勤講師が担当する授業の実態について 6 GPAの平均値の公表について 7 就学上の配慮事項を要する受験希望者について 8 学生からの対面授業の要望及び遠隔授業に対する父兄からの苦情について 9 前期授業評価アンケートの公表について
8	11月15日	<ul style="list-style-type: none"> 1 後期授業評価アンケートの実施について 2 非常勤講師が担当する授業の実態について 3 GPA平均値の公表について 4 令和4年度前期 履修登録について 5 令和4年度新生・在学生ガイダンスのスケジュール案について 6 令和4年度前期 科目等履修生等の募集について 7 令和3年度卒業時アンケート調査票について 8 令和4年度 授業時間割について
9	12月20日	<ul style="list-style-type: none"> 1 休学について 2 新規実習施設の追加について 3 履修登録の誤りについて 4 令和4年度時間割の変更要望について 5 令和4年度時間割について 6 非常勤講師の任用について 7 物品の予算について 8 3年次 前期より復学した学生の履修登録について 9 令和3年度 後期履修登録の取り消しについて 10 令和4年度前期 科目等履修生等の募集について 11 令和3年度後期 期末試験日程について
10	1月17日	<ul style="list-style-type: none"> 1 休学について 2 令和4年度 放送大学との単位互換科目の検討について 3 令和3年度後期 期末試験日程について 4 令和3年度後期 期末試験実施における試験監督業務及び学生への周知について 5 学生ハンドブックの改定について 6 教務委員会規程の確認について 7 令和4年度シラバスの作成について 8 令和3年度後期授業アンケートについて 9 令和4年度前期 科目等履修生等の募集について 10 学年暦の休業日設定に係る学則の改正について 11 令和4年度新生・在学生ガイダンスについて 12 令和4年度時間割について
11	2月28日	<ul style="list-style-type: none"> 1 令和3年度卒業判定について 2 令和3年度後期 追再試験日程(案)について

		<ul style="list-style-type: none"> 3 復学・休学・退学について 4 令和4年度 非常勤講師の新規任用について 5 令和3年度 時間割の変更要望について 6 放送大学と単位互換協定に基づく修得単位の認定に関する規程施行細則 7 千葉県立保健医療大学 GPA 制度に関する規程 8 令和3年度後期末試験結果発表の方法について 9 令和4年度前期 科目等履修生等の応募結果について 10 令和4年度前期 放送大学の出願状況について 11 令和4年度新生・在学生ガイダンス（WEB 履修登録マニュアル）について 12 令和3年度 教務委員会スケジュール（案）について
12	3月17日	<ul style="list-style-type: none"> 1 令和3年度進級判定について 2 休学について 3 令和4年度 非常勤講師の新規任用について 4 放送大学単位互換協定に基づく令和3年度後期 修得単位の認定について 5 新規実習施設の追加について 6 令和3年度 時間割の変更要望について 7 令和4年度 時間割について 8 令和4年度新生・在学生ガイダンスについて 9 令和4年度 教務委員会スケジュールについて 10 令和4年度既修得単位認定に関わる教務委員会業務について 11 令和3年度後期末 追再試験結果発表の方法について 12 令和4年度新生・在学生ガイダンス（WEB 履修登録マニュアル）について 13 令和4年度シラバスの校正について
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
	3月7日	遠隔授業に関するFD（教育方法向上のための研修）：初級編・中級編（動画 Teams 公開）
H	評価（成果および改善事項）	
	<ul style="list-style-type: none"> 1. 自分自身に適した学習方法を身につけ、主体的に学ぶことを目的に、GPA の分布や平均値の公表について検討した。学生・教職員ともに GPA について共通認識を持っていない現状から、GPA の概念も含めたFD 開催を今後実施する（R4 年度予定）。 2. コロナ禍 2 年目の遠隔授業において、教員間での授業内容の格差が生じていることへの対応が急務であったこと、学生が主体的に学修する遠隔授業の促進は、アクティブラーニングの推進にもつながることから、今年度のFD は目標 4. にも関連するFD の実施とした（R4. 2 月実施予定）。 3. 委員長は、公立大学協会によるWS に2回参加した。卒業時調査については、評価項目の精査を行い、達成状況を正しく評価できるよう改定した。改定版にて実施し、3つのポリシーの達成状況を評価・検討予定である。 4. 遠隔授業では、動画媒体が繰り返し見直せることから、復習や理解度向上に役立つというメリットが挙げられた一方、配信資料のボリュームや通信状況に関する課題も明らかとなった。結果を教員に共有し、ICT 教育改善を促進するFD を計画（R4. 2 月実施予定）。 5. 質問項目を精査検討し、経年変化を見る観点から現状維持とした。コロナ禍のためForms により実施し、メールや科目 Teams によるリマインドで回答率向上に努めたが、回収率が芳しくなかった。次年度は対面授業時の紙面での配布、回収など実施方法を再検討する。 6. 全学科とも、現時点でカリキュラム改正が急務な状況ではないことから、次年度の新々カリ卒業生が出た時点での卒業時調査等において評価検討をする。 	
I	次年度の方策	
	<ul style="list-style-type: none"> 1. with/after コロナの状況下での自己主導型学習（アクティブラーニング）の推進をする 2. 授業評価アンケートの実施方法および質問項目の検討および回答率向上に取り組む 	

3.	ICT 教育の実践と検証に取り組む
4.	f-GPA を活用した学生の自主的な学修管理体制構築に尽力する
5.	現行カリキュラムの評価とカリキュラム改正について検討する

(4) FD・SD 委員会

	委員長名	岡村 太郎・教授
B	委員名	菊池 裕・キャンパス・ハラスメント防止対策委員長 浅井 美千代・入試改革検討委員長 谷内 洋子・教務委員長 太和田 暁之・学術推進企画委員長 島田 美恵子・学生進路支援委員長 加瀬 正彦・研究倫理審査委員長 細山田 康恵・社会貢献委員長 赤塚 仁・企画運営課長（事務局） 伊藤 拓哉・企画運営課主事（事務局）
C	部会名と部会員名	なし
D	所掌事務	<ul style="list-style-type: none"> ・学内の FD の推進に関すること。 ・学内の FD の連携，調整に関すること。 ・教授会が付託した事項に関すること。 ・その他 FD に関すること。
E	年度当初の重点課題	
FD・SD マップに則して，概要検討・内容決定を，各委員会に依頼し実施するというシステムの構築		
F	会議記録（含む部会の開催）	
	開催日	主な議題
1	令和3年4月30日 （対面）	1)FD・SD 委員会の問題点と検討課題について 2)FD・SD マップの検討と計画について 3)FD・SD マップによるコースアウトラインの検討について
2	令和3年6月18日 （チームス）	1)FD・SD の年間計画の提示の仕方 2)計画実施の現状報告
3	令和3年9月3日 （チームス）	1)FD・SD マップによるコースアウトラインの検討について 2)FD・SD 実施時の報告書とアンケート用紙の取り扱い
4	令和4年3月18日 （対面）	1)本年度 FD・SD の報告 2)来年度に向けた課題
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
	令和3年6月18日	「入試問題作成について」遠隔動画配信（学生及び全教職員対象）入試改革検討委員会実施
	令和3年8月21日	「久留米大学児島将康先生 研究計画書の書き方，科研費申請書作成のポイント」遠隔動画配信（教員全員対象）学術推進実施委員会実施
	令和3年9月13日～ 9月26日	「デートDV お互いを尊重した関係とは」遠隔動画配信視（学生及び教職員全員対象）学生委員会実施
	令和3年9月24日	「臨床研究デザインに関する講演：東京大学康永秀生教授」遠隔動画配信（教員全員対象）学術推進実施委員会実施
	令和3年12月22日	「県立大学の理念に基づく社会貢献の理解」遠隔動画配信（教員全員対象）社会貢献委員会実施
	令和4年2月21日	「不審者対応研修」（教職員全員対象）危機管理委員会
	令和4年2月	「学生と教職員にキャンパス・ハラスメント防止に関する研修会」遠隔動画配信（教職

	員全員対象) キャンパス・ハラスメント防止対策委員会実施
令和4年3月4日	「研究倫理に関するFD」リアルタイム遠隔動画配信(教員全員対象) 倫理委員会実施
令和4年3月7日～	「CTを活用した教育方法のレベルアップと振り返り - Office365を活用した授業デザイン-with コロナ: 学内教員による講演」初級・中級編 /遠隔動画配信教務委員会実施(教員全員対象)

H	評価 (成果および改善事項)
---	----------------

<p>2020年度作成のFD・SDマップに則して、2021年度の工程表(コースアウトライン)を作成し、概要検討・内容決定、各委員会に依頼開始・実施できた。</p>	
1. 社会貢献	<p>: 基礎的知識と基本的スキルを備える(レベル1) 「県立大学の理念に基づく社会貢献の理解」(58名参加6名動画視聴/教員全員)</p>
2. 教育	<p>: 新任教員向けの講習会(レベル2) 「CTを活用した教育方法のレベルアップと振り返り - Office365を活用した授業デザイン-with コロナ: 学内教員による講演」初級・中級編; 遠隔動画配信(54名+非常勤講師数/教員全員)</p> <p>(継続計画: 教員向きの講習会(レベル3) 「カリキュラム開発・教育アセスメントの実際について」 俣木志朗先生, 京都大学高等教育研究開発推進センター教員ほか(令和4年度予定)/教務委員会実施)</p>
3. 研究	<p>: 研究遂行スキルの向上(レベル1) 「久留米大学児島将康先生 研究計画書の書き方, 科研費申請書作成のポイント」(視聴48人/教員全員)</p> <p>研究遂行スキルの向上(レベル2) 「東京大学康永秀生教授 臨床研究デザインに関する講演」(視聴28人/教員全員)</p> <p>研究倫理の理解について(レベル3) 「研究倫理に関するFD(対象教員全員)」</p>
4. 管理・運営	<p>: ハラスメント予防について(レベル1) 「学生と教職員にキャンパス・ハラスメント防止に関する研修会」(不明/教職員全員)</p> <p>対人関係の考え方スキルについて(レベル1) 「デートDV お互いを尊重した関係とは」視聴回数41回/学生及び教職員全員</p> <p>入試問題作成について(レベル1) 「入試問題作成について」視聴回数26回/学生及び全教職員対象)</p> <p>危機管理についての研修(レベル3) 「不審者対応研修」69名参加/教職員全員</p> <p>(継続計画: 危機管理委員会実施相談員向けの講習会の企画・実施(レベル3) 「キャンパス・ハラスメント防止対策委員会学外委員による相談員向けオンライン研修会の開催」2022年度に開催予定(教職員全員対象) キャンパス・ハラスメント防止対策委員会)</p>
<p>改善事項: 各実施したFD・SD報告書とFD・SDアンケートの書式統一と提出の方法についてFDSDコースアウトライン表に記述報告であった。</p>	

I	次年度の方策 (R4年度への継続を記載)
---	----------------------

<p>「FD・SDマップに則して、概要検討・内容決定を、各委員会に依頼し実施するというシステムの構築」は、本年度の目標通り達成され、次年度に向けて継続した計画と実施を目指している。</p> <p>教職員の受講促進のための工夫については、コロナ禍のため、遠隔動画配信などの活用をせざるを得ない状況であったが、遠隔が受講促進の功を奏した一面もある。</p> <p>FDSDアンケートを含めFD・SD報告書などの提出方法を統一し実施し周知する必要がある。</p>	
--	--

(5) 学術推進企画委員会

A	委員長名	太和田 暁之・教授(看護学科)
B	委員名	河部 房子・教授(看護学科) 平岡 真実・教授(栄養学科) 金澤 匠・准教授(栄養学科) 石川 裕子・教授(歯科衛生学科) 河野 舞・准教授(歯科衛生学科・共通教育運営会議) 大谷 拓哉・准教授(リハビリテーション学科理学療法専攻)

		江戸 優裕・講師（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 山本 達也・教授（リハビリテーション学科作業療法学専攻・共通教育運営会議） 吉野 智佳子・講師（リハビリテーション学科作業療法学専攻）
C	部会名と 部会員名	<p>【紀要編集部会】</p> <p>部長：金澤 匠・准教授（栄養学科） 部会員：河部 房子・教授（看護学科） 春日 広美・教授（看護学科） 平岡 真実・教授（栄養学科） 石川 裕子・教授（歯科衛生学科） 荒川 真・准教授（歯科衛生学科） 江戸 優裕・講師（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 酒井 克也・助教（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 山本 達也・教授（リハビリテーション学科作業療法学専攻・共通教育運営会議） 松尾 真輔・講師（リハビリテーション学科作業療法学専攻） 成田 悠哉・助教（リハビリテーション学科作業療法学専攻）</p> <p>【学内共同研究審査部会】</p> <p>部長：河野 舞・准教授（歯科衛生学科・共通教育運営会議） 部会員：太和田 暁之・教授（看護学科） 佐伯 恭子・講師（看護学科） 平岡 真実・教授（栄養学科） 金澤 匠・准教授（栄養学科） 鈴鹿 祐子・准教授（歯科衛生学科） 大谷 拓哉・准教授（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 室井 大祐・助教（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 岡村 太郎・教授（リハビリテーション学科作業療法学専攻・共通教育運営会議） 山本 達也・教授（リハビリテーション学科作業療法学専攻）</p>
D	所掌事務	<ol style="list-style-type: none"> 1 大学内の学術推進に関すること 2 共同研究等の募集及び審査に関すること 3 紀要の編集及び発行に関すること 4 大型外部資金の獲得に関すること 5 動物実験に関すること 6 教授会が付託した事項に関すること 7 その他学術推進に関すること
E	年度当初の重点課題	
	<ul style="list-style-type: none"> ・競争的資金（科研費、学内共同研究費など）への申請率を上げるための支援策を実施する。 ・健康施策に関連した実践研究の能力・水準向上につながる FD や学内共同研究費助成について検討し、実施する。 	
F	会議記録（含む部会の開催）	
	開催日	主な議題
1	令和3年 4月19日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 今年度の活動目標と活動計画について 2. 学内共同研究費について 3. 科研費採択率について 4. 委員会運営経費について 5. 学内共同研究発表会について
2	令和3年 5月17日	<ol style="list-style-type: none"> 1. FD・SD（レベル2）の企画について 2. 『千葉県立保健医療大学の将来に向けて』重点施策と実現に向けた取り組みの年度目標について 3. 学内共同研究発表会について 4. イブニングセミナー予算および委員会運営経費について 5. 学内共同研究費最終予算案について

3	令和3年 6月21日	1. FD（レベル1・レベル2）について 2. 第12回学内共同研究発表会について 3. 紀要編集方針について 4. 「共同研究変更願」について
4	令和3年 7月19日	1. 8月2日（月）16時30分～ 久留米大学 児島将康教授のご講演について 2. 9月24日（金）16時30分～ 東京大学 康永秀生教授のご講演について
5	令和3年 8月18日 （メール審議）	1. 学内共同研究抄録研究課題名変更願について
6	令和3年 9月13日	1. 「（学長と）学生代表との懇談会」で学生から示されたアンケート調査結果に対するFD開催の要否の検討（FD/SD委員会より依頼） 2. 共同研究変更願について 3. 紀要編集について 4. 共同研究発表会について 5. FD講演会アンケート結果（久留米大学児島教授）について 6. FD講演会予定（東大康永教授）について
7	令和3年 9月22日 （メール審議）	1. 学内共同研究の途中辞退について
8	令和3年 10月18日	1. 次年度学内共同研究費募集に関する要項について 2. 次年度学内共同研究費募集に関する今後のスケジュールについて 3. 令和4年度認証評価受審のための「点検評価ポートフォリオ」
9	令和3年 11月15日	1. 大学教育質保証・評価センターによる認証評価（令和4年度受審）点検評価ポートフォリオ 基準2_③「研究外部資金獲得への支援」案 2. 2022年度学内共同研究費について 3. 共同研究変更願について
10	令和3年 12月20日	1. 学内共同研究辞退について 2. 学内共同研究の規定の改定について 3. 株式会社サンメディアから紀要の複製利用許諾について 4. 2022年度学内共同研究費について 5. 紀要査読について
11	令和4年 1月17日	1. 2022年度学内共同研究の募集について 2. 紀要の進捗状況について
12	令和4年 2月21日	1. 大学紀要のJ-STAGEでの公開について 2. 2022年度学内共同研究について 3. 2021年度学術推進企委員会活動達成状況点検・評価について
13	令和4年 3月14日	1. 学内共同研究採択演題の決定および二次募集について 2. 令和4年度科研費等応募者概要
14	令和4年 3月29日 （メール審議）	1. 学内共同研究の研究期間延長について
開催日		紀要部会の主な議題
1	令和3年 9月6日	1. 投稿予定論文の応募状況及び担当者について 2. 編集部会の開催日程について
2	令和3年 10月6日	1. 投稿論文編集者・査読者案の決定について 2. 査読依頼の手続きについて

3	令和3年 11月5日	1. 査読結果及び審査結果について
4	令和3年 12月24日	1. 査読結果及び審査結果について 2. 研究期間延長に伴う抄録掲載の延長について
開催日		学内共同研究審査部会の主な議題
1	令和4年 1月26日	1 学内共同研究審査スケジュールについて 2 審査要綱の確認
2	令和4年 2月22日	1 学内共同研究審査結果について 2 意見伝達・ヒアリングについて
G 行事開催記録		
開催日		行事名称及び行事の内容
1	令和3年 8月2日	第1回イブニングセミナー「採択されるための科研費申請書作成のポイント」 児島将康氏・久留米大学分子生命科学研究所 教授
2	令和3年 9月13-17日 (オンデマンド 視聴)	第12回学内共同研究発表会
3	令和3年 9月24日	第2回イブニングセミナー「臨床研究デザイン」 康永秀生氏・東京大学大学院医学研究科 教授
H 評価（成果および改善事項）		
1	大学内の学術推進に関すること 今年度(2021年度)はイブニングセミナーを2回開催した。第1回は科研費獲得促進を、第2回は臨床研究デザインをテーマとした(いずれも外部講師による)。	
2	共同研究等の募集及び審査等に関すること 次年度(2022年度)の学内共同研究の募集を行い一般研究11件、萌芽研究3件、若手研究0件の応募があった。応募数は例年と同程度であった。審査にあたって審査用紙を業務効率化のため従来の紙媒体を廃止しすべて電子媒体(エクセル)に切り替えた。学内共同研究発表会を開催した(以上、学内共同研究審査部会)。	
3	紀要の編集及び発行に関すること 論文7編(原著2編、報告2編、資料2編、その他1編)の投稿があり全編採択とした。今年度(2021年度)の紀要には上記の論文7編に加え学長による巻頭言、学内共同研究抄録14編、学長裁量研究抄録3編、医療整備課との取組報告会抄録1編の掲載を予定している。また論文投稿時に際し従来は電子媒体に加え紙媒体の提出も求めていたが今年度分より紙媒体の提出を廃止した(以上、紀要編集部会)。	
4	大型外部資金の獲得に関すること 科研費などの外部競争的資金(以後科研費など)および学内共同研究の申請数(率)について、今年度から算出方法を一部変更した。すなわちこれまで年度末退職・休職中・科研費継続中の教員数を分母から除いていたのに加え次年度に科研費を延長した教員数も除くように変更した。結果、次年度分の科研費など申請数(率)は申請有資格者44名のうち申請数38件(86.3%)うち科研費は28件(63.6%)となり数値目標である80%を上回った。次年度分の科研費採択率は申請数28件のうち採択数4件(16.7%)であり2020年度分の同30名中9名(30%)より低下しかつ数値目標である30%を下回った。前記のように科研費獲得促進をテーマとしたイブニングセミナーを開催した。前年度に引き続き学内教員による採択された科研費研究計画調査4年分について14名から承諾がえられ学内に公開したところ5名の利用(閲覧)があった。	
5	動物実験に関すること 該当なし。	
6	教授会が付託した事項に関すること 該当なし。	
7	その他学術推進に関すること 該当なし。	

I	次年度の方策
1	科研費など外部競争的資金および学内共同研究の申請率と科研費採択率については来年度も数値目標(それぞれ80%と30%)を掲げ、目標達成にむけた対策を講ずる。すなわち科研費申請・獲得に関するイブニングセミナーの開催や、採択された科研費計画調書の学内公開などの取り組みを継続し、加えて新たな方策を学内から広く募り検討する。
2	学内共同研究費の各費目の比率や金額配分が研究者のニーズを反映しておらず研究活動への貢献を減ずる結果となっている長年の課題について、問題点を抽出しそれぞれの問題点について解決策を検討する。
3	行政や関係機関等との協働による健康づくり政策におけるシンクタンク機能の実現を目的として、県の施策と関連する研究の実施や研究成果報告のあり方を検討する。

(6) 学生委員会

A	委員長名 副委員長	島田 美恵子・教授(歯科衛生学科 共通教育) 浅井 美千代・教授(看護学科)
B	委員名	西村 宣子・准教授(看護学科) 平岡 真実・教授(栄養学科) 河野 公子・准教授(栄養学科) 鈴鹿 祐子・准教授(歯科衛生学科) 山中 紗都・講師(歯科衛生学科) 大谷 拓哉・准教授(リハビリテーション学科理学療法学専攻) 安部 能成・准教授(リハビリテーション学科作業療法学専攻)
C	部会名と 部会員名	なし
D	所掌事項	1 学生の福利厚生及び保健衛生に関すること 2 学生の課外活動に関すること 3 学生の奨学金等貸与に関すること 4 授業料等の減免に関すること 5 後援会及び同窓会に関すること 6 その他学長が付託した学生に関すること
E	年度当初の重点課題	
	<ul style="list-style-type: none"> ・学生支援の方針に照らした学生支援の検証と改善:従来の支援に加え、特にコロナ感染症対策下における不適應の防止や支援について明示し、新たな方策をたてる。また、課外活動についても新たな活動方法を検討する。 ・卒業生に対する教育支援やキャリア形成支援体制を整備する同窓会分会との連携を支援していくこと。 	
F	会議記録(含む部会の開催)	
	開催日	主な議題
1	4月12日	① 令和3年度委員会スケジュールについて ② 令和3年度学生支援計画について ③ 日本学生支援機構奨学生の推薦について ④ 委員会経費について ⑤ サークル活動について
2	5月10日	① 令和3年度学生支援計画について ② 次年度予算の策定について ③ 学生向けセミナーについて
3	6月14日	① 次年度予算の策定について ② 学生向けセミナーについて ③ 学生団体の活動報告・設立について ④ 同窓会について ⑤ いずみ祭の企画の進行及び協力について

4	7月12日	① 令和3年度いずみ祭について ② 報告 学生と学長の懇談会 同窓会
5	9月13日	① 令和4年度健康診断及び大学祭の日程について ② 学長からの付託事項 1 「新型コロナウイルス感染症に対する現状と今後」 ③ 学長からの付託事項 2 学生調査 授業評価
6	10月18日	① 新型コロナウイルス感染症を知る学生のための講演会について ② 令和4年度の健康診断について ③ 令和4年度学生ハンドブックについて ④ 令和4年度自己健康管理ファイル ⑤ 2021年度卒業時調査について ⑥ 学生団体の設立について
7	11月18日	① 令和4年度健康診断・ワクチン接種計画について ② 令和4年度学生ハンドブックについて ③ 令和4年度自己健康管理ファイルについて
8	12月13日	① 令和4年度健康診断・ワクチン接種計画について ② 令和4年度学生ハンドブックについて ③ 令和4年度自己健康管理ファイルについて ④ 卒業式について ⑤ 幕張キャンパス学生ホール棟の売店について ⑥ 卒業時調査について
9	1月17日	① いずみ祭について ② 幕張売店・自動販売機及び仁戸名無人販売について ③ 卒業式について ④ 委員会規定の見直しについて
10	2月14日	① 令和3年度卒業式について ② 令和4年度学生向けセミナーについて ③ 令和4年度健康診断について ④ 委員会活動評価
11	3月14日	① 学生相談に関する調査について ② 令和3年度学生支援計画の結果について ③ 令和4年度健康診断・ワクチン接種計画について ④ 自動販売機について
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
1	4月6日 7日	健康診断
2	8月16日～29日	学生セミナー 働く前に知っておきたい労働法 オンデマンド配信
3	9月13日～26日	学生セミナー デートDV～お互いを尊重した関係とは～ オンデマンド配信
4	10月19日～ 11月7日	学生セミナー 新型コロナウイルス感染症を正しく知る オンデマンド配信
5	9月	学生アンケート調査 学生生活の実態に関するアンケート Forms にて
6	1月18日～ 2月5日	学生アンケート調査 学内の売店と自動販売機に対するアンケート Forms にて
H	評価（成果および改善事項）	
① 学内整備：学生のロッカー室整備ならず、狭さを解決できなかった。 ② 学生会：WEBも活用して予定事業はすべて実施した。サークル活動再開マニュアルを作成した。 ③ いずみ祭：令和3年度いずみ祭を、WEBリアルタイムと動画配信の2部構成で実施した。 ④ 後援会による仁戸名キャンパスへの寄贈品管理：新担当者を決定して学生による管理を継続した。		

⑤	売店・自動販売機：売店に関するアンケート実施。生協撤退に対しての新商品ニーズを把握した。
⑥	卒業式：卒業写真撮影の手配および式歌清聴の準備をした。
⑦	学生対象セミナー：参加者は減少するも2回開講。学長によるコロナ対策特別講演を開講した。
⑧	同窓会：学科別同窓会の動向を把握。代表者WEB会議を開催した。
⑨	学生からの相談内容把握：学生相談アンケートの実施。結果から課題を提示し教員で共有した。
⑩	幕張キャンパス駐輪場管理：入構可能な時期は、整頓状況を確認した。
⑪	後援会：WEB総会および理事会開催を支援。理事会議事を大学に報告した。
WEBも活用した臨機応変な対応で、当初の予定に加えた、新たな事業も実施した。キャンパス整備に対する課題が継続された。学生の豊かな学生生活を築くことを目的とした、学生・事務局・後援会との情報と問題意識の共有と行動指針が求められる。	
I	次年度の方策
・生協撤退などの学習・生活環境の変化が、学生の福利厚生に及ぼす影響を、学生との意見交換や調査などで、客観的に把握する必要がある。同窓会の組織化を強固にする。	

(7) 進路支援委員会

A	委員長名	島田 美恵子・教授（歯科衛生学科 共通教育）
B	委員名	田口 智恵美・准教授（看護学科） 谷内 洋子・教授（栄養学科） 麻生 智子・講師（歯科衛生学科） 室井 大佑・助教（リハビリテーション学科理学療法専攻） 有川 真弓・准教授（リハビリテーション学科作業療法専攻）
C	部会名と部会員名	なし
D	所掌事項	1 就職及び進学に関すること 2 県内就職の推進に関すること 3 その他学長が付託した事項に関すること 4 その他学生の就職及び進学に関すること
E	年度当初の重点課題	
・所掌事務に関する活動を計画的に行う。特に、県内就職の推進や国家試験合格率100%（全学科）をめざし、学科専攻と連携を図り大学全体として取り組んでいく。新型コロナウイルス感染拡大による就職活動への影響を把握し、4年生への適切な情報提供を行うとともに、学生が活用しやすい進路支援方法を検討する。		
F	会議記録（含む部会の開催）	
	開催日	主な議題
1	4月21日	① 令和3年度委員会スケジュールについて ② 令和3年度進路支援計画について ③ 令和3年度委員会活動予算について ④ 令和3年キャリアセミナー年間計画および第1回キャリアセミナーについて
2	6月16日	① 令和3年度進路支援計画について ② 令和3年度後援会助成依頼について ③ 令和3年度第1回・第2回キャリアセミナーについて ④ 次年度予算策定について ⑤ 令和2年度就職進学状況について
3	8月11日	① 令和3年度第1回・第2回キャリアセミナーについて 報告 各学科・ジョブカフェ 進捗状況
4	9月14日	① 進路希望調査及び求職票について ② 進路ガイドブックについて

5	11月17日	① 卒業時調査について ② 第3回キャリアセミナーについて ③ 大学IRコンソーシアムの共通学生調査結果(2019)について ④ 学生ハンドブックについて ⑤ 進路ガイドブックについて
6	1月12日	① 第3回キャリアセミナーについて ② 令和4年度ハローワーク相談(仁戸名含む)について
7	3月25日	① 第3回キャリアセミナーの振り返り ② ジョブカフェセミナーの振り返りと令和4年度計画について
G 行事開催記録		
開催日		行事名称及び行事の内容
1	9月1日～ 9月15日	第1回キャリアセミナー 就活のすすめ方 採用者はここをみる オンデマンド
2		第2回キャリアセミナー 公務員試験対策 オンデマンド
3	3月18日	第3回キャリアセミナー 就職活動に必要なマナーのツボ
4	12月3日	ジョブカフェ エントリーシート対策セミナー
5	3月15日	ジョブカフェ 事故PR作成セミナー 集団模擬面接セミナー
H 評価(成果および改善事項)		
<p>① 年度当初に作成した進路支援計画は、全学および各学科・専攻ごとに、実施できた。</p> <p>② 全学でのキャリアセミナーは例年通り3回実施した(3回目3月18日予定)。新型コロナウイルス感染防止のため、第2回まではオンデマンド方式で実施した。全学を対象としたセミナー参加者は、急遽オンデマンドに変更したためか、例年よりも少なかった(第1回視聴回数72回、第2回公務員対策視聴回数50回)。</p> <p>③ 各学科専攻によるセミナー(第2回2部)における学生の出席率やセミナー受講の感想は例年通りであった。対面・オンデマンド両方の方法を工夫しながら、予定通りの進路支援や国家試験受験支援が実施された。</p> <p>④ ハローワークによる個別就職活動支援は、感染防止対策を取りながら継続することができた。例年、閲覧数の多い、学生が記録を残す就職活動報告書は、いつでも閲覧できるように支援室設置の紙媒体からPDF化してサーバー上でも閲覧が可能な状態を検討している。</p> <p>⑤ 昨年より実施している「ジョブカフェ」の参加人数が10名以内と少なかった(11月、3月実施予定)。学生の入構制限下において開催周知が滞り、参加者が限定されることは否めない。工夫が必要である。</p> <p>新型コロナウイルス感染拡大状況においても、全学および各学科・専攻で例年通りの進路支援事業が実施できた。また、今年度は「進路に関する報告」の提出率が高く、12月時点で72%の内定が確認されている。就職活動や内定状況は例年通りという途中経過である。</p>		
I 次年度の方策		
<p>・引き続き、新型コロナ感染症対策を考慮した進路支援計画を作成し実施していく。全学セミナーは、主に3年次生を対象とした実践的な内容を企画しているが、1年時・2年時に特化したキャリアセミナーを企画してもいいのではないか。</p>		

(8) 研究倫理審査委員会

A	委員長名	加瀬 政彦・教授(栄養学科)
B	委員名	<p>—学内委員—</p> <p>川城 由紀子・講師(看護学科)</p> <p>杉本 健太郎・講師(看護学科)</p> <p>細山田 康恵・教授(栄養学科)</p> <p>酒巻 裕之・教授(歯科衛生学科)</p> <p>鈴鹿 祐子・准教授(歯科衛生学科)</p> <p>堀本 佳誉・准教授(リハビリテーション学科理学療法専攻)</p> <p>藤田 佳男・准教授(リハビリテーション学科作業療法専攻)</p>

		米本 肇子・事務局長 —学外委員— 安村 勉・教授（学習院大学専門職大学院法務研究科） 鎌田 浩二・准教授（千葉大学人文科学研究院） 竹内 治・弁護士（松本・山下綜合法律事務所） 望月 由紀・准教授（東都医療大学幕張ヒューマンケア学部看護学科） 島津 実伸・特任助教（千葉大学医学部附属病院臨床試験部）
C	部会名と部会員名	【動物実験研究倫理審査部会】 部会長：加瀬 政彦・教授（栄養学科） 部会員：細山田 康恵・教授（栄養学科） 鈴鹿 祐子・講師（歯科衛生学科） 金澤 匠・准教授（栄養学科） 島田 美恵子・教授（歯科衛生学科）
D	所掌事項	人間および動物を直接対象とする研究等に対して、倫理に係る必要事項を審査する。
E	年度当初の重点課題	
	① Zoom や Teams によるリモート研究の指針や規定を整備する。 ② データの収集と管理に関する指針を再検討する。 ③ 倫理審査結果通知書における「非該当」の項目をわかりやすくする。 ④ 本年度6月30日施行「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」の変更点の周知・対応。 ⑤ 研究倫理に関する外部講師によるFDをFD・SD委員会と連携して実施を目指す。	
F	会議記録（含む部会の開催）	
	開催日	主な議題
1	令和3年 4月14日	1 倫理審査申請案件の審査（5件：承認1件，保留4件）
2	令和3年 5月12日	1 倫理審査申請案件の審査（5件：承認1件，条件付き承認1件，保留3件）
3	令和3年 6月9日	1 倫理審査申請案件の審査（6件：承認1件，条件付き承認1件，保留4件）
4	令和3年 7月14日	1 倫理審査申請案件の審査（13件：承認1件，条件付き承認5件，保留7件）
5	令和3年 9月8日	1 倫理審査申請案件の審査（12件：条件付き承認6件，保留6件）
6	令和3年 10月13日	1 倫理審査申請案件の審査（9件：承認6件，条件付き承認2件，保留1件）
7	令和3年 11月10日	1 倫理審査申請案件の審査（5件：承認2件，条件付き承認2件，不承認1件）
8	令和3年 12月8日	1 倫理審査申請案件の審査（2件：承認1件，保留1件）
9	令和4年 1月19日	1 倫理審査申請案件の審査（5件：承認2件，保留3件）
10	令和4年 2月9日	1 倫理審査申請案件の審査（5件：承認1件，条件付き承認2件，保留1件，不承認2件）
	開催日	動物実験研究倫理審査部会の主な議題
1	令和3年 6月7日	1 動物実験申請案件の審査（2件：承認2件）

G		行事開催記録
	開催日	行事名称及び行事の内容
1	令和3年 4月1日	研究等倫理委員会研修会（新任教員向け）
2	令和3年 9月1日	研究等倫理委員会研修会（新任教員向け）
3	令和4年 3月4日	外部講師による研究倫理に関する講習会開催（遠隔）
4	令和4年 3月25日	令和2年度科学研究費助成事業に係る内部監査の実施
H		評価（成果および改善事項）
<ul style="list-style-type: none"> 達成事項 <ul style="list-style-type: none"> ①ZoomやTeamsなどのWeb会議システムを使用する場合の指針を作成した。 ②データの収集と管理に関する指針を現状に合わせ改訂したものを作成した。 また外部クラウドの研究利用について本学で必要な手続きを再度告知する。 ③倫理審査結果通知書における「非該当」をはじめとする審査結果の文言の簡潔な説明を作成した。 ④新たに加わった「電磁的インフォームドコンセントの取得」について告知。 また「多機関共同研究」での倫理審査の手続き変更について告知文を作成。 ⑤国立研究開発法人 科学技術振興機構（JST）の講師によるFD実施。（3月4日） 評価結果の理由と改善策 <ul style="list-style-type: none"> 目標の5項目について、①～③については委員会内での議論により文案ができた（ただし議論はまだ締め切っていないので微調節はあります。）ので目標をほぼ達成できたと考えます。④については「電磁的インフォームドコンセントの取得」については告知済みで、「多機関共同研究」については告知文を作成していつでも告知できる状態にあります。⑤についても順調に準備が進んでいます。 		
I		次年度の方策
<ul style="list-style-type: none"> 研究のインターネット利用が進んでる中、従来の倫理規定で時代にそぐわなくなっているものがあるので、他大学の動向などを参考に来年度以降修正していくべきと考えます。 		

(9) 国際交流委員会

A	委員長名	石川 裕子・教授
B	委員名	三和 真人・教授（副委員長） 石川 紀子・講師 加瀬 政彦・教授 山本 達也・教授 加藤丈太郎・伊藤拓哉（事務局）
C	部会名と部会員名	Inje 大学シンポジウムプロジェクトチーム 石川 裕子・教授 神田 みなみ・教授 石川 紀子・講師 菊池 裕・教授 山本 達也・教授 荒川 真・准教授
D	所掌事項	1 国際交流に関する事項 2 学術交流協定に関する事項 3 学術及び教育交流の推進に関する事項 4 留学生の教育交流に関する事項 5 国際交流関係機関との連携および協力に関する事項

		6 その他学長が付託した国際交流に関する事項
E	年度当初の重点課題	
	<ul style="list-style-type: none"> ・韓国 Inje 大学との交流実施の検討. ・国内での国際交流活動の検討. 	
F	会議記録（含む部会の開催）	
	開催日	主な議題
1	令和3年 4月26日 (オンライン)	1 令和3年度活動計画 2 国際交流に関する授業科目調査について 3 委員会予算について
2	令和3年 6月11日 (オンライン)	1 Inje 大学との交流について 2 初期医療言語サービスボランティア研修について 3 国際交流に関する授業科目調査について
3	令和3年 9月7日 (オンライン)	1 Inje 大学との交流協定延長について 2 Inje 大学とのシンポジウムについて
4	令和3年 10月14日 (PT)	1 シンポジウム開催に向けての方向性
5	令和4年 2月18日 オンライン	1 Inje 大学とのシンポジウムについて 今後の流れと役割分担
6	令和4年 3月18日 オンライン	インジェ大学関係者と顔合わせおよび打ち合わせ（石川・神田）
7	令和4年 3月22日 オンライン	国際交流シンポジウムリハーサル
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
1	令和4年 3月23日 (14:00～ 16:00) オンライン	国際交流シンポジウム 参加者：約80名 1 学長挨拶 2 学科紹介 3 研究紹介
H	評価（成果および改善事項）	
	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年8月に Inje 大学との協定締結を行った後、Inje 大学側とメールでの何度もの打ち合わせを行い、また多くの方の協力のお陰で Zoom にてシンポジウムを開催することができた。国内での国際交流活動として、神田外語大学との「初期医療言語サービスボランティア研修」については、本年度は開催せず、次年度の開催を目指している。 	
I	次年度の方策	
	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の Inje 大学との交流をどのように実施するかについては、Inje 大学側の要望も考慮に入れながら検討する必要がある。 ・「初期医療言語サービスボランティア研修」については、開催できるように協力していく予定である。 	

(10) 図書委員会

A	委員長名	三和 真人・教授（リハビリテーション学科理学療法専攻）図書館長
---	------	---------------------------------

B	委員名	成 玉恵・講師（看護学科） 海老原 泰代・講師（栄養学科） 栗原 涼子・助教（歯科衛生学科） 安部 能成・准教授（リハビリテーション学科作業療法学専攻） 山中 紗都・講師（共通教育運営会議）
C	部会名と部会員名	なし
D	所掌事項	1 図書館の整備運営及び図書館教育に関する事項 2 図書資料等の収集、購入計画及び管理に関する事項 3 学術機関リポジトリに関する事項 4 その他学長が付託した事項に関する事項 5 その他図書館に関する事項
E	年度当初の重点課題	
	<ul style="list-style-type: none"> ・文献検索セミナーなどのセミナー，ガイダンスを実施し，図書館の利用促進，学生の文献検索能力向上につとめる。 ・学生の学習，教育，調査研究に資する資料の収集・整備につとめる。 	
F	会議記録（含む部会の開催）	
	開催日	主な議題
1	5月27日～ 6月3日 (メール審議)	1 令和3年度定期購入図書について 2 令和3年度資料費予算配分について 3 令和3年度購入図書の推薦について 4 令和3年度文献検索セミナーの実施予定について 5 令和3年度図書館だより「ぼーれぼーれ」の発行計画について
2	10月26日	1 2022年洋雑誌（冊子体）の定期購読について 2 電子ジャーナル・データベースの更新について 3 感染症の状況を踏まえた活動指針における図書館の対応について
3	12月10日～ 17日 (メール審議)	1 電子ジャーナル・データベースの更新について
4	1月7日～21日 (メール審議)	1 学外者の図書館利用について 2 令和4年度定期購読雑誌について 3 令和3年度電子書籍の購入について
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
1	4月1日	図書館ガイダンス（新任教員向け）
2	4月8日	文献検索ガイダンス（栄養学科4年生）
3	4月14日	図書館ガイダンス（新入生ガイダンス）（理学療法学専攻2回，作業療法学専攻2回）
4	5月31日	図書館ガイダンス（新任教員向け）
5	6月3日 (オンライン)	文献検索ガイダンス（リハビリテーション学科作業療法学専攻3年生）
6	6月9日 (オンライン)	文献検索ガイダンス（リハビリテーション学科理学療法学専攻3年生）
7	8月10日	図書館ガイダンス（新任教員向け）
8	10月1日	図書館ガイダンス（新任教員向け）
9	10月21日 (オンライン)	文献検索ガイダンス（歯科衛生学科3年生）

10	11月4日 (オンライン)	第1回文献検索セミナー「根拠のある医学情報を探すには」(歯科衛生学科3年生)
11	12月15日	第2回文献検索セミナー「根拠のある医学情報を探すには」(リハビリテーション学科作業療法学専攻3年生)
12	12月16日～ 1月31日	文献検索セミナー「根拠のある医学情報を探すには」(オンデマンド配信)(全学対象)
13	2月15日～ 3月31日 (オンライン)	文献検索ガイダンス(看護学科3年生)
H	評価(成果および改善事項)	
<p>・文献検索セミナーなどのセミナー、ガイダンスを実施し、図書館の利用促進、学生の文献検索能力向上につとめる。</p> <p>個別の学科向けに行った文献検索セミナーを録画し、全学生に向けてオンデマンド配信した。また、学生の入構が制限される期間があったため、学外からのリモートアクセスの方法を周知し、電子書籍等の利用促進を図った。</p> <p>・学生の学習、教育、調査研究に資する資料の収集・整備につとめる。</p> <p>図書購入予算が削減された中であっても、専門書から実用書まで幅広く収集し、前年度と同程度の冊数(2,952冊)を受け入れた。また、今後図書館利用が制限されたときに備えて、電子書籍は前年度(2タイトル)から大幅に増やして18タイトルを整備した。</p>		
I	次年度の方策	
<p>・データベースの新規導入やバージョンアップ等、文献検索の手法は日々変化しており、ガイダンス内容を適宜更新・改善し、最新の状況に対応した指導を行うとともに、その資質をもつ講師を招聘する。</p> <p>・各学科・専攻からの意見をもとに、定期購入図書リストの見直しを行うことで、基本資料を漏れなく収集するよう努める。</p>		

(11) 社会貢献委員会

A	委員長名	細山田 康恵・教授(栄養学科)
B	委員名	麻生智子・講師(歯科衛生学科) 大内美恵子・講師(看護学科) 室井大佑・助教(リハビリテーション学科理学療法学専攻) 松尾真輔・講師(リハビリテーション学科作業療法学専攻) 佐久間貴士・講師(歯科衛生学科)
C	部会名と部会員名	なし
D	所掌事項	1. 公開講座の企画及び運営に関すること。 2. 教授会が付託した事項に関すること。 3. その他社会貢献活動に関すること。
E	年度当初の重点課題	
<p>・地域への貢献を高めるために公開講座をWEBで公開するなど、新たな手法を検討する。</p> <p>・新しい大健康プログラムの運営を通じて、地域貢献活動、卒業生・専門職への研修をさらに充実させていく。</p> <p>・大学の社会貢献活動についてFDを実施する。</p>		
F	会議記録(含む部会の開催)	
	開催日	主な議題
1	4月8日	1. 令和3年度社会貢献委員会の目標について 2. 公開講座のタイトルについて 3. その他
2	5月6日 Teams	1. 公開講座とサブタイトルについて 2. 公開講座 開催方法について

		<ul style="list-style-type: none"> 3. 歯科受診状況とアンケートについて 4. UR とのほい大健康プログラムの開催日程について 5. UR とのほい大健康プログラムの内容について 6. 重点施策の目標について 7. FD/SD について 8. その他
3	6月17日 Teams	<ul style="list-style-type: none"> 1. 男女共同参画センターからの大学連携講座について 2. その他
4	7月20日 Teams	<ul style="list-style-type: none"> 1. ほい大プログラムについて 2. 重点施策の評価指標に修正について 3. 公開講座に役割分担について 4. 公開講座の受付方法について 5. その他
5	8月31日 Teams	<ul style="list-style-type: none"> 1. UR ほい大健康プログラムの開催について 2. 今後の公開講座について 3. 公開講座応援の人員配置について 4. その他
6	9月21日 Teams	<ul style="list-style-type: none"> 1. 公開講座について 2. FD/SD スライドについて 3. その他
7	10月21日 Teams	<ul style="list-style-type: none"> 1. 公開講座について 2. UR とのほい大健康プログラム開催について 3. その他
8	12月9日 Teams	<ul style="list-style-type: none"> 1. FD/SD スライドについて 2. その他
9	1月13日 Teams	<ul style="list-style-type: none"> 1. 社会貢献委員会の規程について 2. 次年度FD タイトルと時期について 3. 次年度公開講座 タイトルと日程について 4. 次年度のほい大健康プログラムについて 5. 2021年度の委員会達成状況について 6. その他
10	2月18日	<ul style="list-style-type: none"> 1. 次年度のFD タイトルと時期について 2. 次年度の公開講座の方法等について 3. 公開講座 広報の方法について 4. UR とほい大健康プログラムについて 5. その他
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
1	10月23日	公開講座（ZOOM ウェビナー） リハビリテーション学科理学療法専攻・酒井克也先生「自分の身体を適切に認識することによる転倒予防」と栄養学科・河野公子先生「楽しく食べて健康づくり」をテーマに講演を実施した。
2	11月6日	公開講座（ZOOM ウェビナー） 看護学科・河部房子先生「運動と休息のバランスをととのえる生活の仕方」と歯科衛生学科・河野舞先生「マスク生活とお口の健康」をテーマに講演を実施した。
3	11月13日	UR とほい大健康プログラム

		真砂第一団地で看護学科・大内美穂子先生「今あるあなたの力を保ち育てるために」、 歯科衛生学科・麻生智子先生「コロナ禍で大切にしたいお口の健康」をテーマに講演を 実施した。
4	12月22日	社会貢献委員会FD 開学時から今年度まで本学が取り組んできた「県立大学に基づく社会貢献の役割」につ いてまとめ、栄養学科・細山田がMicrosoft Teams上で実施し、動画視聴を含め64名の 方に参加いただきました。
5	R3年12月1日 ～R4年3月1日 まで	千葉県男女共同参画センターとの連携講座 千葉県男女共同参画センター公式チャンネル (YouTube) において、栄養学科・平岡真実 先生「強いカラダを作る—知ってるつもりの栄養, 基礎のキソ—」を配信。
H	評価 (成果および改善事項)	
	<p>① レベル1のFDを開催したことで、これまでに本学が取り組んできた社会活動について理解を深めていただ けて良かった。今後は、他大学での社会貢献も参考に検討したい。</p> <p>② 公開講座をZOOM形式で実施した際、10～20代の方に参加していただけることがわかった。今後は、年層に 合わせてテーマや開催方法を設定するようにしたい。</p> <p>③ コロナ禍で、ほい大健康プログラムが1回の開催となったが、次年度は感染拡大の状況を鑑みながら、感染 予防対策を万全にし、3回は実施できるようにしたい。</p>	
I	次年度の方策	
	<p>① 外部講師によるFDを企画し、本学が果たすべき地域貢献を広げるように努める。</p> <p>② 社会のニーズを踏まえた公開講座をZOOM形成と対面形式で各1回ずつ実施する。</p> <p>③ 全学科協働によるソーシャルキャピタルを基盤とする「ほい大健康プログラム」をUR都市機構と千葉県内 の地域で計画・実施する。</p> <p>④ 歯科診療室に受診される地域住民の方を対象に「健康教室」を企画・実施する。</p>	

3) 管理運営部門委員会群

(1) 自己点検・評価委員会

A	委員長名	西野 郁子
B	委員名	大川 由一・学部長 (兼) 歯科診療室長 島田 美恵子・学生部長 (兼) 共通教育運営会議会長 三和 真人・図書館長 (兼) 理学療法学専攻長 佐藤 紀子・看護学科長 細山田 康恵・栄養学科長 麻賀 多美代・歯科衛生学科長 岡村 太郎・リハビリテーション学科長 山本 達也・作業療法学専攻長 米本 肇子・事務局長 松尾 真輔・教育研究年報作成部会長 神田 みなみ・認証評価部会長 荒井 裕介・自己点検・評価実施推進部会長 佐久間 貴士・IR部会長
C	部会名と 部会員名	<p>【自己点検・評価推進実施部会】</p> <p>部会長：荒井 裕介・准教授 (栄養学科)</p> <p>部会員：北川 良子・准教授 (看護学科)</p> <p>鈴鹿 祐子・講師 (歯科衛生学科)</p> <p>酒井 克也・助教 (リハビリテーション学科理学療法学専攻)</p> <p>成田 悠哉・助教 (リハビリテーション学科作業療法学専攻)</p> <p>寺田 瑞希・主事 (事務局企画運営課)</p> <p>【認証評価部会】</p> <p>部会長：神田 みなみ・教授 (看護学科)</p>

		<p>部会員：西野 郁子・教授（看護学科） 菊池 裕・教授（栄養学科） 荒川 真・准教授（歯科衛生学科） 大谷 拓哉・准教授（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 有川 真弓・准教授（リハビリテーション学科作業療法学専攻） 寺田 瑞希・主事（事務局企画運営課）</p> <p>【教育研究年報報告部会】 部会長：松尾 真輔・講師（リハビリテーション学科作業療法学専攻） 部会員：椿 祥子・助教（看護学科） 坂本 明子・助教（看護学科） 河野 公子・准教授（栄養学科） 河野 舞・准教授（歯科衛生学科） 江戸 優裕・講師（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 寺田 瑞希・主事（事務局企画運営課）</p> <p>【IR 部会】 部会長：佐久間 貴士・講師（広報委員会） 部会員：西野 郁子・教授（自己点検・評価委員会） 浅井 美千代・教授（学生委員会，入試改革検討委員会） 谷内 洋子・教授（教務委員会） 室井 大佑・助教（進路支援委員会） 松尾 真輔・講師（総務・企画委員会） 寺田 瑞希・主事（事務局企画運営課） 内山 良太・技師（事務局学生支援課）</p>
D	所掌事項	<p>【自己点検・評価委員会】</p> <ol style="list-style-type: none"> 自己点検・評価の基本方針及び実施計画等の策定に関する事項 自己点検・評価の項目の設定に関する事項 自己点検・評価の実施に関する事項 自己点検・評価に関する報告書の作成及び公表に関する事項 認証評価に関する事項 その他自己点検・評価に関する事項 <p>【自己点検・評価実施推進部会】</p> <ol style="list-style-type: none"> 自己点検・評価の実実施計画等の策定に関する事項 自己点検・評価の項目の設定に関する事項 自己点検・評価の実施に関する事項 <p>【認証評価部会】</p> <ol style="list-style-type: none"> 認証評価に関する事項 <p>【教育研究年報作成部会】</p> <ol style="list-style-type: none"> 教育研究年報に関する事項 <p>【IR 部会】</p> <ol style="list-style-type: none"> 自己点検・評価に関する情報収集・蓄積と分析に関する事項
E	年度当初の重点課題	
	<ol style="list-style-type: none"> 目標 <ol style="list-style-type: none"> 自己点検・評価に関する方法や書式の再点検を行い，円滑な自己点検・評価の実施を行う 各部会長と委員長の連携を図り，部会の所掌事項の進行を促進する R4 年度の大学機関別認証評価受審に向けて，R3 年度の計画を推進する IR コンソーシアムの活用など，IR の機能を促進する 大学組織の活動・成果・課題等について検証を行う 目標達成のための具体的な活動計画 <ol style="list-style-type: none"> 令和 2 年度の「重点施策達成に向けた自己点検・評価結果」を学内公開する．委員会での所掌を点検し，必要時，関連書式や委員会規定を改訂する． 4 名の部会長での打ち合わせ会議を開催し，それぞれの所掌について確認する．また，各部会から年間スケジュ 	

<p>ールを提出してもらい、前期に第1回の部会の開催を求め、部会員への所掌の周知を図る。</p> <p>③R4年度の大学機関別認証評価受審に向けて、認証評価受審における体制を明確にした上で大学内でのR3年度の計画を推進する。</p> <p>④IRコンソーシアムの活用を検討する。卒業時調査や適宜実施される学生調査など、学内におけるIRの機能を果たす。</p> <p>⑤重点施策達成状況や委員会活動達成状況から大学組織の活動・成果・課題等について検証を行う。</p>		
F	会議記録（含む部会の開催）	
	開催日	主な議題
1	令和3年6月28日	<ol style="list-style-type: none"> 1 大学機関別認証評価の概要について 2 基準1の執筆担当者について 3 基準2および基準3の記載項目について 4 認証評価受審における体制について 5 大学教育質保証・評価センターとの事前相談について
2	令和3年7月12日	<ol style="list-style-type: none"> 1 基準1の執筆担当者について 2 基準2および基準3の記載項目について 3 大学教育質保証・評価センターとの事前相談について
3	令和3年11月1日	<ol style="list-style-type: none"> 1 大学機関別認証評価について <ul style="list-style-type: none"> ・点検評価ポートフォリオ草稿の委員会内での点検について ・大学機関別認証評価 基準2・基準3の冒頭のページについて ・大学機関別認証評価 評価センターへの事前相談について 2 卒業時調査について
4	令和3年 11月17日	<ol style="list-style-type: none"> 1 大学機関別認証評価の点検評価ポートフォリオの確認について
5	令和4年 1月17日～28日 (メール審議)	<ol style="list-style-type: none"> 1 自己点検・評価委員会の委員会規定の改定について
6	令和4年2月28日	<ol style="list-style-type: none"> 1 大学機関別認証評価点検ポートフォリオの2月時点での完成版について 2 重点施策（自己点検・評価委員会担当分）達成状況について
	開催日	自己点検・評価専門部会の主な議題【自己点検・評価実施推進部会】
1	令和3年 10月14日	<ol style="list-style-type: none"> 1 令和3年度委員会等活動達成状況の評価の実施について
2	令和4年2月18日	<ol style="list-style-type: none"> 1 令和3年度委員会等活動達成状況の評価の直前確認について
	開催日	自己点検・評価専門部会の主な議題【認証評価部会】
1	令和3年6月21日	<ol style="list-style-type: none"> 1 2022年度認証評価受審に向けたスケジュールについて 2 R3認証評価部会の年間予定について 3 点検評価ポートフォリオについて 4 点検評価ポートフォリオ担当について
2	令和3年7月16日	<ol style="list-style-type: none"> 1 責任執筆者について 2 基準2, 3の記載事項について 3 執筆依頼について
3	令和3年 10月11日	<ol style="list-style-type: none"> 1 点検評価ポートフォリオの取りまとめ結果について
	開催日	自己点検・評価専門部会の主な議題【教育研究年報作成部会】
1	令和3年 4月22日～30日 (メール審議)	<ol style="list-style-type: none"> 1 教育研究年報の項目と作成について 2 今年度のスケジュール

開催日		自己点検・評価専門部会の主な議題【IR 部会】
1	令和3年6月2日	1 令和3年度部会活動目標 1) 大学 IR コンソーシアムデータとの連結 (1) 学生調査：入力作業関連引き継ぎの確認（1年生調査，4年生調査，他） (2) 大学 IR コンソーシアムデータとの連結（授業評価，卒業時調査，満足度調査） (3) ドキュメント作成 2) 学内データのインデックス作業 3) (仮) 卒業時アンケート 2 令和2年度卒業時アンケート集計進捗報告（6月末締切） 3 運用方針
2	令和3年11月9日	1 大学 IR コンソーシアムの学生調査（1年生・4年生対象） 2 令和3年度卒業時アンケート 3 学内データのインデックス作業 4 学内アンケート集計（報告） ・「令和3年度_授業および学習環境に関するアンケート」教務委員会 ・「令和3年度前期授業に関するアンケート（教員用）」教務委員会 ・「学生生活の実態に関するアンケート」学生委員会
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
		なし
H	評価（成果および改善事項）	
1. 達成事項 ①令和2年度の「重点施策達成に向けた自己点検・評価結果」を学内公開した。 「千葉県立保健医療大学内部質保証の方針」の決定により，重点施策（中長期ビジョン）達成に向けた自己点検・評価は，将来構想検討委員会の所掌とし，自己点検・評価委員会では新たに委員会活動の自己点検・評価を所掌することになった。また，各部会の所掌を推進するために委員会規定を改訂した。 ②4名の部会長での打ち合わせ会議を開催した。また，各部会から年間スケジュールを提出してもらい，前期に第1回の部会の開催を求め，部会員への所掌の周知を図ることができた。 ③R4年度の大学機関別認証評価受審に向けて，認証評価受審における体制を明確にした上で大学内でのR3年度の計画を推進し，スケジュール通りに準備が進行した。 ④IR コンソーシアムの活用を検討したが，年度内に分析データを公開するには至らなかった。IR 部会により，卒業時調査および前期終了時に実施された学生調査において，調査の準備・実施・結果報告の役割を果たした。 ⑤大学組織について検証を行った。委員会活動達成状況では概ね3の評価であった。また，重点施策の目標達成状況では担当事項について概ね3の評価であり，大学組織・所掌について問題はないと検証できた。		
2. 評価結果の理由と改善策 ①～②の目標については計画通りに活動し，目標通りに達成できた。学内の円滑な自己点検・評価を推進するためには，引き続き，部会や関連委員会との所掌の確認や連携を検討していく必要がある。 ③についても，認証評価部会，大学運営会議等とも連携して計画通りに活動し，目標通りに達成できた。 ④については，IR コンソーシアムの活用により，年度内に分析データを公開するには至らなかった。IR 部会は関連委員会から選出された部会員で構成されているため，各委員会の分析などに IR コンソーシアムのデータが活用できないか，各委員会でも検討を依頼する必要がある。 ⑤については，委員会に関して大学組織・所掌について問題はないと検証できた。		
I	次年度の方策	
R3年度に大学運営会議において，「千葉県立保健医療大学内部質保証の方針」および「千葉県立保健医療大学内部質保証システム体系図」が決定された。その方針に則り，学内の円滑な自己点検・評価を推進するために，引き続き，部会や関連委員会との連携を検討していく必要がある。 R4年度の大学機関別認証評価受審に関して関係書類を提出し，書面評価・実地調査等に対応してR5年3月に評価結果を得る予定である。 IR 部会において，IR コンソーシアムの具体的な活用を検討する。また，教育研究年報のデータ等の各委員会が集積しているデータを一括して管理することを目指し，学内外で収集・蓄積する情報とその収集方法・蓄積方法に関する検討を開始する。		

(2) 将来構想検討委員会

A	委員長名 副委員長名	佐藤 紀子・教授（看護学科長） 細山田 康恵・教授（栄養学科長）
B	構成員名	石井 邦子・教授（看護学科，副学長） 大川 由一・教授（歯科衛生学科，学部長，歯科診療室長） 島田 美恵子・教授（歯科衛生学科，学生部長，共通教育運営会議長） 三和 真人・教授（リハビリテーション学科理学療法専攻長，図書館長） 麻賀 多美代・教授（歯科衛生学科長） 岡村 太郎・教授（リハビリテーション学科作業療法専攻長） 西野 郁子・教授（看護学科，学長指名：自己点検・評価委員長） 米本 肇子（事務局長）
C	部会名と 部会員名	なし
D	所掌事項	1 大学の中長期ビジョンに関する事項 2 キャンパス統合の検討に関する事項 3 大学院設置の検討に関する事項 4 実践研修研究センター（仮称）設置の検討に関する事項 5 公立大学法人化等の検討に関する事項 6 その他大学の発展・充実のための将来構想に関する事項
E	年度当初の重点課題	
	<p>1 千葉県立保健医療大学の将来に向けた重点施策の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 重点施策が着実に推進できるよう，重点施策の担当（責任）部門等に今年度の目標の確認および修正を依頼し，将来構想検討委員会において点検する。 <p>2 シンクタンク機能の強化に向けた取り組み</p> <p>①本学のシンクタンク機能の発揮の明確化</p> <ul style="list-style-type: none"> 本学がどのようにシンクタンク機能を発揮していくのかを明確にし，本学の取組を可視化できるリーフレットを作成する。 <p>②県への報告会の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 県の本学への理解促進を目指し，昨年度同様，本学の取組を県健康福祉部に報告する機会を設ける。 <p>3 大学院・法人化・キャンパス統合の実現に向けた取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> 学内においてこれまでの経緯を共有し方向性および戦略を検討する。その後，県との協議の場を設定する。 	
F	会議記録（含む部会の開催）	
	開催日	主な議題
将来構想検討委員会		
1	4月26日	1 今年度の目標について
2	5月24日	1 将来構想検討委員会所掌の重点施策項目の目標および評価指標
3	6月21日	1 将来構想検討委員会所掌の重点施策項目の目標および評価指標について 2 重点施策の目標および評価の検証方法について
4	7月26日	1 重点施策の目標の修正状況について 2 将来構想検討委員会に係る目標の修正について 3 本学のシンクタンク機能の発揮の明確化について ・学長裁量研究の進捗状況 4 県との意見交換会について
5	12月20日	1 リーフレットの作成について
6	2月28日	1 重点施策の目標評価について 2 将来構想検討委員会規程について
大学取組報告会の打ち合わせ		
1	9月6日	会の趣旨とプログラム案の検討
2	9月27日	プログラム案の作成

3	10月22日	各学科専攻によるプレゼンテーションの内容の確認
4	11月5日	プログラム内容の最終確認
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
1	11月8日 14:00～15:00	<p>保健医療大学第2回取組報告会の開催 会場：千葉県庁本庁舎1階多目的ホール 出席者：健康福祉部19名、保健医療大学10名 内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 大学の概要及びこれまでの取組と成果 主な取組の紹介 <ul style="list-style-type: none"> (1) 専門職の質向上を図る取組 <ul style="list-style-type: none"> ・県内看護職者の実践の質向上を図る取組 ・高齢者の歯科医療・介護予防の実践を推進するための歯科衛生士研修の取組 (2) 地域の健康課題解決に向けた取組 <ul style="list-style-type: none"> ・多職種連携によるほい大健康プログラム ・職能団体（作業療法士会）との協働による地域活動 今後に向けて（意見交換）
H	評価（成果および改善事項）	
<p>1 千葉県立保健医療大学の将来に向けた重点施策の推進 重点施策の内容を整理し、一覧で管理できるフォーマットを作成し、重点施策の担当（責任）部門等と将来構想検討委員の対話型による目標・評価指標の設定、評価を実施する体制を整備した。</p> <p>2 シンクタンク機能の強化に向けた取り組み 広報委員と社会貢献委員を加えたプロジェクトチームを立ち上げ、全国の公立大学の社会貢献やシンクタンク機能に関わる情報を収集し分析した。分析結果は論文化し紀要に掲載（「看護医療系の単科公立大学における地域貢献機能の特徴」令和4年3月発刊）。また、学長メッセージ、大学の概要、教育・研究・社会貢献の取組、施設利用案内からなるリーフレットを作成し、5,200カ所の関係機関に配布（令和4年3月）。 県への報告会では、本学の取組を紹介し、歯科衛生士に対する今後の研修の方向性や地域や学校からの作業療法士に対するニーズ、看護研究の推進と看護の質との関係などについての意見交換が行われた。</p> <p>3 大学院・法人化・キャンパス統合の実現に向けた取り組み 学内においてこれまでの経緯を共有した。健康福祉部が行う「大学のあり方勉強会」の動向を見ながら、本学に求められる機能充実の方策を検討していくこととなった。</p>		
I	次年度の方策	
<p>①次年度も引き続き重点施策が確実に推進できるよう本委員会の体制を整備していく必要がある。</p> <p>②次年度は、リーフレットの効果について配布先の反応などから効果を検証する。また、県への報告会は、本学の理解・関心を高めるとともに、今後の方向性を見出す機会にもなることから、今後も継続する。</p> <p>③健康福祉部で行われる「大学のあり方勉強会」の動向と連動させ、本学に求められる機能充実の方策を検討していく。</p>		

(3) 総務・企画委員会

A	委員長名	山本 達也・教授(リハビリテーション学科 作業療法学専攻・共通教育運営会議)
B	委員名	<p>石井 邦子・教授(看護学科・副学長)</p> <p>植村 由美子・准教授(看護学科)(令和3年4月1日～8月31日)</p> <p>細谷 紀子・准教授(看護学科)(令和3年9月1日～)</p> <p>菊池 裕・教授(栄養学科)</p> <p>酒巻 裕之・教授(歯科衛生学科)</p> <p>三和 真人・教授(リハビリテーション学科 理学療法学専攻)</p> <p>松尾 真輔・講師(リハビリテーション学科 作業療法学専攻)</p>

C	部会名と 部会員名	なし
D	所掌事項	1 学内規程に関する事項 2 教育研究の予算配分・執行・決算に関する事項 3 教育及び研究施設に関する事項 4 他の委員会の所掌に属しない事項 5 その他学長が付託した事項に関する事項
E	年度当初の重点課題	
	①優先順位に基づく学内環境（教室の机・椅子，AV 機器等）の整備 ②令和4年度に向けた予算要求 ③教員アンケート調査および学生の卒業時調査結果にもとづく整備計画行程表の作成（整備の優先順位づけと整備目標年度の作成）	
F	会議記録（含む部会の開催）	
	開催日	主な議題
1	4月12日	1 令和3年度委員会の開催日程及び開催方法について 2 令和3年度総務・企画委員会の目標について 3 令和3年度の全学整備備品の購入優先順位決定について 4 令和4年度当初予算要求に向けた照会の開始について
2	5月24日	1 令和3年度全学整備備品の執行について 2 エアコン調査結果について 3 令和3年度委員会経費について 4 学内共同研究費の余剰金について 5 『千葉県立保健医療大学の将来に向けて』重点施策と実現に向けた取り組み」の目標設定について
3	6月14日	1 令和4年度当初予算について
4	7月12日	1 令和4年度全学整備備品に係る当初予算について 2 令和4年度修繕の優先順位について
5	9月13日	メールで報告のみ実施
6	12月13日	1 委員会活動達成状況点検・評価表の作成について 2 学内委員会規程の改正について 3 総務・企画委員会規程の改正について 4 情報セキュリティ関連の規程について
7	2月14日	1 学内委員会規程の改正について 2 SNSに関する規程の整備について 3 総務・企画委員会に係る重点施策の目標評価について
8	3月14日	1 学内委員会規程の改正について 2 SNSに関する規程の整備について 3 研究予算の配分について
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
		なし
H	評価（成果および改善事項）	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 成果 ①令和3年度の全学整備備品について，進捗状況を事務局から逐次委員会へ報告し，予定どおり整備することができた。また，学内共同研究及び学長裁量研究の需用費の残額を予備費とすることで，学内の諸問題について柔軟に対応した。 ②各学科専攻に対して意向調査を行い，当該調査に基づき令和4年度教育用備品（約1,670万）及び全学整 	

<p>備用品（約 505 万円）の予算要求を行うことができた。また、高額が想定される B201 のエアコン及びネットワーク環境については、企画運営課予算総括担当者と協力し、別途予算要求することができた。</p> <p>③令和 2 年度より作成されている机・椅子、プロジェクターの長期整備計画に、カーテンを加え、より計画的に学習環境の整備を行えるようにした。</p> <p>・ 改善事項</p> <p>学内のエアコンも古いものが多く、毎年故障が起きているため、机・椅子等と同様に学内の状況を把握するとともに、長期的な整備計画を作成する必要がある。</p>	
I	次年度の方策
<p>①優先順位に基づく学内環境（教室の机・椅子、AV 機器等）の整備</p> <p>②令和 5 年度に向けた予算要求</p> <p>③整備計画にもとづく学習環境整備の進捗状況の検証、教員および学生による継続的な評価を進める。</p>	

(4) 広報委員会

A	委員長名 副委員長名	小宮 浩美・教授（看護学科） 荒川 真・准教授（歯科衛生学科）
B	委員名	今井 宏美・講師（看護学科） 山中 紗都・講師（歯科衛生学科） 佐久間貴士・講師（歯科衛生学科・共通教育運営会議） 井上 裕光・教授（栄養学科・共通教育運営会議） 海老原泰代・講師（栄養学科） 江戸 優裕・講師（リハビリテーション学科 理学療法学専攻） 成田 悠哉・講師（リハビリテーション学科 作業療法学専攻） 武藤 有香・主事（事務局 企画運営課） 片平 宏樹・主事（事務局 学生支援課） 総括委員長 石井 邦子・教授（看護学科）
C	部会名と部会員名	なし
D	所掌事項	1. 印刷物を活用した広報に関する事項 2. ホームページなど情報・通信システムを活用した広報に関する事項 3. 学校案内、オープンキャンパスや学校説明会・キャンパス見学（団体）など、入試広報に関する事項（入試改革に係る予告公表を除く。） 4. その他大学の広報に関する事項
E	年度当初の重点課題	
広報に関する課題解決のための方策を実行するとともに研究成果を広報する方策を策定する。		
F	会議・活動記録（含む部会の開催）等	
開催日		主な議題
1	4 月 1 日	1. 広報委員会の目標の確認・年間活動計画と役割分担 2. オープンキャンパス企画 3. 大学案内編集 4. 公式 SNS の運用 5. 高校訪問やキャンパス見学 6. 予算
2	5 月 14 日	1. 2021 年度オープンキャンパスの WEB 開催について 2. 大学案内 2022 3. ホームページの更新 4. 高校訪問等について

3	7月1日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育研究年報 2. 重点施策の目標と評価指標 3. 大学説明会出席の基本方針 4. 令和4年度予算要求案 5. R3-4年度（7月まで）広報委員会スケジュール
4	11月9日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 広報委員会による情報発信規定の策定 2. SNSの運営要領と運用ポリシーの策定 3. 2022年度オープンキャンパスの開催日程 4. 大学案内2023の作成計画 5. ホームページの修正（各学科専攻の3つのP） 6. ホームページの修正（研究活動の紹介ページ）
5	1月21日	<ol style="list-style-type: none"> 1. SNSの運営要領と運用ポリシーの策定 2. 広報委員会規定 3. オープンキャンパス企画方針 4. 広報活動の評価方法 5. 広報活動に関する新入生へのアンケートについて
6	3月7日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教員紹介ページの情報更新 2. 大学案内2022最終案 3. Facebook/Twitter運営要領の修正 4. 令和4年度オープンキャンパスの企画方針 5. YouTubeにアップロードする動画の判断基準 6. 新たな広報活動 7. 令和4年度の広報委員会年間計画
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
	2021年7月26日	WEBオープンキャンパス2021
H	評価（成果および改善事項）	
<p>【入試広報】 大学案内2022の写真とデザインを刷新できた。また、WEBオープンキャンパスは7月と早い時期に開催できた。模擬授業や大学説明会の実施数は、前年度はCOVID-19により44件と大きく落ち込んだが、本年度は70件と持ち直すことができた。大学案内やWEBオープンキャンパス、高校訪問等は目標以上の成果が得られた。しかし、資料請求数は減少している（案内系資料1,217件、前年比86%）ため、広報活動としての達成度は十分ではない。本年度実施した新入生アンケート結果の分析をふまえ、安定的な受験生獲得につながる入試広報を検討し、実行する必要がある。</p> <p>【研究成果の広報】 本学HPの教員紹介ページから各教員のresearchmapにリンクさせ、研究業績の公表に着手した。さらに教員の研究成果の認知度を高めるためには、研究内容をわかりやすく社会に伝えることを目指し、HPの改修や新たな広報媒体の作成など広報活動について具体的に検討し、次年度の予算案に計上していく。</p> <p>【情報発信に関する規定等の整備】 本学の公式SNSについての運営要領とポリシーを作成し、大学運営会議での承認を得た。今後はチェックリストの作成を行い、より学内からの情報発信の促進を目指す。</p>		
I	次年度の方策	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 安定的な受験生獲得につながる入試広報活動を検討し、実行する。 2. 研究成果の広報につながるHPの改修や広報媒体の作成など新たな広報活動の計画立案と予算化を行う。 		

(5) 衛生委員会

A	委員長名	統括安全衛生管理者：龍野 一郎・学長
---	------	--------------------

B	委員名	荒井 裕介・准教授（栄養学科） 荒川 真・准教授（幕張衛生管理者・歯科衛生学科） 山本 達也・教授（仁戸名衛生管理者・リハビリテーション学科作業療法学専攻） 宗雪 正美先生（産業医・自由が丘クリニックソフィア院長）
C	部会名と 部会員名	なし
D	所掌事項	1 労働者の健康障害を防止するための基本となるべき対策に関すること 2 労働者の健康の保持増進を図るための基本となるべき対策に関すること 3 労働災害の原因及び再発防止対策で、衛生に係るものに関すること 4 上記に掲げるもののほか、労働者の健康障害の防止及び健康の保持増進に関すること
E	年度当初の重点課題	
	・所掌事項の達成	
F	会議記録（含む部会の開催）	
	開催日	主な議題
1	4月28日	1 メール審議の開催及び開催日程について 2 委員のうち「一般職員を代表するもの」の指名 3 産業医による職場巡視頻度について 4 衛生管理者による職場巡視について
2	7月28日	1 衛生管理者による巡視の報告について 2 新たな委員の選任について 3 委員の選任方法を定めることについて
3	12月20日	1 新たな委員の選任について 2 産業医による職場巡視結果報告 3 衛生管理者による巡視報告
4	1月28日	1 産業医による職場巡視結果報告 2 衛生管理者による巡視報告
5	2月17日	1 産業医による職場巡視結果報告 2 衛生管理者による巡視報告 3 ストレスチェックの結果報告 4 健康診断受診率の報告 5 活動達成状況点検・評価表の報告
6	3月25日	1 産業医による職場巡視結果報告 2 衛生管理者による巡視報告 3 衛生委員会の運営報告及び産業医の勤務実績の報告
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
1	9月～12月	コビット対策会議と連携して、新型コロナウイルス感染症に対するWeb講演会（オンデマンド）を実施。
2	11月	ストレス対策講演会をオンデマンドで実施。
H	評価（成果および改善事項）	
	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は新型コロナ感染症による行動制限の下、衛生委員会のメール審議が定期的に行われた。 ・新型コロナウイルス感染症対策について、学内のCOVID-19対策会議と連携して、定期的なメッセージの配信とWeb講演会を学生・教職員に実施した。 ・学外から新たに産業医として、宗雪 正美先生（産業医・自由が丘クリニックソフィア院長）をお迎えし、産業医の職場巡視（環境測定）も2か月に一回実施した。 ・時間外超過勤務者と学内産業医との面談は実施された。 	
I	次年度の方策	

新型コロナウイルス感染症対策については、引き続き、学内のCOVID-19対策会議と連携して、機動的、効果的に感染対策の実施が必要である。また、時間外超過勤務者と学内産業医との面談は実施されたが、メンタルに異常を訴えて、休職するものが散見され、効率的・効果的なストレス管理が必要と思われる。

(6)危機管理委員会

A	委員長名 副委員長名	酒巻 裕之・教授（歯科衛生学科） 堀本 佳誉・准教授（リハビリテーション学科理学療法学専攻）
B	構成員名	石川 邦子・教授（看護学科） 細谷 紀子・准教授（看護学科） 菊池 裕・教授（栄養学科） 河野 公子・准教授（栄養学科） 佐久間 貴士・講師（歯科衛生学科，ネットワーク） 室井 大佑・助教（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 有川 真弓・准教授（リハビリテーション学科作業療法学専攻） 松尾 真輔・助教（リハビリテーション学科作業療法学専攻） 島田 美恵子・教授（歯科衛生学科，学生部長） 井上 裕光・教授（栄養学科，ネットワーク管理者） 赤塚 仁・企画運営課長
C	部会名と 部会員名	なし
D	所掌事項	1 大学の危機管理に関する重要な事項 2 危機管理マニュアルの作成・見直し及び周知に関する事項 3 情報システム管理室における以下の業務に関する事項 ① 学内情報システム（情報ネットワークシステム，教務・入試システム，図書館システム）の運用・管理 ② 学生及び教員の情報システム活用の支援 情報セキュリティ対策
E	年度当初の重点課題	
	<p>本学の危機管理マニュアル作成を要する項目をリストアップする。 危機管理を網羅するマニュアルを作成する。 不審者対応マニュアルを作成する。</p>	
F	会議記録（含む部会の開催）	
	開催日	主な議題
1	令和3年 5月13日	1. 令和3年度委員会活動目標について 2. 不審者対応マニュアルについて 3. 危機管理を網羅するマニュアルについて 4. 防災訓練について
2	令和3年 6月4日	1. 防災訓練について 2. 不審者対応マニュアルについて 3. FD・SDについて
3	令和3年 7月12日	1. 不審者対応マニュアルについて
4	令和3年 9月13日	1 不審者対応マニュアル作成について
5	令和3年 10月11日	1 不審者対応マニュアル作成について
6	令和3年 11月8日	1 不審者対応マニュアル作成について（資料1） 2 FDについて

	令和3年 12月13日	1 不審者対応マニュアル作成について
	令和4年 1月17日	1 不審者対応記録用紙について 2 FDについて 3 今後の危機管理マニュアル作成について 4 委員会規程について
	令和4年 2月14日	1 不審者対応記録用紙について 2 FDについて 3 今後の危機管理マニュアル作成について 4 委員会活動達成状況点検・評価表（2021年度）について
	令和4年 3月14日	1 災害初動マニュアルについて
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
1	令和4年 2月21日	FD/SD 開催・不審者対応について ～不審者対応マニュアルから～ Teams によるリモート開催
H	評価（成果および改善事項）	
	<p>・成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不審者対応マニュアル作成：令和3年11月29日大学運営会議にて承認された。 ・令和4年2月21日FD/SDを開催した。Teamsによる遠隔で開催し、参加者は69名であった。 ・本学の危機管理マニュアル作成を要する項目について、災害対応初動マニュアルの改編を要するか確認し、マニュアルの作成順序を検討することになった。 ・危機管理を網羅するマニュアルについて検討目的で、危機管理の手引きを作成し、危機の分類から危機管理委員会が担当する項目を整理した。 ・危機管理マニュアルの作成を要する事項や、危機管理マニュアル作成の手順を整理した。 <p>・改善事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「危機管理の手引き」について、「危機」や「危機管理」、「危機の分類」等の定義、危機管理に係る「規程」、「マニュアル」等の位置づけを明確にしたうえで、危機管理について大学全体で共有する。 ・個別のマニュアルを作成する項目を明確にして、優先度の高い項目からマニュアルを作成する。 ・危機管理の個別マニュアルや報告様式の保存・共有方法を検討し、必要時に容易にアクセスできるようにする。 	
I	次年度の方策	
	<ul style="list-style-type: none"> ・「危機管理の手引き」を作成する。 ・「危機管理の手引き」に関するFD/SDを開催する。 ・防災訓練に関するアンケートを実施する。 ・優先順に危機管理マニュアルを作成する。 	

(7) 人事委員会

A	委員長名 副委員長名	神田 みなみ・教授（学長指名） 大川 由一・教授（学部長）
B	委員名	佐藤 紀子・教授（看護学科長） 細山田 康恵・教授（栄養学科長） 麻賀 多美代・教授（歯科衛生学科長） 岡村 太郎・教授（リハビリテーション学科長） 三和 真人・教授（リハビリテーション学科理学療法学専攻長） 山本 達也・教授（リハビリテーション学科作業療法学専攻長） 島田 美恵子・教授（共通教育運営会議長）

		米本 肇子・事務局長（事務局） （事務担当：佐藤 知駆等・企画運営課）
C	部会名と部会員名	なし
D	所掌事項	1 教員の採用・昇任・再任の基準に関する事項 2 教員の配置，教員組織の編制に関する事項 3 その他教員の人事に関する事項
E	年度当初の重点課題	
	1 教員組織の検証の実施と評価を行う。 2 現状の評価制度の検証結果を踏まえて実績と能力を適正に評価，動機づけできる人事評価制度を策定する。	
F	会議記録（含む部会の開催）	
	開催日	主な議題
1	令和3年 5月26日	1 2021年度人事委員会活動の目標について 2 教員資格審査委員会の設置について 3 教員組織検証の実施と評価について 4 委員会活動及びシンクタンク機能に関する人事評価の方法について
2	6月23日	1 教員資格審査委員会の設置について 2 その他
3	8月24日	1 教員資格審査委員会の設置について 2 教員組織の定期的検証について
4	9月22日	1 教員資格審査委員会の設置について 2 教員組織の定期的検証について
-	9月26日	1 教員資格審査委員会の設置について（Teams 審議）
5	10月18日	1 教員資格審査委員会の設置について 2 認証評価（評価基準ポートフォリオ）について
-	12月20日	1 教員資格審査委員会の設置について（Teams 審議）
6	令和4年 1月28日	1 教員資格審査委員会の設置について 2 人事委員会規程について
7	2月21日	1 教員資格審査委員会の設置について 2 教員募集の着任日について 3 人事委員会活動達成状況点検・評価表（2021年度）について
8	3月15日	1 教員資格審査委員会の設置について
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
		なし
H	評価（成果および改善事項）	
	1) 令和3年5月時点の「教員組織の検証」を実施し，評価を行った。 ① 初回であったため基準・調査方法等を確認の上，「教員組織の定期的検証」のフォーマットを作成して，各検証項目について基準に達しているかを明示化した。 ② 検証の結果，概ね基準を満たしていると評価された。ただし，教員の欠員等の影響で一部の学科専攻が他の学科専攻と比べて十分な達成度とならない項目があることも判明した。 ③ 基準に達していても，十分な達成度とされない項目についての対応は今後に残している。執行部，事務局（県庁），大学運営会議と連携し，指示のもと人事委員会として進める。 2) 委員会活動及びシンクタンク機能に関する人事評価の方法を具体化する。 ① 本学における教員人事評価の際の提出書類となる「教員業績評価票」のうち，「(3)大学の管理運営」に学内委員会活動，「(4)社会貢献」にシンクタンク機能に関する活動が含まれることを確認した。さらに，もう一つの	

提出書類の「教員能力評価」にも反映することとした。	
② 教員人事評価の一次評価者である各学科・専攻長に、各教員の学内委員会活動及びシンクタンク機能に関する活動を教員業績評価票に記載することを周知して情報共有した。	
I	次年度の方策
1 「教員組織の定期的検証」を毎年5月に行うこと。	
2 「教員組織の定期的検証」のうち5年毎に行う各教員の授業負担調査を新々カリキュラムの完成年度となる令和4年度に実施する。	
3 基準を十分満たすように、教員の人事組織編成の検討を行う。	

(8) 教員再任審査委員会

A	委員長名	平岡 真実・教授（栄養学科）
B	委員名	麻賀 多美代・教授（歯科衛生学科） 大川 由一・教授（学部長） 西野 郁子・教授（看護学科） 岡村 太郎・教授（リハビリテーション学科作業療法学専攻） 米本 肇子・事務局長
C	部会名と部会員名	【専門部会】 委員長による指名（各学科・専攻より1名）*2021年度は設置なし
D	所掌事項	1 業績評価の基準及び評価方法等に関する事項 2 任期中における業績評価に関する事項 3 休職等があった場合における延長する任期に関する事項 4 その他教員の任期制に関すること
E	年度当初の重点課題	
<ul style="list-style-type: none"> 適正な再任審査を実施する。 審査項目および審査基準等を検討する。 		
F	会議記録（含む部会の開催）	
	開催日	主な議題
1	令和3年 4月30日	1 審査対象者の確認について 2 審査の手順・様式について 3 再任審査の審査方法について 4 その他
2	令和3年 5月28日	1 業績審査の検討及び再任審査結果の決定 2 その他
3	令和3年 11月5日 (メール)	1 審査対象者の確認について 2 審査の手順・様式について 3 再任審査の審査方法について
4	令和3年 11月30日	1 業績審査の検討及び再任審査結果の決定 2 その他
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
		なし
H	評価（成果および改善事項）	
<ul style="list-style-type: none"> 前期7名（看護4名，栄養2名，歯科衛生1名），後期3名（看護1名，栄養1名，作業療法1名）再任審査を行い，再任可と承認された。前期1名が学長により形式的評価を受けた。 審査項目および審査基準等の修正にむけて意見交換を行い，修正案に柔軟に対応できるよう「千葉県立保健医療大学における任期を定めて採用された教員の再任用に関する規程」を改正した。 		

I	次年度の方策
	<ul style="list-style-type: none"> ・適正な再任審査を実施する。 ・審査書類の記載例の整備，審査における点数化基準の明確化をはかり，修正を検討する。

(9) キャンパス・ハラスメント防止対策委員会

A	委員長名	菊池 裕・教授（栄養学科）
B	委員名	石井 邦子・副学長 大川 由一・学部長 島田 美恵子・学生部長 山本 達也・教授（作業療法学専攻）（学長指名） 米本 肇子・事務局長 【外部委員】 山口 祐輔（弁護士） 増井 起代子（臨床心理士）
C	部会名と 部会員名 （相談員名）	【相談員】 西村 宣子・准教授（看護学科） 佐伯 恭子・講師（看護学科） 渡辺 健太郎・助教（看護学科） 谷内 洋子・教授（栄養学科） 金澤 匠・准教授（栄養学科） 石川 裕子・教授（歯科衛生学科） 麻生 智子・講師（歯科衛生学科） 大谷 拓哉・准教授（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 酒井 克也・助教（リハビリテーション学科理学療法学専攻） 有川 真弓・准教授（リハビリテーション学科作業療法学専攻） 松尾 真輔・講師（リハビリテーション学科作業療法学専攻） 赤塚 仁・課長（事務局企画運営課） 寺田 瑞希・主事（事務局企画運営課） 【キャンパス・ハラスメント調査委員会】 キャンパス・ハラスメント防止対策委員会が推薦する者から学長が指名
D	所掌事項	1 キャンパス・ハラスメントの防止及び排除に関する基本方針の策定に関すること 2 キャンパス・ハラスメントに関する啓発及び研修に関すること 3 キャンパス・ハラスメントに関する苦情の申出及び相談への対応に関すること 4 上記に掲げるもののほか、キャンパス・ハラスメントの防止及び排除に関すること
E	年度当初の重点課題	
	<ul style="list-style-type: none"> ・キャンパス・ハラスメント相談員マニュアルの見直し ・キャンパス・ハラスメント防止対策委員会と相談員のミーティングを実施 ・相談者からキャンパス・ハラスメント相談員への相談実施実態を把握 ・外部委員による相談員研修会の実施を検討 	
F	会議記録（含む部会の開催）	
	開催日	主な議題
	1 令和3年4月19日	第1回学内委員会 1. 令和3年度計画について 2. 相談員ミーティングの開催について
	2 令和3年5月31日	第1回キャンパス・ハラスメント防止対策委員会-相談員ミーティング 1. 相談員ミーティングの開催について 2. キャンパス・ハラスメント相談員マニュアルについて

3	令和4年1月14日	第2回学内委員会 1. 相談員マニュアルの改訂について 2. 令和3年度アンケート調査について 3. 規定改正について 4. FD・SD委員会アンケートについて
	令和4年1月31日	第3回学内委員会 1. キャンパス・ハラスメント防止対策委員会規定改正について 2. キャンパス・ハラスメント防止等に関する規定の改正について 3. キャンパス・ハラスメント調査委員会規則の改定について 4. 令和3年度アンケート調査について
G	行事開催記録	
	開催日	行事名称及び行事の内容
1	令和4年2月18日 ～28日	教職員・学生向け研修動画「SNSで起きたセクシャルハラスメント」オンデマンド配信
2	令和4年2月18日 ～28日	教職員・学生向けキャンパス・ハラスメントに関するアンケート調査の実施
H	評価（成果および改善事項）	
	<ul style="list-style-type: none"> 相談員の学内掲示板やWeb上への掲示内容，相談者から相談員への連絡方法などを改善した。 相談の概略を委員会が把握できるように規定を整備した。 	
I	次年度の方策	
	<ul style="list-style-type: none"> キャンパス・ハラスメント相談員マニュアルの見直し 外部委員又は講師による研修会の実施 キャンパス・ハラスメント相談員による相談実証状況の把握 学内ハラスメント研修会及びアンケート調査の実施 	

5. 各学科・専攻の管理・運営活動報告

1) 看護学科

(1) 教員組織

令和3年度は、4月1日時点では教授8名、准教授8名、講師9名、助教11名、計36名の構成でスタートした(教授2名、講師2名、助教1名の計5名が欠員の状況)。年度途中で准教授1名、助教1名が退職、教授1名、講師1名、助教1名が着任、准教授に1名昇格という異動があり、年度末時点では、教授9名、准教授8名、講師9名、助教11名となった。

(2) 年度当初の重点課題

学科長のリーダーシップのもと、全学および学科内委員会と十分に連携を図りながら、COVID-19に対応する応援派遣業務、教員の教育研究活動、管理運営業務が滞ることなく推進できるようにする。

また、令和3年度はオリンピック開催年と重なること、異なる3つのカリキュラムが並走するため、オリンピック開催に適応させた学年暦に適切に対応しつつ、COVID-19感染拡大防止対策を講じつつ円滑なカリキュラムの進行を安全にかつ確実に実現させる。

(3) 取組状況

看護学科の管理・運営は、全教員が構成員となる看護学科運営会議が中心であり、5回開催された。看護学科教授会は、看護学科全体の主要課題や方向性を迅速に審議し決定するために設置されており、13回(定例12回、臨時1回)開催した。教授が不在となっている高齢者看護領域と在宅看護領域のサポート体制を整備した。また、2023年度に日本看護学教育評価機構による看護学教育分野別評価を受審する申請を行うことを決定し、それに向けた体制を検討した。

また、令和3年度は、学科内委員会としてコロナ担当を新設し、学生および教員のPCR検査状況および陽性者・濃厚接触者の把握及び対応、保健所への応援派遣調整、ワクチン接種の検討などにあたった。

今年度は、COVID-19への対応として保健所への応援要請に対して延べ65名の看護系教員を派遣した。応援派遣は8月と2～3月に集中していたことと、昨年度にほぼ全員が保健所派遣の体験があったということもあり、学内の教育活動等に大きな支障が生じることはなかった。

以下、看護学科で設置している各種委員会の活動状況を報告する。

教務委員会では、国及び大学の方針に基づき学科のCOVID-19対策方法を随時改定しながら、カリキュラム実施部会では、学生進路支援委員会との協働を強化し、特に1・2年次生へのガイダンスの内容強化、遠隔と対面の混在する時間割管理、コロナ禍での授業方法変更に合わせて特別講義予算確保を行った。実習検討部会では、Formsを活用した新入生のユニフォーム購入や遠隔と対面を併用した実習オリエンテーション、実習の補助教材として映像配信教材(ビジュラン)の整備・活用体制、臨地実習ができなかった学生への配慮・臨地実習中の感染予防対策・教員の実習指導上の困難軽減策の意見交換を実施した。また、分野別評価受審を念頭に、「実習中のハラスメントの予防と発生時の対応について」検討し実習要項に掲載した。そして、コロナ禍で初めての学科専攻別入学式、新入生・在校生ガイダンスを開催。コロナ対策としてFormsを介した履修登録への協力を継続。指定規則改定に伴う必要書類の提出、各カリキュラムの別表・新旧読替表の確認・整備、大学HP掲載の「実務経験のある教員による授業科目一覧」を改訂した。

学生・進路支援委員会では、学生生活支援、進路支援ガイダンス等の工夫・改善、国家試験合格への学習支援、同窓会活動のサポートを行った。詳細は、「学生支援」の項で述べる。

総務・企画委員会の重点課題は、学科予算や学科の共有物品等に関する所掌事項を円滑に遂行するとともに、COVID-19対応に関する業務を滞りなく行うことであった。これに対し以下の取り組みを実施した。令和4年度教育用備品費の予算要求については領域間の希望を調整し必要性や公平性を考慮して取りまとめることができ、ほぼ要求通りの査定額となった。令和3年度予算についても適正に執行を完了した。共有物品等の管理については、共同研究室でのWeb接続円滑化のためのLANケーブル、および老朽化が著しかったゼミ用PCバックの購入・交換を行った。清掃に関しては、委託業者および事務局担当者の交代があり調整に時間を要したが、研究室のワックスがけ等、予定通り遂行できた。より一層の円滑な実施に向けて、清掃予定の取りまとめ及び事務への依頼については前年度のうちに次年度の前期分程度まで取りまとめを行うように変更を予定している。学科長が付託する事項については、看護学科の科目を担当する非常勤講師(会計年度任用職員)の人事評価に関する事務が継続されたため、本委員会業務として実施した。以上に加えて、COVID-19対応として在宅勤務に関する事務を担当した。

入試検討委員会の重点課題は看護学科面接試験とオープンキャンパス、学校説明会、大学案内の作成などの広報活動を円滑に遂行することであった。

今年度より編入学試験を特別選抜と同日に実施した。前年度よりも面接終了時刻は延長したが、目立ったトラブルなく実施することができた。それぞれの入試において全学入試実施委員会の新型コロナウイルス感染防止対策の方針に従い、面接試験の運営方法を検討し事前準備から役割を分担して行った。特別選抜・編入学・一般選抜の面接試験においては、面接担当者に評価方法及び評価基準についての説明を行い、公正な入試が行われるよう努めた。令和3年度もWebによるオープンキャンパスとなった。JANPUのHPにOCのページが開設されたことから、2022年度のOC案内を掲載し、同時にデータベースについても刷新した。学校説明会マニュアルの改訂作業を行った。昨年度作成した看護学科リーフレットとスライダケース(マスクケース)を一部の学校説明会で配布した。今年度はWebでの学校説明会2回、対面型31回の合計33回実施した。令和2年度より5回増加したが、コロナ前に比較すると少ない件数であった。広報委員会で決定した大学案内作成のスケジュールに則り、2022年度版については6月に、2023年度版については12月～掲載する演習風景・個人写真の写真撮影および在校生からのメッセージ作成・学科

教員担当分野の取りまとめなどの作業を行った。

看護学科倫理審査委員会は、4年生の必修科目である看護研究において、学生が人を対象とする調査を実施する場合の倫理審査を行った。令和3年度は審査数が34件であり、COVID-19の影響が続く中、昨年の25件よりも増加した。1教員あたりの審査件数は偏りなく調整を行うことができた。1回目の申請で承認された件数は11件(32.4%)、2回目での承認は22件(64.7%)、3回目での承認は1件(2.9%)であった。

社会貢献委員会では、令和3年度の看護学科専任教員の社会貢献事業の実績一覧を作成し、学科内公開した。コロナ禍で開催を見送っていた「コツコツ学ぼう！セミナー」を令和4年3月に3年ぶりに開催した。千葉県内200床未満の医療機関に勤務する看護職を対象に募集し、15名が参加した。オンデマンド配信による講義視聴と、オンラインでグループワークを行った。事後アンケートでは概ね満足との結果が得られ、次年度はフォローアップセミナーの開催を検討する。さらに「シンクタンク機能としての研究の推進」として、「地域包括ケア病棟に勤務する看護職の看護実践能力に関する研究」に着手し、6名の看護職のインタビューを行った。次年度はデータ分析を行い、地域包括ケアを担う看護職を対象とした研修計画の検討を行うことが課題である。

(4) 評価（成果および改善事項）

学科運営会議、教授会を中核として各学科内の委員会が連携・協力し、COVID-19に対応する応援派遣業務、教員の教育研究活動、管理運営業務は円滑に推進できたといえる。また、感染防止対策を講じながら、安全にかつオリンピック開催に適応した学年暦にそって、3つのカリキュラムを円滑に進行することができた。また、社会貢献委員会を中心に学科の教員が協力して取り組んだ「コツコツ学ぼう！セミナー」は、大学としての社会貢献に寄与することができた。

(5) 次年度の方策

欠員となっている教員を確保し教員体制を整備し、教授会・各委員会を連動させ、効率的・効果的な組織運営をはかるようにする。また、次年度は、看護学教育分野別評価の受審に向けて、評価の観点を踏まえて学科の取組状況に対する自己評価と組織的改善を進めていく。

2) 栄養学科

(1) 教員組織

教員構成は教授6名、准教授4名、講師2名、助教5名の計17名の構成であった。療養休暇中（助教）の代替として非常勤職員1名を迎えた。専門科目の担当教員は15名、栄養教諭課程（選択）（兼：一般教育科目）の担当教員は2名である。

(2) 年度当初の重点課題等

専門科目での専任教員の欠員を確保するとともに、教員間で協力し合い円滑な組織運営をはかるようにする。栄養学科会議において、新型コロナウイルス感染予防対策における授業対応についての方針を定める。

(3) 取組状況

栄養学科の管理・運営は教授で構成する教授会及び全教員を構成員とする学科運営会議を中心とし、それぞれ8回、22回実施した。教育研究社会貢献委員会群と管理運営部門委員会群には、学科教員がいずれかの委員会・部会の組織に所属し、委員長・部会長・構成委員として参加した。

学生教育とそれに関わる教員間の運営を円滑に行うために、月2回の学科運営会議を実施し、教授会報告、各委員会報告、各委員会の検討事項の検討、学生教育の進捗状況、学生生活の報告、その他必要事項の検討や周知を行った。

学年別の担任・副担任制、国家試験対策会議（国家試験担当教員、学科長、担任、副担任）、臨地実習担当者会議、栄養教諭担当者会議、卒業論文担当者会議、卒業論文のための倫理審査委員会がある。それぞれ、適切に機能し各会議では学科会議で必要事項を周知した。

入試関係については、各教員が、各高校への出張説明会等を行った。WEBオープンキャンパスでは、学科の施設紹介や在校生からみた学科の紹介などを行った。特別選抜入学試験・一般選抜入学試験に際しては、入試の監督・採点・集計・受験者誘導など入試関連業務を担当した。

社会活動として、千葉県、学術団体、栄養士会等の職能団体の委員および研修会の講師などオンラインで活動を行った。

(4) 評価（成果および改善事項）

今年度の欠員補充をすることができたが、新たな欠員が生じたため、早期に人材確保を目指すようにする。コロナ禍で感染予防対策を徹底し、各委員会で確実に責務を果たし、連携して円滑に活動を行うことができた。

(5) 次年度の方策

学科教員間では、学科運営会議やメールで、報告・連絡・相談の機会をもち、情報や問題意識を共有し、大学運営が円滑に進むようにする。また、重点施策達成に向けて、各自の担当委員会で積極的に取り組み、PDCAサイクルが稼働できるようにする。

3) 歯科衛生学科

(1) 教員組織

学科教員の構成は、教授5名、准教授2名、講師4名、助教1名の12名である。教員のうち専門職は10名（歯科医師4名、歯科衛生士6名）となっている。

(2) 年度当初の重点課題

歯科医師教員が1名欠員となるため、より一層教員間の連携を密にして円滑な組織運営と教育活動を行う。

(3) 取組状況

歯科衛生学科の管理・運営体制は、全教員が構成員となる歯科衛生学科会議が中心で11回開催された。本学科付属の歯科診療室の管理・運営体制は、歯科診療を担当する歯科医師、歯科衛生士が構成員となる歯科診療室会議が中心となり11回開催された。

歯科診療室では、毎週初日の診療開始前に週間予定、連絡事項、医療安全体制等について確認を行った。昨年度から診療室における「新型コロナウイルス感染症（COVID-19）対策ガイドライン」を更新のため、歯科専門職教員で検討を行っている。

大学全体の管理・運営については、学科の教員が各種委員会、部会、ワーキンググループ等の組織に所属し、構成員として積極的に活動を行った。

入試関係では、COVID-19の影響により、高校生向けの歯科衛生士の業務説明と本学ならびに学科の紹介ビデオ作成し大学HP上で掲載した。各高校への出張大学説明会等については広報委員が中心となって実施した。県立松戸高校にて模擬授業を行った。特別選抜入学試験・一般選抜入学試験入試に際しては、全教員が入試の監督・採点・集計・受験者誘導などの入試関連業務を担当した。

(4) 評価（成果および改善事項）

歯科衛生学科教員1名欠員ではあったが、学科教員の協力のもと、学科の円滑な運営ができた。

入試関係については、志願者数が減少していることから、学科として志願者数確保のため高校説明会に広報委員だけではなく他の教員も参加し、歯科衛生士の職種としての魅力を伝えるように活動を行う。

(5) 次年度の方策

本年度同様、教員間の連携を密にして円滑な組織運営を行う。

4) リハビリテーション学科理学療法学専攻

(1) 教員組織

教授1名・准教授2名・講師1名・助教2名の計6名。職種は、理学療法士6名。

(2) 年度当初の重点課題

理学療法学専攻専任教員は医系教員の退職に伴い現在6名となり、8名の構成員数から後退した状況が続いている。他学科の教員の中には、開学当時に掲げた目標達成が皆無なことや教育環境の劣悪さなどもあって、教員の出入りが激しい他の学科に変わらず、教員の採用を第一優先に掲げたが、この1年教授（整形外科系）と講師（内部障害理学療法）の採用に至らなかった。教員の補充が儘ならない分、6名の教員それぞれに過大な負担が掛かり、理学療法学専攻の運営に少なからず生じた。

本年度は理学療法士養成施設の指定規則改訂がされてから2年が経過した、地域理学療法実習をはじめ、追加した薬理学や画像診断学なども授業として組み込まれ、学生のカリキュラムの習得は順調である。

しかし、昨年度につづいて、助教2名を除く4名の専任教員と科目担当数を天秤で計ると、各教員の研究活動時間やフィールド確保が難しく、活躍の場を提供することができていない。また、指定規則改正には臨床現場で知識を習得するための研修制度を設けることが望まれると謳われているが、実際には行うことが叶わずにいる、今後に向けて、教育水準の押し上げや維持といった課題は、継続している。

(3) 取組状況

本年度は、昨年度に引き続きコロナウイルス感染の影響があり、教授会をはじめとして各種委員会や部会への出張キャンパスへの移動回数が少なく、キャンパス間の負担は専門職教員で抑えられた。助教も含めた6名の専門職教員で少なくとも4つ以上の各種委員会に参加しており、研究ができないと言った声も負担が少ない教員から上がっている。

毎週水曜午前、理学療法学専攻会議を所属の全教員で実施し、教授会・運営会議・各種委員会やワーキング・グループ等の活動状況や主な取組内容の報告、依頼の対応を共有している。また、学生の学習・実習状況等、教員間での情報伝達を図るよう努めている。一方、学校説明会等の学外対応の負担は一部の教員に偏りがないように配分しているが、現有の教員数が少なく、本専攻に入学実績のない学校には断りを入れることも検討する必要がある。

(4) 評価（成果および改善事項）

現有6名の専門職で教授会・運営会議・各種委員会、および2ヶ月に1回のリハビリテーション学科会議で学科運営の円滑化を図っている。令和3年度は理学療法学専攻の医系教員の欠員についての学科教授会は開催されなかった。（構成員4名）を行っている。夏季休暇と年度末休暇を設けず、ほぼ毎週の専攻会議を予定通りに開催した。

(5) 次年度の方策

本年度同様、専門職教員の充足と増員および職位の不均衡に対する是正を求めて行きたい。特に、医系教員の配属が理学療法学専攻である必要性があるのかを検討し、募集が困難な場合には専門職の教授を設置できないか、否かを議論する必要がある。この理由は、他学科・専攻に比較して科目担当者が少ないことである。助教から教授までのほとんどの教員は博士号の学位をもって入職しているにもかかわらず、それぞれの教員が活躍する場に恵まれているとは言い難い。

暗澹たる中で本来果たすべき学科・専攻の管理・運営とは何かを常に考え、目の前に生じる学生の問題（コロナウイルス感染の学生報告、臨床実習からの学生引き上げなど）を中心に着実に対応していく。

5) リハビリテーション学科作業療法学専攻

(1) 教員組織（令和3年度の体制を記載）

リハビリテーション学科作業療法学専攻の教員構成は、医師1名、作業療法士7名の構成で運営されていたが作業療法士の吉野智佳子、安部 能成が退職したため最終的には医師1名、作業療法士5名の計6名となった。

(2) 年度当初の重点課題（令和3年度重点施策を記載）

- ①キャリアラダー研修や地域包括ケアのためのスキルアップ研修(UR 住宅高齢者に対する介護予防と地域コミュニティ促進事業に当大学の卒業生を組織化する)
- ②研究サポート(研修を含める)を実施する(千葉県作業療法士協会が行う卒後研修の講師として参加サポート、他学科への研究サポート)
- ③千葉県作業療法士会と協働し運営委員・講師として臨床実習指導者研修を実施する。

(3) 取組状況

各専攻教員は教授会・各種委員会への参加・委員会活動を通じ大学運営に貢献した。専攻内では毎週1回開催される専攻会議の他、臨床実習WGなどを定期的に開催し専攻の運営を行った。

保健医療専門職の現任教育・キャリア形成を支援(人材育成)

- ①昨年度に引き続きMTDLPの基礎研修会を年2回、事例検討会を年3回実施し、コロナ禍での対面研修会が避けられ、今年度もWEB研修会の実施となった。県士会会員の委員間でWEB会議が実施されており、各研修会開催を目的とした会議(5月より4回開催)に参加した。今後社会情勢などを鑑み、千葉県内における研修会や勉強会の開催に向け、感染予防対策など足並みを揃え、対面での研修会が出来るように準備を整えている状況である。
- ②実習施設の業務研究サポート、中小規模病院の管理者対象の研究指導力向上研修の実施等の企画・依頼等あった場合、専攻会議で検討しそれぞれ窓口を設けた。発達障害領域に関しては、「特別支援教育における専門職関係のかかわり」をテーマに1回約20名の研修会を実施した。あるいは「高齢運転者支援関係」(相談従事者職員を対象)の窓口を明確化した。「高齢者の地域コミュニティ促進事業」としてURの講習会を(1回10名)実施した。実施研究活動の支援強化を実施した。また、論文の査読に関して、千葉県作業療法士学会誌、千葉県作業療法士学会抄録、千葉県立保健医療大学紀要の査読について窓口を明確にし、実施した。
- ③現任教育・キャリア形成の支援(人材育成)として、厚生労働省が指定する臨床実習指導者研修について日本作業療法士協会の指導の下、千葉県作業療法士会が運営を行うにあたり、運営委員・講師として千葉県内の作業療法士に対して数名の本専攻教員が参加し、実施した。特に今年度についてはCOVID-19の影響によりWebによる研修に転向し、大きなトラブルなく終了できた。当初は昨年の研修を2回行い、倍の修了者を輩出する予定であったが、安全な研修開催が優先され、今年度は昨年度の研修修了者より半数となった。この点は今後の検討課題と考える。

行政や関係機関等との協働による実践的研究の取組(シンクタンク機能、地域貢献)

- ①特別支援教育における合理的配慮について、保育所・幼稚園や学校などの現場の苦労と作業療法士への期待が把握できた。しかしながら、学校教育領域での作業療法士の協働については、広く認識されているとは言えない状況である。この課題に対し、千葉県作業療法士会が、全県の小・中学校、特別支援学校の教員及び作業療法士を対象に情報共有や意見交換を行う研修会も計画したが、COVID-19の影響もあり広報活動が円滑に進まず、作業療法士と作業療法学生計30名の参加となった。専攻教員が個別に保育所や学校からの依頼を受け、合理的配慮に関する研修会や学級観察と助言を行う現場研修の講師を10回程度行った。

(4) 評価(成果および改善事項)

- ①キャリアラダー研修や地域包括ケアのためのスキルアップ研修は概ね予定通りに実施できた。
- ②研究サポート(研修を含める)の実施についてはCOVID-19に伴い一部は予定通りにできなかった。
- ③千葉県作業療法士会と協働し運営委員・講師として臨床実習指導者研修を実施することに関しては概ね予定通り実施できた。

(5) 次年度の方策

- ①R3で行ったキャリアラダー研修や地域包括ケアのためのスキルアップ研修を継続的に運営する。
- ②研究サポート(研修を含める)を継続的に実施する(千葉県作業療法士協会が行う卒後研修の講師として参加サポート、他学科への研究サポート)
- ③関係機関等と協働し現任教育支援体制、現任教育マニュアル等を整備・改善する。

6. 事務局の活動

事務局は、企画運営課と学生支援課の2課で構成されている。

1) 職員組織

令和3年4月1日現在、事務局長1名、企画運営課は課長を含め職員9名、会計年度任用職員5名の計14名、学生支援課は課長を含め職員5名、会計年度任用職員8名の計13名、合計28名で運営している。企画運営課は、教授会、大学運営会議、各種委員会等に係る事務、学内研究費、科学研究費補助金等の執行事務、教育用消耗品や備品等の購入事務、施設の維持管理等を担当し、学生支援課は、カリキュラム編成や授業時間割の調整、非常勤講師の調整、単位認定等の教育課程に関する事務、入学試験、大学入試センター試験に係る業務、学生の実習、就職支援に係る業務、実習機関への委託事務等を担当している。

2) SDの取り組み

(1) 年度当初の重点課題

大学職員としての資質向上。

(2) 実施状況

10月15日

「コンプライアンス研修会」／講師 保健医療大学 企画運営課長 赤塚 仁

参加人数：13名

その他下記の入試、奨学金関係の会議及び公立大学に係る研修会等に参加した。

- ①6月14日 大学機関別認証評価実務説明会
- ②6月21日 質保証研究会
- ③7月7日 入学者選抜に関する協議会（公立大学協会主催）
- ④7月26日 大学入試センター試験千葉地区連絡会議（千葉大学主催）
- ⑤8月4日 千葉県大学・短期大学入試広報連絡会 総会（千葉県大学・短期大学入試広報連絡会主催）
- ⑥9月14日 公立大学協会関東・甲信越地区協議会（公立大学協会主催）
- ⑦10月29日 公立大学事務局長等連絡協議会（公立大学協会主催）

7. FDの実施状況

1) 年度当初の重点課題等

- ・教育研究者・大学教員としての資質向上を図るためのFD・SDの現状を検証して課題を明確にする。

2) 主な活動

令和2年

- ・9月8日 第1回イブニングセミナー「科研費FD講習会 科研費の採択に向けた計画調書作成のコツ」（学術推進企画委員会）
講師：児島将康（久留米大学分子生命科学研究所教授）
開催形式：Zoomにて開催
出席者：人数不明
- ・12月9日 「大正大学EMIRの取り組みと課題—高等教育のIRを取り巻く潮流から大学IRコンソーシアム調査の具体的な活用事例まで—」（IR部会）
講師：福島真司（大正大学エンrollment・マネジメント研究所所長）
開催形式：Teamsにて開催
出席者：53名

令和3年

- ・1月7日 第2回イブニングセミナー「医療系学部におけるシミュレーション教育の実際」（学術推進企画委員会）
講師：阿部幸恵（東京医科大学看護学科学科長）
開催形式：Zoomにて開催
出席者：人数不明
- ・1月27日 「教学マネジメント指針について」（教務委員会）
講師：田邊政裕学長

開催形式：Teamsにて開催

出席者：60名

- ・2月18日 第3回イブニングセミナー「認知症高齢者の口腔健康管理」(学術推進企画委員会)

講師：會田英紀(北海道医療大学高齢者・有病者市科学分野教授)

開催形式：Zoomにて開催

出席者：78名

- ・3月8～31日「大学のハラスメント対策について」公立大学協会主催の研修動画視聴(キャンパス・ハラスメント防止対策委員会)

出席者：不明

- ・3月9日 第4回イブニングセミナー「成人後を見据えた小児のリハビリテーション」(学術企画委員会)

講師：芳賀信彦(東京大学大学院医学系研究科外科学専攻感覚・運動機能医学講座リハビリテーション医学分野教授)

開催形式：Zoomにて開催

出席者：人数不明

3) 評価(成果および改善すべき事項)

- ・9月8日開催の「科研費FD講習会 科研費の採択に向けた計画調書作成のコツ」では、セミナー内容を満足と答えた人が80.6%であり、今後の教育・研究・実践に非常に参考になると答えた人が63.9%、参考になる人が36.1%であった。

- ・1月7日開催の「医療系学部におけるシミュレーション教育の実際」では、セミナー内容を満足と答えた人が64.7%であり、今後の教育・研究・実践に非常に参考になると答えた人が41.1%、参考になる人が52.9%であった。

- ・2月18日開催の「認知症高齢者の口腔健康管理」では、セミナー内容を満足と答えた人が77.8%であり、今後の教育・研究・実践に非常に参考になると答えた人が48.9%、参考になる人が48.9%であった。

- ・3月9日開催の「成人後を見据えた小児のリハビリテーション」では、セミナー内容を満足と答えた人が72.4%であり、今後の教育・研究・実践に非常に参考になると答えた人が27.6%、参考になる人が58.6%であった。

- ・上記のようにFD・SD参加者には好評であったが、各委員会が独自に企画・運営しており、FD・SD委員会がFD・SD全体として内容検討を行っていない点があったが、改善すべき事項として挙げられる。

4) 次年度の方策

これまで作成したFD・SDマップを用いて、FD・SD委員会で必要と考えられるレベルおよび内容の研修を各委員会に依頼するというシステムを構築し、研修内容の充実を図る。

IV 教育活動

1. 共通教育

1) 教育方針

体系的な初年次教育を行い、学問や大学教育全般に対する動機付けおよび論理的思考や問題発見・解決能力の基盤を作る。

2) 年度当初の重点課題

初年次教育の充実を語る。カリキュラム改正にむけて、非常勤講師担当科目を含め、現状科目の状況と教育の質を把握・評価し、一般教養科目・保健医療基礎科目の新カリキュラムを作成する資料を得る。

3) 取組状況

後任人事担当科目選定を通し、外国語科目と自然科学系科目（生物学）について、本学一般教養科目の目的・内容について共通教育運営会議で討議し、以下の見解をまとめ、大学にはかった。

「国際的な視野をもって活動できる人材の育成は、大学の理念であり、外国語科目の充実が望まれる。しかし、保健医療基礎科目・専門科目の理解に生物学の知識が必須であるが、高等学校での生物学の学習・理解が不十分であり、専門基礎科目の履修が困難な学生がいること、生物学は履修者数も多く、将来的に臨床業務を理解するうえで重要性も高く、常勤教員がいることが望ましいので、後任教員の担当科目は生物学が望ましいと結論づけられた。」

共通科目を担当する非常勤講師における、「教育の質」を保証する仕組みの1手法として、会議員が科目 Teams に所有者として参加し（非常勤講師には、事前にアナウンス）、状況を確認し、会議にて報告した。概ね、問題点の指摘はなかった。Teams 操作が不慣れな非常勤講師に対しては、共通教育教務委員が補佐した。

放送大学単位互換科目を選定した。令和3年度は、2名の学生が3科目（問題解決の進め方、社会統計学入門、韓国語Ⅰ）の単位を習得した。

4) 評価

一般教養科目38科目76コマ、保健医療基礎科目29科目29コマを、38人の非常勤講師と13人の専任教員により、オンデマンド形式で滞りなく実施できた。参考までに、学生より提出された令和2年度授業評価において、「この科目を受けて満足したか（5点満点）」の平均値は、一般教養科目で前期4.39点、後期4.42点、保健医療基礎科目で前期4.48点、後期4.27点であった。令和3年度の授業評価を入手次第、科目の見直しを継続する必要がある。

5) 次年度の方策

多様な学びを保証するために、放送大学単位互換科目を厳選するとともに、抽出された課題について（遠隔授業における授業の進め方など）、対応する。

2. 看護学科

1) 教育方針

本学・学科の教育理念に基づき、学生が、確かな看護実践能力や自己研さん力を身に付けられるように、きめ細やかな教育を行う。ポートフォリオ、看護実践能力評価票等を活用し、学生の主体的学習を促進する。

2) 年度当初の重点課題

- ・オリンピック開催年と重なることおよび異なる3つのカリキュラムが並走することを踏まえ、オリンピック開催に適応させた学年暦に適切に対応しつつ、円滑なカリキュラムの進行を安全にかつ確実に実現させる。
- ・COVID-19の影響に伴う学習への影響・学生の習熟度を見極め、不十分な学習内容について、領域を超えて補完し合える体制を整備すると同時に、より効果的な演習実習が工夫できるよう、教員間の情報共有・意見交換の機会を積極的に設ける。
- ・遠隔中心の授業が継続されることが予想されることから、学科内の教務委員会および学生進路支援委員会を中心に各委員会を連動させ、よりきめ細やかな学生支援体制を構築する。

3) 取組状況

授業については、「新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえた活動方針」に基づいて実施した。講義科目はほぼ遠隔授業となり、対面での演習が必要な科目については、感染対策を講じて実施した。実習については、感染状況および施設の状況によって、学内実習への切り替え、日数短縮や見学実習など実習内容の変更などを行い実施が行われた。

12月には、看護学科教務委員会主催で、職位別の小グループ編成で臨地実習中の感染予防対策・教員の実習指導上の困難軽減策の意見交換を実施した。

個々の学生の学生生活上の相談を含む履修支援は、担任を中心としているが、各教員もオフィスアワーを提示し、学生の相談に対応できる体制をとっている。

4) 評価

今年度も COVID-19 の影響で、講義科目の大部分は遠隔となったが、昨年度からの経験もあり教員・学生ともに大きな混乱はなかった。2年次をコロナ禍で過ごした学生たちの状況が例年と異なる特徴を感じるといふ教員からの声も反映し、12月に教員間で情報共有し、その後の実習に反映させることができた。

令和3年度は、4年次86名が卒業判定に合格し、3名が不合格となった。そのうち2名は休学中の学生であった。3年次への進級判定では、78名が合格し、1名不合格となった。退学者は1名（3年次）であった。

国家試験の合格率は、保健師 94.2%（全国 93.0%）、助産師 100.0%（全国 99.7%）、看護師 100.0%（全国 96.5%）であった。

5) 次年度の方策

COVID-19 の影響を踏まえ、各学年の学生の習熟度を見極め、不十分な学習内容について、領域を超えて補完し合える体制を整備する。また、コロナ禍で培った経験をポストコロナ時代の教育活動に反映させられるよう、教員間の情報共有・意見交換の機会を設ける。

3. 栄養学科

1) 教育方針

大学・学科の教育理念と教育目標に基づき、管理栄養士に資する人材を育成するために科学的根拠に基づく専門基礎科目の知識を身につけるための丁寧な教育、病傷者及び児童・生徒との円滑なコミュニケーション能力、多職種で連携しチームとして活動できる能力及び態度を身につける教育を丁寧に実践する。

2) 年度当初の重点課題

令和3年度は、管理栄養士国家試験の合格率が100%になるように努める。新型コロナ感染予防対策のため、遠隔授業になっても、授業の質が担保できるように工夫する。

3) 取組状況

全員の進級及び卒業、希望する職場への就職支援、栄養教諭課程（選択）の履修者の増加については、担任・副担任、国家試験対策会議、臨地実習担当者会議などが適切に機能し、学科会議により状況を全教員が共有でき取組ができ、目標を達成できた。学生の個人的相談は担任を中心としたが、学科全教員に相談可能とし成果をあげている。

3年後期の臨地実習を目標に1年、2年では「管理栄養士導入教育」「食品学」「栄養学」「生化学」「解剖生理学」「食事設計と栄養」「食品衛生学」及び「調理学」の専門基礎科目を配当し、管理栄養士に必要なとされる科学的根拠に基づく知識を身につける教育を実施している。前期は座学中心で、後期は実験・実習による専門的スキルやコミュニケーション能力の育成を実践した。3年次では主に専門科目と臨地実習、4年次では主に「総合演習」「卒業研究」「管理栄養士特別演習」を配当し、管理栄養士としての専門性を育成した。また、1年、3年、4年では「特色科目」を配当し、他の専門職と自らの専門性等について学ぶ機会となった。

4) 評価（令和2年度達成状況を記載）

新カリキュラムを学んだ4年生は、2名の留年を除き、24名の卒業生を輩出した。3年生は全員進級できた。2年生は2名留年となり、内1名が退学した。1年生は1名、進路変更により退学した。管理栄養士国家試験は3名不合格となり、87.5%合格できた。全国平均の92.9%を下回る結果となった。就職が内定し、管理栄養士が必須でなかったために、モチベーションが下がったことが考えられる。模試の結果

を学科会議で報告し、全教員への現状の周知により、学科全体で国家試験対策を検討し、来年度は100%合格になるよう継続して取り組みたい。就職を希望した卒業生の就職率は100%であった。県内の就職率が54.2%となり、昨年の約2倍となった。千葉県に就職先がないことも多いが、できるだけ多くの学生さんが県内に就職できるように努めたい。臨地実習については、担当教員間での協力及び実習先との綿密な打ち合わせ等により、期間内で3分野の臨地実習が終了するよう調整できた。また、栄養教諭課程(選択)の履修者は1年7名、2年6名、3年1名、4年生5名であった。受講者が減少しているの、検討していきたい。

5) 次年度の方策(令和3年度への継続を記載)

ポストコロナ後の教育において、対面授業を円滑に進め、アウトカム基盤型教育を実践するようにする。保健医療に関わる優れた専門職を育成するために、問題解決能力を高め、自己主導型で学習できるような指導を心がける。また、県民の健康づくりの推進力になる人材を輩出し、将来的には指導者となりうる高度専門職の育成に努める。

4. 歯科衛生学科

1) 教育方針

専門知識の修得のみならず、豊かな人間性と高い倫理観を備え、他の専門職と連携・協働し、質の高い歯科医療サービスを提供できる実践力のある人材の育成に取り組む。

2) 年度当初の重点課題

平成31年度から新々カリキュラムが始まり、新カリキュラムの教育課程と同時進行となるため、それぞれのカリキュラムを確実に実施する。担任、副担任、科目担当教員、教務委員が協力して積極的な学習活動を行う。

3) 取組状況

1年次、2年次は保健医療基礎科目、歯科衛生基礎科目を中心とした講義、演習を、2年次後期から3年次前期にかけては、小児・成人・高齢者を対象とした生涯歯科衛生科目の講義、演習を開講した。新々カリキュラムでは、新たに早期体験実習を設けて、1年次、2年次後期にそれぞれ実施した。3年次では歯科衛生健康推進科目の講義・演習を開講した。臨床実習として開講している3年次後期・4年次前期の「歯科診療室総合実習」では、本学に併設している歯科診療室において、1、2年次に学んだ知識と技術を実践の場において統合させ、臨床的判断や行動が主体的に実施できることを目的に実習を行った。また継続・個別支援実習においては、対象者それぞれのライフステージにあわせた指導ならびに予防処置について学んだ。臨地実習については、3年次後期の「歯科診療所実習」でチーム歯科医療等の実践について学んだ。

「発達歯科衛生実習Ⅰ(小児)」では、幕張西小学校1・3・6学年の児童を対象にブラッシング指導を行う予定であったが、COVID-19の影響により中止となり、ブラッシング指導のビデオを作成しCDを小学校に届けた。また袖ヶ浦特別支援学校では、担当教員から障害児童の対応を学ぶとともに、児童全員の口腔ケアを実施する予定であったが中止となった。さらに千葉東病院では、障害児診療の補助および見学を行う予定であったが、見学のみ実施した。「発達歯科衛生実習Ⅱ(成人・高齢者)」では、千葉市内の3か所の介護保険施設において高齢者の生活について理解し、看護・介護職員から高齢者に対する日常生活の援助方法について学ぶとともに、高齢者の口腔ケアを実施する予定であったが、COVID-19の影響により中止となった。これらの臨地実習については、学内において相互による模擬実習やシュミレータによる実習に振り替えて学修した。「地域歯科衛生実習」では、千葉市内・浦安市内の保健センターで実習を受け入れていただき、地域歯科保健の現状を理解するとともに、歯科衛生士の役割・機能について学修した。4年次後期の「病院実習」では、4か所の病院(船橋中央病院、旭中央病院、亀田クリニック歯科センター、がん研究会有明病院)において実習を行い、歯科衛生士の役割や多職種連携の重要性について理解を深めた。3年次後期から4年次後期の期間は、卒業研究に取り組み、学科教員が個別に学生の研究指導を行い、論文作成後には成果発表会を実施した。国家試験については、進路支援委員が中心に国家試験対策を行い、国家試験のための補講も実施した。卒業生26人全員が歯科衛生士国家試験に合格した。

4) 評価

新々カリキュラムと新カリキュラムが混在する中、滞りなく実施することができた。教員の積極的な学

修指導により歯科衛生士国家試験に全員が合格した。

5) 次年度の方策

引き続き、担任、副担任、科目担当教員により積極的な学修指導を行う。

5. リハビリテーション学科理学療法学専攻

1) 教育方針

理学療法学専攻の学生は、卒業までの4年間で医療専門職として教育や倫理観を涵養し、社会的責務を果たすことができる人材を育成する。そのための Strategy として、全学年の学生が授業に欠席することなく、実習に参加し、単位を落とさず、且つ休学や退学なく、最終学年までを全うすることとする。また、毎年度継続している国家試験合格者を全国平均よりも上回り維持することにある。昨年度までの不合格者3名が無事合格し、不合格者を含めた国家試験対策が功を奏した。

2) 年度当初の重点課題

臨床実習の評価実習Ⅱ(3学年)、総合実習Ⅰ・Ⅱ(4学年)での学生の接遇(実習中の対象者や指導者とのコミュニケーション)・実践力(適応能力や対応力等)に対する能力を向上させる。また、国家試験合格者の全国平均を上回らわり、千葉県から要望がある県内就職率70%以上の継続が本専攻の責務であると考え。本年度は千葉県以外の学生の千葉県内就職が少なかったが、76%と数値目標を上回った。

3) 取組状況

前年度に引き続き、2学年以降の専門科目の演習や実技練習をさせたり、各専門領域(運動器障害、神経系障害、内部障害、発達障害や地域理学療法)ごとの演習や特論で積極的に症例情報に基づく演習や実習を取り入れたり工夫をしている。特に3学年の学生には評価実習を意識した授業を展開(実習前の実技試験:OSCE)し、全員の学生が無事実習を終了する成果が得られた。各学年担任は、半期に一度、受け持ち学生と面談し、学習状況、生活状況、理学療法士へのモチベーションの有無を確認しながら、学年進行に努めている。

4) 評価

最終学年の臨床実習Ⅲ・Ⅳを終了して卒業にたどり着いた学生は23名であった。うち1名は2年越しで休学していた学生である。既卒者1名を加えた24名が国家試験受験し、3名が不合格であった。1年次と2年次に単位を落として4学年に進級できなかった学生2名は、学年後期の評価実習に向けて捲土重来をしている。また4学年留年の学生4名は自主的に総合実習Ⅰ・Ⅱに向けた理学療法の評価や演習をしている。

5) 次年度の方策

毎年度と同様に、国家試験の全国平均合格者を上回ることを目指す。実習中断となる学生がいないようにコンピテンシーに基づき、学生の評価を実施していく。

6. リハビリテーション学科作業療法学専攻

1) 教育方針

作業療法学専攻では、大学・学科専攻の教育理念と教育目標に基づき、対象者本位の作業療法の実践技術提供に資する人材を育成するために学生教育を実践し、継続した。また、国家試験の合格に向けた受験生への国家試験対策や、臨床実習に関しては学生の利便性や指導を考慮し、千葉県内あるいは通学距離内での臨床実習施設の獲得を実施した。

2) 年度当初の重点課題

①千葉県立保健医療大学の基本理念の遂行、特に「健康づくりなどの保健医療に関わるすぐれた専門職の育成」に向かって、リハビリテーション専門科目・作業療法学専門科目の教育を通して、優れた倫理観とプロフェッショナルリズム、コミュニケーション能力、作業療法学専門領域の実践に必要な知識が身に付くよう教育する。

②コロナ禍での学内対面授業、学外での臨床実習が可能な限り行えるよう、教員や学生の健康管理・感染対策を徹底する。

3) 取組状況

令和3年度もコロナ禍で引き続き多くの授業を遠隔で行ったが、学内演習・実習科目は対面で行い学外実習も実施できた。

1年生の特色科目「体験ゼミナール」では、千葉県の地域の特性や千葉県で生活する人々の特徴を知り、実習で対象となる人々を生活者として理解することを目的としている。昨年に引き続き、WEB上で学生間の連絡調整を行い、課題を進行していった。そのため昨年度同様に地域の団体との交流は、電話・FAXやWEB等で実施され、満足する結果であるとは言えないが、当初の地域交流の目的は果たせた。

実習に関して評価実習は、評価実習Ⅰ期目の期間で緊急事態宣言が発令されており、全て学内実習に変更となった。評価実習Ⅱ期目は全て滞りなく実施された。総合実習は、実習施設の状況に合わせて実施され、補完実習や学内実習の対象となった学生もいた。また令和3年度より新々カリキュラムの対象となる3年生においては、令和4年1月から総合実習Ⅰ期目の7週間が実施され、年度を跨いだ総合実習が開始された。地域作業療法実習は全員に体験させることができた。

令和3年度の国家試験合格者数は、卒業生25名(25名受験, 1名不合格: 合格率96.0%), 過年度卒業生2名受験したが2名とも不合格であった。

卒業論文は、各学生に対して担当教員を決め指導にあたり発表会を実施し、卒業論文集を発行した。

4) 評価

コロナ禍で可能な限り実施できたと考えられる。

5) 次年度の方策

令和4年度は原則対面授業に移行するため、コロナ禍以前の授業が実施可能と考えられる。

7. 学生による授業評価

学生による授業評価アンケートの対象科目は、前期・後期・通年で開講される講義および演習科目(非常勤講師担当を含む)である。すべての項目に対して5段階で回答する方式(「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」「どちらとも言えない」「あまりそう思わない」「全くそう思わない・該当しない」)で実施した。

令和3年度もコロナ禍のため多くの授業が遠隔で実施され、また緊急事態宣言の発出等もあり、前年度同様Microsoft Formsによりオンライン・アンケートを実施した。具体的には共通教育(一般教養科目・保健医療基礎科目)用および各学科専攻の専門科目用のフォームのURLを学生に告知して、学生は各フォームから科目を選択して回答した。前後期での回答数は3,927であった。

結果は表に示すとおりである。14項目中13の質問項目で「そう思う」「少しそう思う」を合わせた割合が68.0~92.7%と高い数値を示した。「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」を合わせた割合が70%未満の質問項目は、「予習を行った」36.9%(令和2年度42.5%),「復習を行った」68.0%(令和2年度72.9%)であった。昨年度まで低い数値であった「この授業のシラバスは役に立った」は73.3%(令和2年度68.9%)に上昇した。「予習を行った」、「復習を行った」は依然として低い数値で課題を残すものの、コロナ以前(令和元年度27.0%, 42.9%)に比しそれぞれ改善傾向にあった。遠隔授業では自分のペースで学習できることや、動画媒体を繰り返し見直せることから、学生の理解度向上に役立つ可能性が推察され、対面授業が主であったコロナ以前において課題であった授業外学習時間(予習・復習)は長くなる可能性を見出すことができた。今後、With/Afterコロナの状況では、遠隔授業と対面授業を組み合わせた授業展開が予想されることから、授業形態の特性を考慮した適切な教材の提供や効果的なフィードバックの実践を推進することで、学生自身の主体的な学習意欲と主観的達成度の向上にもつなげていきたい。

最後に、前年度より実施しているMicrosoft Formsによるオンライン・アンケートについて、その手法において回答数確保の観点からは課題が残り、改善の余地がある。翌年度以降は、十分な回答数の確保と調査精度を上げるべく、オンライン・アンケートに加え、対面/紙媒体による調査方法の併用など、調査方法のさらなる検討が必要と考えられた。

	そう思う	どちらかと言えそう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	全くそう思わない・該当しない
授業に積極的に取り組んだ	60.0	32.7	5.9	1.2	0.2
予習を行った	16.1	20.8	29.7	23.6	9.8
復習を行った	29.8	38.2	20.0	9.4	2.6
この授業のシラバスは役に立った	37.3	36.0	21.2	4.4	1.1
授業の目標が明確に示されていた	50.2	36.3	10.9	2.3	0.3
内容がよく理解できるように準備されていた	48.6	37.5	9.6	3.6	0.8
授業内容が充実していた	54.8	33.6	8.9	2.1	0.6
教員の熱意が感じられた	61.5	25.8	6.7	2.0	4.0
教員の説明は分かりやすかった	50.1	33.0	9.3	3.6	4.0
授業方法に工夫がなされていた	43.8	34.8	14.1	3.8	3.4
授業評価の方法を事前に理解していた	50.2	30.7	12.8	3.4	2.9
教員の話し方は聞き取りやすかった	51.3	24.7	8.3	3.2	12.5
学生の理解度に対して配慮がされていた	42.7	31.6	15.8	5.4	4.5
全体としてこの授業を受けられて良かった	63.2	26.7	6.3	1.4	2.4

8. 大学全体

1) 評価(成果および改善すべき事項)

令和3年度卒業生に対して卒業時アンケート調査を例年通り実施した。教育目標の達成度に代えて、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）および各ポリシーの学士力を卒業時に指導者・責任者のもとでの達成状況を新たに質問項目に加えた、前年度の変更を踏襲した。

学生が自己評価したディプロマ・ポリシー到達度から、多くの学生が各医療専門職としての基本的な実践力および能力を身につけたことが示された。指導者のもとで「できる」および「ある程度できる」との回答を合わせて、「倫理観とプロフェッショナルリズム」89.2%、「コミュニケーション能力」89.9%、「実践に必要な知識」82.4%、「健康づくりの実践」85.1%、「健康づくりの環境の整備・改善」85.8%、「多職種との協働」85.8%、「生涯にわたる探究心と自己研鑽」81.8%で、高水準を維持することができた。

次に、特色科目、一般教養科目、保健医療基礎科目、専門科目、いずれも教育に対する満足度は前年度同様に高いまま維持できた。全学科専攻の学生が共に学ぶ、本学の多職種連携教育の軸となる特色科目の満足度は「とても満足」と「やや満足」を合わせて91.1%、一般教養科目90.4%、ICT教育89.2%、保健医療基礎科目97.4%、専門科目89.8%であった。特に「とても満足」の割合が高かったのは専門科目で35.7%、他の科目では一般教養科目19.1%以外は20%台後半であった。学外実習についても「とても満足」41.4%と「やや満足」49.0%を合わせると90.4%で、コロナ禍のため学外実習が学内演習に一部振り替えられるなどしたものの、学生への満足度は高水準で維持することができた。同様に、“活動をどのくらい熱心に行ったか”については、「とても熱心」と「やや熱心」を合わせて、特色科目81.5%、一般教養科目75.1%、保健医療基礎科目88.5%、専門科目94.2%、学外実習96.1%で、学生の主体的な学習意欲についても、高い水準を維持することができた。

各科目区分の学習から得たものの評価についても同じく高水準であり、専門科目のうち特に学外実習については「非常に大きい」70.1%（令和2年度70.8%）、「やや大きい」26.8%（令和2年度26.6%）を合わせると96.9%（令和2年度97.4%）であった。専門科目については講義科目94.2%、保健医療基礎科目88.5%、特色科目83.4%と高く、一般教養科目の評価は68.7%であった。

平成元年度入学生より新々カリキュラムであり、次年度完成年度を迎える中、この高水準を維持し、さらに「とても満足」「非常に大きい」の割合を増やすことが期待される。授業評価アンケート結果において授業全般に対する満足度は高く、学生にとっての教育内容は充実しているといえる一方、各授業科目の充

実度を一層高める必要がある。With/After コロナの状況で、今後も授業評価アンケート結果を活用した具体的な学生の意見を汲み上げていくことで、遠隔授業・対面従業双方の利点を組み合わせた効果的な授業実施を推進し、各科目責任者が担当科目および授業形態の特徴に応じて学生の学修を支援する方策を検討する努力が引き続き求められる。

fGPA の実質的運用が令和 2 年度から開始された中、自分自身に適した学習方法を身につけ、主体的に学ぶことを目的に、まずは学生・教職員ともに共通認識を持つべく、GPA 制度の趣旨について理解の促進を図る取り組みを継続的に検討することが求められている。GPA 制度と成績評価をテーマとした FD 開催等を通して、今後学生の学修指導等の活用が期待される。

2) 次年度の方策

令和 4 年度は新々カリキュラムの完成年度を迎えることから、令和 4 年度卒業生を対象とした卒業時カリキュラム評価アンケートおよび教員授業負担調査の実施により、現行カリキュラムの評価とカリキュラム改正について継続して検討していく。また授業は対面、学外実習は可能な限り臨地での実習となることが想定されることから、COVID-19 感染防止対策を十分講じたうえで実施するとともに、滞りなく教育が展開されるよう、科目担当者および事務局との連携を密にしていく。

遠隔授業においても教育成果をあげるべく、引き続き大学全体として取り組むこととする。

V 学生の受け入れ状況

1. 学生の受け入れ方針

(1) 全学方針

高い倫理観と豊かな人間性を備え、地域社会に貢献し、保健医療の国際化に対応できる人材を育成する。本学のカリキュラムを履修することで学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に示された能力を卒業時に発揮できる以下の素養を有する学生を求める。

- ①基礎的な知識、技能
- ②論理的思考力、状況に応じた判断力、自らの考えをまとめて伝えられる表現力
- ③保健医療者を目指す者としての適性
 - ・人間性、コミュニケーション能力
 - ・協働、責任感、地域貢献
 - ・主体性、探究心

(2) 看護学科の求める学生像

医療の高度化・専門化や社会の多様化に対応できる看護専門職に必要な専門的知識と技術を身につけ、県内の看護職のリーダーとなりうることはもとより、国際的にも貢献できる高い資質をもった人材の育成を基本理念とし、以下の学生を求める。

- ①看護を通して、社会に貢献する意欲がある人
- ②人々の生活や生き様に強い関心を持ち、相手の立場に立って考えることができる人
- ③知的好奇心が旺盛で探究心がある人
- ④幅広い基礎学力を持ち、論理的・客観的に考える力を持つ人
- ⑤自己を表現する力を持つ人

「特別選抜・推薦」では、将来、千葉県内で看護職として活躍することを志望する強い意志がある人材を求めている。「特別選抜・社会人」では、社会人としての経験を持ち、卒業後千葉県内で看護職として活躍することを志望する強い意志がある人材を求めている。「編入学」では、既習の看護学をさらに深めるとともに、幅広い教養を身につける意欲が旺盛で、卒業後、看護職に従事する強い意志をもつ人材を求めている。「一般選抜」では、看護学を学ぶ意志のある人材を求めている。

(3) 栄養学科の求める学生像

生命活動を分子レベルで理解することを基本とした栄養学分野を総合的に学び、豊かな人間性を備え、心身の健康に大きく貢献できる人材、人の栄養状態を適正化する方法を総合的・科学的に探究できる人材の育成を基本理念とし、以下の学生を求める。

- ①管理栄養士の国家資格の取得を前提目標として学ぶ意欲を持つ人
- ②倫理的な原則を遵守し、専門職としての責務を果たすことができる人
- ③科学的な裏づけで得られた専門的な知識・技能を、健康づくりに貢献できる人
- ④多職種との相互理解を深めながらコミュニケーションや行動ができる人
- ⑤個人・家族・地域社会・他国への貢献や生涯にわたる自己研さんができる人

「特別選抜・推薦」では、将来、千葉県内で管理栄養士として活躍することを志望する強い意志がある人材を求めている。「特別選抜・社会人」では、社会人としての経験を生かして千葉県内で管理栄養士として活躍することを志望する強い意志がある人材を求めている。「一般選抜」では、管理栄養士として活躍することを志望する人材を広く求めている。

(4) 歯科衛生学科の求める学生像

高い倫理観と豊かな人間性を備え、地域社会に貢献し、口腔保健の専門知識と技能を身につけるための科学的探究心を持ち、保健医療の国際化に対応できる人材の育成を基本理念とし、以下の学生を求める。

- ①口腔の健康に深い関心を持ち、人々の健康増進に貢献したい人

- ②豊かな人間性を備え、相手の気持ちを理解できる人
- ③科学的な探究心を持ち、自ら意欲的に取り組もうとする人
- ④基礎学力があり表現力が豊かで、自分の考えや意見を論理的に説明できる人
- ⑤コミュニケーションを通じて人々と協調できる人

「特別選抜・推薦」では、千葉県内で歯科衛生士として活躍することを志望する強い意志がある人材を求めている。

「特別選抜・社会人」では、社会人としての経験を生かして千葉県内で歯科衛生士として活躍することを志望する強い意志がある人材を求めている。「一般選抜」では、歯科衛生士として地域で活躍することを志望する人材を広く求めている。

(5) リハビリテーション学科理学療法学専攻の求める学生像

理学療法士として社会に貢献する意志と能力を持った人材の育成を基本理念とし、以下の学生を求める。

- ①理学療法士の役割を理解し、理学療法士となる明確な目的意識を有している人
- ②理学療法学を学んでいくにあたって必要な基礎学力を有している人
- ③自分の意見を適切な日本語で表現できる人
- ④障害のある人に対してもない人に対しても、適切なコミュニケーション能力を有している人
- ⑤保健医療福祉領域だけでなく広く社会に関心が高く、様々な問題に挑戦できる人

「特別選抜・推薦」および「特別選抜・社会人」では、将来、千葉県内で理学療法士として活躍することを志望する強い意志がある人材を求めている。

(6) リハビリテーション学科作業療法学専攻の求める学生像

豊かな人間性や高い倫理観、鋭敏な感受性と多彩な表現力を基に、対象者の立場になって作業療法を提供できる態度・能力を身につけ、人々の健康づくりを支援し、作業療法の臨床、教育、研究の発展に貢献できる人材の育成を教育理念とし、次のような学生を求める。

- ①対象者とそれを支える人、保健・医療・教育・福祉職に対してお互いの立場を尊重した人間関係を構築し、生き生きとしたコミュニケーションをとることを望んでいる人
- ②個人・家族・地域が健康的またはその人らしい生活を送るための健康づくり支援を提供したいと思っている人
- ③人々の健康的またはその人らしい生活を送るための問題解決と健康増進に向けて、健康を志向する地域環境（人・物・制度）の整備・改善に努めたいと思っている人
- ④対象者を中心とした安全で質の高い保健・医療・福祉を実践するために、自身の役割を認識し、多職種との相互理解を深めながら行動する適性を持っている人
- ⑤論理的思考による探究心を身につけ、自己研鑽に励み、倫理的な原則を遵守し、専門職としての責務を果たす適性を持っている人

「特別選抜・推薦」および「特別選抜・社会人」では、将来、千葉県内で作業療法士として活躍することを志望する強い意志がある人材を求めている。

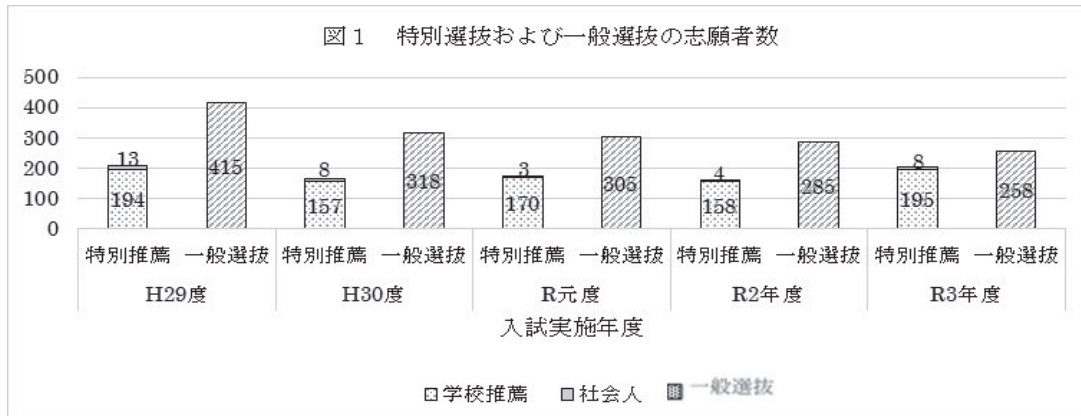
2. 年度当初の重点課題

令和3年度は、前年度に引き続きコロナ感染防止対策により、オープンキャンパスがWEBでの実施となる可能性や高校説明会の参加機会の減少が予測されるため、受験生獲得に向け、機会を活かして効果的に広報活動を行う。また、受験生の動向、入学後の学生の学習の取り組み状況などを注視し、安定的で質の高い学生確保の実現が達成できるよう入試方法の検討に継続して取り組んでいく。

3. 入学者選抜状況

(1) 一般選抜および特別選抜の志願者数（年度）（図1）

受験人口が本格的な減少期に入り、国公立大、私立大ともに志願者数が大幅に減少し、本学の一般選抜においても減少傾向にある。特別選抜においては、学校推薦と社会人ともにR3年度より増加している。



(2) 特別選抜入試の志願倍率の推移（図2）

平成30年度に特別選抜の定員枠が4割から5割に拡大し志願倍率が低下したが、それ以降は、歯科衛生学科を除いた4学科専攻では志願倍率の低下はみられていない。

歯科衛生学科の志願倍率の減少は、歯科衛生士がCOVID-19感染リスクの高い職業として報道されたこと、県内の歯科衛生士養成校の開設や定員増、COVID-19感染拡大による県内高校生への歯科衛生士の業務説明会や県内高校への学校訪問等の広報活動が制限されたことが考えられる。

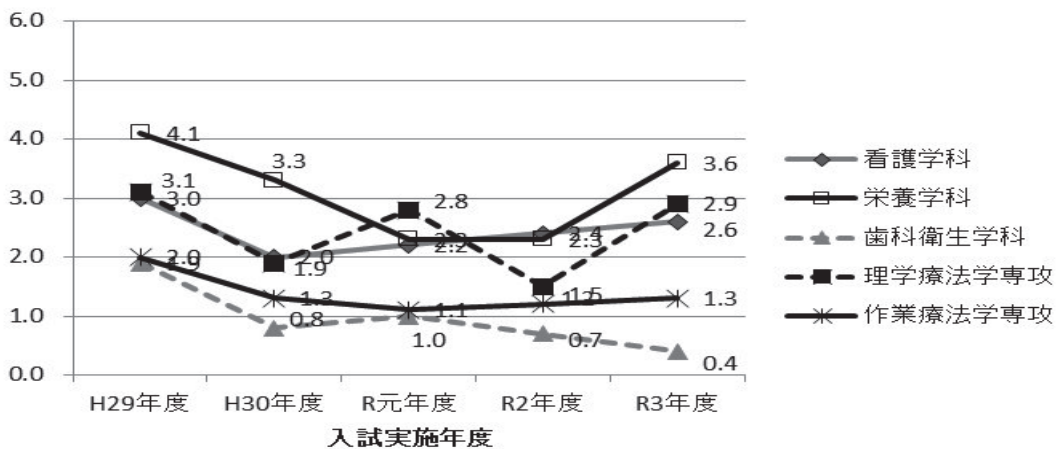


図2 特別選抜入試の志願倍率の推移（志願倍率＝志願者数÷定員）

(3) 一般選抜の志願倍率の推移（図3）

いずれの学科専攻も年度により変動がみられる。理学療法学専攻については、H30年度に一般選抜試験科目を変更し理科系科目の選択の幅を広げ、その結果、志願倍率が増加した。2段階選抜となる志願倍率3倍を超えたかどうかの観点でみると、令和3年度は栄養学科を除いた4学科専攻で3倍を超えなかったが、近隣大学においても志願倍率は減少しており、同様の傾向にある。

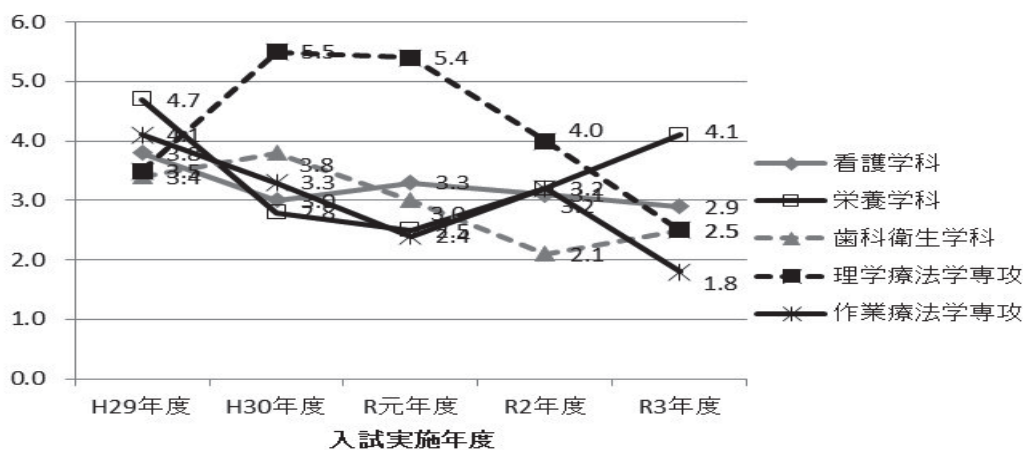


図3 一般選抜の志願倍率の推移 (志願倍率=志願者数÷定員数)

(4) 編入学の受験競争率 (出願者数÷合格者数) の推移

編入学(3年次)

(倍)

入試実施年度	H27年	H28年	H29年	H30年	R元年	R2年	R3年
看護学科	3.6	3.2	7.5	12.0	2.3	4.0	15.0

4. 学生募集のための取り組み

(1) 大学案内の作成・配布

広報委員会を中心となり、大学案内を作成している。大学案内には、大学の理念・目的、学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)、入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)、教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)、カリキュラムの構成、各学科専攻長からのメッセージ、各学科専攻の特色、在校生からのメッセージ、学生生活、選抜試験の日程と過去の選抜状況、就職進学状況、国家試験合格率を掲載している。大学案内は、進学フェアのイベント、県内の高等学校、業者経由で希望があった個人に送付した。また、pdfを大学のホームページに掲載し、本学の特色を広く周知するよう努めた。

(2) オープンキャンパスの開催

令和3年度は新型コロナウイルス感染症の感染防止のため、対面ではなく、7月26日にWEBオープンキャンパス2021を開設した。新たな動画を3本作成し、2020の動画も再利用して、大学紹介や学科・専攻の教育内容、学生生活の紹介動画を通じて、本学の学生生活を感じ取れるようにした。

(3) 高等学校での模擬講義・説明会等の実施、高等学校からの訪問への対応、大学模擬授業・説明会への参加

高校や仲介業者からの依頼に合わせて、高等学校での模擬講義や大学説明会の実施、進学セミナーへの参加を行っている。新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、令和2年度は高校からのキャンセルが多く実施件数が44件と前年度に比べ減少したが、令和3年度の出席件数は71件と大幅に増加した。

高校訪問・模擬講義・説明会への出席件数および派遣教職員

年度	依頼件数	出席件数	派遣教職員数(延数)*	出席者数(延数)
平成29年度	134	83(資料参加を含めると117)	89	2082
平成30年度	143	79(資料参加を含めると118)	90	2011
令和元年度	119	105(資料参加を含めると118)	100	1945
令和2年度	96	44(資料参加を含めると56)	47	—
令和3年度	114	71(資料参加を含めると75)	73 (職員を含めると77名)	—

*令和2年度までは教員のみ

(4) ホームページでの情報提供

各学科専攻の紹介ページを修正し、アドミッションポリシー、各学科専攻長の写真とメッセージの修正を行い、本学の各学科専攻の特徴を広めた。また、教員紹介ページから research map にリンクするようにし、教員の研究活動についても周知を図り、志願者が本学への興味を高めるようにした。

(5) 受験情報誌への情報提供

受験情報企業からの情報提供の要請に対し、依頼元の信頼性を考慮した上で情報提供を行い、本学のアドミッションポリシーや教育内容を周知し、適正のある受験生に本学を志願する意思決定をしてもらえるようにした。

(6) 過去問の閲覧

平成 30 年度入試問題から、大学ホームページ（著作権に配慮した公開）および大学学生支援課窓口で閲覧が可能になった。令和 3 年度は、来学した希望者に対して閲覧をみとめた。

5. 学生の在籍状況

令和 4 年 3 月 31 日現在の在籍学生総数は 739 名であり、収容定員(740 名)対比は 0.99 でほぼ定員は充足されている。

学科・専攻別の収容定員対比は、看護学科が 0.98(在籍学生数 333 名, 収容定員 340 名), 栄養学科が 0.99(在籍学生数 99 名, 収容定員 100 名), 歯科衛生学科が 1.02(在籍学生数 102 名, 収容定員 100 名), リハビリテーション学科理学療法学専攻が 1.03(在籍学生数 103 名, 収容定員 100 名), 作業療法学専攻が 1.02(在籍学生数 102 名, 収容定員 100 名)である。

退学者については、開学時から令和 4 年 3 月 31 日現在までの退学者累計数は 63 名であり、退学者の割合は、入学総数(除籍・編入学除く)2160 名に対し約 2.9%となる。学科別では、看護学科 16 名, 栄養学科 11 名, 歯科衛生学科 12 名, リハビリテーション学科理学療法学専攻 12 名, 同作業療法学専攻 12 名である。退学した 63 名の退学理由の多くは進路変更であり、若干名は家庭の事情(経済的理由含む)であった。退学した学年は 3 年次が最も多いが、ほとんどの退学者が休学期間を経てから退学しているため、1~2 年次の段階で履修を中断している。令和 3 年度単年でみると、退学者総数は 4 名で、所属学科専攻は複数にまたがっていた。休学期間を経ての退学や退学理由はこれまでと同様の傾向であった。引き続き、受験生の志望動機の有無をしっかりと見極めるとともに、入学後は欠席しがちな学生に対する支援を強化することが求められる。

学科等 入学年度	看護学 科	栄養学科	歯科衛生学科	リハビリテーション学 科 理学療法学専攻	リハビリテーション学 科 作業療法学専攻	計
平成 21 年度	4(3)	1(1)	0	2(2)	1(1)	8(7)
平成 22 年度	1(1)	1	1(1)	0	2(2)	5(4)
平成 23 年度	0	3(3)	1	2(2)	0	6(5)
平成 24 年度	0	0	0	2(2)	1(1)	3(3)
平成 25 年度	1	2(2)	1(1)	2(2)	1(1)	7(6)
平成 26 年度	2(2)	0	0	1(1)	2(2)	5(5)
平成 27 年度	3(3)	0	2(2)	0	1(1)	6(6)
平成 28 年度	2(2)	0	1(1)	1(1)	1(1)	5(5)
平成 29 年度	2(1)	1(0)	4(1)	0	2(2)	9(4)
平成 30 年度	0	0	0	1(0)	0	1(0)
平成 31 年度	1(1)	1(1)	2(2)	0	1(0)	5(4)
令和 2 年度	0	1(1)	0	1(1)	0	2(2)
令和 3 年度	0	1	0	0	0	1(0)
累計	16(13)	11(8)	12(8)	12(11)	12(11)	63(51)

6. 評価（成果および改善すべき事項）

オープンキャンパスは、対面開催とWEB開催の両面から検討したが、感染状況が収束せずWEB開催となった。3本（学長・幕張キャンパス紹介・仁戸名キャンパス紹介）の動画を新規に作成した。動画視聴回数は、学長挨拶は752回、キャンパス紹介は幕張が2317回、仁戸名が1128回であった。これは同時期の近隣の公立大学の動画視聴回数（学長動画A大学292回、B大学245回、学科紹介はA大学2969回、B大学80～400回、C大学507回）に比し、多い。WEBオープンキャンパスの動画を視聴した者のうち、80名が回答したアンケートの分析から、高校生のニーズが把握できた。

上記、広報活動と志願者数を関連づけることは難しいが、志願倍率は令和2年度と比し、特別選抜は全学科専攻すべて上昇したが、一般選抜は一部の学科専攻で倍率が下がった。今後は積極的に広報活動を展開し、志願者の確保につなげていく必要がある。令和3年度の退学者数は4名であり、アドミッションポリシーに見合う学生確保ができたのではないかと考える。

7. 次年度の方策

18歳人口の減少に伴い、志願者数の減少は全国的な傾向でもあるが、今後も大学の情報を適切に効果的に発信する方策を実行し、安定的にアドミッションポリシーに見合った学生の確保が達成できるよう継続して取り組んでいく。また広報活動については、教員の研究活動を広報する仕組みづくりについて着手できたが、今後も大学の魅力が伝わるよう、研究活動の広報についてもさらなる改善が求められる。

VI 学生支援

1. 年度当初の重点課題等

学生部（学生委員会・進路支援委員会）は、学生支援に関する基本指針に基づき、以下の活動を課題とした。

- ①学生支援に関して、関係機関からの情報や学生からの要望も捉えながら、所掌事務および学生支援計画に沿った活動を行う。新型コロナウイルス感染拡大による学生生活への種々の制限を把握し、学生支援を行う。
- ②進路支援に関して、所掌事務に関する活動を計画的に行う。特に、県内就職の推進や国家試験合格率100%（全学科）をめざし、学科専攻と連携を図り、大学全体として取り組んでいく。新型コロナウイルス感染拡大下における、感染予防対策を考慮した就職活動支援を実施する。

2. 活動内容

1) 学生委員会

(1) 学生の福利厚生：

- ①令和3年度学生支援計画を立案し、以下のような活動を行った。学生会の企画・運営に助言し、Webによるいずみ祭および、Webと対面によるクリスマス会、教科書譲渡会の開催を支援した。Webによる「学長と学生による懇談会」の実施を支援した。学生向けセミナー（デートDV・ブラックバイト対策、学長による新型コロナウイルス感染症に関する講座）をオンデマンドで開催した。学内整備において体育館で使用するためのスポットクーラーを、昨年度に引き続き予算要求した。

令和3年度末に、学内で開業されていた生協売店が撤退した。撤退にあたり、生協の利用状況や配置を希望する商品について「学内の売店と自動販売機に対するアンケート」調査を実施し、令和4年度からの自動販売機設置に情報を提供した。

- ②「令和4年度学生ハンドブック」の内容を検討し、加除修正した。

(2) 学生の保健衛生：

- ①令和3年度健康診断は2日に分散して実施した。診断結果に基づき学生指導を行った。
- ②令和3年度ワクチン接種計画（B型肝炎ワクチン・インフルエンザワクチン）を立案し実施した。また、ワクチン接種状況を継続的に把握し学生指導を行った。
- ③口腔検診・体力測定が再開される令和4年度健康診断の実施計画について検討した。
- ④「令和4年度自己健康管理ファイル」の内容を検討し、最新情報を加筆するなど修正した。
- ⑤令和4年度健康診断前後の指導に係る資料を検討し、最新情報に改善した。

- (3) 学生の課外活動：令和3年4月に、Teams上に学生会チームを設け、新入生勧誘始め、活動報告、メンバー間の連絡手段として活用させた。課外活動再開マニュアルを作成し、令和3年10月から令和4年1月まで、人数・時間制限を設けて、対面集合型の課外活動が再開した。

- (4) 奨学金等貸与：日本学生支援機構奨学生推薦のための学生面接を行った。

- (5) 授業料等の減免：臨時申請の授業料減免（前期・後期）について審議した。

(6) 後援会、同窓会：

- ①学生支援のために後援会理事会と連携し、例年と同様の支援を得た。Zoomによる令和3年度総会を支援した。
- ②同窓会の再構築に向けて役員会へ助言し、分会長と各学科・専攻の教員間で連絡が可能になった。各分科会会長に出席願ひ、Webによる同窓会連絡会を開催した。
- ③卒業生への同窓会分会への入会に関して支援を行った。

(7) その他：

- ①大学運営会議からの依頼に基づき、昨年に引き続き新型コロナウイルス感染拡大による学生生活への影響に関する「学生調査」を9月中旬に行い、452名より回答を得た（回収率 約57.9%）。昨年の回答と比較し、同様の状況であることを確認した。
- ②令和3年度卒業式の運営について検討した。

2) 進路支援委員会

(1) 就職・進学支援：

- ①令和3年度進路支援計画に基づき、全学的な事業や学科専攻毎の事業を含め、大学全体として学生への進路支援を行った。
- ②令和2年度キャリアセミナーの評価をふまえ、令和3年度第1回・第2回・第3回キャリアセミナーの企画・運営・評価を行った。第1・2回まではオンデマンド方式、第3回は集合対面方式で実施した。オンデマンド視聴者数は、第1回78名、第2回50名であり、例年と比較して少数であった。第3回出席者は45名であった。
- ③幕張キャンパスの進路情報室にハローワークのジョブサポーターの派遣（週1回）を依頼した。ジョブサポーターによる個別就職活動支援は、感染防止対策を取りながら継続することができた。また、仁戸名キャンパスの学生が就職相談できるよう、仁戸名キャンパスへの派遣も依頼し、派遣（9月～11月）が実施された。学生には好評であった。
- ④ジョブサポーターと情報交換・意見交換を行い、ジョブサポーターと教職員が同じ考え方のもと連携して進路支援を行うことができるようにした。学科の進路支援事業への協力（講義・情報提供）もいただいた。
- ⑤ジョブカフェちばによる就活セミナーを計画・実施した。新型コロナウイルス感染状況から、12月と3月の2回、開催した。参加者には好評であった。
- ⑥学生有志が記録する「面接・インターン」情報を、紙媒体のみではなく、Web上でも閲覧できるようにした。
- ⑦令和3年度の就職進学状況についてとりまとめを行った。
- ⑧令和4年度の「進路ガイドブック」の内容を検討した。Web面接の方法、履歴書の送付方法を追記した。
- ⑨進路支援事業に関して後援会に助成を依頼する内容を検討した。
- ⑩令和3年度就職率は100%であった。

(2) 国家試験対策：

- ①令和3年度国家試験結果をとりまとめた。
- ②学科専攻と連携を図り、大学全体として学生への国家試験受験支援を行った。
- ③国家試験模擬試験受験に対して後援会から助成を受けられるよう各委員が調整し、助成を受けられた。
- ④国家試験に関わる手続きを確認し、学生の書類作成の支援、願書の提出、受験票の配布、免許申請手続き等を行った。
- ⑤令和3年度国家試験合格率は、保健師94.2%、助産師100%、看護師100%、管理栄養士87.5%、歯科衛生士100%、理学療法士96.0%、作業療法士96.0%であった。

(3) 県内就職の推進：

- ①令和3年度県内就職率は66.8%であった。
- ②進路支援事業では県内保健医療関連施設から講師を派遣してもらい、県内就職を促進するようにした。

(4) その他：令和3年度卒業時調査の調査票作成（進路支援部分）について検討を行った。

3. キャンパス・ハラスメント

入学生に向けて、ガイダンスでキャンパス・ハラスメントとその対策について説明をした。

4. 各学科・専攻の取り組み

1) 看護学科

(1) 年度当初の重点課題

本年度は、以下4点を課題とした。

- ①学生生活支援：担任を中心に、科目担当者とも連携し、学生の修学支援を積極的に行う。

- ②進路支援：学生が進路を決定するための情報を適切に提供する。また、県内就職の推進も継続して取り組む。
- ③国家試験受験対策：保健師・助産師・看護師国家試験合格率 100%に向けて支援を強化する。
- ④看護学科卒業生・同窓会支援：同窓会活動サポートを行う。

(2) 取組状況

各学年 teams を作成し、COVID-19 関連の情報提供や学生の入構許可の体制を整えた。

- ①学生生活支援：学生支援体制として、各学年担任リーダーを置き、1年生には教員 8 名、2年生には教員 9 名、3年生には教員 6 名、4年生には教員 2 名の担任を配置した。担任リーダーのサポートは委員長が行う体制とした。

また、4年生に対しては、看護研究指導教員が就職活動や国家試験受験に向けた支援の一部を担う体制を整えた。また、学生への連絡・関係づくりとして、学生用 ML 運用に加え、各学年の teams を作成しチャット機能を活用し、履修や学生生活に関する相談を受け個別の支援をおこなった。1年生には、連絡手段となる学生用メールアドレス、Teams、チャット機能が利用可能かの確認から始めた。学生からは、土日昼夜を問わず、修学や学生生活に関する相談が寄せられた。学生からの質問と対応を担当間で共有した。また、学生生活の状況やニーズを把握するための担任グループごとの懇談会を、4月と10月に実施した。2年生も同様に、4月と10月に懇談会を実施した。懇談会で出た大学への意見や要望については回答を掲示板に掲示した。

- ②進路支援：3年生に対しては、進路支援ガイダンス 3 回（7月・12月・2月）をオンデマンドで開催し、就職が内定している4年生の活動を聞く会（12月）、および卒業生に話を聞く会（2月）も実施した。12月には就職・進学活動の動向を把握する調査を行い、進路支援事業の改善や後輩学生への情報提供に活用した。4年生に対しては、進路情報室を通してハローワークの利用方法や就職先の情報を適宜連絡した。また、看護研究担当教員が学生の要望に応じて採用試験への提出書類の確認、面接練習、小論文添削、などを行った。前年度と同様、4年生2月の卒業時調査のうち、就職・進学活動に関する部分を整理し、進路支援事業の改善や後輩学生への情報提供に活用した。また、キャリア支援や卒業生ネットワークの構築、後輩の就職先開拓に役立てるため、4年生の進路情報を把握した。3,4年生ともに、県内就職の推進について、特に特別選抜により入学している学生の自覚を促すように各ガイダンスでアナウンスを行った。
- ③国家試験受験対策：3年生には、効果的に学習を進められるよう、ガイダンス、看護師の模擬試験、特別講義を実施した。4年生には、看護師 3 回、保健師 2 回、助産師 3 回の模擬試験（該当者のみ）、保健師・助産師・看護師のガイダンスと国家試験対策講座を実施した。COVID19 の影響によりこれらの約半分は自宅での受験や受講となった。また、国家試験模試の成績が芳しくない学生については、看護研究指導教員に個別支援を依頼した。
- ④看護学科卒業生・同窓会支援：同窓会窓口として、幹事選出、会計監査、役員会開催、在校生と同窓生の交流会の企画・実施、入学式と卒業式の祝花手配への支援を行った。同窓会から寄贈（電子レンジ）の申し出があり調整を行った。

(3) 評価（成果および改善事項）

- ①学生生活支援：担任・担任リーダー・委員長間で情報共有しながら、学生の状況に応じた学生支援を担当が行うことができた。履修相談については今後も教務委員会との連携が必要である。新型コロナウイルス感染症の状況に応じた情報提供や入構許可の体制が今後も必要である。
- ②進路支援：3年生対象のオンデマンド配信の各ガイダンス受講率は高く、アンケートでも高評価であった。また、就職希望者の就職率 100.0%、県内就職率 78.0%と、高い割合を維持できた。
- ③国家試験受験対策：国家試験合格率は、保健師 94.2%（全国 93.0%）、助産師 100.0%（全国 99.7%）、看護師 100.0%（全国 96.5%）であった。
- ④看護学科卒業生・同窓会支援：会計監査、在校生・同窓生交流会実施支援、同窓会からの寄贈の申し出に対する調整など同窓会の新たな活動推進のサポートをすることができ評価できる。

(4) 次年度の方策

担任による相談窓口時間の適正化や担任フォロー体制の適宜見直しを行う。これまでの対策を評価し国家試験対策を検討する。継続して同窓会への支援を行うほか、大学の重点施策である県内就職者の定着に向けた取り組みを行う。

2) 栄養学科

(1) 年度当初の重点課題

国家試験 100%合格を目指す。就職については、COVID-19 感染症拡大予防の影響が、様々な分野に出ることが予想される。就職した卒業生からの応援メッセージを Teams で紹介し、学生さんから相談があった場合は、教員がサポートできるように努めるようにしていく。

(2) 取組状況

各学年に担任・副担任を 1 名ずつ配置し、学生を支援し学科会議でも報告してもらい学科全体で学生支援を行った。臨地実習【臨床栄養(必修)10 施設・給食経営(必修)13 施設・公衆衛生(選択)11 施設および栄養教育実習(選択)5 校(県内 4 校、県外 1 校)】は、各担当教員が実習施設と綿密な打ち合わせを行い、事後指導として報告会を開催した。栄養管理臨地実習(選択)は 1 名実施した。コロナ禍ではあったが、先方と綿密に調整し、感染予防対策を取りながら実施した。

就職活動の支援は 3 年次から担任・進路支援委員会を中心に活動の諸注意、県内の公務員試験や医療施設・福祉施設への積極的活動の支援を行った。公務員希望者には、先輩(公務員合格者)による受験対策講和や業務内容の説明会を実施した。4 年次は担任・副担任による就職活動の進捗状況の報告に従い、全教員で提出書類の添削・指導、模擬面接を実施した。

サークル活動・大学祭は COVID-19 のためにできなかった。学習・生活指導の相談などは各教員が担当した。国試対策は国家試験対策会議を設置し科目担当者による国試対策講習会、内部模試 3 回・外部模試 3 回の試験を計画・実施、さらに成績不良者には、毎回の模試終了後の面接指導も実施した。

(3) 評価(成果および改善事項)

2 名の留年者を除き卒業生(24 名)。管理栄養士の国家試験合格率は 87.5%、卒後の進路は、就職 24 名となった。就職率は 100%であった。県内就職率 54%となり、昨年の 27%より約 2 倍上昇した。就職先の内訳は病院 25%、官公庁(行政、学校) 8%、一般企業(管理栄養士・栄養士として食品会社、給食会社等に勤務) 50%、福祉施設 13%、その他(短大助手)4%であった。次年度は国家試験合格率 100%達成をめざすと共に、県内就職率の向上を図りたい。

(4) 次年度の方策

国家試験の模擬試験成績不良学生に対する個別指導を強化するとともに、新々カリキュラムで取り入れた「管理栄養士特別演習」を活用し、国家試験 100%合格を目指す。就職については、様々な分野に就職活動を経験した 4 年生と卒業生からアドバイスをいただき、就職活動が円滑に進むようにする。

3) 歯科衛生学科

(1) 年度当初の重点課題

国家試験合格率 100%を維持するとともに、千葉県歯科医師会、千葉県歯科衛生士育成協議会等の関連団体と連携して県内就職率の向上を目指す。

(2) 取組状況

学生に対する学修・生活等の支援は、主に教務委員会、学生委員会、進路支援委員会の各委員が行っているが、さらに担任・副担当制の導入により、学生を全般的にサポートする体制を整えている。具体的には履修ガイダンス、オフィスアワーによる学修支援、キャンパスハラスメントへの対応、健康管理に関する支援、個別学生相談への対応などである。

学修支援については、COVID-19 の影響による遠隔授業において、各教員が遠隔授業に対応した教材作成とそれを用いた講義を展開し、演習・実習においては感染予防対策を講じ、教育の質が低下しないように努めた。学外の臨床・臨地実習では、COVID-19 状況下においても実習を受け入れてくださっ

た実習施設と事前打ち合わせを行い、実習前には施設担当者による特別講義を行って連携を図り、実習が円滑に遂行できるよう体制を整えた。

進路支援については、求人状況に関する情報提供、エントリーカード・履歴書の記載方法、小論文の添削および模擬面接等の対策をハローワーク（公共職業安定所）の協力を得ながら支援した。国家試験対策については、進路支援委員が中心となり、学外全国統一模擬試験を3回実施するとともに、試験科目に対応した特別講義を実施するなど理解の強化を図った。

(3) 評価（成果および改善事項）

国家試験については教員が積極的に支援し、開学時からの目標である100%合格を維持した。県内就職率については、関係団体との連携を行い50%であった。

(4) 次年度の方策

国家試験合格率100%を維持するとともに、千葉県歯科医師会、千葉県歯科衛生士育成協議会等の関係団体と連携を図り、50%以上の県内就職率を目指す。

4) リハビリテーション学科理学療法専攻

(1) 年度当初の重点課題

毎年度、学生の臨床実習が無事に遂行できるように学内教育と実習施設との連携を強化する。毎年度のことながら臨床実習におけるメンタルの不調者を出さないように、学生の日常生活態度等の変化を見逃さないように、毎週はじめに学生から睡眠時間等を記載した日常生活記録を提出させている。日常生活記録を実習訪問の担当教員にメールで提出しており、学生が実習での睡眠や課題の負荷が高い場合には臨床実習指導者と相談し、学生に過度の負担が掛からないようにすべての臨床実習において工夫をしている。

(2) 取組状況

前年度と同様、各学年担任による半年に一度の面接に加え、9月下旬に卒業生を囲む会を引き続き開催し、学生の学習意欲を引き出すように心掛けている。メンタルの不調者を早期に発見できるように、専攻会議において教員の情報共有をしている。進路支援・国家試験対策は毎年度継続している。国家試験の模擬試験で成績が伸び悩んでいる学生には、個別対応をしたり、会議室に集合させたりと工夫している。なお個人でのみの勉強は極力避けるように工夫をした。臨床実習Ⅱ（評価実習）からⅢ・Ⅳ（総合実習）まで日常生活記録を学生に記録させ、毎週はじめにメール等で提出することを義務づけるなどメンタル面の問題を早期発見するように試みている。

(3) 評価（成果および改善事項）

臨床実習Ⅰ（体験）とⅡ（評価実習）前に接遇やリスク管理に関する講義と演習を毎年度と同様に実施し、臨床実習に臨む姿勢のあり方を学習させてきた。臨床実習Ⅱを目前に臨床前実技試験（OSCE）を実施し、実習に臨む学生の不安を払拭するように努力してきた。結果、優秀な学生もいる反面、進級が難しい学生も中には存在するが、とりあえず一人の落伍者もいなかった。

しかしながら、今年度も前年度に引き続きコロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言などの自粛があり、総合実習ⅠとⅡ、臨床実習Ⅱ（評価実習）が開始直前に実習先の医療機関から断られるなどし、新たに実習施設の依頼をするなど、学生をはじめ、実習担当の教員や臨床実習指導者の方々には負担をお掛けすることになった。とりあえず、臨床実習の重要な位置づけにある臨床実習Ⅱ（評価実習）、総合実習ⅠとⅡをつつがなく完了することができた。また1学年が行う1週間の臨床実習Ⅰ（体験）は次年度8月に移動することとし、2学年の夏季休暇の8月下旬に移動した。臨床実習が未修の学生13名が進級後に体験実習を終了し、進級した2学年の全員が終了となった。

(4) 次年度の方策

毎年度同様にメンタルの不調の学生が臨床実習中に発症し、実習が中断とならないように工夫する。事前にメンタルの不調者を見逃さないように、学年担任からの早めのカウンセリングを受けるように心掛けさせる。メンタルの不調者以外で学習意欲の低い学生に対して、学年担任は学生の授業や臨床実習へのモチベーション確認を心掛ける。

5) リハビリテーション学科作業療法専攻

(1) 年度当初の重点課題

- ①学生のキャンパス間移動の時間的・金銭的（運賃）な負担を考慮し、カリキュラム上、1年生の授業は、基本的に幕張キャンパスで実施しているが、移動など考慮し、水曜に作業療法の専門の科目に関する授業を仁戸名キャンパスで実施している。授業は、作業療法概論をはじめとして基礎作業療法、基礎作業療法実習や体験実習のオリエンテーションなど、演習・実習など実際の作業療法の設備など授業は仁戸名キャンパスで実施している。2年生は火・木曜日は仁戸名、他の曜日は幕張キャンパス。3・4年生はほぼ毎日仁戸名キャンパスで学習している。特に2年生が中心に以降の移動負担が開学依頼解決していない。学生は3年生になると通学の便利なアパートを借り換えなど自主的な方法で解決しているが学生の金銭的な負担は変化ない。
- ②作業療法士国家試験対策として、4年生よりグループ分けをし、学習環境の調整と模試を実施している。特に12月より2月まで集中して学生指導を実施している。新型コロナウイルスの拡大により感染予防を図っているため、グループ学習の時間の不足は否めないため、国家試験対応が難しい学生は、希望により12月末から約2か月程度週5日程度教員が感染予防などに配慮し個別指導を行う。

(2) 取組状況

作業療法学専攻は担任・副担任制をとっている。学生は、作業療法士としての適性や就職などの問題に対して、個別に対応している。また、退学・休学など重要な案件は、担任・副担任に加え作業療法学専攻長も対応する。教員は学生支援としてサークル顧問も担当している。

学生は、学年間の交流を図るため先輩が後輩の相談などをとれるようチューター制の形式をとり、学生が自主的に1年生～4年生を小グループにわけ、各グループで交流会など、感染状況を鑑み、今年度は開催できなかった。今後、教員の指導・補助など対面・遠隔による対策が課題として残る。

教員が仁戸名キャンパスに常駐しているため、主に幕張キャンパス（1年生、2年生）に通学している学生に対しては、Teams など利用し、チャットやメール等で連絡を取り、必要に応じて相談する時間を設けている。作業療法学専攻の学生支援における課題として、問題発生に対して即時対応できる体制づくりは、SNS などの利用により改善はしているが、対面の必要性がある場合など今後検討課題である。また、進路支援や国家試験対策に関して、週に1回、専攻会議を開き、情報の共有と対策について検討実施し、問題はない。

(3) 評価（成果および改善事項）

- ①学生指導や卒業生の交流会などは中断しているが、卒業生が教員となったこともあり、同窓会は当大学で連絡・郵便などの窓口となれた。また就職先として、千葉県内への就職率は昨年同様高い。

(4) 次年度の方策

国家試験への対応を、組織だって実施する必要がある。学生の自主性を重んじている。SNS などの活用の充実を図りたい。

5. 令和3年度千葉県立保健医療大学卒業時調査

1) 調査の概要

本学の学生支援（修学支援・生活支援・進路支援）に対する評価を明らかにし、学生支援の改善・充実を図ることを目的に、4年次学生を対象に質問紙調査を行った。調査内容は、①本学の教育に対する満足度、②4年間の学生生活について、③学生生活・学生支援に対する満足度、④実施した就職・進学活動について、⑤学位授与の方針の達成度に関する自己評価、⑥大学の教育に対する意見である。調査時期は2022年2月～3月で、Webにて回答を回収した。

2) 調査の結果

(1) 対象者の概要

卒業生186名中157名から回答が得られた（回収率84.4%）。所属学科は、看護学科54名（55.4%）、栄養学科22名（14.0%）、歯科衛生学科25名（15.9%）、リハビリテーション学科理学療法学専攻9名（9.5%）、リハビリテーション学科作業療法学専攻8名（5.1%）であった。

(2) 4年間の学生生活に対する取り組みの程度

「特色科目の学習」「一般教養科目の学習」「保健医療基礎科目の学習」「専門科目の学習」「臨床（臨床）実習の学習」「卒業試験のための学習」「国家試験のための学習」「進路・キャリアの検討」「サークル活動」「いずみ祭（大学祭）」「友人等との交流」「先輩・後輩との交流」「教員との交流」「家族との交流」「アルバイト」「ボランティア活動」「趣味・レジャー」の17項目について、取り組みの程度及び活動から得たものの大きさの程度を4段階で尋ねた。17項目中12項目において7割以上の学生が「とても熱心に取り組んだ」「やや熱心に取り組んだ」と回答し、得たものも「非常に大きい」「やや大きい」と回答した。一方、取り組みの程度の低かった活動は「他大学との学生との交流」（48.2%）「いずみ祭」（25.8%）であった。この傾向は昨年およびコロナ感染症に夜活動自粛前の一昨年と同様の傾向であった。

(3) 本学の学生支援に対する満足度

学生支援について「学生ハンドブック」「オフィスアワー」「掲示による連絡」「学生用メールシステム」「教職員の対応」「健康診断」「履修支援」「就職・進学支援」「国家試験受験への支援」「長期休業」「学生保険」「奨学金制度・授業料減免制度」「学生相談」「サークル活動への支援」「休学者への支援」「5年以上在籍する者への支援」「事務手続き」、および施設設備について、合計30項目について満足度を4段階で尋ねた。

30項目のうち、25項目の学生支援に関して「とても満足」「やや満足」が60%以上と回答されていた。「仁戸名無人ワゴン販売」（25.0%）、「仁戸名弁当配達システム」（38.8%）は、昨年に引き続き、満足度が低かった。

「学生生活への全体評価」は「とても満足」「やや満足」が88.6%であり、年々評価は向上している傾向であった（R28年より順に、84.9%、78.7%、82.8%、85.8%）。

施設設備に関しては、「とても満足」「やや満足」と回答した者が、該当する学生において、仁戸名キャンパスについて「講義室（仁戸名）の空調」（17.2%）「講義室（仁戸名）の机・椅子」（25%）「講義室（仁戸名）の視聴覚設備」「実習室・実験室（仁戸名）の空調」（15.4%）であり、著しく低かった。仁戸名キャンパスの講義室の視聴覚設備の満足度は、昨年度38.7%から今年度45.8%に上昇した数少ない事例である。幕張キャンパスと比較して仁戸名キャンパスの施設設備への満足度は、令和3年度も概して低い。またトイレについては、幕張・仁戸名両キャンパス共に5割を下回っていた（それぞれ42.4%、35.7%）。両キャンパス共に便器の洋式化を進めてきたが、継続してトイレの環境を整える必要があることが確認された。

(4) 実施した就職・進学活動

「活動開始時期」「受験した施設・企業数」「内定を得た施設・企業数」「実施した就職活動」「就職にあたり重視した条件・基準」「受験した進学先」等について尋ねた。

活動開始時期は、昨年は4年前期であったが、本年は「3年次後期」が最も多かった。受験した施設・企業数は「1か所」が昨年同様、最も多く（43.9%）、次いで「2か所」（25%）。10か所受けたものも7名いた。内定を得た施設・企業数は「1か所」が多かった（昨年75.3%、本年66.9%）。

実施した就職活動は「施設ごとの就職説明会」「合同就職説明会」「施設・企業訪問・見学」の順であった。いずれも「役に立った」と高い割合で回答されており、活用した者にとっては有効であった。また、全学および学科・専攻で実施しているキャリアセミナーや進路支援ガイダンスについては、参加した学生はすべての講座で、7割以上が「役に立った」と回答した。しかし、いずれの講座も、昨年よりも参加率が悪く、平均で4割の学生が不参加であった。

就職にあたり重視した条件・基準は「給料」「施設・病棟の雰囲気」「規模・機能（高度医療を行う病院、長期療養病院等）」の割合が高く、例年の結果と同様であった。

進学活動については、3名の回答があった。

6. 評価（成果および改善すべき事項）

学生部および学生委員会・進路支援委員会は、所掌事項に関する活動を計画的に行うことができたが、それらの活動のうち、令和3年度の成果として特筆すべきことは以下の点と考える。

学生支援としては、①千葉県立保健医療大学「新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえた活動指針」に基づき、健康診断・各種ワクチン接種や、コロナ感染症および予防に関する動画を配信するなど、生活支援を実施した。②2年ぶりの、Webによるいずみ祭・クリスマス会開催や、制限を設けてのサークル活動再開など、停滞していた学生の自治活動を支援した。③新型コロナウイルス感染拡大による学生生活への影響に関する「学生生活調査」、「学内の売店と自動販売機に対するアンケート調査」を実施し、学生の状況を把握・報告することができた。

進路支援については、新型コロナウイルス感染状況から、進路支援事業の実施方法を感染防止と受講効果の両面から検討し、適宜遠隔で実施した。キャリアセミナーや進路支援ガイダンスは予定通り実施できたが、例年と比較し、参加者は少なかった。しかし、令和3年度卒業時調査の結果からも、参加した学生にとっては有効に活用できた。

一方、学科・専攻においては、学科・専攻全体で情報共有や連携を取りながら、担任を中心に修学上・学生生活上の相談にのったりするなどして、きめ細やかに修学支援・学生生活支援を行うことができた。その結果、卒業時調査において「学生生活への全体評価」は「とても満足」「やや満足」が88.6であり、満足度が年々上昇している傾向を確認することができた。また、学科・専攻で国家試験受験対策を行い、令和3年度国家試験合格率は、ほとんどの学科で、昨年度よりも高い合格率であった。

令和3年度卒業時調査の結果では、修学支援・学生生活支援・進路支援に関して概ね高い評価を得ている。仁戸名キャンパスについて、講義室の視聴覚設備に若干の満足度の上昇がみられたが、仁戸名キャンパス学習環境は引き続き、重点的に改善をしていく必要がある。

7. 次年度の方策

学生支援として以下の活動に積極的に取り組んでいきたい。①学生支援に関して、関係機関からの情報や学生からの要望も捉えながら、所掌事務および学生支援計画に沿った活動を行い、学生支援の充実や検討事項の解決を目指していく。特に新型コロナウイルス感染予防をふまえた学生生活の充実をめざし、自主を促す積極的な学生支援を行う。②進路支援に関して、所掌事務に関する活動を計画的に行う。特に、県内就職の推進や国家試験合格率100%（全学科）をめざし、学科専攻および地域施設、卒業生と連携を図り、大学全体として取り組んでいく。

また、各学科・専攻については、学科・専攻が掲げた「次年度の方針」を適切に実施していく。

Ⅶ 社会連携・社会貢献

1. 社会との連携・協力に関する方針

広く開かれた大学として、地域の人々および地域施設との連携や交流を通して、地域社会へ貢献する。

2. 年度当初の重点課題

新型コロナ感染症を踏まえ、デジタルトランスメーション時代に対応するための知識・技能を大学全般で共有し、ネット環境などの整備を可能な限り整えて、さらなる地域貢献を模索・実践していく。

3. 活動内容

1) 公開講座

2021年度の公開講座は、COVID-19の感染予防対策のため、当初予定していた対面を取りやめ、10月23日、11月6日にZOOMウェビナーにて、「新しい生活様式をとりいれて健康に過ごすために」をメインテーマに開講された。参加者は90名であった。講演タイトルは「自分の身体を適切に認識することによる転倒予防」、「楽しく食べて健康づくり」、「運動と休息のバランスをととのえる生活の仕方」、「マスク生活とお口の環境」で実施した。ZOOMウェビナーでの開催のため、県外からの参加者が9名あった。アンケートからは、「参加して良かった」と好評の結果であった。

千葉県男女共同参画センターとの連携講座において、「強いカラダを作る—知ってるつもりの栄養、基礎のキソ—」を千葉県男女共同参画センター公式チャンネルにおいて、2021年12月1日から2022年3月1日まで配信された。

2) 千葉県健康福祉部との連携協力

「大学の概要及びこれまでの取組と成果」について第2回取組報告会を2021年11月8日県庁にて実施した。また、「県立保健医療大学のあり方に関する意見交換会」を2022年3月24日県庁にて実施した。

3) 共同研究等による学外組織との連携

2021年度学長裁量研究「介護予防のための生活習慣病継続をめざした多職種連携プログラムの評価」については、UR都市機構と共同で3回の開催を予定していたが、COVID-19感染予防のため、真砂第一団地で1回のみ実施した。また、歯科衛生学科を中心として、オーラルフレイル予防講座「ほい大口から始める健康プログラム」が開講された。

4) 各学科・専攻の活動状況

(1)看護学科

①地域におけるボランティア活動等

千葉県内の活動として、千葉県こども病院でのボランティア活動「入院している子どものきょうだいとの遊び活動」の推進のための協働・調整2件、VリーグD2千葉ゼルバホームゲームにおける選手救護看護師としての活動1件があった。

②地域への保健医療活動

新型コロナウイルス感染症に伴う保健所派遣延べ65名、看護学科社会貢献事業のコツコツ学ぼうセミナーのファシリテーター、内診スキルアップセミナーの企画・実施があった。

③審議会、委員会、国家試験委員等の実績：16件

●国の委員等：4件

文部科学省大学設置・学校法人審議会大学設置分科会特別委員、文部科学省職業実践力育成プログラム（BP）認定審査委員会委員、厚生労働省新型コロナウイルスに関連した感染症対策に関する厚生労働省対策推進本部事務局参与、独立行政法人国立病院機構千葉医療センター附属千葉看護学校、看護学校教育課程編成委員／学校関係者評価委員／主任評価委員。

●千葉県の委員等：8件

千葉県現任教育推進会議委員長、千葉県移行期医療支援連絡協議会委員、千葉県高齢者保健福祉計画策定・推進協議会委員、千葉県令和4年度看護職員研修事業「実習指導者講習会」受託者選定会議委員、千葉県准看護師試験委員、千葉県介護予防・日常生活圏域ニーズ調査分析事業業務委託

に係る選考委員会委員，千葉県国民健康保険団体連合会保健事業支援・評価委員会委員，千葉県国民健康保険団体連合会保健事業支援・評価委員会ワーキンググループ委員。

● 県内市町村委員等：3件

柏市保健衛生審議会会長，柏市保健衛生審議会母子保健専門分科会委員長，柏市保健衛生審議会健康増進専門分科会委員。

● 他県の委員等：1件

墨田区介護保険事業運営協議会委員。

④ 職能団体委員等：10件

日本看護系大学協議会関係として3件（高等教育行政対策委員会委員，日本看護学教育評価機構理事，災害連携教員），日本看護協会関係として7件（千葉県ナースセンター運営委員会委員，千葉県看護教員養成講習会運営会議委員，千葉県看護協会教育委員会委員，認定看護管理者認定実行委員会委員，千葉県看護協会助産師職能委員会委員，千葉県看護協会保健師職能委員会副委員長，日本精神科看護協会千葉県支部顧問）。

⑤ 学会，学術団体への貢献

● 所属学会・学術団体：総数94学会（延べ入会件数220学会）

5名以上の教員が会員となっている学会は，日本看護科学学会，千葉看護学会，日本看護学教育学会，日本看護管理学会，日本地域看護学会，日本公衆衛生学会，日本母性看護学会，日本看護研究学会，日本公衆衛生看護学会，日本母性衛生学会，文化看護学会であった。

● 学会，学術団体への貢献：64件

代議員・評議員3件，理事7件，監事1件，幹事1件，学会内委員会委員41件（学会誌編集，学会誌査読，教育，広報，表彰等），学術集会各種委員会委員11件（企画，実行，査読等）。

⑥ 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等：45件

講演会・研修会の講師等は，千葉県看護協会主催9件（新人教育担当者研修会，千葉県看護教員養成講習会，看護管理者能力育成研修会），大学主催6件（コソコソ学ぼうセミナー，公開講座），千葉県主催3件（現任教育推進研修会，特定健診・特定保健指導経験者研修会，保健師管理者能力育成研修），県内医療機関主催2件（千葉県循環器病センター，千葉県がんセンター），県内保健所主催3件（習志野保健所，松戸保健所，山武保健所），市町村主催2件（千葉市，習志野市），その他2件計29件であった。

研究指導／サポートは，千葉県がんセンター等医療機関6施設，県内市町村等2施設，計8施設でおこなった。

⑦ その他の社会貢献：8件

千葉県立保健医療大学・韓国インジェ大学国際シンポジウム，公益信託山路ふみ子専門看護教育研究助成基金運営委員，放送大学客員教授等8件の社会貢献を行った。

(2) 栄養学科

① 地域におけるボランティア活動等

● 千葉県内：9件

ほい大健康プログラム(さつきが丘団地)，ほい大健康プログラム(真砂第一団地)，健康教室(本学)，千葉市あんしんケアセンターにおける美浜区多職種連携活動，茂原市長生健康福祉センターにおける減塩に係わる啓発活動，市原市民大学研修会の講師，市原市役所保健福祉センター主催の健康大使研修会の講師，千葉県シニア自然大学での講演会講師，千葉市保健福祉局時健康福祉部健康推進課発行千葉市食育&消費者教育情報誌 Vol. 7 監修アドバイザーの9件であった。

● 千葉県外

食事・栄養相談，鈴木糖尿病内科クリニック栄養指導の2件であった。

② 地域への保健医療活動（診療・技術指導等，活動期間，場所等）

成田支所（1），松戸保健所（2），習志野保健所（3），市川保健所（4），印旛保健所（1）における新型コロナ陽性者への電話確認，電話相談，事務処理等11件あった。

③ 審議会，委員会，国家試験委員等の実績：審議会，委員会，国家試験委員等

ISO/TC34 国内審議団体事務局（FAMIC 国際課），ISO/TC34/SC12 国内対策委員，独立行政法人医薬

品医療機器総合機構日本薬局方原案検討委員会（総合委員会，国際調和検討委員会，生物試験法委員会，専門委員）．一般財団法人医療品医療機器レギュラトリーサイエンス財団生物薬品標準品評価委員会）．船橋市ふなばし健やかプラン 21（第 2 次）推進評価委員会委員．会．文部科学省科学技術・学術審議会．食品成分委員会及び作業部会専門委員，木更津市食育推進協議会委員，日本糖尿病・妊娠学会糖尿病と妊娠にかかわる科学的根拠に基づく医療の推進プロジェクトワーキングメンバー．日本人事試験研究センター専門試験（栄養士）試験問題作成委員の 12 件を務めた．

④職能団体委員等

- 所属職業団体：日本栄養士会，千葉県栄養士会，神奈川県栄養士会の 3 団体に所属．
- 委員会・役員等：千葉県栄養士会研究教育事業部副部長，外来栄養食事指導検討委員，千葉県栄養士会研究教育部会役員を務める．

⑤学会，学術団体への貢献

• 所属学会

栄養学科教員が所属している学会は 55 学会であり，その詳細は以下の通りである．

10 名所属（日本栄養改善学会）

4 名所属（日本栄養・食糧学会．日本公衆衛生学会．千葉県学校保健学会）

3 名所属（日本生化学会）

2 名所属（日本解剖学会．日本病態栄養学会．日本臨床栄養学会．日本調理科学会．日本食品科学工学会．日本肥満学会．日本臨床栄養協会．日本糖尿病・妊娠学会．日本疫学会．日本家政学会．以上 10 学会）

1 名所属（日本脂質栄養学会．日本補完医療代替学会．日本神経科学会．日本薬学会．日本マイコプラズマ学会．日本防菌防黴学会．日本ビタミン学会．日本臨床化学会．日本分子生物学会．日本給食経営管理学会．日本健康教育学会．日本臨床栄養代謝学会．日本心理学会．日本教育心理学会．日本人間工学会．日本教育工学会．日本発達心理学会．日本パーソナリティ学会．日本家庭科教育学会．日本教師学学会．日本官能評価学会．日本教育学会．教育史学会．日本教育政策学会．日本英語教育史学会．中部教育学会．国際文化表現学会．DOHaD 研究会．日本高血圧学会．日本農芸化学会．NPO 法人西東京臨床糖尿病研究会．日本食育学会，クリニカルパス学会．日本在宅栄養管理学会．日本在宅医療学会．日本応用糖質科学会，日本健康医学会．日本成長学会．日本小児保健協会．日本小児科学会．以上 40 学会）

• 学会・学術団体への貢献：29 件

評議員，委員会委員長，委員などとしての学会・学術団体への貢献は 29 件であり，詳細は下記のとおりである．

日本栄養改善学会評議員（4 名），日本官能評価学会常任理事（企画・編集），日本官能評価学会査読，日本官能評価学会常任編集委員，（一財）日本科学技術連盟，官能評価セミナー委員長，日本防菌防黴学会理事，日本疫学会代議員，日本栄養食糧学会参与，日本病態栄養学会評議員，日本糖尿病・妊娠学会評議員，公益財団法人千葉県栄養士会理事，日本ビタミン学会評議員，日本ビタミン学会トピックス委員会委員，日本栄養改善学会理事，日本栄養改善学会関東・甲信越支部会副支部長，日本栄養改善学会第 68 回学術総会実行委員長・総務委員長，日本栄養改善学会第 68 回学術総会実行委員会総務副委員長，日本公衆衛生学会代議員・公衆衛生分野における行政管理栄養士のあり方委員会委員，第 22 回国際栄養学会議プログラム委員，千葉県学校保健学会評議員，千葉県学校保健学会監事，千葉県学校保健学会第 24 回大会事務局長．

⑥講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等：17 件

千葉県栄養士会公衆衛生事業部研修会（3 回），エレビット Navi，バイエル薬品株式会社，千葉県男女共同参画センターとの連携講座，坂戸市葉酸プロジェクトに係る講演，株式会社 LEOC（給食受託会社）（7 回），大人のための食育講座（2 回），成田市生涯大学院教養講座（2 回）

(3) 歯科衛生学科

①地域におけるボランティア活動等：9 件

- 千葉県内：6 件

施設入所高齢者の口腔衛生管理（2021年9月～2022年3月，老人保健施設うらら）．オーラルフレイル予防プログラム（2021年6月～2022年3月，UR花見川団地，URさつきが丘団地）．新はい大健康プログラム（2021年11月，UR真砂第一団地）．歯科診療室健康教室（2021年11月27日，本学歯科診療室）．口腔機能向上プログラム（2020年8月～現在に至る，流山市南部地域包括支援センター）．東京オリンピックフィールドキャスト（2021年7～8月，一ノ宮町）．

●千葉県外：3件

東京パラリンピックフィールドキャスト（2021年8～9月，東京）．神奈川県横須賀市浦上台北町内会定期清掃活動（横須賀市）．東京オリンピック開会式・閉会式アシスタントキャスト（2021年7～8月，東京）．

②地域への保健医療活動（診療・技術指導等，活動期間，場所等）：9件

歯科診療（2021年4月1日～2022年3月31日，本学歯科診療室）．継続個別支援・歯科診療補助の実施（2021年4月～2022年3月31日，本学歯科診療室）．千葉市口腔がん検診・千葉市口腔ケア事業（2021年4月1日～2022年3月31日，本学歯科診療室）．健康教室（2021年11月27日，本学歯科診療室）．診療指導（2009年4月1日～現在に至る，日本大学松戸歯学部付属病院）．手術指導（2011年4月1日～現在に至る，総合病院国保旭中央病院）．体力測定と運動指導（2021年2月～2022年2月，流山市南部地域包括支援センター）．幕張ファミリーハイツ体操教室（2021年11～12月，千葉市美浜区）．新型コロナ対応協力（2021年7月25日，8月14・16日，9月4，30日，2021年2月20日・習志野保健所，2021年8月9，18，22日・市川保健所）．第3回千葉県立保健医療大学歯科衛生士研究会（2021年11月～2022年2月，Zoom開催）．

③審議会，委員会，国家試験委員等の実績：6件

日本歯科医療振興財団歯科衛生士試験委員会副委員長．歯科衛生士試験企画評価委員会委員．歯科衛生士国家試験出題基準検討委員会委員．千葉県歯科衛生士育成協議会役員．同運営委員．歯科衛生学教育モデルコアカリキュラム策定会議コアメンバー．

④職能団体委員等：11件

全国歯科衛生士教育協議会理事．同教育委員会理事．同教育委員会委員．同教育問題検討委員会委員．同認定委員会委員．同歯科衛生学教育モデルコアカリキュラム検討委員．全国大学歯科衛生士教育協議会理事．同事務局長．同教育・研究委員．千葉県歯科衛生士会総務理事．同選挙管理委員．

⑤学会，学術団体への貢献

●所属学会・学術団体：総数60学会

日本歯周病学会．日本口腔衛生学会．日本歯科衛生教育学会．日本歯科衛生学会．日本歯科保存学会．日本補綴歯科学会．日本歯科審美学会．日本歯科色彩学会．日本口腔外科学会．日本口腔内科学会．日本口腔科学会．日本歯科理工学会．International Association of Oraland Maxillofacial Surgeons．Asian Association of Oraland Maxillofacial Surgeons．日本口腔診断学会．日本臨床口腔病理学会．日本臨床細胞診学会．日本有病者歯科医学会．日本老年歯科医学会．日本小児歯科学会．日本看護技術学会．日本医療安全学会．日本公衆衛生学会．日本顎顔面インプラント学会．日本口腔インプラント学会．日本医学教育学会．国際歯科研究学会（IADR）．国際歯科研究学会日本部会（JADR）．日本歯科医療管理学会．社会歯科学会．日本体力医学会．日本体育学会．日本測定評価学会．日本バイオメカニクス学会．日本栄養改善学会．日本栄養・食糧学会．大学体育連合．日本疫学会．American College of Sports Medicine．日本咀嚼学会．日本口腔ケア学会．日本摂食嚥下リハビリテーション学会．ヘルスカウンセリング学会．日本歯科医学教育学会．日本大学口腔科学会．日本歯科基礎医学会．東京歯科大学学会．北海道医療大学歯学会．日本歯科衛生士会．千葉県歯科衛生士会．日本障害者歯科学会．日本有病者歯科医療学会．国際ICT利用研究学会．情報文化学会．教育システム情報学会．コンピュータ利用教育学会．情報システム学会．日本環境教育学会．日本環境学会．日本スポーツ歯科医学会．

●学会，学術団体への貢献：32件

日本歯科衛生学会幹事．同編集委員会副委員長．同学会顧問．同学会査読委員．同学会総務委員．同学会倫理審査委員．日本歯科衛生教育学会副理事長．同学会常任理事．同学会理事．同学会編集委員会査読委員．同学会編集委員会事前抄録担当委員．同学会利益相反委員会．同学会査読委員．同学会評議員．同学会研究倫理審査委員．同広報委員．日本大学口腔科学会評議員．日本口腔科学会評議員．日本口腔内科学会評議員．日本医療安全学会理事・同学会代議員．同医療安全教育・研修検討部会委員．同多職種連携部会委員部会員．日本歯科医学教育学会評議員．日本口腔衛生学会歯科衛生士委員会委員．日本歯科衛生教育協議会編集委員．同評議員．国際ICT利用研究学会理事．日本環境教育学会広報委員．第6回国際ICT利用研究学会全国大会審査委員．第6回国際ICT利用研究学会全国大会セッションD2座長．第10回国際ICT利用研究学会研究会閉会の挨拶．第11回国際ICT利用研究学会研究会第3セッションD2座長．

⑥講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等：9件

日歯認定歯科助手講習会講師「高齢者の対応」．千葉県歯科衛生士会中央支部研修会講師「地域高齢

者に対するオーラルフレイル予防のための健康教室の実施について」. 千葉県介護予防事業従事者研修会講師「オーラルケアの重要性とオーラルフレイル予防について」. 2021 年度東京歯科大学大学院講義講師「臨床・基礎研究に必要な統計解析の基本について」. ライフプラン講習会「生涯にわたる貯筋計画」. 公開講座「マスク生活とお口の環境」. 新ほい大健康プログラム「コロナ禍で大切にしたいお口の健康-お口の清潔と口の機能-」. 令和 3 年度歯科衛生士スキルアップ研修会「現在の TBI・TBI の実践」.

(4) リハビリテーション学科理学療法専攻

① 地域におけるボランティア活動等：9 件

2) 千葉県外

・コクラン日本語翻訳ボランティア. 2020 年 4 月～現在.

② 地域への保健医療活動活動（診療・技術指導等. 活動期間. 場所等）

・UR 都市機構共催ほい大健康プログラム. 2021 年 11 月 13 日. 真砂第一団地.

③ 審議会, 委員会, 国家試験委員等の実績

・一般社団法人リハビリテーション教育評価機構. 評価認定委員会評価委員. 2014 年 4 月～現在.

④ 職能団体委員等

・一般社団法人千葉県理学療法士会. 理事. 2018 年 4 月～現在.

・一般社団法人千葉県理学療法士会. 研究倫理委員長. 2019 年 4 月～現在.

・公益社団法人リハビリテーション医学会. 学会プログラム委員. 2019 年 11 月～現在.

・一般社団法人日本職業・災害医学会. 評議員. 2020 年 4 月～現在.

・一般社団法人千葉県理学療法士会. 学術局学術誌編集部長. 2020 年 4 月～現在.

・一般社団法人千葉県理学療法士会. 障がい児・者支援部部員. 2020 年 4 月～現在.

・一般社団法人千葉県理学療法士会. 研究倫理委員会. 2019 年 4 月～現在.

・一般社団法人千葉県理学療法士会. 代議員. 2019 年 4 月～現在.

・一般社団法人千葉県理学療法士会学術企画研修部員. 2019 年 4 月～現在.

⑤ 学会, 学術団体への貢献

・日本リハビリテーション医学会. 日本理学療法士協会. 日本臨床神経生理学会. 日本電気生理運動学学会. 日本運動療法学会. 世界理学療法士学会. 世界電気生理運動学学会. 日本体力医学会. 全国大学理学療法教育学会. 全国大学肺理学療法研究会. コクランジャパン. 千葉医学会. 日本整形外科学会. 東日本整形災害外科学会. 関東整形災害外科学会. 日本脊椎脊髄病学会. 日本小児整形外科学会. 日本職業・災害医学会. 日本骨粗鬆症学会. 日本腰痛学会. 日本足の外科学会. 日本抗加齢医学会. 日本運動器科学会. 日本小児股関節研究会. 千葉県ロコモティブシンドローム研究会. 日本公衆衛生学科. 日本重症心身障害学会. 理学療法科学学科. バイオメカニクス学会. 日本基礎理学療法学会. 日本ヘルスプロモーション理学療法学会. 臨床歩分析研究会. 日本臨床バイオメカニクス学会. 姿勢・歩行国際研究会. バイオメカニクス国際学会. 日本ニューロリハビリテーション学会. 日本保健科学学会.

・日本理学療法士協会. 第 25 回日本基礎理学療法学術大会抄録査読委員. 日本リハビリテーション医学会. 第 57 回日本リハビリテーション医学会学術集会抄録査読委員. 千葉県理学療法士会. 論文査読委員. 保健医療学会. 学術誌「保健医療学雑誌」. 論文査読委員. 千葉県理学療法士会. 第 25 回千葉県理学療法士学会抄録査読委員. 千葉県理学療法士会. 第 25-26 回合同千葉県理学療法士学会. 抄録査読委員・相談役・一般演題座長.

⑥ 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等：

(5) リハビリテーション学科作業療法専攻

① 地域におけるボランティア活動等：

・政府広報オンライン「高齢ドライバーの方へ～運転免許自主返納を考えるサイン」（藤田）

② 地域への保健医療活動：7 件

・足立区発達障害児支援事業専門研修等講師（有川）

・練馬区障害児保育巡回指導（有川）

③ 審議会, 委員会, 国家試験委員等の実績：10 件

・脳神経内科専門医試験問題作成（山本）

- ・内閣府「令和3年度高齢者の交通安全対策に関する調査」有識者委員（藤田）
- ・市川市障害支援区分認定審査会審査委員（有川）
- ・一般社団法人リハビリテーション教育評価機構評価員（有川）
- ・練馬区立こども発達支援センター通所訓練事業等業務委託事業者選定委員会有識者委員（有川）

④ 職能団体委員等：22件

- ・日本作業療法士協会「運転と作業療法特設委員会」委員長（藤田）
- ・日本作業療法士協会障害保健福祉対策委員会障害児支援班班長（有川）
- ・日本作業療法士協会学会演題査読委員（有川）
- ・千葉県作業療法士会ブロック部部長（松尾）
- ・千葉県作業療法士会 MTDLP 委員会委員（松尾）
- ・千葉県作業療法士会災害対策委員会委員（松尾）
- ・千葉県作業療法士会渉外部部長（有川）
- ・千葉県作業療法士会学術部発達障害委員会委員（有川）
- ・千葉県作業療法士会学術部査読委員（有川）
- ・千葉県作業療法士会臨床実習指導者講習会委員会委員（有川）

⑤ 学会、学術団体への貢献

- ・日本高次脳機能障害学会代議員（藤田）
- ・全日本指定自動車教習所協会連合会理事（藤田）
- ・日本作業療法士協会代議員（松尾）
- ・日本作業療法士協会代議員（有川）
- ・千葉県作業療法士会理事（松尾）
- ・千葉県作業療法士会理事（有川）
- ・千葉県理学療法士作業療法士言語聴覚士連絡協議会理事（松尾）
- ・日本感覚統合学会効果研究委員（有川）
- ・日本発達系作業療法学会理事（有川）
- ・JDD ネットワーク多職種連携委員会委員（有川）

⑥ 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等：16件

- ・パーキンソン病患者説明会（山本）
- ・MTDLP 基礎研修会・実践者研修会（松尾）
- ・臨床実習指導者講習会（有川）
- ・八千代市児童発達支援センター職員研修（有川）

5) 地域住民への歯科診療の提供

本学には学生実習施設としての機能を兼ね備えた歯科診療室が設置されており、歯科衛生学科の教員（歯科医師・歯科衛生士）と嘱託歯科衛生士等が協働して地域住民を対象に歯科診療を提供している。県内を中心に患者を広く受け入れており、2021年度の延患者数は2,170名であった。また、「千葉市口腔がん検診事業」として千葉市住民を対象に52件の個別検診、口腔機能に関わる口腔ケア事業3件を行った。当診療室は保険医療機関として歯科外来診療環境体制加算等の施設基準を満たし、患者にとって安心な歯科医療環境の提供、厚生労働大臣が指定する疾患患者に対する必要な医療管理を行う体制を整えている。歯科診療を担当する歯科医師・歯科衛生士の専門資格取得状況は、（公社）日本口腔外科学会口腔外科専門医1名、（公社）日本口腔外科学会口腔外科指導医1名、がん患者歯科医療連携登録医1名、日本糖尿病協会歯科医師登録医1名、日本歯科放射線学会歯科放射線准認定医1名、日本口腔内科学会専門医1名、日本口腔内科学会指導医1名、ICD 協議会インフェクションコントロールドクター1名、千葉市口腔がん検診検診医1名、千葉県歯科医師会認定口腔がん検診医1名、日本口腔衛生学会認定医1名、日本歯周病学会認定歯科衛生士1名、日本歯科衛生士会認定歯科衛生士（摂食・嚥下リハビリテーション）1名、日本歯科衛生士会認定歯科衛生士（在宅療養指導・口腔保健管理）2名、日本咀嚼学会健康咀嚼指導士2名、ケアマネージャー1名となっている。

6) 国際交流の推進状況

2021年8月に韓国 Inje 大学との協定締結（期間5年）を行った。世界的に COVID-19 の終息がみられないため、2022年3月23日（14:00～16:00）に Zoom にて国際交流シンポジウムを開催した。リアルタイム視聴者および参加者は約80名（Inje 大学参加者および関係者含む）であった。プログラムは、1. 学長挨拶、2. 学科紹介、3 研究紹介とした。視聴後調査では、お互いの大学を知るという意味で意義があった、研究活動のうえでとても刺激になったという好意的な感想と、今後は若い研究者の交流や学生の交流と進んでほしいという意見等があった。

4. 評価（成果および改善すべき事項）

公開講座は、COVID-19 感染予防対策のため、当初予定していた対面を中止し ZOOM ウェビナーのみで開催を行ったが、若い年層の方に多く参加していただけた。アンケート結果は、好評で満足のいく結果であった。公開講座の開催形式を工夫し、幅広い年層の方に参加していただけるように改善したい。また、講演内容も県民のニーズに合わせて検討し、県民の健康維持を解決する手段を提供できるように企画する。本学の教員が講師を担った講習会は全学で例年同様に100を超えた。歯科診療室は2021年度の延患者数は2,170名であり、例年と同様の貢献ができた。「県・地域の施策の点検・評価、見直し、提案」として地域ケア会議の構成メンバー、団体のアドバイザー、医療施設の専門相談員など、地域および施設の運営に関わっている教員は多い。また、「専門職を対象とした生涯教育の企画、実施公開講座の企画・運営」について、各職能団体の新人研修や現職者研修、専任教員研修に関わる教員が多かった。歯科診療室に受診された地域住民の方を対象に実施した健康教室は、アンケート結果では、参加して良かったとの回答であった。継続してできるように取り組めるように企画・実施する。

5. 次年度の方策

公開講座においては、社会のニーズに踏まえ ZOOM ウェビナーや対面形式を取り入れ、幅広い年層の方に受講していただけるように企画する。全学科協働によるソーシャルキャピタルを基盤とする「ほい大健康プログラム」については、UR 都市機構と千葉県いすみ市で計画・実施する。また、歯科診療室に受診される地域住民の方を対象に「健康教室」を多職種で取り組む。国際交流の進展を図り、インジェ大学とシンポジウムなどを開催していく。

Ⅷ 教育研究等環境

1. 年度当初の重点課題

- ・教育設備の段階的更新・整備を学内の合意に基づき着実に実施する。

2. 施設・設備の整備状況

(新規購入備品)

幕張キャンパス

学生ホール棟	講義室 1	机	10 台
		椅子	22 脚
事務局棟	事務室	プリンター	1 台
学長室		パソコン	1 台
		モニター	1 台

仁戸名キャンパス

東校舎	運動療法実習室	エアコン	2 台
	第 3 講義室(LL 教室)	エアコン	1 台
	手工芸室	エアコン	2 台

3. 図書館の状況

1) 利用者数

幕張	10,918 人
仁戸名	3,572 人

2) 資料収集

(1)蔵書数

幕張	図書 77,740 冊	雑誌 1,369 タイトル
仁戸名	図書 32,187 冊	雑誌 718 タイトル

(2)視聴覚資料数

幕張	CD 40 点	DVD 465 点	スライド 7 点
仁戸名	CD 10 点	DVD 225 点	

3) 開館時間および開館日数

開館時間

【授業期間中開館時間】(幕張)月・金曜日 8:45~21:00, 火~木曜日 8:45~20:00, 土曜日 9:00~17:00
(仁戸名)月・金曜日 9:15~21:00, 火~木曜日 9:15~20:00, 土曜日 9:00~17:00

【授業のない期間】(幕張・仁戸名とも)月~金曜日:9:00~17:00 (但し仁戸名のみ夏休み中も土曜日開館)

開館日数(年間延べ数)

幕張	264 日
仁戸名	281 日

4) 利用状況

貸出冊数	幕張 3,687 冊	仁戸名 1,056 冊
参考業務件数	幕張 1,044 件	仁戸名 108 件
複写	幕張 216 件 2,299 枚	仁戸名 46 件 779 枚

5) 施設整備およびサービス向上に向けた取り組み

- 図書館ガイダンスの実施(計 8 回)
- 文献検索ガイダンスの実施(計 5 回)
- 文献検索セミナーの実施(計 3 回, 参加者のべ人数 70 名)
- 図書館だより「ぼ~れぼ~れ」の発行 年 2 回(4 月, 10 月)

4. 研究倫理を遵守するための措置

- ・令和3年4月1日、9月1日 新任教員を対象に、研究倫理・コンプライアンス研修会を実施した。
- ・令和4年3月4日 外部講師を招きFD研究倫理に関する講習会を遠隔リアルタイム方式で実施した。
- ・令和4年度より動物実験に従事する研究者に動物実験倫理についての教育訓練の定期的受講と実験後の自己点検・評価を求めることにした。

5. 評価（成果および改善すべき事項）

活動計画に基づき学内環境の整備、予算要求等を目標通り行うことができた。

ただ、学内のエアコンも古いものが多く、毎年故障が起きているため、机・椅子等と同様に学内の状況を把握するとともに、長期的な整備計画を作成する必要がある。また、消毒・換気等の対策を前提として、感染状況に応じて図書館の利用範囲を柔軟に調整できるよう、学内指針の改訂を働きかけ、11月から実施された。

幕張キャンパスでは書架の収容能力に対して所蔵資料冊数が限界に達しつつあり、前年度までより大規模な除籍を年間3回にわたって行った。今後は除籍に加え、残存資料の移動・調整が必要となってくる。

6. 次年度の方策

引き続き、教育研究環境の点検を定期的に行い、計画的な環境整備を行う。

また、文献検索セミナー、入学時の図書館ガイダンスを通して、学生の文献検索能力向上に努める。併せて学生が図書館を利用しやすいように、学習、教育、調査研究に資する資料の収集・整備に努める。

Ⅸ 研究活動報告

1. 看護学科

- (1) 著書：和文共著 14 件，その他 2 件，総数 16 件であった。
- (2) 学術論文：英文 8 件，和文 26 件，その他 13 件，総数 47 件であった。
- (3) 発表：国際学会 7 件，全国学会 48 件，地方学会 4 件，その他 3 件，総数 62 件であった。
- (4) 学術集会等での招待講演・シンポジウム等：4 件であった。
- (5) 研究資金獲得状況：外部資金として受託した研究は 99 件（うち科研費 62 件），学内共同は 20 件，学長裁量は 17 件であった。
- (6) 賞・特許：0 件であった。

2. 栄養学科

- (1) 著書：共著件の 18 著書があった。
- (2) 学術論文：英文原著 4 件，和文原著 9 件，その他 3，総数 16 件の発表があった。
- (3) 発表：国際学会 0 件，全国学会 19 件，地方学会件 0，総数 19 件であった。
- (4) 学術集会等での招待講演・シンポジウム等：総数 2 件であった。
- (5) 研究資金獲得状況：外部資金として受託した研究が 10 件（うち科研費 4 件），学内共同は 0 件，学長裁量研究は 4 件であった。
- (6) 賞・特許：0 件。

3. 歯科衛生学科

- (1) 著書：単著 0 件，共著 4 件，総数 4 件の著書があった。
- (2) 学術論文：英文原著 5 件，和文原著 6 件，総数 11 件の発表があった。
- (3) 発表：国際学会 1 件，全国学会 14 件，総数 15 件の発表があった。
- (4) 学術集会等での招待講演・シンポジウム等：0 件。
- (5) 研究資金獲得状況：外部資金として受託した研究が 7 件（科研費 6 件）であった。学内共同研究は 3 件，学長裁量研究 7 件であった。
- (6) 賞・特許：1 件であった。

4. リハビリテーション学科理学療法学専攻

- (1) 著書：0 件。
- (2) 学術論文：英文原著 4 件，和文原著 5 件，その他 4 件。総数 10 件の発表があった。
- (3) 発表：国際学会 3 件，全国学会 4 件，地方学会 3 件，総数 10 件の発表があった。
- (4) 学術集会等での招待講演・シンポジウム等：0 件。
- (5) 研究資金獲得状況：外部資金として受託した研究が 6 件（内科研費 1 件）であった。学内共同研究は 5 件であった。
- (6) 賞・特許：0 件。

5. リハビリテーション学科作業療法学専攻

- (1) 著書：単著 1 件、共著 2 件、総数 3 件の著書があった。
- (2) 学術論文：英文原著 6 件、和文原著 6 件、その他 0 件、総数 12 件の発表があった。
- (3) 発表：国際学会 2 件、全国学会 17 件、研修・講習会 23 件、総数 42 件の発表があった。
- (4) 学術集会等での招待講演・シンポジウム等：8 件
- (5) 研究資金獲得状況：外部資金として受託した研究が 2 件（内科研費 2 件）であった。学内共同は 2 件、学長裁量は 0 件であった。

X 内部質保証のための取り組み

1. 年度当初の課題

自己点検・評価委員会として挙げた年度当初の目標は以下の通りであった。

- 1) 自己点検・評価に関する方法や書式の再点検を行い、円滑な自己点検・評価の実施を行う
具体的な活動として、令和2年度の「重点施策達成に向けた自己点検・評価結果」を学内公開する。委員会での所掌を点検し、必要時、関連書式や委員会規定を改訂する。
- 2) 各部会長と委員長の連携を図り、部会の所掌事項の進行を促進する
- 3) R4年度の大学機関別認証評価受審に向けて、R3年度の計画を推進する
- 4) IRコンソーシアムの活用など、IRの機能を促進する
具体的な活動として、IRコンソーシアムの活用を検討する。卒業時調査や適宜実施される学生調査など、学内におけるIRの機能を果たす。
- 5) 大学組織の活動・成果・課題等について検証を行う

2. 評価（成果および改善すべき事項）

- 1) 令和3年11月に、大学運営会議において「千葉県立保健医療大学内部質保証の方針」を定めた。同時に「千葉県立保健医療大学内部質保証システム体系図」を作成し、内部質保証の方針および体制が明確になった。いずれも大学ホームページで公開した。その方針において、重点施策（中長期ビジョン）達成に向けた自己点検・評価は、将来構想検討委員会の所掌とし、自己点検・評価委員会（自己点検・評価推進実施部会）では新たに委員会活動の自己点検・評価を所掌することになった。

将来構想検討委員会においては、重点施策の目標達成に向けた方策として、年度当初に担当（責任）部門が年度目標と評価指標を明確にし、年度終了時に自己評価を行った。また、目標設定および目標達成の評価において、委員会で検証担当者を決めて検証を行うことにより内部質保証に取り組んだ。

自己点検・評価委員会から、令和2年度の「重点施策達成に向けた自己点検・評価結果」を学内公開した。

また、各部会の所掌を推進するために委員会規定を改訂した。

- 2) 4名の部会長での打ち合わせ会議を開催した。また、各部会から年間スケジュールを提出してもらい、前期に第1回の部会の開催を求め、部会員への所掌の周知を図ることができた。
- 3) R4年度の大学機関別認証評価受審に向けて、認証評価受審における体制を明確にした上で大学内でのR3年度の計画を推進し、スケジュール通りに準備が進行した。
- 4) IRコンソーシアムの活用を検討したが、年度内に分析データを公開するには至らなかった。IRコンソーシアムの活用については、次年度に検討を継続する。
IR部会により、卒業時調査および前期終了時に実施された学生調査において、調査の準備・実施・結果報告の役割を果たした。
- 5) 大学組織について検証を行った。委員会活動達成状況では概ね3の評価であった。また、重点施策の目標達成状況では担当事項について概ね3の評価であり、大学組織・所掌について問題はないと検証できた。

3. 達成事項と次年度の方策

達成事項は以下の通りであった。

- 1) ~2) の目標については計画通りに活動し、目標通りに達成できた。学内の円滑な自己点検・評価を推進するためには、引き続き、部会や関連委員会との所掌の確認や連携を検討していく必要がある。
- 3) についても、認証評価部会、大学運営会議等とも連携して計画通りに活動し、目標通りに達成できた。
- 4) については、IRコンソーシアムの活用により、年度内に分析データを公開するには至らなかった。IR部会は関連委員会から選出された部会員で構成されているため、各委員会の分析などにIRコンソーシアムのデータが活用できないか、各委員会でも検討を依頼する必要がある。
- 5) については、委員会に関して大学組織・所掌について問題はないと検証できた。

次年度の方策は以下の通りである。

R3 年度に「千葉県立保健医療大学内部質保証の方針」および「千葉県立保健医療大学内部質保証システム体系図」が決定された。その方針に則り、学内の円滑な自己点検・評価を推進するために、引き続き、部会や関連委員会との連携を検討していく必要がある。

R4 年度の大学機関別認証評価受審に関して関係書類を提出し、書面評価・実地調査等に対応して R5 年 3 月に評価結果を得る予定である。

IR 部会において、IR コンソーシアムの具体的な活用を検討する。また、教育研究年報のデータ等の各委員会が集積しているデータを一括して管理することを目指し、学内外で収集・蓄積する情報とその収集方法・蓄積方法に関する検討を開始する。

第2部

教員の教育研究活動記録

学長

学長 龍野 一郎 博士 (医学)

対象期間：2021年4月1日～2022年3月31日まで

I 年度当初の目標

2021年4月1日より千葉県立保健医療大学三代目の学長に就任し、本学の教職員の幅広い意見を集約し、大学院設置、キャンパス統合、独立法人化などの長期的課題に取り組む。加えて、新型コロナウイルス感染症拡大によって混乱が生じている大学教育の現場に機動的な感染症対策を実施し、教育環境の正常化に努める。研究面では肥満症の統合治療の研究を押しすすめ、社会に還元する。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
 - ・体験ゼミナール.
 - ・管理栄養士導入教育.

III 研究記録

1 著書 (著者本人下線：著書, 発行年, 発行所, 発行場所)

A. 英文

- 1) Yamaguchi T, Tanaka S, Ishihara N, Saiki A, Tatsuno I. A Survey of Bariatric/Metabolic Surgery as a Treatment Option for Patients with Severe Obesity and Type 2 Diabetes in Japan. *Obes Surg*. 2022 Mar;32(3):926-929. doi: 10.1007/s11695-021-05762-7. Epub 2021 Oct 23.
- 2) Ohira M, Tanaka S, Watanabe Y, Nakamura S, Oka R, Yamaguchi T, Ban N, Saiki A, Ishihara N, Murano T, Murase T, Nakamura T, Tatsuno I. Association of Plasma Xanthine Oxidoreductase with Arterial Stiffness in Type 2 Diabetes with Liver Dysfunction. *Am J Med Sci*. 2022 Mar;363(3):242-250. doi: 10.1016/j.amjms.2021.09.011. Epub 2021 Oct 4.
- 3) Ohira M, Abe K, Yamaguchi T, Onda H, Yamaoka S, Nakamura S, Tanaka S, Watanabe Y, Nabekura T, Oshiro T, Nagayama D, Saiki A, Tatsuno I. Preoperative Plasma Aldosterone Predicts Complete Remission of Type 2 Diabetes after Bariatric Surgery. *Obes Facts*. 2022;15(3):373-383. doi: 10.1159/000521855. Epub 2022 Jan 11.
- 4) Sasaki A, Yokote K, Naitoh T, Fujikura J, Hayashi K, Hirota Y, Inagaki N, Ishigaki Y, Kasama K, Kikkawa E, Koyama H, Masuzaki H, Miyatsuka T, Nozaki T, Ogawa W, Ohta M, Okazumi S, Shimabukuro M, Shimomura I, Nishizawa H, Saiki A, Seki Y, Shojima N, Tsujino M, Ugi S, Watada H, Yamauchi T, Yamaguchi T, Ueki K, Kadowaki T, Tatsuno I; Joint Committee in the Japanese Society for Treatment of Obesity, the Japan Diabetes Society, the Japan Society for the Study of Obesity. Metabolic surgery in treatment of obese Japanese patients with type 2 diabetes: a joint consensus statement from the Japanese Society for Treatment of Obesity, the Japan Diabetes Society, and the Japan Society for the Study of Obesity. *Diabetol Int*. 2021 Nov 8;13(1):1-30. doi: 10.1007/s13340-021-00551-0. eCollection 2022 Jan.
- 5) Shimizu N, Ngayama D, Watanabe Y, Yamaguchi T, Nakamura S, Ohira M, Saiki A, Onda H, Yamaoka S, Abe K, Nakaseko C, Tatsuno I. Rituximab, cyclophosphamide, doxorubicin, vincristine and prednisolone therapy increases carotid intima-media thickness and plaque score with von Willebrand factor activity elevation in patients with malignant lymphoma. *J Chemother*. 2021 Oct

- 18:1-6. doi: 10.1080/1120009X.2021.1988202. Online ahead of print.
- 6) Ohira M, Watanabe Y, Yamaguchi T, Saiki A, Nakamura S, Tanaka S, Shimizu N, Nabekura T, Oshiro T, Tatsuno I. Determinants of type 2 diabetes remission after bariatric surgery in obese Japanese patients: a retrospective cohort study. *Diabetol Int*. 2021 Jan 28;12(4):379-388. doi: 10.1007/s13340-021-00493-7. eCollection 2021 Oct.
 - 7) Yamaguchi T, Ohira M, Kawagoe N, Nakamura S, Tanaka S, Oka R, Watanabe Y, Sato Y, Nagayama D, Saiki A, Matsuzawa Y, Bujo H, Terai K, Hiruta N, Tatsuno I, Nakaseko C, Kikuchi H, Matsuoka K, Yokota H, Shimizu N. High presepsin concentrations in bile and its marked elevation in biliary tract diseases: A retrospective analysis. *Clin Chim Acta*. 2021 Oct;521:278-284. doi: 10.1016/j.cca.2021.07.025. Epub 2021 Jul 29.
 - 8) Saiki A, Yamaguchi T, Sasaki A, Naitoh T, Matsubara H, Yokote K, Okazumi S, Ugi S, Yamamoto H, Ohta M, Ishigaki Y, Kasama K, Seki Y, Tsujino M, Shirai K, Miyazaki Y, Masaki T, Nagayama D, Tatsuno I. Background characteristics and diabetes remission after laparoscopic sleeve gastrectomy in Japanese patients with type 2 diabetes stratified by BMI: subgroup analysis of J-SMART. *Diabetol Int*. 2021 Jan 2;12(3):303-312. doi: 10.1007/s13340-020-00487-x. eCollection 2021 Jul.
 - 9) Saiki A, Watanabe Y, Yamaguchi T, Ohira M, Nagayama D, Sato N, Kanayama M, Takahashi M, Shimizu K, Moroi M, Miyashita Y, Shirai K, Tatsuno I. CAVI-Lowering Effect of Pitavastatin May Be Involved in the Prevention of Cardiovascular Disease: Subgroup Analysis of the TOHO-LIP. *J Atheroscler Thromb*. 2021 Oct 1;28(10):1083-1094. doi: 10.5551/jat.60343. Epub 2020 Dec 18.
 - 10) Naito K, Suzuki S, Ohwada C, Ishiwata K, Ruike Y, Ishida A, Deguchi-Horiuchi H, Fujimoto M, Koide H, Sakaida E, Horiguchi K, Iwadate Y, Tatsuno I, Inoshita N, Ikeda JI, Tanaka T, Yokote K. ICAM1-Negative Intravascular Large B-Cell Lymphoma of the Pituitary Gland: A Case Report and Literature Review. *AACE Clin Case Rep*. 2021 Feb 9;7(4):249-255. doi: 10.1016/j.aace.2021.01.011. eCollection 2021 Jul-Aug.
 - 11) Watanabe Y, Suzuki D, Kuribayashi N, Uchida D, Kato M, Ohashi H, Nagayama D, Yamaguchi T, Ohira M, Saiki A, Tatsuno I. A randomized controlled trial of two diets enriched with protein or fat in patients with type 2 diabetes treated with dapagliflozin. *Sci Rep*. 2021 May 31;11(1):11350. doi: 10.1038/s41598-021-90879-z.
 - 12) Ishida A, Igarashi K, Ruike Y, Ishiwata K, Naito K, Kono S, Deguchi H, Fujimoto M, Shiga A, Suzuki S, Yoshida T, Tanaka T, Tatsuno I, Yokote K, Koide H. Association of urinary free cortisol with bone formation in patients with mild autonomous cortisol secretion. *Clin Endocrinol (Oxf)*. 2021 Apr;94(4):544-550. doi: 10.1111/cen.14385. Epub 2020 Dec 17.
 - 13) Watanabe Y, Yamaguchi T, Yamaoka S, Abe K, Onda H, Nakamura S, Tanaka S, Oshiro T, Ohira M, Nagayama D, Shimizu N, Tatsuno I, Saiki A. Effect of Conventional Medical Therapy or Laparoscopic Sleeve Gastrectomy on Urinary Albumin in Japanese Subjects with Severe Obesity: An Observational Study. *Obes Facts*. 2021;14(6):613-621. doi: 10.1159/000519156. Epub 2021 Oct 14.
 - 14) Ohira M, Watanabe Y, Yamaguchi T, Onda H, Yamaoka S, Abe K, Nakamura S, Tanaka S, Kawagoe N, Nabekura T, Saiki A, Oshiro T, Nagayama D, Tatsuno I. The Relationship between Serum Insulin-Like Growth Factor-1 Levels and Body Composition Changes after Sleeve Gastrectomy. *Obes Facts*. 2021;14(6):641-649. doi: 10.1159/000519610. Epub 2021 Oct 14.
 - 15) Ohira M, Watanabe Y, Yamaguchi T, Onda H, Yamaoka S, Abe K, Nakamura S, Tanaka S, Kawagoe N, Nabekura T, Oshiro T, Nagayama D, Tatsuno I, Saiki A. Decreased Triglyceride and Increased Serum Lipoprotein Lipase Levels Are Correlated to Increased High-Density Lipoprotein-Cholesterol Levels after Laparoscopic Sleeve Gastrectomy. *Obes Facts*. 2021;14(6):633-640. doi: 10.1159/000519410. Epub 2021 Oct 11.
 - 16) Onozaki A, Nagayama D, Azuma N, Sugai K, Shitara E, Sakai T, Masai M, Shirai K, Tatsuno I. Relation of Maximum Lifetime Body Mass Index with Age at Hemodialysis Initiation and Vascular Complications

in Japan. *Obes Facts*. 2021;14(5):550-558. doi: 10.1159/000518049. Epub 2021 Aug 13.

- 17) Watanabe Y, Tatsuno I. Omega-3 polyunsaturated fatty acids focusing on eicosapentaenoic acid and docosahexaenoic acid in the prevention of cardiovascular diseases: a review of the state-of-the-art. *Expert Rev Clin Pharmacol*. 2021 Jan;14(1):79-93. doi: 10.1080/17512433.2021.1863784. Epub 2020 Dec 23.
- 18) Tatsuno I. Part 4 Cardiovascular risk factors and CAVI Chapter 22 Uric acid as a cardiovascular risk. *Cardio-Ankle Vascular Index Overview & Clinical Application*. p182-184, 2022. Edited by Kohji Shirai, Roland Asmar, Hajime Orimo, Publisher COMPASS Co, Ltd, Tokyo Japan.

B. 和文

- 1) 清水 直美, 山口 崇, 寺井 謙介, 蛭田 啓之, 中世古 知昭, 龍野 一郎: 感染所見なくプレセブシンレベル異常高値を長期間呈した TAFRO 症候群. *日本臨床検査医学会誌* (2436-2727) 70 巻 1 号 Page29-34 (2022. 01)
- 2) 佐々木 章, 内藤 剛, 横手 幸太郎, 稲垣 暢也, 益崎 裕章, 綿田 裕孝, 小川 涉, 下村 伊一郎, 山内 敏正, 石垣 泰, 笠間 和典, 野崎 剛弘, 島袋 充生, 藤倉 純二, 宮塚 健, 庄嶋 伸浩, 西澤 均, 廣田 勇士, 卯木 智, 太田 正之, 岡住 慎一, 吉川 絵梨, 小山 英則, 齋木 厚人, 関 洋介, 辻野 元祥, 林果林, 山口 崇, 龍野 一郎, 植木 浩二郎, 門脇 孝, 日本人の肥満 2 型糖尿病患者に対する減量・代謝改善手術の適応基準に関する 3 学会合同委員会, 日本肥満症治療学会, 日本糖尿病学会, 日本肥満学会. 日本人の肥満 2 型糖尿病患者に対する減量・代謝改善手術に関するコンセンサスステートメント. *糖尿病* (0021-437X) 65 巻 3 号 Page109-177 (2022. 03)
- 3) 山口 崇, 龍野 一郎: 病態生理を踏まえた薬物治療・薬学管理へ 代謝系, 内分泌疾患 脂質異常症. *薬局* (0044-0035) 73 巻 4 号 Page1103-1110 (2022. 03)
- 4) 龍野 一郎: 日本人の肥満 2 型糖尿病患者に対する減量・代謝改善手術の適応基準に関する 3 学会合同委員会コンセンサスステートメント 2021 統合的肥満症治療としての減量・代謝改善手術. *糖尿病・内分泌代謝科* (2435-1946) 54 巻 1 号 Page102-108 (2022. 01)
- 5) 大平 征宏, 木村 道明, 小菅 孝明, 熊野 浩太郎, 龍野 一郎, 秋葉 哲生: 桂枝加朮附湯エキスと麻黄附子細辛湯エキスの併用により軽快した関節炎の一例. *日本東洋医学雑誌* (0287-4857) 72 巻 4 号 Page388-396 (2021. 10)
- 6) 山口 崇, 龍野 一郎, 武城 英明: 【内分泌疾患・糖尿病・代謝疾患-診療のエッセンス】 (III 章) 代謝疾患 脂質代謝異常 原発性高カイクロミクロン血症. *日本医師会雑誌* (0021-4493) 150 巻特別 2 Page S280-S281 (2021. 10)
- 7) 佐々木 章, 内藤 剛, 横手 幸太郎, 稲垣 暢也, 益崎 裕章, 綿田 裕孝, 小川 涉, 下村 伊一郎, 山内 敏正, 石垣 泰, 笠間 和典, 野崎 剛弘, 島袋 充生, 藤倉 純二, 宮塚 健, 庄嶋 伸浩, 西澤 均, 廣田 勇士, 卯木 智, 太田 正之, 岡住 慎一, 吉川 絵梨, 小山 英則, 齋木 厚人, 関 洋介, 辻野 元祥, 林果林, 山口 崇, 龍野 一郎, 植木 浩二郎, 門脇 孝, 日本肥満症治療学会, 日本糖尿病学会, 日本肥満学会, 日本人の肥満 2 型糖尿病患者に対する減量・代謝改善手術の適応基準に関する 3 学会合同委員会. 日本人の肥満 2 型糖尿病患者に対する減量・代謝改善手術に関するコンセンサスステートメント. *肥満研究* (1343-229X) 27 巻 2 号 Page1-74 (2021. 08)
- 8) 龍野 一郎: 肥満とやせの臨床 病態の解明と新たな治療法をめぐって】肥満とやせの治療とその着目点 日本における肥満外科(減量・代謝改善)手術の現状と将来 肥満 2 型糖尿病への臨床応用. *Medical Practice* (0910-1551) 38 巻 7 号 Page1091-1095 (2021. 07)
- 9) 龍野 一郎: 7. 各施設における術前術後のメンタルヘルスサポート体制の実際 Q51 院内に精神科・心療内科のない施設の場合のメンタルヘルスのサポート体制は? P187-190, 2022 減量・代謝改善手術のためのメンタルヘルス・ガイドブック 2022 評価と対応に関する Q&A 日本肥満症治療学会編.
- 10) 龍野 一郎, 篠宮正樹, 横手幸太郎: コロナ禍の羅針盤: 医療現場からの情報提供とアドバイス NPO 法人小象の会 発行
- 11) 篠宮正樹, 龍野 一郎: 医療現場からコロナ禍の羅針盤① はじめに-コロナ禍に必要な知の蓄積- 千葉日報 2021 年 10 月 21 日
- 12) 龍野 一郎: 医療現場からコロナ禍の羅針盤④ あらわになった社会を取り巻く課題 -格差と分断- 千葉日報 2021 年 11 月 10 日

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- 1) 山口崇，川久保さおり，瀬尾恵理，鮫田真理子，阿部一輝，恩田洋紀，山岡周平，中村祥子，渡邊康弘，川名秀俊，大平征宏，大城崇司，齋木厚人，龍野一郎：高度肥満患者のビタミンD欠乏に対する天然型ビタミンDの補充量・期間の検討 第94回日本内分泌学会学術集会，2021年4月22日，Web
- 2) 山口崇，森本聡，須田睦人，市原淳弘，阿部一輝，恩田洋紀，山岡周平，中村祥子，河越尚幸，渡邊康弘，川名秀俊，大平征宏，齋木厚人，清水直美，龍野一郎：肥満外科治療前後の血中可溶性プロレニン受容体の動態とその意義 第94回日本内分泌学会学術集会，2021年4月22日，Web
- 3) 阿部一輝，恩田洋紀，山岡周平，中村祥子，田中翔，渡邊康弘，山口崇，大平征宏，清水直美，齋木厚人，大城崇司，龍野一郎：高度肥満合併2型糖尿病患者において，術前の血漿アルドステロン濃度は肥満外科手術後の糖尿病寛解の予測因子となる 第94回日本内分泌学会学術集会，2021年4月22日，Web
- 4) 齋木厚人，山口崇，佐々木章，内藤剛，松原久裕，横手幸太郎，岡住慎一，卯木智，山本寛，太田正之，石垣泰，笠間和典，関洋介，辻野元祥，白井厚治，宮崎弘，正木孝幸，永山大二，龍野一郎：日本人肥満2型糖尿病におけるBMI35kg/m²未満の代謝学的特徴とスリーブ状胃切除後の糖尿病改善効果～J-SMARTサブ解析～ 第64回日本糖尿病学会年次学術集会，2021年5月20日，金沢
- 5) 山口崇，田中翔，齋木厚人，大城崇司，龍野一郎：スリーブ状胃切除後の糖尿病寛解予測因子とスコアリングシステムの検証（多施設共同研究J-SMART）第64回日本糖尿病学会年次学術集会，2021年5月20日，金沢
- 6) 金居理恵子，齋木厚人，川久保さおり，瀬尾恵理，山浦一恵，木下幸歩，神戸和泉，鮫田真理子，大城崇司，龍野一郎：高度肥満症患者における低亜鉛血症の実態と関連する因子について 腹腔鏡下スリーブ状胃切除前後の検討 第36回日本臨床栄養代謝学会，2021年7月21日，神戸
- 7) 山口崇，田中翔，齋木厚人，大城崇司，龍野一郎：スリーブ状胃切除後の糖尿病再発に関する実態調査（多施設共同研究J-SMART）． 第22回日本内分泌学会関東甲信越支部学術集会 2021年9月24日，千葉(Web)．
- 8) 渡邊 康弘，恩田 洋紀，山岡 周平，阿部 一輝，中村 祥子，田中 翔，山口 崇，龍野 一郎，大城 崇司，齋木 厚人：日本人高度肥満症患者に対する内科治療および腹腔鏡下スリーブ状胃切除術によるアルブミン尿への影響についての検討 第22回日本内分泌学会関東甲信越支部学術集会 2021年9月25日，千葉(Web)．
- 9) 清水直美，恩田洋紀，山岡周平，阿部一輝，中村祥子，田中翔，渡邊康弘，山口崇，大平征宏，齋木厚人，龍野一郎：内分泌異常により高Ca血症を呈したB細胞性悪性リンパ腫4症例の検討 第22回日本内分泌学会関東甲信越支部学術集会 2021年9月25日，千葉(Web)．
- 10) Shimizu N, Onda H, Yamaoka S, Abe K, Nakamura S, Tanaka S, Watanabe Y, Yamaguchi T, Saiki A, Tatsuno I : CAVI during therapy of rituximab and cyclophosphamide, doxorubicin, vincristine, and prednisolone (R-CHOP). 第3回臨床健康血管研究会 2021年10月，東京
- 11) 清水直美，阿部一輝，恩田洋紀，山岡周平，中村祥子，田中翔，渡邊康弘，山口崇，齋木厚人，龍野一郎：悪性リンパ腫症例の化学療法と動脈硬化の関連 第53回日本動脈硬化学会総会，2021年10月24日，京都
- 12) 山岡周平，山口崇，鮫田真理子，阿部一輝，恩田洋紀，中村祥子，田中翔，渡邊康弘，辻沙耶佳，鍋倉大樹，大城崇司，清水直美，龍野一郎，齋木厚人：心筋脂肪酸代謝異常を認め，MCT食を試みた肥満心筋症の2症例 第53回日本動脈硬化学会総会，2021年10月24日，京都
- 13) 渡邊康弘，恩田洋紀，山岡周平，阿部一輝，中村祥子，田中翔，山口崇，龍野一郎，大城崇司，齋木厚人：高度肥満症患者に対する内科治療および外科治療によるアルブミン尿への影響についての検討 第42回日本肥満学会・第39回日本肥満症治療学会学術集会，2022年3月26日，横浜
- 14) 山口崇，田中翔，齋木厚人，大城崇司，龍野一郎：日本人肥満2型糖尿病におけるBMI35kg/m²未満の代謝学的特徴とスリーブ状胃切除後の糖尿病改善効果～J-SMARTサブ解析～ 第42回日本肥満学会・第39回日本肥満症治療学会学術集会，2022年3月26日，横浜

4 学術集会での招待講演（教育講演や基調講演）やシンポジウム等（学術集会名，テーマ，開催日，場所等）

- ・龍野一郎：特別講演「肥満と癌」第121回日本外科学会定期学術集会「市民講座」2021年4月11日，千葉
- ・龍野一郎：特別講演「肥満症の統合的な治療戦略 -減量・代謝改善手術と肥満2型糖尿病-」国立病院機構関東甲信越集会，2021年6月11日，Web.
- ・龍野一郎：特別講演「統合的な肥満症治療と内分泌代謝学 -東邦大学医療センター佐倉病院を中心とした10年の活動-」第22回日本内分泌学会関東甲信越学術集会サテライトシンポジウム，2021年11月13日，佐倉
- ・龍野一郎：教育講演「肥満症治療における肥満外科の役割-肥満2型糖尿病と減量・代謝改善手術(メタボリックサージ

- ェリ)」 第22回日本動脈硬化学会教育フォーラム, 2022年2月6日, 東京
- ・龍野一郎: シンポジウム「2型糖尿病を合併する肥満症への最新の治療戦略 -薬物療法の進歩と減量・代謝改善手術の臨床応用-」 日本糖尿病学会第56回糖尿病学の進歩, シンポジウム5「糖尿病集約的治療 update」, 2022年2月25日, 愛媛
 - ・龍野一郎: 理事長提言「ポストコロナにおける肥満症治療 -二つのパンデミックと日本肥満症治療学会-」 第39回日本肥満症治療学会学術集会・第42回日本肥満学会, 2022年3月27日, 横浜

IV 社会貢献・国際交流記録

4 職能団体委員等(職能団体名称, 委員名称, 活動期間)

- ・社団福祉法人千葉県身体障害者福祉事業団 評議員 2021年4月1日～
- ・健康ちば地域・職域連携推進協議会 委員 2021年4月1日～
- ・千葉地方裁判所委員 2021年4月1日～

5 学会, 学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

日本内科学会・日本内分泌学会・日本糖尿病学会・日本肥満学会・日本肥満症治療学会・日本臨床栄養学会・日本動脈硬化学会・日本性差医療医学会, 日本骨粗鬆症学会・日本成人病学会・日本医療マネジメント学会・千葉医学会

2) 学会, 学術団体への貢献(学会・学術団体名, 役職)

日本肥満症治療学会 理事長

日本臨床栄養学会 理事・COI 委員会委員

日本栄養療法推進協議会 理事

日本内科学会 評議員, 関東地方会元常任幹事

日本内分泌学会 関東甲信越支部幹事, 評議員, 前専門医認定部会試験小委員会副委員長

日本肥満学会 評議員, 日本肥満学会・日本肥満症治療学会合同委員会委員長

日本糖尿病学会 学術評議員

日本骨粗鬆症学会 評議員, 骨粗鬆症検診委員会委員

日本動脈硬化学会 評議員

日本性差医療・医学会 評議員

日本成人病生活習慣病学会 評議員

千葉医学会 評議員

日本医療マネジメント学会千葉県支部 理事

V 管理・運営記録

1 全学委員会(委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・大学運営会議, 衛生委員会, 新型コロナ研究プロジェクトチーム, 次期情報システムワーキンググループ

VI 評価(成果および改善すべき事項)

全教員との面談を通して, 本学の持つ中長期的な課題を共有するとともに, 将来構想委員会の活動を通して, シンクタンク機能としての本学の役割の機能に努めることができた。また, 新型コロナ感染症対策については ICT を用いた報告体制の整備, マニュアルの機動的な改訂, 学長メッセージ, オンデマンドビデオなどを多用した感染・広報対策を実施, 学生のワクチン接種を促進して, クラスタなどの感染の拡大を防止し, 授業の正常化をはかった。

VII 次年度の目標

引き続き新型コロナウイルス感染対策を強化し、学生に寄り添って大学の授業環境を正常化する。同時に、県の保健医療政策の連携拠点としての役割（保健医療に関するシンクタンク機能を強化・発揮、地域への貢献、時代のニーズに合わせた人材育成）を果たす。

看護学科

教授 石井 邦子 博士（看護学）

対象期間：2021年4月1日～2022年3月31日まで

I 年度当初の目標

令和3年度は、特に、教育活動ではCOVID-19パンデミックの影響で主流となるであろう遠隔授業や学内実習の充実を図るとともに、学習困難者へのタイムリーな支援を行う。研究活動は、新規採択の科研を計画通りに進めるとともに、COVID-19パンデミックに関係する喫緊の研究課題にも積極的に取り組む。また、学術集会を計画通りに開催する。大学管理運営では、副学長として、学長、事務局長、学部長等と連携し、円滑な運営体制を構築する。社会貢献では、文部科学省および看護系団体に与えられた役割を確実に遂行する。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・看護学入門.
- ・看護学入門学習.
- ・育成支援看護概論.
- ・母性看護学方法論Ⅰ.
- ・母性看護学方法論Ⅱ.
- ・母性看護学実習.
- ・助産学概論.
- ・助産診断・技術学Ⅰ.
- ・助産診断・技術学Ⅱ.
- ・助産診断・技術学Ⅲ.
- ・助産診断・技術学Ⅳ.
- ・助産学実習Ⅰ（産婦ケア体験）.
- ・助産学実習Ⅱ（継続支援）.
- ・助産学実習Ⅲ（産婦ケア）.
- ・総合実習.
- ・看護研究.

2) 他大学、大学院等の非常勤講師（科目名、大学名）

- ・統合医療安全・特定行為実践特論（放送大学大学院）.

III 研究記録

1 著書（著者本人下線：著書、発行年、発行所、発行場所）

- ・石井邦子, 廣間武彦, 他：助産診断・技術学Ⅱ [3] 新生児・乳幼児期（助産学講座第8巻）第6版, 2022年, 医学書院, 東京
- ・森恵美, 鈴木俊治, 大月恵理子, 石井邦子, 他：助産師基礎教育テキスト（2020年版）第4巻 妊娠期の診断とケア 第5章妊娠経過に対応したケア, 第7章妊婦や家族の親準備・出産準備へのケア 1. 初産婦とその家族の親準備へのケア, 2022, 日本看護協会出版会.
- ・石井邦子, 他：2021年版系統別看護師国家試験問題集 第109回看護師国家試験 解答と解説, 2021, 医学書院, 東京.

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・川城由紀子，石井邦子，川村紀子，北川良子：母性看護学実習における産後の女性へのオンラインインタビューによる学生の学び，千葉県立保健医療大学紀要，13巻，1号，45-50，2022.

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・石井邦子，川城由紀子，川村紀子，北川良子：新型コロナウイルス(COVID-19)感染拡大地域における母性看護学学内実習の実際，第23回日本母性看護学会学術集会，2021年5月22日（6月1～30日），Web開催.
- ・川城由紀子，石井邦子，川村紀子，北川良子：新型コロナウイルス(COVID-19)感染拡大に伴う母性看護学学内実習における看護過程展開の評価，第23回日本母性看護学会学術集会，2021年5月22日（6月1～30日），Web開催.
- ・川城由紀子，石井邦子，川村紀子，北川良子：母性看護学学内実習における産後の女性へのインタビューによる学生の学び，第39回千葉県母性衛生学会学術集会，2021年6月5日（6月7～30日），Web開催.

4 学術集会での招待講演（教育講演や基調講演）やシンポジウム等（学術集会名，テーマ，開催日，場所等）

- ・第23回日本母性看護学会学術集会会長講演，次代へと命をつなぐ確かなケアが未来を拓く，2021年5月22日（6月1～30日），Web開催.

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・科学研究費補助金基盤研究（C），熟練看護職の実践知に基づく産後抑うつ状態の診断力育成プログラムの開発，研究代表者.
- ・学内共同研究，コミュニケーション能力の習得に向けた学内母性看護学実習プログラムの評価－模擬患者と模擬指導者への調査－，研究分担者.
- ・学内共同研究，中小規模の周産期医療機関に転職した中堅助産師のキャリアニーズの現状とキャリア支援プログラムの考案，研究分担者.

IV 社会貢献・国際交流記録

2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等，活動期間，場所等）

- ・新型コロナウイルス感染症対応に伴う県内保健所応援（延べ2日）.
- ・内診スキルアップセミナーの企画・実施，2021.7.15，2021.8.5，くぼのやウィメンズホスピタル

3 審議会，委員会，国家試験委員等の実績（活動団体名称，委員名称，活動期間）

- ・文部科学省，大学設置・学校法人審議会（大学設置分科会）特別委員，2021.4～2022.3.
- ・文部科学省，職業実践力育成プログラム（BP）認定審査委員会委員，2021.4～2022.3.

4 職能団体委員等（職能団体名称，委員名称，活動期間）

- ・日本看護系大学協議会，高等教育行政対策委員会委員，2021.4～2022.3.
- ・千葉県ナースセンター運営委員会，委員，2021.4～2022.3.
- ・日本看護学教育評価機構，理事，2021.4～2022.3.

5 学会，学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本母性看護学会，日本看護科学学会，日本助産学会，日本母性衛生学会，日本生殖看護学会，千葉看護学会，千葉県母性衛生学会.

2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名，役職，活動期間）

- ・日本母性看護学会，副理事長，2021.4～2021.6.
- ・日本母性看護学会，理事長，2021.6～2022.3.

- ・日本母性看護学会第23回学術集会. 企画委員. 2021.4～2021.6.
- ・千葉県母性衛生学会. 理事. 2021.4～2022.3.

7 その他

- ・公益信託山路ふみ子専門看護教育研究助成基金運営委員. 2021.4～2022.3.
- ・公益信託 中西睦子看護学先端的研究基金運営委員. 2021.4～2022.3.
- ・医療法人満葉会倫理委員会委員. 2021.4～2022.3
- ・放送大学客員教授. 2021.4～2022.3.

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・大学評議会. 大学運営会議. 教授会. 将来構想・検討委員会. 総務・企画委員会. 広報委員会. 危機管理委員会. キャンパス・ハラスメント防止対策委員会

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科教授会

3 対外広報活動＜新聞・ホームページでの活動・TV出演, ラジオ出演等＞

- ・ホームページ: 千葉県立保健医療大学育成支援看護学領域母性看護学・助産学.
(<https://square.umin.ac.jp/cpuhs-mm>)

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動では、遠隔授業の動画の改良, および、遠隔と学内の効率的な連動により学習効果をあげることができた。学習困難者への支援は、教員間での情報共有を密にして、適時に行うことができた。研究活動では、研究代表者を務める科研を計画通りに進めることができたことに加え、COVID-19 パンデミックに関係する研究成果を公表し、共同研究によって新たな課題にも積極的に取り組むことができた。学術集会長を務めた第23回日本看護学科学術集会は、教室員一丸となって取り組み、100名を超える規模となり無事に終えることができた。大学管理運営では、副学長として、学長、事務局長、学部長等と連携し、円滑な運営体制を構築できた。社会貢献では、文部科学省および看護系団体に与えられた役割を確実に遂行することができた。

VII 次年度の目標

令和4年度は、教育活動では、ウィズ・コロナを見据えて、対面授業と遠隔授業のメリットを活かしたハイブリッドによる授業を実施し、検証する。研究活動では、研究代表者を務める科研を計画通りに進めるとともに、教室で取り組んでいる母性看護学実習と中堅助産師のキャリア開発に関する研究にも精力的に取り組む。大学管理運営では、副学長として、学長、事務局長、学部長等と円滑な運営体制を継続し、将来構想等の諸課題に取り組む。認証評価受審を滞りなく実施する。社会貢献では、学会や看護系団体から与えられた役割を確実に遂行する。

教授 佐藤 紀子 博士（看護学）

対象期間：2021年4月1日～2022年3月31日まで

I 年度当初の目標

引き続き COVID-19 の影響を受けることより、新たな授業形態の評価をし、より効果的な教育方法を検討し改善を図る。また、看護学科全体で必要に応じて情報共有を行い、不十分な学習内容を領域間で補完しながら卒業時までに必要な看護実践能力が修得できる体制づくりをしていく。研究については、遅れている研究課題について、コロナ下であっても目標が達成できるよう、計画を見直し推進する。管理運営については、看護学科長として引き続き個々の教員の意欲を高め、県立大としての使命が果たせる体制づくりを強化する。また、新たに拝命する将来構想検討委員会の委員長として、本学の大学院・法人化・キャンパス統合を含む方針の明確化と推進に努める。社会貢献としては、学内業務とのバランスをうまくとりながら、各学会での役割が推進できるようにする。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・看護学入門.
- ・看護学入門実習.
- ・地域看護学概論.
- ・地域看護学方法論Ⅰ.
- ・地域看護学方法論Ⅲ.
- ・災害看護学.
- ・地域看護学実習.
- ・総合実習（地域看護学）.
- ・看護研究.
- ・看護学統合.

III 研究記録

1 著書（著者本人下線：著書，発行年，発行所，発行場所）

- ・佐藤紀子：第1章 1 母子保健福祉活動，最新公衆衛生看護学第3版 2022年版各論1（宮崎美砂子他編集），2-49，2022年2月，日本看護協会出版会，東京。

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・佐藤紀子，細山田康恵，今井宏美，大内美穂子，岡村太郎，麻賀多美代：看護医療系の単科公立大学における地域貢献機能の特徴，千葉保医大紀要，13巻，1号，51-57，2022年3月。
- ・佐藤紀子：保健師の家庭訪問援助事例を教材とした授業展開，看護展望，46巻，6号，43-47，2021年5月。

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・細谷紀子，雨宮有子，杉本健太郎，泰羅万純，佐藤紀子：全国市町村における災害時の共助を意図した平常時の保健師活動の概要，日本地域看護学会第24回学術集会，2021年9月11日～12日，オンライン開催。
- ・飯野 理恵，宮崎 美砂子，石丸 美奈，佐藤 紀子，時田 礼子，鈴木 悟子，杉田 由加里，佐藤 太一，栗栖 千幸，土屋 裕子：予防活動の持続・発展のための地域看護実践ワークブックのOJTへの活用 第2報—多様職場における活用の実際と影響—，日本地域看護学会第24回学術集会，2021年9月11日～12日，オンライン開催。

- ・Noriko Hosoya, Kentaro Sugimoto, Masumi Taira, Yuko Amamiya, Noriko Sato: Activities of public health nurses in normal times to persons requiring support during disasters, 第10回日本公衆衛生看護学会学術集会10周年記念大会 6th International Conference of Global Network of Public Health Nursing 合同開催, 2022年1月8～9日, オンライン開催.
- ・細谷紀子, 佐藤紀子, 雨宮有子, 杉本健太郎, 石丸美奈: 発達障害児者のレジリエンスに関する研究動向 (文献レビュー), 文化看護学会第14回学術集会, 2022年3月12日, オンライン開催.

5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・文部科学省科学研究費 (基盤研究 (C)), エンパワメント基盤型介護予防支援ガイドの開発, 研究代表者.
- ・文部科学省科学研究費 (基盤研究 (C)), 医療職配置のない高齢者住宅の介護職員が活用できる新たな感染対策マニュアルの開発, 研究分担者.
- ・文部科学省科学研究費 (基盤研究 (C)), 発達障害児の親に対する地域との繋がりづくりを意図した防災プログラム評価指標の開発, 研究分担者.
- ・文部科学省科学研究費 (基盤研究 (C)), 保健師活動への意欲を原動力にしてリーダーシップを発揮するためのガイドの開発, 研究分担者.
- ・文部科学省科学研究費 (基盤研究 (B)), 予防活動の持続・発展のための地域看護実践のOJT実用化研究, 研究協力者.
- ・2021年度学長裁量研究費, リフレクションに基づく個別支援実践能力育成の普及に向けたプリセプター養成に係る基礎調査, 共同研究者.

IV 社会貢献・国際交流記録

3 審議会, 委員会, 国家試験委員等の実績 (活動団体名称, 委員名称, 活動期間)

- ・千葉県現任教育推進会議, 委員長, 2012年4月～現在.
- ・千葉県高齢者保健福祉計画策定・推進協議会, 委員, 2020年4月～2023年3月.
- ・千葉県介護予防・日常生活圏ニーズ調査分析事業業務委託に係る選考委員会, 委員, 2021年4月～5月.
- ・令和4年度千葉県看護職員研修事業「実習指導者講習会」および「特定分野 (7日間コース)」受託者選定会議, 委員, 2022年2月～3月.
- ・柏市保健衛生審議会, 副委員長, 2019年4月～2022年3月.
- ・柏市保健衛生審議会母子保健専門分科会, 委員長, 2020年4月～2022年6月.

4 職能団体委員等 (職能団体名称, 委員名称, 活動期間)

- ・千葉県看護協会 千葉県看護教員養成講習会運営会議, 委員, 2020年9月～2022年3月.

5 学会, 学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本地域看護学会, 千葉看護学会, 日本公衆衛生学会, 日本看護科学学会, 文化看護学会, 日本家族看護学会, 日本公衆衛生看護学会.

2) 学会, 学術団体への貢献 (学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

- ・日本地域看護学会, 代議員, 2021年6月～2023年度社員総会終了時.
- ・日本地域看護学会, 教育委員, 2021年6月～2023年度社員総会終了時.
- ・日本地域看護学会, 専任査読者, 2021年6月～2023年度社員総会終了時.
- ・千葉看護学会, 副理事長, 2021年4月～2024年3月.
- ・千葉看護学会, 利益相反 (COI) 委員会, 委員長, 2021年4月～2024年3月.
- ・千葉看護学会, 専任査読者, 2005年4月～2024年3月.
- ・日本公衆衛生看護学会, 査読委員, 2020年6月～2022年5月.
- ・文化看護学会, 副理事長, 2020年9月～2023年総会まで.
- ・文化看護学会第14回学術集会企画委員会, 企画委員, 2021年3月～2022年4月.
- ・文化看護学会第14回学術集会, 座長, 2022年3月12日.

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催 団体名称、講演テーマ等、対象、開催日時、場所）

- ・令和3年度千葉県保健師現任教育推進のための担当者研修会講師、千葉県健康福祉部健康づくり支援課、保健師の実践能力・組織力向上のための効果的な現任教育のあり方、県内市町村および健康福祉センターの統括的な役割を担う保健師（現任教育責任者含む）と研修担当者、2022年1月11日、千葉県教育会館。
- ・習志野市健康づくり推進員養成講座講師、みんなで一緒に健康づくり～ヘルスプロモーションとは～、習志野市健康づくり推進員、2021年10月18日、サンロード津田沼。
- ・第5回千葉市シニアリーダー交流会基調講演、千葉市、介護予防活動の持続・発展に向けてwithコロナ～シニアリーダーができること～、千葉市シニアリーダー、2021年11月25日、千葉市文化センター。
- ・コツコツ学ぼうセミナー、テーマを設定するときのコツ、千葉県内中小規模医療施設の研究指導を担う立場にある看護職、2022年3月2日～15日、オンデマンド。
- ・International Exchange Symposium between Inje University and Chiba Prefectural University of Health Sciences, Department introduction (Nursing)、インジェ大学および千葉県立保健医療大学の教職員、2022年3月23日、オンライン開催。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・大学運営会議、教授会、将来構想・検討委員会、自己点検・評価委員会、人事委員会。

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科教授会、看護学科運営会議、看護学科人事評価部会、コロナ担当。

3 対外広報活動＜新聞・ホームページでの活動・TV出演、ラジオ出演等＞

- ・千葉県看護協会機関紙「看護ちば」（4月号）への投稿、これからの（将来を担う）看護人材育成を考える！！～看護基礎教育の視点から。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育に関しては、学科長として COVID-19 の影響で教育の質が低下しないよう学科内教務委員会に働きかけ、領域を超えた情報共有の場を設定した。領域長としては、途中退職の教員が出たことにより領域内の教員の能力や業務量に配慮しながら、負担に偏りがでないよう調整をはかった。研究活動については、研究代表となっている研究課題の計画を見直しに時間を要した。分担研究者としては、4件の学会発表を行った。管理運営については、将来構想検討委員会委員長として、プロジェクトチームを立ち上げ、全国の公立大学の社会貢献の取組状況を分析し、それをもとにリーフレット作成し、県内関係機関に配布することができた。分析結果は、紀要に掲載した。社会貢献としては、千葉県が実施主体の委員会および柏市の保健衛生審議会等6つの委員会に参画した。また、学会の副理事長など9つの役割を担った。

VII 次年度の目標

教育に関しては、次年度も実習施設と綿密な調整を行い、学習機会の確保と学内実習の工夫に努め、学習効果の向上をめざす。また、領域の長として、新任教員をサポートしながら、効果的に講義・演習・実習ができるよう教員間の協力体制を強化する。研究活動は、見直した研究計画を推進し、成果を出す。管理運営面では、学科長として、各教員が意欲をもって教育、研究、管理運営、社会貢献に取り組めるよう体制を整備しサポートする。将来構想検討委員会委員長としては、重点施策の推進、シンクタンク機能の発揮、将来構想に関わる本学の方針の検討に尽力する。社会貢献としては、引き続き千葉県内の保健医療に貢献できるよう、審議会等の委員や研修講師等を積極的に引き受ける。また、学会への貢献として、担っている役割を確実に遂行する。

教授 西野 郁子 博士（看護学）

対象期間：2021年4月1日～2022年3月31日まで

I 年度当初の目標

教育においては、前年度の振り返りから領域の教員間で連携してより効果的な講義・演習を実施していきたい。特に感染防止対策を取りながら効果的な実習運営をしていきたい。研究活動については、筆頭研究者および共同研究者として役割を果たし成果を挙げていきたい。大学の運営面では、自己点検・評価委員会の委員長として4つの部会との連携を強化して、大学認証評価の受審準備や内部質保証の役割に取り組んでいきたい。社会貢献の機会があれば、貢献できるように努力していきたい。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・看護学入門.
- ・看護学入門実習.
- ・育成期看護概論.
- ・小児看護学方法論Ⅰ.
- ・小児看護学方法論Ⅱ.
- ・小児地域ケア論.
- ・小児看護学実習.
- ・総合実習.
- ・看護研究.
- ・看護学統合.
- ・専門職間の連携活動論.

III 研究記録

1 著書（著者本人下線：著書，発行年，発行所，発行場所）

西野郁子：第Ⅲ章 小児の成長・発達の特徴と支援 2. 新生児期の特徴と支援，第Ⅷ章 検査・処置技術 7. 酸素療法，小児看護学Ⅰ 小児看護学概論・小児看護技術（改訂第4版）（二宮啓子，今野美紀編集），P96-106，P408-413，2022年，南江堂，東京。

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・文部科学省科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金（基盤研究（C）），小学校入学に向けた幼児期からの慢性疾患患児への支援プログラムの開発，研究代表者。
- ・文部科学省科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金（基盤研究（C）），「気になる子ども」に対する保育施設での発達支援に向けた基盤的研究，研究分担者。
- ・文部科学省科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金（基盤研究（C）），配属異動後に小児看護に新たに携わる看護師の小児看護実践能力育成プログラム開発，研究代表者。

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等（活動名称、活動期間、場所等）

1) 千葉県内

- ・千葉県こども病院でのボランティア活動「入院している子どものきょうだいとの遊び活動」の推進のための協働・調整。2021年4月～2022年3月。

2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等、活動期間、場所等）

- ・新型コロナウイルス感染症対応に伴う県内保健所応援（延べ3日間）

3 審議会、委員会、国家試験委員等の実績（活動団体名称、委員名称、活動期間）

- ・千葉県健康福祉部疾病対策課。千葉県移行期医療支援連絡協議会委員。2021年4月～2022年3月。

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本小児看護学会。日本小児保健協会。日本看護科学学会。日本新生児看護学会。千葉看護学会。全国保育園保健師看護師連絡会。日本保育保健協議会。

2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

- ・日本小児看護学会。日本小児看護学会誌。査読委員。2021年4月～2022年3月。
- ・千葉看護学会。千葉看護学会会誌。査読委員。2021年4月～2022年3月。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・教授会。自己点検・評価委員会。将来構想検討委員会。教員再任審査委員会。認証評価部会。IR部会。

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科運営会議。看護学科教授会。看護学科教務委員会。看護学科「看護研究」作業グループ会議

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育においては、領域内の教員間で連携して、感染防止対策を実施しながら効果的な講義・演習・実習を実施できた。筆頭研究者としての研究活動については、新型コロナウイルス感染拡大による授業運営などに時間を費やし、推進することができなかった。大学の管理運営面では自己点検・評価委員会の委員長として4つの部会との連携を強化し、大学認証評価の受審準備を推進するとともに、受審準備と並行して内部質保証の推進に取り組むことができた。保健所応援業務では3日間の貢献ができた。

VII 次年度の目標

教育においては、領域内の教員の欠員がある状況においても、領域の教員間・授業協力者と連携してより効果的な講義・演習を実施していきたい。実習においては、感染防止対策を取りながら可能な限りの効果的な実習をしていきたい。研究活動については、筆頭研究者および共同研究者として役割を果たし成果を挙げていきたい。大学の運営面では、自己点検・評価委員会の委員長として、大学機関別認証評価の受審への対応や内部質保証の役割に取り組んでいきたい。社会貢献の機会があれば、貢献できるように努力していきたい。

教授 河部 房子 博士（看護学）

対象期間：2021年4月1日～2022年3月31日まで

I 年度当初の目標

教育活動においては、2020年度の教育活動の評価をもとに、コロナ禍での制約のある中での効果的な教育方法について検討し、実施する。科研費を得て行っている研究は、この状況下でできることを検討し、推進する。また、分担研究者として参加している研究課題についても役割を果たす。管理運営では、公正・公平な入学者選抜の実施はもちろん、効率的な入試実施のあり方についても検討し、委員長としての役割を果たす。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）
 - ・看護学入門実習.
 - ・看護学入門.
 - ・看護学原論.
 - ・看護技術論Ⅰ（生活援助技術）.
 - ・看護技術論Ⅱ（フィジカルアセスメント）.
 - ・看護技術論Ⅲ（検査治療技術）.
 - ・看護技術論Ⅳ（看護過程展開技術）.
 - ・看護技術論Ⅴ（統合看護技術）.
 - ・日常生活調整方法論.
 - ・基礎看護学実習.
 - ・看護研究.
 - ・総合実習.
 - ・看護学統合.
- 2) 他大学、大学院等の非常勤講師（科目名、大学名）
 - ・博士前期課程 論文審査員（千葉大学大学院看護学研究科）.

III 研究記録

2 学術論文・その他（著者：題名、雑誌名、巻、号、ページ、発行年、本人下線）

- ・河部房子, 今井宏美, 椿祥子, 石田陽子, 松田友美: 臨床看護師のフィジカルアセスメント技術習得に関する学習ニーズ調査, 千葉県立保健医療大学紀要, 第13巻, 1号, 39-44, 2022.

3 発表（発表者：発表タイトル、主催学会（学会名称）、開催日、場所等、本人下線）

- ・今井宏美, 麻賀多美代, 麻生智子, 木村亜由美, 椿祥子, 河部房子, 三澤哲夫, 現実適合性の高い口腔ケア用モバイルシミュレーションを用いた部分学習が全体学習に及ぼす影響—第2報 磨き残しの印象評価から—, 産業保健人間工学会第26回大会, 2021年10月, web.

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名、研究テーマ、研究代表者／研究分担者）

- ・科学研究費補助金基盤研究（C）, 看護師の臨床判断事例に基づくフィジカルアセスメント学習教材の開発, 研究代表者.
- ・科学研究費補助金基盤研究（B）, 看護実践のリアリティを追求するシミュレーション教育プログラムの開発, 研究分担者.

- ・学内共同研究 看護系大学生の「主体的に学ぶ力」の向上を支援する取り組みと効果：単一事例実験，共同研究者

IV 社会貢献・国際交流記録

5 学会，学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本看護科学学会，日本看護学教育学会，日本看護管理学会，日本看護歴史学会，千葉看護学会，日本看護学会，ナイチンゲール研究学会，日本良導絡自律神経学会。

2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名，役職，活動期間）

- ・千葉看護学会，専任査読者，2013年4月1日～現在に至る。
- ・千葉看護学会，理事，2021年4月1日～現在に至る。
- ・千葉看護学会，表彰論文選考委員会委員長，2021年4月1日～現在に至る。
- ・千葉看護学会 第28回学術集会企画委員，2021年9月～現在に至る。
- ・日本看護学教育学会，専任査読者，2018年4月1日～現在に至る。

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称，主催 団体名称，講演テーマ等，対象，開催日，場所）

- ・2021年度 看護教員養成講習会，看護論演習，看護職者，2021年5月8日，web。
- ・東京歯科大学市川総合病院看護研究指導，臨床看護師，2021年9月～2022年1月 計2回。
- ・2021年度 千葉県立保健医療大学公開講座，新しい生活様式をとりいれて健康に過ごすために「運動と休息のバランスをととのえる生活の仕方」2021年11月6日，一般市民，web。
- ・コツコツ学ぼうセミナー，研究計画を立てるときのコツ，千葉県内中小規模医療施設の研究指導を担う立場にある看護職，2022年3月2日～15日，オンデマンド。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

大学教授会，学術推進企画委員会（副委員長），紀要編集部，入試実施委員会（委員長），入試改革検討委員会（副委員長），教員資格審査委員会。

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

看護学科教授会，看護学科運営会議，看護学科入試検討委員会（副委員長）。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動に関しては，演習科目は原則対面授業とする大学の方針に則り実施した。少人数グループでの展開や，複数教室を使った入れ替えなど，感染防止策を講じつつ，限られた時間を学生が有効活用しながら技術習得ができるよう，展開を工夫し実施することができた。特に実習において，一部時期の変更や実習方法の変更はあったが，今年度は全学生が臨地での実習を体験することができ，学生の満足度も高かった。一方で，教育の質を低下させないための授業準備や複数回の授業展開等に時間を要し，今年度も研究時間を確保することが困難であった。大学の管理運営では，入試実施委員長として公平・公正な入学者選抜試験の実施を担った。特に，社会人特別選抜入試と編入学試験の同日開催を実現した。また，小論文試験問題作成の支援体制や小論文試験の採点結果の入力方法等について，より効率的・効果的な方法を導入した。

VII 次年度の目標

教育活動においては，これまでのコロナ禍における教育方法の検討をふまえ，より効果的な教育方法について検討し実施する。科研費を得て行っている研究は，最終年度になるため，これまでの研究成果をふまえた成果物（教材）を作成し，教育実践に取り入れることで有用性を検討する。また分担研究者として参加している研究課題についても役割を果たす。管理運営では，入試実施委員長として今年度の取り組みを評価しつつ，確実かつ効率的な入試実施に向けてよりよい方法を検討し，委員長としての役割を果たす。

教授 浅井 美千代 博士（看護学）

対象期間：2021年4月1日～2022年3月31日まで

I 年度当初の目標

教育活動では、遠隔授業や学内実習の授業方法を工夫する。研究活動では、これまでの研究成果について学会誌への投稿を行うことと新しい研究に着手する。委員会活動では、活動内容や手順を記録して振り返り、次年度に活かせるようにする。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・看護学入門.
- ・看護学入門実習.
- ・臨床看護学概論.
- ・成人看護学方法論Ⅰ.
- ・成人看護学方法論Ⅱ.
- ・成人看護学実習(急性期).
- ・成人看護学実習(慢性期).
- ・総合実習.
- ・看護研究.
- ・看護学統合.
- ・体験ゼミナール.

III 研究記録

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・田口智恵美，坂本明子，大内美穂子，内海恵美，三枝香代子，浅井美千代：本学卒業生が新人看護師となって職場で直面した困難，千葉県立保健医療大学紀要，第13巻，第1号，29-38，2022.

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・学内共同研究費（学長裁量），COVID-19感染拡大により在学中の臨地実習に影響を受けたA大学卒業生が入職後に感じる困難，並びに学内で行われて総合実習が卒業後の看護実践に与えた影響，研究分担者.
- ・学内共同研究費（学長裁量），地域包括ケアシステムを担う看護職者に求められる看護実践能力に関する研究，研究分担者.

IV 社会貢献・国際交流記録

5 学会，学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本看護研究学会．日本看護技術学会．日本看護学教育学会．日本がん看護学会．日本介護福祉学会．日本老年行動科学学会．日本看護科学学会．千葉看護学会．日本慢性看護学会．北日本看護学会．日本リウマチ看護学会．

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催 団体名称、講演テーマ等、対象、開催日、時場所）

- ・看護研究指導、千葉県循環器病センター、看護師、3病棟、年4回（2021年6月23日・9月17日・11月26日・2022年1月18日）。
- ・看護研究指導、東京歯科大学市川総合病院、看護師、2病棟、年2回（2021年9月24日・12月3日）。
- ・看護研究発表会での講評、東京歯科大学市川総合病院、看護師、2022年2月1日・2月4日。
- ・看護研修会の講師、研究デザインの理解・研究計画書の書き方、千葉県がんセンター、看護師、2021年12月14日
- ・千葉県看護教員養成研修会の講師、千葉県看護協会、看護教員、2021年5月7日・5月13日・5月25日。
- ・研修会の企画・運営、千葉県立保健医療大学、看護研究のコツがてんこもり！コツコツ学ぼうセミナー、看護師、2022年14日。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・学生委員会。
- ・入試改革検討委員会。
- ・FD・SD委員会
- ・IR部会
- ・新型コロナウイルスワクチン接種プロジェクトチーム、6～8月。

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科学生・進路支援委員会。
- ・看護学科社会貢献委員会。
- ・看護学科コロナ担当。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動においては、コロナ禍により臨地実習の代わりに実施した学内実習での学生の状況から、慢性疾患患者の理解と慢性期看護師の役割の理解のための教授法が課題であることが教員間で認識され、このことをきっかけに慢性期看護の研究教育に関する勉強会を開始することにつながった。研究活動は、委員会活動の一環として実施した地域包括ケア病棟に勤務する看護師についての研究は遂行できたが、データ収集を終了した自身の研究を論文化し投稿する目標は達成できなかった。次年度は優先順位を上げて取り組みたい。委員会活動では、学生委員として、いずみ祭のWEB開催を支援し、ライブとオンデマンドでの開催を実現できた。学科のコロナ担当として、学科内で県内保健所応援要請時の派遣者を選出する仕組みをつくったり、大学での職域ワクチン接種プロジェクトチームの一員として、実施に向けた具体的な準備を行った。委員会活動の内容や手順の記録を目標としていたが、実施に精一杯になり整理できなかったため、継続課題としたい。社会貢献活動としては、3年ぶりに学科主催の中小規模病院に勤務する看護職を対象とした研修をオンデマンドで開催したり、病院看護師の研究活動を支援するための研修会の講師を務めた。

VII 次年度の目標

教育活動では、学生の慢性疾患患者理解を促進する教授法を開発するための慢性期看護教育研究会を継続し、授業や学内演習の内容を改善する。研究活動は優先順をあげて取り組み、これまでの研究成果についてまとめ、学会誌への投稿を行う。委員会活動では、学科の社会貢献活動が充実するように努める。

教授 神田 みなみ 修士 (文学), Master of Arts (TESOL)

対象期間 : 2021 年 4 月 1 日～2022 年 3 月 31 日まで

I 年度当初の目標

令和 3 年度は、大学の管理運営（人事委員長，認証評価部会長）としての任務を滞りなく遂行する。非常勤講師の遠隔授業支援を共通教育教務委員として事務局と協力して行う。英語領域は欠員となる分を補い、非常勤講師 3 名と共に遠隔授業をコロナ禍の中、効果的に行うための運営に努める。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）
 - ・英語 I（講読）。
 - ・英語 III（講読・記述）。
 - ・英語 V（保健医療英語）看護学科。
 - ・英語 V（保健医療英語）歯科衛生学科。
 - ・英語 VI（応用英語）。
 - ・英語 VII（上級英語）A。
 - ・英語 VII（上級英語）B。
- 2) 他大学，大学院等の非常勤講師（科目名，大学名）
 - ・実践歯科英会話（日本歯科大学東京短期大学）。

III 研究記録

1 著書（著者本人下線：著書，発行年，発行所，発行場所）

- ・Shawn Loewen(著)，佐野富士子，齋藤英敏，長崎睦子，小林めぐみ，金子朝子，石塚美佳，神田みなみ(共訳・著)：学びの場での第二言語習得論，2022，開拓社，東京。

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・神田みなみ：特集今年こそ英語多読，多聴多読マガジン，Vol. 85，pp. 18-19，2021。
- ・神田みなみ：快読快聴ライブラリ解説 The Silver Statue，多聴多読マガジン，Vol. 85，p. 62，2021。
- ・神田みなみ：快読快聴ライブラリ解説 About Time，多聴多読マガジン，Vol. 86，p. 93，2021。
- ・神田みなみ：快読快聴ライブラリ解説 Naoko: My Japan，多聴多読マガジン，Vol. 88，p. 74，2021。
- ・神田みなみ：快読快聴ライブラリ解説 The Secret Dreamworld of a Shopaholic，多聴多読マガジン，Vol. 89，p. 87，2021。

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・神田みなみ：保健医療系大学 1 年生のオンデマンド式オンライン英語多読授業，日本多読学会年会，2021 年 8 月 17 日，オンライン。
- ・神田みなみ：オンライン英語多読授業とヘルス・リテラシー，国際異文化学会年次大会，2021 年 10 月 23 日，オンライン。

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・2018-2021 年度科学研究費補助金基盤研究(C)，保健医療系 ESP 英語多読プログラムの構築と検証，研究代表者。

IV 社会貢献・国際交流記録

5 学会，学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本多読学会，日本英文学会，大学英語教育学会(JACET)，全国語学教育学会(JALT)，American Association of Applied Linguistics (AAAL:アメリカ応用言語学会)，TESOL International Association (TESOL: 米国・第二言語としての英語教育学会)，International Association of Teachers of English as a Foreign Language (IATEFL: 英国・外国語としての英語教育学会)，映像メディア英語教育学会，外国語教育メディア学会，Japan Association for Nursing English Teaching (JANET: 看護英語教育学会)，日本医学英語教育学会，英語コーパス学会

2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名，役職，活動期間）

- ・日本多読学会，監事・理事，2021 年 4 月～2022 年 3 月。
- ・国際異文化学会，副会長・理事，2021 年 4 月～2022 年 3 月。

7 その他

- ・千葉県立保健医療大学・韓国インジェ大学国際シンポジウム，司会担当，2021 年 3 月 23 日，オンライン。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・教授会，共通教育運営会議，教務委員会，人事委員会，入試改革検討委員会，自己点検・評価委員会認証評価部会，教員資格審査委員会。

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科運営会議，看護学科教授会，看護学科学生・進路支援委員会，看護学科教員評価部会。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

大学の管理運営業務としては，まず人事委員会において教員組織の定期的検証を実施し，教員組織の検討とともに必要に応じて教員資格審査委員会設置の審議及び教授会への審議提案を行った。令和 4 年度機関別認証評価受審に向けて，提出資料である点検評価ポートフォリオの執筆依頼，執筆，内容検討を認証評価部会と自己点検・評価委員会とともに進めた。以上，委員長，部会長としての役割は果たせたと考える。英語専任教員として非常勤講師と連携し，クラス分け，名簿作り，学生や教務に関する情報交換，学生対応等の業務を遂行した。教務委員として一般教養科目・保健医療基礎科目の非常勤講師との連携，必要に応じての支援を行った。研究テーマである英語教育，特に英語多読に関しては前年度に続き，オンラインライブラリーの活用し，進めることができた。研究にかかる時間と労力が相対的に減らさざるを得なかったことが反省点であった。科研費研究はコロナ禍による業務増大により予定通り進まなかったため，延長を申請した。

VII 次年度の目標

大学の管理運営（人事委員長，認証評価部会長）としての任務を滞りなく遂行する。機関別認証評価の受審の年となり，書類等の完成と提出，実地調査の対応に当たる。英語授業については対面での実施となり，滞りなく非常勤講師を含めて実施できるように教員との連携，学生の支援を行う。

教授 小宮 浩美 博士（看護学）

対象期間：2021年4月1日～2022年3月31日まで

I 年度当初の目標

令和3年度は、精神看護実践能力を育成する効果的な授業の展開を目指し、領域の教員相互に協力しながら教育内容を充実させる。特に次年度は遠隔と対面授業の効果を検証しつつ、各科目の目的が達成できるよう授業を企画運営する。管理運営では、全学委員会の広報委員会委員長に加え、教務委員会の委員も拝命したため、コロナ禍においても広報活動および教育活動が発展するよう環境を整える。研究活動では、科研費の研究成果の学会発表、論文投稿に取り組む。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・看護学入門.
- ・看護学入門実習.
- ・精神看護学概論.
- ・精神看護学方法論Ⅰ.
- ・精神看護学方法論Ⅱ.
- ・退院支援論.
- ・心の健康.
- ・精神看護学実習.
- ・総合実習.
- ・看護研究.
- ・看護学統合.
- ・体験ゼミナール.

2) 他大学、大学院等の非常勤講師（科目名・大学名）

- ・チーム医療演習（植草大学）.
- ・公衆衛生学（東京医科歯科大学大学院）.

III 研究記録

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・小宮 浩美，加藤 隆子：コロナ禍における精神看護学実習の千葉県立保健医療大学の実践報告 幻聴音声を用いたシミュレーション教育，第31回日本精神保健看護学会学術集会，2021年6月5日-6日，山形（オンライン）.
- ・小宮 浩美，加藤 隆子，小林 雅美：コロナ渦における精神看護学実習の学生の学びーアクティブラーニングを用いたロールプレイ演習ー，第41回日本看護科学学会学術集会，2021年12月4日-5日，愛知（オンライン）.

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・科学研究費補助金基盤研究（C），精神科病棟の看護における EBP の実践適用ツールおよびモデルの開発，研究代表者.
- ・科学研究費補助金基盤研究（C）. 精神科病棟の看護師を対象に EBP に関する継続的な学習を支援する教育システムの開発，研究分担者.

- ・学内共同研究費，新型コロナウイルス感染症流行下における精神看護学実習の学生の学び，研究代表者。

IV 社会貢献・国際交流記録

2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等，活動期間，場所等）

- ・新型コロナウイルス感染症対応に伴う県内保健所派遣（延べ1日），松戸保健所。

4 職能団体委員等（職能団体名称，委員名称，活動期間）

- ・一般社団法人 日本精神科看護協会，論文査読委員，2001年4月1日～現在に至る。
- ・一般社団法人 日本精神科看護協会千葉県支部，顧問，2016年～現在に至る。

5 学会，学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本看護科学学会，日本看護管理学会，日本精神保健看護学会，千葉看護学会，日本看護評価学会。

2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名，役職，活動期間）

- ・千葉看護学会，査読者，2014年4月1日～現在に至る。
- ・日本精神保健看護学会，倫理・利益相反委員会 委員，2021年4月1日～現在に至る。
- ・日本看護評価学会，編集委員，2019年4月1日～現在に至る。

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称，主催 団体名称，講演テーマ等，対象，開催日，時場所）

- ・千葉県精神科医療センター看護部主催，看護記録の質向上研修，看護部看護師，2022年3月4日，8日，精神科医療センター。

7 その他

- ・精神看護出版，編集委員，2019年～現在に至る。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・大学教授会，広報委員会，教務委員会，教員資格審査委員会。

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科教授会，看護学科教務委員会，看護学科総務・企画委員会，看護学科運営会議。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動では，学生の授業への参加を促進するよう，昨年度の遠隔教育の教材を全て修正した。その結果，学生の関心が高まり，動画視聴回数は聴講している学生数以上であり，オンライン授業の学生の反応もよかった。臨地実習の縮小があったが，学内演習プログラムを洗練し実施することで，学生の到達度を維持できた。研究活動は，本年度着手した COVID-19 禍における教育実践の研究の実施と発表を優先したため，他の研究成果は公表できなかった。大学管理運営は，コロナ禍で広報活動が制限されていたが，WEB によるオープンキャンパスの実施や高校訪問の調整業務を推進し，受験生の確保につなげた。また学内教員の研究活動の広報活動にも着手した。全学教務委員会にて学内教務の円滑な進行に努めた。社会貢献活動においては各団体の委員の役割を果たした。

VII 次年度の目標

地域包括ケアを担う看護職者の育成に向けて、精神看護実践能力を高める効果的な授業の展開を目指し、領域の教員相互に協力しながら教育内容を充実させる。特に次年度は遠隔と対面授業の効果を検証しつつ、各科目の目的が達成できるよう授業を企画運営する。研究活動では、科研費や学内共同研究費の研究成果の学会発表、論文投稿に取り組む。管理運営業務では、研究活動についての広報活動の推進、大学認証評価および看護学分野別認証評価受審に向けた準備、学内教務の質の向上を目指す。

教授 太和田 暁之 博士 (医学)

対象期間：2021年4月1日～2022年3月31日まで

I 年度当初の目標

- ・教育：高水準の基礎および臨床医学系講義を行う。
- ・研究：外部競争的資金を獲得し高水準の研究活動を行う。
- ・管理・運営：COVID-19 対策会議への参画を通して本学の COVID-19 対応に貢献する。学術推進企画委員会への参画を通して本学の学術研究の推進と外部競争的資金の獲得に貢献する。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・人体の構造と機能Ⅰ.
- ・人体の構造と機能Ⅱ.
- ・人体の構造と機能Ⅲ.
- ・病態学Ⅰ.
- ・病態学Ⅲ.
- ・臨床検査論.
- ・内科学概論 (歯科衛生学科).
- ・高齢者医療論 (歯科衛生学科).
- ・高齢者医療論 (栄養学科).
- ・画像診断学.
- ・体験ゼミナール.

III 研究記録

2 学術論文・その他 (著者：題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年. 本人下線)

- ・Chiaki Imai, Hiromi Saeki, Kohei Yamamoto, Ayano Ichikawa, Makoto Arai, Akinobu Tawada, Takaaki Suzuki, Yuichi Takiguchi, Toyoyuki Hanazawa, Itsuko Ishii. Radiotherapy plus cetuximab for locally advanced squamous cell head and neck cancer in patients with cisplatin-ineligible renal dysfunction: A retrospective study. *Oncol Lett*:23(5):363-370(2022)
- ・Fan M, Arai M, Tawada A, Chiba T, Fukushima R, Uzawa K, Shiiba M, Kato N, Tanzawa H, Takiguchi Y. Contrasting functions of the epithelial-stromal interaction 1 gene, in human oral and lung squamous cell cancers. *Oncol Rep*:47(1):1-10(2022)
- ・Kobayashi K, Ogasawara S, Takahashi A, Seko Y, Unozawa H, Sato R, Watanabe S, Moriguchi M, Morimoto N, Tsuchiya S, Iwai K, Inoue M, Ogawa K, Ishino T, Iwanaga T, Sakuma T, Fujita N, Kanzaki H, Koroki K, Nakamura M, Kanogawa N, Kiyono S, Kondo T, Saito T, Nakagawa R, Suzuki E, Ooka Y, Nakamoto S, Tawada A, Chiba T, Arai M, Kanda T, Maruyama H, Nagashima K, Kato J, Isoda N, Aramaki T, Itoh Y, Kato N. Evolution of Survival Impact of Molecular Target Agents in Patients with Advanced Hepatocellular Carcinoma. *Liver Cancer*:11(1):48-60(2021)
- ・Mukai S, Kanzaki H, Ogasawara S, Ishino T, Ogawa K, Nakagawa M, Fujiwara K, Unozawa H, Iwanaga T, Sakuma T, Fujita N, Koroki K, Kobayashi K, Kanogawa N, Kiyono S, Nakamura M, Kondo T, Saito T, Nakagawa R, Suzuki E, Ooka Y, Muroyama R, Nakamoto S, Tawada A, Chiba T, Arai M, Kato J, Shiina M, Ota M, Ikeda

Jl, Takiguchi Y, Ohtsuka M, Kato N. Exploring microsatellite instability in patients with advanced hepatocellular carcinoma and its tumor microenvironment: JGH Open:5(11):1266-1274(2021)

- Koroki K, Kanogawa N, Maruta S, Ogasawara S, Iino Y, Obu M, Okubo T, Itokawa N, Maeda T, Inoue M, Haga Y, Seki A, Okabe S, Koma Y, Azemoto R, Atsukawa M, Itobayashi E, Ito K, Sugiura N, Mizumoto H, Unozawa H, Iwanaga T, Sakuma T, Fujita N, Kanzaki H, Kobayashi K, Kiyono S, Nakamura M, Saito T, Kondo T, Suzuki E, Ooka Y, Nakamoto S, Tawada A, Chiba T, Arai M, Kanda T, Maruyama H, Kato J, Kato N. Posttreatment after Lenvatinib in Patients with Advanced Hepatocellular Carcinoma. Liver Cancer:10(5):473-484(2021)
- Kawai K, Tawada A, Onozawa M, Inoue T, Sakurai H, Mori I, Takiguchi Y, Miyazaki J. Rapid Response to Pembrolizumab in a Chemo-Refractory Testicular Germ Cell Cancer with Microsatellite Instability-High. Onco Targets Ther:14:4853-4858(2021)
- Arai M, Ohno I, Takahashi K, Fan MM, Tawada A, Ishioka C, Takiguchi Y. Current status of medical oncology in Japan and changes over the most recent 7-year period: results of a questionnaire sent to designated cancer care hospitals. Jpn J Clin Oncol:51(11):1622-1627(2021)
- Shohei Mukai, Hiroaki Kanzaki, Sadahisa Ogasawara, Takamasa Ishino, Keita Ogawa, Miyuki Nakagawa, Kisako Fujiwara, Hidemi Unozawa, Terunao Iwanaga, Takafumi Sakuma, Naoto Fujita, Keisuke Koroki, Kazufumi Kobayashi, Naoya Kanogawa, Soichiro Kiyono, Masato Nakamura, Takayuki Kondo, Tomoko Saito, Ryo Nakagawa, Eiichiro Suzuki, Yoshihiko Ooka, Ryosuke Muroyama, Shingo Nakamoto, Akinobu Tawada, Tetsuhiro Chiba, Makoto Arai, Jun Kato, Manayu Shiina, Masayuki Ota, Jun-ichiro Ikeda, Yuichi Takiguchi, Masayuki Ohtsuka, Naoya Kato. Controlling Major Portal Vein Invasion Progression during Lenvatinib Treatment by Carbon-Ion Radiotherapy in Patients with Advanced Hepatocellular Carcinoma: Case Reports in Oncology:14, 1103-1110(2022)
- 黒杉 茜, 千葉 哲博, 岩永 光巨, 宇野澤 秀美, 佐久間 崇文, 藤田 尚人, 金山 健剛, 神崎 洋彰, 興梠 慧輔, 小林 和史, 清野 宗一郎, 中川 良, 叶川 直哉, 中村 昌人, 近藤 孝行, 齊藤 朋子, 日下部 裕子, 小笠原 定久, 鈴木 英一郎, 中本 晋吾, 太和田 暁之, 室山 良介, 加藤 順, 横田 元, 神田 達郎, 丸山 紀史, 松原 久裕, 加藤 直也. 肝細胞癌のリンパ節転移巣からの十二指腸浸潤による狭窄に対して緩和治療の一環として腹腔鏡下バイパス術を施行した1例: 肝臓:62(10):656-662(2021)
- 岩永 光巨, 千葉 哲博, 黒杉 茜, 宇野澤 秀美, 佐久間 崇文, 藤田 尚人, 金山 健剛, 神崎 洋彰, 興梠 慧輔, 小林 和史, 清野 宗一郎, 中川 良, 叶川 直哉, 中村 昌人, 近藤 孝行, 齊藤 朋子, 日下部 裕子, 小笠原 定久, 鈴木 英一郎, 中本 晋吾, 太和田 暁之, 室山 良介, 加藤 順, 神田 達郎, 丸山 紀史, 加藤 直也. 肝細胞癌に対するマイクロ波焼灼療法術後にたこつぼ型心筋症を発症した1例: 肝臓:62(9):548-554(2021)

5 研究資金獲得状況(外部資金・学内共同・学長裁量)(資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- 科研費基盤研究(C), 肝癌感受性遺伝子 MICA のシェダーゼ阻害を基盤とした新規治療薬の探索, 太和田暁之(研究代表者), 荒井潤(研究分担者), 室山良介(研究分担者)
- 科研費基盤研究(C), 肺扁平上皮がんの多面的アプローチによる分子標的治療の開発, 瀧口雄一(研究代表者), 太和田暁之(研究分担者), 椎葉正史(研究分担者), 新井誠人(研究分担者)

IV 社会貢献・国際交流記録

5 学会, 学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- The Asian Pacific Association for the Study of the Liver, 日本内科学会, 日本臨床腫瘍学会, 日本消化器病学会, 日本消化器内視鏡学会, 日本肝臓学会, 日本人類遺伝学会, 千葉医学会

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・学術推進企画委員会、学内共同研究審査部会、学生委員会、共通教育運営会議、FD/SD 委員会、健康危機対策委員会会議(通称: COVID-19 対策会議)、教授会

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・学生進路支援委員会、学科教授会

VI 評価（成果および改善すべき事項）

- ・教育：全学科・専攻を対象に基礎および臨床医学系講義を行った。新型コロナウイルス禍のため全て遠隔オンデマンド方式となった。研究：研究代表を務める科研費助成研究を継続した。・管理・運営：COVID-19 対策会議に参画し本学の COVID-19 対応マニュアルを整備した。科学的エビデンスや国内外の政策動向を踏まえ随時改訂した。委員長を務める学術推進企画委員会では外部競争的資金の獲得を推進する方策を検討した。また久留米大学医学部児島将康教授、東京大学医学部康永秀生教授をお招きし外部資金獲得および科学的研究の水準向上をテーマに FD を主催した(遠隔オンライン方式)。

VII 次年度の目標

- ・教育：高水準の基礎および臨床医学系講義を行う。
- ・研究：外部競争的資金を獲得し高水準の研究活動を行う。
- ・管理・運営：COVID-19 対策会議への参画を通して本学の COVID-19 対応に貢献する。学術推進企画委員会への参画を通して本学の学術研究の推進と外部競争的資金の獲得に貢献する。

教授 春日 広美 博士（看護学）

対象期間：2021年10月1日～2021年3月31日まで

I 年度当初の目標

- 1) 在宅看護学実習において、履修学生が実習目標を60%前後は達成できる指導をする。
- 2) 担当する授業・演習において、履修学生が学習目標を60%前後は達成できる教育を提供する。
- 3) 科研費の研究を年間計画通りに遂行できる。
- 4) 学内におけるCOVID-19感染を防ぎ、安全かつ効果的な教育を提供するためのシステムづくりに寄与できる。
- 5) 千葉県における地域・在宅看護の発展に寄与できる。
- 6) 県民が安心して在宅療養ができるための人的資源の確保に寄与できる。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）
 - ・高齢者・在宅看護学概論。
 - ・高齢者・在宅看護学方法論Ⅰ。
 - ・在宅看護学実習。
 - ・看護学統合。
- 2) 他大学、大学院等の非常勤講師（科目名、大学名）
 - ・家族看護論 東京医科大学医学部看護学科。
 - ・在宅看護学実習 東京医科大学医学部看護学科。

III 研究記録

- 5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名、研究テーマ、研究代表者／研究分担者）
 - ・科学研究費補助金基盤研究（C）、eラーニングを活用した分岐型ストーリーの在宅看護シミュレーションシステムの課題、研究代表者）

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等（活動名称、活動期間、場所等）

- 1) 千葉県内
 - ・新型コロナウイルス感染症対応に伴う県内保健所応援、延べ2日間、印旛保健所

5 学会、学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
 - ・日本看護科学学会、日本認知症ケア学会、千葉看護学会、日本老年看護学会、日本看護歴史学会、日本医史学会、日本老年社会科学会、日本在宅ケア学会、日本家族看護学会、日本シミュレーション医学教育学会、International Family Nursing Association.

2) 学会, 学術団体への貢献 (学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

- ・千葉看護学会 千葉看護学会会誌査読者, 2021年4月1日～2024年3月31日
- ・日本在宅ケア学会 査読委員, 2020年7月30日～2022年度社員総会終了時
- ・日本看護歴史学会 学会誌査読委員, 2021年8月18日～2023年9月30日

V 管理・運営記録

1 全学委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・全学教授会, 紀要編集委員会

2 学科/専攻内委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・看護学科教授会, 学生・進路支援委員会

VI 評価 (成果および改善すべき事項)

令和3年度の10月からの着任で, 煩雑な半年を過ごしたことで, 研究, 社会貢献活動が満足に実施できていなかった。教育については, 令和3年度はオンライン授業が主であったこと, 教授環境が変わったことから, 科目の学習目標を達成するための学習リソースの工夫が必要であった。実習は, 臨地での実習時間の短縮を求められたが, それでも臨地で実施できたことで学生の学習深度をある程度は維持できたと考える。

VII 次年度の目標

令和3年度の経験を踏まえ, 令和4年度は対面授業が主となることもあり, 在宅看護シミュレーション演習を取り入れて, 従来どおり, 在宅の場を理解し, 「在宅看護学を考える」ことができる学生の頭づくりを推進する。また, 研究活動は, 取り組んでいる文科省科学研究助成の研究について, 研究倫理審査委員会の承認を得ることができたので, 今年度は介入とデータ収集を行う年となる。計画通りに実施できるよう努力する。社会貢献活動では, 千葉県民が望む場所での療養できるための環境づくり, 人づくりを促進する。

准教授 雨宮 有子 博士（スポーツ健康科学）

対象期間：2021年4月1日～2022年3月31日まで

I 年度当初の目標

令和3年度は、特に、教育に関しては、引き続きCOVID-19拡大防止策を取りつつ保健師活動の実際を学べる教育方法を工夫し教育効果を上げる。そして保健師に関心を持つ学生を増やす。研究に関しては、特に研究代表者を担う研究の推進・研究成果の論文文化に重点を置く。社会貢献では、特に県内保健師の現任教育およびその体制整備を継続して支援する。管理・運営に関しては、特に教務委員として、COVID-19拡大防止策を工夫し安全で効果的な教育体制を整備する。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）
 - ・地域看護学概論.
 - ・地域看護学方法論Ⅱ.
 - ・地域看護学方法論Ⅲ.
 - ・地域看護学実習.
 - ・総合実習.
 - ・看護研究.
 - ・看護学統合.
 - ・専門職間の連携活動論.

III 研究記録

1 著書（著者本人下線：著書，発行年，発行所，発行場所）

- ・2023年版 保健師国家試験問題 解答と解説，成人保健活動・高齢者保健活動，2021，医学書院，東京.

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・雨宮有子：災害時における保健師間の連携と応援人材の確保—調査2：都道府県型保健所の保健師及び関係団体へのヒアリング調査，厚生労働科学研究費補助金 健康安全・危機管理対策総合研究事業 令和2年度 総括・分担研究報告書，38-50，2021.
- ・宮崎美砂子，奥田博子，雨宮有子，時田礼子，相馬幸恵，山田祐子，藤原真里，井口紗織：災害時における都道府県及び保健所設置市等の本庁，保健所，市区町村の各機関の保健師間の連携と応援人材の確保に関する仮説的枠組の作成，厚生労働科学研究費補助金 健康安全・危機管理対策総合研究事業 令和2年度 総括・分担研究報告書，7-26，2021.
- ・宮崎美砂子，奥田博子，雨宮有子，時田礼子，相馬幸恵，山田祐子，藤原真里，井口紗織：災害時における保健師間の連携の内容・方法に関する項目リストの作成，厚生労働科学研究費補助金 健康安全・危機管理対策総合研究事業 令和2年度 総括・分担研究報告書，88-106，2021.
- ・雨宮有子，島田裕子，関山友子：新型コロナウイルス感染症対応に関わる都道府県型保健所における外部委託・非常勤職員等の効果的な活用方法や留意点，厚生労働行政推進調査事業費補助金 厚生労働科学特別研究事業 令和2年度 総括・分担研究報告書，28-48，2021.
- ・春山早苗，吉川悦子，石橋みゆき，雨宮有子，奥田博子，井口理，島田裕子，江角伸吾，関山友子：新型コロナウイルス感染症対応に関わる保健所業務における外部委託，非常勤職員等の効果的な活用のための研究，厚生労働行

3 発表 (発表者: 発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等. 本人下線)

- ・雨宮有子, 宮崎美砂子, 奥田博子, 時田礼子, 相馬幸恵, 藤原真里, 井口紗織: 災害時における保健師間の連携と応援人材の確保 2—県型保健所及び関係団体への調査, 第80回日本公衆衛生学会総会, 2021年12月21日, 東京.
- ・宮崎美砂子, 奥田博子, 雨宮有子, 時田礼子, 相馬幸恵, 藤原真里, 井口紗織: 災害時における保健師間の連携と応援人材の確保 4—保健所設置市及び関係団体への調査, 第80回日本公衆衛生学会総会, 2021年12月21日, 東京.
- ・奥田博子, 宮崎美砂子, 雨宮有子, 時田礼子, 相馬幸恵, 藤原真里, 井口紗織: 災害時における保健師間の連携と応援人材の確保 1—都道府県本庁及び関係団体への調査, 第80回日本公衆衛生学会総会, 2021年12月21日, 東京.
- ・時田礼子, 宮崎美砂子, 奥田博子, 雨宮有子, 相馬幸恵, 藤原真里, 井口紗織: 災害時における保健師間の連携と応援人材の確保 3—市町村及び関係団体への調査, 第80回日本公衆衛生学会総会, 2021年12月21日, 東京.
- ・Misako Miyazaki, Hiroko Okuda, Yuko Amamiya, Reiko Tokita, Yukie Soma, Yuko Yamada, Mari Fujiwara, Saori Iguchi: Cooperation Among Public Health Nurses Belonging to Different Institutions During Disasters: A Case Study in Japan. 第10回日本公衆衛生看護学会学術集会10周年記念大会 6th International Conference of Global Network of Public Health Nursing 合同開催, 2022年1月8~9日, Web開催.
- ・雨宮有子, 吉川悦子, 島田裕子, 井口理, 江角伸吾, 石橋みゆき, 奥田博子, 春山早苗: COVID-19対応に関わる保健所業務における外部委託・非常勤職員等の効果的な活用1: 保健所での活用方法と留意点, 第10回日本公衆衛生看護学会学術集会10周年記念大会 6th International Conference of Global Network of Public Health Nursing 合同開催, 2022年1月8~9日, Web開催.
- ・石橋みゆき, 春山早苗, 奥田博子, 吉川悦子, 雨宮有子, 井口理, 島田裕子, 江角伸吾: COVID-19対応に関わる保健所業務における外部委託・非常勤職員等の効果的な活用2: 本庁でのマネジメント, 第10回日本公衆衛生看護学会学術集会10周年記念大会 6th International Conference of Global Network of Public Health Nursing 合同開催, 2022年1月8~9日, Web開催.
- ・春山早苗, 吉川悦子, 石橋みゆき, 雨宮有子, 奥田博子, 井口理, 島田裕子, 江角伸吾: COVID-19対応に関わる保健所業務における外部委託・非常勤職員等の効果的な活用3: 外部委託等活用ガイドライン, 第10回日本公衆衛生看護学会学術集会10周年記念大会 6th International Conference of Global Network of Public Health Nursing 合同開催, 2022年1月8~9日, Web開催.
- ・Noriko Hosoya, Kentaro Sugimoto, Masumi Taira, Yuko Amamiya, Noriko Sato: Activities of public health nurses in normal times for persons requiring support during disasters, 第10回日本公衆衛生看護学会学術集会10周年記念大会 6th International Conference of Global Network of Public Health Nursing 合同開催, 2022年1月8~9日, Web開催.
- ・細谷紀子, 雨宮有子, 杉本健太郎, 泰羅万純, 佐藤紀子: 全国市区町村における災害時の共助を意図した平常時の保健師活動の概要, 日本地域看護学会第24回学術集会, 2021年9月11~12日, Web開催.
- ・細谷紀子, 佐藤紀子, 雨宮有子, 杉本健太郎, 石丸美奈: 発達障害児者のレジリエンスに関する研究動向 (文献レビュー), 文化看護学会第14回学術集会, 2022年3月12日, Web開催.
- ・石橋みゆき, 佐藤奈保, 坂上明子, 雨宮有子, 高橋良幸, 岩崎寛, 黒田久美子, 拝田一真: 自然災害の回復・備えに関する住民と看護学研究者のパートナーシップの様相: 2事例の計量テキスト分析, 第41回日本看護科学学会学術集会, 2021年12月4~5日, Web開催.
- ・伊藤隆子, 吉田千文, 雨宮有子, 辻村真由子, 島村敦子, 石垣和子: コロナ禍における在宅ケア専門職が経験するモラルディストレスと対処 (交流集会), 第26回日本在宅ケア学会学術集会, 2021年8月28~29日, Web開催.
- ・柄澤清美, 野口麻衣子, 吉田滋子, 家高洋, 望月由紀, 池田真理, 山花令子, 宮本有紀, 雨宮有子, 仁昌寺貴子, 角川由香, 山本則子: 「一事例研究」で卓越した看護実践を次世代に伝えることへの挑戦 (交流集会), 第41回日本看護科学学会学術集会, 2021年12月4~5日, Web開催.

4 学術集会での招待講演（教育講演や基調講演）やシンポジウム等（学術集会名，テーマ，開催日，場所等）

- ・雨宮有子：第8回日本 CNS 看護学会，交流集会 パート1：元気になる事例（看護経験）共有から知の創造，2021年6月26日，Web開催。

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・文部科学省科学研究費（基盤研究 C），保健師活動への意欲を原動力にしてリーダーシップを発揮するためのガイドの開発，研究代表者。
- ・文部科学省科学研究費（基盤研究（C）），在宅療養の場における倫理的課題への対処方法の解明と支援プログラムの開発，研究分担者。
- ・文部科学省科学研究費（基盤研究（C）），エンパワメント基盤型介護予防支援ガイドの開発，研究分担者。
- ・文部科学省科学研究費（基盤研究（C）），発達障害児の親に対する地域との繋がりづくりを意図した防災プログラム評価指標の開発，研究分担者。
- ・科学研究費助成事業（基盤研究（C）），医療職配置のない高齢者住宅の介護職員が活用できる新たな感染対策マニュアルの開発，研究分担者。
- ・文部科学省科学研究費（基盤研究（B）），Transitional ケアコンピテンシーを基盤とした地域連携教育プログラム開発，研究分担者。
- ・厚生労働省科学研究費（健康安全・危機管理対策総合研究事業），災害時保健活動の体制整備に関わる保健師の連携強化に向けた研究，研究分担者。
- ・千葉県立保健医療大学 学長裁量共同研究費，リフレクションに基づく個別支援実践能力育成の普及に向けたプリセプター養成に係る基礎調査，研究分担者。

IV 社会貢献・国際交流記録

2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等，活動期間，場所等）

- ・新型コロナウイルス感染症対策の保健所の体制整備への助言，2021年8月6日，市川健康福祉センター。
- ・新型コロナウイルス感染症対応に伴う県内保健所応援，2022年2月20日，3月16日，印旛健康福祉センター。

3 審議会，委員会，国家試験委員等の実績（活動団体名称，委員名称，活動期間）

- ・厚生労働省新型コロナウイルスに関連した感染症対策に関する厚生労働省対策推進本部事務局，参与，2020年3月～現在に至る。

4 職能団体委員等（職能団体名称，委員名称活動期間）

- ・千葉県看護協会 保健師職能委員会，副委員長，2019年6月27日～2021年6月。

5 学会，学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本地域看護学会，日本公衆衛生看護学会，日本公衆衛生学会，日本難病看護学会，日本家族看護学会，日本在宅看護学会，日本在宅ケア学会，日本看護管理学会，日本看護科学学会，文化看護学会，千葉看護学会，日本保健医療福祉連携教育学会。

2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名，役職，活動期間）

- ・千葉看護学会，査読者，2018年4月1日～2024年3月31日。
- ・日本家族看護学会 専任査読者，2016年8月1日～2022年12月31日。
- ・日本保健医療福祉連携教育学会学術誌，査読員，2021年4月1日～2023年3月31日。
- ・一般社団法人日本公衆衛生学会，代議員 地域別，2019年7月1日～2021年6月30日。
- ・公益社団法人日本看護科学学会，和文誌選任査読委員，2021年10月1日～2023年9月30日。
- ・日本在宅看護学会，査読者，2021年11月～現在。
- ・第52回（2021年度）日本看護学科学術集会，公益社団法人日本看護協会，抄録選考委員，2021年4月1日～11月30日。

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催 団体名称、講演テーマ等、対象、開催日、時場所）

- ・2021 年度保健師管理者能力育成研修、千葉県健康福祉部、根拠に基づく事業・施策の展開、市町村に勤務する保健師で管理者あるいは次期管理者として役割・機能を果たす者および県職員の保健師で次期管理者として役割・機能を果たす者、2021 年 11 月 11-25 日、オンデマンド。
- ・2021 年度千葉県特定健診・特定保健指導 経験者研修、千葉県健康福祉部、標準的な健診・保健指導プログラム 行動変容を促す保健指導技術、特定保健指導従事経験年数 3 年目以上の従事者（県内市町村の国民健康保険等、医療保険者および保健衛生部門等ならびに県内医療保険者からの特定健診・特定保健指導事業の受託実績がある民間事業者等の保健師、管理栄養士等）、2021 年 9 月 1 日、千葉県教育会館。
- ・2021 年度千葉県看護教員養成講習会、千葉県看護協会、看護論演習、2021 年 5 月 21 日、Web 開催。
- ・2021 年度習志野保健所管内看護管理者研修会、習志野保健所、災害時の地域連携 新型コロナウイルス感染症対応の経験を通して、習志野保健所管内病院、施設、訪問看護ステーションの看護管理者および管内各市の関係部署保健師及び統括保健師等、2021 年 12 月 10 日、習志野保健所。
- ・2021 年度習志野保健所管内保健師業務連絡研究会、習志野保健所、保健師としての成長、新任期 1～2 年目保健師、2021 年 12 月 15 日、習志野保健所。
- ・2021 年度第 2 回松戸保健所管内保健師等業務連絡研究会、松戸保健所、災害時に役立つ地区診断、松戸保健所管内中堅保健師等、2021 年 10～12 月、オンデマンド。
- ・2021 年度第 1 回ケアの意味を見つめる事例研究セミナー、東京大学大学院医学系研究科 高齢者在宅長期ケア看護学分野、模擬事例を用いた演習、ケアに携わる医療職、教育・研究職、事例研究に興味のある方、2021 年 6 月 19～20 日、Web 開催。
- ・2021 年度第 2 回ケアの意味を見つめる事例研究セミナー、東京大学大学院医学系研究科 高齢者在宅長期ケア看護学分野、模擬事例を用いた演習、ケアに携わる医療職、教育・研究職、事例研究に興味のある方、2021 年 12 月 11～12 日、Web 開催。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・教務委員会

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科教務委員会。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育では、前年度の引き続きコロナ禍で Web 会議システムや事例、映像教材を活用し、コロナ禍以前と同等の教授内容を担保できた。保健師就職者を 18 名出せた。研究では、特に厚労科研において 5 本（内、筆頭 2 本）の報告書を提出し、研究成果をガイドライン等（冊子）として千葉県庁健康づくり課や県内保健所へ還元するとともに、社会貢献として、実際にコロナ対応としての保健所体制整備への支援を現地で行った。加えて、コロナ感染拡大の波の合間に対面での保健所管内管理者研修講師等を担い、体制整備を支援できた。管理運営としては、教務委員会として COVID-19 拡大防止策を全学の方針に基づき随時、改定しながら安全な教育環境整備を継続できた。

VII 次年度の目標

教育では、特にポストコロナでの保健師活動の実際を学べる教育方法へ改訂し教育効果を上げる。そして保健師に関心を持つ学生を増やす。研究に関しては、特に研究代表者を担う研究の推進・研究成果の論文化に重点を置く。社会貢献では、特に県内保健師の現任教育およびその体制整備を継続して支援する。管理・運営に関しては、特に教務委員として看護分野別評価を進め教育体制を整備する。

准教授 三枝 香代子 修士（教育学）

対象期間：2021年4月1日～2022年3月31日まで

I 年度当初の目標

令和3年度は、COVID-19の影響による遠隔授業のため、教育活動については、学生の学びの状況を把握して細やかな対応をし、理解しやすい授業内容となるよう工夫する。研究活動については、科学研究費補助金基盤研究（C）2年目の計画を進めていく。大学運営については、委員会で担当する役割を滞りなく進める。社会貢献については、貢献できるように積極的に取り組む。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・臨床看護学概論.
- ・臨床看護学方法論Ⅰ.
- ・臨床看護学方法論Ⅱ.
- ・臨床看護学方法論Ⅲ.
- ・ターミナルケア論.
- ・急性期看護学実習.
- ・総合実習.
- ・看護研究.
- ・看護学統合.
- ・看護学入門実習.
- ・救命・救急の理論と実際.
- ・専門職間の連携活動論.

2) 他大学、大学院等の非常勤講師（科目名、大学名）

- ・成人看護援助論Ⅰ（和洋女子大学）.

III 研究記録

1 著書（著者本人下線：著書、発行年、発行所、発行場所）

- ・三枝香代子：第Ⅲ章救急・集中治療時の看護技術 2. 二次救命処置（ALS） B. 二次救命処置（ALS）の中で行われる技術 4. マニュアル除細動器の介助，看護学テキスト NiCE 成人看護学 成人看護技術（改訂第3版）（野崎真奈美，林直子，佐藤まゆみ，鈴木久美編集），2022，南江堂，東京.

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・田口智恵美，坂本明子，大内美穂子，内海恵美，三枝香代子，浅井美千代：本学卒業生が新人看護師となって職場で直面した困難，千葉県立保健医療大学紀要，第13巻，第1号，29-38，2022.

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・本橋 秀和，辻 守栄，三枝 香代子：気管切開やせん妄によりコミュニケーションが困難な患者への看護を振り返る，第23回日本救急看護学会学術集会，2021年10月22日～10月23日，ライブ配信.

- 5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）
- ・科学研究費補助金基盤研究（C），運動器外傷患者の回復過程における希望を維持する看護支援プログラムに関する研究，研究代表者。
 - ・学内共同研究費（学長裁量），COVID-19 感染拡大により在学中の臨地実習に影響を受けた A 大学卒業生が入職後に感じる困難，並びに学内で行われて総合実習が卒業後の看護実践に与えた影響，研究分担者。

IV 社会貢献・国際交流記録

- 2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等，活動期間，場所等）
- ・看護学科保健所派遣，印旛保健福祉センター，2022 年 2 月 26 日・27 日
- 3 審議会，委員会，国家試験委員等の実績（活動団体名称，委員名称，活動期間）
- ・看護学校教育課程編成委員，独立行政法人国立病院機構千葉医療センター附属千葉看護学校，年 2 回
(2021 年 10/7・2022 年 3/10)
 - ・学校関係者評価委員／主任評価委員，独立行政法人国立病院機構千葉医療センター附属千葉看護学校，年 2 回
(2021 年 10/7・2022 年 3/10)
- 5 学会，学術団体への貢献
- 1) 所属学会・学術団体
- ・日本看護研究学会，日本看護技術学会，日本看護学教育学会，日本看護科学学会，千葉看護学会，日本クリティカルケア看護学会，日本救急看護学会。
- 6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称，主催 団体名称，講演テーマ等，対象，開催日，場所）
- ・事例検討指導，千葉県救急医療センター，看護師，年 6 回，(2021 年 5/19・7/14・9/6・11/9・2022.1/12・2/21)
 - ・看護研究指導，千葉県循環器病センター，看護師，年 4 回，(2021 年 6/29・9/16・12/8・2022.1/18) Web 開催。

V 管理・運営記録

- 1 全学委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）
- ・共通教育委員会，教務委員会，入試実施委員会，社会実習作業部会。
- 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）
- ・看護学科教務委員会，看護研究作業部会。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動については，コロナ禍であったが，昨年度の教育内容・方法を洗練させることができた。また，臨地実習においては，実習の機会が少ない学生の学びの状況を把握し，細やかに対応しながら教育を進めることができた。研究活動については，新型コロナウイルスまん延により調査対象である施設の現場は対応に追われ，研究協力を依頼できる状況ではなかった。次年度は早々に取り組む予定である。大学運営については，共通教育委員会，教務委員会，入試実施委員会での役割を遂行することができた。看護学科教務委員会では，カリキュラム実施部会長として看護学科のカリキュラム全般にわたってメンバーと協働しながら遂行することができた。社会貢献については，看護専門学校の学校関係者評価委員や実習施設の研究指導等を行った。

VII 次年度の目標

教育活動では，より効果的な教育方法を検討し改善を図る。研究活動では，コロナの影響により遅れているデータ取

集に取り組む。大学運営については、担当するカリキュラムに係る委員会の年間行事を滞りなく進める。社会貢献については、臨床看護師の研究活動支援を積極的に行う。

准教授 細谷 紀子 博士（看護学）

対象期間：2021年4月1日～2022年3月31日まで

I 年度当初の目標

教育については、COVID-19の影響が続いているため、Teamsを活用し感染予防をしつつ学生個々の学びを保証・支援できるようにする。また、専門職間の連携活動論科目責任者として、本学の強みを生かした学修が円滑に進むように努める。研究については、科研費研究課題および学長裁量研究を計画的に推進し、成果を着実に示す。社会貢献については、千葉県国民健康保険団体連合会保健事業支援・評価委員や学術団体の各委員として役割を果たす。大学の管理運営については、全学危機管理委員、看護学科倫理審査委員長、および3年生担任としての職務を責任をもって遂行する。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・地域看護学概論.
- ・地域看護学方法論Ⅱ.
- ・地域看護学方法論Ⅲ.
- ・地域看護学実習.
- ・災害看護学.
- ・総合実習.
- ・看護研究.
- ・看護学統合.
- ・専門職間の連携活動論.
- ・千葉県の健康づくり.

III 研究記録

1 著書（著者本人下線：著書，発行年，発行所，発行場所）

- ・細谷紀子：第2章 I 障害児者保健福祉活動，最新公衆衛生看護学第3版 2022年版各論1（宮崎美砂子他編集），180-225，2022年2月，日本看護協会出版会，東京.

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・吉岡京子，藤井仁，塩見美紗，片山貴文，細谷紀子，真山達志：保健医療福祉計画の実行段階における住民との協働に関連する要因の解明，日本公衆衛生雑誌，68巻，12号，876-887，2021.

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・細谷紀子，雨宮有子，杉本健太郎，泰羅万純，佐藤紀子：全国市区町村における災害時の共助を意図した平常時の保健師活動の概要，日本地域看護学会第24回学術集会，2021年9月11日～12日，オンライン開催.
- ・吉岡京子，藤井仁，塩見美紗，片山貴文，細谷紀子，真山達志：保健師による保健医療福祉計画策定に関する全国調査（第3報），第80回日本公衆衛生学会総会，2021年12月21日～23日，東京・オンデマンド（ハイブリッド開催）.
- ・塩見美紗，吉岡京子，片山貴文，藤井仁，細谷紀子，真山達志：保健師による保健医療福祉計画策定に関する全国調査（第4報），第80回日本公衆衛生学会総会，2021年12月21日～23日，東京・オンデマンド（ハイブリッド開催）.

催).

- ・Noriko Hosoya, Kentaro Sugimoto, Masumi Taira, Yuko Amamiya, Noriko Sato: Activities of public health nurses in normal times for persons requiring support during disasters, 第10回日本公衆衛生看護学会学術集会10周年記念大会 6th International Conference of Global Network of Public Health Nursing 合同開催, 2022年1月8~9日, オンライン開催.
- ・細谷紀子, 佐藤紀子, 雨宮有子, 杉本健太郎, 石丸美奈: 発達障害児者のレジリエンスに関する研究動向 (文献レビュー), 文化看護学会第14回学術集会, 2022年3月12日, オンライン開催.

5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・科学研究費助成事業 (基盤研究 (C)), 発達障害児の親に対する地域との繋がりづくりを意図した防災プログラム評価指標の開発, 研究代表者.
- ・学長裁量研究費, リフレクションに基づく個別支援実践能力育成の普及に向けたプリセプター養成に係る基礎調査, 研究代表者.
- ・科学研究費助成事業 (基盤研究 (C)), 医療職配置のない高齢者住宅の介護職員が活用できる新たな感染対策マニュアルの開発, 分担研究者.
- ・科学研究費助成事業 (基盤研究 (B)), 保健医療福祉計画策定に必要な保健師の施策化能力向上のための教育プログラムの開発, 分担研究者.
- ・科学研究費助成事業 (基盤研究 (C)), エンパワメント基盤型介護予防実践支援ガイドの開発, 分担研究者.
- ・科学研究費助成事業 (基盤研究 (C)), 保健師活動への意欲を原動力にしてリーダーシップを発揮するためのガイドの開発, 分担研究者.
- ・学長裁量研究費, 介護予防のための生活習慣継続をめざした多職種連携プログラム (新・ほい大健康プログラム) の評価, 共同研究者.

IV 社会貢献・国際交流記録

2 地域への保健医療活動 (診療・技術指導等. 活動期間. 場所等)

- ・新型コロナウイルス感染症対応に伴う県内保健所応援 (2日間)

3 審議会, 委員会, 国家試験委員等の実績 (活動団体名称. 委員名称. 活動期間)

- ・千葉県国民健康保険団体連合会. 保健事業支援・評価委員会委員. 2021年7月より現在に至る.
- ・千葉県国民健康保険団体連合会. 保健事業支援・評価委員会ワーキンググループ委員. 2021年6月より現在に至る.

4 職能団体委員等 (職能団体名称. 委員名称. 活動期間)

- ・日本看護系大学協議会. 災害連携教員. 2021年1月より現在に至る.

5 学会, 学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本地域看護学会. 千葉看護学会. 日本公衆衛生学会. 日本看護科学学会. 文化看護学会. 日本公衆衛生看護学会. 日本ルーラルナース学会.

2) 学会, 学術団体への貢献 (学会・学術団体名. 役職. 活動期間)

- ・千葉看護学会. 査読委員. 2015年4月より現在に至る.
- ・日本ルーラルナース学会. 査読委員. 2020年4月より現在に至る.
- ・文化看護学会. 編集委員会委員. 2020年9月より現在に至る.

6 講演会 (公開講座を含む) / 研修会の講師・研究指導等 (会名称. 主催 団体名称. 講演テーマ等. 対象. 開催日. 場所)

- ・業務研究に関する指導. 市原市. 糖尿病性腎症重症化予防のための医療受診勧奨による継続受診と健診結果改善の

効果検証。市原市役所国民健康保健課。2021年11月。オンライン指導。

- ・令和3年度第2回山武保健所管内保健師業務連絡研究会。山武保健所。講演「業務研究の意義とレポート作成のポイント」および業務研究発表に係る講評・助言。山武保健所および管内市町村所属保健師22名。2021年11月2日。山武市役所。
- ・International Exchange Symposium between Inje University and Chiba Prefectural University of Health Sciences, Promoting mutual assistance among local residents for disasters preparation, 2022年3月23日(火), オンライン開催。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称。活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・総務企画委員会。危機管理委員会。特色科目運営会専門職間の連携活動論作業部会。

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称。活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科倫理審査委員会。看護学科総務・企画委員会。看護学科総合実習作業部会。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育については、専門職間の連携活動論の科目責任者として調整役割を担い、遠隔と一部対面授業を組み合わせることで実施することができ、本学の強みである特色科目群の集大成としての学びを保証することができた。研究については、研究成果について論文1編（共著）と学会発表5件（筆頭3件、国際学会含む）によりを公表した。社会貢献については、今年度より千葉県国民健康保険団体連合会保健事業支援・評価委員およびワーキンググループ委員を務め、県内自治体の保健事業の質確保に向けて役割を果たすことができた。大学の管理運営については、2つの学科委員会委員長および3つの全学委員会・部会委員として、責任をもって任務を遂行することができた。

VII 次年度の目標

教育については、次年度より担当する看護政策論をはじめ、専門職間の連携活動論、その他担当科目について学生の学びを保証・支援できるようにする。研究については、代表者および分担者を務める研究課題について計画的に推進し、成果を着実に示す。社会貢献については、千葉県国民健康保険団体連合会保健事業支援・評価委員や学術団体の各委員として役割を果たす。また、次年度より担当する千葉県および保健医療科学院主催の研修講師について有益なものとなるよう努める。大学の管理運営については、全学総務・企画委員、看護学科総務・企画委員長としての職務を責任をもって遂行する。

准教授 川城 由紀子 博士 (医学)

対象期間：2021年4月1日～2022年3月31日まで

I 年度当初の目標

令和3年度は、特に母性看護学実習の施設実習や学内実習の内容の見直しを行い、より質の高い教育を提供できるようにする。研究活動では、研究成果をまとめ公表する。管理運営では、看護学科社会貢献委員長として、健康づくり政策に対するシンクタンク機能の強化と地域貢献を目指した研究に着手する。社会貢献では、学術集会の事務局長として、学術集会を円滑に開催できるよう努める。助産師職能委員として、新型コロナウイルス感染症の感染状況に合わせて研修会等を企画運営する。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績 (科目名)
 - ・母性看護学方法論Ⅰ.
 - ・母性看護学方法論Ⅱ.
 - ・母性看護学実習.
 - ・助産学概論.
 - ・助産診断・技術学Ⅰ (実践基礎).
 - ・助産診断・技術学Ⅱ (ライフサイクル各期).
 - ・助産診断・技術学Ⅲ (分娩期).
 - ・助産診断・技術学Ⅳ (ハイリスク分娩).
 - ・助産学実習Ⅰ (産婦ケア体験).
 - ・助産学実習Ⅱ (継続支援).
 - ・助産学実習Ⅲ (分娩期ケア).
 - ・総合実習.
 - ・看護研究.
 - ・看護学統合.

III 研究記録

1 著書 (著者本人下線：著書, 発行年, 発行所, 発行場所)

- ・石井邦子, 廣間武彦, 川城由紀子他：助産診断・技術学Ⅱ [3] 新生児・乳幼児期 (助産学講座第8巻) 第6版, 2022年, 医学書院, 東京.

2 学術論文・その他 (著者：題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年, 本人下線)

- ・川城由紀子, 石井邦子, 川村紀子, 北川良子：母性看護学実習における産後の女性へのオンラインインタビューによる学生の学び, 千葉県立保健医療大学紀要, 13巻, 1号, 45-51, 2022.

3 発表 (発表者：発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等, 本人下線)

- ・川城由紀子, 石井邦子, 川村紀子, 北川良子：新型コロナウイルス (COVID-19) 感染拡大に伴う母性看護学学内実習における看護過程展開の評価, 第23回日本母性看護学会学術集会, 2021年5月22日, 千葉.
- ・石井邦子, 川城由紀子, 川村紀子, 北川良子：新型コロナウイルス (COVID-19) 感染拡大地域における母性看護学学内実習の実際, 第23回日本母性看護学会学術集会, 2021年5月22日, 千葉.

- ・川城由紀子, 石井邦子, 川村紀子, 北川良子: 母性看護学学内実習における産後の女性へのインタビューによる学生の学び, 第39回千葉県母性衛生学会学術集会, 2021年6月5日, 千葉.
- ・川城由紀子, 片平伸子, 杉本知子: 我が国における中高年女性の骨密度低下予防のための運動の効果に関する文献レビュー, 第41回日本看護科学学会学術集会, 2021年12月4・5日, Web開催.

5 研究資金獲得状況(外部資金・学内共同・学長裁量)(資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・学内共同研究, コミュニケーション能力の習得に向けた学内母性看護学実習プログラムの評価, 研究代表者
- ・学内共同研究, 中小規模の周産期医療機関に転職した中堅助産師のキャリアニーズの現状とキャリア支援プログラムの考案, 研究分担者
- ・学長裁量研究, 地域包括ケアシステムを担う看護職者に求められる看護実践能力に関する研究, 研究代表者
- ・科学研究費基盤(C), 熟練看護職の実践知に基づく産後抑うつ状態の診断力育成プログラムの開発, 研究分担者

IV 社会貢献・国際交流記録

2 地域への保健医療活動(診療・技術指導等, 活動期間, 場所等)

- ・新型コロナウイルス感染症対応に伴う県内保健所応援(延べ1日)
- ・内診スキルアップセミナーの企画・実施, 2021年7月15日, 2021年8月5日, くぼのやウィメンズホスピタル

3 審議会, 委員会, 国家試験委員等の実績(活動団体名称, 委員名称, 活動期間)

- ・千葉県准看護師試験委員, 2020年7月～現在に至る.

4 職能団体委員等(職能団体名称, 委員名称, 活動期間)

- ・千葉県看護協会, 助産師職能委員, 2018年6月～現在に至る.

5 学会, 学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本看護科学学会, 日本看護研究学会, 日本母性看護学会, 日本母性衛生学会, 日本衛生学会, 千葉看護学会, 千葉県母性衛生学会

2) 学会, 学術団体への貢献(学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

- ・第23回日本母性看護学会学術集会, 事務局長, 2020年4月～2021年5月
- ・日本母性看護学会, 専任査読委員, 2014年4月～現在に至る.
- ・千葉看護学会, 査読委員, 2018年10月～現在に至る.

6 講演会(公開講座を含む)/研修会の講師・研究指導等(会名称, 主催 団体名称, 講演テーマ等, 対象, 開催日, 場所)

- ・新人教育担当者研修会, 千葉県看護協会, 新人看護師の基礎教育の状況, 千葉県内医療施設の新人教育担当者(看護職), 2021年11月30日.

V 管理・運営記録

1 全学委員会(委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・研究倫理審査委員会

2 学科/専攻内委員会(委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・看護学科運営会議, 看護学科社会貢献委員会, 看護学科2年生担任.

3 対外広報活動<新聞・ホームページでの活動・TV出演, ラジオ出演等>

- ・ホームページ:千葉県立保健医療大学育成支援看護学領域母性看護学・助産学. (<https://square.umin.ac.jp/cpuhs-mm>)

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動では、母性看護学実習では新型コロナウイルス感染症の状況に合わせて臨機応変に対応する中でも、施設と協力し学生が看護を学ぶ機会を確保できた。研究活動では、研究成果について学会発表3本と論文1本を公表でき、新たな研究2本に着手できた。管理運営では、「コツコツ学ぼう！セミナー」を3年ぶりにオンラインで開催し、臨床での研究指導の質向上に貢献できた。また地域包括ケアシステムにおける看護実践能力に関する調査を行うことができた。社会貢献では、学術集会の事務局長として、学術集会を開催できた。助産師職能委員では、オンラインでの研修会を企画運営できた。

VII 次年度の目標

令和4年度は、教育活動では、母性看護学実習の臨地実習をより充実した実習内容に修正を行う。研究活動では地域包括ケアに関する研究成果を論文化し公表する。また新たな研究に着手する。管理運営・社会貢献では、「コツコツ学ぼう！セミナー」のフォローアップセミナーを開催し、臨床での研究活動の活性化に貢献する。

准教授 植村 由美子 博士（看護学）

対象期間：2021年4月1日～2021年8月31日まで

I 年度当初の目標

令和3年度は、以下を目標とした。

①授業関連：COVID-19感染防止策を講じながら、学生の学習意欲を落とさず、教員の大きな負担のない授業の工夫を行う。②管理運営業務：総務・企画委員会の所掌を確実に遂行する。③研究：研究成果をまとめ、速やかに公表する。④社会貢献活動：看護協会の事業等に参加し、看護職の支援を行う。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）
 - ・看護学原論.
 - ・看護技術論Ⅲ（検査治療技術）.
 - ・日常生活調整方法論.
 - ・基礎看護学実習.
 - ・看護研究.

III 研究記録

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・片平伸子，植村由美子：日本の訪問看護師の看護実践能力についてのナラティブレビュー，日本プライマリ・ケア連合学会誌，プライマリ・ケア連合学会誌，44巻，2号，89-96，2021.

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・科学研究費補助金基盤研究（C），看護師の臨床判断事例に基づくフィジカルアセスメント学習教材の開発，研究分担者.

IV 社会貢献・国際交流記録

2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等，活動期間，場所等）

- ・新型コロナウイルス感染症対応に伴う県内保健所応援（延べ2日）

5 学会，学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
 - ・日本看護科学学会，日本看護学教育学会，日本看護倫理学会，ホリスティックナーシング研究会.

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称，主催 団体名称，講演テーマ等，対象，開催日，場所）

- ・令和3年度 千葉県看護教員養成講習会。「倫理学」. 2021年4月23日，30日，5月10日，17日，31日. web.

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）

・総務・企画委員会. 2021. 4～2021. 8.

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）

・総務・企画委員会（委員長）2021. 4～2021. 8. 社会貢献委員会 2021. 4～2021. 8.

VI 評価（成果および改善すべき事項）

①授業関連：COVID-19により、学習方法・内容の変更はあったが、前年度の経験を踏まえ対応した。②管理運営業務：学科の予算要求の取りまとめ等を行った。③研究：滞ってしまった。④社会貢献活動：看護教員養成講習会の講師を担当し、目標をおおむね達成できたと考える。年度途中の退職にともない、年度当初の目標は、達成できなかった。

准教授 西村 宣子 修士（看護学）

対象期間：2021年4月1日～2022年3月31日まで

I 年度当初の目標

教育については、COVID-19の影響によりオンライン授業中心となるが、授業内容や方法を工夫し、オンデマンド・リアルタイム授業を併用しながら、教育の質を保証できるよう実施する。また、COVID-19により、就職活動に不安を抱く学生に対して、就職相談・エントリーシートの指導や面接練習など積極的に就職活動支援を行う。

研究については、20201年度より3年計画の科研費基盤C研究が採択されたため、計画的に推進するとともに、分担者を務める研究においても精力的に取り組む。大学の管理運営については、全学学生委員、看護学科進路支援委員会（進路支援部会長）、および4年生担任リーダーとしての役割を責任をもって遂行する。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・看護管理学.
- ・看護キャリア発達論.
- ・看護倫理.
- ・リーダーシップ論.
- ・リスクマネジメント論.
- ・看護学入門.
- ・退院支援論.
- ・国際看護論.
- ・家族看護論.
- ・看護管理学実習.
- ・基礎看護学実習.
- ・総合実習.
- ・看護研究.
- ・看護学統合.
- ・専門職間の連携活動論.

III 研究記録

1 著書（著者本人下線：著書，発行年，発行所，発行場所）

- ・西村宣子：中堅看護師に期待されるタイムマネジメント，p71-78，2021，Vol.67，看護技術，メヂカルフレンド社.
- ・西村宣子，富樫恵美子：一般病院に勤務するセカンドキャリアに関する意識調査，千葉県立保健医療大学紀要，第13巻，1号，p21-28，2022，

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・西村宣子，富樫恵美子：看護管理者のマネジメントリフレクションによる行動変容に影響する要因，第25回日本看護管理学会学術集会，2021年8月28～29日，パシフィコ横浜ノース，ハイブリッド開催
- ・富樫恵美子，西村宣子：看護管理者のセカンドキャリア活用についての意識，第25回日本看護管理学会学術集会，2021年8月28～29日，パシフィコ横浜ノース，ハイブリッド開催

- 5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）
- ・2021～2023 年度科学研究費助成事業（基盤研究（C）），行動変容につながる看護マネジメントリフレクション研修の開発，研究代表者。
 - ・千葉県保健医療大学 共同研究，新人看護師の夜勤導入におけるマネジメントの実際，研究分担者。

IV 社会貢献・国際交流記録

2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等，活動期間，場所等）

- ・新型コロナウイルス感染症対応に伴う県内保健所応援（延べ1日）
- ・看護学科社会貢献事業 こつこつ学ぼうセミナー，ファシリテーター，2022年3月16日

4 職能団体委員等（職能団体名称，委員名称，活動期間）

- ・公益社団法人 日本看護協会 認定看護管理者認定実行委員会 委員（2020年4月～2022年3月）
- ・公益社団法人 千葉県看護協会 教育委員会 委員（2020年8月～2022年7月）

5 学会，学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本看護管理学会，日本災害医学会，医療マネジメント学会，日本看護教育学会，日本運動器看護学会。

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称，主催 団体名称，講演テーマ等，対象，開催日，場所）

- ・東京歯科大学市川総合病院看護研究指導，2021年7月～2022年3月 計7回（2部署），臨床看護師。
- ・第39回・40回認定看護管理者教育課程ファーストレベル研修会，人材管理Ⅰ，リーダーシップ，看護管理者，2021年6月26日，2022年1月20日，公益社団法人千葉県看護協会。
- ・看護管理者研修会，「看護管理者のための看護倫理」，看護管理者，2021年11月11日，公益社団法人千葉県看護協会

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・学生委員会

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科運営会議，学生・進路支援委員会，進路支援部会，4年生担任リーダー。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育に関しては，昨年のオンライン授業の経験を踏まえ，授業内容や方法を工夫したオンデマンド・リアルタイム授業を併用しながら，教育の質を維持できるよう実施した。特に臨地実習では，実習施設の受け入れ状況が2点3点する中，実習施設との綿密な調整，特別講師の協力を得ながら実習方法を柔軟に変更することで，効果的な実習が展開できたと考える。

大学運営については，委員会メンバーと連携を図りながら担当する責務を果たした。進路支援部会長としてCOVID-19により，就職活動に不安を抱く学生に対して，就職相談・エントリーシートの指導や面接練習など積極的に支援した。

研究活動については，教育活動の検討や臨地実習の度重なる変更に時間を要したため，獲得した科研費の研究の遂行に遅れが生じたが，前年度の研究成果を関連学会で発表することができた。また，2019年度の研究を大学紀要に投稿することができた。

VII 次年度の目標

教育に関しては、2年間オンライン授業を中心に受けた学生が、対面授業に集中して受講できるよう授業内容や方法を工夫した授業を展開していく。感染対策を踏まえた、効果的な臨地実習について継続して検討する。研究活動においては、科研費研究の遅れを取り戻しつつ、共同研究と共にを計画的かつ精力的に推進し、成果の公表に向けて準備をする。大学の運営管理については、今年度の経験を活かして円滑に責務を遂行する。また、学生の就職活動の支援を継続して行っていく。

准教授 北川 良子 博士（看護学）

対象期間：2021年4月1日～2022年3月31日まで

I 年度当初の目標

令和4年度は、担当科目の授業目標を到達できるように講義・演習・実習の教育方法を吟味、創意工夫をして教育活動を実施する。また新たな実習施設を開拓することと、新々カリ及び指定規則改正への移行に伴い内容をアップデートしさらなる改善に努める。研究活動を充実させ、これまでの研究成果を学会発表・投稿できるように研究活動の時間を確保できるように努める。大学管理運営については入試実施委員会および看護学科入試実施委員会において円滑な運営となるように委員長および委員とともにコミュニケーションを密にとり業務を遂行していく。社会貢献活動では、高校訪問を行うなど要請に応じて実施することと学会の理事として関係者に協力・助言を受けながら役割を遂行する。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・母性看護学方法論Ⅰ.
- ・母性看護学方法論Ⅱ.
- ・母性看護学実習.
- ・助産診断・技術学Ⅰ.
- ・助産診断・技術学Ⅱ.
- ・助産診断・技術学Ⅲ.
- ・助産診断・技術学Ⅳ.
- ・助産学実習Ⅰ（産婦ケア体験）.
- ・助産学実習Ⅱ（継続支援）.
- ・助産学実習Ⅲ（産婦ケア）.
- ・総合実習.
- ・体験ゼミナール.
- ・看護研究.
- ・看護学統合.

III 研究記録

1 著書（著者本人下線：著書，発行年，発行所，発行場所）

- ・石井邦子，廣間武彦，小川亮，北川良子他：助産診断・技術学Ⅱ [3] 新生児・乳幼児期（助産学講座第8巻）第6版，2022年，医学書院，東京.

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・川城由紀子，石井邦子，川村紀子，北川良子：母性看護学実習における産後の女性へのオンラインインタビューによる学生の学び，千葉県立保健医療大学紀要，13巻，1号，45-50，2022.

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・石井邦子，川城由紀子，川村紀子，北川良子：新型コロナウイルス（COVID-19）感染拡大地域における母性看護学内実習の実際，第23回日本母性看護学会学術集会，2021年5月22日（6月1～30日），Web開催.

- ・川城由紀子, 石井邦子, 川村紀子, 北川良子: 新型コロナウイルス(COVID-19)感染拡大に伴う母性看護学学内実習における看護過程展開の評価, 第23回日本母性看護学会学術集会, 2021年5月22日(6月1~30日), Web開催.
- ・川城由紀子, 石井邦子, 川村紀子, 北川良子: 母性看護学学内実習における産後の女性へのインタビューによる学生の学び, 第39回千葉県母性衛生学会学術集会, 2021年6月5日(6月7~30日), Web開催.

5 研究資金獲得状況(外部資金・学内共同・学長裁量)(資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・科学研究費補助金基盤研究(C)「CLOCMiP レベルⅢ認証前の若手助産師キャリア支援プログラムの開発と検証」研究代表者.
- ・2021~2023年度 科学研究費補助金基盤研究(C), 熟練看護職の実践知に基づく産後抑うつ状態の診断力育成プログラムの開発, 研究分担者.
- ・2021年度 学内共同研究, コミュニケーション能力の習得に向けた学内母性看護学実習プログラムの評価—模擬患者と模擬指導者への調査—, 共同研究者.
- ・2021~2022年度 学内共同研究, 中小規模の周産期医療機関に転職した中堅助産師のキャリアニーズの現状とキャリア支援プログラムの考案, 研究代表者.

IV 社会貢献・国際交流記録

2 地域への保健医療活動(診療・技術指導等, 活動期間, 場所等)

- ・新型コロナウイルス感染症対応に伴う県内保健所応援(延べ2日).
- ・内診スキルアップセミナーの企画・実施, 2021.7.15, 2021.8.5, くぼのやウィメンズホスピタル

5 学会, 学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本母性看護学会, 日本助産学会, 日本看護科学学会, 日本母性衛生学会, 千葉看護学会.

2) 学会, 学術団体への貢献(学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

- ・日本母性看護学会第23回学術集会, 企画委員, 2020年3月26日~2021年6月30日.
- ・日本母性看護学会, 査読委員(2017年4月~現在に至る).
- ・千葉看護学会, 査読委員(2017年8月~現在に至る).
- ・日本母性看護学会 総務理事(2019年6月から現在に至る)

6 講演会(公開講座を含む)/研修会の講師・研究指導等(会名称, 主催 団体名称, 講演テーマ等, 対象, 開催日, 場所)

- ・千葉県看護協会, 2021年度千葉県看護教員養成講習会, 看護論演習, 6月

V 管理・運営記録

1 全学委員会(委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・入試実施委員会.

2 学科/専攻内委員会(委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・看護学科入試検討委員会, 看護学科1年生担任.

3 対外広報活動<新聞・ホームページでの活動・TV出演, ラジオ出演等>

- ・ホームページ: 千葉県立保健医療大学育成支援看護学領域母性看護学・助産学(<http://square.umin.ac.jp/cpuhs-mm/>).

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動では、令和3年度も COVID-19 の影響に伴う授業形態の変更・内容の検討を余儀なくされたが、学生の学びや反応から学習目標を達成し得る内容であったことが確認できた。実習においても学内実習への変更、実習施設の変更・新規開拓があったが実習目標達成となる実習ができた。研究活動では、共同研究者として新たな研究に着手することができたが、教育や大学運営に多くの時間を費やしたため十分な研究活動を行うことができなかった。管理運営では、看護学科入試検討委員会委員長として編入学試験と特別選抜試験の同日開催など新たな入試実施に対応することができた。共通テストの追再試験の実施では多くの不測の事態が発生したが関係者とともに協力し滞りなく実施することができた。社会貢献では、日本母性看護学会総務理事として、また学術集会の事務局広報として関係者に協力頂きながら役割を遂行できた。

VII 次年度の目標

教育活動では、特に助産科目の演習、実習の内容の見直しを行い、ニューノーマルな時代に合わせたより質の高い教育を提供できるようにする。研究活動では、研究成果をまとめ公表するとともに新たな研究に着手する。管理運営では、入試実施委員会として安全公正な全学的な入試実施に努めるとともに、看護学科入試検討委員会として学科内の入試・広報業務が円滑に行えるように努める。社会貢献では学会の総務理事として円滑な学会運営に寄与する。

准教授 田口 智恵美 博士 (看護学)

対象期間：2021年4月1日～2022年3月31日まで

I 年度当初の目標

教育では病院実習の日数減少に応じて効果的な講義や学内実習の内容になるよう検討・更新する。大学運営では、担当する委員会の年間計画に基づき行事を滞りなく進める。研究活動では、さらに自己の専門性を追究するテーマで研究を進める。社会貢献では、職能団体、学会、実習施設など、多様な場で活動する。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・臨床看護学概論.
- ・臨床看護学方法論Ⅰ.
- ・臨床看護学方法論Ⅱ.
- ・臨床看護学方法論Ⅲ.
- ・急性期看護学実習.
- ・総合実習.
- ・看護研究.
- ・看護学統合.
- ・看護学入門実習.
- ・救命・救急の理論と実際.
- ・専門職間の連携活動論.

III 研究記録

1 著書 (著者本人下線：著書, 発行年, 発行所, 発行場所)

- ・田口智恵美：第Ⅲ章救急・集中治療時の看護技術 3. 救急外来・ICUにおける看護技術 B. 気管吸引 Skill 気管吸引 (開放式・閉鎖式), 看護学テキスト NiCE 成人看護学 成人看護技術 (改訂第3版) (野崎真奈美, 林直子, 佐藤まゆみ, 鈴木久美編集), 2022, 南江堂, 東京.

2 学術論文・その他 (著者：題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年, 本人下線)

- ・田口智恵美, 坂本明子, 大内美穂子, 内海恵美, 三枝香代子, 浅井美千代：本学卒業生が新人看護師となって職場で直面した困難, 千葉県立保健医療大学紀要, 第13巻, 第1号, 29-38, 2022.

5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・学内共同研究費, 情動に方向づけられたクリティカルケア看護師の臨床状況の理解や行動の様相, 研究代表者.
- ・学内共同研究費 (学長裁量), COVID-19 感染拡大により在学中の臨地実習に影響を受けた A 大学卒業生が入職後に感じる困難, 並びに学内で行われて総合実習が卒業後の看護実践に与えた影響, 研究分担者.

IV 社会貢献・国際交流記録

5 学会, 学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本看護科学学会, 日本クリティカルケア看護学会, 日本循環器看護学会, 千葉看護学会, 日本看護学教育学会

- 2) 学会, 学術団体への貢献 (学会・学術団体名, 役職, 活動期間)
- ・日本看護協会論文審査・編集委員会委員, 2021年4月～現在
 - ・日本看護科学学会, 和文編集委員会専任査読委員, 2018年9月～現在
 - ・日本クリティカルケア看護学会編集委員会委員, 2019年5月～現在.
 - ・日本クリティカルケア看護学会, 査読委員, 2004年～現在.
 - ・日本循環器看護学会, 査読委員, 2013年2月～現在.

6 講演会 (公開講座を含む) / 研修会の講師・研究指導等 (会名称, 主催 団体名称, 講演テーマ等, 対象, 開催日, 場所)

- ・看護研究指導, 年6回, 東京歯科大学市川総合病院, (遠隔)
- ・看護研究指導, 年7回, 千葉県循環器病センター (遠隔)
- ・事例検討指導, 年16回, 千葉県救急医療センター (1回のみ遠隔).

V 管理・運営記録

1 全学委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・進路支援委員会.
- ・新型コロナウイルスワクチン接種プロジェクトチーム, 6～8月.

2 学科/専攻内委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・看護学科運営委員会, 看護学科学生・進路支援委員会.

VI 評価 (成果および改善すべき事項)

教育活動では, 前年度のコロナ禍で蓄積した教育方法を組み合わせたり応用したりすることにより, 新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえた活動指針の変更や病院からの実習受け入れ制限等に臨機応変に対応しながら教育を進めることができた. 進路支援委員や看護学科学生・進路支援委員長として, 状況に応じてセミナー等を遠隔で行う等の対応をしながら他の職員と協働しながら役割を果たし, 年間計画通りに学生への支援を実施することができた. また, 新型コロナウイルスワクチン接種プロジェクトメンバーとして貢献した. 社会貢献では, 看護系学会での活動や実習施設への研究指導等を行った. 研究活動では, 昨年度学内共同研究 (学長裁量) の助成を受けて実施した研究を紀要で公表した. 今後はより柔軟に創意工夫しながらそれぞれの活動の質を高めていく必要がある.

VII 次年度の目標

医療の進歩に伴い変化する看護の現場を反映した教育ができるよう, 学会や文献等で最新の知見を得て講義内容等を見直し更新する. 大学運営では, 担当する学生支援や進路支援に関わる委員会の年間行事を滞りなく進め, 国家試験合格や県内就職につながるよう活動する. 研究活動では, 自己の専門性を追究するテーマで研究を進め, 成果の公表を目指す. 社会貢献では, 職能団体, 学会, 実習施設など, 多様な場で活動する.

准教授 今井 宏美 博士（工学）

対象期間：2021年4月1日～2022年3月31日まで

I 年度当初の目標

2021年度は特にOnlineでの技術演習の展開をブラッシュアップさせ、学生間・学生-教員間の共感力に配慮した飽きのこない授業展開を検討し、教育方法としての提案を何らかの形で学外へ発信していきたい。研究活動は資金獲得した研究活動および、昨年度COVID-19の影響によって十分なデータが得られなかった部分を補完し、この時代のニーズにあった研究を担っていく。また未投稿になっているデータを論文として投稿していくことを目標とする。また、新たに担う組織内活動内容を早期に把握し、円滑な運営に努めたい。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）
 - ・体験ゼミナール。
 - ・看護学原論。
 - ・看護技術論Ⅰ（日常生活援助技術）。
 - ・看護技術論Ⅱ（フィジカルアセスメント）。
 - ・看護技術論Ⅲ（検査治療技術）。
 - ・看護技術論Ⅳ（看護過程展開技術）。
 - ・看護技術論Ⅴ（総合技術演習）。
 - ・基礎看護学実習。
 - ・日常生活調整方法論
 - ・看護研究。
 - ・看護学統合。

III 研究記録

1 著書（著者本人下線：著書，発行年，発行所，発行場所）

- ・看護師国家試験問題集，2021，医学書院，東京。

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・河部房子，今井宏美，椿祥子，石田陽子，松田友美：臨床看護師のフィジカルアセスメント技術習得に関する学習ニーズ調査，千葉県立保健医療大学紀要，13巻，1号，39-44，2021。
- ・佐藤紀子，細山田康恵，今井宏美，大内美穂子，岡村太郎，麻賀多美代：看護医療系の単科公立大学における地域貢献機能の特徴，千葉県立保健医療大学紀要，13巻，1号，51-57，2021。

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・今井宏美，麻賀多美代，麻生智子，木村亜由美，椿祥子，河部房子，三澤哲夫：現実適合性の高い，口腔ケア用モバイルシミュレータを用いた部分学習が全体学習に及ぼす影響—第2報磨き残しの印象評価から—，産業保健人間工学会，2021年10月，web。
- ・今井宏美，椿祥子，三枝香代子，中畑千夏子，坂下貴子，茂野香おる：リユーザブルカフを介した病原微生物伝播の可能性の検証，千葉県立保健医療大学学内共同研究発表，2021年9月，web
- ・鈴木翔太，渡部誠人，滝聖子，神代充，今井宏美：起居動作における介助者の身体動作範囲に関する考察：日本経

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・科学研究費助成若手研究，現実適合性の高いモデルを活用した歯周病疾患予防・悪化防止に資するプログラムの創成，研究代表者.
- ・科学研究費補助金基盤研究（C），看護師の臨床判断事例に基づくフィジカルアセスメント学習教材の開発，研究分担者.
- ・科学研究費助成事業（補助金）基盤研究（B），身体的インタラクション特性に基づく介護動作生成モデルおよび適用システム，研究分担者.

IV 社会貢献・国際交流記録

5 学会，学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本看護研究学会，日本環境感染学会，日本看護学教育学会，日本看護技術学会，日本看護科学学会，口腔保健協会学会，口腔衛生学会，日本歯科医学教育学会，日本歯科衛生教育学会，勤務環境改善マネジメント研究会，産業保健人間工学会，日本人間工学会

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・広報委員会

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科学生・進路支援委員会，看護学科入試検討委員会，1年次生担任，看護学科運営会議.

VI 評価（成果および改善すべき事項）

研究活動においては，COVID-19の影響によって当初の計画を遂行することは困難を極めた。実験時期が遅れはしたが，起居介助時の身体動作については共同研究者との協力において，分析が可能なデータの収集は実施できた。また，教育活動および社会活動として，非対面での看護学生の学習継続とデジタル化を可能とした学習特化型 LMS の開発に携わり，本学科でもトライアルを実施し，学生からは概ね高い評価を得た。組織内活動においては，学科内では1年次の担任リーダーとして時間を割き，また全学内では広報活動，入試関連業務および，本学の魅力を発信するリーフレット制作において尽力を尽くした。

VII 次年度の目標

2022年度は従来の対面型の授業に Online での技術習得のための自己学習を組み合わせ，双方のよい処を生かした効率的な技術獲得方法を検討していきたい。研究活動は資金獲得した研究活動および，昨年度 COVID-19 の影響によって十分なデータが得られなかった部分を補完し，同時にこの時代のニーズにあった研究を一部担っていく。また，職位にみあうような組織内での活動が可能となるようを広い視野をもって円滑な運営に努めたい。

講師 成 玉恵 修士（政治学）

対象期間：2020年4月1日～2021年3月31日まで

I 年度当初の目標

令和3年度は、特に教育に関して、新型コロナの状況に応じた質の向上をはかり、アクティブラーニングの実施に向けデジタル運営の技術をマスターする。実習に関しては、学生のレディネスを向上させるための工夫を行う。研究に関しては、科学研究費による研究を継続し成果を発表する。また、その他の研究も引き続き実施する。社会貢献活動に関しては、墨田区介護保険事業運営協議会の委員を更に3年間継続することとなったため、引き続き委員として社会貢献に尽力する。特に地域包括支援センターの評価委員として個別に対応しそれぞれの力量を向上させる。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）
 - ・高齢者・在宅看護学方法論Ⅰ.
 - ・在宅看護学方法論Ⅱ.
 - ・在宅看護学実習.
 - ・総合実習.
 - ・看護学統合.

III 研究記録

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・Misa Shiomi, Kyoko Yoshioka-Maeda, Sayaka Kotera, Kazuko Takemura, Eiko Hanai, Tamae Sei: Applicability and Limitations of a Community Continuing Assessment Model in Public Health Nursing Practice, 6th International Conference of Global Network of Public Health Nursing, 2021年8月, online.

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・科学研究費補助金基盤研究（C），市町村保健師による民間活力を活かしたヘルスケア対策に向けた基盤的研究，研究代表者.

IV 社会貢献・国際交流記録

2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等，活動期間，場所等）

- ・新型コロナウイルス感染症対応に伴う県内保健所応援（延べ2日）

3 審議会，委員会，国家試験委員等の実績（活動団体名称，委員名称，活動期間）

- ・墨田区，介護保険事業運営協議会委員，2021年4月～2024年3月.

5 学会，学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
 - ・日本在宅ケア学会，日本地域看護学会，日本行政学会，日本公衆衛生看護学会，日本保健医療社会学会，日本看護学教育学会，日本看護科学学会，日本公衆衛生学会.

- 2) 学会, 学術団体への貢献 (学会・学術団体名, 役職, 活動期間)
- ・日本地域看護学会第 24 回学術集会, 事務局, 2021 年 9 月 4 日～2021 年 9 月 5 日.

V 管理・運営記録

- 1 全学委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)
 - ・図書委員会
- 2 学科/専攻内委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)
 - ・看護学科教務委員会, 看護学科総務・企画委員会, 2 年生担任, 看護研究部会, 総合実習作業部会.

VI 評価 (成果および改善すべき事項)

今年度は, 新型コロナの状況が継続したため対面授業ができず, アクティブラーニングの実施に至らなかった. そのため, Teams の技術を駆使しオンラインによる演習を行った. 実習に関しては, 事前の知識確認テストやオンライン教材を利用した多職種連携の学習等, 学生のレディネスの向上に寄与した. 研究に関しては, コロナ禍のため調査が進まず成果を発表するまでに至らなかった. 社会貢献活動に関しては, 墨田区地域包括支援センターを対象に事業評価研修を実施し, その成果に関する調査を行った. 次年度は新型コロナの感染状況を鑑みつつ, 目標に向けて実践していきたい.

VII 次年度の目標

令和 4 年度は対面授業が開始されるため, アクティブラーニングを取り入れた授業や演習を機能的に行う. また, 実習では, Teams 等オンライン機能を利用しデジタルによる実習記録の活用を試みる. 研究に関しては, 科学研究費が最終年であるため調査をすすめ研究の成果をまとめる. また, 墨田区と共同で進めている研究の成果を発表する. 社会貢献活動では, 引き続き墨田区の地域包括支援センターの事業評価研修を行い, 技術向上に寄与する.

講師 石川 紀子 博士（看護学）

対象期間：2021年4月1日～2022年3月31日まで

I 年度当初の目標

教育活動では、COVID-19の影響に伴い遠隔授業や実習方法の変更が生じるため、領域の教員間で連携を図りながら学生の学習目標が達成できる教育方法を検討し、実施していく。研究活動では、新たに採択された科研費の研究代表者として、研究計画に沿って必要な活動を推進すると共に、前年度に終了した研究の成果発表をしていく。大学運営では、担当となった委員会業務や役割を遂行していく。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・体験ゼミナール.
- ・小児看護学方法論Ⅰ.
- ・小児看護学方法論Ⅱ.
- ・小児地域ケア論.
- ・小児看護学実習.
- ・総合実習.
- ・看護研究.
- ・看護学統合.

III 研究記録

1 著書（著者本人下線：著書，発行年，発行所，発行場所）

- ・石川紀子：第IX章 日常生活援助技術 4. 排泄援助技術，小児看護学Ⅰ 小児看護学概論・小児看護学技術 子どもと家族を理解し力を引き出す（改定第4版）（二宮啓子，今野美紀編集），P455-463，2022年，南江堂，東京.

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・石川紀子，前田留美，堂前有香，齊藤千晶：小児系の病棟に配属異動となった看護師が経験する困難と学習ニーズ，教育・支援体制の実態，第51回日本看護学会論文集：看護管理・看護教育， p.235 - 238，2021年.

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・石川紀子，前田留美，堂前有香，齊藤千晶：小児が入院する病棟に配属異動となった看護師の小児看護実践能力向上を目指した研修プログラム開発，千葉県立保健医療大学 第12回共同研究発表会，2021年9月14日～17日，オンライン開催.

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤研究（C）），配属異動後に小児看護に新たに携わる看護師の小児看護実践能力育成プログラム開発，研究代表者.
- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤研究（C）），小学校入学に向けた幼児期からの慢性疾患患児への支援プログラムの開発，研究分担者.
- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤研究（C）），「気になる子ども」に対する保育施設での発達支援に向けた基盤的研究，研究分担者.

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等（活動名称、活動期間、場所等）

1) 千葉県内

- ・千葉県こども病院でのボランティア活動「病棟内の装飾づくり活動」の推進のための調整。2021年4月～2022年3月。

2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等、活動期間、場所等）

- ・新型コロナウイルス感染症対応に伴う県内保健所応援（延べ1日）

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本小児看護学会、日本小児保健協会、日本家族看護学会、日本小児がん看護学会、日本看護科学学会、千葉看護学会、全国保育園保健師看護師連絡会。

2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

- ・日本小児看護学会、日本小児看護学会誌、査読委員、2021年4月～2022年3月。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・国際交流委員会、Inje 大学シンポジウムプロジェクトチーム、体験ゼミナール作業部会。

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科総務企画委員会、看護学科入試検討委員会、看護学科社会貢献委員会、看護学科「総合実習」作業グループ。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動では、COVID-19 の感染状況や大学の警戒レベルに応じて授業や実習方法の検討を行い、学生の学習目標の達成に向けた取り組みができた。研究活動では、研究代表者として取り組んだ研究について、研究計画に則り調査準備を進めることができた。また筆頭研究者として論文投稿を行い研究成果の公表に取り組むことができた。大学運営では、学科内での要請に対し COVID-19 対応の役割を果たすと共に、委員会活動においては、役割や業務に迅速に対応しながら役割を果たしていった。

講師 富樫 恵美子 修士（スポーツ健康科学）

対象期間：2021年4月1日～2022年3月31日まで

I 年度当初の目標

教育活動においては、状況の変化にも対応できるように準備を入念に行う。また、将来の医療保健活動を担う学生がこのコロナ禍を前向きに捉えられるような関りを意識的にを行い、授業や実習においても内容を改善しながら取り組んでいく。研究においては、昨年度の学内共同研究を学会で発表し紀要に投稿できるよう準備する。また、引き続き次年度も学内共同研究に取り組むことと、外部資金獲得のための研究計画を立案し申請する。委員会ではその職務を遂行し、より良い組織・学ぶ環境となるよう役割を果たしていく。千葉県の保健医療のために、ボランティア活動にも積極的に参加していく。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・看護管理学.
- ・看護管理学実習.
- ・看護キャリア発達論.
- ・リーダーシップ論.
- ・看護倫理.
- ・基礎看護実習.
- ・総合実習.
- ・千葉県の健康づくり.
- ・専門職間の連携活動論.
- ・看護研究.
- ・看護学統合.

III 研究記録

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等. 本人下線）

- ・富樫恵美子，西村宣子：A 県内の医療福祉施設における看護師長経験者のセカンドキャリア雇用の実態，日本看護管理学会（第 25 回日本看護管理学会学術集会），2021 年 8 月 28-29 日，パシフィコ横浜ノース（Web 同時開催）。
- ・西村宣子，富樫恵美子：マネジメントリフレクションによる看護管理者の行動変容に影響する要因，日本看護管理学会（第 25 回日本看護管理学会学術集会），2021 年 8 月 28-29 日，パシフィコ横浜ノース（Web 同時開催）。
- ・水野有希，水野基樹，山田泰行，芳地泰幸，富樫恵美子，岩浅 巧，新井由美，林英範，會田秀子，岡田 綾：看護組織のコミュニケーション行動におけるフィードバックの効果，日本看護管理学会（第 25 回日本看護管理学会学術集会），2021 年 8 月 28-29 日，パシフィコ横浜ノース（Web 同時開催）。
- ・芳地泰幸，富樫恵美子，岩浅 巧，水野有希，山田泰行，林英範，櫻井順子，會田秀子，岡田 綾，水野基樹：大学病院における看護師のコミュニケーションの特徴とチームワークとの関連，日本看護管理学会（第 25 回日本看護管理学会学術集会），2021 年 8 月 28-29 日，パシフィコ横浜ノース（Web 同時開催）。
- ・新井由美，富樫恵美子，林英範，水野基樹：卒後 3 年未満の看護師の人生キャリア成熟と就業継続に関する研究，日本看護管理学会（第 25 回日本看護管理学会学術集会），2021 年 8 月 28-29 日，パシフィコ横浜ノース（Web 同時開催）。

- 5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）
- ・学内共同研究，新人看護師の夜勤導入におけるマネジメントの実際，研究代表者。
 - ・科研費補助金基盤研究（C）2021-2023，行動変容につながる看護マネジメントリフレクション研修プログラムの開発，研究分担者。

IV 社会貢献・国際交流記録

2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等，活動期間，場所等）

- ・新型コロナウイルス感染症対応に伴う県内保健所応援（延べ2日）
- ・看護学科社会貢献事業 こつこつ学ぼうセミナー，ファシリテーター，2022年3月16日

5 学会，学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本看護管理学会，日本看護科学学会，日本医療マネジメント学会，医療勤務環境改善マネジメントシステム研究会，人類働態学会，産業保健人間工学会。

V 管理・運営記録

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・教務委員会・カリキュラム実施部会・看護学科履修ガイダンス主担当
- ・総務・企画委員会・看護学科運営会議主担当

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動では，オンデマンドなどの遠隔授業が主となったため，学生の集中力や理解しやすさを考慮しながら工夫し，提出された課題に対して解説授業を取り入れ双方向のやりとりとなるよう展開し概ね良い評価が得られた。臨地実習を2日間に絞ることで感染リスクを低減し，更に学生の意欲を引き出す効果が得られた。グループワークやロールプレイングを通してより学習テーマを掘り下げる有意義な実習へとつながった。今年度より初めての委員会所属となり，リーダーや周囲の委員より支援を受けながら役割を果たすことができた。また，学内共同研究は倫理審査の承認を得るための準備が，計画よりも大幅に遅れてしまったが，データ収集まで行うことができた。次年度は継続研究のため，計画的に取り組む。保健所への派遣応援や千葉県健康づくりの非常勤講師交渉などを通して，地域への貢献にも意識的に活動できた。

VII 次年度の目標

教育活動においては，1人ひとりが自分の学習課題に向き合ってチカラを発揮できるよう関わっていく。また，授業の内容をブラッシュアップして，今の保健医療従事者に求められている要素を意識的に盛り込んでいく。研究においては，一昨年度の学内共同研究を紀要に投稿できるよう準備する。また，引き続き次年度も学内共同研究に計画的に取り組むこと，外部資金獲得において，採択されるよう研究計画を立案し申請する。委員会ではその職務を遂行し，より良い組織・学ぶ環境となるよう役割を果たすとともに，創意工夫を取り入れていく。千葉県の保健医療のために，保健所への派遣応援要請やボランティア活動にも積極的に参加していく。

講師 加藤 隆子 博士（看護学）

対象期間：2021年4月1日～2022年3月31日まで

I 年度当初の目標

令和3年度も新型コロナウイルス感染症の影響が大きいと思われるため、引き続き感染対策に留意していきたい。教育活動においては、これまで培ったオンライン技術を駆使して、学習目標が達成できるよう講義演習内容を工夫していきたい。研究活動においては、新型コロナウイルス感染症の影響により遅れが出ているが、研究計画を見直し、研究活動を遂行していきたい。社会貢献においては、研修の依頼や新型コロナウイルス感染症関連の派遣要請にも積極的に応じたい。組織運営においては、所属する委員会で他教員と連携を取りながら、役割を果たしていきたい。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）
 - ・体験ゼミナール.
 - ・精神看護学概論.
 - ・精神看護学方法論Ⅰ.
 - ・精神看護学方法論Ⅱ.
 - ・精神看護学実習.
 - ・看護研究.
 - ・総合実習.
 - ・看護学統合.

III 研究記録

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・加藤隆子，渡辺純一，渡辺尚子，齋藤直美：トラウマにより生きにくさを抱えた利用者を地域で支援する援助者の支援プロセスと体験の変容，日本保健医療行動科学会雑誌，36巻，2号，73-81，2022年.

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・加藤隆子，渡辺尚子，渡辺純一，齋藤直美：トラウマにより生きにくさを抱えている方を支援するピアサポーターの体験，第31回日本精神保健看護学会学術集会，2021年6月5日-6月6日，web開催.
- ・小宮浩美，加藤隆子：コロナ禍における精神看護学実習の千葉県立保健医療大学の実践報告 幻聴音声を用いたシミュレーション教育，2021年6月5日-6月6日，web開催.
- ・加藤隆子，渡辺尚子，渡辺純一：幼少期からの逆境体験を生き抜いた方の自分らしさを獲得する過程，第41回日本看護科学学会学術集会，2021年12月4日-12月5日，web開催.
- ・小宮浩美，加藤隆子，小林雅美：コロナ渦における精神看護学実習の学生の学び-アクティブラーニングを用いたロールプレイ演習-，2021年12月4日-12月5日，web開催.

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・科研費補助金（若手研究）2020-2023，精神科のトラウマケアを向上するICTを用いた教育プログラムの開発，研究代表者.
- ・科研費補助金（基盤研究C）2018-2021，精神科病棟の看護におけるEBPの実践適用ツールおよびモデルの開発，研究分担者.

IV 社会貢献・国際交流記録

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本看護科学学会. 日本精神保健看護学会. 日本トラウマティック・ストレス学会. 日本保健医療行動科学学会. 日本精神科看護協会.

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称. 主催 団体名称. 講演テーマ等. 対象. 開催日. 場所）

- ・一般社団法人日本精神科看護協会 精神科認定看護師養成研修会. チーム医療 チームアプローチ論. 精神科認定看護師資格取得を目指す者. 2021年7月10日. Web開催
- ・一般社団法人日本精神科看護協会 精神科認定看護師養成研修会. 患者-看護師関係 援助関係. 精神科認定看護師資格取得を目指す者. 2021年7月28日-7月29日. Web開催
- ・日本複雑性PTSD当事者支援協会. 第3回複雑性PTSDピアサポートグループ講演会. 被虐待経験のあるおとな世代の支援 「子ども時代のトラウマ体験のために生きにくさを持つ大人と関わる支援者へのメッセージ（講演会とパネルディスカッション）. トラウマ体験当事者と支援者. 2021年10月10日, web開催
- ・看護学科社会貢献事業. 看護研究のコツがてんこもり！コツコツ学ぼうセミナー. 看護師. 2022年3月16日. 千葉県立保健医療大学

V 管理・運営記録

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科学生・進路支援委員会. 看護学科入試検討委員会.

VI 評価（成果および改善すべき事項）

講義・演習においては、学生のモチベーション維持し、学習目標を達成することができた。臨地実習では、新規施設で実習を行ったが、学生の実習目標や習熟度に合わせながら指導者と協議を重ね、学生の実習目標もおおむね達成することができた。研究活動においては、学術論文が1本掲載されたが、研究計画全体としては遅れをとっているため、研究計画を再考しながら進めていきたい。組織運営においては、関係部署や教員と連携を取りながら、学生支援を遂行することができた。

VII 次年度の目標

令和4年度は、講義・演習科目では、学生間の議論と学修が深まるよう内容を工夫する。また、看護過程演習や実習においては、対象像の理解が深まり、個別性を重視した計画が立案できるよう、記録用紙の検討を重ねていく。臨地実習では、感染予防対策に留意するとともに、指導者との関係性の再構築を図りながら、学生のレディネスを考慮した実習目標が達成できるよう指導者と協働して実習指導を遂行する。研究活動では、これまでの研究成果をまとめ、次のステップへの準備に着手する。組織運営では、所属する委員会の教員と連携を図りながら、学生支援や委員会の目標達成のための活動を遂行する。

講師 川村 紀子 博士（看護学）

対象期間：2021年4月1日～2022年3月31日まで

I 年度当初の目標

令和4年度は、教育活動では、講義・演習・実習における学習目標を達成できるように、効果的な展開方法の見直しを行う。また、学生個々のレジネスに応じた指導方法や内容を学生の反応や達成度に応じて工夫する。研究活動は、これまでの研究成果をまとめ、論文投稿などで報告できるよう計画的に活動時間を確保する。大学の管理運営について、円滑な委員会運営となるよう業務内容を正確に確認しながら遂行する。社会貢献活動では、学術集会の企画・運営が実現するよう関係者に協力・助言を受けながら役割を遂行する。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・母性看護学方法論Ⅰ.
- ・母性看護学方法論Ⅱ.
- ・母性看護学実習.
- ・助産診断・技術学Ⅰ.
- ・助産診断・技術学Ⅱ.
- ・助産診断・技術学Ⅲ.
- ・助産診断・技術学Ⅳ.
- ・助産学実習Ⅰ（産婦ケア体験）.
- ・助産学実習Ⅱ（継続支援）.
- ・助産学実習Ⅲ（分娩期ケア）.
- ・総合実習.
- ・体験ゼミナール.
- ・看護研究.
- ・看護学統合.

III 研究記録

1 著書（著者本人下線：著書，発行年，発行所，発行場所）

- ・石井邦子，廣間武彦，小川亮，川村紀子他：助産診断・技術学Ⅱ [3] 新生児・乳幼児期（助産学講座第8巻）第6版，2022年，医学書院，東京.

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・川城由紀子，石井邦子，川村紀子，北川良子：母性看護学実習における産後の女性へのオンラインインタビューによる学生の学び，千葉県立保健医療大学紀要，13巻，1号，45-50，2022.

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・石井邦子，川城由紀子，川村紀子，北川良子：新型コロナウイルス（COVID-19）感染拡大地域における母性看護学学内実習の実際，第23回日本母性看護学会学術集会，2021年5月22日（6月1～30日），Web開催.
- ・川城由紀子，石井邦子，川村紀子，北川良子：新型コロナウイルス（COVID-19）感染拡大に伴う母性看護学学内実習における看護過程展開の評価，第23回日本母性看護学会学術集会，2021年5月22日（6月1～30日），Web開催.

- ・川城由紀子, 石井邦子, 川村紀子, 北川良子: 母性看護学学内実習における産後の女性へのインタビューによる学生の学び, 第39回千葉県母性衛生学会学術集会, 2021年6月5日(6月7~30日), Web開催.

5 研究資金獲得状況(外部資金・学内共同・学長裁量)(資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・2018~2022年度 科学研究費補助金基盤研究(C), 助産師の分娩期の危険予知能力を高めるためのトレーニング教材の開発, 研究代表者.
- ・2021~2023年度 科学研究費補助金基盤研究(C), 熟練看護職の実践知に基づく産後抑うつ状態の診断力育成プログラムの開発, 研究分担者.
- ・2021年度 学内共同研究, コミュニケーション能力の習得に向けた学内母性看護学実習プログラムの評価-模擬患者と模擬指導者への調査-, 共同研究者.
- ・2021~2022年度 学内共同研究, 中小規模の周産期医療機関に転職した中堅助産師のキャリアニーズの現状とキャリア支援プログラムの考案, 共同研究者.

IV 社会貢献・国際交流記録

2 地域への保健医療活動(診療・技術指導等, 活動期間, 場所等)

- ・内診スキルアップセミナーの企画・実施, 2021年7月5日, 2021年8月5日, くぼのやウィメンズホスピタル.
- ・新型コロナウイルス感染症対応に伴う県内保健所応援(延べ1日).

5 学会, 学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本母性看護学会, 日本助産学会, 日本看護科学学会, 日本母性衛生学会, 千葉看護学会.

2) 学会, 学術団体への貢献(学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

- ・日本母性看護学会第23回学術集会, 企画委員, 2020年3月26日~2021年6月30日.

V 管理・運営記録

1 全学委員会(委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・教務委員会.

2 学科/専攻内委員会(委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・看護学科運営会議, 看護学科教務委員会, 看護学科総務・企画委員会, 看護学科3年生担任.

3 対外広報活動<新聞・ホームページでの活動・TV出演, ラジオ出演等>

- ・ホームページ: 千葉県立保健医療大学育成支援看護学領域母性看護学・助産学(<http://square.umin.ac.jp/cpuhs-mm/>).

VI 評価(成果および改善すべき事項)

教育活動では, 講義内容及び指導内容を再検討し, 改善点を修正し学習効果を図ることができた. 新生児看護の講義, 演習, 実習における一貫性を考慮し, 学生の反応や評価より学習目標を達成することができた. 母性看護学及び助産学実習において, 臨地実習を再開できるよう施設との連絡調整を図り安全に実習を行うことができた. また学内での母性看護学実習内容を見直し, 対象者とのコミュニケーション能力向上に向けたプログラムを強化し, 効果的な学習成果を得られた. 研究活動では, 母性看護学実習における学生の学びについて研究成果を得ることができた. また, 助産ケアにおけるヒヤリ・ハット事例の分析, 産後抑うつ状態の診断プロセス, 母性看護学実習プログラム, 中堅助産師のキャリアニーズの調査などを行い, 様々な研究に取り組んだ. 大学の管理運営について, 業務を遂行するために教職員方に助言を受けながら役割責任を担い運営を円滑にすることができた. また, 社会貢献活動では, 学術集会開催に向けて企画委員として積極的に参加し, 関係者に協力・助言を受けながら役割遂行を担うことができた.

VII 次年度の目標

教育活動では、講義・演習・実習における学習目標を達成できるように、コロナ前後による効果を見直し実施する。また、学生個々のレジネスに応じた指導，学生が主体的に学習を継続できるように工夫する。研究活動は、計画的に活動時間を確保し、様々な研究に取り組み、収集したデータの分析を進め、研究成果をまとめる。大学の管理運営について、円滑な委員会運営となるよう適切に判断すること、また看護学教育評価の受審の準備を行い、役割を遂行する。社会貢献活動では、幅広い視野を持ち社会貢献活動に参加する。

講師 佐伯 恭子 博士（看護学）

対象期間：2021年4月1日～2022年3月31日まで

I 年度当初の目標

令和3年度もCOVID-19による活動への影響は避けられないと考えられる。教育活動については、令和2年度の経験を基に、遠隔授業と対面授業それぞれの利点を活かせるような講義になるよう取り組む。研究活動は、教育活動とのバランスを常に意識しながら、その時々で優先順位を考え、予めスケジュールに組み込むことで時間を確保し、成果報告ができるようにする。社会貢献では、学会だけでなく、地域での活動を広げていきたい。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）
 - ・看護学入門実習.
 - ・高齢者・在宅看護学方法論Ⅰ.
 - ・高齢者・在宅看護学方法論Ⅱ.
 - ・高齢者看護学実習.
 - ・総合実習.
 - ・看護研究.
 - ・看護学統合.
 - ・ターミナルケア論.
- 2) 他大学、大学院等の非常勤講師（科目名、大学名）
 - ・医療倫理学、信州大学大学院.

III 研究記録

- 4 学術集会での招待講演（教育講演や基調講演）やシンポジウム等（学術集会名、テーマ、開催日、場所等）
 - ・日本看護倫理学会第14回年次大会、交流集会「認知症高齢者など判断能力の低下した人を対象とする際の研究倫理」話題提供、2021年5月29日-30日、オンライン開催
- 5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名、研究テーマ、研究代表者／研究分担者）
 - ・学長裁量研究費、認知症の人を対象とした看護・介護・リハビリテーション領域の研究における倫理的配慮のためのガイドの洗練、研究代表者
 - ・学長裁量研究費、地域包括ケアシステムを担う看護職に求められる看護実践能力に関する研究、共同研究者
 - ・学内共同研究費、健康問題をもつ高齢の看護職・介護職が就労継続を可能にする工夫、共同研究者

IV 社会貢献・国際交流記録

- 2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等、活動期間、場所等）
 - ・新型コロナウイルス感染症対応に伴う県内保健所応援（延べ1日）

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本生命倫理学会、日本医学哲学・倫理学会、日本看護科学学会、日本看護倫理学会、日本老年看護学会、千葉看護学会、

2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

- ・日本看護倫理学会、評議員、2012年5月～2021年5月迄
- ・日本看護倫理学会 選挙管理委員会委員長、2020年6月～2021年5月迄
- ・日本医学哲学・倫理学会、広報委員会、2021年5月～

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・キャンパスハラスメント相談員、共同研究審査部会

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科運営会議、看護学科学生・進路支援委員会／国試対策担当責任者、看護学科4年生担任、総合実習作業部会、看護研究作業部会

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動では、一年間教授不在の状況であったが、周囲のサポートおよび領域内で協力することで、講義・演習・実習とも滞りなく終えることができた。研究活動は、前述の理由で教育活動に力を注ぐことになったため顕著な進捗はなかったが、採択された研究課題に取り組むことはできた。次年度は成果発表につなげたい。大学の管理運営および社会貢献については、担当した役割を完遂することができた。

VII 次年度の目標

教育活動では、対面での講義・演習となるため、コロナ禍の2年間で実感した対面授業の利点を意識して学生が興味や関心、学ぶ意欲を持てるように準備して実施する。実習については、まだ臨地実習が十分にできる状況にはならないと考えられるため、学生間での経験の差が学びの差とならないよう、領域内で協力し実習の組み立てや進め方を工夫する。この2年間コロナ禍の影響や教授欠員で研究活動が思うように進められなかったが、今年度は成果発表を目指して積極的に取り組む。管理運営では、各担当業務について関係者と協働しながら責任を持って取り組む。

講師 大内 美穂子 修士（看護学）

対象期間：2021年4月1日～2022年3月31日まで

I 年度当初の目標

令和3年度は、大学運営にかかわる活動と研究・教育活動の優先順位を考え、研究や教育の時間を確保できるようにする。コロナ禍であってもできる限り臨床現場にかかわり教育や研究を遂行する。その際は、学生や研究対象者の安全を十分に確保できるように考慮して、計画・遂行する。コロナ禍でこれまで実施できなかった社会貢献する機会を増やす。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・体験ゼミナール.
- ・救命・救急の理論と実際.
- ・臨床看護学方法論Ⅰ.
- ・臨床看護学方法論Ⅱ.
- ・臨床看護学方法論Ⅲ.
- ・急性期看護学実習.
- ・総合実習.
- ・看護研究.
- ・看護学統合.

III 研究記録

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・田口智恵美，坂本明子，大内美穂子，内海恵美，三枝香代子，浅井美千代：本学卒業生が新人看護師となって直面した困難，千葉県立保健医療大学紀要，13巻，1号，29-38，2022.
- ・佐藤紀子，細山田康恵，今井宏美，大内美穂子，岡村太郎，麻賀多美代：看護医療系の単科公立大学における地域貢献機能の特徴，千葉県立保健医療大学紀要，13巻，1号，51-58，2022.

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・高山京子，大内美穂子，佐藤まゆみ，佐藤禮子：骨転移を有する外来がん患者に療養支援を行う上で専門看護師・認定看護師が抱く困難感，第19回日本臨床腫瘍学会，2022年2月17日～19日，国立京都国際会館.

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・科学研究費補助金基盤研究（C），セルフモニタリングアプリを活用してがん患者の術前準備を支援する看護支援方法の開発，研究代表者
- ・科学研究費補助金基盤研究（B），がん患者の主体性を育み活用できる外来看護師育成プログラム：普及性向上のための改善，研究分担者
- ・科学研究費補助金基盤研究（C），骨転移に放射線治療を受けるがん患者の至適生活を支援する看護プログラムの洗練，研究分担者
- ・学長裁量研究，COVID-19感染拡大により在学中の臨地実習に影響を受けたA大学卒業生が入職後に感じる困難，ならびに学内で行われた総合実習が卒業後の看護実践に与えた影響，研究分担者

- ・学長裁量研究, 介護予防のための生活習慣継続をめざした多職種連携プログラム(新・ほい大健康プログラム)の評価, 研究分担者
- ・学長裁量研究, 本学におけるシンクタンク機能の明確化および可視化のためのリーフレットの作成, 研究分担者

IV 社会貢献・国際交流記録

5 学会, 学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本がん看護学会 千葉看護学会 日本看護管理学会 日本遠隔医療学会 日本看護学教育学会 日本看護科学学会

6 講演会(公開講座を含む)／研修会の講師・研究指導等(会名称, 主催 団体名称, 講演テーマ等, 対象, 開催日, 場所)

- ・UR 対象ほい大健康プログラム, 千葉県立保健医療大学社会貢献委員会, 講師, 今あるあなたの力を保ち育てるために, 2021年10月30日.
- ・看護研究指導, 看護師, 千葉県がんセンター.
- ・看護学科社会貢献事業 こつこつ学ぼうセミナー, グループワーク, 2022年3月16日

V 管理・運営記録

1 全学委員会(委員会名／活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・社会貢献委員会 体験ゼミ作業部会

2 学科／専攻内委員会(委員会名／活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・看護学科教務委員会, 看護学科入試検討委員会.

VI 評価(成果および改善すべき事項)

教育活動については, おおむね目標通りであった。これからも新しい知見を取り入れて教育活動に反映していく。コロナ禍で臨床現場の実際に触れる機会が減少してしまったので, 臨床の看護の実際について具体的に情報収集することが難しかったので, 次年度は積極的に臨床で情報を収集し, 教育に反映できるようにする。研究活動は, 医療施設の客員研究員として研究活動が開始できたが, コロナ禍により対象者との接触ができず研究が滞っているので, 次年度も継続して研究にとりくみ, 分析を遂行できるようにする。

VII 次年度の目標

コロナ禍により研究協力施設からの協力を得ることや対象者に直接インタビューする機会を持つことが難しく, 研究が大幅に遅れた。次年度も継続して研究に取り組み研究成果をまとめ, 公表できるように取り組む。大学運営については, 効率のよい運営ができるように, 改善を図る。教育活動では対面授業となるので, 学生が主体的かつ楽しく学べるように講義や演習を工夫していく。

講師 杉本 健太郎 博士（看護学）

対象期間：2021年4月1日～2022年3月31日まで

I 年度当初の目標

教育に関しては、引き続き COVID-19 の影響が危惧される場所であるが、昨年度オンデマンド授業を行ったノウハウを生かし、遠隔授業であっても従前の学習目標を学生が達成できるよう工夫したい。実習については、学生や協力いただく臨地の職員・住民の感染対策に万全を期す。研究については、COVID-19 の影響で実施に若干の遅れが出ているため、コロナ禍でも遂行できるよう計画を見直し、知見を見出せるよう努めていく。社会貢献については、引き続き自治体の審議会委員や学会委員を積極的に引き受けたい。大学の運営管理については、所属する委員会等が変わる見込みであるが、他の教員と連携しながら配置された委員会で担う役割を円滑に遂行する。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・地域看護学概論.
- ・地域看護学方法論Ⅱ.
- ・地域看護学方法論Ⅲ.
- ・地域看護学実習.
- ・総合実習（地域看護学）.
- ・看護研究.
- ・看護学統合.
- ・専門職間の連携活動論.

III 研究記録

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等．本人下線）

- ・細谷紀子，佐藤紀子，雨宮有子，杉本健太郎，石丸美奈：発達障害児者のレジリエンスに関する研究動向，文化看護学会第14回学術集会，2022年3月12日，オンライン
- ・Noriko Hosoya, Kentaro Sugimoto, Masumi Taira, Yuko Amamiya, Noriko Sato: Activities of public health nurses in normal times to persons requiring support during disasters, 6th International Conference of Global Network of Public Health Nursing, 8th-9th Jan. 2022, online.
- ・細谷紀子，雨宮有子，杉本健太郎，泰羅万純，佐藤紀子：全国市町村における災害時の共助を意図した平常時の保健師活動の概要，日本地域看護学会第24回学術集会，2021年8月27日～9月26日，オンライン.

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・科学研究費助成事業（基盤研究（C））2020-2023，医療職配置のない高齢者住宅の介護職員が活用できる新たな感染対策マニュアルの開発，研究代表者.
- ・科学研究費助成事業（基盤研究（C））2020-2023，発達障害児の親に対する地域との繋がりづくりを意図した防災プログラム評価指標の開発，研究分担者.
- ・科学研究費助成事業（基盤研究（C））2019-2022，エンパワメント基盤型介護予防実践支援ガイドの開発，研究分担者.
- ・科学研究費助成事業（基盤研究（C））2016-2019，保健師活動への意欲を原動力にしてリーダーシップを発揮するためのガイドの開発，研究分担者.

IV 社会貢献・国際交流記録

2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等、活動期間、場所等）

- ・新型コロナウイルス感染症対応に伴う県内保健所応援（延べ3日）

3 審議会、委員会、国家試験委員等の実績（活動団体名称、委員名称、活動期間）

- ・柏市保健衛生審議会特別委員（健康増進専門分科会）2019年7月～現在

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本公衆衛生学会、日本地域看護学会、日本看護科学学会、日本在宅看護学会、日本在宅ケア学会、日本運動器看護学会、日本看護管理学会、日本健康医学会、日本高齢者ケアリング学研究会、文化看護学会。

2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

- ・日本在宅看護学会、編集委員、査読委員、2018年9月17日～現在
- ・日本看護科学学会、査読委員、2019年10月～現在

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催、団体名称、講演テーマ等、対象、開催日、場所）

- ・令和3年度千葉県保健活動業務研究発表会、演題の講評、2022年3月中旬～2週間、県内保健師、オンデマンド。
- ・コツコツ学ぼうセミナー、研究上の倫理的問題を確認する時のコツ、2022年3月2日～15日、300床未満の医療機関の看護職、オンデマンド。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・研究倫理審査委員会。

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科学学生進路支援委員会、看護学科総務企画委員会、看護学科担任。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

講義・演習・実習いずれにおいても、Web会議システムを一部活用した教育プログラムを実施した。遠隔の授業であっても教材等を工夫することにより、学生はコロナ以前と同様の学習目標を達成することができた。研究に関しては、コロナの状況を踏まえて計画を修正しつつ、筆頭著者として1本、共著者として2本の論文を学術誌に投稿し採択された。社会貢献・大学運営に関しても年間通して尽力し、年度目標を達成できた。

VII 次年度の目標

新型コロナウイルス感染症の状況に応じ、対面での学習の機会を可能な限り確保するとともに、オンラインによる学習メリットがある部分は生かしながら教育に取り組んでいきたい。研究については、今年度見出した知見を踏まえ、新たな計画を立案・調査実施する。また、地域の自治体や学術団体内での活動にも積極的に参加し、大学教員として社会に貢献していく。大学の運営については、次年度所属委員会が一部変わる見込みであるため、他の委員と連携しつつ円滑に業務遂行したい。

講師 大塚 知子 修士（看護学）

対象期間：2021年10月1日～2022年3月31日まで

I 年度当初の目標

令和3年度は、10月1日付で着任した。教育に関しては領域で行われている教育内容を理解し、科目責任者や領域の先生方と共に領域実習において学生が実習目標を達成できるよう教育支援を行う。研究活動については、着任前より取り組んでいる研究を継続すること、共同研究者として取り組んでいる研究の成果発表を目指し協力する。大学の管理運営については、委員会の先生方の下、自らの役割を果たす。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）
 - ・慢性期看護学実習.
 - ・看護研究.
 - ・看護学統合.

III 研究記録

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・澄川真珠子，大塚知子，牧野夏子，城丸瑞恵：成人看護実習前後における看護学生の身体活動量，体組成，健康管理行動力，札幌保健科学雑誌，11号，45-51，2022.

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・科学研究費補助金若手研究，妊娠初期検診に前がん病変と診断された女性の産後の受診行動を支える看護モデルの開発，研究代表者.

IV 社会貢献・国際交流記録

2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等，活動期間，場所等）

- ・新型コロナウイルス感染症対応に伴う県内保健所応援（延べ3日）

5 学会，学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
 - ・日本看護科学学会，日本がん看護学会，日本看護研究学会，日本看護学教育学会，日本緩和医療学会，千葉看護学会，文化看護学会，International Society of Nurses in Cancer Care.

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称，主催 団体名称，講演テーマ等，対象，開催日，場所）

- ・看護研究指導，看護師，千葉県がんセンター

V 管理・運営記録

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科教務委員会. 看護学科入試検討委員会.

VI 評価（成果および改善すべき事項）

令和3年度は、本学の領域での教育内容を理解し、領域実習において学生が実習目標を達成できるよう教育支援を行うために、臨床指導者と学生の到達状況などを共有しながら支援を行うことができた。今年度から新たな実習施設となった病院では特に指導者との連携を密にとった。研究に関しては、共同研究として進めている研究の投稿を行ったこと、研究計画通りに研究活動を進めることができた。来年度は、自らの研究について研究を推進するとともに成果発表を行っていく。

VII 次年度の目標

次年度は、本学および領域の特徴を理解した授業・演習を実施することができるよう自己研鑽する。研究については自らの課題研究を推進するとともに、共同研究についても継続して取り組み成果をまとめることができるよう進めていく。大学運営については、自らの役割を意識し取り組んでいく。

助教 中山 静和 修士（看護学）

対象期間：2021年4月1日～2022年3月31日まで

I 年度当初の目標

令和3年度は、特に担当する科目の講義・演習・臨地実習では、小児の特性を踏まえた看護援助の実際について、オンライン授業のみでは学習が深まり切らないと考えられた内容に対し、対面の学習場面において指導内容や方法を工夫し、学生の理解につながるようにする。委員会活動では、前年度の経験を活かし、スムーズに業務が遂行できるよう努力する。また、研究活動では、獲得している競争的資金をもとに、調査結果の分析を計画的に進め、成果を発表できるよう努力する。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）
 - ・専門職間の連携活動論.
 - ・小児看護方法論Ⅰ.
 - ・小児看護方法論Ⅱ.
 - ・小児看護学実習.
 - ・総合実習(小児看護学領域) .

III 研究記録

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・文部科学省科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金（基盤研究（C）），小学校入学に向けた幼児期からの慢性疾患患児への支援プログラムの開発，研究分担者.
- ・文部科学省科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金（基盤研究（C）），「気になる子ども」に対する保育施設での発達支援に向けた基盤的研究，研究代表者.

IV 社会貢献・国際交流記録

2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等．活動期間．場所等）

- ・新型コロナウイルス感染症対応に伴う県内保健所応援（延べ2日）

5 学会，学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
 - ・日本小児看護学会． 日本小児保健協会． 日本保育保健協議会． 全国保育園保健師看護師連絡会.

V 管理・運営記録

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称．活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科運営会議． 看護学科学生・進路支援委員会． 看護学科倫理審査委員会

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動では、臨地実習の場面において、オンライン授業での小児看護技術の学習内容を補足するように努めた。既習内容を想起する促しに加え、繰り返し実践のモデルを示すことにより、学生が安全かつスムーズに援助技術が提供できるよう支援できた。委員会活動では、同じ役割担当者と連携・相談をしながら作業を進め、予定した期間内に結果を出すことができた。研究活動では、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、研究対象候補者からの辞退が生じ、新たな研究対象候補者への依頼や調査実施に時間を要したため、研究期間を延長するに至った。引き続き、計画的に研究活動を進め、成果を公表できるよう努力したい。

VII 次年度の目標

次年度は、入学以降の多くの授業をオンラインで学習した学年の学生であるため、対面授業の中で、授業に参加できるような工夫をしていき、担当科目への興味や学習意欲を持てるようにする。また、学内での学びが臨地実習で活かせるように教育内容を工夫する。委員会活動では、前年度に理解した業務内容を円滑に遂行できるよう努力する。研究活動では、獲得している競争的資金をもとに、調査結果をまとめられるように計画的に進めていく。

助教 椿 祥子 修士（看護学）

対象期間：2021年4月1日～2022年3月31日まで

I 年度当初の目標

2021年度は、教育活動では、上席教員の指導の下、新型コロナウイルス感染症予防対策としての遠隔授業や少人数での演習などに臨機応変に対応し、他教員とコミュニケーションを取りながら、授業と演習が滞りなく進むよう実習室の運営や物品管理を行なっていく。科研費を取得している研究において、文献検討に向けて文献収集を行なうことが目標である。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）
 - ・体験ゼミナール.
 - ・看護学原論.
 - ・看護技術論Ⅰ（日常生活援助技術）.
 - ・看護技術論Ⅱ（フィジカルアセスメント技術）.
 - ・看護技術論Ⅲ（検査治療技術）.
 - ・看護技術論Ⅳ（看護過程展開技術）.
 - ・看護技術論Ⅴ（総合技術演習）.
 - ・基礎看護学実習.
 - ・日常生活調整方法論.
 - ・総合実習.
 - ・看護学統合.

III 研究記録

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・河部房子，今井宏美，椿祥子，植村由美子，石田陽子，松田友美：臨床看護師のフィジカルアセスメント技術修得に関する学習ニーズ調査，千葉県立保健医療大学紀要，第13巻，第1号，39-44，2021.

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・今井宏美，椿祥子，三枝香代子，中畑千夏子，坂下貴子，茂野香おる：リニューザブルカフを介した病原微生物伝播の可能性の検証，第12回共同研究発表会，2021年9月13日～17日，オンライン開催.

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・科学研究費補助金基盤研究（C），乳幼児期の重症心身障害児の家族のヘルスリテラシーの獲得・発揮に向けた例示の開発，研究代表者.
- ・科学研究費補助金基盤研究（C），看護師の臨床判断事例に基づくフィジカルアセスメント学習教材の開発，研究分担者.

IV 社会貢献・国際交流記録

2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等、活動期間、場所等）

- ・新型コロナウイルス感染症対応に伴う県内保健所応援（延べ1日）

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本小児保健協会、日本看護科学学会、日本看護教育学会、ナイチンゲール研究学会、千葉看護学会、重症心身障害学会。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・自己点検・評価委員会 報告書作成部会

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科学生・進路支援委員会、看護学科総務・企画委員会、看護学科運営委員会。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動では、上席教員の指導の下、担当する講義・演習において、遠隔や演習時間減少の中で、効果的に学習が進むように教材や授業内容を工夫した。昨年度に引き続き、COVID-19 感染拡大により変則となり感染予防対策を実施しながらの演習となった時期もあったが、上席教員の指導の下、他の教員と協力しながら、支障がない演習準備や物品管理を行うことができた。研究活動では、科学研究費補助金基盤研究(C)の研究において文献検討に向けた文献収集を行った。委員会活動では、特に看護学科学生・進路支援委員会の同窓会担当として、初めての同窓会企画の支援を行ない、無事開催できた。また、年度当初にはなかったが、欠員の補充として委員になった総務・企画委員会にて、領域内の予算管理を滞りなく遂行できた。

助教 増田 恵美 修士（看護学）

対象期間：2021年4月1日～2022年3月31日まで

I 年度当初の目標

令和3年度の教育活動においては、演習や実習において学生が主体的に学びより良い学習効果が得られるように努めていく。また、研究活動においては、学長裁量共同研究で成果を取りまとめた研究を学会発表を行う。研究費を獲得し、これまでの研究で得た知見を深めていきたい。看護学科学生進路支援委員会では、委員長の指示に従い、係のメンバーと協力しながら業務を遂行していく。社会貢献活動では、千葉県母性衛生学会の会計幹事として役割を遂行し、他の社会貢献活動を充実させる。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・母性看護学方法論Ⅰ.
- ・母性看護学方法論Ⅱ.
- ・母性看護学実習.
- ・助産診断・技術学Ⅱ.
- ・助産診断・技術学Ⅲ.
- ・助産診断・技術学Ⅳ.
- ・助産学実習Ⅰ（産婦ケア体験）.
- ・助産学実習Ⅱ（継続支援）.
- ・助産学実習Ⅲ（分娩期ケア）.
- ・総合実習.
- ・看護学統合.
- ・体験ゼミナール.

III 研究記録

1 著書（著者本人下線：著書，発行年，発行所，発行場所）

- ・増田 恵美：2022年版系統別看護師国家試験問題集 第110回看護師国家試験 解答と解説，2022，医学書院，東京.

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等。本人下線）

- ・増田 恵美，石井 邦子，北川 良子：第23回日本母性看護学会，産後一ヵ月における骨盤周囲の固定による腰背部痛に対する効果，2021年5月. 千葉幕張メッセ.
- ・Kumiko Otsuka, Emi Masuda, Erika Ota, Yaeko Kataoka: Cognitive Behavioral Therapy for Insomnia to Pregnant Women with Sleep Problems: A systematic Review and Meta-analysis, ICN International Council of Nurses, 2-4th November, 2021. Abu Dhabi, UAE,

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・学内共同研究，コミュニケーション能力の習得に向けた学内母性看護学実習プログラムの評価，研究分担者
- ・学内共同研究，中小規模の周産期医療機関に転職した中堅助産師のキャリアニーズの現状とキャリア支援プログラムの考案，研究分担者

IV 社会貢献・国際交流記録

2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等. 活動期間. 場所等）

- ・新型コロナウイルス感染症対応に伴う県内保健所応援（延べ2日）
- ・内診スキルアップセミナーの企画・実施，2021年7月15日，2021年8月5日，くぼのやウィメンズホスピタル

5 学会，学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本看護科学学会. 日本助産学会. 日本母性看護学会. 千葉県母性衛生学会.

2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名. 役職. 活動期間）

- ・日本母性看護学会第23回学術集会. 企画委員. 2020年3月26日～2021.5月
- ・千葉県母性衛生学会. 会計幹事. 2020年5月～現在に至る.

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称. 主催 団体名称. 講演テーマ等. 対象. 開催日. 場所）

- ・看護研究講師：東京歯科大学市川総合病院，「自己導尿指導を受けた患者が退院後の生活で体験する困難の現状」，看護部4西病棟の看護師4名に看護研究指導を行った. 2020年～現在に至る.

7 その他

- ・放送大学. オンライン教育補助者（特定行為研修演習指導支援者）. 2021年4月1日～2022年3月31日

V 管理・運営記録

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科運営会議. 学生進路支援委員会. 看護学科2年生担任.

3 対外広報活動＜新聞・ホームページでの活動・TV出演，ラジオ出演等＞

- ・ホームページ：千葉県立保健医療大学育成支援看護学領域母性看護学・助産学
(<http://square.umin.ac.jp/cpuhs-mm/>).

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動において，学生が目標を達成できるように学習状況に応じ個別的な指導内容を工夫した。研究活動において積極的に活動した。学長裁量共同研究では，成果を取りまとめ日本母性看護学会で発表を行うことができた。学内共同研究ではデータ収集を行い，計画的に進めていくことができた。システムティックレビューや文献検討を詳細に行い，学会発表に向けての準備を行うことができたことや，自身のテーマである研究の Feasibility study の計画につなげていくことができたことと評価できる。学生進路支援委員会では，2年生担任での役割を果たし問題がある時は，責任者へ報告しながら業務を進めていくことができた。社会貢献は，日本母性看護学会における企画委員で教育講演を担当し，開催することができた。千葉県母性衛生学会の会計幹事としては，業務が順調に遂行できることを課題とする。

VII 次年度の目標

令和4年度の教育活動においては，演習や実習において学生が主体的に学びより良い学習効果が得られるように努めていく。実習先では，新しい施設職員との信頼関係を築くために報告や相談を行い，学生が学びやすい環境を整えていく。また，研究活動においては学会発表を行うこと，研究費を獲得することができること，計画通りに研究を進めていくことを目標とする。看護学科学学生進路支援委員会では，委員長の指示に従い，系のメンバーと協力しながら業務を遂行していく。社会貢献活動では，千葉県母性衛生学会の会計幹事として役割を遂行し，他の社会貢献活動を充実させる。

助教 相馬 由紀子 修士（学校教育学）

対象期間：2021年4月1日～2022年3月31日まで

I 年度当初の目標

令和3年度は、特に、COVID-19の影響を考慮しながら、Teamsなどを活用して感染予防をはかり、学生が、主体的な学習となるように講義・演習などの準備や補助が円滑に進むように努める。臨地実習においては、施設側との感染対策や内容の調整をはかり、目標達成に向けて、学生の気づきや高齢者への看護の学びや思考過程を引き出せるよう指導方法を工夫する。大学運営活動においては、所属する委員会において、教職員と連携しながら責任をもって職務を遂行する。研究活動では、COVID-19禍でのよりよい調査方法を検討しながら、データ収集に努め、計画を立てて実行していく。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）
 - ・高齢者・在宅看護学方法論Ⅰ.
 - ・高齢者看護学方法論Ⅱ.
 - ・高齢者看護学実習.
 - ・総合実習（高齢者）.
 - ・看護学統合.

III 研究記録

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・相馬由紀子，杉本知子，佐伯恭子，上野佳代：国内文献検討による我が国の病院や介護施設で就労している外国人看護師・介護福祉士候補者におけるヘルスケアの実態，千葉県立保健医療大学紀要 13(1)，72，2022.

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・2021年度学内共同研究（若手），健康問題をもつ高齢の看護職・介護職が就労継続を可能にする工夫，研究分担者.

IV 社会貢献・国際交流記録

2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等，活動期間，場所等）

- ・新型コロナウイルス感染症対応に伴う県内保健所応援（延べ5日）

5 学会，学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
 - ・日本老年看護学会，日本看護学教育学会.

V 管理・運営記録

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科運営会議，看護学科教務委員会，看護学科総務・企画委員会，担任（看護学科2年生）.

VI 評価（成果および改善すべき事項）

COVID-19の影響を考慮しながらの講義・演習は、Teams やForms を活用し学生の主体的な学修を維持し目標を達成することができた。臨地実習では、感染対策下での高齢者看護の実際の学びが深まるよう指導し、学内演習では、事例やロールプレイなどで学生の気づきや思考過程を引き出せるよう内容を工夫した。研究活動では、COVID-19 禍での対象者の拡大と期限の延長を顧み倫理の修正を依頼し遂行し、データ収集を施設と計画を立てて実行した。

VII 次年度の目標

令和4年度は、COVID-19 禍と対面の講義・演習の内容を統合し、学生が学修意欲を維持し、理解が深まるように準備し実施していく。臨地実習においては、感染対策のもと施設側と協働し、学生が目標達成できるよう支援し、高齢者への看護の思考過程を構築できるよう指導方法を工夫する。大学運営活動においては、所属する委員会において、教職員と連携しながら計画的に活動を遂行する。研究活動では、これまで収集したデータを分析し、成果をまとめる。

助教 内海 恵美 修士（教育学）

対象期間：2021年4月1日～2022年3月31日まで

I 年度当初の目標

令和2年度に引き続き、講義・実習の円滑な運営がなされるよう担当教員の指導のもと準備・運営補助に努める。研究活動においては、研究課題の見直しを行う。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）
 - ・臨床看護学概論。
 - ・臨床看護学方法論Ⅰ。
 - ・臨床看護学方法論Ⅱ。
 - ・ターミナルケア論（旧カリキュラム：がん看護学読み替え）。
 - ・成人看護学実習（慢性期）/慢性期看護学実習。
 - ・体験ゼミナール。
 - ・総合実習。
 - ・看護学統合。

III 研究記録

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・田口智恵美，坂本明子，大内美穂子，内海恵美，三枝香代子，浅井美千代：本学卒業生が新人看護師となって職場で直面した困難，千葉県立保健医療大学紀要，第13巻，第1号，29-38，2022。

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・学長裁量共同研究，COVID-19 感染拡大により在学中の臨地実習に影響を受けたA大学卒業生が入職後に感じる困難，ならびに学内で行われた総合実習が卒業後の看護実践に与えた影響，研究代表者。

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等（活動名称，活動期間，場所等）

- 1) 千葉県内
 - ・VリーグD2千葉ゼルバホームゲームにおける選手救護看護師（千葉県バレーボール協会，2022年1月8日，千葉公園体育館）

2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等，活動期間，場所等）

- ・新型コロナウイルス感染症対応に伴う県内保健所応援（延べ4日）

5 学会，学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
 - ・日本外来小児科学会，日本医学看護学教育学会。

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催 団体名称、講演テーマ等、対象、開催日、場所）

- ・予防接種サポーターWeb セミナー ベーシック講座、感染症・予防接種講座（企画委員長：岩田敏）、保護者とのコミュニケーション 事例と対応方法について～保護者の視点も含めて～②、小児科診療に携わる看護師・受付事務、予防接種診療に携わる医療従事者（受講申込み 1055 名、受講者 908 名）、2021 年 9 月 11 日～2022 年 2 月 20 日、オンデマンド配信。
- ・予防接種サポーターWeb セミナー ベーシック講座、感染症・予防接種講座（企画委員長：岩田敏）、保護者とのコミュニケーション 事例と対応方法について～保護者の視点も含めて～③、小児科診療に携わる看護師・受付事務、予防接種診療に携わる医療従事者（受講申込み 1055 名、受講者 908 名）、2021 年 9 月 11 日～2022 年 2 月 20 日、オンデマンド配信。

V 管理・運営記録

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科学生・進路支援委員会、看護学科総務・企画委員会。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動においては、前年度の実績や反省を踏まえながら準備・運営補助を行なった。領域別実習と総合実習は、COVID-19 感染状況により、実習時間や看護活動の制限がなされ、また時期によっては臨地に出ることが出来ず学内実習となった。学修目標とプログラムを再構成したことで、学生の学びの質を低下させることなく実施することができたと考える。大学運営活動においては、本学の特徴や組織運営への理解を深めながら、他教員と協働しながら担当業務を遂行した。研究活動では、2020 年度学長裁量共同研究の共同研究者として投稿論文の作成、および 2021 年度学長裁量共同研究の研究代表者として調査と結果の統合に行った。

VII 次年度の目標

COVID-19 による学修活動への影響は当面続くことが予想される。他方、web を活用した遠隔での種々の活動も一般的になり、その利便性を享受しているのも事実である。臨床の現場を見ても DX が進んでいくのは明白である。従来の教育方法にとらわれることなく、最新の知見を得ながら常に質の向上を目指した教育活動を行う。大学運営においては、与えられた委員会活動を他教員と協働しながら実施していく。研究活動においては、看護基礎教育と現任教育の切れ目ない支援を目指しながら研究を進め、成果の公表を目指すと同時に、研究課題の見直しを行う。

助教 山本 千代 修士（看護学）

対象期間：2021年4月1日～2022年3月31日まで

I 年度当初の目標

2021年度における教育活動では、昨年度に引き続き、COVID-19感染対策を考慮した授業展開のサポートを行う。また、領域内の教員と協働して、オンライン授業や少人数での演習などに臨機応変に対応し、講義および演習が滞りなく進行するように実習室および物品管理を行う。

研究活動では、昨年度、立案した研究を開始する。大学運営管理では、引き続き、看護学科教務委員会のメンバーとしての役割を全うしていく。社会貢献も同様に、COVID-19流行の動向、県の方針を把握し、県からの業務要請に従事していく。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・体験ゼミナール.
- ・看護学原論.
- ・看護技術論Ⅰ（生活援助技術）.
- ・看護技術論Ⅱ（フィジカルアセスメント技術）.
- ・看護技術論Ⅲ（検査治療技術）.
- ・看護技術論Ⅳ（看護過程展開技術）.
- ・看護技術論Ⅴ（統合技術演習）.
- ・日常生活調整方法論.
- ・基礎看護学実習.
- ・総合実習.
- ・看護学統合.

III 研究記録

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・科学研究費補助金基盤研究（C），根拠のある看護（EBN）のための情報リテラシー能力体系表の開発，研究代表者

IV 社会貢献・国際交流記録

5 学会，学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本看護学教育学会. 日本看護科学学会.

V 管理・運営記録

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科運営会議. 看護学科教務委員会/実習検討部会. 看護学科1年生担任.

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動では、昨年度に引き続き、COVID-19 感染状況を鑑みて、その都度必要な感染防止対策を行いながら講義・演習を支援した。また、オンライン授業による準備、学生対応を行い、助教としての役割を全うした。領域内の欠員のため、上席教員に領域運営の状況を確認し、助教および非常勤任用の教員と協働して領域内の業務に従事した。

研究活動は、科学研究費補助金基盤研究（C）におけるインタビュー調査を実施し、その分析を行った。大学運営管理では、特に看護学科教務委員実習検討部会として、実習に関する教務活動に従事した。また、1年生担任として、COVID-19 感染の蔓延により大学へ来学できない学生に対して履修登録やオンラインでの授業履修に関する支援を行った。社会貢献では、保健所応援要請に従事する機会がなかったが、COVID-19 流行の動向、県の方針を把握に努めたこと、また保健所応援要請に従事している教員の業務支援を行った。

VII 次年度の目標

教育活動では、COVID-19 感染状況を反映した授業運営の実施および支援を行う。また、COVID-19 感染状況からオンライン授業や少人数での演習などに臨機応変に対応し、他教員とコミュニケーションを取りながら、授業および演習が滞りなく進むよう実習室の運営や物品管理を行う。

研究活動では、科学研究費補助金基盤研究（C）における研究成果を学術集会で発表する。そして、次の段階へ研究を進めていく。

助教 山崎 麻子 修士（看護学）

対象期間：2021年4月1日～2022年3月31日まで

I 年度当初の目標

令和3年度は、本学初年度であるため、学内組織、委員会業務、領域業務を理解し、担当業務は責任をもって、確認をしながら遂行する。また担任業務においては、1年生の担任であり、コロナ禍での大学生活がスタートとなるため、不安を軽減できるように関わる。助産課程の指導においては、施設実習における指導もあるため、施設職員との連携をとりながら上席教員との相談を密に行い、学生が最大限学びを深められるように関わる。研究活動は、科研申請を行うこと、共同研究における役割を適切に遂行すること。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）
 - ・母性看護学方法論Ⅰ・Ⅱ.
 - ・母性看護学実習.
 - ・助産診断技術学Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ.
 - ・助産学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ.
 - ・総合実習（母性）.
 - ・体験ゼミナール.
 - ・看護学統合.

III 研究記録

1 著書（著者本人下線：著書，発行年，発行所，発行場所）

- ・山崎 麻子：2023年版系統別看護師国家試験問題集 第111回看護師国家試験 解答と解説，2022，医学書院，東京.

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・山崎麻子，土井茂治，川滝元良．冠状静脈洞の拡大所見から総肺静脈還流異常Ⅱa型の診断に至った一例～妊娠中期胎児スクリーニング陽性から診断までのプロセスとその後の経過，超音波医学，Vol. 48，No. 3，pp. 127-132，2021.

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・山崎麻子，高橋眞理，永田智子，吉田幸洋：妊婦の情動変化が胎児に及ぼす影響—経腹4D胎児超音波検査評価による胎児の行動と表情から—，日本母性衛生学会第62回学術集会，2021.

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・学内共同研究，コミュニケーション能力の習得に向けた学内母性看護学実習プログラムの評価，研究分担者
- ・学内共同研究，中小規模の周産期医療機関に転職した中堅助産師のキャリアニーズの現状とキャリア支援プログラムの考案，研究分担者
- ・科学研究費基盤（C），熟練看護職の実践知に基づく産後抑うつ状態の診断力育成プログラムの開発，研究分担者

IV 社会貢献・国際交流記録

2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等、活動期間、場所等）

- ・内診スキルアップセミナーの企画・実施，2021.7.15，2021.8.5，くぼのやウィメンズホスピタル
- ・新型コロナウイルス感染症対応に伴う県内保健所応援（延べ2日）

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本超音波医学会、日本母性衛生学会、日本母性看護学会、千葉県母性衛生学会

7 その他

- ・放送大学、オンライン教育補助者（特定行為研修演習指導支援者）、2021年4月1日～2022年3月31日

V 管理・運営記録

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科教務委員会、看護学科1年生担任

3 対外広報活動＜新聞・ホームページでの活動・TV出演、ラジオ出演等＞

- ・ホームページ：千葉県立保健医療大学育成支援看護学領域母性看護学・助産学

VI 評価（成果および改善すべき事項）

当初の目標に関して、学内組織の理解、領域内業務、委員会業務に関しての理解は進んだと考える。R4年度は、R3年度よりも主体的に業務を遂行していくことになるため、確認作業を怠らぬに行い、ミスを最小限にすることが課題となる。

担任役割では、引き続き2年生の担任となり、学生との懇親会などを通して、学生生活の支援を行っていく。助産課程の指導においては、個別性に合わせた指導が不十分であった可能性があること、また施設との連絡が不十分な部分があり、学生の学習効果が十分に得られないことがあった。最終的には単位取得となったが、R4年度は、施設職員、上席教員と連絡をより密に取りながら、進めていくことが課題である。研究活動については、科研費は採択されず、科研共同分担者、共同研究者の役割について、ひとつひとつ確認をして分析まで進めることができた。R4年度も継続して取り組んでいく。

VII 次年度の目標

学内委員会活動では、昨年から引き続き学科教務委員会と、R4年度から総務・企画委員会を担当することになり、新しい業務内容も増えるため、計画的に、漏れの内容に業務を遂行していく。複数の業務となるため、委員会の上席教員への確認を行い、間違いがないように細心の注意を払って行うようにする。担任業務では、継続して学生生活が安心して送れるように支援をしていく。助産課程の指導においては、R4年度は学生2名を担当するため、学生それぞれの個別性を見極めながら、成長できるようにサポートしていく。また、実習施設もR3年度とは異なる施設となるため、施設職員との信頼関係を築き、学生が学びやすい環境を整える。研究活動は、現在取り組んでいる研究（科研分担、共同研究分担）を進めること、修士論文を投稿することを目標とする。

助教 坂本 明子 修士（看護学）

対象期間：2021年4月1日～2022年3月31日まで

I 年度当初の目標

2021年度はCOVID-19による影響が続く状況において、教育活動では昨年度実施した新たな講義・実習内容の洗練化を図る。慢性期疾患とともに生活する患者の特性についての学生の理解が深まるような指導方法を検討する。研究活動では、オンライン実施により様々な学会、研究会等に参加できる機会が増えたことを活かして、自分の研究能力の向上を図るとともに、未だ公表できていない成果を、学術論文として公表できるよう授業や実習との両立をはかり進めていく。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）
 - ・体験ゼミナール。
 - ・救命救急の理論と実際。
 - ・臨床看護学方法論Ⅱ。
 - ・慢性期看護学実習。
 - ・総合実習。
 - ・看護学統合。

III 研究記録

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・坂本明子，正木治恵，大原裕子，黒田久美子：高齢者ケアの継続に向けた急性期病院看護師のコーディネート機能（第2報：看護師と協働する医療職の視点から），日本看護科学学会誌，41，733-742，2021。
- ・田口智恵美，坂本明子，大内美穂子，内海恵美，三枝香代子，浅井美千代：本学卒業生が新人看護師となって職場で直面した困難，千葉県立保健医療大学紀要，第13巻，第1号，29-38，2022。

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・科学研究費助成事業 若手研究「心不全終末期患者へのエンドオブライフケア：苦痛緩和への実践内容・評価の明確化」，研究代表者
- ・学内共同研究費（学長裁量），COVID-19感染拡大により在学中の臨地実習に影響を受けたA大学卒業生が入職後に感じる困難，並びに学内で行われて総合実習が卒業後の看護実践に与えた影響，研究分担者。

IV 社会貢献・国際交流記録

2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等，活動期間，場所等）

- ・新型コロナウイルス感染症対応に伴う県内保健所応援（延べ2日）

5 学会，学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
 - ・日本看護科学学会，日本循環器看護学会，日本老年看護学会，千葉看護学会，看護質的統合法研究会

- 2) 学会, 学術団体への貢献 (学会・学術団体名, 役職, 活動期間)
- ・日本循環器看護学会, 指名理事, 2020年11月～現在
 - ・日本循環器看護学会, 広報委員, 2020年11月～現在
 - ・日本循環器看護学会第18回学術集会 最優秀演題審査会審査員 (2021年10月10日, オンライン開催)

6 講演会 (公開講座を含む) / 研修会の講師・研究指導等 (会名称, 主催 団体名称, 講演テーマ等, 対象, 開催日, 場所)

- ・看護研究指導, 2病棟 年7回, 千葉県循環器病センター (オンライン指導)
- ・セルフマネジメント研修会講師, 千葉県循環器病センター看護部, セルフマネジメントを学ぼう, 千葉県循環器病センター看護師ラダーレベルⅢ以上, 2021年12月21日.

V 管理・運営記録

1 全学委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・自己点検・評価委員会 報告書作成部会

2 学科/専攻内委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・看護学科運営会議, 看護学科学生・進路支援委員会, 看護学科医療生活支援領域会議,

VI 評価 (成果および改善すべき事項)

2021年度も科目責任者の助言の下, COVID-19感染拡大による実習スタイルの変更に臨機応変に対応し, 慢性期疾患とともに生活する患者の特性に関する学生の理解が深まるような実習プログラムを実施できた. 特に患者体験に基づく看護実践の展開においては, 学生の視野を広げることや新たな気づきを促すことができたと考える. 研究活動については, 「高齢者ケアの継続に向けた急性期病院看護師のコーディネート機能 (第2報: 看護師と協働する医療職の視点から)」を原著化できた. その他「心不全終末期患者へのエンドオブライフケアの明確化 (第1報): 終末期移行に関する看護師の判断内容について」を含め, 計3本の投稿を行った. 査読のプロセスから多くの学びや示唆を得られた. また, 学術集会の審査員という経験を通して, 研究能力の向上につながったと考える.

VII 次年度の目標

2022年度は対面授業が再開されるため, 教育活動ではCOVID-19によって構築した新たな講義・実習内容と従来の対面授業の利点をあわせた方法で実施していけるよう, 科目責任者の助言の下, 工夫していく. 慢性期疾患とともに生活する患者の特性に関して, 学生の理解が深まるような指導方法を引き続き検討する. 研究活動では, 科学研究費助成事業の研究が最終年度となるため, 成果をあげられるよう進めていく. また, 未だ公表できていない成果があるため, 学術論文として公表できるよう授業や実習との両立をはかり進めていく.

助教 櫻井 理恵 修士（看護学）

対象期間：2021年4月1日～2022年3月31日まで

I 年度当初の目標

令和3年度も新型コロナウイルス感染症対応が必須となる状況が続いている。高齢者施設での感染症対策や高齢者の課題やニーズなど、現場で実際に行われている内容を学生に伝える工夫をすることで、臨地実習での学びに近づくように努める。研究活動では、本年度学内共同研究について、成果を発表できるよう進めていく。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）
 - ・体験ゼミナール。
 - ・高齢者・在宅看護学方法論Ⅰ。
 - ・高齢者看護学方法論Ⅱ。
 - ・高齢者看護学実習。
 - ・総合実習。
 - ・看護学統合。

III 研究記録

- 5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）
 - ・学内共同研究，健康問題をもつ高齢の看護職・介護職が就労継続を可能にする工夫，研究代表者

IV 社会貢献・国際交流記録

5 学会，学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
 - ・日本看護科学学会，日本緩和医療学会，日本がん看護学会，埼玉県立大学保健医療福祉科学学会

V 管理・運営記録

- 2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）
 - ・看護学科運営会議，看護学科学生・進路支援委員会，入試検討委員会。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

今年度も新型コロナウイルス感染症対策のため，オンデマンド授業や学内・時間を短縮した臨地実習が中心となった。臨地では短時間で学びが深まるよう事前に情報提供することや，学内でも現場の様子がイメージしやすいよう，教材の工夫をし，臨地での学びを他学生とも共有できるようにした。研究活動では，令和4年度に学内成果発表，および学会発表を予定している。

VII 次年度の目標

対面授業が再開されたが、COVID-19 の流行は続いている。感染対策に留意しながら GW 等を取り入れた授業や演習の実施を他教員と共に担う。実習では、臨地に行ける学生と行けない学生での差ができるだけ少なくなるよう、体験の共有を取り入れた運営を他教員と共にやっていく。研究活動では、学内および、学会発表を行う。

助教 渡辺 健太郎 修士（看護学）

対象期間：2021年4月1日～2022年3月31日まで

I 年度当初の目標

2021年度は、教育活動では、感染状況による授業環境変化に臨機応変に対応できるよう、報告・連絡・相談をはじめとしたコミュニケーションを積極的に行い、学生の学習成果の向上のために主体的に行動する。研究活動では、看護系大学生の自己調整学習に関する研究を進め、次年度の公表に向けて年度内の演題登録を目指す。また、委員会等への活動への積極的な参加を通し管理運営に関わるとともに、社会貢献の機会を捉える。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）
 - ・体験ゼミナール.
 - ・看護学原論.
 - ・看護技術論Ⅰ（生活援助技術）.
 - ・看護技術論Ⅱ（フィジカルアセスメント技術）.
 - ・看護技術論Ⅲ（検査治療技術）.
 - ・看護技術論Ⅳ（看護過程展開技術）.
 - ・看護技術論Ⅴ（統合技術演習）.
 - ・日常生活調整方法論.
 - ・基礎看護学実習.
 - ・看護学統合.

III 研究記録

- 5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）
 - ・学内共同研究，看護系大学生の「主体的に学ぶ力」の向上を支援する取り組みと効果，研究代表者.

IV 社会貢献・国際交流記録

- 2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等，活動期間，場所等）
 - ・新型コロナウイルス感染症対応に伴う県内保健所応援（延べ2日）.
- 5 学会，学術団体への貢献
 - 1) 所属学会・学術団体
 - ・日本看護教育学学会，日本看護科学学会.

V 管理・運営記録

- 1 全学委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）
 - ・キャンパス・ハラスメント相談員.

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・入試検討委員会、学生・進路支援委員会。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動では、年度途中での人員の変更があったが、コミュニケーションを積極的にとることで滞ることなく講義・演習環境を整えることができた。研究活動では、看護系大学生の自己調整学習に関する研究の演題登録を行うことができた。当初の目標にはなかったLMSの導入に関する研究を開始し、データ収集を行うことができた。入試検討委員会および学生・進路支援委員会の一員として、担当役割を遂行することができた。

VII 次年度の目標

教育活動では、他教員とコミュニケーションを取り協力することで、教育目標に沿った授業が行えるよう授業や演習の準備や実習室管理を行う。担当の講義・演習においては、学生にとって効果的・魅力的な授業の実施を目指す。研究活動では、本年度実施した研究の公表を行うとともに、研究を発展させ競争的資金の申請を目指す。

助教 泰羅 万純 修士（看護学）

対象期間：2021年4月1日～2021年9月30日まで

I 年度当初の目標

令和3年度は、教育活動においては、引き続き COVID-19 の影響がある中でも、学生が意欲的に学び、学習目標を達成できるよう、講義・演習・実習内容、方法を今年度の評価を行った上で、より工夫をして実施する。大学運営活動においては、所属する委員会が変わるが、教職員と連携し、役割遂行に努める。研究活動においては、コロナ禍の状況に合わせた方法を検討しながら、積極的に進めていく。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）
 - ・地域看護学概論。
 - ・地域看護学方法論Ⅲ。
 - ・地域看護学実習。
 - ・総合実習。
 - ・看護学入門実習。

III 研究記録

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等。本人下線）

- ・細谷紀子，雨宮有子，杉本健太郎，泰羅万純，佐藤紀子：全国市町村における災害時の共助を意図した平常時の保健師活動の概要，日本地域看護学会第24回学術集会，2021年8月27日～9月26日，オンライン。

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・科学研究費補助金基盤研究（C）2020-2023，医療職配置のない高齢者住宅の介護職員が活用できる新たな感染対策マニュアルの開発，研究分担者。
- ・科学研究費補助金基盤研究（C）2020-2023，発達障害児の親に対する地域との繋がりづくりを意図した防災プログラム評価指標の開発，研究分担者。
- ・学長裁量研究，リフレクションに基づく個別支援実践能力育成の普及に向けたプリセプター養成に係るニーズ調査，研究分担者。

IV 社会貢献・国際交流記録

2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等。活動期間。場所等）

- ・新型コロナウイルス感染症対応のための保健所派遣。2021年8月に計2日間。市川保健所。

5 学会，学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
 - ・日本公衆衛生学会。日本地域看護学会。日本公衆衛生看護学会。千葉看護学会。

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催 団体名称、講演テーマ等、対象、開催日、場所）

- ・業務研究に関する指導、市原市役所国民健康保険課、「糖尿病性腎症重症化予防のための医療受診勧奨による継続受診と健診結果改善の効果検証」に関する研究の進め方等の指導・助言、市原市国民健康保険課保健師、2021年7月～2021年9月。

V 管理・運営記録

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科教務委員会、看護学科入試検討委員会、看護学科編入3年担任。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動においては、COVID-19が感染拡大する中で行った昨年度の内容・方法を振り返り、改善して実施することによって、コロナ禍であっても従来の学習目標を達成することができたと考える。大学運営活動においては、教職員と連携し、業務を円滑に遂行することができたが、前期で退職したため、役割を十分に果たすことができなかった。

助教 小林 雅美 修士（看護学）

対象期間：2021年10月1日～2022年3月31日まで

I 年度当初の目標

2021年10月1日より着任となった。教育活動では、COVID-19対応をとりながら、遠隔授業および対面授業を円滑に行えるよう準備を進めると共に、実習先との連携を密に行い実習を円滑に進める。研究活動では、コロナ禍での精神看護学実習の学生の学びに関する研究の発表の準備を進める。また、新たな研究に着手し、研究費の獲得や倫理審査の申請に向けた準備を進める。社会貢献では、県職員としてCOVID-19に関わる派遣要請に積極的に対応する。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）
 - ・精神看護学方法論Ⅰ.
 - ・精神看護学概論.
 - ・心の健康.
 - ・精神看護学実習.
 - ・総合実習.
 - ・看護研究.
 - ・看護学統合.

III 研究記録

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・小宮浩美，加藤隆子，小林雅美：コロナ禍における精神看護学実習の学生の学び—アクティブラーニングを用いたロールプレイ演習—，第41回日本看護科学学会学術集会，2021年12月4日～5日，Web開催

IV 社会貢献・国際交流記録

2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等，活動期間，場所等）

- ・新型コロナウイルス感染症対応に伴う県内保健所派遣（延べ2日）

5 学会，学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
 - ・日本看護科学学会，日本精神保健看護学会，千葉看護学会，ナイチンゲール研究学会.

V 管理・運営記録

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・看護学科学生・進路支援委員会，看護学科総務・企画委員会

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動では、COVID-19 の影響により遠隔授業となった。領域教員間で講義・演習の検討を重ねながら、準備を行い、円滑に授業を行うことができた。臨地実習も学内演習が主となったが、一部新規実習先での臨地実習が行われた。新規実習先との連携を密に行い実習を円滑に進めることができた。また、学内演習においても演習内容の検討を行いながら、学生たちの学習目標が達成できるよう支援を行うことができた。研究活動では、学会発表を行うことができた。また「公立小中学校で働く教員の精神疾患に関する認識」に関する研究に着手し、共同研究費への申請と研究倫理審査に向けた準備を行うことができた。また、COVID-19 に関わる派遣要請において、保健所での活動を行った。

VII 次年度の目標

教育活動では、COVID-19 対応をとりながら、遠隔授業および対面授業において学生たちの学習目標が達成できるよう、準備を行っていききたい。また、臨地実習が再開された際には、実習先との連携を密に行いながら、COVID-19 対応をとり実習目標が達成されるよう進めていききたい。研究活動では、「公立小中学校で働く教員の精神疾患に関する認識」に関する研究について研究倫理審査へ申請し、研究を進めていききたい。社会貢献では、引き続き COVID-19 関連の派遣要請に積極的に応じていききたい。

营养学科

教授（兼） 学科長 細山田 康恵 博士（医学）

対象期間：2021年4月1日～2022年3月31日まで

I 年度当初の目標

コロナ禍の生活様式に慣れるように努め、大学運営と学科運営が順調に進むように責任を果たしていきたい。COVID-19感染症予防対策をしっかりとりながら、学生教育に力を注ぎ、遠隔授業と対面授業において、授業の理解度が下がらないように工夫したい。研究においては、学外の方とも協力して進めていけるように時間の確保につとめ、研究成果を論文として報告したい。また、大学運営では担当している委員会や部会において、他学科と協力し、さらに積極的に取り組めるように努めていきたい。社会貢献では委員長として、地域の方の生活向上につながることを検討していきたい。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・生化学総論.
- ・生化学.
- ・栄養生化学.
- ・臨床検査学.
- ・生化学実験.
- ・解剖生理学 I.
- ・解剖学実験.
- ・栄養統計学.
- ・卒業研究.
- ・総合演習.
- ・体験ゼミナール.

III 研究記録

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・細山田康恵，山田正子：亜麻仁油，エゴマ油を摂取したラットの肝臓脂質濃度と生体内酸化ストレスに及ぼす影響，日本補完代替医療学会誌，18-1，23-28，2021.
- ・阿曾菜美，東本恭幸，渡邊智子，細山田康恵：高齢女性における塩味の認知閾値と血圧および食・生活習慣に関する研究—食塩含有量の少ないソルセイブを用いて—，千葉県立保健医療大学紀要，13-1，13-19，2022.
- ・佐藤紀子，細山田康恵，今井宏美，大内美穂子，岡村太郎，麻賀多美代：看護医療系の単科公立大学における地域貢献機能の特徴，千葉県立保健医療大学紀要，13-1，51-57，2022.
- ・佐藤紀子，石井邦子，細山田康恵，麻賀多美代，岡村太郎，龍野一郎：令和3年度保健医療大学取組報告会—保健・医療・福祉の連携拠点として—，千葉県立保健医療大学紀要，13-1，76，2022.

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・細山田康恵，金澤匠，樋口誉誌子，山田正子：亜麻仁油，エゴマ油を摂取したラットの生体内酸化ストレスに及ぼす影響，第68回日本栄養改善学会学術総会，2021年10月1日，2日，誌上開催.
- ・山田正子，樋口誉誌子，齋藤咲耶，細山田康恵：市販下茹で済み野菜のカリウム量，第68回日本栄養改善学会学術総会，2021年10月1日，2日，誌上開催.

- ・樋口誉誌子, 池谷日菜美, 植田滯奈, 卒場石朋佳, 高橋和希, 細山田康恵, 山田正子: 塩鮭の塩分名称別塩分濃度, 第68回日本栄養改善学会学術総会, 2021年10月1日, 2日, 誌上開催.
- ・山田正子, 樋口誉誌子, 細山田康恵: 加熱済み野菜のカリウム量, 第16回日本給食経営管理学会学術総会, 2021年11月20日~26日, オンデマンド開催.
- ・金澤匠, 細山田康恵: 肥満ラットの肝オートファジーに対するカロテノイド摂取の効果, 日本農芸化学会2022年度大会, 2022年3月15日~18日, オンライン開催.

5 研究資金獲得状況(外部資金・学内共同・学長裁量)(資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・学長裁量研究. 栄養学科卒業生に対するリカレント教育のニーズ調査と実施に向けた検討. 研究代表者.
- ・学長裁量研究. 本学におけるシンクタンク機能と地域貢献活動のあり方の明確化. 研究分担者.
- ・学長裁量研究. 本学歯科診療室を活用した健康増進プログラムの実践. 研究分担者.
- ・学長裁量研究. 介護予防のための生活習慣継続をめざした多職種連携プログラムの評価. 研究分担者.

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等(活動名称, 活動期間, 場所等)

- 1) 千葉県内
 - ・ほい大健康プログラム, 2021年5月29日. さつきが丘団地.
 - ・ほい大健康プログラム, 2021年11月13日. 真砂第一団地.
 - ・健康教室(歯科診療室の方対象), 2021年12月11日. 本学
 - ・保健所応援, 2022年1月21日, 成田支所

5 学会・学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
 - ・日本栄養食糧学会, 日本栄養改善学会, 日本脂質栄養学会, 日本解剖学会, 日本生化学会, 日本補完代替医療学会.
- 2) 学会・学術団体への貢献(学会・学術団体名, 役職, 活動期間)
 - ・日本栄養改善学会, 評議員, 2003年4月から現在に至る.

V 管理・運営記録

1 全学委員会(委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・教授会, 大学運営会議, 共通教育運営会議, 社会貢献委員会, 研究倫理審査委員会, 将来構想検討委員会, FD・SD委員会, 資格審査委員会, 自己点検・評価委員会, 人事委員会, 動物部会.

2 学科/専攻内委員会(委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・栄養学科運営会議, 栄養学科教授会, 卒業研究委員, 国試対策委員.

VI 評価(成果および改善すべき事項)

コロナ禍で, 遠隔授業をせざるを得なかったが, Microsoft Teams を活用し, 事前課題・動画・事後課題の形式で講義を実施し, 質問等は随時チャットで対応し, 学生さんの不安を取り除くように努めることができた. 対面授業においては, 学科内でCOVID-19感染症予防対策の方針を徹底し, 授業がスムーズに実施できるように班編成を工夫して行った. 研究においては, 4件の学長裁量研究に取り組むことができた. 学科卒業生に対するリカレント教育では, 学科教員と栄養学科分科会と協力しながら進めることができ大きな成果といえる. 他学科と協同の研究に関しては, 分担に責任をもって取り組むことができた. しかし, 学外との共同研究は, 時間の確保が難しく, あまりできなかった. 次年度は, 時間を確保できるように改善に努めたい. 大学運営では, 他学科と連携をとりながら順調

に進めることができた。前期2名学科教員の欠員があったが、後期から補充ができ業務を円滑に進めることが可能となった。社会貢献委員会においては、前年度開催されなかった公開講座をZOOMウェビナーで開催し、若い年代の方に参加していただけたことが大きな成果といえる。また、県立大学における社会貢献の役割についてのFDを開催し、本学が取り組んでいる地域貢献に理解を深めていただくことができたと思われる。今後は、コロナ禍でできる地域貢献をさらに広げられるように検討していきたい。

VII 次年度の目標

COVID-19 感染症予防対策を徹底しながら、学生教育に力を注ぎ、講義では理解度が深まるように資料を作成し、実験のレポート課題には、コメントを入れて返却し学習意欲の向上につながるように心がける。研究においては、学内・学外の方とも協力して進めていけるよう時間の確保につとめ、研究成果を学会発表し論文として報告できるようにする。大学運営では学科長として、他学科と協力し、業務に積極的に取り組めるように努める。学科の人事では、欠員を補充し、体制を整えるようにする。社会貢献委員会では委員長として、年齢に合わせた公開講座の開催方法を検討し、参加者が増えるように工夫する。また、ほい大健康プログラムを活用し、地域住民の健康づくりを支援し、生活向上につながるように検討する。

教授 井上 裕光 修士（教育学）

対象期間：2021年4月1日～2022年3月31日まで

I 年度当初の目標

令和三年度は、遠隔授業が継続される可能性もあり、そのうえで教育の質をさらに向上させる。研究活動も再開する。

このコロナ対策の状況が続くことを前提に、感染対策を考慮した演習時間を用意して情報リテラシーIを運用する（三密対策の上で対面授業を行う）。

新システム運用については、年度中に移行が予定されている、Sinet6への移行準備を進め、同時に引き続き、各システム間の調整やチューニングが必要な個所の洗い出し、安全な情報端末の廃棄作業を手伝う。また、新システム運用を安全に行うための体制づくり（学内教員への啓蒙と周知）を行い、管理者の育成など、機動的に対応できる体制を目指す。また、十分な新入生・新教員向けのガイダンスと、学生向けの学内システム（新機能）紹介を行う。とくに、新しいシステムであるため、理解不足からの情報漏洩事故等に最大限配慮する。また、引き続きサポート終了となったWindows7やOffice2010の利用（学内サポート外となったOffice2013の利用）を行わないように情報提供を行う。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）
 - ・体験ゼミナール.
 - ・統計学.
 - ・情報リテラシーⅠ.
 - ・情報リテラシーⅡ.
 - ・教育の方法と技術.
 - ・実践統計学.
 - ・事前指導.
 - ・総合演習.
- 2) 他大学、大学院等の非常勤講師（科目名、大学名）
 - ・実践統計学（日本女子大学）.

III 研究記録

1 著書（著者本人下線：著書、発行年、発行所、発行場所）

- ・井上裕光：保健情報統計学，2022，医歯薬出版，東京.

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名、研究テーマ、研究代表者／研究分担者）

- ・共同研究 R3-1, 行動観察による製品創造手法の開発に関する研究，井上裕光／マンダム MJC 吉川季代美
- ・学長裁量，栄養学科卒業生に対するリカレント教育のニーズ調査と実施に向けた検討，細山田康恵／井上裕光

IV 社会貢献・国際交流記録

3 審議会、委員会、国家試験委員等の実績（活動団体名称、委員名称、活動期間）

- ・ISO/TC34 国内審議団体事務局(FAMIC 国際課)、ISO/TC34/SC12 国内対策委員、2004～現在に至る。

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本心理学会、日本教育心理学会、日本人間工学会、日本教育工学会、日本発達心理学会、日本パーソナリティ学会、日本家政学会、日本家庭科教育学会、日本教師学学会、日本官能評価学会。

2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

- ・日本官能評価学会、常任理事（企画・編集）、1996～現在に至る。
- ・日本官能評価学会、査読、2021-2022。
- ・（一財）日本科学技術連盟、官能評価セミナー委員長。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・教授会、広報委員会、入試改革検討委員会、入試実施委員会、共通教育運営会議。
- ・学内情報システムガイダンス・学生支援課サポート、学内情報システム・企画運営課サポート、学内ネットワーク運営保守、教員サポート、学生サポート、情報ネットワーク・ゼミ用 PC 運用、図書館システム運用サポート、レセコン設置運用サポート。
- ・システム更改計画作成、性能評価票作成、DC での運用管理・物品管理

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・1年生担任

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育の質の向上については、遠隔授業対応を行った。自習用教材の追加、動画教材作成により、異なるクラス編成（週1・週2混在）での対応（ワクチン接種等で欠席した学生へのフォロー動画配信）を行うことができた。また、必要な教材の配布等も予定通りに行うことができた。同時に、Teams の仕様変更に伴う情報提供・学内教員への Q&A 提供・フォローアップなど、できることはやった（なお、体調回復が遅れ、再度8月に入院するなど、迷惑をかける結果になった）。初學者教育対策として、レポート作成スキルアップについて引き続き行い、新入生へのスキル向上を行うことができた。また、応用編としての実践統計学も9月に集中講義で行った。

研究する時間は確保できなかった。

官能評価の普及活動については、普及活動用の資料を見直し、また、遠隔での紹介を行うなどさらに間口を広げることを試みた。

学内情報ネットワークシステムについては、新システムではクラウド活用（安定利用）を図るため、データセンター（DC）利用と Sinet5 の活用とさらに Sinet6 への移行準備とを同時に行う必要があった。また、配布 PC の初期不良が想像以上に多かったなど、導入トラブルが多発した。予備機がそもそも確保できず、新年度のぎりぎりのチューニングが必要になり、事務局の協力のもとで連日の調整が続いてしまった。Windows10 の年2回のシステム更新の影響もあり、一時的に Windows Update を停止するなど、調整に追われた。学内情報システム端末更新作業も、予定通りには進まなかった。

大学ホームページ運用・SNS 運用については、事務局の協力を得て、実務処理を事務局でお願いし、広報委員会メンバーとしてサポートに回った。

本来の新システムの全容を学内へ紹介するなど、学生向け・教員向けの講習会が不十分で、学内講習会スケジュールも決められなかった。実際の対面演習に制限があり、資料提供にとどまった。

VII 次年度の目標

令和四年度は、教育の質をさらに向上させる。研究活動も再開する。

このコロナ対策の状況が続くことを前提に、感染対策を考慮した演習時間を用意して情報リテラシーI を運用する（三密対策の上でスキルアップを意図した対面授業を行う）。

新システム運用については、引き続き、各システム間の調整やチューニングが必要な個所の洗い出し、安定した運用のためにトラフィックを解析し、今年度予算請求で Teams の安定運用の方法を検討する。また、安全な情報端末の廃棄作業を手伝う。さらに、新システム運用を安全に行うための体制づくり（学内教員への啓蒙と周知）を行い、管理者の育成など、機動的に対応できる体制を目指す。また、十分な新入生・新教員向けのガイダンスと、学生向けの学内システム（新機能）紹介を行う。とくに、新しいシステムであるため、理解不足からの情報漏洩事故等に最大限配慮する。

WindowsUpdate については、学内サポートバージョンの統一が必要であり、その工程策定、およびウイルスバスター-Corp. ed. の新バージョン Apex_one への移行を円滑に行うために努力する。

教授 谷内 洋子 学位 博士 (学術)

対象期間：2021年4月1日～2022年3月31日まで

I 年度当初の目標

令和3年度は、with/after コロナを見据え、教員と学生の間、学生間のコミュニケーションを十分に確保した、遠隔授業と対面授業の利点を活用した授業の実践に取り組む。これまでどおり、講義・実習において、身体や栄養に関する専門的知識・技能の修得に加え、対象の身体・心理・環境的要因を総合的に捉える能力と、包括的かつ具体的な方策を提案しうる能力を養うべく、演習での症例検討等においては、遠隔授業であっても履修生同士の意見交換等の場を提供することにより、臨床栄養学に関する理解を深める授業の工夫に着手する。

また、現職の管理栄養士向けの研修会講師やシンポジストの依頼が近年増加していることから、これらの活動を通じて広く啓蒙活動を行うとともに、自身の研究活動の円滑な推進に取り組み、日本人の日常生活にすぐに適用可能な科学的エビデンスの確立を通じて、国民（県民）の生活の質向上や医療費抑制に貢献したい。“妊娠前からはじめる妊産婦のための食生活指針”が最新のエビデンスを反映させ、新たな指針として令和3年3月に改訂されたことから、同指針の検討委員の立場から、指針に関する広報活動および啓蒙活動にも注力したい。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・臨床栄養学Ⅰ.
- ・臨床栄養学Ⅱ.
- ・総合演習.
- ・管理栄養士導入教育.
- ・臨床栄養学実習.
- ・栄養ケアマネジメント論実習.
- ・栄養ケアマネジメント論演習.
- ・事前・事後指導（臨地実習）.
- ・臨床栄養臨地実習.
- ・栄養管理臨地実習.
- ・専門職間の連携活動論.

2) 他大学、大学院等の非常勤講師（科目名、大学名）

- ・臨床栄養学（日本女子大学）.
- ・臨床栄養学実践演習（日本女子大学）.
- ・血液・内分泌・代謝内科学分野、新潟大学大学院医歯学総合研究科研究員.

III 研究記録

1 著書（著者本人下線：著書、発行年、発行所、発行場所）

- ・谷内洋子：糖尿病の最新食事療法のなぜに答える【基礎編】，医歯薬出版，東京.
- ・谷内洋子，杉山隆，瀧本秀美他.：【臨床栄養 別冊】はじめてとりくむ妊娠期・授乳期の栄養ケア・リプロダクティブステージの視点から. 医歯薬出版，東京.
- ・谷内洋子，曾根博仁他：すべての診療科で役立つ 身体運動学と運動療法，羊土社，東京.

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・谷内洋子：日本人妊産婦における体格および食・生活習慣をめぐる現状と課題. New Diet Therapy. 36(4)；47-54, 2021.（査読あり）

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・谷内洋子，山田貴穂，生魚薫，曾根博仁：妊娠中の母体血糖状態と低出生体重児出産との関連の検討，第37回日本糖尿病・妊娠学会年次学術集会，2021年11月27日，web開催.
- ・谷内洋子，藤原和哉，堀川千嘉，生魚薫，山本正彦，石澤正博，山田貴穂，児玉暁，曾根博仁：妊娠中期における母体インスリン値と低出生体重児出産との関連の検討，第32回日本疫学会学術総会，2022年1月26日～2022年1月28日，web開催.

4 学術集会での招待講演（教育講演や基調講演）やシンポジウム等（学術集会名，テーマ，開催日，場所等）

- ・第36回日本助産学会学術集会 交流集会4，やせ体格の妊婦の体重増加をどう支援するか—改訂された「妊娠前からはじめる妊産婦のための食生活指針」をふまえて—（シンポジスト），2022年3月20日，web開催

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C)，若年女性の「やせ」に関連する要因の解明と「やせ」予防に関するエビデンス確立，研究代表者
- ・日本学術振興会 科学研究費助成事業基盤研究(B)，地域の全世代保健/医療ビッグデータの統合解析による健康寿命延伸エビデンスの創成，研究分担者

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等（活動名称，活動期間，場所等）

2) 千葉県外

- ・食事・栄養相談，令和3年6月～令和3年3月，東京都大田区.

3 審議会，委員会，国家試験委員等の実績（活動団体名称，委員名称，活動期間）

- ・日本糖尿病・妊娠学会 糖尿病と妊娠にかかわる科学的根拠に基づく医療の推進プロジェクト ワーキングメンバー，平成3年4月～令和4年3月
- ・日本人事試験研究センター 専門試験（栄養士/管理栄養士）試験問題作成委員，令和3年4月～令和4年3月

4 職能団体委員等（職能団体名称，委員名称，活動期間）

- ・公益社団法人 千葉県栄養士会，研究教育事業務 副部長，令和3年4月～令和4年3月
- ・公益社団法人 千葉県栄養士会，外来栄養食事指導検討委員，令和3年4月～令和4年3月
- ・栄養学雑誌，編集委員，令和3年4月～令和4年3月
- ・日本糖尿病・妊娠学会，妊娠糖尿病・糖尿病，合併妊娠の妊娠転帰および母児の長期予後に関する登録データベース構築による多施設前向き研究 DREAMBee Study，検討委員，令和3年4月～令和4年3月

5 学会，学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本栄養改善学会，日本臨床栄養学会，日本疫学会，日本病態栄養学会，日本栄養・食糧学会，日本糖尿病・妊娠学会，DOHaD研究会，日本栄養士会，千葉県栄養士会.

2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名，役職，活動期間）

- ・日本疫学会，代議員，令和3年4月～令和4年3月
- ・日本病態栄養学会，評議員，令和3年4月～令和4年3月

- ・日本糖尿病・妊娠学会，評議員，令和3年4月～令和4年3月3月
- ・日本栄養改善学会，評議員，令和3年4月～令和4年3月
- ・日本栄養・食糧学会，参与，令和3年4月～令和4年3月
- ・公益社団法人 千葉県栄養士会 理事，令和3年4月～令和4年3月3月

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称，主催 団体名称，講演テーマ等，対象，開催日，時場所）

- ・2021年度千葉県栄養士会公衆衛生事業部 研修会，第1回 中央研修会，千葉県栄養士会，“妊娠前からはじめる妊産婦のための食生活指針”改定のポイントと日本人妊産婦における体格および食生活習慣の現状と課題一，2021年7月10日，web開催。
- ・エレビットNavi，バイエル薬品株式会社，“妊娠前からはじめる妊産婦のための食事生活指針2021”の改訂ポイント，2021年8月6日，web開催
- ・2021年度千葉県栄養士会研究教育事業部研修会，千葉県栄養士会，臨地・校外実習の充実/遠隔（オンライン）授業の充実，2021年12月19日，web開催。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・教務委員会，進路支援委員会，FD・SD委員会，IR部会。

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・進路支援委員。

3 対外広報活動＜新聞・ホームページでの活動・TV出演，ラジオ出演等＞

- ・nipn，栄養コラム；知って納得！専門家による栄養のおはなし，第1回 ママと赤ちゃんの健康のカギは『普段の食事』にあり！
<https://www.nipn.co.jp/BrandB/eiyou/column/01.html>
- ・nipn，栄養コラム；知って納得！専門家による栄養のおはなし，第2回 妊産婦のQ&A
<https://www.nipn.co.jp/BrandB/eiyou/column/02.html>
- ・国立研究開発法人 医療基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所：妊娠前からはじめる妊産婦のための食生活指針-妊娠前から，健康なからだづくりを-
<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/ninsanpu/>
- ・国立研究開発法人 医療基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所：妊産婦さんが気になるQ&A
<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/ninsanpu/faq.html>
- ・千葉日報，令和3年9月19日，現代食事考<1524> コロナ禍 座りすぎ，塩分量に注意。
- ・久ヶ原スイミングクラブ，令和3年2月1日，コロナ禍での運動/食事で気をつけたいこと。
<http://kugahara-sc.jp/column/yachi/20220201.html>
- ・久ヶ原スイミングクラブ，令和3年3月28日，筋肉量の確保と健康寿命の延伸。
<http://kugahara-sc.jp/column/yachi/20220328.html>
- ・日本学術会議 臨床医学委員会・健康・生活科学委員会合同生活習慣病対策分科会，提言「生活習慣病予防のための良好な育成環境・生活習慣の確保に係る基盤づくりと教育の重要性」。
<http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-24-t293-3.pdf>

VI 評価（成果および改善すべき事項）

COVID-19感染予防対策として，令和3年度講義科目においては原則遠隔授業の実施となったが，授業内容の充実をはかるべく，配布資料および事後課題の内容等工夫に加え，受講学生が実験実習で対面授業がある日に，事前資料配布をすることで，学生の印刷等の負担軽減を配慮した授業運営を心がけた。また，実習・演習の対面授業では入室管

理を徹底し、体温の自動測定と健康チェックシートの確認を常時行うとともに、授業での3密を回避する対策を行い、安全かつ充実した授業運営に取り組むことができた。

また千葉県栄養士の会理事および研究教育副部長として、県民の健康維持増進に貢献できるよう、生涯教育研修会の企画・立案に従事し、令和3年3月に改定された“妊娠前からはじめる妊産婦のための食生活指針”の解説セミナーの講師をつとめるとともに、学生対象とした教育セミナーの企画立案を実施し、300名を超える受講者へのスキルアップ、知識の底上げに貢献することができた。

来年度も本学学生へのより良い指導の在り方を模索、検討し実践するとともに、学会役員の立場から、県内専門職への啓蒙活動に加え、保健医療専門職を対象とした研修会講師や学会のシンポジスト活動を通して、管理栄養士を含む保健医療専門職への啓蒙活動を行う。さらに自身の研究活動の円滑な推進に取り組み、日本人の日常生活にすぐに適用可能な科学的エビデンスの確立を通じて、国民（県民）の生活の質向上や医療費抑制に貢献したい。

Ⅶ 次年度の目標

令和4年度の授業実施は、学生の安全を第一に優先し、対面授業と遠隔授業との両方を適宜活用し、学生の学びがより一層深いものとするとともに、学生と教員、学生と学生の関わりをつなぎ、県民はじめ自分以外の他者の健康づくりに貢献できる人材輩出に力を尽くしたい。

また、保健医療専門職を対象とした研修会講師や学会のシンポジスト活動を通じて、管理栄養士を含む保健医療専門職への啓蒙活動を行うとともに、自身の研究活動の円滑な推進に取り組み、日本人の日常生活にすぐに適用可能な科学的エビデンスの確立を通じて、国民（県民）の生活の質向上や医療費抑制に貢献したい。また、低栄養と過剰栄養が混在する現代日本において、専門領域である若年女性のやせおよび妊産婦の低栄養問題について、エビデンスベースで対応策を検討し、一般の方から専門職に至るまで、広く最新の知見を普及することにも注力したい。

教授 菊池 裕 薬学博士

対象期間：2021年4月1日～2022年3月31日まで

I 年度当初の目標

令和3年度は、前年度の講義及び実習を参考とし、新たな知見を加えて学生の教育を遂行する。教育内容及び方法の改革として、科学的な知見に基づいて管理栄養士に必要な新たな方法を取り入れる。学生に対する学習支援として、学生の視線から講義及び実習を捉える。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・食品学総論.
- ・理化学概論.
- ・食品加工学.
- ・食品衛生学.
- ・食品微生物学.
- ・栄養統計学.
- ・総合演習.
- ・体験ゼミナール.
- ・食品化学実験.
- ・食品衛生学実験.
- ・食品加工学実習.

2) 他大学, 大学院等の非常勤講師 (科目名, 大学名)

- ・レギュラトリーサイエンス概論. 星薬科大学.

III 研究記録

2 学術論文・その他 (著者: 題名, 雑誌名, 巻, 号, ページ, 発行年, 本人下線)

- ・Katsuhiko Hayashi, Takashi Misawa, Chihiro Goto, Yosuke Demizu, Yukiko Hara-Kudo, Yutaka Kikuchi: The effects of magainin 2-derived and rationally designed antimicrobial peptides on *Mycoplasma pneumoniae*. *PLOS ONE* **17**, 1, e0261893–e0261893. 2022. doi.org/10.1371/journal.pone.0261893.
- ・Yusuke Nomura, Junji Yamamura, Chie Fukui, Hideo Fujimaki, Kazuyuki Sakamoto, Ken-ichi Matsuo, Hisashi Kuromatsu, Yutaka Kikuchi, Yuji Haishima: Performance evaluation of bactericidal effect and endotoxin inactivation by low-temperature ozone/hydrogen peroxide mixed gas exposure. *Journal of Biomedical Materials Research Part B: Applied Biomaterials* **109**, 11, 1807–1816. 2021. doi: 10.1002/jbm.b.34840.
- ・鈴木浩子, 福井千恵, 藤巻日出夫, 菊池裕, 靄島由二: 短波長紫外線によるエンドトキシン不活化法の開発. 日本防菌防黴学会誌 **49**, 4, 157–161. 2021.

4 学術集会での招待講演 (教育講演や基調講演) やシンポジウム等 (学術集会名, テーマ, 開催日, 場所等)

- ・Yutaka Kikuchi: Japanese Pharmacopoeia on rFC, Parenteral Drug Association, 2021 PDA Endotoxins Workshop- Practical Insights into the Evolution Of Endotoxin Testing. 7 October, Washington DC and Online.

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・一般財団法人医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団「日本薬局方の試験法等に関する研究」，エンドトキシン試験法に用いる組換え試薬の評価に関する研究，研究開発担当者
- ・国立研究法人日本医療研究開発機構 医薬品等規制調和・評価研究事業，医薬品の品質確保のための日本薬局方改正に向けた試験法等開発に関する研究，研究開発分担者

IV 社会貢献・国際交流記録

3 審議会，委員会，国家試験委員等の実績（活動団体名称，委員名称，活動期間）

- ・独立行政法人医薬品医療機器総合機構 日本薬局方原案検討委員会 総合委員会，2021年4月1日-2022年3月31日。
- ・独立行政法人医薬品医療機器総合機構 日本薬局方原案検討委員会 国際調和検討委員会，2021年4月1日-2022年3月31日。
- ・独立行政法人医薬品医療機器総合機構 日本薬局方原案検討委員会 生物試験法委員会，2021年4月1日-2022年3月31日。
- ・独立行政法人医薬品医療機器総合機構 日本薬局方原案検討委員会 専門委員，2021年4月1日-2021年3月31日。
- ・一般財団法人医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団 生物薬品標準品評価委員会，2021年4月1日-2022年3月31日。

5 学会，学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本薬学会
- ・日本生化学会
- ・日本マイコプラズマ学会
- ・日本防菌防黴学会

2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名，役職，活動期間）

- ・日本防菌防黴学会，理事，2021年4月1日-2021年5月31日。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・総務・企画委員会
- ・FD・SD委員会
- ・キャンパス・ハラスメント防止対策委員会
- ・認証評価部会
- ・新型コロナウイルスワクチン接種PT
- ・Inje 大学シンポジウムPT

VI 評価（成果および改善すべき事項）

新型コロナウイルス感染症の流行により，担当した実習は対面授業で，講義はすべて遠隔授業で行なった。動画の視聴においても，常に最新の知識を伝えるように努力したが，遠隔授業で学生の習熟度に差があることを理解し，学生の意見を吸い上げる方法については模索中である。

VII 次年度の目標

担当する授業及び実習で，最新の科学の動向を取り入れると共に，学生の要望や社会の動向に即した内容を提供できるように努力する。

学外競争的研究費の獲得にむけ，食品行政に即した研究課題を立案すると共に，学内研究環境の更新を図りたい。

教授 加瀬 政彦 博士（医学）

対象期間：2021年4月1日～2022年3月31日まで

I 年度当初の目標

令和3年度は、本学に赴任初年度であったので、特に本学における様々な業務に習熟することを目標にした。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・解剖生理学Ⅰ.
- ・解剖生理学Ⅱ.
- ・解剖学.
- ・疾病論.
- ・生理学実験.
- ・解剖学実験.
- ・体験ゼミナール.
- ・総合演習.
- ・栄養統計学.

III 研究記録

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名、研究テーマ、研究代表者／研究分担者）

- ・学長裁量研究，栄養学科卒業生に対するリカレント教育のニーズ調査と実施に向けた検討，研究分担者.

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等（活動名称、活動期間、場所等）

1) 千葉県内

- ・市川保健所におけるコロナ関連業務補助.

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本解剖学会、日本神経科学会.

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・研究倫理審査委員会、研究倫理審査委員会動物部会、国際交流委員会、共通教育委員会、FD/SD委員会、教員資格審査委員会.

VI 評価（成果および改善すべき事項）

赴任初年度である令和3年度に本学の様々な業務，特に教育と大学運營業務に慣れることを目標としたが，これらはある程度達成できた。教育ではTeamsの利用法を習得し，各担当科目の遠隔授業の遂行を円滑に行うことができた。委員会活動では倫理審査委員会で委員長としての活動，FD/SD委員会では研究倫理に関するFDを開催，国際交流委員会では国際シンポジウムに参加した。しかしながらまだ十分に各種業務に慣れていないところがあったのでさらに努力したい。

VII 次年度の目標

令和4年度はさらに高いレベルで本学の各業務の遂行ができるようにする。

教授 平岡 真実 博士（保健学）

対象期間：2021年4月1日～2022年3月31日まで

I 年度当初の目標

教育, 研究, 管理運営において, 学内外の関係各所と交流をはかり新天地での環境順化につとめ積極的に取り組む。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・応用栄養学Ⅰ.
- ・応用栄養学Ⅱ.
- ・応用栄養学Ⅲ.
- ・応用栄養学実習.
- ・スポーツ栄養学.
- ・栄養統計学.
- ・体験ゼミナール.
- ・総合演習.

2) 他大学, 大学院等の非常勤講師（科目名, 大学名）

- ・病態栄養学（お茶の水女子大学）.
- ・応用栄養学（お茶の水女子大学）.

III 研究記録

1 著書（著者本人下線：著書, 発行年, 発行所, 発行場所）

- ・平岡真実：第6章 幼児期の栄養ケア, スタンダード人間栄養学 応用栄養学 第3版（渡邊早苗, 山田哲雄, 吉野陽子, 旭久美子 編集）, 2021年, 朝倉書店, 東京.
- ・平岡真実：第2章ビタミン2.6葉酸 2.6.1はじめに, 2.6.3栄養学（食品中の葉酸）, 2.6.10トピックス（葉酸強化政策ほか）, ビタミン・バイオフィクター総合事典（日本ビタミン学会 編集）, 2021年, 朝倉書店, 東京.
- ・平岡真実：第2章 児童生徒の健康と食生活（1）肥満とやせの判定法,（2）肥満,（3）やせ,（5）アレルギー, 栄養教諭「栄養に係わる教育」, 2022年, 白鷗社, 東京.
- ・平岡真実：第5章高齢期 1 高齢者一般, 改訂 応用栄養学実習書 [第2版] -PDCA サイクルによる栄養ケア-（柳沢幸江, 松井幾子 編著）, 2022年, 建帛社, 東京.

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名, 研究テーマ, 研究代表者／研究分担者）

- ・科学研究費補助金基盤研究（C）（一般）, 葉酸関連遺伝子多型別栄養介入による健康づくり支援の有効性:開始15年目の追跡調査, 研究代表者.
- ・AMED 成育疾患克服等総合研究事業, 日本の先天異常発生動向とその影響要因およびその解析方法に関する研究, 研究分担者.
- ・学長裁量研究, 栄養学科卒業生に対するリカレント教育のニーズ調査と実施に向けた検討, 研究分担者.

IV 社会貢献・国際交流記録

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本ビタミン学会，日本臨床化学会，日本栄養・食糧学会，日本分子生物学会，日本栄養改善学会，日本公衆衛生学会.

2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名，役職，活動期間）

- ・日本ビタミン学会評議員，2015年11月～現在.
- ・日本ビタミン学会トピックス委員会委員，2018年6月～現在.

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称，主催，団体名称，講演テーマ等，対象，開催日，時場所）

- ・千葉県男女共同参画センター×千葉県立保健医療大学連携オンライン講座，強いカラダを作る-知っているつもりでの栄養，基礎のキソ-，一般住民，2021年12月1日～2022年3月1日，YouTube 限定公開.
- ・坂戸市葉酸プロジェクト 「食と体質を知って生活習慣病予防と認知症予防講習会（食と健康のプランニングセミナー）」に係る研修会，坂戸市，地域活動栄養士，2022年3月18日，オンライン.

7 その他

- ・Inje 大学 千葉県立保健医療大学協定延長 シンポジウム，学科紹介，2022年3月23日，オンライン開催.

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・教員再任審査委員会，学生委員会，学術推進企画委員会，学内共同研究審査部会，紀要編集部会，入試作問委員会.

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・栄養学科運営会議.

VI 評価（成果および改善すべき事項）

本学着任1年目であったが，教育活動および大学管理運営活動に積極的に取り組み，滞りなく役割を果たすことができた。教育において，講義はCOVID-19感染予防対策のためオンデマンド配信による遠隔授業であったため，学生との直接のやりとりが不足したことは，反省すべき点である。研究活動においては，コロナ禍での対面調査を伴う研究が遂行できなかったことと，研究環境整備の遅れから，実績を残すことができなかった。次年度は，研究時間の確保に努め，遅れをとりもどすべく研究推進に励みたい。

VII 次年度の目標

教育においては，学生との対話を重視しながら質の高い講義，実習を行い，学生の知的好奇心を引き出すよう心がける。研究では，学内外と協力してコロナ禍で遅延している研究を遂行すること，さらに研究成果の発表を必須とする。大学運営では担当業務に積極的に取り組み，委員会委員長では所掌事項を円滑に遂行するよう努める。

准教授 荒井 裕介 博士（農芸化学）

対象期間：2021年4月1日～2022年3月31日まで

I 年度当初の目標

令和3年度は、教育面では、遠隔による授業実施においても担当する領域の基礎的な知識技術の習得ができるよう、動画や資料の工夫をしながら講義・実習を実施する。研究面では参加する共同研究を適切に実施する。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・公衆栄養学Ⅰ.
- ・公衆栄養学Ⅱ.
- ・公衆栄養学実習.
- ・公衆栄養臨地実習.
- ・栄養管理臨地実習.
- ・事前指導.
- ・事後指導.
- ・管理栄養士導入教育.
- ・栄養統計学.
- ・総合演習.
- ・卒業研究.
- ・千葉県の健康づくり.

2) 他大学、大学院等の非常勤講師（科目名、大学名）

- ・公衆栄養学（大阪市立大学）.

III 研究記録

1 著書（著者本人下線：著書，発行年，発行所，発行場所）

- ・高橋佳子，高松まり子，荒井裕介他：公衆栄養概論 2021/2022（エスカパーシク）（第10版），2021年4月，同文書院，東京.
- ・荒井裕介，阿部絹子，今井具子他：管理栄養士養成のための栄養学教育モデル・コア・カリキュラム準拠 公衆栄養学 2022年版，2022年1月，医歯薬出版，東京.

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・Miwa Yamaguchi, Marika Nomura, Yusuke Arai, Stefanie Vandevijvere, Boyd Swinburn, Nobuo Nishi. An assessment of implementation gaps and priority recommendations on food environment policies: the Healthy Food Environment Policy Index in Japan. Public Health Nutr, 20 Dec, 1-13, 2021, doi: 10.1017/S1368980021004900.

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・木附 隼，谷口 哲也，由田 克士，荒井 裕介，吉池 信男，内山 真，鈴木 正泰. 日本の一般人口における不眠症状の季節変化. 第117回日本精神神経学会総会. 2021年9月19-21日. 京都市.

- 5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）
- ・厚生労働科学研究費補助金循環器疾患・糖尿病対策総合研究事業，公衆衛生領域を中心とした自治体栄養士養成プログラム開発のための研究，研究分担者

IV 社会貢献・国際交流記録

3 審議会，委員会，国家試験委員等の実績（活動団体名称，委員名称，活動期間）

- ・船橋市，ふなばし健やかプラン 21 推進評価委員会委員，2021 年 4 月～2022 年 3 月。

5 学会，学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本栄養改善学会，日本公衆衛生学会，日本高血圧学会，日本疫学会，
- ・日本栄養士会，神奈川県栄養士会

2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名，役職，活動期間）

- ・特定非営利活動法人日本栄養改善学会，理事，2021 年 11 月～現在に至る。
- ・特定非営利活動法人日本栄養改善学会，評議員，2006 年 11 月～現在に至る。
- ・特定非営利活動法人日本栄養改善学会，関東・甲信越支部会副支部長，2020 年 8 月～現在に至る。
- ・特定非営利活動法人日本栄養改善学会，第 68 回学術総会実行委員長，総務委員長，2020 年 10 月～2021 年 10 月。
- ・一般社団法人日本公衆衛生学会，代議員，2019 年 7 月～現在に至る。
- ・一般社団法人日本公衆衛生学会，公衆衛生分野における行政管理栄養士のあり方委員会委員，2018 年 2 月～現在に至る。
- ・第 22 回国際栄養学会議プログラム委員，2019 年 4 月～現在に至る。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・教務委員会，衛生委員会，自己点検・評価実施推進部会。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育面では遠隔授業においても学生が担当する領域の基礎的な知識技術の修得ができるよう，講義ではスライドのわかりやすい記述や解説説明に努めた。研究面では参加する共同研究にて専門的立場から考察を行った。

VII 次年度の目標

教育面では，担当する領域の基礎的な知識技術の習得ができるよう，引き続き講義・実習の工夫をしながら実施する。研究面ではデータの解析をすすめて論文化に取り組む。また共同研究に取り組む。

准教授 河野 公子 修士（家政学）

対象期間：2021年4月1日～2022年3月31日まで

I 年度当初の目標

令和3年度は、教育者として研鑽を積むこと。特にコロナ禍における授業方法と学生とのコミュニケーションの取り方について工夫することを心がけるとともに学びの環境を整える努力をしたい。

また、社会貢献に関わる研修会講師等の依頼も増えたことから、活動を通じ県民の健康づくり推進に貢献していくための取り組みをしていきたい。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・給食経営活動論Ⅰ.
- ・給食経営管理論Ⅱ.
- ・給食経営管理実習.
- ・給食経営管理臨地実習.
- ・栄養管理臨地実習.
- ・食事設計と調理実習.
- ・在宅栄養支援論.
- ・管理栄養士導入教育.
- ・事前指導(臨地実習) .
- ・事後指導(臨地実習) .
- ・専門職間の連携活動論.
- ・総合演習.
- ・発達歯科衛生学Ⅱ.
- ・栄養統計学.
- ・管理栄養士国家試験対策講座.

2) 他大学、大学院等の非常勤講師（科目名、大学名）

- ・いのちと生活Ⅰ栄養学(講義 千葉科学大学) .

III 研究記録

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名、研究テーマ、研究代表者／研究分担者）

- ・学長裁量研究. 栄養学科卒業生に対するリカレント教育のニーズ調査と実施に向けた検討. 研究分担者.
- ・学長裁量研究. 本学歯科診療室を活用した健康増進プログラムの実践. 研究分担者.
- ・学長裁量研究. 介護予防のための生活習慣継続をめざした多職種連携プログラムの評価. 研究分担者.

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等（活動名称、活動期間、場所等）

1) 千葉県内

- ・習志野保健所における新型コロナ陽性者への電話確認、電話相談、事務処理(2021年8月31日)
- ・市原市民大学研修会において地域住民の健康づくり推進活動を行った(2021年10月22日)
- ・市原市役所保健福祉部保健センター主催の健康大使研修会において健康づくり推進活動を行った(2021年8月25日)
- ・千葉県立保険医療大学公開講座において地域住民の健康で充実した人生を送ることを目的とした健康づくり推進活動を行った。(2021年10月23日)
- ・千葉県シニア自然大学において健康で自分らしく生活していくための健康づくり推進活動を行った。(2022年1月27日)

2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等、活動期間、場所等）

- ・千葉市あんしんケアセンターにおける美浜区多職種連携活動(2022年1月26日18:30～21:00)
- ・茂原市長生健康福祉センターにおける「給食施設管理者・従事者研修会での減塩に関わる啓発活動を行った。(2021年12月7日)

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本給食経営管理学会
- ・日本栄養士会、千葉県栄養士会

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・学生委員会、危機管理委員会、専門職間の連携活動論部会、初期医療通訳ボランティア育成

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・国試対策委員、4年生担任

VI 評価（成果および改善すべき事項）

コロナ禍における分かり易い動画やオンライン授業、それに伴う予習・復習による理解度確認や質疑応答を積極的に行い学生とのコミュニケーションを取る工夫と努力を実践することができた。また、対面授業における安全な学びの環境を整えできるだけ多くのことを体験し学びを深めることができた。臨地実習受け入れ施設の変更、実習期間の変更が直前まであり調整に苦慮したが年間計画期間内に実施することができた。

VII 次年度の目標

コロナ終息の兆しがみえないことから、安全な大学生活を過ごすとともに効率的な時間の調整を行い、学生の育成のために更なる努力をしていきたい。また、千葉県内の学外活動を充実させたい。

准教授 金澤 匠 博士（農学）

対象期間：2021年4月1日～2022年3月31日まで

I 年度当初の目標

2021年度は、研究費の獲得による研究の推進及びその研究成果の公表（学会発表や学術論文投稿）を引き続き目指す。また教育の面でも、遠隔授業への対応も含めて引き続き講義や実験・実習の内容に関して工夫をし、更なる内容の充実を図る。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）
 - ・体験ゼミナール.
 - ・栄養学Ⅰ（基礎）.
 - ・栄養学Ⅱ（応用）.
 - ・食品学各論.
 - ・食品学実験.
 - ・基礎栄養学.
 - ・基礎栄養学実習.
 - ・総合演習.
 - ・栄養統計学.
 - ・卒業研究.

III 研究記録

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・細山田康恵，金澤匠，樋口誉誌子，山田正子：亜麻仁油，エゴマ油を摂取したラットの生体内酸化ストレスに及ぼす影響，日本栄養改善学会，2021年10月1日～2日，オンライン・誌上開催
- ・金澤匠，細山田康恵：肥満ラットの肝オートファジーに対するカロテノイド摂取の効果，日本農芸化学会，2022年3月15～18日，京都・オンライン開催

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・学長裁量研究費，栄養学科卒業生に対するリカレント教育のニーズ調査と実施に向けた検討，研究分担者

IV 社会貢献・国際交流記録

5 学会，学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
 - ・日本農芸化学会．日本生化学会．日本栄養・食糧学会．日本栄養改善学会．日本食品科学工学会

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・学術推進企画委員会．学内共同研究審査部会．紀要編集部会．動物実験研究倫理審査部会．

VI 評価（成果および改善すべき事項）

研究に関しては、科研費や学内共同研究費を獲得することができず、満足のいく活動及び成果は得られなかった。教育においては、前年度から引き続き講義は遠隔授業となったが、リアルタイムでの授業配信や遠隔での課題提出、疑問点の共有などを図るための工夫を行うことが出来た。

VII 次年度の目標

2022年度は、学内共同研究に採択された研究課題に着手し、研究の推進及び成果の公表（学会発表や学術論文投稿）を目指す。教育の面では、対面授業へ移行したことを受け、引き続き感染防止対策の徹底に努めるとともに講義や実験・実習の内容に関して工夫し、授業の更なる充実を図る。

准教授 広川 由子 博士（教育学）

対象期間：2021年10月1日～2022年3月31日まで

I 年度当初の目標

教育活動においては、学生の傾向と特徴をつかみ、遠隔授業であってもなるべく対話を通じ、信頼関係を構築したうえで、学生の教育・学校への興味・関心が高まるよう工夫する。さらに栄養教諭を一人でも多く養成するため、担当科目の質・教育方法の向上に努力する。研究活動においては、博士論文の出版を進めると同時に、科学研究費補助金の申請を行う。大学の管理運営においては、円滑で公正な入試が実施できるよう努めるとともに、大学の教養教育のあり方について共通認識を高めていきたい。社会貢献については、所属する日本教育政策学会の事務局書記として学会の円滑な運営に注力し、子ども・若者の生命・健康と学びの保障に貢献したい。これまでの愛知県での経験を生かし、千葉県の教育行政や学校にも貢献できる体制を整えていきたい。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）
 - ・教育学.
 - ・教職論.
 - ・教育学概論.
 - ・教育制度論.
 - ・教育実践演習（栄養教諭）.

III 研究記録

1 著書（著者本人下線：著書，発行年，発行所，発行場所）

- ・広川由子：戦後期日本の英語教育とアメリカ新制中学校の外国語科の成立一，2022，大修館書店，東京。

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・広川由子：食育における生徒指導のあり方に関する考察—「貧困」をキーワードとする生徒理解を軸に一，教育史研究室年報，27，21-33，2022.
- ・高田麻美・広川由子：新型コロナ感染拡大下におけるICTを使った授業への取り組みと課題（2）—「一次的支援」の観点から一，教育史研究室年報，27，35-48，2022.

IV 社会貢献・国際交流記録

5 学会，学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
 - ・日本教育学会，教育史学会，日本教育政策学会，日本英語教育史学会，中部教育学会，国際文化表現学会。
- 2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名，役職，活動期間）
 - ・日本教育政策学会，事務局書記，2020年7月～現在に至る。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）

・ 共通教育運営会議. 紀要編集部会.

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）

・ 栄養学科運営会議.

VI 評価（成果および改善すべき事項）

10月に着任して以来、教育活動に重きを置き、学生の立場に立ち難解な説明を避けつつ、わかりやすい講義動画の作成を心掛けた。学生のレポートによく目を通すことにも注力した。結果として、自身の学生理解は進んだと考えている。研究活動においては、ようやく博士論文を出版することができ、科学研究費補助金の申請を行うこともできた。しかしながら、出版には膨大な時間を要してしまい、効率よく勧められたとは言い難く、教育と研究の両立の難しさを感じた半年だった。大学運営においては、多くの学内の先生方に学びつつ、関係を構築することができたと実感している。社会貢献では、日本教育政策学会の事務局書記として、学会の円滑な運営に貢献できたと感じている。

VII 次年度の目標

次年度は、教育活動においては、学生の学校教育及び栄養教諭への興味・関心をこれまで以上に引き出すための工夫を考えたい。教職を取り巻く現状を十分、踏まえたうえで、質の高い栄養教諭の養成を念頭に、講義計画を立案し、適切な講義・指導を行えるよう努力していきたい。研究活動においては、新たな研究手法を見出し、学会での口頭発表・論文投稿を目指したい。大学運営については、担当委員会や部会において、他の先生方と協力しながら尽力したい。社会貢献では、引き続き、所属学会の運営に従事するとともに、千葉県の教育行政や学校に貢献できる体制を整えていきたい。

講師 鈴木 亜夕帆 博士 (学術)

対象期間：2021年4月1日～2022年3月31日まで

I 年度当初の目標

令和3年度は、担当授業において、自ら考え、問題解決する思考が育つような授業展開を目指してさらに改善を行う。継続している研究について成果を出せるように努力する。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・食事設計と調理
- ・調理科学実験
- ・調理実習
- ・専門職間の連携活動論
- ・千葉県の健康づくり
- ・総合演習
- ・卒業研究
- ・栄養統計学
- ・食育論Ⅰ
- ・食育論Ⅱ
- ・食生活教育論
- ・学校栄養教育論
- ・教職実践演習

2) 他大学、大学院等の非常勤講師 (科目名、大学名)

- ・食育論 (東京歯科大学短期大学)
- ・食育実践論 (東京栄養食糧専門学校)

III 研究記録

1 著書 (著者本人下線：著書、発行年、発行所、発行場所)

- ・渡邊智子、鈴木亜夕帆：高校生食育リーフレット，2021年，千葉県・千葉県教育委員会。

3 発表 (発表者：発表タイトル、主催学会 (学会名称)、開催日、場所等、本人下線)

- ・渡邊智子，梶谷節子，柳沢幸江，今井悦子，石井克枝，大竹由美，中路和子，鈴木亜夕帆：千葉県の家庭料理 行事食の特徴 ― 行事食にみる食文化の特徴 ―，日本調理科学会2021年度大会，9月7-8日，実践女子大学
- ・石橋莉歩，木谷有希，小藤田真緒，鈴木亜夕帆，相沢理恵：栄養教諭課程の学びを活かした食育情報誌の記事の作成，千葉県学校保健学会第24回大会，12月4日，オンライン

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等（活動名称、活動期間、場所等）

1) 千葉県内

- ・千葉県食育&消費者教育情報誌『おいしくタベル たのしくマナブ』Vol.7 作成協力学生指導

3 審議会、委員会、国家試験委員等の実績（活動団体名称、委員名称、活動期間）

- ・文部科学省科学技術・学術審議会、食品成分委員会及び作業部会専門委員、
- ・木更津市食育推進協議会 委員、

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・栄養改善学会、調理科学会、千葉学校保健学会、

2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

- ・千葉県学校保健学会 監事 2021年4月～現在、
- ・千葉県学校保健学会第24回大会事務局長 2021年4月～2022年3月

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催、団体名称、講演テーマ等、対象、開催日、時場所）

- ・株式会社LEOC（給食受託会社）プロフェッショナル育成を目的とした社内研修制度「LEOC大学院」における栄養学部 講師、社内管理栄養士対象、2021年5月8日、9月4日、10月2日、11月27日、12月18日、2022年1月15日、オンライン、

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・入試実施委員

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動では、新型コロナウイルス感染症対策のための授業対応として前年度からの修正など種々の工夫、オンラインであっても「自ら考える」授業展開の工夫を行った。研究活動では、一定の成果があったが、予定した内容は達成できなかった。

VII 次年度の目標

担当授業において、自ら考え、問題解決する思考が育つような授業展開を目指して、学生に合わせてさらに改善を行う。継続している研究について成果を出せるように努力する。

講師 海老原 泰代 博士（生活環境学）

対象期間：2021年4月1日～2022年3月31日まで

I 年度当初の目標

令和3年度は、特に感染症対策等の安全に配慮して大学での充実した学びを提供したい。さらに遠隔授業の教育効果の向上を目指して授業方法を検討していきたい。研究面においては、外部資金へ応募するとともに、引き続き子どもたちからの生活習慣病予防等の健康課題について千葉県内外で取り組む。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・専門職間の連携活動論.
- ・管理栄養士導入教育.
- ・栄養教育論Ⅰ.
- ・栄養教育論Ⅱ.
- ・栄養教育手法論.
- ・栄養教育論実習.
- ・栄養教諭教育実習 事前・事後指導.
- ・栄養教諭教育実習.
- ・栄養統計学.
- ・総合演習.
- ・卒業研究.

2) 他大学，大学院等の非常勤講師（科目名，大学名）

- ・栄養学，千葉市青葉看護専門学校.

III 研究記録

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・海老原泰代，加藤理津子：児童保護者と教員におけるがん予防教育の現状と課題，第9回日本食育学会学術大会，令和3年6月12～13日，東京農業大学（誌上開催に変更）.
- ・海老原泰代，加藤理津子：がん予防教育プログラム開発に向けた学校教職員のがんおよび食の知識に関する現状と課題，第68回日本栄養改善学会学術総会，令和3年10月1～2日，Webおよび誌上開催.
- ・遠藤歩，海老原泰代：女子高校生の瘦身願望と，食生活に関する知識の定着状況と食行動との関連，第24回千葉県学校保健学会年次大会，2021年12月4日，オンライン.

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・2021年度学長裁量研究費 「栄養学科卒業生に対するリカレント教育のニーズ調査と実施に向けた検討」研究分担者.
- ・公益社団法人 米穀安定供給確保支援機構，令和3年度ごはんの適量を学ぶ「3・1・2弁当箱法」体験セミナー事業，事業主担当者.

IV 社会貢献・国際交流記録

3 審議会、委員会、国家試験委員等の実績（活動団体名称、委員名称、活動期間）

- ・第68回日本栄養改善学会学術総会実行委員会、総務委員会、副委員長、2020年10月1日～2021年11月30日まで。

4 職能団体委員等（職能団体名称、委員名称、活動期間）

- ・千葉県栄養士会、研究教育部会役員、2016年4月1日～2022年3月31日まで。

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本公衆衛生学会、日本健康教育学会、日本臨床栄養協会、日本肥満学会、NPO法人西東京臨床糖尿病研究会、千葉県学校保健学会、日本栄養改善学会、日本食育学会。
- ・日本栄養士会、千葉県栄養士会。

2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

- ・千葉県学校保健学会、評議員、2017年4月1日～現在に至る。
- ・日本栄養改善学会、評議員、2018年11月1日～現在に至る。

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催 団体名称、講演テーマ等、対象、開催日、時場所）

- ・2021年度千葉県栄養士会 研究教育部会研修会 「遠隔授業の工夫」 2021年12月19日 オンライン。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・広報委員会、図書委員会、栄養教諭教職課程運営委員会。

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・栄養学科運営会議。

3 対外広報活動＜新聞・ホームページでの活動・TV出演、ラジオ出演等＞

- ・令和3年度第2学年大学模擬授業 「持続可能で健康的な食生活をどう実践するか」2021年11月11日 匝瑳高校。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

令和3年度は、特に感染症対策等の安全に配慮して中で、大学の授業を学外実習含めて安全に配慮しながら実施できた。研究面においては、外部資金へ応募するとともに、インターネットアンケートなど新しいツールを使用してコロナ禍でも工夫し、子どもたちからの生活習慣病予防等の健康課題について千葉県内外で取り組むことができた。

VII 次年度の目標

令和4年度は、新しい生活様式の中で安全に配慮して大学での充実した学びを提供したい。また学外実習等が円滑にできるよう関係各所と協力して進める。研究面においては、引き続き子どもたちからの生活習慣病予防等の健康課題について千葉県内外で取り組む。

助教 岡田 亜紀子 修士（学術）

対象期間：2021年4月1日～2022年3月31日まで

I 年度当初の目標

令和4年度は、特に県民の方々、学生への貢献はもちろんのこと、博士号取得のための原著論文を1報以上作成できるように、時間管理、業務の効率化に努める。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・公衆栄養学実習.
- ・公衆栄養臨地実習.
- ・事前指導.
- ・事後指導.
- ・栄養教育論実習.
- ・栄養教諭教育実習.
- ・栄養教諭教育実習 事前・事後指導.
- ・食品加工学実習.
- ・生理学実験.
- ・専門職間の連携活動論.

2) 他大学、大学院等の非常勤講師（科目名、大学名）

- ・臨床栄養代謝学Ⅱ（神奈川県立衛生看護専門学校）.

III 研究記録

1 著書（著者本人下線：著書，発行年，発行所，発行場所）

- ・岡田亜紀子：食と健康，4月号，p. 45, 62-63, 2021，（公社）日本食品衛生協会，東京
- ・岡田亜紀子：食と健康，6月号，p. 43, 70-71, 2021，（公社）日本食品衛生協会，東京
- ・岡田亜紀子：食と健康，8月号，p. 47, 72-73, 2021，（公社）日本食品衛生協会，東京
- ・岡田亜紀子：食と健康，10月号，p. 43, 68-69, 2021，（公社）日本食品衛生協会，東京
- ・岡田亜紀子：食と健康，12月号，p. 43, 68-69, 2021，（公社）日本食品衛生協会，東京
- ・岡田亜紀子：食と健康，2月号，p. 35, 60-61, 2022，（公社）日本食品衛生協会，東京

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・海老原泰代，岡田亜紀子：管理栄養士が行う糖尿病発症予防のための栄養教育について～質的統合法による検討～，日本栄養士会雑誌，投稿中（査読あり）

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・学内共同研究（学長裁量），栄養学科卒業生に対するリカレント教育のニーズ調査と実施に向けた検討，分担研究者。

IV 社会貢献・国際交流記録

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本栄養改善学会、クリニカルパス学会、日本臨床栄養協会、千葉県学校保健学会、日本在宅栄養管理学会、
- ・公衆衛生学会、日本在宅医療学会、・日本栄養士会、千葉県栄養士会。

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催 団体名称、講演テーマ等、対象、開催日、時場所）

- ・成田市生涯大学院教養講座、成田市教育委員会生涯学習課、楽しむ食生活のすすめ、2022年1月13日・31日、成田市生涯大学校。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・栄養学科1年生副担任。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動では、COVID-19 感染症予防対策を念頭に置き、学科教員と連携して学生対応をおこなった。遠隔授業のための新たな教育ツールとして本学に導入された Microsoft Teams を中心としたアプリケーションソフトのさらなる技術の習得に努め、学生の学修成果が平時に近づくよう、科目責任者と学生を支援することに努めた。

研究活動では、博士号取得のための研究が進まなかったため、次年度の目標としたい。大学の運営、社会貢献活動では、休暇取得と退職に伴う助教欠員によって発生した業務に携わる一方で、県職員の一員として保健所の応援にも赴いた。

VII 次年度の目標

県民の方々、学生への貢献はもちろんのこと、博士号取得のための原著論文を1報以上作成できるよう、時間管理、業務の効率化に努める。

助教 峰村 貴央 博士（食品栄養学）

対象期間：2021年4月1日～2022年3月31日まで

I 年度当初の目標

令和3年度は、研究活動はこれまで以上に取組み、成果を出していきたい。教育活動・社会貢献は自分のできる範囲で精力的に取り組んでいく。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）
 - ・調理科学実験.
 - ・食事設計と調理実習.
 - ・食品化学実験.
 - ・食品学実験.
 - ・調理実習.
 - ・専門職間の連携活動論.
- 2) 他大学、大学院等の非常勤講師（科目名、大学名）
 - ・栄養学、千葉市立青葉看護専門学校.
 - ・食品利用安全学研究室、東京農業大学特別研究員.

III 研究記録

1 著書（著者本人下線：著書，発行年，発行所，発行場所）

- ・峰村貴央，三舟隆之，馬場基，他：古代の食を再現する-みえてきた食事と生活習慣病-，2021年6月，吉川弘文館，東京.

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・峰村貴央，鈴木亜夕帆，渡邊智子：給食における献立計画時と提供時の食塩量の相違に関する研究，千葉学校保健研究，11(1)，21-28，2021.
- ・Takao Minemura，Shingo Matsumori，Sayuri Akuzawa：Comparison of the characteristics of cooked rice and pasting properties of the Koshihikari, Hinohikari, and Akitakomachi rice cultivars, J. Jan Health Medicine Assoc, 30(3)，372-382，2021.
- ・峰村貴央，鈴木亜夕帆，阿久澤さゆり：緑豆澱粉の理化学的特性に関する研究，千葉県立保健医療大学紀要，13(1)，71，2021.

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・阿久澤さゆり，佐々木裕太，峰村貴央，大坪恭子，西山雪乃，花城勲：植物種の異なる澱粉の理化学的性質と粘弾性に関する研究，日本食品科学工学会 第68回大会，2021年8月26-28日，オンライン開催.
- ・峰村貴央，生魚薫，鈴木礼子，齋藤さな恵，三舟隆之：東大寺写経生の海藻摂取と疾病に関する研究 ～マグネシウムの摂取量～，第68回 日本栄養改善学会学術総会，2021年10月1-2日，オンラインおよび誌上開催.

- 5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）
- ・科学研究費補助金 基盤研究 A，東ユーラシア東辺における古代食の多角的視点による解明とその栄養価からみた疾病，研究分担者。

IV 社会貢献・国際交流記録

5 学会，学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本食品科学工学会，日本調理科学会，日本応用糖質科学会，日本栄養改善学会，日本健康医学会，千葉県学校保健学会，千葉県栄養士会。

V 管理・運営記録

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・4年生副担任，国家試験対策委員会。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

年度当初の目標の通り，共同研究課題の論文化および科研費関連の著書の発行を実現することができた。一方で，新規研究課題への着手が遅くなり，実験が停滞傾向になった。来年度は，外部資金獲得へ向けて実験を完遂していく。社会貢献活動は活動の見通しが立てられず，思うような活動ができなかった。

VII 次年度の目標

次年度は，先の見通を立てて教育活動および社会貢献が実践できるように活動を行う。また，研究活動は外部資金獲得へ向けて実験を完遂していく。

職位 生魚 薫 修士（家政学）

対象期間：2021年4月1日～2022年3月31日まで

I 年度当初の目標

令和3年度は、臨床栄養、応用栄養、給食経営管理分野の担当教員とともに教育活動に励み、自身の研究についても遂行していく。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・臨床栄養学実習.
- ・応用栄養学実習.
- ・給食経営管理実習.
- ・栄養ケアマネジメント論実習.
- ・事前・事後指導.
- ・臨床栄養臨地実習.
- ・給食経営管理臨地実習.

III 研究記録

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等．本人下線）

- ・生魚薫, 鈴木葉子, 杉原茂孝：幼児の体格評価の類型による栄養・食事指導の検討，第68回日本小児保健協会学術集会，6月18～20日，Web開催
- ・谷内洋子，山田貴穂，生魚薫，曾根博仁：妊娠中の母体血糖状態と低出生体重児出産との関連の検討，第37回日本糖尿病・妊娠学会学術集会，11月27～28日，グランフロント大阪・Web開催
- ・谷内洋子，藤原和哉，堀川千嘉，生魚薫，山本正彦，石澤正博，山田貴穂，児玉暁，曾根博仁：妊娠中期における母体のインスリン値と低出生体重児出産との関連の検討，第32回日本疫学会学術総会，1月26～28日，Web開催

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等（活動名称．活動期間．場所等）

2) 千葉県外

- ・鈴木糖尿病内科クリニック栄養指導（2019年11月～継続中）

2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等．活動期間．場所等）

- ・市川保健所派応援（2021年8月8日）
- ・松戸保健所派応援（2021年8月15日）

5 学会，学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本臨床栄養代謝学会，日本栄養改善学会，日本臨床栄養学会，日本病態栄養学会，日本成長学会，日本肥満学会，日本小児保健協会，日本小児科学会，日本糖尿病・妊娠学会
- ・日本栄養士会，千葉県栄養士会，

V 管理・運営記録

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）

・栄養学科運営委員, 3年生副担任, 栄養学科履行係

3 対外広報活動<新聞・ホームページでの活動・TV出演, ラジオ出演等>

・明聖高校 オンライン入試説明会 (3月23日)

VI 評価（成果および改善すべき事項）

研究活動では, 感染対策を取りながら, 実習が遂行するように努めた. 特に調理における対応について科目に関わる教員とともに授業運営について整備することができた. 研究活動では, データ収集を継続してきたが, 論文化による公表までに至らなかった点において, 次年度改善していきたい.

VII 次年度の目標

引き続き, 教育活動に専念する. 研究活動においては, コロナ禍にてデータ収集が難しかったため, 調査継続しデータ収集を行う. 研究成果報告, 論文化を目指す.

助教 田中 佑季 博士（食品栄養学）

対象期間：2021年4月1日～2022年3月31日まで

I 年度当初の目標

2021年10月の着任のため、教育活動の目標としてまずは前期を含めた授業を一通り経験し、今後の授業環境の整備や、一つ一つの授業の目標達成に貢献したい。また、4年生の副担任を任されているため、国家試験の合格率の向上を目指す。次に、研究活動では、今年度の学内共同研究費が採択されたため、成果を出せるように努める。最後になるが、前年は地域での社会貢献などは前年の着任時期の都合もありできていない。今年度は保健所の応援などで千葉県に貢献できるようにしたい。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・解剖生理学実験.
- ・歯科衛生学科対象の摂食嚥下実習.

2) 他大学、大学院等の非常勤講師（科目名、学校名）

- ・食品学総論（国際学院埼玉短期大学：栄養学科）.
- ・食品学実習（国際学院埼玉短期大学：栄養学科）.
- ・卒業研究ゼミ（国際学院埼玉短期大学：栄養学科）.
- ・キャリア教育（国際学院埼玉短期大学：栄養学科）.
- ・食品の特性（国際学院埼玉短期大学：調理学科）.

III 研究記録

2 学術論文・その他（著者：題名、雑誌名、巻、号、ページ、発行年、本人下線）

- ・田中 佑季, 大和田 浩子, 金谷 由希, 綾部 園子：運動障がいのある男性の骨密度に関与する要因の解析, 日本家政学会誌, 72巻, 12号, p. 789-795, 2021年.

IV 社会貢献・国際交流記録

5 学会、学術団体への貢献

- ##### 1) 所属学会・学術団体
- ・日本家政学会

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・栄養学科2年生副担任

VI 評価（成果および改善すべき事項）

新型コロナウイルスの感染症対策の一環として、体調チェックや消毒、遠隔での学生対応などが必要な年であった。感染症対策のルールやソフトウェアを覚えながらの作業となったが、問題なくこなすことができたと考える。また、大学での管理運営業務として毒劇物の管理簿と廃液処理簿を新しく作成した。

研究は1本の論文を出すことができた。また、次年度に向けて学内共同研究費の申請を行った。現状では学内での教育と研究活動、社会貢献のスタイルを模索している。これを今後の改善点としたい。

VII 次年度の目標

- ・前年度10月に着任したため、前期の授業が滞りなく進むように準備をする。
- ・国家試験と卒業を控える4年生の副担任を任されている。学生が間違いなく卒業できるよう履修チェックや、国家試験の合格率が少しでも上がるように模擬試験や個別相談などで学生に関れるようにする。
- ・広報委員を担当する。今年のオープンキャンパスはコロナ以降初となる対面での実施を予定している。これまで所属していた学校での経験を踏まえ、より良いオープンキャンパスになるように尽力する。
- ・前年度に学内共同研究費の申し込みを行い、採択されている。今後の研究の足掛かりを作り、教育と研究のバランスを確立する。

齒科衛生學科

教授（兼）学科長 麻賀 多美代 博士（工学）

対象期間：2021年4月1日～2022年3月31日まで

I 年度当初の目標

教育においては、遠隔授業教材のさらなる工夫と、COVID-19の影響により中止となる臨床実習を補うための授業を実施し、担当科目における教育内容の充実をはかる。研究については最終年度となる地域包括ケアに関連した研究の成果を発信するよう努める。そして、学科長として学科の円滑な運営に努め、積極的に大学の管理・運営や社会貢献活動に取り組む。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・ 歯科衛生学概論.
- ・ 歯科衛生基礎演習.
- ・ 発達歯科衛生学Ⅱ（成人・高齢者）.
- ・ 顎口腔機能リハビリテーション論.
- ・ 顎口腔機能リハビリテーション演習.
- ・ 在宅歯科衛生管理論Ⅰ.
- ・ 歯科診療室基礎実習.
- ・ 総合演習.
- ・ 歯科診療室総合実習.
- ・ 継続・個別支援実習.
- ・ 発達歯科衛生実習Ⅱ（成人・高齢者）.
- ・ 看護技術論Ⅱ（生活援助技術）.
- ・ 連携活動論.
- ・ 卒業研究.

III 研究記録

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・ 麻賀多美代，麻生智子，鈴鹿祐子：筆記具の書字動作のトレーニングがスケーラー操作に及ぼす影響，全国大学歯科衛生士教育協議会雑誌，11，17-23，2022.
- ・ 大川由一，栗原涼子，山中紗都，河野 舞，鈴鹿祐子，荒川 真，麻生智子，石川裕子，酒巻裕之，麻賀多美代：地理情報システムを利用した歯科診療所の診療圏に関する事例分析，全国大学歯科衛生士教育協議会雑誌，11，25-29，2022. 3.
- ・ 佐藤紀子，細山田康恵，今井宏美，大内美穂子，岡村太郎，麻賀多美代：看護医療系の単科公立大学における地域貢献機能の特徴，千葉県立保健医療大学紀要，13，1，51-57，2022.
- ・ 佐藤紀子，石井邦子，細山田康恵，麻賀多美代，岡村太郎，龍野一郎，令和3年度保健医療大学取組報告会－保健・医療・福祉の連携拠点として－，千葉県立保健医療大学紀要，13，1，76，2022.

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・ 酒巻裕之，麻賀多美代，荒川 真，麻生智子，鈴鹿祐子：コーチングを活用した歯科保健指導のリカレント教育に関する検討，第12回日本歯科衛生教育学会総会・学術大会，2021年12月17-24日，Web開催.

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・科学研究費補助金基盤研究（C），地域高齢者におけるオーラルフレイルの予防に向けた健康増進プログラムの実践と評価－誤嚥による肺炎予防のために－，研究代表者。
- ・学長裁量研究，千葉県立保健医療大学歯科診療室を活用した健康教室（健康増進プログラム）の実践，研究代表者。
- ・学長裁量研究，介護予防のための生活習慣継続をめざした多職種連携プログラム（新・ほい大健康プログラム）の評価，研究協力者。
- ・学長裁量研究，歯科衛生学科におけるリカレント教育の要望調査と実施，研究協力者。
- ・学長裁量研究，本学におけるシンクタンク機能と地域貢献活動のあり方の明確化，研究協力者。
- ・学長裁量研究，高齢者歯科医療に関わる歯科衛生士研修会の効果に関する検討，研究協力者。

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等（活動名称，活動期間，場所等）

1) 千葉県内

- ・施設入所高齢者の口腔衛生管理，2021年9月～2022年3月，老人保健施設うらら。
- ・オーラルフレイル予防プログラム，2021年6月～2022年3月，UR さつきが丘団地。

2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等，活動期間，場所等）

- ・継続個別支援・歯科診療補助の実施，2021年4月～2022年3月，千葉県立保健医療大学歯科診療室。

3 審議会，委員会，国家試験委員等の実績（活動団体名称，委員名称，活動期間）

- ・歯科医療振興財団，歯科衛生士試験委員会副委員長，2021年6月～現在に至る。
- ・歯科衛生士試験企画評価委員会委員，2021年7月～現在に至る。
- ・歯科衛生士国家試験出題基準検討委員会委員，2021年8月～2022年3月
- ・千葉県歯科衛生士育成協議会，役員，2021年4月～2022年3月。
- ・歯科衛生学教育モデルコアカリキュラム策定会議，コアメンバー，2020年9月～現在に至る。

5 学会，学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本歯科衛生士会，千葉県歯科衛生士会，日本歯周病学会，日本口腔ケア学会，日本咀嚼学会，日本歯科衛生学会，日本歯科衛生教育学会，日本摂食嚥下リハビリテーション学会，日本歯科医学教育学会，日本口腔衛生学会，日本口腔内科学会，日本口腔外科学会，日本公衆衛生学会。

2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名，役職，活動期間）

- ・日本歯科衛生学会幹事，2021年6月～現在に至る。
- ・日本歯科衛生学会編集委員会副委員長，2021年6月～現在に至る。

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称，主催 団体名称，講演テーマ等，対象，開催日，時場所）

- ・日歯認定歯科助手講習会講師，千葉県歯科医師会，高齢者の対応，歯科助手，2021年9月27日，Web開催。
- ・千葉県歯科衛生士会中央支部研修会講師，千葉県歯科衛生士会，歯科衛生士，地域高齢者に対するオーラルフレイル予防のための健康教室の実施について，2021年12月12日，千葉県口腔保健センター。
- ・千葉県介護予防事業従事者研修会講師，千葉県高齢者福祉課，千葉県市町村介護予防従事者，オーラルケアの重要性とオーラルフレイル予防について，2022年2月15日，Web開催。

7 その他

- ・全国大学歯科衛生士教育協議会令和3年度第1回理事会・総会，2021年5月8日，Web開催，東京貸会議室。
- ・全国大学歯科衛生士教育協議会令和3年度第2回理事会・臨時総会，2021年9月5日，Web開催，東京貸会議室。

- ・千葉県立保健医療大学取組報告会. 2021年11月18日. 千葉県庁.
- ・千葉県立保健医療大学取組報告会. 2022年2月24日. 千葉県庁.

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・大学運営会議. 将来構想検討委員会. 人事委員会. 教員再任審査委員会. 教員資格審査委員会. 自己点検・評価委員会. 教授会.

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・歯科衛生学科会議. 歯科診療室会議.
- ・お口の健康守り隊サークル. 顧問.

VI 評価（成果および改善すべき事項）

学科長として、学科教員の協力のもと、学科の円滑な運営ができるよう努めた。教育では、講義科目が COVID-19 の影響で昨年に引き続き遠隔授業となったため、授業動画をさらにブラッシュアップして、自己学習ができる授業教材を作成した。演習、実習については、感染予防に留意し、一人ひとりの状況を踏まえて教育を行うよう努めた。研究では科研費の助成を1年延長して最終年度となったが、COVID-19 の影響により、地域在住高齢者を対象としたオーラルフレイル予防プログラムを継続して実施することが難しかった。今年度は今までの健康プログラムの内容を冊子としてまとめ、歯科診療室を活用した健康教室や介護予防従事者研修会等で配布することができたことは一つの成果である。大学で求められる社会貢献では、歯科診療室を利用される方に対して口腔の健康に貢献することができた。また、歯科衛生士国家試験委員や歯科衛生学会などで歯科衛生士の資質向上につながる活動を行った。

教授 酒巻 裕之 博士（歯学）

対象期間：2021年4月1日～2022年3月31日まで

I 年度当初の目標

令和3年度は、特に教育面では、「新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえた活動指針」をふまえて、学生が予習・復習を行うように、授業形態に応じて開始時にはミニテスト、授業終了時には振り返りならびにポートフォリオの活用を指導しながら授業を進める。臨床実習では、可及的に実習施設における実習ができるように配慮した実習とし、医療や介護を必要とする対象者としての口腔健康管理に関するシミュレーション教育を継続する。大学の管理・運営について、危機管理委員会委員長として、大学の平時の危機管理について、マニュアルの作成等、所掌事項を遂行する。教務委員会は副委員長として、入試改革検討委員会は委員として委員会所掌を遂行する。研究面では、学長裁量研究において、社会貢献に係る歯科衛生士の人材育成として、高齢社の医薬品適正使用に係る歯科衛生士の役割について学ぶ研修を行う。社会貢献について、歯科診療室において、日本口腔外科学会、日本口腔科学会等において認定された資格を活用した歯科診療や千葉市口腔がん検診（個別検診）の充実を図り、地域住民に貢献する。特に新型コロナウイルス感染症対策には最善の努力を講じる。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・口腔病理学.
- ・歯科医療安全論.
- ・顎口腔外科学.
- ・顎口腔機能論.
- ・歯科衛生基礎演習.
- ・発達歯科衛生学 I .
- ・歯科診療室基礎実習.
- ・継続・個別支援実習.
- ・病院実習.
- ・歯科診療室総合実習（4年次）.
- ・歯科診療室総合実習 I（3年次）.
- ・卒業研究.

2) 他大学、大学院等の非常勤講師（科目名、大学名）

- ・口腔・顎顔面領域の疾患-②、口腔外科学（診療の基本-②）、日本大学松戸歯学部 兼任講師.
- ・顎口腔外科学、北原学院千葉歯科衛生専門学校 非常勤講師.

III 研究記録

1 著書（著者本人下線：著書、発行年、発行所、発行場所）

- ・松井恭平、森崎市治郎、白鳥たかみ、船奥律子 編集。共著者 酒巻裕之 他 19名：歯科衛生士のための歯科臨床概論，第2版，2022，医歯薬出版，東京。

2 学術論文・その他（著者：題名、雑誌名、巻、号、ページ、発行年、本人下線）

- ・大川由一、栗原涼子、山中紗都、河野 舞、鈴鹿祐子、荒川 真、麻生智子、石川裕子、酒巻裕之、麻賀多美代：

地理情報システムを利用した歯科診療所の診療機関に関する事例分析, 全国大学歯科衛生士教育協議会雑誌, 11, 25-29, 2022.

3 発表 (発表者: 発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等. 本人下線)

- ・酒巻裕之, 麻賀多美代, 荒川 真, 麻生智子, 鈴鹿祐子: 歯科保健指導にコーチング手法を取り入れるための歯科衛生士研修会の実施と評価, 第12回日本歯科衛生教育学会総会・学術大会, 2021年12月17-24日, Web開催.

5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・科学研究費補助金基盤研究 (C), 地域高齢者におけるオーラルフレイルの予防に向けた健康増進プログラムの実践と評価-誤嚥による肺炎予防のために-, 研究分担者.
- ・学長裁量研究, 高齢社歯科医療に関わる歯科衛生士のリカレント教育プログラムの実践, 研究責任者.

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等 (活動名称. 活動期間. 場所等)

1) 千葉県内

- ・オーラルフレイル予防プログラム, 2018年10月~現在に至る. UR花見川団地・さつきが丘団地.

2 地域への保健医療活動 (診療・技術指導等. 活動期間. 場所等)

- ・歯科診療 2009年4月~現在に至る. 千葉県立保健医療大学歯科診療室.
- ・日本口腔外科学会専門医 (第770号) 1996年10月1日~現在に至る.
- ・日本口腔外科学会指導医 (第664号) 2001年10月1日~現在に至る.
- ・日本糖尿病協会歯科医師登録医 2013年9月1日~現在に至る 糖尿病患者の歯科診療に当たる.
- ・がん患者歯科医療連携登録医 2013年10月3日~現在に至る 2015年2月16日全国に名簿が公表される.
- ・日本歯科放射線学会歯科放射線准認定医 (第783号) 2018年4月1日~現在に至る.
- ・日本口腔内科学会専門医 (第65号) 2019年10月1日~現在に至る.
- ・日本口腔内科学会指導医 (第44号) 2019年10月1日~現在に至る.
- ・ICD協議会インфекションコントロールドクター (ICD) (第MC 0202号) 2020年1月1日~現在に至る.
- ・千葉市口腔がん検診 検診医 2020年6月1日 ~2021年1月15日 検診数52件 千葉県立保健医療大学歯科診療室
- ・千葉県歯科医師会認定口腔がん検診医 (第2018-262号) 2018年3月18日~現在に至る.
- ・総合病院国保旭中央病院 手術指導, 2011年4月1日~現在に至る.

5 学会, 学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・International Association of Oral and Maxillofacial Surgeons. Asian Association of Oral and Maxillofacial Surgeons. 日本口腔外科学会. 日本口腔科学会. 日本口腔内科学会. 日本歯科医学教育学会. 日本歯科衛生学会. 日本歯科衛生教育学会. 日本口腔診断学会. 日本臨床口腔病理学会. 日本臨床細胞診学会. 日本有病者歯科医学会. 日本老年歯科医学会. 日本小児歯科学会. 日本大学口腔科学会. 日本看護技術学会. 日本医療安全学会. 日本口腔ケア学会. 日本公衆衛生学会. 日本顎顔面インプラント学会. 日本医学教育学会.

2) 学会, 学術団体への貢献 (学会・学術団体名. 役職. 活動期間)

- ・日本大学口腔科学会. 評議員. 2007年4月1日~現在に至る.
- ・日本口腔科学会. 評議員. 2009年4月1日~現在に至る.
- ・日本口腔内科学会. 評議員. 2009年6月1日~現在に至る.
- ・日本医療安全学会. 代議員. 2014年4月1日~現在に至る. 理事. 2018年3月21日~現在に至る.
- ・日本医療安全学会. 医療安全教育・研修検討部会部会員, 多職種連携部会委員部会員. 2021年4月1日~現在に至る.

- ・日本歯科衛生学会雑誌. 外部査読員. 2013年4月1日～現在に至る.
- ・日本歯科医学教育学会. 評議員. 2019年4月1日～現在に至る.

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・教授会. 教務委員会. 入試改革検討委員会., 研究倫理審査委員会, 危機管理委員会（委員長）.

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・歯科衛生学科会議. 歯科診療室会議. 教務委員会.

VI 評価（成果および改善すべき事項）

令和3年度、特に教育面では、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響が続き、授業は遠隔授業が中心となった。令和2年度に引き続き、講義内容を録音したスライドをストリーミング動画配信し、教科書や配布資料とともに講義内容を伝えるようにした。授業中の学生の反応を確認することが困難であることから、授業内容は90分間で完結するように設定した。授業の開始時には出席と健康状態についてFormsで回答することで記録に残した。同時に前回授業に関する問題を解答する設定をし、前回授業の知識について評価できるようにした。また授業終了時には振り返りについてFormsによる課題を行った。振り返りについて、授業内容に関する問題・正答・問題の解説文の提出、Suskieによる学生の自己省察を深める質問に回答する項目を設け、実際に学生が毎回の授業について具体的に振り返ることができるようにした。前期から学生自身がポートフォリオの作成をし、その評価を総合判定に加味することで、遠隔定期試験の欠点を補うように配慮した。授業の終了時、学生が登校する際に提出を求め確認したところ、試験勉強時にポートフォリオが手元になく困ったとの評価があり、ポートフォリオの確認方法に課題が残った。また、配布資料で重要か所が分からないとのコメントがあった。これについては動画の説明時に重要なところを示しているところで、学生自身が配布資料にマークをするなどを行って、自身のポートフォリオを作成する意図であった。事前の説明で十分に学生に伝わっていなかったと反省した。遠隔授業で学生個々の理解度を確認するのが困難であった。今後、各学生が教員の指示について確認できているか確認しながら行うよう配慮する。臨床実習の教育面について、新型コロナウイルス感染症の感染対策に関して感染コントロールドクターの立場から提案しながら感染対策を実践した。病院実習では、実習指導者と綿密な打合せを行い、各実習施設のご協力のもと、全員が予定通り3週間の実習スケジュールで学ぶことができた。実習施設5施設のうち1施設が新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況から、すべての臨床実習を受け入れないことになり、急遽4施設に学生を配分した。

大学の管理・運営について、令和3年度時から危機管理委員会委員長として、委員会運営を行った。「不審者対応マニュアル」を作成し、FD/SDにて教職員に周知することができた。さらに大学全体で危機管理について共有する必要性が認められ、大学における危機管理の手引きを作成することになり、審議を進めた。これは令和4年度でも継続審議することになった。防災訓練について、実施要領等について承認された。防災訓練実施後のフィードバックで、参加者の意見を得て、現状を把握したうえで、評価し改善点を検討することになり、令和4年度の防災訓練後にアンケートを行うことになった。教務委員会について、副委員長として委員長の補佐を行いながら委員会所掌を遂行した。入試改革検討委員会ならびに研究倫理審査委員会には委員会委員として参加し、委員会所掌を遂行した。

研究面では、学長裁量研究において、社会貢献に係る歯科衛生士の人材育成を目的に、第3回千葉県立保健医療大学歯科衛生士研修会と企画運営した。高齢者歯科診療における高齢者への医薬品適正使用について学ぶ研究会とした。4回のWeb研修会を行い、講師は歯科医師、管理薬剤師、高齢者歯科医療に特化した病院歯科勤務歯科衛生士、訪問医療に携わっている歯科衛生士に依頼した。各回23～26名の歯科衛生士の参加のもと実施された。アンケートの結果、概ね公表観お結果を得、継続して研修会の開催の希望があった。

社会貢献について、歯科診療室において、日本口腔外科学会、日本口腔科学会等において認定された資格を活用した歯科診療や千葉市口腔がん検診（個別検診）の検診医として、検診期間中に61名の検診を行った。また講義や会議等以外の歯科診療時間に住民の歯科治療を行うことで地域住民に貢献した。引き続き、新型コロナウイルス感染症対策には最善の努力を講じた。

VII 次年度の目標

令和4年度は、特に教育面では、新型コロナウイルス感染症対策には十分留意しながら対面授業を行う。学生の様子から解説の工夫をして講義を進める。各授業ではFormsaを活用し、出席・体調確認を行うとともに、遠隔授業時と同様に振り返りFormsに解答するよう進める。また個人担当科目ではポートフォリオ作成を行う。臨床実習では、可及的に実習施設における実習ができるように配慮した実習とし、医療や介護を必要とする対象者とした口腔健康管理に関するシミュレーション教育を継続する。

大学の管理・運営について、危機管理委員会委員長として委員会の運営を行い、本学の危機管理の手引きを作成し、周知目的のFD/SDを開催する。防災訓練の実施要領について審議し、事後アンケートを行い、今後の防災訓練について検討する。教務委員会は副委員長として、入試改革検討委員会ならびに研究倫理審査委員会は委員として委員会所掌を遂行する。

研究面では、学長裁量研究において、社会貢献に係る歯科衛生士の人材育成として、第4回千葉県立保健医療大学歯科衛生士研修会を開催する。テーマは歯科診療補助における口腔粘膜の観察法や口腔粘膜疾患について学ぶ研修会を計画する。

社会貢献について、歯科診療室において、日本口腔外科学会、日本口腔科学会等において認定された資格を活用した歯科診療や千葉市口腔がん検診（個別検診）の充実を図り、地域住民に貢献する。特に医療安全について、新型コロナウイルス感染症対策には最善の努力を講じる。

教授 大川 由一 歯学博士

対象期間：2021年4月1日～2022年3月31日まで

I 年度当初の目標

遠隔授業をより充実させるともに対面授業を効果的に組み合わせて、学生の主体的学修を支援する。研究や社会貢献については、活動が制限される中でより多くの実績が残せるよう工夫しながら取り組む。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・口腔衛生学.
- ・地域歯科衛生学.
- ・衛生行政.
- ・地域歯科衛生演習.
- ・歯科衛生統計演習.
- ・歯科診療室基礎実習.
- ・歯科診療所実習.
- ・発達歯科衛生実習Ⅰ（小児）.
- ・地域歯科衛生実習.
- ・歯科診療室総合実習Ⅰ.
- ・歯科診療室総合実習Ⅱ.
- ・卒業研究.

2) 他大学、大学院等の非常勤講師（科目名、大学名）

- ・歯科医療管理学、東京歯科大学.
- ・衛生学公衆衛生学、アポロ歯科衛生士専門学校.

III 研究記録

1 著書（著者本人下線：著書、発行年、発行所、発行場所）

- ・大川由一：歯科衛生研究の進め方論文の書き方第3版，2021年，医歯薬出版，東京.
- ・大川由一：公衆衛生学 第2版，2021年，光生館，東京.

2 学術論文・その他（著者：題名、雑誌名、巻、号、ページ、発行年、本人下線）

- ・Oozawa K, Okawa Y, Hirata S, Tashiro M, Taniguchi K: Professional dental care provision systems for persons with disabilities by prefecture in Japan, Community Dent Health. 38, 3, 182-186, 2021.
- ・大川由一, 栗原涼子, 山中紗都, 河野 舞, 鈴鹿祐子, 荒川 真, 麻生智子, 石川裕子, 酒巻裕之, 麻賀多美代: 地理情報システムを利用した歯科診療所の診療圏に関する事例分析, 全国大学歯科衛生士教育協議会雑誌, 11, 25-29, 2022.

3 発表（発表者：発表タイトル、主催学会（学会名称）、開催日、場所等、本人下線）

- ・鈴鹿祐子, 大川由一, 葭原明弘: 歯科衛生士養成校学生の臨床実習におけるストレス反応の実態と関連要因について, 令和3年度新潟歯学会第1回例会, 2021年7月, Web 開催.

- ・大澤航介, 大川由一, 障害者歯科医療提供体制は, 福祉サービス提供体制よりも偏在している, 第24回日本歯科医学会学術大会, 2020年9月, Web開催.

5 研究資金獲得状況(外部資金・学内共同・学長裁量)(資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・学長裁量研究, 介護予防のための生活習慣継続をめざした多職種連携プログラムの評価, 研究代表者.
- ・学長裁量研究, 本学歯科診療室を活用した健康増進プログラムの実践, 研究分担者.
- ・学長裁量研究, C大学歯科衛生学科卒業生の現状とリカレント教育の要望, 研究分担者.

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等(活動名称, 活動期間, 場所等)

1) 千葉県内

- ・オーラルフレイル予防プログラム, 2021年6月~2022年3月, URさつきが丘団地.
- ・新しい大健康プログラム, 2021年11月, UR真砂第一団地.

2 地域への保健医療活動(診療・技術指導等, 活動期間, 場所等)

- ・歯科診療, 2009年4月~現在に至る, 千葉県立保健医療大学歯科診療室.

4 職能団体委員等(職能団体名称, 委員名称, 活動期間)

- ・(一社)全国歯科衛生士教育協議会, 理事, 2014年4月1日~現在に至る.
- ・(一社)全国歯科衛生士教育協議会, 教育委員会理事, 2014年4月1日~現在に至る.
- ・(一社)全国歯科衛生士教育協議会, 教育問題検討委員会委員, 2014年4月1日~現在に至る.
- ・(一社)全国歯科衛生士教育協議会, 認定委員会委員, 2014年4月1日~現在に至る.

5 学会, 学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本口腔衛生学会, 日本公衆衛生学会, 国際歯科研究学会(IADR), 国際歯科研究学会日本部会(JADR), 日本老年歯科医学会, 日本歯科医療管理学会, 日本歯科医学教育学会, 社会歯科学会, 日本歯科衛生学会, 日本歯科衛生教育学会, 日本障害者歯科学会, 東京歯科大学学会.

2) 学会, 学術団体への貢献(学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

- ・日本歯科衛生学会, 顧問, 2015年7月1日~現在に至る.
- ・日本歯科衛生教育学会, 理事, 2021年4月1日~2022年3月31日.
- ・日本歯科衛生教育学会, 利益相反委員会査読委員, 2019年4月1日~2022年3月31日.
- ・日本歯科衛生教育学会, 評議員, 2021年4月1日~現在に至る.
- ・日本歯科衛生教育学会, 編集委員会査読委員, 2013年4月1日~現在に至る.
- ・日本口腔衛生学会, 歯科衛生士委員会委員, 2017年5月31日~現在に至る.
- ・日本歯科衛生学会, 顧問, 2015年7月1日~2022年3月31日.

6 講演会(公開講座を含む)/研修会の講師・研究指導等(会名称, 主催 団体名称, 講演テーマ等, 対象, 開催日, 時場所)

- ・2021年度東京歯科大学大学院講義, 臨床・基礎研究に必要な統計解析の基本について, 東京歯科大学大学院生, 2021年9月16-17日, 東京歯科大学.

V 管理・運営記録

1 全学委員会(委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・大学運営会議, 教授会, 自己点検・評価委員会, 将来構想検討委員会, 教員再任審査委員会, 人事委員会, キャン

パス・ハラスメント防止対策委員会. 教員資格審査委員会(歯科・准教授)2021.4.28～. 教員資格審査委員会(理学・教授)2021.6.2～. 教員資格審査委員会(作業・准教授)2021.6.25～. 教員資格審査委員会(理学・教授)2021.9.27～. 教員資格審査委員会(歯科・准教授)2021.6.30～. 教員資格審査委員会(歯科・教授)2020.3.2～.

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・歯科診療室長（2015年4月1日～現在に至る）. 第1学年担任.

VI 評価（成果および改善すべき事項）

歯科衛生統計演習では無料の統計解析ソフトを活用し、遠隔授業においても対面授業と同等の充実した演習を実施することができた。オンデマンド授業については学生の積極的な参加と高い評価が得られた。研究活動においては、学内外の研究者と共同研究に取り組み、その成果を学術雑誌で発表した。

VII 次年度の目標

2022年度は原則対面授業となるため学生と直接向き合い自己主導型学習を支援する。研究活動では学内外の研究者と共同研究に取り組み、その成果を発表する。社会貢献については介護予防のための生活習慣継続をめざした多職種連携プログラム（ほい大プログラム）等において実績が残せるよう工夫しながら取り組む。学内の管理運営では学内の諸課題や大学認証評価受審等に対して適切に対応する。

教授 島田 美恵子 博士 (体育学)

対象期間：2021年4月1日～2022年3月31日まで

I 年度当初の目標

2021年度は、共通教育運営会議長、学生委員会委員長、進路支援委員会委員長始め、13の委員会を担った。

- ①科学研究費「疾患活動性が低いリウマチ患者への機器を活用した自己管理における意思決定支援の手法の開発」について、論文としてまとめる。
- ②共通教育運営会議で検討すべき課題を整理し、学内での共通理解を踏る。
- ③令和3年度より担う委員会活動を把握し、令和2年度からの申し送り事項について改善を踏る。
- ④過去に取得したフィールド調査をはじめとしたデータをまとめ、論文として発表する。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績 (科目名)

- ・体験ゼミナール。
- ・千葉県の健康づくり。
- ・前・後期 健康スポーツ科学。
- ・前・後期 生涯身体運動科学。
- ・運動生理学総論。
- ・健康と運動。
- ・生理学実験。
- ・卒業研究。

III 研究記録

2 学術論文・その他 (著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線)

- ・Yoshiaki Nomura, Erika Kakuta, Ayako Okada, Ryoko Otsuka, Mieko Shimada, Yasuko Tomizawa, Chieko Taguchi, Kazumune Arikawa, Hideki Daikoku, Tamotsu Sato, Nobuhiro Hanada. Oral Microbiome in Four Female Centenarians Reprinted from: Appl. Sci. 2020, 10, 5312, doi:10.3390/app10155312.

3 発表 (発表者：発表タイトル，主催学会 (学会名称)，開催日，場所等，本人下線)

- ・Mieko Shimada, Makoto Ayabe, Naofumi Yamamoto, Takuro Tobina, Hiroshi Nagayama, Kaname Nohno, Nobuko Hongu. Social capital and health status: the role of physical function in community-dwelling elderly. American College of Sports Medicine Annual Meeting, May 2021.
- ・島田美恵子, 岡村太郎, 松尾真輔, 成田悠哉, 江戸優裕. 緊急事態宣言下における高齢者の日常身体活動量の推移. 第76回日本体力医学会, 2021年9月17-30日, Web開催.
- ・島田美恵子, 岡村太郎, 河野舞, 荒川真, 金子潤. 地域健康体操教室参加の高齢者における緊急事態宣言が身体活動量と健康状態に及ぼした影響について, 第60回千葉県公衆衛生学会, 2022年2月9-23日, Web開催.

5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者)

- ・科学研究費補助金基盤研究 (C), 疾患活動性が低いリウマチ患者への機器を活用した自己管理における意思決定支援の手法, 研究代表者.

- ・学内共同研究，地域在住高齢者におけるロコモティブシンドロームに関する実態調査と予防活動に向けたパイロットスタディ，研究分担者。
- ・学内共同研究，集合住宅に在住する高齢者の社会的フレイルと要介護リスクの関連-次年度介入のためのニーズ調査-，研究分担者。
- ・新潟大学による調査，口腔と全身の健康状態に関する93歳調査，研究分担者。

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等（活動名称，活動期間，場所等）

2) 千葉県外

- ・東京パラリンピックフィールドキャスト，2021年8～9月，計7日間，東京。
- ・神奈川県横須賀市浦上台北町内会，定期清掃活動参加，年3回。

2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等，活動期間，場所等）

- ・体力測定と運動指導，2021年5月～2021年2月（計7回）流山市南部地域包括支援センター。
- ・幕張ファミールハイツ体操教室，2021年11～12月（計3回）。

5 学会，学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本体力医学会，日本体育学会，日本測定評価学会，日本バイオメカニクス学会，日本栄養改善学会，日本栄養・食糧学会，日本口腔衛生学会，日本公衆衛生学会，大学体育連合，日本疫学会，American College of Sports Medicine。

2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名，役職，活動期間）

- ・全国大学歯科衛生士教育協議会，教育・研究委員会。

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称，主催，団体名称，講演テーマ等，対象，開催日，場所）

- ・ライフプラン講習会，地方職員共済組合千葉県支部「生涯にわたる貯筋計画」，千葉県職員，12月23日，プラザなのはな。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・大学運営会議，教授会，共通教育運営会議（会議長），学生委員会（委員長），進路支援委員会（委員長），教務委員会，自己点検・評価委員会，将来構想委員会，危機管理委員会，キャンパスハラスメント委員会，人事委員会，FD・SD委員会，倫理審査委員会動物部会，その他，資格審査委員会。

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・歯科衛生学科会議，歯科衛生学科担当として資格審査委員会委員。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

- ①科学研究費による課題「疾患活動性が低いリウマチ患者への機器を活用した自己管理における意思決定支援の手法の開発」は，10名の対象者を得て，郵送とYouTubeで講座を開講している。国際栄養学会議への演題登録始め，取得したデータをまとめ，発表の準備段階に入った。また，当研究について，学内に分担研究者を得ることができた。
- ②共通教育運営会議は，4月～12月の間，後任人事選定に尽力した。共通教育運営会議内で，後任担当科目の選定について，多くの時間を費やし，一定の共通理解を得た。
- ③後援会総会のWEB開催，大学祭のWEB開催と，コロナ感染症による活動自粛を経て，2年目に実施できた。

- ④論文投稿数や外部資金獲得のための研究助成申請が、今年度は例年に比してかなり少ない。優先順位の選定や時間調整に工夫が必要である。

VII 次年度の目標

- ①科学研究費「疾患活動性が低いリウマチ患者への機器を活用した自己管理における意思決定支援の手法の開発」について、論文としてまとめる。
- ②共通教育運営会議で検討すべき課題を整理し、カリキュラムの見直しについて資料を得る。
- ③令和3年度より担った委員会活動を把握し、検討すべき課題を明らかにし、改善を諮る。
- ④過去に取得したデータをまとめ、論文として発表する。長期縦断的に協力いただいているフィールドを、できれば後進に譲り、継承していただけるようにしたい。

教授 石川 裕子 博士（歯学）

対象期間：2021年4月1日～2022年3月31日まで

I 年度当初の目標

学科内教員と授業内容や評価等を再考し、授業・実習科目内容を改善する。また、学科内教員と研究に繋がる活動を行い、学会発表および論文投稿へと進める。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・専門職間の連携活動論.
- ・歯科衛生体験演習Ⅰ.
- ・歯科衛生アセスメント論.
- ・歯科保健指導・健康教育論.
- ・歯科保健指導演習Ⅰ.
- ・歯科保健指導演習Ⅱ.
- ・歯科診療室基礎実習.
- ・継続個別支援実習Ⅰ.
- ・継続個別支援実習Ⅱ.
- ・発達歯科衛生実習Ⅰ（小児）.
- ・歯科診療室総合実習Ⅰ.
- ・歯科診療室総合実習Ⅱ.
- ・病院実習.
- ・卒業研究.

III 研究記録

2 学術論文・その他（著者：題名、雑誌名、巻、号、ページ、発行年、本人下線）

- ・Ishikawa Y, Ida-Yonemochi H, Saito K, Nakatomi H, Ohshima H: The Sonic Hedgehog-Patched-Gli signaling pathway maintains dental epithelial and pulp stem/progenitor cells and regulates the function of odontoblasts. *Front Dent Med*, 2, 651334, 2021.
- ・石川裕子, 高阪利美, 畠中能子, 合場千佳子: 歯科衛生士教員による歯科衛生研究に関する実態と要望, *日本歯科衛生教育学会雑誌*, 12, 2, 101-108, 2021.
- ・大川由一, 栗原涼子, 山中紗都, 河野 舞, 鈴鹿祐子, 荒川 真, 麻生智子, 石川裕子, 酒巻裕之, 麻賀多美代: 地理情報システムを利用した歯科診療所の診療圏に関する事例分析, *全国大学歯科衛生士教育協議会雑誌* 11, 25-29, 2022.

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名、研究テーマ、研究代表者／研究分担者）

- ・学長裁量研究, 歯科衛生学科におけるリカレント教育の要望調査と実施, 研究代表者.
- ・学長裁量研究, 高齢者歯科医療に関わる歯科衛生士のリカレント教育プログラムの実施, 研究分担者.

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等（活動名称、活動期間、場所等）

1) 千葉県内

- ・ 歯科診療室健康教室. 2021年11月27日. 千葉県立保健医療大学歯科診療室.

2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等、活動期間、場所等）

- ・ 継続個別支援・歯科診療補助の実施. 2018年9月～現在に至る. 千葉県立保健医療大学歯科診療室.

4 職能団体委員等（職能団体名称、委員名称、活動期間）

- ・ (一社) 全国歯科衛生士教育協議会. 教育委員. 2009年～2021年5月.
- ・ (一社) 全国歯科衛生士教育協議会. 理事. 2021年6月～現在に至る.
- ・ (一社) 全国歯科衛生士教育協議会. 歯科衛生学教育モデル・コア・カリキュラム検討委員会. 2021年9月～2022年3月
- ・ 全国大学歯科衛生士教育協議会. 教育・研究委員. 2021年6月～現在に至る.

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・ 日本歯科衛生学会. 日本歯科衛生教育学会. 日本歯科基礎医学会. 日本歯科医学教育学会.

2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

- ・ 日本歯科衛生教育学会. 副理事長. 2016年～2021年.
- ・ 日本歯科衛生教育学会. 常任理事・理事. 2016年～現在に至る.
- ・ 日本歯科衛生教育学会. 評議員. 2013年～現在に至る.

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・ 教授会. 教員資格審査委員会. 国際交流委員会. 入試実施委員会. 学術推進委員会. 相談員. 新型コロナワクチン接種のためのプロジェクトチーム.

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・ 歯科衛生学科会議. 歯科診療室会議. 歯科衛生学科2年生チューター.

VI 評価（成果および改善すべき事項）

授業及び実習については、学科内の教員と協力し、授業・実習内容等を改善することができた。研究については、科研課題および歯科衛生士教育研究とともに、これまでの研究成果を論文として発表し、学科内教員と協力して卒業研修を希望する卒業生（9期生）3名に対して実習を行った。さらに本学科卒業生に対し、リカレント教育の要望調査を実施した。今後、リカレント教育システムを策定・実行するために、さらに大学や同窓会などと情報を共有し協力していくべきと考える。

VII 次年度の目標

授業および実習については、学生の自己主導性を引き出せるような内容に改善する。研究については、昨年度得た分析結果を学会発表および論文投稿へ進める。さらに、学科としてリカレント教育や各種相談など、卒業生が気楽に大学を利用できるようなシステムづくりを目指す。

准教授 荒川 真 博士（歯学）

対象期間：2021年4月1日～2022年3月31日まで

I 年度当初の目標

教育、研究および診療の三面において前年度以上の成果を出していきたい。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・歯周治療学.
- ・歯科保存学
- ・国際歯科衛生学.
- ・歯科診療室基礎実習.
- ・歯科診療室総合実習.
- ・卒業研究.
- ・継続個別支援実習.
- ・発達歯科衛生実習 I（小児）.
- ・専門職間の連携活動論.
- ・千葉県の健康づくり

III 研究記録

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・Arakawa M, Kaneko J, De Jesus VC, Sonoda H, Yoshida N, Tagami J: Relationship between taste sensitivity and dental caries, Journal of Medical and Dental Sciences, 68. 85-89, 2021.
- ・Yoshikawa T, Arakawa M: Effects of C-factor on dentin bonding using various adhesive systems, Niger J Clin Pract, 25, 255-260, 2022.
- ・大川由一, 栗原涼子, 山中紗都, 河野 舞, 鈴鹿祐子, 荒川 真, 麻生智子, 石川裕子, 酒巻裕之, 麻賀多美代: 地理情報システムを利用した歯科診療所の診療圏に関する事例分析, 全国大学歯科衛生士教育協議会誌, 11, 26, 25-29, 2022.

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・酒巻裕之, 麻賀多美代, 荒川 真, 麻生智子, 鈴鹿祐子: コーチングを活用した歯科保健指導のリカレント教育に関する検討, 第12回日本歯科衛生教育学会総会・学術大会, 2021年12月17-24日, Web開催.
- ・吉川孝子, 荒川 真: 接着性光重合型レジン修復物の至適光照射法について, 第21回日本外傷歯学会総会・学術大会, 2021年9月18-19日, 誌上開催.
- ・島田美恵子, 岡村太郎, 河野 舞, 荒川 真, 金子 潤. 地域健康体操教室参加の高齢者における緊急事態宣言が身体活動量と健康状態に及ぼした影響について, 第60回千葉県公衆衛生学会, 2022年2月9-23日, Web開催.

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・科学研究費補助金基盤研究（C），味覚の感受性を利用した新たなカリエスリスク判定法の可能性，研究代表者.
- ・科学研究費補助金基盤研究（C），大気圧低温プラズマを応用した歯科漂白治療の検討，研究分担者.

IV 社会貢献・国際交流記録

2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等、活動期間、場所等）

- ・歯科診療、2016年4月～現在に至る。千葉県立保健医療大学歯科診療室。
- ・口腔機能向上プログラム、2020年8月～現在に至る。流山市南部地域包括支援センター。

4 職能団体委員等（職能団体名称、委員名称、活動期間）

- ・全国大学歯科衛生士教育協議会、理事・事務局長、2021年3月～現在に至る。

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本歯科保存学会、日本歯周病学会、日本歯科理工学会、日本歯科衛生教育学会、日本歯科医学教育学会。

2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

- ・日本歯科衛生教育学会、研究倫理審査委員、2019年4月～現在に至る。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・広報委員会、国際交流委員会、衛生委員会、自己点検・評価実施推進部会、千葉県健康づくり作業部会。

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・歯科衛生学科会議、歯科診療室会議、歯科衛生学科4年生チューター。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

《広報委員会》

本学HPで発信するコンテンツの作成を行った。
年2回の学内PCメンテナンスの補助を行った。

《衛生委員会》

学内の定期的巡視を行った。

《歯科診療室》

本学歯科診療室にて、夏休み期間中や学生実習が無い期間も基本的には週4日9:30から16:00の間診療を継続してきた。

VII 次年度の目標

引き続き各種業務を着実に継続、発展させたい。

准教授 河野 舞 博士（歯学）

対象期間：2021年4月1日～2022年3月31日まで

I 年度当初の目標

2021年度の目標は、オンライン授業のデザインや方法を取り入れつつ教育面において学生の学習意欲を喚起する授業を行い、授業の改善に努める。研究活動では学外研究助成につなげるための新規研究課題の模索や、昨年度からコロナ渦で中止している地域住民の口腔機能に関するデータ収集に取り組む。また、歯科診療室での歯科診療および大学運営に関しても引き続き委員会活動を理解し、役割を遂行する。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・ 歯科補綴学.
- ・ 歯科材料学.
- ・ チーム歯科医療論.
- ・ 歯科衛生基礎演習.
- ・ 歯科衛生体験演習Ⅱ.
- ・ 歯科診療室補助実習.
- ・ 歯科診療室基礎実習.
- ・ 歯科診療室総合実習.
- ・ 病院実習.
- ・ 卒業研究.
- ・ 専門職間の連携活動論.

2) 他大学、大学院等の非常勤講師（科目名、大学名）

- ・ 臨床実習Ⅰ・Ⅱ. 北海道医療大学歯学部.

III 研究記録

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・ 大川由一，栗原涼子，山中紗都，河野 舞，鈴鹿祐子，荒川 真，麻生智子，石川裕子，酒巻裕之，麻賀多美代：地理情報システムを利用した歯科診療所の診療圏に関する事例分析，全国大学歯科衛生教育協議会雑誌，11，25-29，2022.

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・ 柿谷笑菜，河野 舞，金子 潤：義歯安定剤と除去方法に関する研究，第28回日本歯科色彩学会総会・学術大会，2021年6月26日，千葉県船橋市.
- ・ 川西克弥，富田侑希，河野 舞，村田幸枝，長澤敏行：診療参加型臨床実習に参加する歯学部生のCOVID-19に関する偏見について，第14回日本総合歯科学会総会・学術大会，2021年10月29日-11月6日，Web開催.
- ・ 富田侑希，川西克弥，河野 舞，村田幸枝，長澤敏行：COVID-19が診療参加型臨床実習に参加する学生意識に及ぼす影響，第40回日本歯科医学教育学会総会・学術大会，2021年11月20日-12月3日，Web開催.
- ・ 島田美恵子，岡村太郎，河野 舞，荒川 真，金子 潤. 地域健康体操教室参加の高齢者における緊急事態宣言が身体活動量と健康状態に及ぼした影響について. 第60回千葉県公衆衛生学会. 2022年2月9-23日，Web開催.

- 5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）
- ・学内共同研究，視覚障害者における歯科保健行動についての実態調査，研究分担者。
 - ・科学研究費補助金基盤研究（C），自家歯牙片とインプラントを併用したハイブリッド歯周組織再生療法，研究分担者。
 - ・科学研究費補助金基盤研究（C），大気圧低温プラズマを応用した歯科漂白治療の検討，研究分担者。

6 受賞・特許

- ・令和3年度日本歯科医学教育学会優秀論文賞

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等（活動名称，活動期間，場所等）

1) 千葉県内

- ・オーラルフレイル予防プログラム，2021年6月～2022年3月，UR さつきが丘団地。
- ・口腔機能向上プログラム，2020年8月～現在に至る，流山市南部地域包括支援センター。
- ・東京オリンピックフィールドキャスト，2021年7～8月，一ノ宮町。

2) 千葉県外

- ・東京オリンピック開会式・閉会式アシスタントキャスト，2021年7～8月，東京。

2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等，活動期間，場所等）

- ・歯科診療，2017年4月から現在に至る，千葉県立保健医療大学歯科診療室。
- ・新型コロナワクチン接種のための筋肉内注射に係る実技講習会，2021年6月20日，千葉県歯科医師会館。

5 学会，学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本補綴歯科学会，日本歯科医学教育学会，日本口腔インプラント学会，日本歯科理工学会，日本歯科審美学会，日本老年歯科医学会，日本摂食嚥下リハビリテーション学会，北海道医療大学歯学会，日本歯科色彩学会。

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称，主催 団体名称，講演テーマ等，対象，開催日，時場所）

- ・公開講座，マスク生活とお口の環境，一般住民，2021年11月6日，千葉県立保健医療大学。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・共通教育運営会議，学術推進企画委員会，学内共同研究審査部会，教育研究年報部会，専門職管の連携活動論作業部会。

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・歯科衛生学科会議，歯科診療室会議，歯科衛生学科2年副チューター。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育面については担当科目の位置づけを理解するとともに，遠隔授業用に全ての教材を新製し，動画教材数を増やすなど，教育効果の改善に努めた。研究活動ではCOVID-19の影響で地域高齢者への介入を行うことができず，研究が停滞してしまった。大学運営では，学内共同研究審査部会長としてWebを活用した発表会の運営や審査方式の変更などに，柔軟な対応が行えたと考える。社会貢献ではオリンピックのボランティアを通じて様々な世代のスタッフとの交流や貴重な経験をさせて頂き，他には変えられない達成感や満足感を得た。また，感染対策を徹底して歯科診療室

における歯科診療を行い，地域住民の方々に貢献できたと考える。

VII 次年度の目標

次年度以降も，Web を活用しながら様々な業務の効率化を図りたいと考える。教育面では対面授業に戻しても，オンライン授業時に作製した動画教材や資料を事前学習や事後学習に利用しつつ，オンライン授業では行えなかった体験型の学習を対面授業に取り入れ，学生の学習意欲を喚起する授業を行うことに努める。研究活動では，新たな研究計画の立案や 2021 年度に行えなかったデータの収集に努める。歯科診療室での歯科診療は継続し，大学運営に貢献できるよう努力する。

講師 麻生 智子 学士（教養）

対象期間：2021年4月1日～2022年3月31日まで

I 年度当初の目標

令和3年度は、担当科目については、遠隔授業でも学生が充実した学びを得たと感じられるように講義内容を改善し、演習・実習内容も技術の修得に向けて充実させたいと考えている。研究では、研究、社会貢献両方の側面を持つ「オーラルフレイル予防のための健康プログラム」については1年間延長されたことから、高齢者の口腔機能を維持、向上させるために研究分担者として、研究代表者と協力して進めていきたい。歯科衛生士として臨床での患者との関わりは、学生への指導に生かすことができるのでできるだけ継続したい。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・ 歯科疾患予防学.
- ・ 歯科衛生基礎演習.
- ・ 歯科診療補助演習.
- ・ 歯科予防処置演習.
- ・ 地域歯科衛生演習.
- ・ 総合演習.
- ・ 継続・個別支援実習 I.
- ・ 発達歯科衛生実習 I (小児).
- ・ 地域歯科衛生実習.
- ・ 卒業研究.

III 研究記録

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・ 大川由一，栗原涼子，山中紗都，河野 舞，鈴鹿祐子，荒川 真，麻生智子，石川裕子，酒巻裕之，麻賀多美代：地理情報システムを利用した歯科診療所の診療圏に関する事例分析，全国大学歯科衛生教育協議会雑誌，11，1，25-29，2022.
- ・ 麻賀多美代，麻生智子，鈴鹿祐子：筆記具の書字動作のトレーニングがスクレーパー操作に及ぼす影響－筋電図による検討－，全国大学歯科衛生教育協議会雑誌，11，17-23，2022.

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・ 酒巻裕之，麻賀多美代，荒川 真，麻生智子，鈴鹿祐子：歯科保健指導にコーチング手法を取り入れるための歯科衛生士研修会の実施と評価，第12回日本歯科衛生教育学会総会・学術大会，2021年12月17-24日，Web開催.
- ・ 今井宏美，麻賀多美代，麻生智子，木村亜由美，椿 祥子，河部房子，三澤哲夫：現実適合性の高い口腔ケア用モバイルシミュレータを用いた部分学習が全体学習に及ぼす影響－第2報 磨き残しの印象評価から－，産業保健人間工学会第26回大会，2021年10月30日，Web開催.

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・ 科学研究費補助金基盤研究（C），地域高齢者におけるオーラルフレイルの予防に向けた健康増進プログラムの実践と評価－誤嚥による肺炎予防のために－，研究分担者.

- ・学内共同研究, 介護予防のための生活習慣継続を目指した多職種連携プログラムの評価, 研究分担者.
- ・学長裁量研究, 高齢者歯科医療にかかわる歯科衛生士研修会の効果に関する検討, 研究分担者.
- ・学長裁量研究, 歯科衛生学科におけるリカレント教育の要望調査と実施, 研究分担者.

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等 (活動名称, 活動期間, 場所等)

1) 千葉県内

- ・オーラルフレイル予防プログラム, 2021年6月～2022年3月, UR さつきが丘団地.
- ・新しい大健康プログラム, 2021年11月, UR 真砂第一団地.

2 地域への保健医療活動 (診療・技術指導等, 活動期間, 場所等)

- ・継続個別支援・歯科診療補助の実施, 2021年4月～2022年3月, 千葉県立保健医療大学歯科診療室.

5 学会, 学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本歯周病学会, 日本咀嚼学会, 日本歯科衛生学会, 日本歯科医学教育学会, 日本歯科衛生教育学会, 日本口腔衛生学会, 日本口腔ケア学会.

2) 学会, 学術団体への貢献 (学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

- ・日本歯科衛生教育協議会, 評議員, 2019年4月1日～2022年3月31日.
- ・日本歯科衛生教育協議会, 編集委員会 (事前抄録担当委員), 2019年4月1日～2022年3月31日.
- ・日本歯科衛生学会, 広報委員, 2020年6月1日～2022年3月31日.

6 講演会 (公開講座を含む) / 研修会の講師・研究指導等 (会名称, 主催 団体名称, 講演テーマ等, 対象, 開催日, 時場所)

- ・日歯認定歯科助手講習会, 千葉県歯科医師会主催「診療室管理・アシスタントワーク・患者対応」高齢者の対応担当, 歯科助手, 2021年10月17日, Web開催.
- ・新しい大健康プログラム, 保健医療大学・UR 都市機構, 「コロナ禍で大切にしたいお口の健康-お口の清潔と口の機能-」, 地域高齢者, 2021年11月13日, UR 真砂第一団地.

V 管理・運営記録

1 全学委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・入試実施委員会, 進路支援委員会, 社会貢献委員会.

2 学科/専攻内委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・歯科衛生学科会議, 歯科診療室会議.

VI 評価 (成果および改善すべき事項)

担当科目については, 新型コロナウイルス感染症の拡大によって講義はすべて遠隔授業となり, 動画や授業資料の見直し, 学生の予習, 復習を促す工夫を行った. 演習, 実習科目では動画を授業前に配信し, 時間短縮とデモンストレーションでの密を避ける工夫をするなど担当教員間での検討を重ね, 実習人数, 配置, 内容を見直し実施した. 「継続・個別支援実習」では, 4年生は, 症例報告として報告書の作成, ポスター作成を行い充実した学びとなったことが確認できた. 3年生は, 前年度と同様に感染対策を行い, 人数を制限しながら実習を行った. 研究では, 研究分担者として協力した「オーラルフレイル予防のための健康プログラム」を論文投稿に向けて検討しており, 新たに学長

裁量研究「高齢者歯科医療にかかわる歯科衛生士研修会の効果に関する検討」, 「C 大学歯科衛生学科卒業生の現状とリカレント教育の要望」の研究分担者として研究を進めている. 委員会, 学科会議, 歯科診療室会議には, 必ず出席し, 積極的に大学・学科の業務を遂行した. 学生実習がない時期が続いた期間に本学歯科診療室に歯科衛生士として臨床での患者との関わりを持つことができた. 時間的に難しい時期もあるが, 自分の臨床技術の確認や学生への指導につなげるために可能な限り実施した.

講師 鈴鹿 祐子 修士（学術）

対象期間：2021年4月1日～2022年3月31日まで

I 年度当初の目標

令和3年度は、教育は、引き続き新型コロナウイルス感染拡大防止における対策を講じながら安全に工夫をしながら実習をできる限り行いたい。研究については、現在まとめているものを発表、また、論文投稿したいと思う。新しい研究にも着手したい。また、新型コロナウイルス感染による影響は続くと思われるが、社会貢献もできることから行っていきたいと思う。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・チーム歯科医療論.
- ・歯科医療安全論.
- ・発達歯科衛生学Ⅰ（小児）.
- ・リスクマネジメント論.
- ・歯科診療補助演習.
- ・歯科予防処置演習.
- ・総合演習.
- ・歯科衛生体験演習Ⅱ.
- ・歯科診療室基礎実習.
- ・歯科診療室総合実習.
- ・継続・個別支援実習.
- ・歯科診療所実習.
- ・発達歯科衛生実習Ⅰ（小児）.
- ・専門職間の連携活動論.
- ・卒業研究.

III 研究記録

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・大川由一，桑原涼子，山中紗都，河野 舞，鈴鹿祐子，荒川 真，麻生智子，石川裕子，酒巻裕之，麻賀多美代：地理情報システムを利用した歯科診療所の診療圏に関する事例分析，全国大学歯科衛生士教育協議会雑誌，11，25-29，2022.
- ・麻賀多美代，麻生智子，鈴鹿祐子：筆記具の書字動作のトレーニングがスクレーラー操作に及ぼす影響 筋電図による検討，全国大学歯科衛生士教育協議会雑誌，11，17-23，2022.

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・鈴鹿祐子，大川由一，葭原明弘：歯科衛生士養成校学生の臨床実習におけるストレス反応の実態と関連要因について，令和3年度新潟歯学会第1回例会，2021年7月，新潟.
- ・酒巻裕之，麻賀多美代，荒川 真，麻生智子，鈴鹿祐子：歯科保健指導にコーチング手法を取り入れるための歯科衛生士研修会の実施と評価，第12回歯科衛生教育学会学術大会総会・学術大会，2021年12月17-24日，Web開催.

- 5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）
- ・学長裁量研究，高齢者歯科医療に関わる歯科衛生士研修会の効果に関する検討，研究分担者。

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等（活動名称，活動期間，場所等）

1) 千葉県内

- ・オーラルフレイル予防プログラム，2021年6月～2022年3月，UR さつきが丘団地。
- ・新しい大健康プログラム，2021年11月，UR 真砂第一団地。

2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等，活動期間，場所等）

- ・継続個別支援・歯科診療補助の実施，2021年4月～2022年3月，千葉県立保健医療大学歯科診療室。

3 審議会，委員会，国家試験委員等の実績（活動団体名称，委員名称，活動期間）

- ・千葉県歯科衛生士育成協議会，運営委員，2019年4月1日～現在に至る。

4 職能団体委員等（職能団体名称，委員名称，活動期間）

- ・千葉県歯科衛生士会，総務理事，2020年6月～現在に至る。

5 学会，学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本障害者歯科学会，ヘルスカウンセリング学会，日本歯周病学会，日本歯科衛生学会，日本咀嚼学会，日本歯科医学教育学会，日本歯科衛生教育学会，日本口腔ケア学会。

2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名，役職，活動期間）

- ・日本歯科衛生教育学会，評議員，編集委員会事前抄録担当委員，2021年4月～2022年3月。

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称，主催 団体名称，講演テーマ等，対象，開催日，時場所）

- ・令和3年度 歯科衛生士スキルアップ研修会，千葉県歯科医師会，現在の TBI TBI の実践，歯科衛生士，2021年10月17日，Web 開催。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・学生委員会，研究倫理審査委員会，動物部会，学内共同研究審査部会，自己点検・評価実施推進部，相談員。

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・歯科衛生学科会議，歯科診療室会議。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育については，遠隔授業においては動画などについてできるだけ学生にとってわかりやすい教材作りを心掛けた。演習・実習についてはできる限りの感染予防対策を講じながら安全に学内外ともに学生の協力もあり無事に終了した。研究については，学会発表にとどまり論文の投稿には至らなかった。社会貢献については，積極的に職能団体の活動に参加できたと思う。

VII 次年度の目標

教育については、講義も対面授業を再開するにあたり、教材について見直しをして、より良い授業ができるように工夫する。研究については現在、まとめているものについて論文投稿をしたいと思う。また、新しい課題にも着手したい。社会貢献についても十分な感染対策を講じながら行っていきたいと思う。

講師 山中 紗都 修士（障害科学）

対象期間：2021年4月1日～2022年3月31日まで

I 年度当初の目標

新型コロナウイルスの感染予防対策に引き続き考慮しながら、授業の運営を行っていききたいと考える。昨年度の経験より、遠隔授業の長所と短所を活かし、より充実した授業展開に努めたい。また、新々カリキュラムの完成年度となるため、自身の携わる科目についての全体的な構成について改めて見直しを行っていききたいと感じる。研究活動については、新たな研究に着手するとともに、これまでの研究をまとめる活動を引き続き行っていきたい。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・ 歯科診療室基礎実習.
- ・ 歯科診療室総合実習 I.
- ・ 歯科診療室総合実習 II.
- ・ 継続・個別支援実習 I.
- ・ 継続・個別支援実習 II.
- ・ 歯科診療所実習.
- ・ 発達歯科衛生実習 I（小児）.
- ・ 総合演習.
- ・ 歯科衛生アセスメント論.
- ・ 歯科保健指導演習 I.
- ・ 歯科保健指導演習 II.
- ・ 歯科診療補助演習.
- ・ 卒業研究.
- ・ 専門職の連携活動論.

III 研究記録

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・ 山中紗都，吉田直美：頭頸部がんサバイバーの口腔関連の諸問題とその対処における質的研究，日本歯科衛生学会雑誌，16，2，47-58，2022.
- ・ 大川由一，栗原涼子，山中紗都，河野 舞，鈴鹿祐子，荒川 真，麻生智子，石川裕子，酒巻裕之，麻賀多美代：地理情報システムを利用した歯科診療所に診療圏に関する事例分析，全国大学歯科衛生士教育協議会雑誌，11，25-29，2022.

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・ 山中紗都，吉田直美：終末期，ターミナルケアに関わる歯科衛生士の体験に関する質的研究，日本歯科衛生教育学会第12回学術大会，2022年12月17-24日，Web開催.

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・ 学内共同研究，視覚障害者における歯科保健行動についての実態調査，研究代表者.

IV 社会貢献・国際交流記録

2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等、活動期間、場所等）

- ・継続個別支援・歯科診療補助の実施、2021年4月～2022年3月、千葉県立保健医療大学歯科診療室。

4 職能団体委員等（職能団体名称、委員名称、活動期間）

- ・千葉県歯科衛生士会選挙管理委員 2021年6月～現在。

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本歯科衛生学会、日本歯科衛生教育学会、日本歯科医学教育学会、日本歯周病学会、日本有病者歯科医療学会、日本歯科審美学会、日本口腔ケア学会。

2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

- ・日本歯科衛生学会、総務委員、2021年6月～現在。

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催、団体名称、講演テーマ等、対象、開催日、場所）

- ・千葉県歯科医師会主催、令和3年度スキルアップ研修会、歯科衛生士対象、2022年10月17日、Web開催。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・教務委員会、学生委員会、広報委員会、共通教育運営会議（図書委員を担当したため、図書委員会にも出席）。

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・歯科衛生学科会議、歯科診療室会議、歯科衛生学科1年副チューター。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

令和2年度に引き続き、新型コロナウイルス対策を考慮した教育活動を行った。遠隔授業では前年度に作成した動画教材を活用した上で、新たな教材の追加や、Formsを前年度以上に利用するなど、授業内容の質の向上に努めた。対面演習においても、感染予防対策を前提した演習2年目となったため、前年度と比較してスムーズに進行することができたと感じる。

一方で、今年度は新々カリキュラム完成の年であったが、自身が携わる科目と他の科目のつながりや構成を詳細に検討することが出来なかったため、次年度以降改めて確認し、より教育内容を向上・充実させていきたい。

研究活動については、以前取り組んだ研究の学会発表および、論文投稿・掲載に至ることが出来た。また、学内共同研究費を獲得し、新たな研究に取り組むことができたため、次年度以降分析、学会発表、論文投稿に繋げていきたい。

また、前年度以上に委員会活動に従事し、大学運営に取り組むことができた。次年度も委員継続年度となるため、引き続き取り組んでいきたい。

VII 次年度の目標

令和4年度は、全面的に対面形式の授業展開および令和2年以前の演習・実習方法に戻る予定となっているため、改めて授業の見直しを行いたい。また、自身が担当する演習・実習系科目においては、令和2年度、3年度に講義科目を受講した学生が中心となるため、学生のレディネスを考慮した演習・実習計画を立てていきたいと考える。

研究活動および大学運営については、昨年度に引き続き積極的に取り組んでいきたい。

講師 佐久間 貴士 修士（工学）

対象期間：2021年4月1日～2022年3月31日まで

I 年度当初の目標

着任二年目となるため、まだ慣れていない本学の環境への順応と理解に務めることを目標とし、コロナ禍におけるオンライン授業の環境整備と運営に尽力する。また、携わる委員会の運営等にも尽力し、大学運営に貢献できるよう努力する。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）
 - ・情報リテラシーⅠ.
 - ・体験ゼミナール.
 - ・統計学.
 - ・情報リテラシーⅡ.
 - ・情報倫理.
 - ・卒業研究.

- 2) 他大学、大学院等の非常勤講師（科目名、大学名）
 - ・情報入門（千葉商科大学）.
 - ・情報リテラシーA（東京交通短期大学）.
 - ・情報リテラシーB（東京交通短期大学）.
 - ・環境統計学実習（立正大学）.
 - ・微分積分学演習（立正大学）.

III 研究記録

1 著書（著者本人下線：著書，発行年，発行所，発行場所）

- ・経済協力開発機構(OECD) (著，編集)，菅原良(監修，翻訳)，松下慶太(監修，翻訳)，坂本文子(翻訳)，坂本洋子(翻訳)，佐久間貴士(翻訳)，神崎秀嗣(翻訳)：デジタル世界のスキル形成ーデジタルトランスフォーメーションが導く仕事・生活・学び<OECDスキル・アウトLOOK 2019年版>，2021年，明石書店.

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・佐久間貴士：保健医療系大学におけるオンライン授業での情報教育の取り組み，国際ICT利用研究学会第1回特別研究会，2021年6月27日，Web開催.
- ・菅原良，佐久間貴士，神崎秀嗣：デジタル世界のスキル形成についてーデジタルトランスフォーメーションが導く仕事・生活・学びー，国際ICT利用研究学会第10回国際ICT利用研究学会研究会，2021年10月3日，Web開催.
- ・佐久間貴士：オンライン授業におけるモラルに関する一考察，国際ICT利用研究学会第6回全国大会，2021年12月5日，バーチャルカンファレンス.

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・科学研究費助成事業（基盤研究（C）），ESDにおけるエネルギー環境教育の新たな位置づけ-地方の視点からの再考，研究分担者.

IV 社会貢献・国際交流記録

2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等、活動期間、場所等）

- ・新型コロナウイルス対応協力。2021年9月4日。習志野保健所。

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・国際ICT利用研究学会、情報文化学会、教育システム情報学会、コンピュータ利用教育学会、情報システム学会、日本環境教育学会、日本環境学会。

2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

- ・国際ICT利用研究学会、理事。2016年4月～現在に至る。
- ・一般社団法人日本環境教育学会、広報委員。2021年9月～現在に至る。
- ・第10回 国際ICT利用研究学会 研究会、閉会の挨拶。2021年10月3日。
- ・第6回 国際ICT利用研究学会 全国大会、全国大会審査委員。2021年12月5日。
- ・第6回 国際ICT利用研究学会 全国大会、セッションD2座長。2021年12月5日。
- ・第11回 国際ICT利用研究学会 研究会、第3セッション座長。2022年3月20日。

7 その他

- ・学校推薦型選抜入試問題策問。2021年11月20日。
- ・遠隔授業に関するFD（教育方法向上のための研修）オンデマンド動画制作。2022年3月7日公開。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・広報委員会、危機管理委員会、共通教育運営委員会、社会貢献委員会、IR部会、体験ゼミナール作業部会。

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・歯科衛生学科会議。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

今年度もオンラインでの授業が中心となり、前年度の経験や学内FD活動、あるいは文科省関連の研修などに積極的に参加したおかげで、ある一定数を大学に還元できたと評価している。あわせて、学内の遠隔授業に関するFD用オンデマンド動画とマニュアルに関しても、他学科から一定の評価を受けることができた。引き続き、学外から多くのことを吸収し、可能な限り学内への還元を実施したいと考えている。

VII 次年度の目標

次年度は、着任三年目だが、まだまだ慣れない本学の環境への順応と理解に務めることを目標とし、コロナ禍におけるオンライン授業の環境整備と運営に尽力する。また、携わる委員会の運営等にも尽力し、大学運営に貢献できるよう努力する。

助教 栗原 涼子 博士（理工学）

対象期間：2021年4月1日～2022年3月31日まで

I 年度当初の目標

歯科診療室において、各学年学生の実習目標の達成になるための指導を行う。また、新型コロナウイルス感染症の感染予防対策を講じると共に歯科診療室の円滑な運営や管理を行い、学生教育のみならず、歯科治療を通して地域住民に対しての社会貢献を行う。大学運営に関わる委員会活動等を積極的に行う。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）
 - ・歯科診療室基礎実習.
 - ・歯科診療室総合実習.
 - ・体験ゼミナール.

IV 社会貢献・国際交流記録

2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等. 活動期間. 場所等）

- ・歯科診療補助の実施. 2021年4月～2022年3月. 千葉県立保健医療大学歯科診療室.

5 学会、学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
 - ・日本歯科衛生学会. 日本歯科衛生教育学会. 日本スポーツ歯科医学会. 日本口腔ケア学会. 東京歯科大学学会. 日本摂食嚥下リハビリテーション学会.

V 管理・運営記録

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・歯科衛生学科会議. 歯科診療室会議. 図書委員会.

VI 評価（成果および改善すべき事項）

社会貢献では歯科診療室において新型コロナウイルス感染症に対しての感染予防策を講じることにより、地域住民の方々に対して歯科治療の提供に貢献ができたと考える。教育においては、新型コロナウイルス感染症の影響で実習人数制限がはかられたが、新型コロナウイルス感染症に対しての感染予防策を講じての実習指導を行うことができた。

大学運営に関わる業務について、図書委員会業務を滞りなく遂行した。図書館だより No.82 「ぽーれぽーれ」において、おすすめの本の紹介執筆を担当した。

VII 次年度の目標

新型コロナウイルス感染予防対策を講じることにより次年度も歯科治療の提供に貢献をしたいと考える。研究活動について、教育・研究・管理運営・社会貢献のバランスを考えて積極的に取り組んでいきたい。

リハビリテーション学科
理学療法学専攻

教授 三和 真人 医学（障害化学）

対象期間：2021年4月1日～2022年3月31日まで

I 年度当初の目標

令和2年度は、特に論文の掲載までには至らなかった研究データを蓄積し、論文作成の時間があれば形にしたい。また、図書委員長（図書館長を兼ねる）としてコロナ禍の中、幾度かの緊急事態宣言発出によって開館や閲覧の時間など図書館運営の対応に翻弄された。しかし、電子書籍やジャーナルなどの書籍を増やして学生へのサービスの充実していく。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・理学療法概論.
- ・人体の機能実習.
- ・日常生活活動学演習.
- ・理学療法評価学Ⅲ.
- ・運動学実習.
- ・物理療法学.
- ・物理療法学演習.
- ・神経系障害理学療法学.
- ・神経系障害理学療法学演習.
- ・神経系障害理学療法学特論.
- ・生体機能計測学.
- ・理学療法応用評価学.
- ・理学療法発展領域論.
- ・理学療法技術論.
- ・理学療法学特論Ⅱ.
- ・臨床実習Ⅰ（体験実習）.
- ・臨床実習Ⅱ（評価実習）.
- ・臨床実習Ⅲ（総合実習）.
- ・臨床実習Ⅳ（総合実習）.
- ・卒業研究.

III 研究記録

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・江戸優裕，大谷拓哉，三和真人：理学療法学生における観察による帆王分析の演習効果—疑似的関節可動域制限による異常歩行を用いた検討—，千葉県立保健医療大学紀要，第13巻1号，3-13，2022.
- ・三和真人，雄賀多聡，山本達也，堀本佳誉，大谷拓哉，真壁寿：加速度信号による振戦評価方法の研究—多系統症候群の早期予測をめざして—，千葉県立保健医療大学紀要研究結果報告書集，第13巻1号，60，2022.
- ・堀本佳誉，杉本路斗，前田美穂，齋藤千春，小玉武志，大須田佑亮，佐藤一成，三和真人：健常成人の足部形態および機能の総合的評価，千葉県立保健医療大学紀要研究結果報告書集，第13巻1号，61，2022.
- ・江戸優裕，大谷拓哉，三和真人：理学療法学生における観察による歩行分析の演習効果—疑似的関節可動域制限に

よる異常歩行を用いた検討一, 千葉県立保健医療大学紀要研究結果報告書集, 第13巻1号, 67, 2022.

3 発表 (発表者: 発表タイトル, 主催学会 (学会名称), 開催日, 場所等. 本人下線)

- ・三和真人: AIによる高齢者転倒予防のための予測システム構築に向けた研究, 第58回日本リハビリテーション医学学会学術集会, 2021年6月10日-13日, 国立京都国際会館.

5 研究資金獲得状況 (外部資金・学内共同・学長裁量) (資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- ・千葉県立保健医療大学学内共同研究費 (一般), 運動課題における運動誤差の研究—若年者と高齢者の比較—, 研究代表者.
- ・千葉県立保健医療大学学内共同研究費 (一般), 脳性麻痺のリハビリテーションにおける目標設定に関するアンケート調査, 研究分担者.
- ・千葉県立保健医療大学学内共同研究費 (一般), 地域在住高齢者におけるロコモティブシンドロームに関する実態調査と予防活動に向けたパイロットスタディ, 研究分担者.

IV 社会貢献・国際交流記録

3 審議会, 委員会, 国家試験委員等の実績 (活動団体名称, 委員名称, 活動期間)

- ・一般社団法人リハビリテーション教育評価機構. 評価認定委員会評価委員. 2014年4月～現在.

4 職能団体委員等 (職能団体名称, 委員名称, 活動期間)

- ・一般社団法人千葉県理学療法士会. 理事. 2018年4月1日～現在に至る.
- ・一般社団法人千葉県理学療法士会. 研究倫理委員会. 2019年4月1日～現在に至る.
- ・公益社団法人リハビリテーション医学会. 学会プログラム委員. 2019年11月1日～現在に至る.

5 学会, 学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本リハビリテーション医学会. 日本理学療法士協会. 日本臨床神経生理学学会. 日本電気生理運動学学会. 日本運動療法学学会. 日本体力医学会. 世界理学療法士学会. 世界電気生理運動学学会. 全国大学肺理学療法研究会. 世界リハビリテーション医学会.

2) 学会, 学術団体への貢献 (学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

- ・第26回日本基礎理学療法学会. 抄録査読委員. 2020年9月～現在に至る.
- ・第58回日本リハビリテーション医学会学術集会. 抄録査読委員. 2019年11月～現在に至る.

V 管理・運営記録

1 全学委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・図書館長. 大学運営会議. 共通教育会議. 自己点検評価委員会. 将来構想検討委員会. 総務・企画委員会. 国際交流委員会. 入試改革検討委員会. 入試実施委員会. 人事委員会. 図書情報委員会. 教員資格審査委員会 (看護学科 教授) 令和3年6月. 教員資格審査委員会 (栄養学科 准教授) 令和3年6月. 教員資格審査委員会 (歯科衛生学科 教授) 令和3年6月. 教員資格審査委員会 (歯科衛生学科 准教授) 令和3年6月. 教員資格審査委員会 (理学療法学専攻 講師) 令和3年6月. 教員資格審査委員会 (作業療法学専攻 准教授) 令和3年6月. 教員資格審査委員会 (作業療法学専攻 講師) 令和3年6月. 教員資格審査委員会 (看護学科 准教授) 令和3年6月. 教員資格審査委員会 (歯科衛生学科 教授) 令和3年7月. 教員資格審査委員会 (看護学科 助教) 令和3年9月. 教員資格審査委員会 (看護学科 助教) 令和3年9月. 教員資格審査委員会 (理学療法学専攻 教授) 令和3年9月. 教員資格審査委員会 (看護学科 講師) 令和3年10月. 教員資格審査委員会 (歯科衛生学科 准教授) 令和3年10月. 教員資格審査委員会 (共通教育 講師) 令和3年10月. 教員資格審査委員会 (理学療法学専攻 教授) 令和4年1月. 教員資格審査委員会 (歯科衛生学科 教授) 令和4年2月. 教員資格審査委員会 (栄養学科 講師) 令和4年2月. 教員資格審査委員会 (看護学科 講師) 令和

4年3月、教員資格審査委員会（看護学科 准教授）令和4年3月。

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・理学療法学専攻長、理学療法学専攻会議、リハビリテーション学科教授会、リハビリテーション学科会議。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

理学療法専攻の授業調整、学内の各種委員会や教員資格審査などの出席が多く、自己の研鑽をする時間が就業中に作れなかった。自宅に持ち込んで処理をすることを良しとする方法もあったが、本年度は敢えてそれを設けなかった。

VII 次年度の目標

担当授業科目を減らし、余らせた時間を有効に使って論文作成に取り組みたい。

准教授 堀本 佳誉 博士（理学療法学）

対象期間：2021年4月1日～2022年3月31日まで

I 年度当初の目標

教育面では理学療法士に必要な知識と技術を理解しやすいよう伝達し、学びを深める意欲を持てるように工夫することを継続する。3年生の担任として学生生活が円滑に送れるようにサポートすることを目標とする。研究面では、研究費を与えられるレベルの研究を計画し実施すること、また2019年に学長裁量研究費の採択を受けた研究と2020年に共同研究費の採択を受けた研究を論文化することを目標とする。社会貢献として、特に発達障害分野理学療法に関して千葉県理学療法士会の活動を通して貢献することを継続する。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・運動療法学.
- ・理学療法評価学Ⅰ.
- ・理学療法評価学演習.
- ・理学療法評価学Ⅱ.
- ・理学療法評価学Ⅲ.
- ・理学療法研究方法論.
- ・発達障害理学療法学.
- ・発達障害理学療法学演習.
- ・発達障害理学療法学特論.
- ・地域理学療法学演習.
- ・理学療法技術論.
- ・生体機能計測学.
- ・生体機能計測学.
- ・発展領域論.
- ・臨床体験実習.
- ・評価実習.
- ・臨床実習Ⅲ(総合実習).
- ・臨床実習Ⅳ(総合実習).
- ・卒業研究.

III 研究記録

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・三和真人，雄賀多聡，山本達也，堀本佳誉，大谷拓哉，真壁寿：加速度信号による振戦評価方法の研究—多系統症候群の早期予測をめざして—，千葉県立保健医療大学紀要研究結果報告書集，第13巻1号，60，2022.
- ・堀本佳誉，大須田佑亮，長谷川純子，佐藤一成，三和真人，大谷拓哉：健常成人の足部の形態および機能の総合的評価，千葉県立保健医療大学紀要研究結果報告書集，第13巻1号，61，2022.

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・千葉県立保健医療大学学内共同研究費（一般），運動課題における運動誤差の研究—若年者と高齢者の比較—，研究

分担者。

- ・千葉県立保健医療大学学内共同研究費（一般），地域在住高齢者におけるロコモティブシンドロームに関する実態調査と予防活動に向けたパイロットスタディ，研究分担者。

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等（活動名称，活動期間，場所等）

2) 千葉県外

- ・コクラン日本語翻訳ボランティア，2020年4月～現在に至る。

4 職能団体委員等（職能団体名称，委員名称，活動期間）

- ・千葉県理学療法士会，障がい児・者支援部部員，2019年10月～現在に至る。
- ・千葉県理学療法士会，倫理審査委員，2019年度～現在に至る。

5 学会，学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本理学療法士協会，日本小児理学療法学会，日本神経理学療法学会，日本理学療法教育学会，日本基礎理学療法学会，日本重症心身障害学会，重症心身障害療育学会，日本リハビリテーション臨床教育研究会。

2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名，役職，活動期間）

- ・千葉県理学療法士会，論文査読者，2019年度～現在に至る。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・教務委員会，研究倫理委員会，特色科目運営委員会，危機管理委員会。

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・リハビリテーション学科会議，理学療法学専攻会議。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育面ではリモート講義となり，深い理解を与えることが困難であった。対面での講義では理解できていない部分のフォローができたと考える。

研究面では，共同研究費を得ることが出来たが，倫理審査中に同タイトルでの研究が実施されたため，取り下げとなったことは反省点である。論文作成については，完成し投稿したものの，本年度中には受理されていない。

社会貢献活動においては，千葉県理学療法士会障がい児・者支援部部員として発達障害分野理学療法に関して，また倫理審査委員会として貢献することができたと考える。

VII 次年度の目標

教育面では理学療法士に必要な知識と技術を理解しやすいよう伝達し，学びを深める意欲を持てるように工夫することを継続する。4年生の担任として臨床実習や国家試験，就職活動をサポートする。

研究面では，投稿中の論文が受理されること，研究費を与えられるレベルの研究を計画し実施することを目標とする。

社会貢献として，特に発達障害分野理学療法に関して千葉県理学療法士会の活動を通して貢献することを継続する。

准教授 大谷 拓哉 博士（保健学）

対象期間：2021年4月1日～2022年3月31日まで

I 年度当初の目標

令可能な限り、学生には臨床現場での実習を経験できるよう、関係各所と調整を行う。また、新指定規則に対応した臨床実習に切り替わる時期であるため、スムーズな切り替えができるよう努める。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・運動学Ⅰ.
- ・運動学Ⅱ.
- ・臨床運動学.
- ・運動学実習.
- ・物理療法学.
- ・日常生活活動学.
- ・日常生活活動学演習.
- ・理学療法評価学Ⅲ.
- ・理学療法応用評価学.
- ・老年期障害理学療法学.
- ・生体機能計測学.
- ・理学療法技術論.
- ・臨床体験実習.
- ・評価実習.
- ・総合実習Ⅰ.
- ・総合実習Ⅱ.
- ・卒業研究.

III 研究記録

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・江戸優裕，大谷拓哉，三和真人：理学療法学生における観察による歩行分析の演習効果：擬似的関節可動域制限による異常歩行を用いた検討，千葉県立保健医療大学紀要，第13巻1号，3-11，2022.

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・千葉県立保健医療大学学内共同研究費（一般），運動課題における運動誤差の研究－若年者と高齢者の比較－，研究分担者.
- ・千葉県立保健医療大学学内共同研究費（一般），地域在住高齢者におけるロコモティブシンドロームに関する実態調査と予防活動に向けたパイロットスタディ，研究分担者.

IV 社会貢献・国際交流記録

4 職能団体委員等（職能団体名称、委員名称、活動期間）

- ・千葉県理学療法士会、学術誌編集委員会副委員長、2021年4月1日～2022年3月31日、
- ・千葉県理学療法士会、2021年度臨床実習指導者講習会世話人、2021年9月11日～12日

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本理学療法士学会、日本基礎理学療法学会、理学療法科学学会、日本ヘルスプロモーション理学療法学会、バイオメカニズム学会、

2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

- ・第40回関東甲信越ブロック理学療法士学会、演題査読者（4題）、2021年6月9日～10日、
- ・第26回日本基礎理学療法学会大会、演題査読者（3題）、2021年6月10日～11日

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・学生委員会、学術推進企画委員会、認証評価部会、入試実施委員会、学内共同研究審査部会、キャンパスハラスメント相談員、

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・臨床実習担当、

VI 評価（成果および改善すべき事項）

新指定規則に則った初めての臨床実習であった評価実習に関しては、いくつかの課題や問題点は見つかったものの、なんとか全学生が無事に実習を終えることができた。今回浮かび上がった問題点を次年度以降の臨床実習の課題としたい。

VII 次年度の目標

新指定規則に則った初めての総合実習（総合実習Ⅰ、Ⅱ）ならびに地域理学療法実習が開講されるため、関係各所と調整を行い、円滑に実習を実施できるよう取り組む。臨床実習指導者講習会を初めて本学主催で開催する予定であるため、滞りなく準備し、良質な講習会の実施に努める。

講師 江戸 優裕 博士（保健医療学）

対象期間：2021年4月1日～2022年3月31日まで

I 年度当初の目標

令和3年度はコロナ禍に入って2年目となるため、オンライン技術も併用して特に教育をはじめとした各業務の質の担保に努める。また、2年生の担任として、登校制限によって接点が減少している学生生活のサポートを行う。引き続き、大学や職能団体から任せられた役割を果たすとともに、自身の研究にも注力する。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・専門職間の連携活動論.
- ・運動学実習.
- ・機能解剖学.
- ・理学療法評価学Ⅲ.
- ・理学療法評価学Ⅳ（画像評価）.
- ・日常生活活動学演習.
- ・物理療法学.
- ・物理療法学演習.
- ・運動器障害理学療法学.
- ・運動器障害理学療法学演習.
- ・理学療法学特論Ⅰ（運動器・老年期）.
- ・理学療法技術論.
- ・生体機能計測学.
- ・理学療法応用評価学.
- ・臨床体験実習.
- ・評価実習.
- ・臨床実習Ⅲ（総合実習）.
- ・臨床実習Ⅳ（総合実習）.
- ・卒業研究.

2) 他大学，大学院等の非常勤講師（科目名．大学名）

- ・理学療法学（国立障害者リハビリテーションセンター）.
- ・リハビリテーション論Ⅰ（平成国際大学）.
- ・リハビリテーション論Ⅱ（平成国際大学）.

III 研究記録

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年．本人下線）

- ・江戸優裕，大谷拓哉，三和真人：理学療法学生における観察による歩行分析の演習効果：擬似的関節可動域制限による異常歩行を用いた検討，千葉県立保健医療大学紀要，第13巻1号，3-11，2022.

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・島田美恵子，岡村太郎，成田悠哉，松尾真輔，江戸優裕，杉本健太郎：緊急事態宣言下における高齢者の日常身体活動量の推移，第76回日本体力医学会，2021年9月17日-18日，web.
- ・江戸優裕：理学療法学生における観察による歩行分析の演習効果：擬似的ROM制限による異常歩行を用いて，第10回日本理学療法教育学会学術大会，2021年12月4日-5日，web.

4 学術集会での招待講演（教育講演や基調講演）やシンポジウム等（学術集会名，テーマ，開催日，場所等）

- ・第27回千葉県理学療法士学会，バイオメカニクス的に紐解く局所と全身の関わり（教育講演），2022年3月6日，web.

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・日本学術振興会科学研究費（若手研究），前足部および後足部の回内外による運動連鎖を用いた歩行コントロール法，研究代表者.
- ・千葉県立保健医療大学学内共同研究費（一般），地域在住高齢者におけるロコモティブシンドロームに関する実態調査と予防活動に向けたパイロットスタディ，研究代表者.
- ・千葉県立保健医療大学学内共同研究費（一般），集合住宅に在住する高齢者の社会的フレイルと要介護リスクの関連：社会参加の促進を目的とした次年度介護予防教室のためのニーズ調査，研究分担者.

IV 社会貢献・国際交流記録

2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等，活動期間，場所等）

- ・千葉県立保健医療大学歯科診療室主催健康教室，2022年1月15日，千葉県立保健医療大学.

4 職能団体委員等（職能団体名称，委員名称，活動期間）

- ・千葉県理学療法士会，代議員，2019年度～現在に至る.
- ・千葉県理学療法士会，学術企画研修部員，2019年11月～現在に至る.
- ・千葉県理学療法士会，千葉ブロック介護予防推進リーダーWG班員，2021年6月～現在に至る.
- ・千葉県理学療法士会，臨床実習指導者講習会世話人，2021年8月28日～29日.

5 学会，学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本基礎理学療法学会，日本運動器理学療法学会，臨床歩行分析研究会，バイオメカニクス学会，理学療法科学学会，日本臨床バイオメカニクス学会，International Society of Posture and Gait Research，International Society of Biomechanics.

2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名，役職，活動期間）

- ・第27回千葉県理学療法士学会，座長，2022年3月6日.
- ・第12回日本理学療法教育学会，準備委員，2022年3月～現在に至る.
- ・第26回日本基礎理学療法学会学術大会，演題査読委員，2021年度.
- ・埼玉県理学療法士会学術誌「理学療法 臨床・研究・教育」，論文査読委員，2021年度.
- ・理学療法科学学会学術誌「理学療法科学」，論文査読委員，2021年度.

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称，主催団体名称，講演テーマ等，対象，開催日，場所）

- ・千葉県理学療法士会 2021年度新人教育プログラム，千葉県理学療法士会，運動器疾患の理学療法：バイオメカニクスの観点での運動器疾患に対する理学療法，千葉県理学療法士会員，2021年5月16日，web.

7 その他

- ・理学療法士・作業療法士国家試験模擬試験作問委員. 医歯薬出版. 2017年度～現在に至る.
- ・日本理学療法士協会指定管理者(初級). 日本理学療法士協会. 2021年12月15日.

V 管理・運営記録

1 全学委員会(委員会名/活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・学術推進企画委員会. 広報委員会. 紀要編集部会. 教育研究年報作成部会. 専門職間の連携活動論作業部会. 保医大健康プログラム実行委員.

2 学科/専攻内委員会(委員会名/活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・リハビリテーション学科会議. 理学療法学専攻会議.

3 対外広報活動<新聞・ホームページでの活動・TV出演, ラジオ出演等>

- ・WEB オープンキャンパス施設紹介.

VI 評価(成果および改善すべき事項)

コロナ禍に対応した授業が求められる中, オンライン技術を併用した授業は学生にも好評であり, 教育の質の担保に寄与できたと考える. 一方で, 自身の研究遂行は不十分であった.

VII 次年度の目標

引き続きコロナ禍に対応した工夫により, 特に教育をはじめとした各業務の質の担保に努める. また, 入学以来コロナ禍に振り回されてきた3年生の担任として学生生活のサポートを行う. さらに, 大学や職能団体から任せられた役割を果たすとともに, 自身の研究にも注力する.

助教 酒井 克也 博士（理学療法学）

対象期間：2021年4月1日～2022年3月31日まで

I 年度当初の目標

令和3年度は、助教業務を独立して遂行することと、新型コロナウイルスの感染状況に留意しながら、対面での授業を円滑に進めることである。さらに、論文投稿を継続して行うことである。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・専門職間の連携活動論.
- ・運動学実習.
- ・機能解剖学.
- ・理学療法評価学Ⅲ.
- ・理学療法評価学Ⅳ（画像評価）.
- ・日常生活活動学演習.
- ・物理療法学.
- ・物理療法学演習.
- ・運動器障害理学療法学.
- ・運動器障害理学療法学演習.
- ・理学療法学特論Ⅰ（運動器・老年期）.
- ・理学療法技術論.
- ・生体機能計測学.
- ・理学療法応用評価学.
- ・臨床体験実習.
- ・評価実習.
- ・臨床実習Ⅲ（総合実習）.
- ・臨床実習Ⅳ（総合実習）.
- ・卒業研究.

2) 他大学，大学院等の非常勤講師（科目名，大学名）

- ・リハビリテーション概論（法政大学）.

III 研究記録

1 著書（著者本人下線：著書，発行年，発行所，発行場所）

- ・編集 畠昌史，藤野雄次，松田雅弘，田屋雅信，分担執筆 酒井克也：PT臨床評価ガイド，2022，医学書院.
- ・監修 公益社団法人日本理学療法士協会，編集 一般社団法人日本理学療法学会連合理学療法標準化検討委員会ガイドライン部会理学療法ガイドラインシステムティックレビュー班 酒井克也：理学療法ガイドライン第2版，2021，医学書院.

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・Junpei Tanabe, Kazu Amimoto, Katsuya Sakai, Motoyoshi Morishita, Kazuhiro Fukata, Shinpei Osaki, Nao

Yoshihiro: Effects of visual-motor illusion in stroke hemiplegic patients with left-side personal neglect: a report of two cases. *Neuropsychological Rehabilitation*, 28, 1-23, 2022.

- Junpei Tanabe, Kazu Amimoto, Katsuya Sakai, Shinpei Ozaki, Nao Yoshihiro: Effects of kinesthetic illusion induced by visual stimulation on the ankle joint for sit-to-stand in a hemiparesis stroke patient: ABA ' single-case design. *Journal of Physical Therapy Science*, 34(1), 65-70, 2022.
- Katsuya Sakai, Junpei Tanabe, Keisuke Goto, Ken Kumai, Yumi Ikeda: Comparison of functional connectivity during visual-motor illusion, observation, and motor execution. *Journal of Motor Behavior*, 13, 1-9, 2021.
- Katsuya Sakai, Keisuke Goto, Junpei Tanabe, Kazu Amimoto, Ken Kumai, Hiroyo Kamio, Yumi Ikeda: Effects of visual-motor illusion on functional connectivity during motor imagery. *Experimental Brain Research*, 239(7), 2261-2271, 2021.
- 酒井克也: Close-up 理学療法に活かすモニター技術 fNIRS. *理学療法ジャーナル*, 55(8), 894-898, 2021.

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等．本人下線）

- 酒井克也，川崎翼，池田由美，君成田弘八：パーキンソン病患者の運動推定誤差は身体機能の変化に伴って変化するのか，第27回千葉県理学療法士学会，2022年3月6日，Web.
- 酒井克也，細井雄一郎，原田悠亮，池田由美：脳卒中片麻痺患者の運動推定誤差と身体機能との関連，第13回日本ニューロリハビリテーション学会学術集会，2022年2月12日，Web.
- 田邊淳平，網本和，酒井克也：脳卒中片麻痺患者の Personal neglect に対する視覚性運動錯覚の効果 -シングルケースデザインによる検討-，第13回日本ニューロリハビリテーション学会学術集会，2022年2月12日，Web.
- Junpei Tanabe, Kazu Amimoto, Katsuya Sakai, Shinpei Osaki, Nao Yoshihiro, Yusuke Hashimoto, Tokuei Kataoka: Immediate effect of visual-motor illusion with "power image" on the sit-to-stand of stroke, 第19回日本神経理学療法学会学術大会，2021年12月19日，Web.
- 酒井克也，細井雄一郎：脳卒中片麻痺患者における運動イメージの鮮明度と身体機能との関連：予備的研究，第19回日本神経理学療法学会学術大会，2021年12月19日，Web.
- 熊井健，池田由美，酒井克也，後藤圭介，森川健史，柴田恵一郎：姿勢制御時の脳活動と筋活動が立位姿勢制御能力に及ぼす影響 -pilot study-，第19回日本神経理学療法学会学術大会，2021年12月19日，Web.
- 熊井健，池田由美，酒井克也，後藤圭介，森川健史，柴田恵一郎：立位姿勢制御時の脳活動計測 ～oxyHb 値と deoxyHb 値の変化について～，第23回一般社団法人日本光脳機能イメージング学会オンライン学術集会，2021年7月17日，Web.
- 酒井克也，後藤圭介，熊井健，田邊淳平，池田由美：視覚性運動錯覚中の脳機能結合の探索，第58回日本リハビリテーション医学会，2021年6月12日，Web.
- 田邊淳平，網本和，酒井克也，尾崎新平，吉弘奈央：脳卒中患者における視覚性運動錯覚中の錯覚強度と注意機能の関連について，第58回日本リハビリテーション医学会，2021年6月12日，Web.

4 学術集会での招待講演（教育講演や基調講演）やシンポジウム等（学術集会名，テーマ，開催日，場所等）

- 第19回日本神経理学療法学会学術大会，高次脳機能障害の評価と特徴（教育講演），2021年12月18日，Web.

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- 千葉県立保健医療大学学内共同研究費（一般），運動イメージの難易度が運動イメージ中の事象関連脱同期に与える影響，研究代表者.

IV 社会貢献・国際交流記録

4 職能団体委員等（職能団体名称，委員名称，活動期間）

- 千葉県理学療法士会，代議員，2021年度～現在に至る.

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本理学療法士協会、理学療法科学学会、日本ニューロリハビリテーション学会。

2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

- ・Parkinsonism & Related Disorders. Reviewer. 2021年～現在に至る。
- ・Journal of Clinical Neuroscience. Reviewer. 2021年～現在に至る。
- ・千葉県理学療法士会 理学療法の科学と研究. 論文査読者. 2020年～現在に至る。

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催、団体名称、講演テーマ等、対象、開催日、場所）

- ・西武総合病院 院内研修会. Pubmed の使い方. 理学療法士. 2021年4月28日. Web.
- ・千葉県立保健医療大学 市民公開講座. 自分の身体を適切に認識することによる転倒予防. 千葉県民. 2021年10月23日. Web.

7 その他

- ・日本理学療法士協会 地域ケア会議 推進リーダー. 2022年2月～現在に至る。
- ・日本理学療法士協会 介護予防 推進リーダー. 2022年2月～現在に至る。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・教務委員会. 自己点検・評価実施推進部会. ハラスメント委員会. 紀要編集部会. 体験ゼミナール作業部会. 専門職間連携活動論グループ担当教員。

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・リハビリテーション学科会議. 理学療法学専攻会議。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

今年度の目標は助教業務を独立して遂行することと、論文投稿を継続して行うことであった。助教業務は引き継ぎをしながら遂行できた。論文投稿は継続して行え、昨年度と同程度の実績を残すことができた。

VII 次年度の目標

引次年度の目標は、助教業務をさらに円滑にし業務効率を上げることである。さらに、研究は科研費を獲得できたため、新たな実験を開始し、継続して論文投稿を行うことである。

助教 室井 大佑 博士（健康科学）

対象期間：2021年4月1日～2022年3月31日まで

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・千葉県の健康づくり.
- ・理学療法評価学Ⅰ.
- ・理学療法評価学演習.
- ・理学療法評価学Ⅱ.
- ・理学療法評価学Ⅲ.
- ・理学療法評価学Ⅳ（画像評価）.
- ・理学療法応用評価学.
- ・神経系障害理学療法学.
- ・理学療法学特論Ⅱ.
- ・臨床体験実習.
- ・臨床実習Ⅱ.
- ・臨床実習Ⅲ.
- ・臨床実習Ⅳ.
- ・卒業研究.

2) 他大学、大学院等の非常勤講師（科目名、大学名）

- ・リハビリテーション論（淑徳大学）.
- ・疾患別理学療法実習（中枢）（東京メディカルスポーツ専門学校）.

III 研究記録

2 学術論文・その他（著者：題名、雑誌名、巻、号、ページ、発行年、本人下線）

- ・Gao JH, Ling JY, Hong JC, Yasuda K, Muroi D, Iwata H: Investigation of optimal gait speed for motor learning of walking using the vibro-tactile biofeedback system, Annu Int Conf IEEE Eng Med Biol Soc, 4662-4665, 2021.
- ・Muroi D, Saito Y, Koyake A, Higo F, Numaguchi T, Higuchi T: Walking through an aperture while penetrating from the paretic side improves safety managing the paretic side for individuals with stroke who had previous falls, Hum Mov Sci, 81, 102906, 2022.
- ・Muroi D, Saito Y, Koyake A, Yasuda K, Higuchi T: Walking through a narrow opening improves collision avoidance behavior in a patient with stroke and unilateral spatial neglect: an ABA single-case design, Neurocase, 24, 1-9, 2022 (Epub ahead of print) .

4 学術集会での招待講演（教育講演や基調講演）やシンポジウム等（学術集会名、テーマ、開催日、場所等）

- ・第19回日本神経理学療法学会，歩行障害の臨床症状とメカニズムー認知制御編（教育講演），2021年12月18・19日，web.

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名、研究テーマ、研究代表者／研究分担者）

- ・日本学術振興会科学研究費助成事業若手研究，回復期脳卒中者における障害物回避トレーニングの効果検証，研究

代表者.

- ・日本学術振興会科学研究費助成事業基盤研究 (C), 脳卒中患者の退院後の転倒における歩行の適応的運動学習能力の関与, 研究分担者.

IV 社会貢献・国際交流記録

2 地域への保健医療活動(診療・技術指導等. 活動期間. 場所等)

- ・日本 ACLS 協会主催/BLS インストラクター. 2021 年 8 月 15 日・11 月 13 日・2022 年 2 月 13 日. 亀田総合病院.

4 職能団体委員等(職能団体名称. 委員名称. 活動期間)

- ・千葉県理学療法士協会. 学術局企画運営部部長. 2021 年度～現在に至る.

5 学会, 学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本理学療法士協会. 千葉県理学療法士協会. 日本神経理学療法学会. 日本ロボットリハビリテーション・ケア研究会. International Society of Posture and Gait Research.

6 講演会(公開講座を含む) / 研修会の講師・研究指導等(会名称. 主催 団体名称. 講演テーマ等. 対象. 開催日. 場所)

- ・千葉県理学療法士協会 生涯学習研修会. 歩行と転倒. 理学療法士. 2021 年 9 月 19 日. web.
- ・千葉県理学療法士協会 生涯学習研修会. 転倒予防の取り組み. 理学療法士. 2021 年 9 月 19 日. web.

7 その他

- ・医歯薬出版. 理学療法士・作業療法士国家試験模擬試験作問委員. 2017 年度～現在に至る.

V 管理・運営記録

1 全学委員会(委員会名/活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・入試実施委員会. 社会貢献委員会. 危機管理委員会. 進路支援委員会. 学内共同研究審査部会. IR 部会. 千葉県の健康づくり作業部会.

2 学科/専攻内委員会(委員会名/活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・臨床実習担当.

VI 評価(成果および改善すべき事項)

入職初年度であったが、講義は滞りなく実施することができた。学術面においては、国際誌 3 本(うち筆頭著者 2 本)を発表することができ、研究成果について世界に発信することができた。学会や地域貢献として、これまで実施していた医療従事者向けの BLS インストラクターや千葉県理学療法士協会での講演会や学術局の仕事を実施した。とくに千葉県理学療法士協会では、2022 年度から変更される新生涯学習プログラムへの準備に多くの時間を割いた。今後改善すべき点として、大学内の委員会や地域への社会貢献などに関して積極的に改善するためのコメントを出していくことを挙げる。

VII 次年度の目標

講義に関して、より学生に理解しやすいように資料をブラッシュアップする。学術面において、2021 年度と同様、筆頭著者で国際誌 2 本のアクセプトを目指す。また、2022 年度で科研費が切れるので、2023 年度からの科研費獲得を目指す。学会や社会貢献として、2021 年度と同様の活動を実施する。日本神経理学療法学会では 2023 年開催の学術

大会の準備委員となっているため、その準備を行っていく。大学内の委員会では、積極的に意見交換をするようにする。

リハビリテーション学科
作業療法学専攻

教授 兼 リハビリテーション学科長 岡村 太郎 博士 (医学)

対象期間：2021年4月1日～2022年3月31日まで

I 年度当初の目標

令和3年度は、特に感染対策を基底にし、学生の教育や指導を行い、臨床実習において、実習が中止となった学生（施設でのコロナ感染予防など施設・病院都合による）に卒業研究など指導を行う。面接授業による学生のコミュニケーションや対人関係の力の向上を目指し、病院・施設実習の参加を、可能な限り実施を目標としたい。国家資格の全員取得をめざしたい。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）
 - ・作業療法概論.
 - ・作業療法基礎理論. 分担
 - ・基礎作業学実習. 分担
 - ・精神作業療法評価学. 分担
 - ・精神作業療法評価学実習. 分担
 - ・精神作業療法学. 分担
 - ・精神作業療法学演習. 分担
 - ・地域社会参加支援学. 分担
 - ・作業療法管理学.
 - ・作業療法研究法.
 - ・作業療法ゼミナールA①. A②.
 - ・作業療法セミナー. 分担
 - ・臨床体験実習. 分担
 - ・評価実習Ⅰ・Ⅱ. 分担
 - ・総合実習Ⅰ・Ⅱ. 分担
 - ・地域作業療法学実習. 分担
 - ・卒業研究.

III 研究記録

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

・佐藤 紀子，細山田康恵，今井 宏美，大内美穂子，岡村 太郎，麻賀多美代：看護医療系の単科公立大学における地域貢献機能の特徴，千葉県立保健医療大学紀要，第13巻1号，51-58, 2022（学内査読付き）

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・渡辺陵介，佐藤梨乃，若林実里，岡村太郎：回復期リハビリテーション病棟における Allen Cognitive Level Screen - 5 のスコアと家事動作獲得状況の関係，第55回日本作業療法学会，日本作業療法学会抄録集(1880-6635) Page PJ-31 (2021.09)
- ・島田美恵子，岡村太郎，河野舞，荒川真，金子潤：地域健康体操教室参加の高齢者における緊急事態宣言が身体活動量と健康状態に及ぼした影響について，第60回千葉県公衆衛生学，配信は2022年2月9日～2月23日

- ・渡辺 陵介, 成田 悠哉, 岡村 太郎: CPT (cognitive Performance Test) 歯磨き ～認知能力に合わせた生活指導～, 第 2 回千葉県立保健医療大学歯科衛生士研修会, 5 月 9 日, 千葉.

IV 社会貢献・国際交流記録

- ・健康福祉政策課依頼の保健所 (成田支所) の応援依頼. 12/22 (年末の入国の, 水際対策として陽性者あるいは, 機内同乗者全員が濃厚接触者への疫学調査及び健康観察)

5 学会, 学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本作業療法士協会. 千葉県作業療法士会. 日本公衆衛生学会.

2) 学会, 学術団体への貢献 (学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

- ・一般社団法人千葉作業療法士会. 学術部査読委員, 令和 3 年度
- ・一般社団法人千葉作業療法士会学会委員会, 演題査読委員, 令和 3 年度

V 管理・運営記録

1 全学委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・大学運営会議. 共通教育運営会議. 教務委員会. 自己点検・評価委員会. 人事委員会. 教員資格審査委員会. 教員再任資格審査委員会. 教授会. 将来構想検討委員会. 学内共同研究審査部会. FD・SD 委員会 (委員長).

2 学科/専攻内委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・リハビリテーション学科会議 (学科長), 作業療法学専攻会議,

VI 評価 (成果および改善すべき事項)

本年度卒業学生に関して, 国家試験に関して 1 名不合格・就職辞退となった以外は合格し作業療法士として就職できた在学生は, 新型コロナウイルスのやや沈静化するも, 共通科目などの低学年は遠隔授業を強いられたが, 順調に座学の知識は順調に獲得したようである. 高学年である 3 年 4 年生は, 専門科目など実習・演習を伴う授業も工夫により実施されてが, 獲得されるコミュニケーション力や臨床への準備段階として不安が残る. 臨床実習に関して, 病院・施設より感染予防のため実習が中止になるケースもあり, 臨床実習中止の学生に対して対策による補修等実施したが, さらに臨床実習ができるよう対策が課題である. 今後, 現在特に遠隔授業が中心であった 1 年 2 年に関して, 臨床・演習・実習を通じた臨床力, 特に対人・コミュニケーションの臨床での活用状況と点検等課題である. 研究活動が停滞している.

VII 次年度の目標

目標として, 積極的に感染予防を考慮しつつ, 面接授業による学生のコミュニケーションや対人関係の力の向上を目指したい. また, 臨床実習などの参加を, 可能な限り実施を目標としたい. 国家資格の全員取得をめざしたい. 研究活動が停滞に関して, 活性化に向けて改善を試みたい.

教授 兼 作業療法学専攻長 山本 達也 博士 (医学)

対象期間：2021年4月1日～2022年3月31日まで

I 年度当初の目標

令和3年度は、学内業務（教育、管理運営）、COVID-19に対する感染対策を医師としての立場から推進することを目的とした。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）.
 - ・人体の構造1.
 - ・人体の構造実習.
 - ・内科学総論.
 - ・内科学各論.
 - ・神経内科学総論.
 - ・神経内科学各論.
 - ・老年科学.
 - ・臨床医学概論.
 - ・臨床薬理学.
 - ・画像診断学.

- 2) 他大学、大学院等の非常勤講師（科目名、大学名）.
 - ・脳神経内科学・自律神経学（千葉大学大学院）
 - ・疾病治療論Ⅲ（葵会柏看護専門学校）

III 研究記録

1 著書（著者本人下線：著書，発行年，発行所，発行場所）

- ・山本達也（分担執筆）：自律神経 初めて学ぶ方のためのマニュアル（p418-423執筆），2021年11月，中外医学社

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

英文

- ・Liu W, Yamamoto T, Yamanaka Y, Asahina M, Uchiyama T, Hirano S, Shimizu K, Higuchi Y, Kuwabara S. Neuropsychiatric Symptoms in Parkinson's Disease After Subthalamic Nucleus Deep Brain Stimulation. *Front Neurol*. 2021 May 4;12:656041. doi: 10.3389/fneur.2021.656041. PMID: 34017303; PMCID: PMC8129644.
- ・Nakano Y, Hirano S, Kojima K, Li H, Sakurai T, Suzuki M, Tai H, Furukawa S, Sugiyama A, Yamanaka Y, Yamamoto T, Iimori T, Yokota H, Mukai H, Horikoshi T, Uno T, Kuwabara S. Dopaminergic Correlates of Regional Cerebral Blood Flow in Parkinsonian Disorders. *Mov Disord*. 2022 Mar 14. doi: 10.1002/mds.28981. Epub ahead of print. PMID: 35285050.
- ・Osawa K, Sugiyama A, Uzawa A, Hirano S, Yamamoto T, Nezu M, Araki N, Kano H, Kuwabara S. Temporal Changes in Brain Perfusion in a Patient with Myoclonus and Ataxia Syndrome Associated with COVID-19. *Intern Med*. 2022 Apr 1;61(7):1071-1076. doi: 10.2169/internalmedicine.9171-21. Epub 2022 Feb 1. PMID: 35110499; PMCID: PMC9038453.

- Sugiyama A, Terada J, Shionoya Y, Hirano S, Yamamoto T, Yamanaka Y, Araki N, Koshikawa K, Kasai H, Ikeda S, Wang J, Koide K, Ito S, Kuwabara S. Sleep-related hypoventilation and hypercapnia in multiple system atrophy detected by polysomnography with transcutaneous carbon dioxide monitoring. Sleep Breath. 2022 Jan 13:1-11. doi: 10.1007/s11325-022-02568-4. Epub ahead of print. PMID: 35025012; PMCID: PMC8756414.

和文

- 山本達也, 山中 義崇, 平野 成樹, 内山 智之, 樋口 佳則, 桑原 聡 パーキンソン病脳深部刺激療法の下部尿路機能障害への効果 日本排尿機能学会誌(1347-6513)31 巻 2 号 Page383-388(2021.07)
- 山本達也 Autonomic Nervous System:自律神経障害のみで発症する神経難病～各科連携による in situ 診断 膀胱障害(排尿障害初発型のMSA) 自律神経(0288-9250)58 巻 2 号 Page204-207(2021.06)

3 発表(発表者:発表タイトル, 主催学会(学会名称), 開催日, 場所等. 本人下線)

- Yamamoto T, Sakakibara R, Uchiyama T, Kuwabara S. Subthalamic nucleus deep brain stimulation modulate urinary afferent signals by changing the activity of medial prefrontal cortex in Parkinson's disease model rat. 50th International Continence Society. 2021.5.19-5.22 web 参加
- Yamamoto T, Sakakibara R, Uchiyama T, Kuwabara S. The examination of detrusor underactivity in multiple system atrophy International continence society 2021.10.14-10.17 web 参加
- 山本達也, 榊原隆次, 内山 智之, 桑原 聡 パーキンソン病ラットは視床下核脳深部刺激による前頭葉αパワー減少を介して膀胱収縮間隔を延長させる 第15回パーキンソン病・運動障害疾患コンgresプログラム 2021.07 web 参加
- 山本達也, 榊原隆次, 内山 智之, 桑原 聡 多系統萎縮症における排尿筋低活動の評価 第74回日本自律神経学会 web 参加

5 研究資金獲得状況(外部資金・学内共同・学長裁量)(資金名, 研究テーマ, 研究代表者/研究分担者)

- 学内共同研究費, パーキンソン病高位排尿中枢の電気生理学的・神経化学的メカニズムの解明, 研究代表者
- 科学技術研究費 基盤研究(C) 経頭蓋電気刺激による脳神経疾患での姿勢制御異常に対する新規治療開発 研究分担者

IV 社会貢献・国際交流記録

3 審議会, 委員会, 国家試験委員等の実績(活動団体名称, 委員名称, 活動期間)

- 第47回日本神経学会神経内科専門医試験 試験問題作成

5 学会, 学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- 日本内科学会, 日本神経学会, 日本自律神経学会, 日本排尿機能学会, 日本パーキンソン病・運動障害疾患学会
- Movement Disorder Society, International Continence Society

2) 学会, 学術団体への貢献(学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

- 日本神経学会 代議員 2019年4月1日～現在に至る
- 日本排尿機能学会 代議員 2018年5月1日～現在に至る
- 日本自律神経学会 評議員 2017年4月1日～現在に至る

VI 評価(成果および改善すべき事項)

- 目標としていた本学における教育, 管理運営を円滑に行うことについては概ね達成されたと考えられる。
- 研究活動についても論文発表・学会発表など概ね達成されたと考えられる。

VII 次年度の目標

- ・ 医師教員として、他学科の医師教員と協力し全学の医系科目の教育に寄与するとともに、COVID-19 感染対策や大学全体の管理・運営に貢献することを目的とする。

准教授 安部 能成 博士（保健学）

対象期間：2021年4月1日～2022年3月31日まで

I 年度当初の目標

令和3年度は、新型コロナ感染に端を発する諸問題の継続を踏まえて、講義科目を遠隔配信と対面授業の組み合わせにするとともに実技実習科目では更なる工夫を加えた。講義科目においてはライブ配信することにより出欠の問題を回避することに加え、重要ポイントは配布資料として履修学生の手元に届くようにした。なお、最終評価においては昨年度と同様に対面による筆記試験を導入し、最小限度のコミュニケーションを確保した。実技実習科目においては、スタンダードブリーチを前提条件とした感染症対策から導入し、将来的に学生が臨床場面で遭遇する可能性の高い問題について、学内でも取り上げておくこととした。他方、時間を要していた実技試験については担当教員の3人体制により複数回の実技試験を実施することが出来、学生へのフィードバック改善が図られるようになった。

II 教育記録

1 教育の記録

- 1) 担当・補助授業実績（科目名）
 - ・作業療法評価学概論.
 - ・身体作業療法評価学.
 - ・身体作業療法評価学実習.
 - ・作業療法ゼミナールB.
 - ・作業運動学実習.
 - ・地域社会参加支援学演習.
 - ・見学実習.
 - ・評価実習.
 - ・総合実習.
 - ・卒業研究.
- 2) 他大学、大学院等の非常勤講師（科目名、大学名）
 - ・聖学院大学大学院人間福祉学研究科（スピリチュアルケア論）.

III 研究記録

1 著書（著者本人下線：著書、発行年、発行所、発行場所）

- ・安部能成，多職種による緩和ケアテキスト（リハビリ専門職について、及び、生活期リハビリテーション），副読本（終末期リハビリテーション），2021年4月，日本在宅医療連合学会，東京。

2 学術論文・その他（著者：題名、雑誌名、巻、号、ページ、発行年、本人下線）

- ・大学病院の緩和ケアを考える会（教育部会）編著，物語で学ぶ緩和ケア：みんなでめざすチーム医療，（リハビリテーション専門職の役割に関連した記事多数：抽出不可能），137ページ，へるす出版，2021年6月。

3 発表（発表者：発表タイトル、主催学会（学会名称）、開催日、場所等、本人下線）

- ・安部能成，臨床腫瘍学的アプローチによる転移性骨腫瘍への対応，第58回日本リハビリテーション医学会，シンポジウム，2021年6月12日，国立京都国際会館。
- ・安部能成，がん治療医と骨転移の有機的な治療戦略，第59回日本癌治療学会，2021年10月21日，パシフィコ横浜

- ・安部能成, がん緩和ケアの話, 第59回日本癌治療学会, 2021年10月23日, パシフィコ横浜
- ・安部能成, シンポジウム: 神経障害性疼痛評価ガイドライン「医学的リハビリテーションの可能性」, 第14回日本運動器疼痛学会, 2021年11月11日, (オンライン)

4 学術集会での招待講演(教育講演や基調講演)やシンポジウム等(学術集会名, テーマ, 開催日, 場所等)

- ・第59回日本癌治療学会, 第19回CRC教育セミナー司会, 2021年10月23日, パシフィコ横浜
- ・第3回日本在宅医療連合学会学術大会座長, 一般演題: 食支援・口腔ケア・介護予防・リハビリテーション(オンライン), 2021年11月27日.
- ・第45回日本死の臨床研究会「緩和ケアにおけるリハビリテーション」座長, 2021年12月5日, 福岡国際会議場.
- ・第24回在宅ホスピス協会全国大会 in 立川, 全国大会長, 及び, 会長講演「在宅ホスピスは日本を救う」2022年2月19日, 立川在宅ケアクリニック(ハイフリッド開催).

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等(活動名称, 活動期間, 場所等)

- 1) 千葉県内
 - ・千葉大学医学部附属病院地域医療連携部在宅医療インテンシブコース講師(オンライン)
- 2) 千葉県外
 - ・日本在宅医療連合学会, 第5回在宅医療講座-基礎編および応用編, 評価者(オンライン)

2 地域への保健医療活動(診療・技術指導等, 活動期間, 場所等)

- ・順天堂医院リハビリテーション部SRECオブザーバー(オンライン)
- ・白河厚生総合病院骨メタカンファレンス・アドバイザー(オンライン)

4 職能団体委員等(職能団体名称, 委員名称, 活動期間)

- ・日本臨床腫瘍学会「骨転移診療ガイドライン(第2版)」作成委員(外部委託)
- ・千葉県作業療法士会機関紙「作業療法」査読委員
- ・千葉県作業療法士会アドバイザー

5 学会, 学術団体への貢献

- 1) 所属学会・学術団体
 - ・日本癌学会, 日本癌治療学会, 日本がんサポーターズケア学会, 日本緩和医療学会, 日本臨床死生学会, 日本サイコオンコロジー学会, 日本在宅医療連合学会, 日本死の臨床研究会, 日本ホスピス・在宅ケア研究会, 大学病院の緩和ケアを考える会, 日本在宅ホスピス協会, 多施設緩和ケア研究会, ロコモケア研究会, EAPC(European Association of Palliative Care).
- 2) 学会, 学術団体への貢献(学会・学術団体名, 役職, 活動期間)
 - ・日本癌治療学会(理事, 代議員)
 - ・日本緩和医療学会(機関紙編集委員)
 - ・日本がんサポーターズケア学会(骨転移と骨の健康部会/副部会長, 評議員)
 - ・日本在宅医療連合学会(評議員)
 - ・多施設緩和ケア研究会(世話人)
 - ・日本在宅ホスピス協会(世話人)
 - ・大学病院の緩和ケアを考える会(世話人)

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催 団体名称、講演テーマ等、対象、開催日、時場所）

- ・大学病院の緩和ケアを考える会，授業実践大会（運営スタッフ），2021年11月21日，昭和大学豊洲病院（オンライン参加）。

7 その他

Reviewer of these journals below; British Medical Journal Supportive & Palliative Care, Disability and Rehabilitation, Palliative Care Research, Palliative Medicine, Scandinavian Occupational therapy.

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・学生委員会，図書委員会

3 対外広報活動＜新聞・ホームページでの活動・TV出演、ラジオ出演等＞

- ・読売新聞，医療・健康・介護のコラム，安部能成，骨転移でも車いすに移れる手段を考案 作業療法士としてがん患者を支える，2021年12月17日。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

担当講義に対する受講学生，及び，共同担当の教員から頂戴した貴重なフィードバックを踏まえ，講義科目や実習科目について改善の試みを継続していきたい。教材の取捨選択，及び，前年度の講義環境に対する反省を踏まえることにより受講してくる学生の理解は改善したように感じられたが，網羅的な情報提供の減少により，とくに国家試験の模擬試験における学生の知識不足，臨床実習場面において，臨床実習指導者から臨床で必須とされる実技に対する技能不足を指摘されることがあったことから，この点についても一層の改善を検討していく。国家試験対卓の結果，担当学生6名は全員合格を果たした。また，臨床場面では現場での臨床実習指導者とのコミュニケーションが一層円滑となり，学生の積極性にも触れることができた。コロナ禍により一部の学外臨床実習は実施できなくなったが，現場体験には変え難いものの学内実習における机上での補充の役割は果たせたように感じられる。

VII 次年度の目標

確かに，教育機関としての大学では知識の習得が基盤であり，その上に実技を身に付けて技能を習得するという学習のステップがある。しかしながら，国家試験の成績における知識不足の露呈，及び，臨床実習において臨床実習指導者の指摘を活用して，より一層の学習効率の向上が望まれる。しかしながら，コロナ禍により対面授業には大きな制約があり，オンラインでのアクセスが知識偏重となっていることが明らかになっているので，更なる工夫を設定することが目標となる。上記の目標は教員となって20年間，普通の目標であったが，来年度は定年退職となるので，本学で目標を達成することはできなくなった。次の機会が与えられたなら，これまでの経験を踏まえて，その場所で最善を尽くしたい。

准教授 藤田 佳男 博士（リハビリテーション科学）

対象期間：2021年4月1日～2022年3月31日まで

I 年度当初の目標

教育活動に関して学外実習や学内演習での感染対策等については、一定の蓄積が出来たことからこれを継続し、安全な教育の実施に努める。また、理学療法士作業療法士養成施設指導ガイドラインの改訂に合わせた授業や実習等の改変準備を行う。新規開設科目の準備を継続して行う。既存の科目については再度検討を行い、より効果的な内容への変換を図る。

研究活動については、学外研究費の獲得を第一目標とし、引き続き実験の実施および成果のアウトプットに注力する。社会貢献活動については、前年度は十分に実施できなかった高齢者・障害者の運転や地域移動について啓発を行う。また、専門職に対して教育活動を行う。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・千葉県健康づくり.
- ・人体の機能実習.
- ・作業運動学Ⅰ.
- ・作業運動学実習.
- ・高次神経機能作業療法学.
- ・日常生活活動学.
- ・日常生活活動学演習.
- ・福祉機器論.
- ・臨床体験実習.
- ・体験ゼミナール.
- ・評価実習Ⅰ・Ⅱ.
- ・総合実習Ⅰ・Ⅱ.
- ・作業療法ゼミナール①②.
- ・地域作業療法学実習.
- ・卒業研究.

III 研究記録

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

伊賀博紀，澤田辰徳，藤田佳男，内野まどか，山崎彩音：Visual Field with Inhibitory Tasks(VFIT)におけるカットオフ値の検討，作業療法，40巻5号，Page616-624，2021.

藤田佳男：脳卒中後の運転再開におけるリハビリテーションの役割 作業療法の自動車運転と地域での移動支援 日本交通科学学会誌，21巻Suppl. Page29，2021.

4 学術集会での招待講演（教育講演や基調講演）やシンポジウム等（学術集会名，テーマ，開催日，場所等）

- ・第28回秋田県作業療法学会，作業療法と自動車運転マネジメント（特別講演），2021年4月25日（Web開催）
- ・九州作業療法学会2021，最前線 運転と作業療法（公開講座），2021年6月20日（Web開催）

- ・第31回東北作業療法学会，障がい者への自動車運転支援について～運転に関する「共有」と実践～（教育講演），2021年7月25日（Web開催）
- ・International Psychogeriatric Association/Japanese Psychogeriatric Association Regional Meeting, Road Traffic law about the Elderly Driver and Occupational Therapy(シンポジスト), 2021/9/16, Kyoto.

5 研究資金獲得状況（外部資金・学内共同・学長裁量）（資金名，研究テーマ，研究代表者／研究分担者）

- ・文部科学省科学研究費助成事業（若手研究），高齢者の運転適性を評価および訓練する方法の開発，研究代表者，

IV 社会貢献・国際交流記録

1 地域におけるボランティア活動等（活動名称，活動期間，場所等）

- ・政府広報オンライン「高齢ドライバーの方へ～運転免許自主返納を考えるサイン」，2022年2月28日～内閣府HP（<https://nettv.gov-online.go.jp/prg/prg24037.html>）.

3 審議会，委員会，国家試験委員などの実績（活動団体名称，委員名称，活動期間）

- ・内閣府「令和3年度 高齢者の交通安全対策に関する調査」有識者委員，2021年9月から2022年3月まで
- ・全日本指定自動車教習所協会連合会，「高齢運転者支援士」試験作問委員，2021年4月から2022年3月まで
- ・東京都医師会，高齢社会における運転技能および運転環境検討委員会委員，2021年9月から2023年5月まで

4 職能団体委員等（職能団体名称，委員名称，活動期間）

- ・日本作業療法士協会制度対策部「運転と作業療法特設委員会」，委員長，2018年度～2022年度

5 学会，学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本作業療法士協会，日本老年医学会，日本老年精神医学会，認知神経科学会，日本高次脳機能障害学会
自動車技術会，日本公衆衛生学会，日本リハビリテーション工学協会，運転と認知機能研究会
運転と作業療法研究会，日本安全運転・医療研究会，日本交通心理学会，日本認知心理学会，
日本交通科学学会。

2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名，役職，活動期間）

- ・日本高次脳機能障害学会 代議員 2021年～
- ・日本高次脳機能障害学会BFT委員会「運転に関する神経心理学的評価法検討小委員会」委員 2021年～
- ・全日本指定自動車教習所協会連合会 理事 2021年～
- ・運転と作業療法研究会 代表 2014年～
- ・日本安全運転・医療研究会 幹事 2016年～
- ・日本作業療法士協会 学会演題査読委員 2014年～

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称，主催 団体名称，講演テーマ等，対象，開催日時，場所）

- ・高齢社会における運転技能・運転環境シンポジウム，東京都医師会，運転技能へのフレイルの影響，東京都医師会
員，2021年4月17日，東京都医師会館
- ・障害者教習指導員研修，全日本指定教習所協会連合会，高次脳機能障害者の特性と指導法，教習指導員，2021年10
月15日，アルカディア市ヶ谷。
- ・高齢運転者支援士研修，全日本指定教習所協会連合会，高次脳機能障害者の特性と指導法，教習指導員，2021年11
月11日，アルカディア市ヶ谷。
- ・安全運転相談専科教養研修，警察庁運転免許課，高次脳機能障害と運転-作業療法士の立場から-都道府県警察官，
2021年11月30日，関東管区警察学校。
- ・運転再開委員会講演会，埼玉県作業療法士会，確認しておきたい運転に必要な能力」-認知・予測・判断・操作，そ
して処理速度，埼玉県士会員，2021年9月25日（Web開催）

- ・バリアフリー2021, 大阪府社会福祉協議会, ハンドル形電動車椅子の安全利用に係る福祉用具専門相談員向けガイドライン・指導手順書の解説と活用, 2021年8月25日, インテックス大阪

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・特色科目運営会, 入試改革検討委員会, 入試実施委員会, 研究等倫理審査委員会

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称. 活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・リハビリテーション学科会議, 作業療法学専攻会議, 実習ワーキンググループ, 学内実習ワーキンググループ

VI 評価（成果および改善すべき事項）

昨年度に引き続き COVID-19 の影響により, 授業や実習関連の対策に多くの労力を費やした。教育活動については, 学内実習ワーキンググループのリーダーとして実習に代わる課題の円滑な実施に努めた。また次年度から適用になる指定規則改正に必須となる客観的臨床能力試験 (OSCE) の企画および準備を行い, 無事に試行を終えた。担当する地域作業療法学実習は, 学生数の2割増しの実習先を確保することで全員実習を無事終えることができた。新規開設科目である「福祉機器論」は適切な機材を準備し円滑に実施できた。社会貢献活動については, 内閣府関連の調査研究の有識者に選任され, 自身がとりまとめをつとめた「高齢運転者のためのチェックリストと体操」が報告書に掲載された。また政府広報室の「政府広報インターネットTV」で, 啓発動画「高齢ドライバーの方へ～運転免許自主返納を考えるサイン」の作成に協力した。しかし研究については, 実験対象者が高齢者であるため, この環境下での実施は困難であった。また, 教育関連業務にほとんどの時間を費やした結果, 論文執筆などにも時間をとれなかったこと, および科研費が採択されなかったことが反省点である。この対策として, 実施可能な実験計画を立てることや, 新たなテーマの研究を開始し, 業務の効率化を一層図ることにより研究に時間を費やせるようにすることが課題である。

VII 次年度の目標

教育活動に関しては, 改訂された指定規則, 作業療法ガイドライン・コアカリキュラムに準拠した実習前教育や実習の実施ができるよう整備を行う。同時に, 専攻教員の実習や教育に関する事務作業工数の低減および効率化を図る。担当科目については再度検討を行い, より教育効果が高まる内容への変換を図る。教育備品については, 費用対効果を十分に考慮した選定を行う。研究活動については, 学外研究費の獲得, 新規課題への挑戦, 研究成果の社会への還元を行う。

社会貢献活動については, 引き続き高齢者・障害者の運転や地域移動について講演や様々な機関に協力することで啓発を行う。また, 専門職および関連職種に対して教育・啓発活動を行う。

准教授 有川 真弓 博士（保健科学）

対象期間：2021年4月1日～2022年3月31日まで

I 年度当初の目標

2021年度は、コロナ禍での遠隔教育指導が続くと思われるが、制限のある中でなるべく教育効果を高めていきたい。また、可能な範囲で社会貢献活動にも力を注いでいきたい。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・作業分析学.
- ・人間発達学.
- ・作業療法基礎理論.
- ・基礎作業学・演習.
- ・基礎作業学実習.
- ・作業療法ゼミナール.
- ・作業療法評価学総論.
- ・発達期作業療法学.
- ・発達期作業療法学演習.
- ・日常生活活動学演習.
- ・地域社会参加支援学演習.
- ・作業療法セミナー.
- ・臨床体験実習.
- ・評価実習Ⅰ.
- ・評価実習Ⅱ.
- ・総合実習Ⅰ.
- ・総合実習Ⅱ.
- ・地域作業療法学実習.
- ・卒業研究.
- ・専門職間の連携活動論.

III 研究記録

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等．本人下線）

- ・有川真弓，松尾真輔：地域資源評価における作業療法士の視点～児童福祉領域，第23千葉県作業療法士学会，2022.3.6-3.13，WEB開催.

IV 社会貢献・国際交流記録

2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等．活動期間．場所等）

- ・足立区発達障害児支援事業 専門研修等講師．2021年6月1日～2022年3月31日.
- ・練馬区障害児保育巡回指導．2021年4月1日～2022年3月31日.

3 審議会, 委員会, 国家試験委員等の実績 (活動団体名称, 委員名称, 活動期間)

- ・市川市障害支援区分認定審査会審査委員, 2021年4月1日～2022年3月31日.
- ・一般社団法人リハビリテーション教育評価機構評価員, 2021年4月1日～2022年3月31日.
- ・練馬区立こども発達支援センター通所訓練事業等業務委託事業者選定委員会有識者委員, 2021年4月1日～2021年7月31日.

4 職能団体委員等(職能団体名称, 委員名称, 活動期間)

- ・日本作業療法士協会, 制度対策部部員, 2021年4月1日～2022年3月31日.
- ・日本作業療法士協会, 学会演題査読委員, 2021年4月1日～2022年3月31日.
- ・日本作業療法士協会, 代議員, 2021年4月1日～2022年3月31日.
- ・千葉県作業療法士会, 事務局長, 2021年4月1日～2022年3月31日.
- ・千葉県作業療法士会, 代議員, 2021年4月1日～2022年3月31日.
- ・千葉県作業療法士会, 理事, 2021年4月1日～2022年3月31日.
- ・千葉県作業療法士会, 渉外部部長, 2021年4月1日～2022年3月31日.
- ・千葉県作業療法士会, 学術部発達障害委員会委員, 2021年4月1日～2022年3月31日.
- ・千葉県作業療法士会, 学術部査読委員, 2021年4月1日～2022年3月31日.
- ・千葉県作業療法士会, 臨床実習指導者講習会委員会委員, 2021年4月1日～2022年3月31日.

5 学会, 学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本作業療法士協会, 千葉県作業療法士会, 日本感覚統合学会, 日本作業行動学会, 日本LD学会, 日本発達系作業療法学会, 日本リハビリテーション連携科学学会, 日本発達障害学会, 日本特殊教育学会.

2) 学会, 学術団体への貢献 (学会・学術団体名, 役職, 活動期間)

- ・日本感覚統合学会, 効果研究委員, 2021年4月1日～2022年3月31日.
- ・日本発達系作業療法学会, 理事, 2021年4月1日～2022年3月31日.
- ・JDD ネットワーク多職種連携委員会, 副委員長, 2021年4月1日～2022年3月31日.

6 講演会 (公開講座を含む) / 研修会の講師・研究指導等 (会名称, 主催 団体名称, 講演テーマ等, 対象, 開催日, 時場所)

- ・臨床実習指導者講習会 (講師), 千葉県作業療法士会, 演習6-1「MTDLPによるマネジメント課程の実践」, 作業療法士, 2021年5月1日～2日, WEB開催.
- ・臨床実習指導者講習会 (講師), 千葉県作業療法士会, 講義4「臨床実習における学生評価」, 演習7「作業療法参加型臨床実習の理解」, 作業療法士, 2021年7月24日～25日, WEB開催.
- ・臨床実習指導者講習会 (運営スタッフ), 千葉県作業療法士会, 作業療法士, 2021年11月3日～5日, WEB開催.
- ・八千代市児童発達支援センター職員研修 (講師), 八千代市児童発達支援センター職員, 食事をするための体の機能とその発達, 2021年11月19日, 八千代市児童発達支援センター.

V 管理・運営記録

1 全学委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・教務委員会, 危機管理委員会, キャンパス・ハラスメント防止対策委員会相談員, 進路支援委員会, 自己点検・評価委員会認証評価部会

2 学科/専攻内委員会 (委員会名/活動名称, 活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・リハビリテーション学科会議, 作業療法学専攻会議, 学内実習ワーキンググループ, 臨床実習ワーキンググループ

VI 評価（成果および改善すべき事項）

新型コロナウイルス感染症の影響により、対面でのディスカッションが必要な研究活動等が進まず十分な研究活動ができなかった。職能団体の委員会活動はオンラインでの会議を中心に例年よりも活発に活動できた。対面で行われていた社会貢献活動には制限が生じ、取り組むことが難しい時期があった。

VII 次年度の目標

2022年度は、感染対策に配慮して対面での授業を取り入れることで教育効果の向上を図りたい。また、可能な範囲で社会貢献活動にも力を注いでいきたい。

講師 吉野 智佳子 博士（学術）

対象期間：2021年4月1日～2021年12月31日まで

I 年度当初の目標

担当である総合実習の実習施設確保のための交渉を行い、臨床実習の準備を行っていく。学生からの就職相談は必要があれば相談に応じ、県内就職者数を確保していきたい。実施した学内共同研究について、学会発表や学术论文の投稿を進めたい。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・体表解剖学.
- ・体験ゼミナール.
- ・作業運動学Ⅱ.
- ・作業運動学演習.
- ・作業運動学実習.
- ・身体作業療法学Ⅰ.
- ・身体作業療法学Ⅱ.
- ・作業療法学Ⅰ演習.
- ・義肢装具学.
- ・作業療法セミナー（前半）.
- ・専門職間の連携活動論.
- ・臨床体験実習.
- ・評価実習Ⅰ，Ⅱ.
- ・総合実習Ⅰ，Ⅱ.
- ・地域作業療法学実習.
- ・卒業研究.

III 研究記録

1 著書（著者本人下線：著書，発行年，発行所，発行場所）

- ・萩山泰地，田島一美，大橋幸子，本田豊，吉野智佳子：障害別のADL 3前腕切断，8筋萎縮性側索硬化症(ALS)，長崎重信監修，木之瀬隆編集，作業療法学ゴールド・マスター・テキスト日常生活活動学（ADL）改訂第2版，242-244，282-285，メジカルビュー社，東京，2022年3月.

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等。本人下線）

- ・吉野智佳子，森田良文：視覚遮断環境下での手の把握（ピンチ）力調整能力と各指の役割分担の検討，第33回日本ハンドセラピィ学会学術集会，2021年4月24日-25日，長崎（主演）.

IV 社会貢献・国際交流記録

4 職能団体委員等（職能団体名称，委員名称，活動期間）

- ・日本作業療法士協会．教育部 部員（養成教育委員会），2009年～現在.

- ・千葉県作業療法士会、教育部 部員、2019年～現在。

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本作業療法士協会、千葉県作業療法士会、日本義肢装具学会、脳機能とリハビリテーション研究会、日本作業療法研究学会、日本生理人類学会、日本人間工学会、日本臨床神経生理学学会、日本シーティング・コンサルタンツ協会、日本呼吸ケア・リハビリテーション学会、日本心臓リハビリテーション学会、日本リハビリテーション医学会、日本ハンドセラピィ学会。

2) 学会、学術団体への貢献（学会・学術団体名、役職、活動期間）

- ・日本作業療法士協会、事例報告登録制度審査委員、2010年9月～現在に至る。
- ・日本作業療法士協会、学会演題審査委員、2018年1月～現在に至る。
- ・日本作業療法士協会、認定作業療法士（2018年5月～2028年4月）。
- ・日本作業療法士協会、専門作業療法士資格認定審査（試験）監督者 2022年3月13日（webでの実施）。
- ・千葉県作業療法士会、学術誌査読委員、2013年4月～現在に至る。
- ・日本作業療法研究学会、理事、2007年11月～現在に至る。
- ・日本義肢装具学会、正会員、2020年4月～現在に至る。
- ・日本義肢装具学会、倫理委員会委員、2021年10月～現在に至る。
- ・日本リハビリテーション医学会第59回学術集会プログラム委員（演題査読）、2021年12月～現在に至る。
- ・日本呼吸ケア・リハビリテーション学会、初級呼吸ケア指導士（2018年4月～2024年3月）。

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称、主催 団体名称、講演テーマ等、対象、開催日、時場所）

- ・千葉県作業療法士会 現職者研修会2「実践のための作業療法研究」web開催 講師 2021年10月17日、キー局：植草学園大学。
- ・日本作業療法士協会主催 千葉県作業療法士会運営 臨床実習指導者講習会 web開催 講師・ファシリテーター、2021年5月1-2日、7月24日、9月25日、2022年2月27日、キー局：八千代リハビリテーション学院。
- ・住まいと福祉の会例会、最近の義手事情～義手オンラインミーティングで紹介された動画を供覧しながら～ 講演、2021年7月15日 web開催。

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・学術推進企画委員会。

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・リハビリテーション学科会議、作業療法学専攻会議。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

昨年度に引き続きコロナ禍のため、臨床実習受け入れのお断りが多くなり、一部オンラインでの学内実習を行うなど進めたが、昨年度の内容に+αして動画を活用しての演習を行うなどブラッシュアップし、効率化することもできた。研究活動は臨床実習業務が過多となる中、学会発表のエントリーを2件行うことができた。論文投稿には至らなかったが、下準備を行うことはできた。

VII 次年度の目標

退職に伴い、非常勤講師として関わらせていただくこととなった。引き続き本学の教育に尽力させていただければと思う。

講師 松尾 真輔 修士（学術）

対象期間：2021年4月1日～2022年3月31日まで

I 年度当初の目標

2021年度は、臨床実習科目担当として学生が質の良い実習に取り組めるよう専門知識と技術の取得を効果的に行い、臨床場面を意識した指導に繋げていけるようにしていく。また学生に対し入学時から卒業までの講義や個別指導時に、教育効果を高め理解しやすいような指導を心掛ける。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・体験ゼミナール.
- ・千葉県健康づくり.
- ・専門職間の連携活動論.
- ・基礎作業学実習.
- ・人体の機能実習.
- ・作業運動学実習.
- ・作業療法基礎理論.
- ・作業療法評価学総論.
- ・身体作業療法評価学.
- ・身体作業療法評価学実習.
- ・日常生活活動援助学演習.
- ・義肢装具学.
- ・老年期作業療法学.
- ・老年期作業療法学演習.
- ・地域作業療法学概論.
- ・作業療法セミナー.
- ・作業療法ゼミナール.
- ・臨床体験実習.
- ・評価実習Ⅰ・Ⅱ.
- ・総合実習Ⅰ・Ⅱ.
- ・地域作業療法学実習.
- ・卒業研究.

III 研究記録

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等. 本人下線）

- ・島田美恵子，岡村太郎，成田悠哉，松尾真輔，江戸優裕，杉本健太郎，緊急事態宣言下における高齢者の日常身体活動量の推移，第76回日本体力医学会 2021年9月17日
- ・有川真弓，松尾真輔：地域資源評価における作業療法士の視点～児童福祉領域，第23千葉県作業療法士学会，2022年3月6日-3月13日，WEB開催.

IV 社会貢献・国際交流記録

4 職能団体委員等(職能団体名称、委員名称、活動期間)

- ・千葉県作業療法士会、千葉中央ブロック代議員、2014年4月～現在に至る
- ・千葉県作業療法士会、千葉県生活行為向上マネジメント委員会、委員、2013年8月～現在に至る
- ・千葉県作業療法士会、千葉県作業療法誌、査読者、2014年4月～現在に至る
- ・千葉県作業療法士会、災害対策委員会、委員、2015年4月～現在に至る
- ・千葉県POS連盟、千葉POS災害対策委員会、委員、2016年1月～現在に至る
- ・千葉県作業療法士会、副会長、2018年6月～現在に至る
- ・千葉県作業療法士会、運転特設委員会・担当理事、2018年6月～現在に至る
- ・千葉県POS連盟、理事、2018年6月～現在に至る
- ・日本作業療法士協会 代議員 2020年6月～現在に至る

5 学会、学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本作業療法士協会、千葉県作業療法士会、日本公衆衛生学会、千葉県POS連盟、

2) 学会、学術団体への貢献(学会・学術団体名、役職、活動期間)

- ・千葉県POS連盟、理事会出席、(年6回)
- ・千葉県作業療法士会、理事会出席(毎月第1水曜日)
- ・日本作業療法士協会、代議員総会、2021年5月
- ・千葉県作業療法士会、定時総会出席、2021年6月
- ・千葉県POS連盟、地域ケア会議研修会運営スタッフ、2022年2月
- ・千葉県作業療法士会、予算総会出席、2022年3月

6 講演会(公開講座を含む)／研修会の講師・研究指導等(会名称、主催 団体名称、講演テーマ等、対象、開催日時、場所)

- ・千葉県作業療法士会、生活行為向上マネジメント基礎研修会、2021年7月11日
- ・千葉県作業療法士会、生活行為向上マネジメント基礎研修会、2021年10月9日
- ・千葉県作業療法士会、地域共生社会推進委員会ブロック部合同研修会、2021年12月6日
- ・千葉県作業療法士会、千葉県運転支援情報交換会、2021年12月18日
- ・千葉県作業療法士会、生活行為向上マネジメント実践者研修会、2022年1月12日
- ・千葉県作業療法士会、生活行為向上マネジメント事例登録研修会、2022年2月16日
- ・千葉県作業療法士会、第23回千葉県作業療法士学会、各ブロックの視点から、シンポジスト、2022年3月13日

V 管理・運営記録

1 全学委員会(委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・キャンパス・ハラスメント防止委員会、紀要編集部会員、社会貢献委員会、総務企画委員会、危機管理委員会、IR 部会、自己点検・評価委員会報告書作成等部会、教育研究年報編集部員、体験ゼミナール部会員、

2 学科／専攻内委員会(委員会名／活動名称、活動期間は特に記載のない限り年度内)

- ・リハビリテーション学科会議、作業療法学専攻会議、臨床実習指導者会議、実習WG、学内実習WG

VI 評価(成果および改善すべき事項)

専攻内での担当科目や業務の役割では、評価実習と総合実習の科目担当し、実習全体の運営や調整に携わった。また臨床実習指導者会議の開催を企画準備し、オンラインでの実習施設との連絡調整を行った。さらに委員会や部会員

としても他学科と専攻との調整を行い、教育研究年報編集部会では部会長を務め、学内での業務に対して滞りなく取り組めた。さらに学内での社会貢献活動として、所属する職能団体の研修会の運営や講師、県内の医療圏域で構成される職能団体のブロック活動で啓発し、千葉県作業療法士会の役員として組織運営に携わり、コロナ禍での感染対策を意識した取り組みができた。

VII 次年度の目標

次年度も臨床実習の運営と国家試験対策について従事し、専攻業務を円滑に行えるよう意識しながら調整していきたい。また学生への講義や実習に繋がる個別指導を行うと同時に、専攻全体の運営に係る業務に対してバランスよく取り組んでいきたいと考える。

助教 成田 悠哉 修士（リハビリテーション）

対象期間：2021年4月1日～2022年3月31日まで

I 年度当初の目標

2021年度は、教育及び学内運営に関する専門的知識や手順の習得に努め、効率的に業務を進めるよう取り組む。研究活動については、共同研究における成果を報告する。

II 教育記録

1 教育の記録

1) 担当・補助授業実績（科目名）

- ・体験ゼミナール
- ・千葉県健康づくり
- ・専門職間の連携活動論
- ・基礎作業学実習
- ・人体の機能実習
- ・身体作業療法評価学実習
- ・地域社会参加支援学
- ・作業療法ゼミナール
- ・作業療法学特論
- ・臨床体験実習
- ・評価実習Ⅰ・Ⅱ
- ・総合実習Ⅰ・Ⅱ
- ・地域作業療法学実習
- ・卒業研究

III 研究記録

2 学術論文・その他（著者：題名，雑誌名，巻，号，ページ，発行年，本人下線）

- ・Daisuke Ito, Michiyuki Kawakami, Yuya Narita, Taiki Yoshida, Naoki Mori, Kunitsugu Kondo: Cognitive Function is a Predictor of the Daily Step Count in Patients With Subacute Stroke With Independent Walking Ability: A Prospective Cohort Study. Arch Rehabil Res Clin Transl, 15, 3(3), 2021 May.
- ・Shu Tanaka, Daisuke Ito, Yosuke Kimura, Daisuke Ishiyama, Mizue Suzuki, Shingo Koyama, Yuya Narita, Hiroaki Masuda, Katsumi Suzukawa, Minoru Yamada. Relationship between longitudinal changes in skeletal muscle characteristics over time and functional recovery during intensive rehabilitation of patients with subacute stroke, Top Stroke Rehabil, 28, 1-10, 2021 Jun.

3 発表（発表者：発表タイトル，主催学会（学会名称），開催日，場所等，本人下線）

- ・島田美恵子，岡村太郎，成田悠哉，松尾真輔，江戸優裕，杉本健太郎，緊急事態宣言下における高齢者の日常身体活動量の推移，第76回日本体力医学会 2021年9月17日

IV 社会貢献・国際交流記録

2 地域への保健医療活動（診療・技術指導等，活動期間，場所等）

- ・市川保健所応援，2021年8月15日，市川保健所

4 職能団体委員等（職能団体名称，委員名称，活動期間）

- ・千葉県作業療法士会，災害対策委員会，委員，2015年4月～現在
- ・千葉県作業療法士会，教育部，委員，2021年4月～現在
- ・千葉県作業療法士会，事務局 Web 研修班，班員，2020年7月～現在

5 学会，学術団体への貢献

1) 所属学会・学術団体

- ・日本作業療法士協会，千葉県作業療法士会。

2) 学会，学術団体への貢献（学会・学術団体名，役職，活動期間）

- ・千葉県作業療法士会，学術誌編集委員会，委員，2020年4月～現在

6 講演会（公開講座を含む）／研修会の講師・研究指導等（会名称，主催 団体名称，講演テーマ等，対象，開催日，時場所）

- ・歯科衛生学科主催 地域在住高齢者に対する介護予防教室，講師，2021年1月15日，千葉県立保健医療大学

V 管理・運営記録

1 全学委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・紀要編集部会員，広報委員会，入試実施委員会，自己点検評価実施推進部会，体験ゼミナール部会員。

2 学科／専攻内委員会（委員会名／活動名称，活動期間は特に記載のない限り年度内）

- ・リハビリテーション学科会議，作業療法学専攻会議，臨床実習ワーキンググループ，学内実習ワーキンググループ，臨床実習指導者会議。

VI 評価（成果および改善すべき事項）

教育活動では，体験ゼミナールや臨床実習の運営に携わり，一連の進行の補助を行った。また，身体作業療法学実習では，実技指導や臨床推論指導に関わり，学生教育に努めた。研究活動では，脳卒中者の下肢筋量および身体活動に関する論文を報告した。委員会業務として，広報委員会での Web オープンキャンパスの専攻企画作成を中心的に携わった。社会貢献では，千葉県の職能団体の委員として県内作業療法士の基礎研修の運営や災害対策委員会での会員向けの安否確認訓練などを実施した。

VII 次年度の目標

教育活動では，臨床体験実習を主担当として円滑に運営を進める。研究活動では，UR 都市機構や県との連携をはかり，成果を報告する。大学管理運営では，広報委員としてオープンキャンパスの専攻説明会の運営を円滑に行う。社会貢献では，UR 都市機構における介護予防教室を継続し，現場の作業療法士と共同し，定期的を開催していく。

別表 (看護学科 2021年度以降 入学生用)

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
特色科目	体験ゼミナール	特色1	1前	1					○	必修3単位
	千葉県健康づくり	特色2	2後	1				○		
	専門職間の連携活動論	特色3	4後	1				○		
	社会実習 (ボランティア活動)	特色4	2・3・4			1			○	
一般教養科目	人間理解群	心理学	一般1	1・2・3・4前		2		○		選択 4単位 (※1)
		哲学	一般2	1・2・3・4前		2		○		
		文学	一般3	1・2・3・4前		2		○		
		歴史と文化	一般4	1・2・3・4前		2		○		
		生命倫理	一般5	1・2・3・4後		2		○		
		宗教学	一般6	1・2・3・4後		2		○		
		教育学	一般7	1・2・3・4後		2		○		
		人間関係論	一般8	1・2・3・4前		2		○		
		コミュニケーション理論と実際	一般9	1・2・3・4前		2		○		
		健康スポーツ科学	一般10	1・2・3・4前後		1			○	
		生涯身体運動科学	一般11	1・2・3・4前後		1			○	
	生活と環境群	生活とデザイン	一般12	1・2・3・4後		2		○		選択 6単位 (※2)
		法学 (日本国憲法)	一般13	1・2・3・4前		2		○		
		社会学	一般14	1・2・3・4後		2		○		
		文化人類学	一般15	1・2・3・4前		2		○		
		経済学	一般16	1・2・3・4前		2		○		
		国際関係論	一般17	1・2・3・4後		2		○		
		社会福祉学	一般18	1・2・3・4前		1		○		
		国際的な健康課題	一般19	1・2・3・4後		1		○		
		人権・ジェンダー	一般20	1・2・3・4後		2		○		
		科学論	一般21	1・2・3・4前		2		○		
		環境変化と生態	一般22	1・2・3・4後		2		○		
		観察生物学入門	一般23	1・2・3・4前後		2		○		
		生物学	一般24	1・2・3・4前後		2		○		
		物理学	一般25	1・2・3・4前		2		○		
		化学	一般26	1・2・3・4前		2		○		
	情報理解群	統計学	一般27	1後	1				○	必修 2単位
		情報リテラシー I	一般28	1前	1				○	
		情報リテラシー II	一般29	1・2・3・4後		1			○	
		情報倫理	一般30	1・2・3・4後		1		○		
		実践統計学	一般31	2・3・4前		1		○		
	外国語群	英語 I (講読)	一般32	1・2・3・4前		1			○	必修 2単位 + 選択 2単位
		英語 II (英会話)	一般33	1・2・3・4前		1			○	
		英語 III (講読・記述)	一般34	1・2・3・4後		1			○	
		英語 IV (英語コミュニケーション)	一般35	1・2・3・4後		1			○	
		英語 V (保健医療英語)	一般36	2後		2		○		
		英語 VI (応用英語)	一般37	1・2・3・4後		1			○	
		英語 VII (上級英語) A	一般38	2・3・4後		1		○		
	英語 VII (上級英語) B	一般39	2・3・4後		1		○			

【一般教養科目】選択科目から選択8単位

※1 人間理解群における選択科目の履修方法について

「人間関係論」又は「コミュニケーション理論と実際」を含み4単位を選択して履修する。

※2 生活と環境群における選択科目の履修方法について

「文化人類学」「国際関係論」「国際的な健康課題」から1科目及び生物の科目(「観察生物学入門」又は「生物学」)、「物理学」、「化学」のうち2科目を含む6単位以上を選択して履修する。

別表（看護学科 2021年度以降 入学生用）

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
保健医療基礎科目	人間のこころと身体	運動生理学総論	保健1	2前		1		○		
		生化学総論	保健2	2前	1			○		
		栄養学Ⅰ（基礎）	保健3	1後	1			○		
		栄養学Ⅱ（応用）	保健4	1後		1		○		
		心の健康	保健5	1・2・3・4後			1	○		
		薬理学Ⅰ（総論）	保健6	1後	1			○		
		薬理学Ⅱ（各論）	保健7	1後	1			○		
		病理学Ⅰ（総論）	保健8	1前	1			○		
		病理学Ⅱ（各論）	保健9	1前	1			○		
		微生物学Ⅰ（総論）	保健10	1前	1			○		
		微生物学Ⅱ（各論）	保健11	1前	1			○		
		発達心理学	保健12	2前		1		○		
		臨床心理学	保健13	1後		1			○	
	健康と保健医療システム	健康論	保健14	1前		1		○		
		公衆衛生学Ⅰ（基礎）	保健15	1前	1			○		
		公衆衛生学Ⅱ（応用）	保健16	2後	1			○		
		疫学・保健統計Ⅰ（基礎）	保健17	3前	1			○		
		疫学・保健統計Ⅱ（応用）	保健18	3前	1			○		
		リハビリテーション概論	保健19	2後		1		○		
		救命・救急の理論と実際	保健20	2前	1			○		
		画像診断学	保健21	2後		1		○		
		保健医療福祉論Ⅰ（基礎）	保健22	2後	1			○		
		保健医療福祉論Ⅱ（応用）	保健23	2後	1			○		
		食育論Ⅰ（基礎）	保健24	3前		1		○		
		食育論Ⅱ（応用）	保健25	3前		1		○		
		健康と運動	保健26	1後		1		○		
		家族社会学	保健27	1前		1		○		
		医療経営管理論	保健28	3前		1		○		
		リスクマネジメント論	保健29	2後		1		○		
専門科目	専門基礎科目	人体の構造と機能Ⅰ（総論、外皮・免疫系、消化器系、呼吸器系）	看1	1前	1			○		
		人体の構造と機能Ⅱ（循環器系、腎・泌尿器系、内分泌系、生殖器系）	看2	1前	1			○		
		人体の構造と機能Ⅲ（造血器系、骨・筋肉系、神経系、感覚器系）	看3	1後	1			○		
		病態学Ⅰ（内科系疾病論）	看4	2前	2			○		
		病態学Ⅱ（外科系疾病論）	看5	2前	2			○		
		病態学Ⅲ（高齢者・精神疾病論）	看6	2前	1			○		
		臨床検査論	看7	2前	1			○		
	基礎看護科目	看護学入門	看8	1前	1			○		
		看護学原論	看9	1前	1				○	
		看護倫理	看10	2後	1			○		
		看護技術論Ⅰ（生活援助技術）	看11	1後	2				○	
		看護技術論Ⅱ（フィジカルアセスメント技術）	看12	1後	1				○	

必修16単位
＋
選択3単位

【専門科目】
必修77単位
＋
選択3単位

別表 (看護学科 2021年度以降 入学生用)

専門科目	基礎看護科目	看護技術論Ⅲ (検査治療技術)	看 13	2 前	2			○	
		看護技術論Ⅳ (看護過程展開技術)	看 14	2 後	1			○	
		看護技術論Ⅴ (統合技術演習)	看 15	2 後	1			○	
		日常生活調整方法論	看 16	2 前		1		○	
		看護学入門実習	看 17	1 前	2				○
		基礎看護学実習	看 18	2 前	2				○
	医療生活支援	臨床看護学概論	看 19	2 後	1			○	
		臨床看護学方法論Ⅰ (急性期・がん)	看 20	3 前	2			○	
		臨床看護学方法論Ⅱ (慢性期・終末期)	看 21	3 前	2			○	
		臨床看護学方法論Ⅲ (臨床看護技術演習)	看 22	3 後・4 前	1			○	
		ターミナルケア論	看 23	3 前		1		○	
		急性期看護学実習	看 25	3 後・4 前	2				○
		慢性期看護学実習	看 27	3 後・4 前	3				○
	療養生活支援	精神看護学概論	看 28	1 後	1			○	
		高齢者・在宅看護学概論	看 29	1 後	1			○	
		高齢者・在宅看護学方法論Ⅰ	看 30	2 後	1			○	
		高齢者看護学方法論Ⅱ	看 31	3 前	1			○	
		在宅看護学方法論Ⅱ	看 32	3 前	1			○	
		精神看護学方法論Ⅰ	看 33	2 後	1			○	
		精神看護学方法論Ⅱ	看 34	3 前	1			○	
退院支援論		看 35	3 前		1		○		
高齢者看護学実習		看 36	3 後・4 前	3				○	
在宅看護学実習		看 37	3 後・4 前	1				○	
精神看護学実習	看 38	3 後・4 前	2				○		
健康生活支援	地域看護学概論	看 39	2 前	2			○		
	地域看護学方法論Ⅰ	看 40	2 後	1			○		
	地域看護学方法論Ⅱ	看 41	3 前	2			○		
	地域看護学方法論Ⅲ	看 42	3 前	1			○		
	地域看護学実習	看 43	3 後・4 前	3				○	
	看護政策論	看 62	4 後	1			○		
育成支援	育成期看護概論	看 44	2 前	1			○		
	小児看護学方法論Ⅰ	看 45	2 後	1			○		
	小児看護学方法論Ⅱ	看 46	3 前	1			○		
	小児地域ケア論	看 47	3 前		1		○		
	母性看護学方法論Ⅰ	看 48	2 後	1			○		
	母性看護学方法論Ⅱ	看 49	3 前	1			○		
	母性看護学実習	看 50	3 後・4 前	2				○	
	小児看護学実習	看 51	3 後・4 前	2				○	
	助産学概論	看 52	3 前		1		○		
	助産診断・技術学Ⅰ	看 53	3 前		1		○		
	助産診断・技術学Ⅱ	—	4 前		2		○		
助産診断・技術学Ⅲ	—	4 通		3		○			

【専門科目】
(再掲)
必修 7 7 単位
+
選択 3 単位

別表 (看護学科 2021年度以降 入学生用)

専門科目	実践看護科目	育成支援	助産診断・技術学Ⅳ	—	4後		2		○		【専門科目】 (再掲) 必修77単位 + 選択3単位
			助産学実習Ⅰ(産婦ケア体験)	看57	3後		1			○	
			助産学実習Ⅱ(継続支援)	看58	4通		2			○	
			助産学実習Ⅲ(産婦ケア)	—	4通		3			○	
	発展看護科目	看護管理論	—	4前	1			○			
		災害看護学	看63	3前	1			○			
		看護キャリア発達論	看64	2後	1			○			
		看護管理実習	—	4前	1						
		総合実習	—	4通	3					○	
		看護研究	看67	4通	2				○		
		看護学統合	看68	4後	1				○		
		リーダーシップ論	看69	2前	1			○			
		国際看護論	看72	2前		1		○			
		家族看護論	看73	2後		1		○			

先修条件

【特色科目】

- 1 「千葉県の健康づくり」を履修するには「体験ゼミナール」の単位を修得済みであること。
- 2 「社会実習(ボランティア活動)」を履修するには「体験ゼミナール」の単位を修得済みであること。

【一般教養科目】

- 1 「実践統計学」を履修するには「統計学」の単位を修得済みであること。
- 2 「英語Ⅶ(上級英語)A」「英語Ⅶ(上級英語)B」を履修するには「英語Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ,Ⅳ,またはⅥ」の選択2単位を修得済みであること。

別表（看護学科 2021年度以降 入学生用）

先修条件

【専門科目】

1 下記の実習科目および「看護学統合」を履修するには、表に示す所定の科目の単位を既に修得していること、又は同じ学期に単位の修得が見込まれていること。

配当年次	授業科目の名称	履修に先立って修得しておかなければならない授業科目の名称																																				
		講義科目								演習科目								実習科目																				
		看護学入門	精神看護学概論	臨床看護学概論	育成期看護概論	地域看護学概論	地域看護学方法論Ⅰ・Ⅱ	高齢者・在宅看護概論	臨床看護学方法論Ⅰ	臨床看護学方法論Ⅱ	看護管理論	看護学原論	看護技術論ⅠⅡⅢ	看護技術論Ⅳ・Ⅴ	地域看護学方法論Ⅲ	精神看護学方法論Ⅰ・Ⅱ	高齢者・在宅看護学方法論Ⅰ	高齢者看護学方法論Ⅱ	在宅看護学方法論Ⅱ	母性看護学方法論Ⅰ・Ⅱ	小児看護学方法論Ⅰ・Ⅱ	臨床看護学方法論Ⅲ	助産診断・技術学Ⅱ	看護学入門実習	基礎看護学実習	急性期看護学実習	慢性期看護学実習	精神看護学実習	在宅看護学実習	地域看護学実習	高齢者看護学実習	母性看護学実習	小児看護学実習	助産学実習Ⅰ	総合実習			
1前	看護学入門実習	○																																				
2前	基礎看護学実習	○	○								○	○												○														
3後 ～ 4前	急性期看護学実習			○				○	○			○									○		○	○														
	慢性期看護学実習			○				○	○			○										○	○															
	地域看護学実習					○	○					○	○										○	○														
	精神看護学実習		○									○		○										○	○													
	在宅看護学実習							○				○				○		○					○	○														
	高齢者看護学実習							○				○				○	○						○	○														
	母性看護学実習				○							○								○				○	○													
4前	看護管理実習								○																	○	○											
	助産学実習Ⅱ																						○														○	
4通	助産学実習Ⅲ																						○														○	
	総合実習																																					
4後	看護学統合																																				○	

○：単位を既に修得していること、又は同じ学期に単位の修得が見込まれていること。

別表（看護学科 2021年度以降 入学生用）

進級要件

以下の要件を満たした者でなければ、3年次に進級できない。

- 1 1・2年次に配当された特色科目および保健医療基礎科目の必修科目の単位を修得済みの者。
- 2 1・2年次に配当された専門科目のうち、専門基礎科目、基礎看護科目の必修科目の単位を修得済みの者。

卒業要件

科目区分	必修科目	選択科目	合計
特色科目	3単位	0単位	3単位
一般教養科目	4単位	20単位	24単位
保健医療基礎科目	16単位	3単位	19単位
専門科目	77単位	3単位	80単位
合計	100単位	26単位	126単位

○ 助産課程に関する特記事項

助産課程選択の場合は、「助産学概論」及び「助産診断・技術学Ⅰ」の計2単位を選択必修とするほか、別途、「助産診断・技術学Ⅱ」、「助産診断・技術学Ⅲ」、「助産診断・技術学Ⅳ」及び、「助産学実習Ⅰ（産婦ケア体験）」、「助産学実習Ⅱ（継続支援）」、「助産学実習Ⅲ（産婦ケア）」の計13単位が必要である。

○ 養護教諭二種に関する特記事項

「保健師」の免許を基礎資格として「養護教諭二種免許状」を取得する場合、「法学（日本国憲法）」、「健康スポーツ科学」、「生涯身体運動科学」、「英語Ⅴ（保健医療英語）」、「情報リテラシーⅠ」及び「情報リテラシーⅡ」の計8単位が必要である。

○ 総合実習と看護学統合に関する特記事項

「総合実習」と「看護学統合」の履修は、卒業に必要な単位の修得が見込まれている必要がある。

別表（看護学科 2019・2020年度 入学生用）

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
特色科目	体験ゼミナール	特色1	1前	1					○	必修3単位
	千葉県の健康づくり	特色2	2後	1				○		
	専門職間の連携活動論	特色3	4後	1				○		
	社会実習（ボランティア活動）	特色4	2・3・4			1			○	
一般教養科目	人間理解群	心理学	一般1	1・2・3・4前		2		○		選択 4単位 (※1)
		哲学	一般2	1・2・3・4前		2		○		
		文学	一般3	1・2・3・4前		2		○		
		歴史と文化	一般4	1・2・3・4前		2		○		
		生命倫理	一般5	1・2・3・4後		2		○		
		宗教学	一般6	1・2・3・4後		2		○		
		教育学	一般7	1・2・3・4後		2		○		
		人間関係論	一般8	1・2・3・4前		2		○		
		コミュニケーション理論と実際	一般9	1・2・3・4前		2		○		
		健康スポーツ科学	一般10	1・2・3・4前後		1			○	
		生涯身体運動科学	一般11	1・2・3・4前後		1			○	
	生活と環境群	生活とデザイン	一般12	1・2・3・4後		2		○		選択 6単位 (※2)
		法学(日本国憲法)	一般13	1・2・3・4前		2		○		
		社会学	一般14	1・2・3・4後		2		○		
		文化人類学	一般15	1・2・3・4前		2		○		
		経済学	一般16	1・2・3・4前		2		○		
		国際関係論	一般17	1・2・3・4後		2		○		
		社会福祉学	一般18	1・2・3・4前		1		○		
		国際的な健康課題	一般19	1・2・3・4後		1		○		
		人権・ジェンダー	一般20	1・2・3・4後		2		○		
		科学論	一般21	1・2・3・4前		2		○		
		環境変化と生態	一般22	1・2・3・4後		2		○		
		観察生物学入門	一般23	1・2・3・4前後		2		○		
		生物学	一般24	1・2・3・4前後		2		○		
		物理学	一般25	1・2・3・4前		2		○		
		化学	一般26	1・2・3・4前		2		○		
	情報理解群	統計学	一般27	1後	1				○	必修 2単位
		情報リテラシーⅠ	一般28	1前	1				○	
		情報リテラシーⅡ	一般29	1・2・3・4後		1			○	
		情報倫理	一般30	1・2・3・4後		1		○		
		実践統計学	一般31	2・3・4前		1		○		
	外国語群	英語Ⅰ（講読）	一般32	1・2・3・4前		1			○	必修 2単位 + 選択 2単位
		英語Ⅱ（英会話）	一般33	1・2・3・4前		1			○	
		英語Ⅲ（講読・記述）	一般34	1・2・3・4後		1			○	
		英語Ⅳ（英語コミュニケーション）	一般35	1・2・3・4後		1			○	
		英語Ⅴ（保健医療英語）	一般36	2後	2			○		
		英語Ⅵ（応用英語）	一般37	1・2・3・4後		1			○	
		英語Ⅶ（上級英語）A	一般38	2・3・4後		1		○		
		英語Ⅶ（上級英語）B	一般39	2・3・4後		1		○		

【一般教養科目】選択科目から選択8単位

※1 人間理解群における選択科目の履修方法について

「人間関係論」又は「コミュニケーション理論と実際」を含み4単位を選択して履修する。

※2 生活と環境群における選択科目の履修方法について

「文化人類学」「国際関係論」「国際的な健康課題」から1科目及び生物の科目（「観察生物学入門」又は「生物学」）、「物理学」, 「化学」のうち2科目を含む6単位以上を選択して履修する。

別表 (看護学科 2019・2020年度 入学生用)

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
保健医療基礎科目	人間のこころと身体	運動生理学総論	保健1	2前		1		○		
		生化学総論	保健2	2前	1			○		
		栄養学Ⅰ(基礎)	保健3	1後	1			○		
		栄養学Ⅱ(応用)	保健4	1後		1		○		
		心の健康	保健5	1・2・3・4後			1	○		
		薬理学Ⅰ(総論)	保健6	1後	1			○		
		薬理学Ⅱ(各論)	保健7	1後	1			○		
		病理学Ⅰ(総論)	保健8	1前	1			○		
		病理学Ⅱ(各論)	保健9	1前	1			○		
		微生物学Ⅰ(総論)	保健10	1前	1			○		
		微生物学Ⅱ(各論)	保健11	1前	1			○		
		発達心理学	保健12	2前		1		○		
		臨床心理学	保健13	1後		1			○	
	健康と保健医療システム	健康論	保健14	1前		1		○		
		公衆衛生学Ⅰ(基礎)	保健15	1前	1			○		
		公衆衛生学Ⅱ(応用)	保健16	2後	1			○		
		疫学・保健統計Ⅰ(基礎)	保健17	3前	1			○		
		疫学・保健統計Ⅱ(応用)	保健18	3前	1			○		
		リハビリテーション概論	保健19	2後		1		○		
		救命・救急の理論と実際	保健20	2前	1			○		
		画像診断学	保健21	2後		1		○		
		保健医療福祉論Ⅰ(基礎)	保健22	2後	1			○		
		保健医療福祉論Ⅱ(応用)	保健23	2後	1			○		
		食育論Ⅰ(基礎)	保健24	3前		1		○		
		食育論Ⅱ(応用)	保健25	3前		1		○		
		健康と運動	保健26	1後		1		○		
		家族社会学	保健27	1前		1		○		
		医療経営管理論	保健28	3前		1		○		
		リスクマネジメント論	保健29	2後		1		○		
専門科目	専門基礎科目	人体の構造と機能Ⅰ(総論, 外皮・免疫系, 消化器系, 呼吸器系)	看1	1前	1			○		
		人体の構造と機能Ⅱ(循環器系, 腎・泌尿器系, 内分泌系, 生殖器系)	看2	1前	1			○		
		人体の構造と機能Ⅲ(造血器系, 骨・筋肉系, 神経系, 感覚器系)	看3	1後	1			○		
		病態学Ⅰ(内科系疾病論)	看4	2前	2			○		
		病態学Ⅱ(外科系疾病論)	看5	2前	2			○		
		病態学Ⅲ(高齢者・精神疾病論)	看6	2前	1			○		
		臨床検査論	看7	2前	1			○		
	基礎看護科目	看護学入門	看8	1前	1			○		
		看護学原論	看9	1前	1				○	
		看護倫理	看10	2後	1			○		
		看護技術論Ⅰ(生活援助技術)	看11	1後	2				○	
		看護技術論Ⅱ(フィジカルアセスメント技術)	看12	1後	1				○	

必修16単位
+
選択4単位【専門科目】
必修76単位
+
選択3単位

別表（看護学科 2019・2020年度 入学生用）

専門科目	基礎看護科目	看護技術論Ⅲ（検査治療技術）	看 13	2 前	2			○		【専門科目】 （再掲） 必修76単位 ＋ 選択3単位	
		看護技術論Ⅳ（看護過程展開技術）	看 14	2 後	1			○			
		看護技術論Ⅴ（統合技術演習）	看 15	2 後	1			○			
		日常生活調整方法論	看 16	2 前		1		○			
		看護学入門実習	看 17	1 前	2				○		
		基礎看護学実習	看 18	2 前	2				○		
		実践看護科目	医療生活支援	臨床看護学概論	看 19	2 後	1				○
	臨床看護学方法論Ⅰ（急性期・がん）			看 20	3 前	2			○		
	臨床看護学方法論Ⅱ（慢性期・終末期）			看 21	3 前	2			○		
	臨床看護学方法論Ⅲ（臨床看護技術演習）			看 22	3 後・4 前	1			○		
	ターミナルケア論			看 23	3 前		1		○		
	急性期看護学実習			看 25	3 後・4 前	2					○
	慢性期看護学実習			看 27	3 後・4 前	3					○
	療養生活支援		精神看護学概論	看 28	1 後	1			○		
			高齢者・在宅看護学概論	看 29	1 後	1			○		
			高齢者・在宅看護学方法論Ⅰ	看 30	2 後	1			○		
			高齢者看護学方法論Ⅱ	看 31	3 前	1			○		
			在宅看護学方法論Ⅱ	看 32	3 前	1			○		
			精神看護学方法論Ⅰ	看 33	2 後	1			○		
			精神看護学方法論Ⅱ	看 34	3 前	1			○		
			退院支援論	看 35	3 前		1		○		
			高齢者看護学実習	看 36	3 後・4 前	3					○
			在宅看護学実習	看 37	3 後・4 前	1					○
	精神看護学実習		看 38	3 後・4 前	2				○		
	健康生活支援		地域看護学概論	看 39	2 前	2			○		
			地域看護学方法論Ⅰ	看 40	2 後	1			○		
			地域看護学方法論Ⅱ	看 41	3 前	2			○		
			地域看護学方法論Ⅲ	看 42	3 前	1			○		
			地域看護学実習	看 43	3 後・4 前	3					○
			看護政策論	看 62	4 後		1		○		
	育成支援		育成期看護概論	看 44	2 前	1			○		
			小児看護学方法論Ⅰ	看 45	2 後	1			○		
			小児看護学方法論Ⅱ	看 46	3 前	1			○		
		小児地域ケア論	看 47	3 前		1		○			
		母性看護学方法論Ⅰ	看 48	2 後	1			○			
		母性看護学方法論Ⅱ	看 49	3 前	1			○			
		母性看護学実習	看 50	3 後・4 前	2				○		
		小児看護学実習	看 51	3 後・4 前	2				○		
		助産学概論	看 52	3 前		1		○			
		助産診断・技術学Ⅰ	看 53	3 前		1		○			
		助産診断・技術学Ⅱ	—	4 前		2		○			
		助産診断・技術学Ⅲ	—	4 通		2		○			
		助産診断・技術学Ⅳ	—	4 後		2		○			
		助産学実習Ⅰ（産婦ケア体験）	看 57	3 後		1			○		
	助産学実習Ⅱ（継続支援）	看 58	4 通		2			○			
	助産学実習Ⅲ（産婦ケア）	—	4 通		3			○			

別表（看護学科 2019・2020年度 入学生用）

発展看護科目	看護管理論	—	4前	1		○		
	災害看護学	看63	3前	1		○		
	看護キャリア発達論	看64	2後	1		○		
	看護管理実習	—	4前	1				
	総合実習	—	4通	3			○	
	看護研究	看67	4通	2			○	
	看護学統合	看68	4後	1			○	
	リーダーシップ論	看69	2前	1		○		
	国際看護論	看72	2前		1		○	
	家族看護論	看73	2後		1		○	

先修条件

【特色科目】

- 1 「千葉県健康づくり」を履修するには「体験ゼミナール」の単位を修得済みであること。
- 2 「社会実習（ボランティア活動）」を履修するには「体験ゼミナール」の単位を修得済みであること。

【一般教養科目】

- 1 「実践統計学」を履修するには「統計学」の単位を修得済みであること。
- 2 「英語Ⅶ(上級英語)A」「英語Ⅶ(上級英語)B」を履修するには「英語Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ，Ⅳ，またはⅥ」の選択2単位を修得済みであること。

別表（看護学科 2019・2020年度 入学生用）

進級要件

以下の要件を満たした者でなければ、3年次に進級できない。

- 1 1・2年次に配当された特色科目および保健医療基礎科目の必修科目の単位を修得済みの者。
- 2 1・2年次に配当された専門科目のうち、専門基礎科目、基礎看護科目の必修科目の単位を修得済みの者。

卒業要件

科目区分	必修科目	選択科目	合計
特色科目	3単位	0単位	3単位
一般教養科目	4単位	20単位	24単位
保健医療基礎科目	16単位	4単位	20単位
専門科目	76単位	3単位	79単位
合計	99単位	27単位	126単位

○ 助産課程に関する特記事項

助産課程選択の場合は、「助産学概論」及び「助産診断・技術学Ⅰ」の計2単位を選択必修とするほか、別途、「助産診断・技術学Ⅱ」、「助産診断・技術学Ⅲ」、「助産診断・技術学Ⅳ」及び、「助産学実習Ⅰ（産婦ケア体験）」、「助産学実習Ⅱ（継続支援）」、「助産学実習Ⅲ（産婦ケア）」の計12単位が必要である。

○ 養護教諭二種に関する特記事項

「保健師」の免許を基礎資格として「養護教諭二種免許状」を取得する場合、「法学（日本国憲法）」、「健康スポーツ科学」、「生涯身体運動科学」、「英語Ⅴ（保健医療英語）」、「情報リテラシーⅠ」及び「情報リテラシーⅡ」の計8単位が必要である。

○ 総合実習と看護学統合に関する特記事項

「総合実習」と「看護学統合」の履修は、卒業に必要な単位の修得が見込まれている必要がある。

(看護学科 2018年度以前入学者用)

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
特色科目	体験ゼミナール	特色1	1前	1					○	必修3単位
	千葉県健康づくり	特色2	2後	1				○		
	専門職間の連携活動論	特色3	4後	1				○		
一般教養科目	人間理解群	心理学	一般1	1・2・3・4前		2		○		選択 4単位 (※1)
		哲学	一般2	1・2・3・4前		2		○		
		文学	一般3	1・2・3・4前		2		○		
		歴史と文化	一般4	1・2・3・4前		2		○		
		生命倫理	一般5	1・2・3・4後		2		○		
		宗教学	一般6	1・2・3・4後		2		○		
		教育学	一般7	1・2・3・4後		2		○		
		人間関係論	一般8	1・2・3・4前		2		○		
		コミュニケーション理論と実際	一般9	1・2・3・4前		2		○		
		健康スポーツ科学	一般10	1・2・3・4前後		1			○	
		生涯身体運動科学	一般11	1・2・3・4前後		1			○	
	生活と環境群	生活とデザイン	一般12	1・2・3・4後		2		○		選択 6単位 (※2)
		法学(日本国憲法)	一般13	1・2・3・4前		2		○		
		社会学	一般14	1・2・3・4後		2		○		
		文化人類学	一般15	1・2・3・4前		2		○		
		経済学	一般16	1・2・3・4前		2		○		
		国際関係論	一般17	1・2・3・4後		2		○		
		社会福祉学	一般18	1・2・3・4前		1		○		
		国際的な健康課題	一般19	1・2・3・4後		1		○		
		人権・ジェンダー	一般20	1・2・3・4後		2		○		
		科学論	一般21	1・2・3・4前		2		○		
		環境変化と生態	一般22	1・2・3・4後		2		○		
		観察生物学入門	一般23	1・2・3・4前後		2		○		
		生物学	一般24	1・2・3・4前後		2		○		
		物理学	一般25	1・2・3・4前		2		○		
		化学	一般26	1・2・3・4前		2		○		
	情報理解群	統計学	一般27	2後	1				○	必修 2単位
		情報リテラシーⅠ	一般28	1前	1				○	
		情報リテラシーⅡ	一般29	1・2・3・4後		1			○	
		情報倫理	一般30	1・2・3・4後		1		○		
	外国語群	英語Ⅰ(基礎講読)	—	1・2・3・4前		1			○	必修 2単位 + 選択 2単位
		英語Ⅱ(基礎英会話)	—	1・2・3・4前		1			○	
		英語Ⅲ(講読・記述)	一般34	1・2・3・4後		1			○	
		英語Ⅳ(英会話)	—	1・2・3・4後		1			○	
		英語Ⅴ(保健医療英語)	一般36	2後		2		○		
		英語Ⅵ(応用英語)	一般37	1・2・3・4後		1			○	

【一般教養科目】選択科目から選択8単位

※1 人間理解群における選択科目の履修方法について

「人間関係論」又は「コミュニケーション理論と実際」を含み4単位を選択して履修する。

※2 生活と環境群における選択科目の履修方法について

「文化人類学」「国際関係論」「国際的な健康課題」から1科目及び生物の科目（「観察生物学入門」又は「生物学」）、「物理学」、「化学」のうち2科目を含む6単位以上を選択して履修する。

(看護学科 2018年度以前入学者用)

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
保健医療基礎科目	人間のこころと身体	運動生理学総論	保健1	2前		1		○		必修16単位 + 選択4単位
		生化学総論	保健2	2前	1			○		
		栄養学Ⅰ(基礎)	保健3	1後	1			○		
		栄養学Ⅱ(応用)	保健4	1後		1		○		
		心の健康	保健5	1・2・3・4前			1	○		
		薬理学Ⅰ(総論)	保健6	1後	1			○		
		薬理学Ⅱ(各論)	保健7	1後	1			○		
		病理学Ⅰ(総論)	保健8	1前	1			○		
		病理学Ⅱ(各論)	保健9	1前	1			○		
		微生物学Ⅰ(総論)	保健10	1前	1			○		
		微生物学Ⅱ(各論)	保健11	1前	1			○		
		発達心理学	保健12	2前		1		○		
		臨床心理学	保健13	1後		1			○	
	健康と保健医療システム	健康論	保健14	1前		1		○		
		公衆衛生学Ⅰ(基礎)	保健15	1前	1			○		
		公衆衛生学Ⅱ(応用)	保健16	2後	1			○		
		疫学・保健統計Ⅰ(基礎)	保健17	3前	1			○		
		疫学・保健統計Ⅱ(応用)	保健18	3前	1			○		
		リハビリテーション概論	保健19	2後		1		○		
		救命・救急の理論と実際	保健20	2前	1			○		
		保健医療福祉論Ⅰ(基礎)	保健22	2後	1			○		
		保健医療福祉論Ⅱ(応用)	保健23	2後	1			○		
		食育論Ⅰ(基礎)	保健24	3前		1		○		
		食育論Ⅱ(応用)	保健25	3前		1		○		
		健康と運動	保健26	1後		1		○		
		家族社会学	保健27	1前		1		○		
		医療経営管理論	保健28	4後		1		○		
		リスクマネジメント論	保健29	2後	1			○		
		専門科目	専門基礎科目	人体の構造と機能Ⅰ(骨・筋・神経系)	—	1前	1			
人体の構造と機能Ⅱ(呼吸器・循環器・消化器系)	—			1前	1			○		
人体の構造と機能Ⅲ(泌尿器・生殖器・感覚器系)	—			1後	1			○		
病態学Ⅰ(内科系疾病論)	看4			2前	2			○		
病態学Ⅱ(外科系疾病論)	看5			2前	2			○		
病態学Ⅲ(高齢者・精神疾病論)	看6			2前	1			○		
臨床検査実習	—			2前	1				○	
基礎看護科目	看護学入門		看8	1前	1				○	
	看護倫理		看10	2後	1				○	
	看護技術論Ⅰ(生活援助技術)		看11	1前	2				○	
	看護技術論Ⅱ(看護共通技術)		—	1後	1				○	

(看護学科 2018年度以前入学者用)

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
専門科目	基礎看護科目	看護技術論Ⅲ (フィジカルアセスメント技術)	—	2 前	2				○	
		看護技術論Ⅳ (検査治療技術)	—	2 後	2				○	
		看護技術論Ⅴ (看護過程展開技術)	—	2 後	1				○	
		看護ふれあい体験学習	—	1 前	2					○
		基礎看護学実習	看 18	2 前	2					○
	医療・生活支援	成人看護学概論	—	2 後	1				○	
		成人看護学方法論Ⅰ	—	3 前	2				○	
		成人看護学方法論Ⅱ	—	3 前	2				○	
		がん看護学	—	2 後	1				○	
		ターミナルケア論	看 23	3 前		1			○	
		成人看護学実習 (急性期)	看 24	3 後・4 前	3					○
		成人看護学実習 (慢性期)	看 26	3 後・4 前	3					○
	療養支援	こころの健康と看護	—	1 後	1				○	
		療養支援看護概論	—	2 前	1				○	
		高齢者・在宅看護学方法論Ⅰ	看 30	2 後	1				○	
		高齢者・在宅看護学方法論Ⅱ	—	3 前	2				○	
		精神看護学方法論	—	3 前	2				○	
		高齢者看護学実習	看 36	3 後・4 前	3					○
		在宅看護学実習	看 37	3 後・4 前	1					○
	精神看護学実習	看 38	3 後・4 前	2					○	
	健康支援	地域看護学概論	看 39	2 前	2				○	
		地域看護学方法論Ⅰ	看 40	2 後	1				○	
		地域看護学方法論Ⅱ	看 41	3 前	2				○	
		地域看護学方法論Ⅲ	看 42	3 前	2				○	
		地域看護学実習	看 43	3 後・4 前	3					○
	育成支援	育成支援看護概論	—	2 前	1				○	
		小児看護学方法論Ⅰ	看 45	2 後	1				○	
小児看護学方法論Ⅱ		看 46	3 前	1				○		
母性看護学方法論Ⅰ		看 48	2 後	1				○		
母性看護学方法論Ⅱ		看 49	3 前	1				○		
母性看護学実習		看 50	3 後・4 前	2					○	
小児看護学実習		看 51	3 後・4 前	2					○	
助産学概論		看 52	3 前		1			○		
助産診断・技術学Ⅰ (実践基礎)		—	3 前		1			○		
助産診断・技術学Ⅱ (ライフサイクル各期)		看 54	4 前		2			○		
助産診断・技術学Ⅲ (分娩期)		看 55	4 通		2			○		
助産診断・技術学Ⅳ (ハリス分娩)		看 56	4 後		2			○		
助産学実習Ⅰ (産婦ケア体験)		看 57	3 後		1				○	
助産学実習Ⅱ (継続支援)		看 58	4 通		3				○	
助産学実習Ⅲ (分娩期ケア)		看 59	4 通		3				○	

【専門科目】
(再掲)
必修 7.5 単位
+
選択 4 単位

(看護学科 2018 年度以前入学者用)

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
専門科目	発展看護科目	看護管理学	看 60	4 前	1			○		【専門科目】 (再掲) 必修 7.5 単位 + 選択 4 単位
		感染看護学	—	2 後		1		○		
		看護政策論	看 62	4 後		1		○		
		災害看護学	看 63	3 前	1			○		
		看護キャリア発達論	看 64	2 前		1		○		
		看護管理学実習	看 65	4 前	1				○	
		総合実習	看 66	4 通	2				○	
		看護研究	看 67	4 通	2				○	
		看護学統合	看 68	4 後	1				○	
		リーダーシップ論	看 70	4 後		1		○		
		継続看護方法論	看 71	4 後		1		○		
		国際看護論	看 72	2 前		1		○		
		家族看護学概論	—	2 後		1		○		
		家族看護学方法論	—	3 前		1		○		

先修条件

【特色科目 (平成28年度入学生より適用する)】

1. 「千葉県の健康づくり」を履修するには「体験ゼミナール」の単位を修得済みであること。
2. 「専門職間の連携活動論」を履修するには「体験ゼミナール」, 「千葉県の健康づくり」の単位を修得済みであること。

【専門科目】

1. 下記の実習科目および「看護学統合」を履修するには、表に示す所定の科目の単位を既に修得していること、又は同じ学期に単位の修得見込みであること。

配当 年次	授業科目の名称	履修に先立って修得しておかなければならない授業科目の名称																									
		講義科目					演習科目							実習科目													
		看護学入門	こころの健康と看護	成人看護学概論	育成支援看護概論	地域看護学概論	療養支援看護概論	看護管理学	看護技術論Ⅰ～Ⅲ	看護技術論Ⅳ～Ⅴ	成人看護学方法論Ⅰ～Ⅱ	地域看護学方法論Ⅰ～Ⅲ	精神看護学方法論	高齢者・在宅看護学方法論Ⅰ～Ⅱ	母性看護学方法論Ⅰ～Ⅱ	小児看護学方法論Ⅰ～Ⅱ	看護ふれあい体験学習	基礎看護学実習	成人看護学実習(急性期)	成人看護学実習(慢性期)	精神看護学実習	在宅看護学実習	地域看護学実習	高齢者看護学実習	母性看護学実習	小児看護学実習	総合実習
1前	看護ふれあい体験学習	○																									
2前	基礎看護学実習	○	○					○								○											
3後 ～ 4前	成人看護学実習(急性期)			○					○	○						○	○										
	成人看護学実習(慢性期)			○					○	○						○	○										
	地域看護学実習					○			○	○						○	○										
	精神看護学実習						○		○		○					○	○										
	在宅看護学実習						○		○			○				○	○										
	高齢者看護学実習						○		○			○				○	○										
	母性看護学実習								○					○		○	○										
小児看護学実習								○						○	○	○											
4前	看護管理学実習						○										○	○									
4後	総合実習																										
	看護学統合																	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

○：単位を既に修得していること、又は同じ学期に単位の修得見込みであること。

卒業要件

科目区分	必修科目	選択科目	合計
特色科目	3単位	0単位	3単位
一般教養科目	4単位	20単位	24単位
保健医療基礎科目	16単位	4単位	20単位
専門科目	75単位	4単位	79単位
合計	98単位	28単位	126単位

○ 助産課程に関する特記事項

助産課程選択の場合は、「助産学概論」及び「助産診断・技術学Ⅰ（実践基礎）」の計2単位を選択必修とするほか、別途、「助産診断・技術学Ⅱ（ライフサイクル各期）」、「助産診断・技術学Ⅲ（分娩期）」、「助産診断・技術学Ⅳ（ハイリスク分娩）」及び、「助産学実習Ⅰ（産婦ケア体験）」、「助産学実習Ⅱ（継続支援）」、「助産学実習Ⅲ（分娩期ケア）」の計13単位が必要である。

○ 養護教諭二種に関する特記事項

「保健師」の免許を基礎資格として「養護教諭二種免許状」を取得する場合、「法学（日本国憲法）」、「健康スポーツ科学」、「生涯身体運動科学」、「英語Ⅴ（保健医療英語）」、「情報リテラシーⅠ」及び「情報リテラシーⅡ」の計8単位が必要である。

○ 総合実習と看護学統合に関する特記事項

「総合実習」と「看護学統合」の履修は、卒業に必要な単位の修得が見込まれている必要がある。

別表（看護学科 2021・2022年度 編入学生用）

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
特色科目	体験ゼミナール	特色 1	3 前	1					○	必修3単位
	千葉県健康づくり	特色 2	3 後	1				○		
	専門職間の連携活動論	特色 3	4 後	1				○		
	社会実習（ボランティア活動）	特色 4	4			1			○	
一般教養科目	人間理解群	心理学	一般 1	3・4 前		2		○		選択 4単位 (※1)
		哲学	一般 2	3・4 前		2		○		
		文学	一般 3	3・4 前		2		○		
		歴史と文化	一般 4	3・4 前		2		○		
		生命倫理	一般 5	3・4 後		2		○		
		宗教学	一般 6	3・4 後		2		○		
		教育学	一般 7	3・4 後		2		○		
		人間関係論	一般 8	3・4 前		2		○		
		コミュニケーション理論と実際	一般 9	3・4 前		2		○		
		健康スポーツ科学	一般 10	3・4 後		1			○	
		生涯身体運動科学	一般 11	3・4 前後		1			○	
	生活と環境群	生活とデザイン	一般 12	3・4 後		2		○		選択 6単位 (※2)
		法学(日本国憲法)	一般 13	3・4 前		2		○		
		社会学	一般 14	3・4 後		2		○		
		文化人類学	一般 15	3・4 前		2		○		
		経済学	一般 16	3・4 前		2		○		
		国際関係論	一般 17	3・4 後		2		○		
		社会福祉学	一般 18	3・4 前		1		○		
		国際的な健康課題	一般 19	3・4 後		1		○		
		人権・ジェンダー	一般 20	3・4 後		2		○		
		科学論	一般 21	3・4 前		2		○		
		環境変化と生態	一般 22	3・4 後		2		○		
		観察生物学入門	一般 23	3・4 前後		2		○		
		生物学	一般 24	3・4 前後		2		○		
		物理学	一般 25	3・4 前		2		○		
		化学	一般 26	3・4 前		2		○		
	情報理解群	統計学	一般 27	3・4 後	1				○	必修 2単位
		情報リテラシー I	一般 28	3 前	1				○	
		情報リテラシー II	一般 29	3・4 後		1			○	
		情報倫理	一般 30	3・4 後		1		○		
		実践統計学	一般 31	4 前		1		○		
	外国語群	英語 I（講読）	一般 32	3・4 前		1			○	必修 2単位 + 選択 2単位
		英語 II（英会話）	一般 33	3・4 前		1			○	
		英語 III（講読・記述）	一般 34	3・4 後		1			○	
		英語 IV（英語コミュニケーション）	一般 35	3・4 後		1			○	
		英語 V（保健医療英語）	一般 36	3 後		2		○		
		英語 VI（応用英語）	一般 37	3・4 後		1			○	
		英語 VII（上級英語） A	一般 38	4 後		1		○		
		英語 VII（上級英語） B	一般 39	4 後		1		○		

【一般教養科目】選択科目から選択8単位

※1 人間理解群における選択科目の履修方法について

「人間関係論」又は「コミュニケーション理論と実際」を含み4単位を選択して履修する。

※2 生活と環境群における選択科目の履修方法について

「文化人類学」「国際関係論」「国際的な健康課題」から1科目及び生物の科目（「観察生物学入門」又は「生物学」）、「物理学」、「化学」のうち2科目を含む6単位以上を選択して履修する。

別表（看護学科 2021・2022年度 編入学生用）

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習		
保健医療基礎科目	人間のこころと身体	運動生理学総論	保健 1	3 前		1		○		必修 16 単位 + 選択 4 単位	
		生化学総論	—	—	1			○			
		栄養学 I（基礎）	—	—	1			○			
		栄養学 II（応用）	—	3 後		1		○			
		薬理学 I（総論）	—	—	1			○			
		薬理学 II（各論）	—	—	1			○			
		病理学 I（総論）	—	—	1			○			
		病理学 II（各論）	—	—	1			○			
		微生物学 I（総論）	—	—	1			○			
		微生物学 II（各論）	—	—	1			○			
		発達心理学	保健 12	4 前		1		○			
	臨床心理学	保健 13	3 後		1			○			
	健康と保健医療システム	健康論	保健 14	3 前		1		○			
		公衆衛生学 I（基礎）	—	—	1			○			
		公衆衛生学 II（応用）	—	—	1			○			
		疫学・保健統計 I（基礎）	保健 17	3 前	1			○			
		疫学・保健統計 II（応用）	保健 18	3 前	1			○			
		リハビリテーション概論	保健 19	3 後		1		○			
		救命・救急の理論と実際	保健 20	3 前	1			○			
		画像診断学	保健 21	3 後		1		○			
		保健医療福祉論 I（基礎）	保健 22	3 後	1			○			
		保健医療福祉論 II（応用）	保健 23	3 後	1			○			
		食育論 I（基礎）	保健 24	3 前		1		○			
		食育論 II（応用）	保健 25	3 前		1		○			
		健康と運動	保健 26	3 後		1		○			
		家族社会学	保健 27	3 前		1		○			
		医療経営管理論	保健 28	3 前		1		○			
		リスクマネジメント論	保健 29	3 後	1			○			
		専門科目	専門基礎科目	人体の構造と機能 I（総論, 外皮・免疫系, 消化器系, 呼吸器系）	—	—	1				○
人体の構造と機能 II（循環器系, 腎・泌尿器系, 内分泌系, 生殖器系）				—	—	1			○		
人体の構造と機能 III（造血器系, 骨・筋肉系, 神経系, 感覚器系）	—			—	1			○			
病態学 I（内科系疾病論）	—			—	2			○			
病態学 II（外科系疾病論）	—			—	2			○			
病態学 III（高齢者・精神疾病論）	—			—	1			○			
臨床検査論	—			—	1			○			
基礎看護科目	看護学入門			—	—	1			○		
	看護学原論		—	—	1				○		
	看護倫理		看 10	3 後	1			○			
	看護技術論 I（生活援助技術）		—	—	2			○			
	看護技術論 II（フィジカルアセスメント技術）		—	—	1				○		

別表（看護学科 2021・2022年度 編入学生用）

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
専門科目	基礎看護科目	看護技術論Ⅲ（検査治療技術）	—	—	2				○	
		看護技術論Ⅳ（看護過程展開技術）	—	—	1				○	
		看護技術論Ⅴ（統合技術演習）	—	—	1				○	
		日常生活調整方法論	看16	3・4前		1			○	
		看護学入門実習	—	—	2					○
		基礎看護学実習	—	—	2					○
	医療生活支援	臨床看護学概論	看19	3後	1				○	
		臨床看護学方法論Ⅰ（急性期・がん）	—	—	2				○	
		臨床看護学方法論Ⅱ（慢性期・終末期）	—	—	2				○	
		臨床看護学方法論Ⅲ（臨床看護技術演習）	—	—	1				○	
		ターミナルケア論	看23	3・4前		1			○	
		急性期看護学実習	—	—	2					○
		慢性期看護学実習	—	—	3					○
	療養生活支援	精神看護学概論	看28	3後	1				○	
		高齢者・在宅看護学概論	看29	3後	1				○	
		高齢者・在宅看護学方法論Ⅰ	—	—	1				○	
		高齢者看護学方法論Ⅱ	—	—	1				○	
		在宅看護学方法論Ⅱ	—	—	1				○	
		精神看護学方法論Ⅰ	—	—	1				○	
		精神看護学方法論Ⅱ	—	—	1				○	
		退院支援論	看35	3・4前		1			○	
		高齢者看護学実習	—	—	3					○
	健康生活支援	地域看護学概論	看39	3前	2				○	
		地域看護学方法論Ⅰ	看40	3後	1				○	
		地域看護学方法論Ⅱ	看41	3前	2				○	
		地域看護学方法論Ⅲ	看42	3前	1				○	
		地域看護学実習	看43	3後	3					○
看護政策論		看62	3・4後		1			○		
育成支援	育成期看護概論	看44	3前	1				○		
	小児看護学方法論Ⅰ	—	—	1				○		
	小児看護学方法論Ⅱ	—	—	1				○		
	小児地域ケア論	看47	3・4前		1			○		
	母性看護学方法論Ⅰ	—	—	1				○		
	母性看護学方法論Ⅱ	—	—	1				○		
	母性看護学実習	—	—	2					○	
	小児看護学実習	—	—	2					○	
助産学概論	看52	3前		1			○			
助産診断・技術学Ⅰ	看53	3前		1			○			

【専門科目】
（再掲）
必修76単位
＋
選択3単位

別表（看護学科 2021・2022年度 編入学生用）

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
専門科目	発展看護科目	看護管理論	—	4前	1			○		【専門科目】 (再掲) 必修 76 単位 + 選択 3 単位
		災害看護学	看 63	3前	1			○		
		看護キャリア発達論	看 64	3後	1			○		
		看護管理実習	—	4前	1				○	
		総合実習	—	4通	3				○	
		看護研究	看 67	4通	2			○		
		看護学統合	看 68	4後	1			○		
		リーダーシップ論	看 69	3・4前	1			○		
		国際看護論	看 72	3前		1		○		
		家族看護論	看 73	3後		1		○		

(看護学科 2023年度以降 編入学生用)

【特色科目】

- 1 「千葉県の健康づくり」を履修するには「体験ゼミナール」の単位を修得済みであること。
- 2 「専門職間の関係活動論」を履修するには「体験ゼミナール」、「千葉県の健康づくり」の単位を修得済みであること。
- 3 「社会実習（ボランティア活動）」を履修するには「体験ゼミナール」の単位を修得済みであること。

【一般教養科目】

- 1 「実践統計学」を履修するには「統計学」の単位を修得済みであること。
- 2 「英語Ⅶ(上級英語)A」「英語Ⅶ(上級英語)B」を履修するには「英語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、またはⅥ」の選択2単位を修得済みであること。

別表（看護学科 2021・2022年度 編入学生用）

卒業要件

科目区分	必修科目	選択科目	合 計
特色科目	3単位	0単位	3単位
一般教養科目	4単位	20単位	24単位
保健医療基礎科目	16単位	4単位	20単位
専門科目	76単位	3単位	79単位
合 計	99単位	27単位	126単位

○ 養護教諭二種に関する特記事項

「保健師」の免許を基礎資格として「養護教諭二種免許状」を取得する場合、「法学（日本国憲法）」、「健康スポーツ科学」、「生涯身体運動科学」、「英語Ⅴ（保健医療英語）」、「情報リテラシーⅠ」及び「情報リテラシーⅡ」の計8単位が必要である。

(看護学科 2020年度以前編入学生用)

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
特色科目	体験ゼミナール	特色1	3前	1					○	必修3単位
	千葉県の健康づくり	特色2	3後	1				○		
	専門職間の連携活動論	特色3	4後	1				○		
一般教養科目	人間理解群	心理学	一般1	3・4前		2		○		選択 4単位 (※1)
		哲学	一般2	3・4前		2		○		
		文学	一般3	3・4前		2		○		
		歴史と文化	一般4	3・4前		2		○		
		生命倫理	一般5	3・4後		2		○		
		宗教学	一般6	3・4後		2		○		
		教育学	一般7	3・4後		2		○		
		人間関係論	一般8	3・4前		2		○		
		コミュニケーション理論と実際	一般9	3・4前		2		○		
		健康スポーツ科学	一般10	3・4後		1			○	
		生涯身体運動科学	一般11	3・4前後		1			○	
	生活と環境群	生活とデザイン	一般12	3・4後		2		○		選択 6単位 (※2)
		法学(日本国憲法)	一般13	3・4前		2		○		
		社会学	一般14	3・4後		2		○		
		文化人類学	一般15	3・4前		2		○		
		経済学	一般16	3・4前		2		○		
		国際関係論	一般17	3・4後		2		○		
		社会福祉学	一般18	3・4前		1		○		
		国際的な健康課題	一般19	3・4後		1		○		
		人権・ジェンダー	一般20	3・4後		2		○		
		科学論	一般21	3・4前		2		○		
		環境変化と生態	一般22	3・4後		2		○		
		観察生物学入門	一般23	3・4前後		2		○		
		生物学	一般24	3・4前後		2		○		
		物理学	一般25	3・4前		2		○		
		化学	一般26	3・4前		2		○		
	情報理解群	統計学	一般27	3後	1				○	必修 2単位
		情報リテラシーⅠ	一般28	3前	1				○	
		情報リテラシーⅡ	一般29	3・4後		1			○	
		情報倫理	一般30	3・4後		1		○		
外国語群	英語Ⅰ(基礎講読)	—	3・4前		1			○	必修 2単位 + 選択 2単位	
	英語Ⅱ(基礎英会話)	—	3・4前		1			○		
	英語Ⅲ(講読・記述)	一般34	3・4後		1			○		
	英語Ⅳ(英会話)	—	3・4後		1			○		
	英語Ⅴ(保健医療英語)	一般36	3後		2		○			
	英語Ⅵ(応用英語)	一般37	3・4後		1			○		

【一般教養科目】選択科目から選択8単位

※1 人間理解群における選択科目の履修方法について

「人間関係論」又は「コミュニケーション理論と実際」を含み4単位を選択して履修する。

※2 生活と環境群における選択科目の履修方法について

「文化人類学」「国際関係論」「国際的な健康課題」から1科目及び生物の科目(「観察生物学入門」又は「生物学」)、「物理学」、「化学」のうち2科目を含む6単位以上を選択して履修する。

(看護学科 2020年度以前編入学生用)

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等			
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習				
保健医療基礎科目	人間のこころと身体	運動生理学総論	保健 1	3 前		1		○		必修 16 単位 + 選択 4 単位			
		生化学総論	—	—	1			○					
		栄養学Ⅰ (基礎)	—	—	1			○					
		栄養学Ⅱ (応用)	保健 4	3 後		1		○					
		薬理学Ⅰ (総論)	—	—	1			○					
		薬理学Ⅱ (各論)	—	—	1			○					
		病理学Ⅰ (総論)	—	—	1			○					
		病理学Ⅱ (各論)	—	—	1			○					
		微生物学Ⅰ (総論)	—	—	1			○					
		微生物学Ⅱ (各論)	—	—	1			○					
		発達心理学	保健 12	4 前		1		○					
	臨床心理学	保健 13	3 後		1			○					
	健康と保健医療システム	健康論	保健 14	3 前		1		○					
		公衆衛生学Ⅰ (基礎)	—	—	1			○					
		公衆衛生学Ⅱ (応用)	—	—	1			○					
		疫学・保健統計Ⅰ (基礎)	保健 17	3 前	1			○					
		疫学・保健統計Ⅱ (応用)	保健 18	3 前	1			○					
		リハビリテーション概論	保健 19	3 後		1		○					
		救命・救急の理論と実際	保健 20	3 前	1			○					
		保健医療福祉論Ⅰ (基礎)	保健 22	3 後	1			○					
		保健医療福祉論Ⅱ (応用)	保健 23	3 後	1			○					
		食育論Ⅰ (基礎)	保健 24	3 前		1		○					
		食育論Ⅱ (応用)	保健 25	3 前		1		○					
		健康と運動	保健 26	3 後		1		○					
		家族社会学	保健 27	3 前		1		○					
		医療経営管理論	保健 28	4 後		1		○					
		リスクマネジメント論	保健 29	3・4 後		1		○					
		専門科目	専門基礎科目	人体の構造と機能Ⅰ (骨・筋・神経系)	—	—	1				○		【専門科目】 必修 7 6 単位 + 選択 3 単位
				人体の構造と機能Ⅱ (呼吸器・循環器・消化器系)	—	—	1				○		
人体の構造と機能Ⅲ (泌尿器・生殖器・感覚器系)				—	—	1			○				
病態学Ⅰ (内科系疾病論)	—			—	2			○					
病態学Ⅱ (外科系疾病論)	—			—	2			○					
病態学Ⅲ (高齢者・精神疾病論)	—			—	1			○					
臨床検査実習	—			—	1				○				
基礎看護科目	看護学入門		—	—	1				○				
	看護倫理		看 10	3 後	1				○				
	看護技術論Ⅰ (生活援助技術)		—	—	2				○				
	看護技術論Ⅱ (看護共通技術)		—	—	1				○				
	看護技術論Ⅲ (フィジカルアセスメント技術)		—	—	2				○				
	看護技術論Ⅳ (検査治療技術)		—	—	2				○				

(看護学科 2020年度以前編入学生用)

		看護技術論Ⅴ（看護過程展開技術）	—	—	1			○		
		看護ふれあい体験学習	—	—	2				○	
		基礎看護学実習	—	—	2				○	
専門科目	医療・生活支援	成人看護学概論	—	3後	1			○		
		成人看護学方法論Ⅰ	—	—	2			○		
		成人看護学方法論Ⅱ	—	—	2			○		
		がん看護学	—	3後	1			○		
		ターミナルケア論	看 23	3・4前		1		○		
		成人看護学実習（急性期）	—	—	3					○
		成人看護学実習（慢性期）	—	—	3					○
	療養支援	こころの健康と看護	—	3後	1			○		
		療養支援看護概論	—	3後	1			○		
		高齢者・在宅看護学方法論Ⅰ	—	—	1				○	
		高齢者・在宅看護学方法論Ⅱ	—	—	2				○	
		精神看護学方法論	—	—	2				○	
		高齢者看護学実習	—	—	3					○
		在宅看護学実習	—	—	1					○
	健康支援	精神看護学実習	—	—	2					○
		地域看護学概論	看 39	3前	2			○		
		地域看護学方法論Ⅰ	看 40	3後	1			○		
		地域看護学方法論Ⅱ	看 41	3前	2			○		
		地域看護学方法論Ⅲ	看 42	3前	2			○		
			地域看護学実習	看 43	3後	3				○
	育成支援	育成支援看護概論	—	3・4前	1			○		
小児看護学方法論Ⅰ		—	—	1				○		
小児看護学方法論Ⅱ		—	—	1				○		
母性看護学方法論Ⅰ		—	—	1				○		
母性看護学方法論Ⅱ		—	—	1				○		
母性看護学実習		—	—	2					○	
小児看護学実習		—	—	2					○	
助産学概論		看 52	3前		1		○			
助産診断・技術学Ⅰ（実践基礎）	看 53	3前		1		○				
【専門科目】 （再掲） 必修76単位 ＋ 選択3単位										

(看護学科 2020 年度以前編入学生用)

科目区分	授業科目の名称	ページ	配当年次	単位数			授業形態			履修方法等
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	
専門科目	発展看護科目	看護管理学	看 60	4 前	1			○		【専門科目】 (再掲) 必修 7 6 単位 + 選択 3 単位
		感染看護学	—	4 後		1		○		
		看護政策論	看 62	4 後		1		○		
		災害看護学	看 63	3 前	1			○		
		看護キャリア発達論	看 64	3 後	1			○		
		看護管理学実習	看 65	4 前	1				○	
		総合実習	看 66	4 通	2				○	
		看護研究	看 67	4 通	2				○	
		看護学統合	看 68	4 後	1				○	
		リーダーシップ論	看 70	4 後		1		○		
		継続看護方法論	看 71	4 後		1		○		
		国際看護論	看 72	3 前		1		○		
		家族看護学概論	—	3 後		1		○		
		家族看護学方法論	—	4 前		1		○		

先修条件

【特色科目】

1. 「千葉県の健康づくり」を履修するには「体験ゼミナール」の単位を修得済みであること。
2. 「専門職間の連携活動論」を履修するには「体験ゼミナール」, 「千葉県の健康づくり」の単位を修得済みであること。

【専門科目】

1. 下記の実習科目および「看護学統合」を履修するには、表に示す所定の科目の単位を既に修得していること、又は同じ学期に単位の修得見込みであること。

配当年次	授業科目の名称	履修に先立って修得しておかなければならない授業科目の名称																										
		講義科目					演習科目							実習科目														
		看護学入門	こころの健康と看護	成人看護学概論	育成支援看護概論	地域看護学概論	療養支援看護概論	看護管理学	看護技術論ⅠⅡⅢ	看護技術論ⅣⅤⅥ	成人看護学方法論Ⅰ	成人看護学方法論Ⅱ	地域看護学方法論ⅠⅡⅢ	精神看護学方法論	高齢者・在宅看護学方法論ⅠⅡ	母性看護学方法論ⅠⅡ	小児看護学方法論ⅠⅡ	看護ふれあい体験学習	基礎看護学実習	成人看護学実習(急性期)	成人看護学実習(慢性期)	精神看護学実習	在宅看護学実習	地域看護学実習	高齢者看護学実習	母性看護学実習	小児看護学実習	総合実習
1前	看護ふれあい体験学習	○																										
2前	基礎看護学実習	○	○					○									○											
3後 4前	成人看護学実習(急性期)			○					○	○	○						○	○										
	成人看護学実習(慢性期)			○					○	○	○						○	○										
	地域看護学実習					○			○			○					○	○										
	精神看護学実習						○		○			○					○	○										
	在宅看護学実習						○		○					○			○	○										
	高齢者看護学実習						○		○					○			○	○										
	母性看護学実習								○						○		○	○										
小児看護学実習								○							○	○	○											
4前	看護管理学実習						○											○	○									
4後	総合実習																		○:選択する領域の実習									
	看護学統合																		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

○: 単位を既に修得していること、又は同じ学期に単位の修得見込みであること。

(看護学科 2020年度以前編入学生用)

卒業要件

科目区分	必修科目	選択科目	合計
特色科目	3単位	0単位	3単位
一般教養科目	4単位	20単位	24単位
保健医療基礎科目	16単位	4単位	20単位
専門科目	76単位	3単位	79単位
合計	99単位	27単位	126単位

○ 養護教諭二種に関する特記事項

「保健師」の免許を基礎資格として「養護教諭二種免許状」を取得する場合、「法学（日本国憲法）」、「健康スポーツ科学」、「生涯身体運動科学」、「英語Ⅴ（保健医療英語）」、「情報リテラシーⅠ」及び「情報リテラシーⅡ」の計8単位が必要である。

○ 総合実習と看護学統合に関する特記事項

「総合実習」と「看護学統合」の履修は、卒業に必要な単位の修得が見込まれている必要がある。

別表（栄養学科 2019年度以降入学生用）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習			
特色科目	体験ゼミナール	1前	1					○	45	必修3単位	
	千葉県の健康づくり	2後	1				○		30		
	専門職間の連携活動論	4後	1				○		30		
	社会実習（ボランティア活動）	2・3・4			1			○	45		
一般教養科目	人間理解群	心理学	1・2・3・4前		2			○		30	必修2単位 + 選択4単位 このうち bから1科目以上選択
		哲学	1・2・3・4前		2			○		30	
		文学	1・2・3・4前		2			○		30	
		歴史と文化	1・2・3・4前		2			○		30	
		生命倫理	1・2・3・4後	2				○		30	
		宗教学	1・2・3・4後		2			○		30	
		教育学	1・2・3・4前		2			○		30	
		人間関係論 b	1・2・3・4前		2			○		30	
		コミュニケーション理論と実際 b	1・2・3・4前		2			○		30	
		健康スポーツ科学	1・2・3・4前後		1				○	30	
	生涯身体運動科学	1・2・3・4前後		1				○	30		
	生活と環境群	生活とデザイン	1・2・3・4後		2			○		30	選択6単位 このうち ※から1科目以上選択 #から1科目以上選択
		法学（日本国憲法）	1・2・3・4前		2			○		30	
		社会学※	1・2・3・4後		2			○		30	
		文化人類学	1・2・3・4前		2			○		30	
		経済学	1・2・3・4前		2			○		30	
		国際関係論※	1・2・3・4後		2			○		30	
		社会福祉学※	1・2・3・4前		1			○		15	
		国際的な健康課題※	1・2・3・4後		1			○		15	
		人権・ジェンダー	1・2・3・4後		2			○		30	
		科学論	1・2・3・4前		2			○		30	
		環境変化と生態	1・2・3・4後		2			○		30	
		観察生物学入門	1・2・3・4前後		2			○		30	
		生物学#	1・2・3・4前後		2			○		30	
	物理学#	1・2・3・4前		2			○		30		
	化学#	1・2・3・4前		2			○		30		
	情報理解群	統計学	1・2・3・4後	1					○	30	必修2単位
		情報リテラシー I	1・2・3・4前	1					○	30	
		情報リテラシー II	1・2・3・4後		1				○	30	
		情報倫理	1・2・3・4後		1			○		15	
		実践統計学	2・3・4前		1			○		15	
	外国語群	英語 I（講読）	1・2・3・4前		1				○	30	必修2単位 + 選択2単位
		英語 II（英会話）	1・2・3・4前		1				○	30	
		英語 III（講読・記述）	1・2・3・4後		1				○	30	
		英語 IV（英語コミュニケーション）	1・2・3・4後		1				○	30	
		英語 V（保健医療英語）	2前	2				○		30	
英語 VI（応用英語）		1・2・3・4後		1				○	30		
英語 VII（上級英語） A		2・3・4後		1				○	15		
英語 VII（上級英語） B		2・3・4後		1				○	15		

別表（栄養学科 2019年度以降入学生用）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習		
保健医療基礎科目	人間のこころと身体	運動生理学総論	2・4前		1		○		15	必修10単位 + 選択4単位
		生化学総論	1前			1	○		15	
		栄養学Ⅰ（基礎）	2後			1	○		15	
		栄養学Ⅱ（応用）	2後			1	○		15	
		心の健康	2・4後		1		○		15	
		薬理学Ⅰ（総論）	1後	1			○		15	
		薬理学Ⅱ（各論）	1後	1			○		15	
		病理学Ⅰ（総論）	1前	1			○		15	
		病理学Ⅱ（各論）	1前	1			○		15	
		微生物学Ⅰ（総論）	1・4前		1		○		15	
		微生物学Ⅱ（各論）	1・4前		1		○		15	
		発達心理学	1・4前		1		○		15	
		臨床心理学	1・2・4後		1			○	30	
		健康と保健医療システム	健康論	1・2・4前		1		○		
	公衆衛生学Ⅰ（基礎）		2前	1			○		15	
	公衆衛生学Ⅱ（応用）		2後	1			○		15	
	疫学・保健統計Ⅰ（基礎）		3前	1			○		15	
	疫学・保健統計Ⅱ（応用）		3前	1			○		15	
	リハビリテーション概論		2・3後		1		○		15	
	救命・救急の理論と実際		2・4前		1		○		15	
	画像診断学		2・3・4後		1		○		15	
	保健医療福祉論Ⅰ（基礎）		2後	1			○		15	
	保健医療福祉論Ⅱ（応用）		2後	1			○		15	
	食育論Ⅰ（基礎）		3前		1		○		15	
	食育論Ⅱ（応用）		3前		1		○		15	
	健康と運動	1・2・4後		1		○		15		
家族社会学	1・4前		1		○		15			
医療経営管理論	4前		1		○		15			
リスクマネジメント論	2・4後		1		○		15			
専門科目	専門基礎科目	管理栄養士導入教育	1前	1			○		15	【専門科目】 必修78単位 + 選択7単位
		解剖生理学Ⅰ	1前	2			○		30	
		解剖学実験	1後	1				○	45	
		解剖生理学Ⅱ	1後	2			○		30	
		生理学実験	2前	1				○	45	
		生化学	1前	2			○		30	
		栄養生化学	1後	2			○		30	
		生化学実験	2前	1				○	45	
		疾病論	2前	2			○		30	
		高齢者医療論	3・4後		1		○		15	
		食品学各論	1前	2			○		30	
		食品学実験	1後	1				○	45	
		食品学総論	1前	2			○		30	
		食品化学実験	1後	1				○	45	
		理化学概論	1前		1		○		15	

別表（栄養学科 2019年度以降入学生用）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習			
専門科目	専門基礎科目	食品衛生学	1 後	2			○			30	【専門科目】 (再掲) 必修78単位 + 選択7単位
		食品衛生学実験	2 後	1					○	45	
		食品加工学	2 前	1			○			15	
		食品加工学実習	2 後	1					○	45	
		食品微生物学	3・4 後		1		○			15	
		食事設計と調理	1 前	2			○			30	
		食事設計と調理実習	2 前	1					○	45	
		調理実習	1 後	1					○	45	
		調理科学実験	1 前	1					○	45	
	学 栄養 基礎	基礎栄養学	1 後	2			○			30	
		基礎栄養学実習	2 前	1					○	45	
	応用栄養学	応用栄養学Ⅰ	2 前	2			○			30	
		応用栄養学Ⅱ	2 後	2			○			30	
		応用栄養学Ⅲ	3 前	2			○			30	
		応用栄養学実習	3 前	1					○	45	
		スポーツ栄養学	3・4 後		1		○			15	
	栄養教育論	栄養教育論Ⅰ	2 後	2			○			30	
		栄養教育論Ⅱ	3 前	2			○			30	
		栄養教育論実習	3 前	1					○	45	
		栄養教育手法論	3 前	2			○			30	
	臨床栄養学	臨床栄養学Ⅰ	2 前	2			○			30	
		臨床栄養学Ⅱ	2 後	2			○			30	
		臨床栄養学実習	2 後	1					○	45	
		栄養ケアマネジメント論	3 前	2			○			30	
		栄養ケアマネジメント論実習	3 前	1					○	45	
		臨床検査学	2 前	2			○			30	
		在宅栄養支援論	3・4 後		1		○			15	
		障害者栄養支援論	3・4 後		1		○			15	
	公衆栄養学	公衆栄養学Ⅰ	2 後	2			○			30	
公衆栄養学Ⅱ		3 前	2			○			30		
公衆栄養学実習		3 前	1					○	45		
国際栄養学		3・4 後		1		○			15		
管 給食経営 理 論	給食経営管理論Ⅰ	2 前	2			○			30		
	給食経営管理論Ⅱ	2 後	2			○			30		
	給食経営管理実習	3 前	2					○	90		
	フードマネジメント論	3・4 後		1		○			15		
演習 総合	総合演習	4 前	1				○		30		
	栄養統計学	3 後	1			○			15		
	管理栄養士特別演習	4 通		2			○		60		
研究	卒業研究	4 通	2				○		60		
臨地実習	臨床栄養臨地実習	3 通	2					○	90		
	給食経営管理臨地実習	3 通	2					○	90		
	公衆栄養臨地実習	3 通		1				○	45		

別表（栄養学科 2019年度以降入学生用）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習		
専門科目	臨地実習	栄養管理臨地実習	4通		1				○	45	【専門科目】 （再掲） 必修7.8単位 + 選択7単位
		事前指導	3通	1				○	30		
		事後指導	3通	1				○	30		

別表（栄養学科 2019年度以降入学生用）

先修条件

【特色科目】

- 1 「千葉県の健康づくり」を履修するには「体験ゼミナール」の単位を修得済みであること。
- 2 「社会実習（ボランティア活動）」を履修するには「体験ゼミナール」の単位を修得済みであること。

【一般教養科目】

- 1 「実践統計学」を履修するには「統計学」の単位を修得済みであること。
- 2 「英語Ⅶ(上級英語)A」, 「英語Ⅶ(上級英語) B」を履修するには「英語Ⅰ, Ⅱ, Ⅲ, Ⅳ, またはⅥ」の選択2単位を修得済みであること。

【専門科目】

- 1 「臨床栄養学実習」を履修するには、「臨床栄養学Ⅰ」の単位を修得済みであり、「臨床栄養学Ⅱ」の単位は修得見込みであること。
- 2 「公衆栄養学実習」を履修するには、「公衆栄養学Ⅱ」の単位を修得見込みであること。
- 3 「臨床栄養臨地実習」, 「給食経営管理臨地実習」, 「公衆栄養臨地実習」, 「事前指導」及び「事後指導」を履修するには、3年前期に担当された必修の専門科目の単位を修得見込みであること。
- 4 「栄養教諭教育実習」及び「栄養教諭教育実習：事前・事後指導」を履修するには、管理栄養士課程の「臨床栄養臨地実習」及び「給食経営管理臨地実習」を単位修得済みであり、3年次終了までに担当された教職課程の全科目を単位修得済みであること。

進級要件

以下の要件を満たした者でなければ、3年次に進級できない。

- 1 1・2年次に担当された特色科目および保健医療基礎科目の必修科目の単位を修得済みの者。
- 2 1・2年次に担当された専門科目の必修科目の単位を修得済みの者。

卒業要件

科目区分	必修科目	選択科目	合計
特色科目	3単位	0単位	3単位
一般教養科目	6単位	18単位	24単位
保健医療基礎科目	10単位	4単位	14単位
専門科目	78単位	7単位	85単位
合計	97単位	29単位	126単位

別表（栄養学科 2019年度以降入学生用）

教職（栄養教諭一種）課程選択

栄養教諭一種免許取得希望者は、下表に指定する一般教養科目を含む卒業要件の126単位のほか、栄養教諭に関する科目を履修し、その単位を取得しなければならない。卒業時の取得単位数は149単位とする。

栄養教諭一種免許取得希望者の履修内容は次のとおりである。

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数	時間数	履修方法等		
一般教養科目	理人 解群 間	健康スポーツ科学 (再掲)	1・2・3 前後	1	30	3科目のうち2単位を 選択必修とする	
		生涯身体運動科学 (再掲)	1・2・3 前後	1	30		
	環生 境活 と	法学（日本国憲法） (再掲)	1・2・3 前	2	30		
		理情 解群 報	情報リテラシーⅠ (再掲)	1・2・3 前	1		30
	情報リテラシーⅡ (再掲)		1・2・3 後	1	30		
	外国 語群	英語Ⅱ（英会話） (再掲)	1・2・3 前	1	30		
		英語Ⅳ（英語コミュニケーション） (再掲)	1・2・3 後	1	30		
		英語Ⅵ（応用英語） (再掲)	1・2・3 後	1	30		
	栄養教諭に関する科目	栄養に 係る 教育 に関する 科目	食生活教育論	3 前	2		30
			学校栄養教育論	3 後	2		30
教育の 基礎的 理解に 関する 科目		教職論	1 後	2	30		
		教育学概論	2 後	1	15		
		教育心理	2 前	2	30		
		教育制度論	2 後	1	15		
		カリキュラム論	2 前	1	15		
		特別支援教育論	3 前	1	15		
び道 生徒 徒指 導導、 教育 相談 等 に 関 する 科目		教育の方法と技術	3 前	2	30		
		道德・総合的な学習・特別活動論	2 前	1	15		
		生徒指導論	3 前	1	15		
		教育相談	3 後	2	30		
教育 実践 に 関 する 科目		教職実践演習（栄養教諭）	4 後	2	30		
		栄養教諭教育実習：事前・事後 指導	4 通	1	45		
		栄養教諭教育実習	4 通	2	90		

別表（栄養学科 2019年度以降入学生用）

食品衛生監視員及び食品衛生管理者

2019年度入学生から、栄養学科の課程を修了することで食品衛生監視員及び食品衛生管理者の任用資格を取得することができる。

なお、法令に定める科目に対応する、本学の授業科目は下表のとおり。

食品衛生法施行規則別表第14及び第15に定める学科、科目名

区分	規定科目	規定科目に対応する 本学授業科目名	配当 年次	選択別		単位数
				必修	選択	
A群 化学関係	有機化学 無機化学	化学	1・2・3・4 前		2	2
		分析化学	食品化学実験	1後	1	1
	理化学概論		1前		1	
	小計			1	3	4
B群 生物化学関係	生物化学	生化学	1前	2		2
		栄養生化学	1後	2		2
		生化学実験	2前	1		1
	食品化学	食品学総論	1前	2		2
		食品学各論	1前	2		2
		食品学実験	1後	1		1
	生理学	解剖生理学Ⅱ	1後	2		2
		生理学実験	2前	1		1
小計			13	0	13	
C群 微生物学関係	食品微生物学	食品微生物学	3・4後		1	1
	食品保存学	食品加工学	2前	1		1
	食品製造学	食品加工学実習	2後	1		1
	小計			2	1	3
D群 公衆衛生学関係	公衆衛生学	公衆衛生学Ⅰ（基礎）	2前	1		1
		公衆衛生学Ⅱ（応用）	2後	1		1
	食品衛生学	食品衛生学	1後	2		2
		食品衛生学実験	2後	1		1
	疫学	疫学・保健統計Ⅰ（基礎）	3前	1		1
		疫学・保健統計Ⅱ（応用）	3前	1		1
	小計			7	0	7
A群からD群の合計で22単位以上を履修		合計（A+B+C+D）		23	4	27

別表（栄養学科 2019年度以降入学生用）

E群 その他の関連科目	病理学	病理学Ⅰ（総論）	1前	1		1	
		病理学Ⅱ（各論）	1前	1		1	
	医学概論	疾病論	2前	2		2	
	解剖学	解剖生理学Ⅰ	1前	2		2	
		解剖学実験	1後	1		1	
	栄養化学	基礎栄養学	1後	2		2	
		基礎栄養学実習	2前	1		1	
	栄養学	応用栄養学Ⅰ	2前	2		2	
		応用栄養学Ⅱ	2後	2		2	
		応用栄養学Ⅲ	3前	2		2	
	その他これらに類する食品衛生に関する科目	食事設計と調理	食事設計と調理	1前	2		2
			食事設計と調理実習	2前	1		1
			調理実習	1後	1		1
			調理科学実験	1前	1		1
		小計			21	0	21
A群からE群を含め40単位以上を履修		総計（A+B+C+D+E）		44	4	48	

（注）

○ 上表のうち、必修科目のみで法定の必要単位数を上回るため、栄養学科の課程を修了した全ての者は、当該資格を取得することができる。（2019年度以降の入学者に限る。）

○ 「任用資格」とは、特定の職務に従事するために必要な資格である。申請により免許を取得する栄養士及び管理栄養士と異なり、養成施設の課程を修了し、当該職務に任用されることで効力が発生する。

○ 食品衛生監視員及び食品衛生管理者養成施設である他大学から本学栄養学科に転入学した者は、転入元と本学での修得単位を合算し、必要な単位を修得することで資格を取得することができる。

なお、未登録施設から転入学した場合は、食品衛生法及び同法施行規則の規定により、既修得単位を認定することはできないので、上表の資格取得に必要な授業科目は、本学で履修する必要がある。

別表

栄養士課程指定規則との比較表						
教育内容	単位数		授業科目の名称	配当年次	単位数（授業形態別）	
	講義又は演習	実験又は実習			講義・演習	実験・実習
社会生活と健康	4		公衆衛生学Ⅰ（基礎）	2	1	
			公衆衛生学Ⅱ（応用）	2	1	
			保健医療福祉論Ⅰ（基礎）	2	1	
			疫学・保健統計Ⅰ（基礎）	3	1	
人体の構造と機能	8	4	解剖生理学Ⅰ	1	2	
			解剖生理学Ⅱ	1	2	
			生化学	1	2	
			生化学実験	2		1
			疾病論	2	2	
			解剖学実験	1		1
			生理学実験	2		1
食品と衛生	6		食品学各論	1	2	
			食品学実験	1		1
			食品学総論	1	2	
			食品化学実験	1		1
			食品衛生学	1	2	
			食品加工学	2	1	
栄養と健康	8		基礎栄養学	1	2	
			基礎栄養学実習	2		1
			応用栄養学Ⅰ	2	2	
			応用栄養学Ⅱ	2	2	
			応用栄養学実習	3		1
			臨床栄養学Ⅰ	2	2	
栄養の指導	6	10	臨床栄養学実習	2		1
			栄養教育論Ⅰ	2	2	
			栄養教育論実習	3		1
			栄養教育手法論	3	2	
			公衆栄養学Ⅰ	2	2	
			公衆栄養学実習	3		1
給食の運営	4		食事設計と調理	1	2	
			調理実習	1		1
			給食経営管理論Ⅰ	2	2	
			給食経営管理実習	3		2
			給食経営管理臨地実習	3		2
小計	36	14			37	15
合計	50				52	

管理栄養士に係る必修科目						
管理栄養士学校指定規則（以下この表で「指定規則」という。）による教育内容		指定規則による単位数		授業科目の名称	開設科目の単位数	
		講義 又は 演習	実験 又は 実習		講義 又は 演習	実験 又は 実習
専門基礎分野	社会・環境と健康	6		公衆衛生学Ⅰ（基礎） 公衆衛生学Ⅱ（応用） 保健医療福祉論Ⅰ（基礎） 保健医療福祉論Ⅱ（応用） 疫学・保健統計Ⅰ（基礎） 疫学・保健統計Ⅱ（応用）	1 1 1 1 1 1	
	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち	14	10	解剖生理学Ⅰ 解剖生理学Ⅱ 生化学 栄養生化学 生化学実験 疾病論 解剖学実験 生理学実験 薬理学Ⅰ（総論） 薬理学Ⅱ（各論） 病理学Ⅰ（総論） 病理学Ⅱ（各論）	2 2 2 2 2 2 1 1 1 1 1 1	1 1 1
	食べ物と健康	8		食品学各論 食品学実験 食品学総論 食品化学実験 食品衛生学 食品衛生学実験 食品加工学 食品加工学実習 食事設計と調理 食事設計と調理実習 調理実習 調理科学実験	2 2 2 2 1 1 2 1 1 1 1 1	1 1 1 1
	計	28	10	計	29	10
専門分野	基礎栄養学	2		基礎栄養学 基礎栄養学実習	2	1
	応用栄養学	6		応用栄養学Ⅰ 応用栄養学Ⅱ 応用栄養学Ⅲ 応用栄養学実習	2 2 2 2	1
	栄養教育論	6		栄養教育論Ⅰ 栄養教育論Ⅱ 栄養教育論実習 栄養教育手法論	2 2 2 2	1
	臨床栄養学	8	8	臨床栄養学Ⅰ 臨床栄養学Ⅱ 臨床栄養学実習 栄養ケアマネジメント論 栄養ケアマネジメント論実習 臨床検査学	2 2 2 2 2 2	1 1
	公衆栄養学	4		公衆栄養学Ⅰ 公衆栄養学Ⅱ 公衆栄養学実習	2 2 2	1
	給食経営管理論	4		給食経営管理論Ⅰ 給食経営管理論Ⅱ 給食経営管理実習	2 2 2	2
	総合演習	2		事後指導 総合演習	1 1	
	臨地実習		4	臨床栄養臨地実習 給食経営管理臨地実習		2 2
	計	32	12	計	32	12
合計	60	22	合計	61	22	

(栄養学科 2018年度以前入学者用)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習		
特色科目	千葉県の健康づくり	2後	1				○		30	必修3単位
	体験ゼミナール	1前	1					○	45	
	専門職間の連携活動論	4後	1				○		30	
一般教養科目	人間理解群	心理学	1・2・3・4前		2		○		30	必修9単位 + 人間理解群, 生活と環境群, 情報理解群から 選択13単位 + 外国語群から 選択2単位
		哲学	1・2・3・4前		2		○		30	
		文学	1・2・3・4前		2		○		30	
		歴史と文化	1・2・3・4前		2		○		30	
		生命倫理	1・2・3・4前	2			○		30	
		宗教学	1・2・3・4後		2		○		30	
		教育学	1・2・3・4前		2		○		30	
		人間関係論	1・2・3・4前		2		○		30	
		コミュニケーション理論と実際	1・2・3・4前		2		○		30	
		健康スポーツ科学	1・2・3・4前後		1			○	30	
	生涯身体運動科学	1・2・3・4前後		1			○	30		
	生活と環境群	生活とデザイン	1・2・3・4後	2			○		30	
		法学(日本国憲法)	1・2・3・4前		2		○		30	
		社会学	1・2・3・4後		2		○		30	
		文化人類学	1・2・3・4前		2		○		30	
		経済学	1・2・3・4前		2		○		30	
		国際関係論	1・2・3・4後		2		○		30	
		社会福祉学	1・2・3・4前		1		○		15	
		国際的な健康課題	1・2・3・4後	1			○		15	
		人権・ジェンダー	1・2・3・4後		2		○		30	
		科学論	1・2・3・4前		2		○		30	
		環境変化と生態	1・2・3・4後		2		○		30	
		観察生物学入門	1・2・3・4前後		2		○		30	
		生物学	1・2・3・4前後		2		○		30	
	物理学	1・2・3・4前		2		○		30		
	化学	1・2・3・4前		2		○		30		
	情報理解群	統計学	1・2・3・4後		1			○	30	
		情報リテラシーI	1・2・3・4前	1				○	30	
		情報リテラシーII	1・2・3・4後		1			○	30	
		情報倫理	1・2・3・4後	1			○		15	
	外国語群	英語I(基礎講読)	1・2・3・4前		1			○	30	
		英語II(基礎英会話)	1・2・3・4前		1			○	30	
		英語III(講読・記述)	1・2・3・4後		1			○	30	
英語IV(英会話)		1・2・3・4後		1			○	30		
英語V(保健医療英語)		1・2・3・4前	2			○		30		
英語VI(応用英語)		1・2・3・4後		1			○	30		

(栄養学科 2018年度以前入学者用)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習		
保健医療基礎科目	人間のこころと身体	運動生理学総論	4前	1		○			15	必修11単位 + 選択8単位
		生化学総論	1前		1	○			15	
		栄養学Ⅰ(基礎)	2後		1	○			15	
		栄養学Ⅱ(応用)	2後		1	○			15	
		心の健康	2・4後	1		○			15	
		薬理学Ⅰ(総論)	1後	1		○			15	
		薬理学Ⅱ(各論)	1後	1		○			15	
		病理学Ⅰ(総論)	2前	1		○			15	
		病理学Ⅱ(各論)	2前	1		○			15	
		微生物学Ⅰ(総論)	1・4前		1	○			15	
		微生物学Ⅱ(各論)	1・4前		1	○			15	
		発達心理学	1・4前		1	○			15	
		臨床心理学	1・2・4後		1			○	30	
	健康と保健医療システム	健康論	1・4前		1		○		15	
		公衆衛生学Ⅰ(基礎)	2前	1			○		15	
		公衆衛生学Ⅱ(応用)	2後	1			○		15	
		疫学・保健統計Ⅰ(基礎)	3前	1			○		15	
		疫学・保健統計Ⅱ(応用)	3前	1			○		15	
		リハビリテーション概論	2・3後		1		○		15	
		救命・救急の理論と実際	2・4前		1		○		15	
		保健医療福祉論Ⅰ(基礎)	2後	1			○		15	
		保健医療福祉論Ⅱ(応用)	2後	1			○		15	
		食育論Ⅰ(基礎)	3前	1			○		15	
		食育論Ⅱ(応用)	3前		1		○		15	
		健康と運動	1・4後		1		○		15	
		家族社会学	1・4前		1		○		15	
医療経営管理論	4後		1		○		15			
リスクマネジメント論	2・4後		1		○		15			
専門科目	専門基礎科目	管理栄養士導入教育	1前	1		○			15	【専門科目】 必修76単位 + 選択4単位
		解剖学総論	1前	2		○			30	
		解剖学実験	1後	1				○	45	
		生理学総論	1後	2		○			30	
		生理学実験	2前	1				○	45	
		生化学	1前	2		○			30	
		栄養生化学	1後	2		○			30	
		生化学実験	2前	1				○	45	
		疾病論	2前	2			○		30	
		高齢者医療論	3後		1		○		15	
		食品学各論	1前	2		○			30	
		食品学実験	2前	1				○	45	
		食品学総論演習	1通	2				○	60	
		食品化学実験	2前	1				○	45	
		理化学演習	1後		1			○	30	
		食品衛生学	2後	2			○		30	

(栄養学科 2018年度以前入学者用)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習			
専門科目	専門基礎科目	食品衛生学実験	2 後	1					○	45	【専門科目】 (再掲) 必修76単位 + 選択4単位
		食品加工学	2 前	2			○			30	
		食品加工学実習	4 前	1					○	45	
		食品微生物学	3 後		1		○			15	
		食事設計と調理	1 前	2			○			30	
		食事設計と調理実習	2 前	1					○	45	
		調理実習	1 後	1					○	45	
		調理科学実験	2 後	1					○	45	
	学 養 基礎	基礎栄養学	1 後	2			○			30	
		基礎栄養学実習	2 後	1					○	45	
	応用栄養学	応用栄養学Ⅰ	2 後	2			○			30	
		応用栄養学Ⅱ	3 前	2			○			30	
		応用栄養学Ⅲ	3 後	2			○			30	
		応用栄養学実習	3 前	1					○	45	
		スポーツ栄養学	3・4 後		1		○			15	
	栄養教育論	栄養教育論Ⅰ	2 後	2			○			30	
		栄養教育論Ⅱ	3 前	2			○			30	
		栄養教育論実習	3 前	1					○	45	
		栄養教育手法論	3 前	2			○			30	
		国際栄養学	4 後		1		○			15	
	臨床栄養学	臨床栄養学Ⅰ	2 前	2			○			30	
		臨床栄養学Ⅱ	2 後	2			○			30	
		臨床栄養学実習	2 後	1					○	45	
		栄養ケアマネジメント論演習	3 通	2				○		60	
		栄養ケアマネジメント論実習	3 前	1					○	45	
		臨床検査学	2 前	2			○			30	
		在宅栄養支援論	3・4 後		1		○			15	
障害者栄養支援論		3・4 後		1		○			15		
公衆栄養学	公衆栄養学Ⅰ	2 前	2			○			30		
	公衆栄養学Ⅱ	2 後	1			○			15		
	公衆栄養学実習	3 前	1					○	45		
	栄養疫学	4 前	1			○			15		
管 給 理 食 論 経 営	給食経営管理論Ⅰ	2 前	2			○			30		
	給食経営管理論Ⅱ	2 後	2			○			30		
	給食経営管理実習	3 前	2					○	90		
	フードマネジメント論	3・4 後		1		○			15		
演 総 習 合	総合演習	4 前	1					○	30		
	卒業研究	4 通		4				○	120		
臨地実習	臨床栄養臨地実習	3 通	2					○	90		
	給食経営管理臨地実習	3 通	2					○	90		
	公衆栄養臨地実習	3 通		1				○	45		
	栄養管理臨地実習	4 通		1				○	45		
	事前指導	3 通	1					○	30		
	事後指導	3 通	1					○	30		

先修条件

【特色科目（平成28年度入学生より適用する）】

1. 「千葉県の健康づくり」を履修するには「体験ゼミナール」の単位を修得済みであること。
2. 「専門職間の連携活動論」を履修するには「体験ゼミナール」, 「千葉県の健康づくり」の単位を修得済みであること。

【専門科目】

1. 「臨床栄養学実習」を履修するには、「臨床栄養学Ⅰ」の単位を修得済みであり、「臨床栄養学Ⅱ」の単位は修得見込みであること。
2. 「栄養ケアマネジメント論演習」及び「栄養ケアマネジメント論実習」を履修するには、「臨床栄養学実習」の単位を修得済みであること。
3. 「公衆栄養学実習」を履修するには、「公衆栄養学Ⅰ」及び「公衆栄養学Ⅱ」の単位を修得済みであること。
4. 「給食経営管理実習」を履修するには、「給食経営管理論Ⅰ」及び「給食経営管理論Ⅱ」の単位を修得済みであること。
5. 「臨床栄養臨地実習」, 「給食経営管理臨地実習」, 「公衆栄養臨地実習」, 「事前指導」及び「事後指導」を履修するには、2年生後期までに配当された必修の専門科目の単位を修得済みであり、3年前期に配当された必修の専門科目の単位を修得見込みであること。
6. 「栄養教諭教育実習」及び「栄養教諭教育実習：事前・事後指導」を履修するには、管理栄養士課程の「臨床栄養臨地実習」及び「給食経営管理臨地実習」を単位修得済みであり、3年次終了までに配当された教職課程の全科目を単位修得済みであること。

卒業要件

科目区分	必修科目	選択科目	合計
特色科目	3単位	0単位	3単位
一般教養科目	9単位	15単位	24単位
保健医療基礎科目	11単位	8単位	19単位
専門科目	76単位	4単位	80単位
合計	99単位	27単位	126単位

教職（栄養教諭一種）課程選択

栄養教諭一種免許取得希望者は、下表に指定する一般教養科目を含む卒業要件の126単位のほか、栄養教諭に関する科目を履修し、その単位を取得しなければならない。卒業時の取得単位数は149単位とする。

栄養教諭一種免許取得希望者の履修内容は次のとおりである。

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数	時間数	履修方法等	
一般教養科目	理人 解群 間	健康スポーツ科学 (再掲)	1・2 前後	1	30	3科目のうち2単位を 選択必修とする
		生涯身体運動科学 (再掲)	1 前後・3 前	1	30	
	環生 境活 と	法学 (日本国憲法) (再掲)	1・3 前	2	30	
		理情 解群 報	情報リテラシー I (再掲)	1 前	1	
	情報リテラシー II (再掲)		1・2 後	1	30	
	外国 語群	英語Ⅱ (基礎英会話) (再掲)	1・2 前	1	30	
		英語Ⅳ (英会話) (再掲)	1 後	1	30	
英語Ⅵ (応用英語) (再掲)		1 後	1	30		
栄養教諭に関する科目	栄養に 係る教 育に 関する 科目	食生活教育論	3 前	2	30	
		学校栄養教育論	3 後	2	30	
	教職の 意義	教職論	1 後	2	30	
		教育の 基礎理 論	教育学概論	2 後	1	15
	教育心理		2 前	2	30	
	教育制度論		2 後	1	15	
	教育課 程	カリキュラム論	2 前	1	15	
		教育の方法と技術	3 前	2	30	
		道徳教育・特別活動論	2 前	1	15	
	生徒指 導	生徒指導論	3 前	2	30	
		教育相談	3 後	2	30	
	総合演 習	教職実践演習 (栄養教諭)	4 後	2	60	
		栄養教 育実習	栄養教諭教育実習：事前・事後指導	4 通	1	45
栄養教諭教育実習	4 通		2	90		

別表

栄養士課程指定規則との比較表						
教育内容	単位数		授業科目の名称	配当年次	単位数（授業形態別）	
	講義又は演習	実験又は実習			講義・演習	実験・実習
社会生活と健康	4		公衆衛生学Ⅰ（基礎）	2	1	
			公衆衛生学Ⅱ（応用）	2	1	
			保健医療福祉論Ⅰ（基礎）	2	1	
			疫学・保健統計Ⅰ（基礎）	3	1	
人体の構造と機能	8	4	解剖学総論	1	2	
			生理学総論	1	2	
			栄養生化学	1	2	
			生化学実験	2		1
			疾病論	2	2	
			解剖学実験	1		1
			生理学実験	2		1
食品と衛生	6		食品学各論	1	2	
			食品学実験	2		1
			食品学総論演習	1	2	
			食品化学実験	2		1
			食品衛生学	2	2	
			食品加工学	2	2	
栄養と健康	8		基礎栄養学	1	2	
			基礎栄養学実習	2		1
			応用栄養学Ⅰ	2	2	
			応用栄養学Ⅱ	3	2	
			応用栄養学実習	3		1
			臨床栄養学Ⅰ	2	2	
栄養の指導	6	10	臨床栄養学実習	2		1
			栄養教育論Ⅰ	2	2	
			栄養教育論実習	3		1
			栄養教育手法論	3	2	
			公衆栄養学Ⅰ	2	2	
			公衆栄養学実習	3		1
給食の運営	4		食事設計と調理	1	2	
			調理実習	1		1
			給食経営管理論Ⅰ	2	2	
			給食経営管理実習	3		2
			給食経営管理臨地実習	3		2
小計	36	14			38	15
合計	50				53	

管理栄養士に係る必修科目						
管理栄養士学校指定規則（以下この表で「指定規則」という。）による教育内容		指定規則による単位数		授業科目の名称	開設科目の単位数	
		講義 又は 演習	実験 又は 実習		講義 又は 演習	実験 又は 実習
専門基礎分野	社会・環境と健康	6		公衆衛生学Ⅰ（基礎） 公衆衛生学Ⅱ（応用） 保健医療福祉論Ⅰ（基礎） 保健医療福祉論Ⅱ（応用） 疫学・保健統計Ⅰ（基礎） 疫学・保健統計Ⅱ（応用）	1 1 1 1 1 1	
	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち	14	10	解剖学総論 生理学総論 生化学 栄養生化学 生化学実験 疾病論 解剖学実験 生理学実験 薬理学Ⅰ（総論） 薬理学Ⅱ（各論） 病理学Ⅰ（総論） 病理学Ⅱ（各論）	2 2 2 2 2 2 1 1 1 1	1 1 1
	食べ物と健康	8		食品学各論 食品学実験 食品学総論演習 食品化学実験 食品衛生学 食品衛生学実験 食品加工学 食品加工学実習 食事設計と調理 食事設計と調理実習 調理実習 調理科学実験	2 2 2 2 2 2 2 2 2 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1
	計	28	10	計	30	10
専門分野	基礎栄養学	2		基礎栄養学 基礎栄養学実習	2 1	1
	応用栄養学	6		応用栄養学Ⅰ 応用栄養学Ⅱ 応用栄養学Ⅲ 応用栄養学実習	2 2 2 1	
	栄養教育論	6		栄養教育論Ⅰ 栄養教育論Ⅱ 栄養教育論実習 栄養教育手法論	2 2 2 2	1
	臨床栄養学	8	8	臨床栄養学Ⅰ 臨床栄養学Ⅱ 臨床栄養学実習 栄養ケアマネジメント論演習 栄養ケアマネジメント論実習 臨床検査学	2 2 2 2 2 2	1 1
	公衆栄養学	4		公衆栄養学Ⅰ 公衆栄養学Ⅱ 公衆栄養学実習 栄養疫学	2 1 1 1	1
	給食経営管理論	4		給食経営管理論Ⅰ 給食経営管理論Ⅱ 給食経営管理実習	2 2 2	2
	総合演習	2		事後指導 総合演習	1 1	
	臨地実習		4	臨床栄養臨地実習 給食経営管理臨地実習		2 2
	計	32	12	計	32	12
合計	60	22	合計	62	22	

別表（歯科衛生学科 2019年度以降入学生用）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習					
特色科目	体験ゼミナール	1前	1					○	45	必修3単位			
	千葉県健康づくり	2後	1					○	30				
	専門職間の連携活動論	4後	1					○	30				
	社会実習（ボランティア活動）	2・3・4			1			○	45				
一般教養科目	人間理解群	心理学	1・2・3・4前		2			○		30	必修9単位 【一般教養科目】 選択科目から選択11単位		
		哲学	1・2・3・4前		2			○		30			
		文学	1・2・3・4前		2			○		30			
		歴史と文化	1・2・3・4前		2			○		30			
		生命倫理	1・2・3・4後	2				○		30			
		宗教学	1・2・3・4後		2			○		30			
		教育学	1・2・3・4前		2			○		30			
		人間関係論	1・2・3・4前		2			○		30			
		コミュニケーション理論と実際	1・2・3・4前		2			○		30			
		健康スポーツ科学	1・2・3・4前後	1					○	30			
		生涯身体運動科学	1・2・3・4前後		1				○	30			
	生活と環境群	生活とデザイン	1・2・3・4後		2				○			30	
		法学（日本国憲法）	1・2・3・4前	2					○			30	
		社会学	1・2・3・4後		2				○			30	
		文化人類学	1・2・3・4前		2				○			30	
		経済学	1・2・3・4前		2				○			30	
		国際関係論	1・2・3・4後		2				○			30	
		社会福祉学	1・2・3・4前		1				○			15	
		国際的な健康課題	1・2・3・4後		1				○			15	
		人権・ジェンダー	1・2・3・4後		2				○			30	
		科学論	1・2・3・4前		2				○			30	
		環境変化と生態	1・2・3・4後		2				○			30	
		観察生物学入門	1・2・3・4前後		2				○			30	
		生物学	1・2・3・4前後	2					○			30	
		物理学	1・2・3・4前		2				○			30	
	化学	1・2・3・4前		2				○		30			
	情報理解群	統計学	1・2・3・4後	1					○			30	
		情報リテラシーⅠ	1・2・3・4前	1					○			30	
		情報リテラシーⅡ	1・2・3・4後		1				○			30	
		情報倫理	1・2・3・4後		1				○			15	
		実践統計学	2・3・4前		1				○			15	
	外国語群	英語Ⅰ（講読）	1・2・3・4前		1				○			30	必修2単位 + 選択2単位
		英語Ⅱ（英会話）	1・2・3・4前		1				○			30	
		英語Ⅲ（講読・記述）	1・2・3・4後		1				○			30	
		英語Ⅳ（英語コミュニケーション）	1・2・3・4後		1				○			30	
		英語Ⅴ（保健医療英語）	2前	2					○			30	
英語Ⅵ（応用英語）		1・2・3・4後		1				○		30			
英語Ⅶ（上級英語）A		2・3・4後		1				○		15			
英語Ⅶ（上級英語）B		2・3・4後		1				○		15			

別表（歯科衛生学科 2019年度以降入学生用）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習		
保健医療基礎科目	人間のこころと身体	運動生理学総論	2前	1		○			15	必修13単位 + 選択3単位
		生化学総論	1前	1		○			15	
		栄養学Ⅰ（基礎）	1後	1		○			15	
		栄養学Ⅱ（応用）	1後	1		○			15	
		心の健康	1後		1		○		15	
		薬理学Ⅰ（総論）	1後	1			○		15	
		薬理学Ⅱ（各論）	1後	1			○		15	
		病理学Ⅰ（総論）	1前	1			○		15	
		病理学Ⅱ（各論）	1前	1			○		15	
		微生物学Ⅰ（総論）	1前	1			○		15	
		微生物学Ⅱ（各論）	1前	1			○		15	
		発達心理学	1前		1		○		15	
		臨床心理学	1後		1			○	30	
		健康と保健医療システム	健康論	1前		1		○		
	公衆衛生学Ⅰ（基礎）		2前	1			○		15	
	公衆衛生学Ⅱ（応用）		2後		1		○		15	
	疫学・保健統計Ⅰ（基礎）		3前		1		○		15	
	疫学・保健統計Ⅱ（応用）		3前		1		○		15	
	リハビリテーション概論		2後	1			○		15	
	救命・救急の理論と実際		2前	1			○		15	
	画像診断学		2・3・4後		1		○		15	
	保健医療福祉論Ⅰ（基礎）		2後	1			○		15	
	保健医療福祉論Ⅱ（応用）		2後	1			○		15	
	食育論Ⅰ（基礎）		3前		1		○		15	
	食育論Ⅱ（応用）		3前		1		○		15	
	専門科目	歯科衛生基礎	解剖学	1前	2			○		
生理学			1後	2			○		30	
内科学概論			1後	1			○		15	
高齢者医療論			2後	1			○		15	
口腔解剖学			1前	2			○		30	
口腔生理学			2前	1			○		15	
口腔病理学			1後	1			○		15	
口腔微生物学			1後	1			○		15	
歯科薬理学			2前	1			○		15	
歯科生化学・臨床検査法			1後	1			○		15	
口腔衛生学			1後	2			○		30	
歯科診断学			2後	1			○		15	
歯科矯正学			3前	1			○		15	
歯科材料学			2前	1			○		15	
歯科保存学	2前	2			○		15			

別表（歯科衛生学科 2019年度以降入学生用）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習			
専門科目	歯科衛生基礎	歯周治療学	2前	1			○		15	生涯歯科衛生及び歯科衛生健康推進から選択2単位	
		歯科補綴学	2前	2			○		30		
		顎口腔外科学	2前	2			○		30		
		顎口腔機能論	2前	1			○		15		
		歯科衛生基礎演習	2前	1				○	30		
	生涯歯科衛生	歯科衛生学概論	1前	2			○		30		必修 19単位
		歯科医療安全管理論	2前	1			○		15		
		チーム歯科医療論	2後	1			○		15		
		歯科疾患予防学	2前	1			○		15		
		発達歯科衛生学Ⅰ(小児)	2後	2			○		30		
		発達歯科衛生学Ⅱ(成人・高齢者)	2後	3			○		45		
		歯科衛生体験演習Ⅰ	1後	1				○	30		
		歯科衛生体験演習Ⅱ	2後	1				○	30		
		歯科診療補助演習	3前	2				○	60		
		歯科予防処置演習	3前	2				○	60		
		顎口腔機能リハビリテーション論	2後	1			○		15		
		顎口腔機能リハビリテーション演習	3前	1				○	30		
		在宅歯科衛生管理論Ⅰ	3前	1			○		15		
	在宅歯科衛生管理論Ⅱ	4前		1		○		15			
	歯科衛生健康推進	歯科衛生アセスメント論	3前	1			○		15		必修 11単位
		保健行動科学論	1後	1			○		15		
		歯科保健指導・健康教育論	2前	1			○		15		
		歯科保健指導演習Ⅰ	2後	2				○	60		
		歯科保健指導演習Ⅱ	3前	1				○	30		
		歯科衛生統計演習	3前	1				○	30		
		地域歯科衛生学	2前	1			○		15		
		地域歯科衛生演習	3前	1				○	30		
		衛生行政	2後	1			○		15		
		国際歯科衛生学	3前		1		○		15		
	歯科医療管理論	4前		1		○		15			
	社会保障・社会保険論	3前	1			○		15			
	臨床・臨地実習	歯科診療室基礎実習	3前	2				○	90		必修22 単位
		歯科診療所実習	3後	4				○	180		
病院実習		4後	3				○	135			
継続・個別支援実習Ⅰ		3後	2				○	90			
継続・個別支援実習Ⅱ		4前	2				○	90			
発達歯科衛生実習Ⅰ(小児)		4前	2				○	90			
発達歯科衛生実習Ⅱ(成人・高齢者)		4前	2				○	90			
地域歯科衛生実習		4前	1				○	45			
歯科診療室総合実習Ⅰ		3後	2				○	90			
歯科診療室総合実習Ⅱ		4前	2				○	90			
研究	卒業研究	3後～4通	2				○	60	必修2単位		

別表（歯科衛生学科 2019 年度以降入学生用）

先修条件

【特色科目】

- 1 「千葉県の健康づくり」を履修するには「体験ゼミナール」の単位を修得済みであること。
- 2 「社会実習（ボランティア活動）」を履修するには「体験ゼミナール」の単位を修得済みであること。

【一般教養科目】

- 1 「実践統計学」を履修するには「統計学」の単位を修得済みであること。
- 2 「英語Ⅶ（上級英語）A」、「英語Ⅶ（上級英語）B」を履修するには「英語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、またはⅥ」の選択2科目の単位（2単位）を修得済みであること。

【専門科目】

- 1 歯科衛生基礎演習を履修するには、口腔微生物学、口腔衛生学の単位を修得済みであること。
- 2 歯科保健指導演習Ⅰを履修するには、保健行動科学論、歯科保健指導・健康教育論の単位を修得済みであること。
- 3 歯科保健指導演習Ⅱを履修するには、歯科衛生アセスメント論の単位を修得済みであること。
- 4 歯科診療室基礎実習を履修するには、歯科診療補助演習の単位を修得済みであること。
- 5 歯科診療室基礎実習及び病院実習を除く臨床・臨地実習を履修するには、保健医療基礎科目及び専門科目のうち、3年次前期までに配当されているすべての必修科目の単位を修得済みであること。
- 6 病院実習を履修するには、3年次後期までに配当されているすべての必修科目の単位を修得済みで、4年次前期に配当されているすべての必修科目の単位を修得済みであること。
- 7 卒業研究を履修するには、原則として3年次前期までに配当されているすべての必修科目の単位を修得済みであること。

進級要件

以下の要件を満たした者でなければ、3年次に進級できない。

- 1 1・2年次に配当された特色科目および保健医療基礎科目の必修科目の単位を修得済みの者。
- 2 1・2年次に配当された専門科目のうち、専門基礎科目、歯科衛生基礎科目の単位を修得済みの者。

卒業要件

科目区分	必修科目	選択科目	合計
特色科目	3単位	0単位	3単位
一般教養科目	11単位	13単位	24単位
保健医療基礎科目	13単位	3単位	16単位
専門科目	81単位	2単位	83単位
合計	108単位	18単位	126単位

(歯科衛生学科 2018 年度以前入学者用)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習				
特色科目	千葉県の健康づくり	2 後	1					○	30	必修 3 単位		
	体験ゼミナール	1 前	1					○	45			
	専門職間の連携活動論	4 後	1					○	30			
一般教養科目	人間理解群	心理学	1・2・3・4 前		2			○		30	必修 9 単位 【一般教養科目】 選択科目から選択 13 単位	
		哲学	1・2・3・4 前		2			○		30		
		文学	1・2・3・4 前		2			○		30		
		歴史と文化	1・2・3・4 前		2			○		30		
		生命倫理	1・2・3・4 後	2				○		30		
		宗教学	1・2・3・4 後		2			○		30		
		教育学	1・2・3・4 前		2			○		30		
		人間関係論	1・2・3・4 前		2			○		30		
		コミュニケーション理論と実際	1・2・3・4 前		2			○		30		
		健康スポーツ科学	1・2・3・4 前後	1					○	30		
	生涯身体運動科学	1・2・3・4 前後		1				○	30			
	生活と環境群	生活とデザイン	1・2・3・4 後		2			○		30		
		法学（日本国憲法）	1・2・3・4 前	2				○		30		
		社会学	1・2・3・4 後		2			○		30		
		文化人類学	1・2・3・4 前		2			○		30		
		経済学	1・2・3・4 前		2			○		30		
		国際関係論	1・2・3・4 後		2			○		30		
		社会福祉学	1・2・3・4 前		1			○		15		
		国際的な健康課題	1・2・3・4 後		1			○		15		
		人権・ジェンダー	1・2・3・4 後		2			○		30		
		科学論	1・2・3・4 前		2			○		30		
		環境変化と生態	1・2・3・4 後		2			○		30		
		観察生物学入門	1・2・3・4 前後		2			○		30		
		生物学	1・2・3・4 前後	2				○		30		
	物理学	1・2・3・4 前		2			○		30			
	化学	1・2・3・4 前		2			○		30			
	情報理解群	統計学	1・2・3・4 後	1					○	30		
		情報リテラシー I	1・2・3・4 前	1					○	30		
		情報リテラシー II	1・2・3・4 後		1				○	30		
		情報倫理	1・2・3・4 後		1			○		15		
	外国語群	英語 I (基礎講読)	1・2・3・4 前		1				○	30		必修 2 単位 + 選択 2 単位
		英語 II (基礎英会話)	1・2・3・4 前		1				○	30		
		英語 III (講読・記述)	1・2・3・4 後		1				○	30		
英語 IV (英会話)		1・2・3・4 後		1				○	30			
英語 V (保健医療英語)		2 前	2				○		30			
英語 VI (応用英語)		1・2・3・4 後		1				○	30			

(歯科衛生学科 2018 年度以前入学者用)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習			
保健医療基礎科目	人間のこころと身体	運動生理学総論	2 前		1		○			15	必修 16 単位 + 選択 3 単位
		生化学総論	1 前		1		○			15	
		栄養学 I (基礎)	1 後	1			○			15	
		栄養学 II (応用)	1 後	1			○			15	
		心の健康	1 後	1			○			15	
		薬理学 I (総論)	1 後	1			○			15	
		薬理学 II (各論)	1 後	1			○			15	
		病理学 I (総論)	1 前	1			○			15	
		病理学 II (各論)	1 前	1			○			15	
		微生物学 I (総論)	1 前	1			○			15	
		微生物学 II (各論)	1 前	1			○			15	
		発達心理学	1 前		1		○			15	
		臨床心理学	1 後		1			○		30	
	健康と保健医療システム	健康論	1 前		1		○			15	
		公衆衛生学 I (基礎)	2 前	1			○			15	
		公衆衛生学 II (応用)	2 後	1			○			15	
		疫学・保健統計 I (基礎)	3 前		1		○			15	
		疫学・保健統計 II (応用)	3 前		1		○			15	
		リハビリテーション概論	2 後	1			○			15	
		救命・救急の理論と実際	2 前	1			○			15	
保健医療福祉論 I (基礎)		2 後	1			○			15		
保健医療福祉論 II (応用)		2 後	1			○			15		
食育論 I (基礎)		3 前	1			○			15		
食育論 II (応用)		3 前		1		○			15		
健康と運動		1 後		1		○			15		
家族社会学		1 前		1		○			15		
医療経営管理論	4 後		1		○			15			
リスクマネジメント論	2 後		1		○			15			
専門科目	歯科衛生基礎	解剖学総論	1 前	2			○			30	必修 28 単位
		生理学総論	1 後	2			○			30	
		内科学概論	1 後	1			○			15	
		高齢者医療論	2 後	1			○			15	
		口腔解剖学	1 前	2			○			30	
		口腔生理学	2 前	1			○			15	
		口腔病理学	1 後	1			○			15	
		口腔微生物学	1 後	1			○			15	
		歯科薬理学	2 前	1			○			15	
		歯科生化学・臨床検査法	1 後	1			○			15	
		口腔衛生学	1 後	2			○			30	
		歯科感染予防学	2 後	1			○			15	
		歯科診断学	2 後	1			○			15	
		歯科矯正学	3 前	1			○			15	
		歯科材料学	2 前	1			○			15	
		歯科治療学 I (保存修復・歯内療法学)	2 前	2			○			30	

(歯科衛生学科 2018 年度以前入学者用)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習		
専門科目	歯科衛生基礎	歯科治療学Ⅱ (歯周治療学)	2 前	1			○		15	生涯歯科衛生及び歯科衛生健康推進から選択3単位
		歯科治療学Ⅲ (歯科補綴学)	2 前	2			○		30	
		顎口腔外科学	2 前	2			○		30	
		顎口腔機能論	2 前	1			○		15	
		歯科衛生基礎演習	2 前	1				○	30	
	生涯歯科衛生	歯科衛生学概論	1 前	2			○		30	
		チーム歯科医療論	2 前	1			○		15	
		歯科疾患予防学	2 前	1			○		15	
		発達歯科衛生学Ⅰ(小児)	2 後	2			○		45	
		発達歯科衛生学Ⅱ(成人・高齢者)	2 後	3			○		45	
		演習Ⅰ (歯科材料・歯科診療補助)	3 前	2				○	60	
		演習Ⅱ (歯科予防処置)	3 前	2				○	60	
		顎口腔機能リハビリテーション論	2 後	1			○		15	
		演習Ⅲ (口腔機能リハビリテーション)	3 前	1				○	30	
		在宅歯科衛生管理論Ⅰ	3 前	1			○		15	
	在宅歯科衛生管理論Ⅱ	4 前		1		○		15		
	歯科衛生健康推進	歯科衛生アセスメント論	3 前	1			○		15	
		保健行動科学論	2 前	1			○		15	
		歯科保健指導・健康教育論	2 前	1			○		15	
		演習Ⅳ (歯科保健指導・カウンセリング)	2 後～3 前	3				○	90	
		歯科衛生統計学	3 前	1			○		15	
		地域歯科衛生学	2 後	1			○		15	
		演習Ⅴ (地域歯科衛生)	3 前	1				○	30	
		国際歯科衛生学	3 前		1		○		15	
		歯科医療管理論	4 前		1		○		15	
		社会保障・社会保険論	3 前	1			○		15	
	総合演習	3 後	1				○	30		
	臨床・臨床実習	歯科診療室基礎実習	3 前	2				○	90	
		歯科診療所実習	3 後	4				○	180	
		病院実習	4 後	3				○	135	
		継続・個別支援実習	3 後～4 前	4				○	180	
		発達歯科衛生実習Ⅰ (小児)	4 前	2				○	90	
		発達歯科衛生実習Ⅱ (成人・高齢者)	4 前	2				○	90	
地域歯科衛生実習		4 前	1				○	45		
歯科診療室総合実習	3 後～4 前	4				○	180			
研究	卒業研究	3 後～4 通		3			○	90		

先修条件

【特色科目 (平成28年度入学生より適用する)】

- 1 「千葉県の健康づくり」を履修するには「体験ゼミナール」の単位を修得済みであること。
- 2 「専門職間の連携活動論」を履修するには「体験ゼミナール」、「千葉県の健康づくり」の単位を修得済みであること。

【専門科目】

- 1 歯科衛生基礎演習を履修するには、口腔微生物学、口腔衛生学の単位を修得済み、又は単位修得見込みであること。
- 2 演習Ⅰ(歯科材料・歯科診療補助)を履修するには、歯科材料学、チーム歯科医療論の単位を修得済みであること。
- 3 演習Ⅱ(歯科予防処置)を履修するには、歯科疾患予防学の単位を修得済みであること。
- 4 演習Ⅲ(口腔機能リハビリテーション)を履修するには、顎口腔機能論、顎口腔機能リハビリテーションの単位を修得済み、又は単位修得見込みであること。
- 5 演習Ⅳ(歯科保健指導・カウンセリング)を履修するには、歯科衛生アセスメント論、保健行動科学論、歯科保健指導・健康教育論の単位を修得済み、又は単位修得見込みであること。
- 6 演習Ⅴ(地域歯科衛生)を履修するには、地域歯科衛生学の単位を修得済みであること。
- 7 総合演習を履修するには、演習Ⅰ、演習Ⅱ、演習Ⅲ、演習Ⅳ、演習Ⅴすべての単位を修得済みであること。
- 8 歯科診療室基礎実習を履修するには、以下のア、イの条件を満たさなければならない。
ア 保健医療基礎科目及び専門科目のうち、2年次後期までに配当されているすべての必修科目の単位を修得済みであること。
イ 演習Ⅰ(歯科材料・歯科診療補助)の単位を修得済み、又は単位修得見込みであること。
- 9 歯科診療室基礎実習を除く臨床・臨地実習を履修するには、保健医療基礎科目及び専門科目のうち、3年次前期までに配当されているすべての必修科目の単位を修得済みであること。
- 10 卒業研究を履修するには、原則として4年次前期までに配当されているすべての必修科目の単位を修得済み、又は単位修得見込みであること。

卒業要件

科目区分	必修科目	選択科目	合計
特色科目	3単位	0単位	3単位
一般教養科目	11単位	13単位	24単位
保健医療基礎科目	16単位	3単位	19単位
専門科目	77単位	3単位	80単位
合計	107単位	19単位	126単位

別表（リハビリテーション学科理学療法専攻 2019年度以降入学生用）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習			
特色科目	体験ゼミナール	1前	1					○	45	必修3単位	
	千葉県の健康づくり	2後	1					○	30		
	専門職間の連携活動論	4後	1					○	30		
	社会実習（ボランティア活動）	2・3・4			1			○	45		
人間理解群	心理学	1・2・3・4前		2			○		30	必修4単位	
	哲学	1・2・3・4前		2			○		30		
	文学	1・2・3・4前		2			○		30		
	歴史と文化	1・2・3・4前		2			○		30		
	生命倫理	1・2・3・4後		2			○		30		
	宗教学	1・2・3・4後		2			○		30		
	教育学	1・2・3・4前		2			○		30		
	人間関係論	1・2・3・4前	2				○		30		
	コミュニケーション理論と実際	1・2・3・4前	2				○		30		
	健康スポーツ科学	1・2・3・4前後		1				○	30		
生涯身体運動科学	1・2・3・4前後		1				○	30			
一般教養科目 生活と環境群	生活とデザイン	1・2・3・4後		2			○		30	必修2単位 一般教養科目から選択12単位	
	法学（日本国憲法）	1・2・3・4前		2			○		30		
	社会学	1・2・3・4後		2			○		30		
	文化人類学	1・2・3・4前		2			○		30		
	経済学	1・2・3・4前		2			○		30		
	国際関係論	1・2・3・4後		2			○		30		
	社会福祉学	1・2・3・4前		1			○		15		
	国際的な健康課題	1・2・3・4後		1			○		15		
	人権・ジェンダー	1・2・3・4後		2			○		30		
	科学論	1・2・3・4前		2			○		30		
	環境変化と生態	1・2・3・4後		2			○		30		
	観察生物学入門	1・2・3・4前後		2			○		30		
	生物学	1・2・3・4前後		2			○		30		
物理学	1・2・3・4前	2				○		30			
化学	1・2・3・4前		2			○		30			
情報理解群	統計学	1・2・3・4後		1				○	30	必修2単位	
	情報リテラシーⅠ	1・2・3・4前	1					○	30		
	情報リテラシーⅡ	1・2・3・4後		1				○	30		
	情報倫理	1・2・3・4後	1					○	15		
	実践統計学	1・2・3・4後		1				○	15		
外国語群	英語Ⅰ（講読）	1・2・3・4前		1				○	30	必修2単位 + 選択2単位	
	英語Ⅱ（英会話）	1・2・3・4前		1				○	30		
	英語Ⅲ（講読・記述）	1・2・3・4後		1				○	30		
	英語Ⅳ（英語コミュニケーション）	1・2・3・4後		1				○	30		
	英語Ⅴ（保健医療英語）	1・2・3・4前	2				○		30		
	英語Ⅵ（応用英語）	1・2・3・4後		1				○	30		
	英語Ⅶ（上級英語）A	2・3・4後		1				○	15		
	英語Ⅶ（上級英語）B	2・3・4後		1				○	15		

別表（リハビリテーション学科理学療法専攻 2019年度以降入学生用）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習		
保健医療基礎科目	人間のこころと身体	運動生理学総論	2前	1		○			15	必修10単位 + 選択2単位
		生化学総論	1前	1		○			15	
		栄養学Ⅰ（基礎）	1後	1		○			15	
		栄養学Ⅱ（応用）	1後	1		○			15	
		心の健康	1後	1		○			15	
		薬理学Ⅰ（総論）	1後	1		○			15	
		薬理学Ⅱ（各論）	1後	1		○			15	
		病理学Ⅰ（総論）	1前	1		○			15	
		病理学Ⅱ（各論）	1前	1		○			15	
		微生物学Ⅰ（総論）	1前	1		○			15	
		微生物学Ⅱ（各論）	1前	1		○			15	
		発達心理学	1前	1		○			15	
		臨床心理学	1後	1			○		30	
	健康と保健医療システム	健康論	1前	1		○			15	
		公衆衛生学Ⅰ（基礎）	2前	1		○			15	
		公衆衛生学Ⅱ（応用）	2後	1		○			15	
		疫学・保健統計Ⅰ（基礎）	3前	1		○			15	
		疫学・保健統計Ⅱ（応用）	3前	1		○			15	
		リハビリテーション概論	1後	1		○			15	
		救命・救急の理論と実際	2前	1		○			15	
		画像診断学	2後	1		○			15	
		保健医療福祉論Ⅰ（基礎）	2後	1		○			15	
		保健医療福祉論Ⅱ（応用）	2後	1		○			15	
		食育論Ⅰ（基礎）	3前	1		○			15	
		食育論Ⅱ（応用）	3前	1		○			15	
		健康と運動	1後	1		○			15	
家族社会学	1前	1		○			15			
医療経営管理論	4後	1		○			15			
リスクマネジメント論	2後	1		○			15			
専門科目	リハビリテーション専門基礎科目	人体の構造Ⅰ（筋・骨・神経系の構造）	1前	1			○		30	必修25単位 + 選択1単位
		人体の構造Ⅱ（脈管・内臓・感覚器の構造）	1後	1			○		30	
		人体の構造実習	1後	1				○	45	
		人体の機能Ⅰ（動物性功能）	1前	1			○		30	
		人体の機能Ⅱ（植物性功能）	1後	1			○		30	
		人体の機能実習	2前	1				○	45	
		運動学Ⅰ（運動の基礎科学）	1後	1			○		30	
		運動学Ⅱ（応用的運動科学）	2前	1			○		30	
		運動学実習	2後	1				○	45	
		臨床運動学	2後	1			○		30	
		機能解剖学	1後	1			○		30	
		人間工学	2後		1		○		30	
		人間発達学	2前	1			○		30	
		医学総論	1後	1			○		15	
		内科学総論	2前	1			○		30	
		内科学各論	2後	1			○		30	
		神経内科学総論	2前	1			○		30	
		神経内科学各論	2後	1			○		30	
		整形外科総論	2前	1			○		30	

別表（リハビリテーション学科理学療法学専攻 2019年度以降入学生用）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習		
	整形外科学各論	2後	1				○		30	
	精神神経科学総論	2前	1				○		30	
	精神神経科学各論	2後		1			○		30	
	臨床薬理学	2後	1			○			15	
	老年科学	3前	1				○		30	
	小児科学	3前	1				○		30	
	臨床医学概論	3前	1				○		30	
	リハビリテーション医学	3前	1				○		30	
理学療法専門基礎科目	理学療法概論	1前	1				○		30	必修20単位
	理学療法管理学	4後	2			○			30	
	運動療法学	2前	2			○			30	
	理学療法評価学Ⅰ	2前	2			○			30	
	理学療法評価学演習	2前	1				○		30	
	理学療法評価学Ⅱ(神経系)	2後	1			○			15	
	理学療法評価学Ⅲ(統合・解釈)	2後	1				○		30	
	理学療法評価学Ⅳ(画像評価)	3後	1			○			15	
	日常生活活動学	2前	2			○			30	
	日常生活活動学演習	2後	1				○		30	
	物理療法学	2後	1			○			15	
	物理療法学演習	2後	1				○		30	
	義肢装具学	3前	2			○			30	
	義肢装具学演習	3前	1				○		30	
	理学療法研究方法論	3前	1				○		30	
専門科目	運動器障害理学療法学	3前	2			○			30	必修22単位 + 選択1単位
	運動器障害理学療法学演習	3後	1				○		30	
	神経系障害理学療法学	3前	2			○			30	
	神経系障害理学療法学演習	3後	1				○		30	
	内部障害理学療法学	3前	2			○			30	
	内部障害理学療法学演習	3後	1				○		30	
	老年期障害理学療法学	3前	2			○			30	
	老年期障害理学療法学演習	3後	1				○		30	
	発達障害理学療法学	3前	2			○			30	
	発達障害理学療法学演習	3後	1				○		30	
	発達障害理学療法学特論	3後		1		○			15	
	地域理学療法学	3前	2			○			30	
	地域理学療法学演習	3後	1				○		30	
	理学療法技術論	4後	1				○		30	
	生体機能計測学	3前		1			○		30	
	理学療法応用評価学	3後	1				○		30	
	理学療法学特論Ⅰ(運動器・老年期)	3後		1			○		30	
理学療法学特論Ⅱ(神経系・内部・地域)	3後		1			○		30		
発展領域論(がん・予防・臨床研究解析法)	4後	2			○			30		

別表（リハビリテーション学科理学療法学専攻 2019年度以降入学生用）

臨床実習	臨床体験実習	1 後	1				○	45	必修20単位
	評価実習	3 後	4				○	180	
	総合実習Ⅰ	4 前	7				○	315	
	総合実習Ⅱ	4 前	7				○	315	
	地域理学療法学実習	4 後	1				○	45	
研究	卒業研究	4 通	2				○	60	必修2単位

先修条件

【特色科目】

- 1 「千葉県の健康づくり」を履修するには「体験ゼミナール」の単位を修得済みであること。
- 2 「社会実習（ボランティア活動）」を履修するには「体験ゼミナール」の単位を修得済みであること。

【一般教養科目】

- 1 「実践統計学」を履修するには「統計学」の単位を修得済みであること。
- 2 「英語Ⅶ(上級英語)A」「英語Ⅶ(上級英語)B」を履修するには「英語Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ，Ⅳ，またはⅥ」の選択2単位を修得済みであること。

【専門科目】

- 1 2年次配当の「リハビリテーション専門基礎科目」「理学療法専門基礎科目」を履修するには、1年次配当の「リハビリテーション専門基礎科目」および「理学療法概論」の単位を修得済みであること。
- 2 「評価実習」を履修するには、3学年前期までに開講するすべての必修科目の単位を修得済みであること。
- 3 「総合実習Ⅰ」，「総合実習Ⅱ」，「地域理学療法学実習」および「卒業研究」を履修するには、3学年後期までに開講するすべての必修科目の単位を修得済みであること。

進級要件

以下の要件を満たした者でなければ、3年次に進級できない。

- 1 1・2年次に配当された特色科目および保健医療基礎科目の必修科目の単位を修得済みの者。
- 2 1・2年次に配当された専門科目の必修科目の単位を修得済みの者。

卒業要件

科目区分	必修科目	選択科目	合計
特色科目	3単位	0単位	3単位
一般教養科目	10単位	14単位	24単位
保健医療基礎科目	10単位	2単位	12単位
専門科目	89単位	2単位	91単位
合計	112単位	18単位	130単位

(リハビリテーション学科理学療法学専攻 2018年度以前入学者用)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習		
特色科目	千葉県の健康づくり	2後	1				○		30	必修3単位
	体験ゼミナール	1前	1					○	45	
	専門職間の連携活動論	4後	1				○		30	
一般教養科目	人間理解群	心理学	1・2・3・4前	2			○		30	必修2単位
		哲学	1・2・3・4前		2		○		30	
		文学	1・2・3・4前		2		○		30	
		歴史と文化	1・2・3・4前		2		○		30	
		生命倫理	1・2・3・4後		2		○		30	
		宗教学	1・2・3・4後		2		○		30	
		教育学	1・2・3・4前		2		○		30	
		人間関係論	1・2・3・4前		2		○		30	
		コミュニケーション理論と実際	1・2・3・4前		2		○		30	
		健康スポーツ科学	1・2・3・4前後		1			○	30	
	生涯身体運動科学	1・2・3・4前後		1			○	30		
	生活と環境群	生活とデザイン	1・2・3・4後		2		○		30	一般教養科目から選択14単位 このうち「人間関係論」「コミュニケーション理論と実際」から1科目を選択 「文化人類学」「国際関係論」「国際的健康課題」から1科目を選択
		法学(日本国憲法)	1・2・3・4前		2		○		30	
		社会学	1・2・3・4後		2		○		30	
		文化人類学	1・2・3・4前		2		○		30	
		経済学	1・2・3・4前		2		○		30	
		国際関係論	1・2・3・4後		2		○		30	
		社会福祉学	1・2・3・4前		1		○		15	
		国際的な健康課題	1・2・3・4後		1		○		15	
		人権・ジェンダー	1・2・3・4後		2		○		30	
		科学論	1・2・3・4前		2		○		30	
		環境変化と生態	1・2・3・4後		2		○		30	
		観察生物学入門	1・2・3・4前後		2		○		30	
		生物学	1・2・3・4前後		2		○		30	
		物理学	1・2・3・4前		2		○		30	
	化学	1・2・3・4前		2		○		30		
	情報理解群	統計学	1・2・3・4後	1				○	30	必修2単位
		情報リテラシーⅠ	1・2・3・4前	1				○	30	
		情報リテラシーⅡ	1・2・3・4後		1			○	30	
		情報倫理	1・2・3・4後		1		○		15	
外国語群	英語Ⅰ(基礎講読)	1・2・3・4前		1			○	30	必修2単位+選択2単位	
	英語Ⅱ(基礎英会話)	1・2・3・4前		1			○	30		
	英語Ⅲ(講読・記述)	1・2・3・4後		1			○	30		
	英語Ⅳ(英会話)	1・2・3・4後		1			○	30		
	英語Ⅴ(保健医療英語)	1・2・3・4前		2		○		30		
	英語Ⅵ(応用英語)	1・2・3・4後		1			○	30		

(リハビリテーション学科理学療法学専攻 2018年度以前入学者用)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習		
保健医療基礎科目	人間のこころと身体	運動生理学総論	2前	1			○		15	必修7単位 + 選択2単位
		生化学総論	1前	1			○		15	
		栄養学Ⅰ(基礎)	1後	1			○		15	
		栄養学Ⅱ(応用)	1後	1			○		15	
		心の健康	1後	1			○		15	
		薬理学Ⅰ(総論)	1後	1			○		15	
		薬理学Ⅱ(各論)	1後	1			○		15	
		病理学Ⅰ(総論)	1前	1			○		15	
		病理学Ⅱ(各論)	1前	1			○		15	
		微生物学Ⅰ(総論)	1前	1			○		15	
		微生物学Ⅱ(各論)	1前	1			○		15	
		発達心理学	1前	1			○		15	
		臨床心理学	1後	1				○	30	
		健康と保健医療システム	健康論	1前	1			○		
	公衆衛生学Ⅰ(基礎)		2前		1		○		15	
	公衆衛生学Ⅱ(応用)		2後		1		○		15	
	疫学・保健統計Ⅰ(基礎)		3前		1		○		15	
	疫学・保健統計Ⅱ(応用)		3前		1		○		15	
	リハビリテーション概論		1後	1			○		15	
	救命・救急の理論と実際		2前		1		○		15	
	保健医療福祉論Ⅰ(基礎)		2後	1			○		15	
	保健医療福祉論Ⅱ(応用)		2後	1			○		15	
	食育論Ⅰ(基礎)		3前		1		○		15	
	食育論Ⅱ(応用)		3前		1		○		15	
	健康と運動		1後		1		○		15	
	家族社会学	1前		1		○		15		
医療経営管理論	4後		1		○		15			
リスクマネジメント論	2後		1		○		15			
専門科目	リハビリテーション専門基礎科目	人体の構造Ⅰ(筋・骨・神経系の構造)	1前	1			○		30	必修24単位 + 選択1単位
		人体の構造Ⅱ(脈管・内臓・感覚器の構造)	1後	1			○		30	
		人体の構造実習	1後	1				○	45	
		人体の機能Ⅰ(動物性機能)	1前	1			○		30	
		人体の機能Ⅱ(植物性機能)	1後	1			○		30	
		人体の機能実習	2前	1				○	45	
		運動学Ⅰ(運動の基礎科学)	1後	1			○		30	
		運動学Ⅱ(応用的運動科学)	2前	1			○		30	
		運動学実習	2後	1				○	45	
		臨床運動学	2後	1			○		30	
		機能解剖学	1後	1			○		30	
		人間工学	2後		1		○		30	
		人間発達学	2前	1			○		30	
		医学総論	1後	1			○		15	
		内科学総論	2前	1			○		30	
		内科学各論	2後	1			○		30	
		神経内科学総論	2前	1			○		30	
		神経内科学各論	2後	1			○		30	
整形外科学総論	2前	1			○		30			

(リハビリテーション学科理学療法学専攻 2018年度以前入学者用)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習			
	整形外科学各論	2後	1				○		30		
	精神神経科学総論	2前	1				○		30		
	精神神経科学各論	2後		1			○		30		
	老年科学	3前	1				○		30		
	小児科学	3前	1				○		30		
	臨床医学概論	3前	1				○		30		
	リハビリテーション医学	3前	1				○		30		
理学療法専門基礎科目	理学療法概論	1前	2				○		30	必修18単位	
	理学療法管理学	4後	1				○		15		
	運動療法学	2前	2				○		30		
	理学療法測定学	2前	2				○		30		
	理学療法測定学演習	2前	1				○		30		
	理学療法臨床測定学	2後	1				○		30		
	日常生活活動学	2前	2				○		30		
	日常生活活動学演習	2後	1				○		30		
	物理療法学	2後	1				○		15		
	物理療法学演習	2後	1				○		30		
	義肢装具学	3前	2				○		30		
	義肢装具学演習	3前	1				○		30		
	理学療法研究方法論	3前	1				○		30		
専門科目	理学療法専門科目	運動器障害理学療法学	3前	2			○		30	必修23単位 + 選択2単位	
		運動器障害理学療法学演習	3後	1			○		30		
		運動器障害理学療法学特論	3後		1			○			30
		神経系障害評価学	3前	1				○			15
		神経系障害理学療法学	3前	2				○			30
		神経系障害理学療法学演習	3後	1				○			30
		神経系障害理学療法学特論	3後		1			○			30
		内部障害理学療法学	3前	2				○			30
		内部障害理学療法学演習	3後	1				○			30
		内部障害理学療法学特論	3後		1			○			30
	老年期障害理学療法学	3前	2				○		30		
	老年期障害理学療法学演習	3後	1				○		30		
	発達障害理学療法学	3前	2				○		30		
	発達障害理学療法学演習	3後	1				○		30		
	発達障害理学療法学特論	3後		1			○		15		
	地域理学療法学	3前	2				○		30		
	地域理学療法学演習	3後	1				○		30		
	地域理学療法学特論	3後	1				○		15		
	理学療法技術論	4後	1				○		30		
	生体機能計測学	3前	1				○		30		
理学療法発展領域論	4後	1				○		30			

(リハビリテーション学科理学療法専攻 2018年度以前入学者用)

臨床実習	臨床実習Ⅰ (体験実習)	1 後	1				○	45	必修20単位
	臨床実習Ⅱ (評価実習)	3 後	5				○	180	
	臨床実習Ⅲ (運動器系総合実習)	4 前	7				○	315	
	臨床実習Ⅳ (神経系総合実習)	4 前	7				○	315	
研究	卒業研究	4 通	2				○	60	必修2単位

先修条件

【特色科目 (平成28年度入学生より適用する)】

1. 「千葉県健康づくり」を履修するには「体験ゼミナール」の単位を修得済みであること。
2. 「専門職間の連携活動論」を履修するには「体験ゼミナール」、「千葉県健康づくり」の単位を修得済みであること。

【専門科目】

1. 「運動療法学」、「臨床運動学」、「理学療法測定学」、「理学療法測定学演習」、「理学療法臨床測定学」および「神経系障害評価学」を履修するには、1年次配当の必修科目「人体の構造Ⅰ」、「人体の構造Ⅱ」、「人体の構造実習」、「運動学Ⅰ」および「機能解剖学」単位を修得しておくこと。
2. 「物理療法学」、「日常生活活動学」、「運動器障害理学療法学」、「神経系障害理学療法学」および「発達障害理学療法学」を履修するには、1年次配当の必修科目「人体の機能Ⅰ」、「人体の機能Ⅱ」の単位を修得しておくこと。
3. 「臨床実習Ⅱ」を履修するには、3学年前期までに開講するすべての必修科目の単位を修得していること。
4. 「臨床実習Ⅲ」および「臨床実習Ⅳ」を履修するには、3年後期までに開講するすべての必修科目(「臨床実習Ⅱ」を含む)の単位を修得しておくこと。

卒業要件

科目区分	必修科目	選択科目	合計
特色科目	3単位	0単位	3単位
一般教養科目	8単位	16単位	24単位
保健医療基礎科目	7単位	2単位	9単位
専門科目	87単位	3単位	90単位
合計	105単位	21単位	126単位

別表（リハビリテーション学科作業療法学専攻 2019年度以降入学生用）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習			
特色科目	体験ゼミナール	1 前	1					○	45	必修3単位	
	千葉県の健康づくり	2 後	1					○	30		
	専門職間の連携活動論	4 後	1					○	30		
	社会実習（ボランティア活動）	2・3・4		1				○	45		
一般教養科目	人間理解群	心理学	1・2・3・4 前	2				○	30	必修 2単位 + 選択 2単位 (※4)	
		哲学	1・2・3・4 前		2			○	30		
		文学	1・2・3・4 前		2			○	30		
		歴史と文化	1・2・3・4 前		2			○	30		
		生命倫理	1・2・3・4 後		2			○	30		
		宗教学	1・2・3・4 後		2			○	30		
		教育学	1・2・3・4 前		2			○	30		
		人間関係論	1・2・3・4 前		2			○	30		
		コミュニケーション理論と実際	1・2・3・4 前		2			○	30		
		健康スポーツ科学	1・2・3・4 前後		1			○	30		
	生涯身体運動科学	1・2・3・4 前後		1			○	30			
	生活と環境群	生活とデザイン	1・2・3・4 後		2			○	30	必修 2単位	
		法学（日本国憲法）	1・2・3・4 前		2			○	30		
		社会学	1・2・3・4 後		2			○	30		
		文化人類学	1・2・3・4 前		2			○	30		
		経済学	1・2・3・4 前		2			○	30		
		国際関係論	1・2・3・4 後		2			○	30		
		社会福祉学	1・2・3・4 前		1			○	15		
		国際的な健康課題	1・2・3・4 後		1			○	15		
人権・ジェンダー		1・2・3・4 後		2			○	30			
科学論		1・2・3・4 前		2			○	30			
外国語群	環境変化と生態	1・2・3・4 後		2			○	30	必修 2単位 + 選択 2単位		
	観察生物学入門	1・2・3・4 前後		2			○	30			
	生物学	1・2・3・4 前後		2			○	30			
	物理学	1・2・3・4 前	2				○	30			
	化学	1・2・3・4 前		2			○	30			
	情報理解群	統計学	1 後	1				○		30	必修 2単位
	情報リテラシー I	1 前	1				○	30			
情報リテラシー II	1・2・3・4 後		1			○	30				
情報倫理	1・2・3・4 後		1			○	15				
外国語群	実践統計学	2・3・4 後		1			○	15	必修 2単位 + 選択 2単位		
	英語 I (講読)	1・2・3・4 前		1			○	30			
	英語 II (英会話)	1・2・3・4 前		1			○	30			
	英語 III (講読・記述)	1・2・3・4 後		1			○	30			
	英語 IV (英語コミュニケーション)	1・2・3・4 後		1			○	30			
	英語 V (保健医療英語)	2 前	2				○	30			
	英語 VI (応用英語)	1・2・3・4 後		1			○	30			
	英語 VII (上級英語) A	2・3・4 後		1			○	15			
英語 VII (上級英語) B	2・3・4 後		1			○	15				

【一般教養科目】選択科目から選択1・2単位

別表（リハビリテーション学科作業療法学専攻 2019年度以降入学生用）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習			
保健医療基礎科目	人間のこころと身体	運動生理学総論	2前		1		○			15	必修9単位 + 選択1単位
		生化学総論	1前		1		○			15	
		栄養学Ⅰ（基礎）	1後	1			○			15	
		栄養学Ⅱ（応用）	1後		1		○			15	
		心の健康	1後		1		○			15	
		薬理学Ⅰ（総論）	1後		1		○			15	
		薬理学Ⅱ（各論）	1後		1		○			15	
		病理学Ⅰ（総論）	1前	1			○			15	
		病理学Ⅱ（各論）	1前		1		○			15	
		微生物学Ⅰ（総論）	1前		1		○			15	
		微生物学Ⅱ（各論）	1前		1		○			15	
		発達心理学	1前		1		○			15	
		臨床心理学	1後	1				○		30	
	健康と保健医療システム	健康論	1前	1			○			15	
		公衆衛生学Ⅰ（基礎）	2前		1		○			15	
		公衆衛生学Ⅱ（応用）	2後		1		○			15	
		疫学・保健統計Ⅰ（基礎）	3前		1		○			15	
		疫学・保健統計Ⅱ（応用）	3前		1		○			15	
		リハビリテーション概論	1後	1			○			15	
		救命・救急の理論と実際	2前	1			○			15	
		画像診断学	2後	1			○			15	
		保健医療福祉論Ⅰ（基礎）	2後	1			○			15	
保健医療福祉論Ⅱ（応用）		2後	1			○			15		
食育論Ⅰ（基礎）		3前		1		○			15		
食育論Ⅱ（応用）		3前		1		○			15		
健康と運動		1後		1		○			15		
家族社会学	1前		1		○			15			
医療経営管理論	4後		1		○			15			
リスクマネジメント論	2後		1		○			15			
専門科目	リハビリテーション専門基礎科目	人体の構造Ⅰ（筋・骨・神経系の構造）	1前	1			○			30	必修26単位 + 選択1単位
		人体の構造Ⅱ（脈管・内臓・感覚器の構造）	1後	1			○			30	
		人体の構造実習	1後	1				○		45	
		人体の機能Ⅰ（動物性功能）	1前	1			○			30	
		人体の機能Ⅱ（植物性功能）	1後	1			○			30	
		人体の機能実習	2前	1				○		45	
		体表解剖学	1後	1			○			15	
		作業運動学Ⅰ（作業運動の基礎）	1後	1				○		30	
		作業運動学Ⅱ（作業運動の応用）	2前	1				○		30	
		作業運動学演習	2前	1				○		30	
		作業運動学実習	2後	1					○	45	
		作業分析学	2前		1		○			15	
		人間工学	2後		1			○		30	
		人間発達学	2前	1				○		30	
		医学総論	1後	1			○			15	
		内科学総論	2前	1				○		30	
		内科学各論	2後	1				○		30	
		神経内科学総論	2前	1				○		30	
		神経内科学各論	2後	1				○		30	

別表（リハビリテーション学科作業療法学専攻 2019年度以降入学生用）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習		
	整形外科学総論	2前	1				○		30	
	整形外科学各論	2後	1				○		30	
	精神神経科学総論	2前	1				○		30	
	精神神経科学各論	2後	1				○		30	
	臨床薬理学	2後	1			○			15	
	老年科学	3前	1				○		30	
	小児科学	3前	1				○		30	
	臨床医学概論	3前	1				○		30	
	リハビリテーション医学	3前	1				○		30	
基礎作業療法学	作業療法概論	1前	1				○		30	必修6単位 + 選択2単位
	作業療法管理学	3後	2				○		30	
	作業療法基礎理論	2前		1			○		30	
	作業療法研究法	3前	1			○			15	
	基礎作業学・演習	1前	1				○		30	
	基礎作業学実習	1後	1					○	45	
	作業療法ゼミナールA	2後		1		○			15	
	作業療法ゼミナールB	2後		1		○			15	
	作業療法ゼミナールC	2後		1		○			15	
	作業療法ゼミナールD	2後		1		○			15	
	作業療法ゼミナールE	2後		1		○			15	
	作業療法ゼミナールF	2後		1		○			15	
専門科目	実践作業療法学	作業療法評価学総論	1後	1			○		15	必修29単位
		身体作業療法評価学	2前	1			○		15	
		身体作業療法評価学実習	2通	1				○	45	
		身体作業療法学Ⅰ	2後	2			○		30	
		身体作業療法学Ⅱ	2後	2			○		30	
		身体作業療法学演習	3前	1				○	30	
		精神作業療法評価学	2前	1			○		15	
		精神作業療法評価学実習	2通	1				○	45	
		精神作業療法学	2後	2			○		30	
		精神作業療法学演習	3前	1				○	30	
		発達期作業療法学	2後	1			○		15	
	発達期作業療法学演習	3前	1				○	30		
	老年期作業療法学	2後	1			○		15		
	老年期作業療法学演習	3前	1				○	30		
	高次神経機能作業療法学	2後	2			○		30		
	日常生活活動学	2後	1			○		15		
	日常生活活動学演習	3前	1				○	30		
	義肢装具学	3前	2			○		30		
	福祉機器論	3後	2			○		30		
	地域社会参加支援学	3前	1			○		15		
	地域社会参加支援学演習	3後	1				○	30		
	地域作業療法学	3前	2			○		30		
	作業療法総合演習	4通		1			○	30		
作業療法学特論A	4通		1		○		15			

別表（リハビリテーション学科作業療法学専攻 2019年度以降入学生用）

	作業療法学特論 B	4 通		1		○		15	
	作業療法学特論 C	4 通		1		○		15	
	作業療法学特論 D	4 通		1		○		15	
	作業療法学特論 E	4 通		1		○		15	
	作業療法学特論 F	4 通		1		○		15	
臨床実習	臨床体験実習	1 通	1				○	45	必修 28 単位
	評価実習 I	3 通	4				○	180	
	評価実習 II	3 通	4				○	180	
	総合実習 I	3 後	8				○	360	
	総合実習 II	4 前	8				○	360	
	地域作業療法学実習	4 後	3				○	135	
研究	卒業研究	4 通	1			○		30	必修 1 単位

※4 人間理解群における選択科目の履修方法について

「人間関係論」又は「コミュニケーション理論と実際」のどちらか1つは必ず選択して履修する。

別表（リハビリテーション学科作業療法学専攻 2019年度以降入学生用）

先修条件

【特色科目】

- 1 「千葉県の健康づくり」を履修するには「体験ゼミナール」の単位を修得済みであること.
- 2 「社会実習（ボランティア活動）」を履修するには「体験ゼミナール」の単位を修得済みであること.

【一般教養科目】

- 1 「実践統計学」を履修するには「統計学」の単位を修得済みであること.
- 2 「英語Ⅶ(上級英語)A」「英語Ⅶ(上級英語)B」を履修するには「英語Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ,Ⅳ,またはⅥ」の選択2単位を修得済みであること.

【専門科目】

- 1 「総合実習Ⅰ」および「総合実習Ⅱ」を履修するには、「評価実習Ⅰ」および「評価実習Ⅱ」の両科目の単位を修得済みであること.

進級要件

以下の要件を満たさなければ、3年次に進級できない。

- 1 1・2年次に配当された特色科目および保健医療基礎科目の必修科目のすべての単位を修得済みであること.
- 2 1・2年次に配当された専門科目の必修科目のすべての単位を修得済みであること.

卒業要件

科目区分	必修科目	選択科目	合計
特色科目	3単位	0単位	3単位
一般教養科目	8単位	16単位	24単位
保健医療基礎科目	9単位	1単位	10単位
専門科目	90単位	3単位	93単位
合計	110単位	20単位	130単位

(リハビリテーション学科作業療法学専攻 2018年度以前入学者用)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習			
特色科目	千葉県の健康づくり	2後	1				○		30	必修3単位	
	体験ゼミナール	1前	1					○	45		
	専門職間の連携活動論	4後	1				○		30		
一般教養科目	人間理解群	心理学	1・2・3・4前	2			○		30	必修 2単位 + 選択 2単位 (※4)	
		哲学	1・2・3・4前		2		○		30		
		文学	1・2・3・4前		2		○		30		
		歴史と文化	1・2・3・4前		2		○		30		
		生命倫理	1・2・3・4後		2		○		30		
		宗教学	1・2・3・4後		2		○		30		
		教育学	1・2・3・4前		2		○		30		
		人間関係論	1・2・3・4前		2		○		30		
		コミュニケーション理論と実際	1・2・3・4前		2		○		30		
		健康スポーツ科学	1・2・3・4前後		1			○	30		
	生涯身体運動科学	1・2・3・4前後		1			○	30			
	生活と環境群	生活とデザイン	1・2・3・4後		2		○		30	必修 2単位	
		法学(日本国憲法)	1・2・3・4前		2		○		30		
		社会学	1・2・3・4後		2		○		30		
		文化人類学	1・2・3・4前		2		○		30		
		経済学	1・2・3・4前		2		○		30		
		国際関係論	1・2・3・4後		2		○		30		
		社会福祉学	1・2・3・4前		1		○		15		
		国際的な健康課題	1・2・3・4後		1		○		15		
		人権・ジェンダー	1・2・3・4後		2		○		30		
科学論		1・2・3・4前		2		○		30			
情報理解群	統計学	1・2・3・4後	1				○	30	必修 2単位		
	情報リテラシーⅠ	1前	1				○	30			
	情報リテラシーⅡ	1・2・3・4後		1			○	30			
	情報倫理	1・2・3・4後		1		○		15			
	外国語群	英語Ⅰ(基礎講読)	1・2・3・4前		1			○		30	必修 2単位 + 選択 2単位
		英語Ⅱ(基礎英会話)	1・2・3・4前		1			○		30	
英語Ⅲ(講読・記述)		1・2・3・4後		1			○	30			
英語Ⅳ(英会話)		1・2・3・4後		1			○	30			
英語Ⅴ(保健医療英語)		2前	2			○		30			
英語Ⅵ(応用英語)		1・2・3・4後		1			○	30			

【一般教養科目】選択科目から選択
12単位

※4 人間理解群における選択科目の履修方法について

「人間関係論」又は「コミュニケーション理論と実際」のどちらかを選択して履修する。

(リハビリテーション学科作業療法学専攻 2018年度以前入学者用)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習		
保健医療基礎科目	人間のこころと身体									
	運動生理学総論	2前		1		○			15	必修6単位 + 選択1単位
	生化学総論	1前		1		○			15	
	栄養学Ⅰ(基礎)	1後		1		○			15	
	栄養学Ⅱ(応用)	1後		1		○			15	
	心の健康	1後		1		○			15	
	薬理学Ⅰ(総論)	1後		1		○			15	
	薬理学Ⅱ(各論)	1後		1		○			15	
	病理学Ⅰ(総論)	1前	1			○			15	
	病理学Ⅱ(各論)	1前		1		○			15	
	微生物学Ⅰ(総論)	1前		1		○			15	
	微生物学Ⅱ(各論)	1前		1		○			15	
	発達心理学	1前		1		○			15	
	臨床心理学	1後	1				○		30	
	健康と保健医療システム									
	健康論	1前	1			○			15	
	公衆衛生学Ⅰ(基礎)	2前		1		○			15	
	公衆衛生学Ⅱ(応用)	2後		1		○			15	
	疫学・保健統計Ⅰ(基礎)	3前		1		○			15	
	疫学・保健統計Ⅱ(応用)	3前		1		○			15	
	リハビリテーション概論	1後	1			○			15	
	救命・救急の理論と実際	2前		1		○			15	
	保健医療福祉論Ⅰ(基礎)	2後	1			○			15	
	保健医療福祉論Ⅱ(応用)	2後	1			○			15	
	食育論Ⅰ(基礎)	3前		1		○			15	
	食育論Ⅱ(応用)	3前		1		○			15	
健康と運動	1後		1		○			15		
家族社会学	1前		1		○			15		
医療経営管理論	4後		1		○			15		
リスクマネジメント論	2後		1		○			15		
専門科目	リハビリテーション専門基礎科目									
	人体の構造Ⅰ(筋・骨・神経系の構造)	1前	1				○		30	必修24単位 + 選択1単位
	人体の構造Ⅱ(脈管・内臓・感覚器の構造)	1後	1				○		30	
	人体の構造実習	1後	1					○	45	
	機能解剖学	1後		1			○		30	
	人体の機能Ⅰ(動物性機能)	1前	1				○		30	
	人体の機能Ⅱ(植物性機能)	1後	1				○		30	
	人体の機能実習	2前	1					○	45	
	作業運動学Ⅰ(作業運動の基礎)	1後	1				○		30	
	作業運動学Ⅱ(作業運動の応用)	2前	1				○		30	
	作業運動学実習	2後	1					○	45	
	作業運動分析学	2前	1			○			15	
	臨床運動学	2前		1			○		30	
	人間工学	2後		1			○		30	
	人間発達学	2前	1				○		30	
	医学総論	1後	1			○			15	
	内科学総論	2前	1				○		30	
	内科学各論	2後	1				○		30	
	神経内科学総論	2前	1				○		30	
	神経内科学各論	2後	1				○		30	

(リハビリテーション学科作業療法学専攻 2018年度以前入学者用)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			時間数	履修方法等		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習				
専門基礎科目	整形外科学総論	2前	1				○		30	必修7単位 + 選択1単位		
	整形外科学各論	2後	1				○		30			
	精神神経科学総論	2前	1				○		30			
	精神神経科学各論	2後	1				○		30			
	老年科学	3前	1				○		30			
	小児科学	3前	1				○		30			
	臨床医学概論	3前	1				○		30			
	リハビリテーション医学	3前	1				○		30			
	基礎作業療法学	作業療法概論	1前	2				○			30	
		作業療法管理学	3後		1			○			15	
		作業療法基礎理論	2前		1			○			30	
		作業療法研究法	3後	1				○			15	
		基礎作業学・演習	1前	1				○			30	
		基礎作業学実習	1後	1					○		45	
		作業療法評価学概論	1後	1				○			15	
		地域作業療法学概論	3前	1				○			15	
	専門科目 実践作業療法学	作業療法評価学Ⅰ(神経・心肺機能系)	2前	2				○			30	必修32単位
		作業療法治療学Ⅰ(神経・心肺機能系)	2後	2				○			30	
		作業療法学Ⅰ演習(神経・心肺機能系)	3前	1					○		30	
		作業療法評価学Ⅱ(廃用・運動機能系)	2前	2				○			30	
		作業療法治療学Ⅱ(廃用・運動機能系)	2後	2				○			30	
		作業療法学Ⅱ演習(廃用・運動機能系)	3前	1					○		30	
		作業療法評価学Ⅲ(精神・心理機能系)	2前	2				○			30	
		作業療法治療学Ⅲ(精神・心理機能系)	2後	2				○			30	
		作業療法学Ⅲ演習(精神・心理機能系)	3前	1					○		30	
		作業療法評価学Ⅳ(認知・知能機能系)	2前	2				○			30	
		作業療法治療学Ⅳ(認知・知能機能系)	2後	2				○			30	
		作業療法学Ⅳ演習(認知・知能機能系)	3前	1					○		30	
日常生活活動技術学		3前	2				○		30			
日常生活活動技術学演習		3後	1					○	30			
日常生活活動援助学		3前	2				○		30			
日常生活活動援助学演習		3後	1					○	30			
社会的適応支援評価学		2後	2				○		30			
社会的適応支援学	3前	2				○		30				
社会的適応支援学演習	3後	1					○	30				
作業療法セミナー	3前~4前	1					○	30				
臨床実習	臨床体験実習	1通	1					○	45	必修27単位		
	評価実習Ⅰ	3通	3					○	135			
	評価実習Ⅱ	3通	3					○	135			
	総合実習Ⅰ	4通	8					○	360			
	総合実習Ⅱ	4通	8					○	360			
	地域作業療法学実習	4通	3					○	135			
研究	卒業研究	4通	1				○	30				

卒業要件

科目区分	必修科目	選択科目	合計
特色科目	3単位	0単位	3単位
一般教養科目	8単位	16単位	24単位
保健医療基礎科目	6単位	1単位	7単位
専門科目	90単位	2単位	92単位
合計	107単位	19単位	126単位

先修条件

【特色科目（平成28年度入学生より適用する）】

- 1) 「千葉県健康づくり」を履修するには「体験ゼミナール」の単位を修得済みであること。
- 2) 「専門職間の連携活動論」を履修するには「体験ゼミナール」、「千葉県健康づくり」の両単位を修得済みであること。

【専門科目】

- 1) 「総合実習Ⅰ」および「総合実習Ⅱ」を履修するには、すでに「評価実習Ⅰ」および「評価実習Ⅱ」の両科目の単位を修得していること。

非常勤講師一覽

令和3年度非常勤講師一覧

氏名	科目
稲垣 三恵子	英語Ⅰ(講読)
レーン プレンディン ジョン	英語Ⅱ(英会話)
稲垣 三恵子	英語Ⅲ(購読・記述)
レーン プレンディン ジョン	英語Ⅳ(英語コミュニケーション)
稲垣 三恵子	英語Ⅳ(英語コミュニケーション)
橋本 文子	英語Ⅴ(保健医療英語)
稲垣 三恵子	英語Ⅴ(保健医療英語)
満田 深雪	化学
大澤 真生	哲学
大西 仁	科学論
中山 聖子	環境変化と生態
中山 聖子	観察生物学入門①
中山 聖子	観察生物学入門②
安孫子 誠男	経済学
水口 章	国際関係論
牧 純	国際的な健康課題
常山 吾朗	コミュニケーション理論と実際①
常山 吾朗	コミュニケーション理論と実際②
島村 賢一	社会学
佐藤 真生子	社会福祉学
藤井 修平	宗教学
島村 賢一	人権・ジェンダー
高橋 良博	心理学
上野 義雪	生活とデザイン
榎本 輝樹	生物学①
榎本 輝樹	生物学②
小館 貴幸	生命倫理
常山 吾朗	人間関係論
大嵐 竜午	物理学
柴 佳世乃	文学
安倍 宰	文化人類学
覺正 豊和	法学(日本国憲法)
黒崎 輝人	歴史と文化
山村 重雄	疫学・保健統計Ⅰ
山村 重雄	疫学・保健統計Ⅱ
雄賀多 聡	リハビリテーション概論
雄賀多 聡	画像診断学
福島 昌子	生活指導論
福島 昌子	カリキュラム論
福島 昌子	道徳・総合的な学習・特別活動論
福島 昌子	教育学概論
佐久間 祐子	教育心理
佐久間 祐子	教育相談
伊部 陽子	応用栄養学実習
安喰 勇平	教育制度論
斎藤 遼太郎	特別支援教育論
藤谷 朝実	国際栄養学
藤谷 朝実	障害者栄養支援論
加藤 秀雄	フードマネジメント論
杉本 知子	高齢者看護学方法論Ⅱ
片平 伸子	ターミナルケア論
片平 伸子	退院支援論
片平 伸子	在宅看護学方法論Ⅱ
畠山 とも子	家族看護論
小黒 道子	国際看護論

遠藤 亜貴子	国際看護論
五十嵐 ゆかり	国際看護論
山本 由子	高齢者・在宅看護学方法論
山本 由子	高齢者・在宅看護学方法論 I
雄賀多 聡	病態学Ⅱ(外科系疾病論)
石川 博士	病態学Ⅱ(外科系疾病論)
岡野 達弥	病態学Ⅱ(外科系疾病論)
賀川 真吾	病態学Ⅱ(外科系疾病論)
佐塚 智和	病態学Ⅱ(外科系疾病論)
鈴木 秀海	病態学Ⅱ(外科系疾病論)
三島 敬	病態学Ⅱ(外科系疾病論)
山浦 晶	病態学Ⅱ(外科系疾病論)
渡邊 倫子	病態学Ⅱ(外科系疾病論)
杉澤 淳子	病態学Ⅲ(高齢者・精神疾患論)
竹内 弥彦	作業運動学演習
米持 喬	発達期作業療法学演習
宮本 礼子	作業療法基礎理論
保田 由美子	作業療法セミナー
佐藤 大介	作業療法セミナー
佐藤 大介	日常生活活動学演習
酒井 ひとみ	地域社会参加支援学
松本 直之	地域社会参加支援学
斎藤 梨菜	地域社会参加支援学演習
大越 満	地域社会参加支援学演習
佐藤 大介	地域社会参加支援学演習
大熊 明	地域作業療法学
浦田 敦	義肢装具学
坂田 祥子	日常生活活動技術学演習
山口 秀紀	顎口腔外科学
野本 たかと	顎口腔機能リハビリテーション論
野本 たかと	顎口腔機能リハビリテーション演習
雨宮 歩	解剖学
阿部 伸一	口腔解剖学
廣内 英智	口腔解剖学
田崎 雅和	口腔生理学
奥田 克爾	口腔微生物学
長澤 恵子	在宅歯科衛生管理論 I
望月 由加里	在宅歯科衛生管理論 II
相川 敬子	歯科医療管理論
石原 和幸	歯科衛生基礎演習
平塚 浩一	歯科生化学・臨床検査法
鈴木 俊雄	歯科薬理学
上條 英之	社会保障・社会保険論
田崎 雅和	生理学
星野 伸明	保健行動科学論
榎本 豊	歯科矯正学
山内 弘喜	運動器障害理学療法学演習
山本 喜美夫	運動器障害理学療法学演習
石川 修平	運動器障害理学療法学演習
鈴木 啓太	義肢装具学
須田 裕紀	義肢装具学
田口 直枝	義肢装具学
前田 雄	義肢装具学
鈴木 啓太	義肢装具学演習
須田 裕紀	義肢装具学演習
田口 直枝	義肢装具学演習
前田 雄	義肢装具学演習
万治 敦史	神経系障害理学療法学演習

中村 信義	地域理学療法学
加藤 太郎	地域理学療法学演習
森沢 知之	内部障害理学療法学
鶴澤 吉宏	内部障害理学療法学演習
田舎中 真由美	発達障害理学療法学特論
栗田 英明	理学療法特論Ⅱ
村永 信吾	理学療法管理学
松田 徹	理学療法管理学
對馬 栄輝	理学療法発展領域論
浅川 育世	老年期障害理学療法学演習
郷 貴博	義肢装具学
郷 貴博	義肢装具学演習
忽那 俊樹	内部障害理学療法学
櫻田 弘治	内部障害理学療法学
高柳 正樹	小児科学
笠置 泰史	人体の機能Ⅰ(動物性機能)
笠置 泰史	人体の機能Ⅱ(植物性機能)
雄賀多 聡	人体の構造実習
雄賀多 聡	人体の構造Ⅰ(筋・骨・神経系の構造)
北村 泰子	人体の構造Ⅱ(脈管・内臓・感覚器の構造)
杉澤 淳子	精神神経科学各論
小松 尚也	精神神経科学総論
渡邊 博幸	精神神経科学総論
雄賀多 聡	整形外科学総論
雄賀多 聡	整形外科学各論
雄賀多 聡	医学総論
竹内 弥彦	人間工学
高原 良	人間工学
下村 義弘	人間工学
浅野 由美	リハビリテーション医学
菊地 尚久	リハビリテーション医学
中山 一	リハビリテーション医学
遠藤 隆志	人体の機能実習
佐藤 貴一郎	医療経営管理論
住谷 剛博	医療経営管理論
高尾 公矢	家族社会学
渡辺 満利子	健康論
飯坂 真司	公衆衛生学Ⅰ(基礎)
飯坂 真司	公衆衛生学Ⅱ(応用)
高梨 一彦	発達心理学
清水 健	微生物学Ⅰ(総論)
清水 健	微生物学Ⅱ(各論)
福井 謙二	病理学Ⅰ(総論)
福井 謙二	病理学Ⅱ(各論)
佐藤 真生子	保健医療福祉論Ⅰ(基礎)
池崎 澄江	保健医療福祉論Ⅱ(応用)
平田 創一郎	保健医療福祉論Ⅱ(応用)
鈴木 俊雄	薬理学Ⅰ(総論)
鈴木 俊雄	薬理学Ⅱ(各論)
片平 伸子	リスクマネジメント論
高橋 静子	リスクマネジメント論
谷口 清	臨床心理学
保田 由美子	身体作業療法学演習
森 友紀	身体作業療法学演習
佐藤 大介	精神作業療法学
佐藤 大介	精神作業療法学演習
佐藤 大介	精神作業療法評価学
佐藤 大介	作業療法評価学総論

佐藤 大介	精神作業療法評価学実習
保田 由美子	身体作業療法学Ⅱ
高浜 功丞	身体作業療法学Ⅱ
大瀬 律子	身体作業療法学Ⅱ
近藤 絵美	身体作業療法学Ⅱ

自己点検・評価委員会 教育研究年報作成部会
部会長 松尾 真輔 (リハビリテーション学科・作業療法学専攻)
部会員 大塚 知子 (看護学科)
坂本 明子 (看護学科)
工藤 美奈子 (栄養学科)
河野 舞 (歯科衛生学科)
江戸 優裕 (リハビリテーション学科・理学療法学専攻)

事務局 寺田 瑞希



Annual Report of Education and Research
Chiba Prefectural University Of Health Sciences

10-1, Wakaba 2-chome, Mihama-ku, Chiba 261-0014, Japan

Tel: 043-296-2000 / Fax: 043-272-1716